

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第433集

長野原一本松遺跡(3)

ハッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第19集

2008

国 土 交 通 省
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第433集

長野原一本松遺跡(3)

ハッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第19集

2008

国 土 交 通 省
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



遺跡遠景 (南から)



5区・95区北側全景 (北から)

口絵 (2)



4-1号埋設土器全景 (西から)



5-660号土坑遺物出土状況 (南から)

序

長野原一本松遺跡は、本県北西部の山間を深く刻んで流れる吾妻川を望む河岸段丘上に営まれた遺跡です。この吾妻川には、昭和27年から洪水調整や用水供給などの水資源開発を目的に八ッ場ダム建設が計画され、現在その工事が進められております。このダム建設工事に伴って、平成6年度から当事業団の埋蔵文化財の発掘調査が本格的に開始されました。

長野原一本松遺跡は、八ッ場ダム建設に伴う当事業団の埋蔵文化財発掘調査において最初に調査された遺跡であり、平成6年度から平成17年度まで継続的に調査が実施され、平成18年度を挟んで本年度も一部調査が行われました。

長野原一本松遺跡の調査成果については、平成6～8年度の調査報告が『長野原一本松遺跡（1）』2002、平成9～11年度の調査報告が『長野原一本松遺跡（2）』2007として既に刊行されております。今回の報告は、これに続く平成12・13年度（一部平成14年度分を含む）に調査された遺構・遺物を対象としております。

今回報告する範囲では、遺跡の東端にあたる区域や台地縁辺で集落の外縁にあたる区域が調査・確認され、集落構造を窺い知る資料を提示することができました。

また、遺構・遺物では、縄文時代を中心に、近世にいたるまでのものが見つかっております。特徴的なものとしては、重複する縄文時代後期の大型敷石住居跡や、同じく後期の大型埋設土器などが発見されています。

発掘調査から報告書刊行に至るまで、国土交通省八ッ場ダム工事事務所、群馬県教育委員会、長野原町教育委員会、地元関係者の皆様をはじめとする関係機関・各位には、多大なるご尽力を賜りました。本報告書を上梓するにあたり、衷心より感謝申し上げます。

また、本書が広く基本的な歴史資料として活用されることを念願し、報告書の序といたします。

平成20年3月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 高橋 勇夫

例 言

- 1 本書は、八ッ場ダム建設工事に伴い事前調査されている、長野原一本松遺跡の発掘調査報告書である。平成18年度に、平成9～11年度までの発掘調査成果について報告した『長野原一本松遺跡（2）』を刊行しており、本書は平成12・13年度の発掘調査成果について報告する第3冊目である。
- 2 長野原一本松遺跡は、群馬県吾妻郡長野原町大字長野原字一本松地内に所在する。
- 3 本遺跡の発掘調査事業及び整理事業は、国土交通省（平成12年度の発掘調査事業は建設省）から委託を受けた、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施している。
- 4 本書で報告する平成12・13年度の調査期間及び面積は以下のとおりである。
平成12年度：平成12年4月1日～平成13年3月31日（約788㎡）
平成13年度：平成13年9月1日～平成14年3月31日（約12,160㎡）
- 5 本報告書に係る平成12・13年度の財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の発掘調査組織は、以下のとおりである。

平成12年度

理事長 小野宇三郎、**常務理事兼事務局長** 赤山容造、**管理部長** 住谷進、**調査研究第1部長** 水田稔、**調査研究第2部長** 能登健、**総務課長** 坂本敏夫、**調査研究第4課長** 飯島義雄、
事務担当 笠原秀樹（総務係長）・小山建夫（経理係長）、須田朋子・吉田有光（係長代理）、
森下弘美・柳岡良宏（主任）、片岡徳雄（主事）、大澤友治（嘱託）
発掘調査担当 飯塚卓二（主幹兼専門員）・田村公夫（専門員）・田中雄（調査研究員）

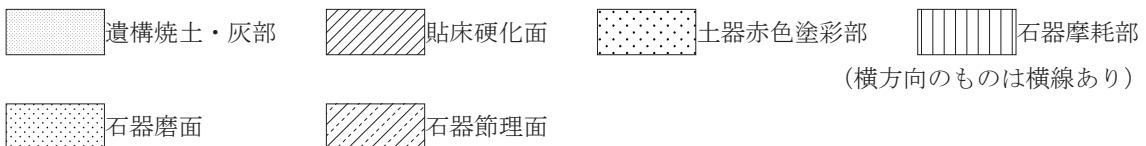
平成13年度

理事長 小野宇三郎、**常務理事** 吉田豊・赤山容造、**管理部長** 住谷進、**調査研究部長** 能登健、
総務課長 大島信夫、**調査研究第4課長** 下城正、
事務担当 笠原秀樹（総務係長）・小山建夫（経理係長）、須田朋子・吉田有光・森下弘美（係長代理）、
片岡徳雄（主事）
発掘調査担当 藤巻幸男・麻生敏隆（主幹兼専門員）、久保学・諸田康成・田中雄（調査研究員）

- 6 本報告書に係る整理事業の期間は、以下のとおりである。
平成19年4月1日～平成20年3月31日
- 7 本報告書に係る財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の整理事業組織は、以下のとおりである。
理事長 高橋勇夫、**常務理事** 木村裕紀、**事務局長** 津金澤吉茂、**総務部長** 萩原勉、
八ッ場ダム調査事務所長 巾隆之、**同事務所調査研究部長兼整理GL** 中東耕志、
事務担当 吉田有光（係長兼庶務GL）・若林正人（主幹・総括）
整理担当 諸田康成（主任調査研究員）、**整理補助** 新山保和（専門嘱託員）
整理補助員 榊歴史の杜（石村千恵美・市村富美江・黒岩由美子・佐藤栄子・秋元悦子〔通年〕、
金子幸子〔6月～〕、清水美那〔5・6月〕、高山千恵子〔4・5月〕）
- 8 本書作成の担当者は、次のとおりである。
編集 諸田康成
執筆 （土器遺物観察表）新山保和、（前記一部・その他）諸田康成
遺構写真撮影 発掘調査担当 **遺物写真** 佐藤元彦 **保存処理** 関邦一
石材鑑定 渡辺弘幸（甘楽町立新屋小学校教諭）
- 9 発掘調査事業及び整理事業での委託関係は下記のとおりである。
遺構図等測量・空中写真撮影 技研測量設計（株）、（株）測研
遺構図デジタルトレース編集・石器（石鏃等）実測トレース （株）測研
発掘作業員（平成13年度）・整理補助員派遣 （株）歴史の杜
- 10 出土遺物・図面・写真・記録等の資料は、一括して群馬県埋蔵文化財センターに保管している。
- 11 発掘調査にあたっては、地元の方々をはじめとして、遠方からも多数の方々に参加いただいた。調査に尽力して下さった作業員の方々に感謝の意を表す次第である。
- 12 発掘調査及び報告書作成にあたっては、下記の諸氏・諸機関に御教示・御協力等をいただいた。記して感謝の意を表す次第である。（敬称略）
石井寛、石坂聡、金子直行、坂寄富士男、佐藤雅一、白石光男、鈴木徳雄、田中浩江、寺崎裕助、
富田孝彦、中野純、藤澤良祐、宮崎常治、綿田弘実、渡辺弘幸、当事業団職員諸氏、
国土交通省関東地方整備局八ッ場ダム工事事務所、長野原町教育委員会、群馬県教育委員会文化課、
群馬県県土整備部特定ダム対策課、群馬県八ッ場ダム水源地域対策事務所

凡 例

- 1 本書で使用した方位は、国家座標の北を表す。
- 2 等高線等に記した数値は、海拔標高を示す。
- 3 本書に掲載した地図等は、以下のものを引用・編集して使用した。
200,000分の1地勢図「長野」、5,000分の1地形図「吾妻川流域図」、5,000分の1地形図「長野原」
- 4 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査経過については、原則として平成19年度の12月末までの状況をまとめたものである。
- 5 本書の遺構番号は、原則として発掘調査時の番号を使用した。しかし、遺構番号の重複などについては、名称及び番号の変更を行ったものがある。また、調査後の検討により遺構と判断できなくなったものや、名称変更等による番号調整などを行った遺構番号については欠番としたものがある。
- 6 遺構の方位は、基本的に長軸方位を計測した。このうち、住居跡については規模の長軸(残存・推定の規模を含む)を計測しているが、詳細は本文を参照されたい。また、計測は北を基準として東に傾く軸を $N-\circ^{\circ}-E$ 、西に傾く軸を $N-\triangle^{\circ}-W$ と表記し、この角度は 90° を越えない。さらに南北軸は $N-0^{\circ}$ 、東西軸は $N-90^{\circ}$ と表記している。
- 7 遺構記載にある計測値の表記において、()付は残存値を示す。この他の詳細については、本文を参照されたい。
- 8 付図を含む遺構実測図の縮尺は、原則として以下のとおりであるが、基準としてスケールを配しているもので、そちらも参照されたい。
遺構・遺構全体図(付図)：1/1,500、調査区・遺構全体図：1/200・1/2,000、
住居跡：1/60、炉跡・埋設土器・カマド：1/30、土坑・ピット：1/40・1/60、
集石：1/60、竪穴遺構：1/60、土坑群(掘立状遺構)：1/80、柵列：1/80
- 9 付図を含む遺構実測図のキャプションで使用した略称・略号等は、以下のとおりである。
住居跡：住、炉跡：炉、埋設土器：埋、土坑：坑、ピット：P、集石：集、竪穴遺構：竪、柵列：柵、
土層断面中の礫：S、土層断面中の土器：P、サブトレンチ：トレ
- 10 遺物実測図の縮尺は、原則として以下のとおりである。しかし、統一できないものや下記以外の遺物については、キャプション中にスケールを表記するなどしており、そちらを参照されたい。
土器 完形・半完形：1/4、破片・土製品等：1/2・1/3
石器 石鏃・石錐：1/1、石匙・スクレイパー：1/2・1/3、打製石斧：1/3、
磨製石斧：1/2・1/3、石核：1/3、磨石・凹石：1/3・1/4、
石皿・多孔石：1/3・1/4・1/6、石棒：1/3、石製品：1/3
- 11 縄文土器の拓本について、口縁部片の一部には口端まで含めた拓影図がある。
- 12 土器断面の割れ口については、欠け口のまゝを表現している。また、胎土中に植物繊維を含むものは、断面図中に●を表記した。
- 13 遺構・遺物実測図に使用したスクリーントーン等は、以下のことを示す。



目次

序	
例言	
凡例	
目次	
挿図目次	
表目次	
写真図版目次	
第1章 長野原一本松遺跡の発掘調査	
第1節 発掘調査に至る経緯	1
第2節 発掘調査の方法	1
第3節 調査経過	2
第2章 地理的及び歴史的環境	
第1節 地理的環境	5
第2節 歴史的環境	6
第3章 検出された遺構・遺物	
第1節 基本層序	11
第2節 調査遺構・遺物の概要	13
第3節 縄文時代	21
1 住居跡	21
2 炉跡・埋設土器	100
3 土坑・ピット	106
4 集石	134
5 遺構外出土遺物	136
(1) 土器・土製品等	136
(2) 石器	138
第4節 弥生時代	184
1 土坑	184
第5節 古墳時代	184
1 遺構外出土遺物	184
第6節 平安時代	186
1 住居跡	186
2 土坑・ピット	188
3 遺構外出土遺物	188
第7節 中世以降	199
1 竪穴遺構	199
2 土坑・ピット・柵列・集石	199
3 遺構外出土遺物	201
第4章 まとめ	206
報告書抄録	292
付図	

挿図目次

第1図 長野原一本松遺跡位置図…………… 3
 第2図 長野原一本松遺跡調査区及び経過図…………… 4
 第3図 周辺の遺跡…………… 9
 第4図 基本層序……………12
 第5図 3・4区全体図…………… 14
 第6図 4区全体図……………15
 第7図 5区・95区全体図……………17
 第8図 6区全体図……………18
 第9図 15区～19区全体図……………19
 第10図 4-7号住居跡(1)……………22
 第11図 4-7号住居跡(2)……………23
 第12図 4-7号住居跡(3)……………24
 第13図 4-7号住居跡出土遺物(1)……………24
 第14図 4-7号住居跡出土遺物(2)……………25
 第15図 4-8号住居跡(1)……………27
 第16図 4-8号住居跡(2)……………28
 第17図 4-8号住居跡出土遺物(1)……………29
 第18図 4-8号住居跡出土遺物(2)……………30
 第19図 4-8号住居跡出土遺物(3)……………31
 第20図 4-10号住居跡……………32
 第21図 4-10号住居跡出土遺物……………32
 第22図 4-11号住居跡……………34
 第23図 4-11号住居跡出土遺物……………34
 第24図 4-14号住居跡……………35
 第25図 4-15号住居跡……………36
 第26図 4-14号住居跡出土遺物(1)……………36
 第27図 4-14号住居跡出土遺物(2)……………37
 第28図 4-15号住居跡出土遺物……………37
 第29図 5-16号住居跡(1)……………39
 第30図 5-16号住居跡(2)……………40
 第31図 5-22号住居跡……………40
 第32図 5-16号住居跡出土遺物(1)……………41
 第33図 5-16号住居跡出土遺物(2)……………42
 第34図 5-16号住居跡出土遺物(3)……………43
 第35図 5-47号住居跡……………45
 第36図 5-47号住居跡出土遺物(1)……………45
 第37図 5-47号住居跡出土遺物(2)……………46
 第38図 5-48号住居跡(1)……………48
 第39図 5-48号住居跡(2)……………49
 第40図 5-48号住居跡出土遺物(1)……………50
 第41図 5-48号住居跡出土遺物(2)……………51
 第42図 5-48号住居跡出土遺物(3)……………52
 第43図 5-48号住居跡出土遺物(4)……………53
 第44図 5-49号住居跡……………54
 第45図 5-49号住居跡出土遺物……………54
 第46図 5-50号・51号住居跡(1)……………58
 第47図 5-50号・51号住居跡(2)……………59
 第48図 5-50号・51号住居跡(3)……………60
 第49図 5-50号・51号住居跡(4)……………61
 第50図 5-50号・51号住居跡(5)……………62
 第51図 5-50号・51号住居跡(6)……………63
 第52図 5-50号・51号住居跡(7)……………64
 第53図 5-50号住居跡出土遺物(1)……………65
 第54図 5-50号住居跡出土遺物(2)……………66
 第55図 5-50号住居跡出土遺物(3)……………67
 第56図 5-50号住居跡出土遺物(4)……………68
 第57図 5-50号住居跡出土遺物(5)……………69
 第58図 5-50号住居跡出土遺物(6)……………70
 第59図 5-50号住居跡出土遺物(7)……………71
 第60図 5-50号住居跡出土遺物(8)……………72
 第61図 5-50号住居跡出土遺物(9)……………73

第62図 5-51号住居跡出土遺物(1)……………73
 第63図 5-51号住居跡出土遺物(2)……………74
 第64図 5-51号住居跡出土遺物(3)……………75
 第65図 5-51号住居跡出土遺物(4)……………76
 第66図 5-51号住居跡出土遺物(5)……………77
 第67図 5-51号住居跡出土遺物(6)……………78
 第68図 5-52号住居跡……………79
 第69図 5-52号住居跡出土遺物……………80
 第70図 6-10号住居跡……………81
 第71図 6-10号住居跡出土遺物……………81
 第72図 6-11号住居跡……………83
 第73図 6-12号住居跡(1)……………84
 第74図 6-12号住居跡(2)……………85
 第75図 6-11号住居跡出土遺物……………86
 第76図 6-12号住居跡出土遺物(1)……………86
 第77図 6-12号住居跡出土遺物(2)……………87
 第78図 6-12号住居跡出土遺物(3)……………88
 第79図 6-12号住居跡出土遺物(4)……………89
 第80図 6-13号住居跡……………91
 第81図 6-13号住居跡出土遺物(1)……………92
 第82図 6-13号住居跡出土遺物(2)……………93
 第83図 6-14号住居跡……………95
 第84図 95-1号住居跡(1)……………95
 第85図 95-1号住居跡(2)……………96
 第86図 95-1号住居跡出土遺物(1)……………97
 第87図 95-1号住居跡出土遺物(2)……………98
 第88図 95-1号住居跡出土遺物(3)……………99
 第89図 4～6区・95区埋設土器・炉跡……………102
 第90図 4-1号埋設土器出土遺物(1)……………103
 第91図 4-1号埋設土器出土遺物(2)……………104
 第92図 4-1号(3)・その他の埋設土器……………105
 第93図 4区土坑(1)……………108
 第94図 5区土坑(1)……………109
 第95図 5区土坑(2)……………110
 第96図 5区土坑(3)……………111
 第97図 5区土坑(4)……………112
 第98図 5区土坑(5)……………113
 第99図 5区土坑(6)……………114
 第100図 5区土坑(7)……………115
 第101図 5区土坑(8)・6区土坑(1)……………116
 第102図 6区土坑(2)……………117
 第103図 6区土坑(3)・95区土坑(1)……………118
 第104図 95区土坑(2)……………119
 第105図 95区土坑(3)……………120
 第106図 95区土坑(4)……………121
 第107図 6区ピット(1)……………122
 第108図 6区ピット(2)……………123
 第109図 4区土坑出土遺物(1)……………124
 第110図 4区土坑出土遺物(2)……………125
 第111図 5区土坑出土遺物(1)……………125
 第112図 5区土坑出土遺物(2)……………126
 第113図 5区土坑出土遺物(3)……………127
 第114図 5区土坑出土遺物(4)……………128
 第115図 5区土坑(5)・6区土坑出土遺物(1)……………129
 第116図 6区土坑(2)・95区土坑出土遺物(1)……………130
 第117図 95区土坑出土遺物(2)……………131
 第118図 95区土坑出土遺物(3)……………132
 第119図 6区ピット出土遺物……………133
 第120図 4-1号集石出土遺物……………133
 第121図 4区集石(1)・6区集石……………135
 第122図 3区遺構外出土土器……………140
 第123図 4区遺構外出土土器(1)……………140

第124図	4区遺構外出土石器(2)……………	141
第125図	5区遺構外出土石器(1)……………	141
第126図	5区遺構外出土石器(2)……………	142
第127図	5区遺構外出土石器(3)……………	143
第128図	5区遺構外出土石器(4)……………	144
第129図	5区遺構外出土石器(5)……………	145
第130図	5区遺構外出土石器(6)……………	146
第131図	5区遺構外出土石器(7)……………	147
第132図	5区遺構外出土石器(8)……………	148
第133図	5区遺構外出土石器(9)……………	149
第134図	6区遺構外出土石器(1)……………	149
第135図	6区遺構外出土石器(2)……………	150
第136図	6区遺構外出土石器(3)……………	151
第137図	6区遺構外出土石器(4)……………	152
第138図	6区遺構外出土石器(5)……………	153
第139図	95区遺構外出土石器(1)……………	153
第140図	95区遺構外出土石器(2)……………	154
第141図	95区遺構外出土石器(3)……………	155
第142図	95区遺構外出土石器(4)……………	156
第143図	95区遺構外出土石器(5)……………	157
第144図	95区遺構外出土石器(6)……………	158
第145図	95区遺構外出土石器(7)……………	159
第146図	95区遺構外出土石器(8)……………	160
第147図	95区遺構外出土石器(9)……………	161
第148図	95区遺構外出土石器(10)……………	162
第149図	95区(11)・17区遺構外出土石器……………	163
第150図	4区遺構外出土石器(1)……………	164
第151図	4区遺構外出土石器(2)……………	165
第152図	4区遺構外出土石器(3)……………	166
第153図	4区遺構外出土石器(4)……………	167
第154図	5区遺構外出土石器(1)……………	167
第155図	5区遺構外出土石器(2)……………	168
第156図	5区遺構外出土石器(3)……………	169
第157図	5区遺構外出土石器(4)……………	170
第158図	5区遺構外出土石器(5)……………	171
第159図	5区遺構外出土石器(6)……………	172
第160図	5区遺構外出土石器(7)……………	173
第161図	5区遺構外出土石器(8)……………	174
第162図	6区遺構外出土石器(1)……………	174
第163図	6区遺構外出土石器(2)……………	175
第164図	6区遺構外出土石器(3)……………	176
第165図	6区遺構外出土石器(4)……………	177
第166図	95区遺構外出土石器(1)……………	177
第167図	95区遺構外出土石器(2)……………	178
第168図	95区遺構外出土石器(3)……………	179
第169図	95区遺構外出土石器(4)……………	180
第170図	95区遺構外出土石器(5)……………	181
第171図	95区遺構外出土石器(6)……………	182
第172図	95区遺構外出土石器(7)……………	183
第173図	17区土坑(1)……………	185
第174図	弥生・古墳時代出土土器……………	185
第175図	4-5号住居跡・出土遺物……………	189
第176図	4-6号住居跡・出土遺物……………	190
第177図	4-9号住居跡……………	190
第178図	4-12号・13号住居跡・出土遺物……………	191
第179図	3区土坑……………	192
第180図	4区土坑(2)……………	193
第181図	4区土坑(3)……………	194
第182図	4区土坑(4)・5区土坑(9)……………	195
第183図	5区土坑(10)……………	196
第184図	5区(11)・95区(5)・17区(2)・18区土坑……………	197
第185図	4区ピット(1)・6区ピット(3)……………	198

第186図	平安時代出土遺物……………	198
第187図	4区堅穴遺構・土坑(5)・集石(2)・6区土坑(4)……………	202
第188図	4区柵列・ピット(2)……………	203
第189図	4区ピット(3)・6区ピット(4)……………	204
第190図	6区ピット(5)……………	205
第191図	中世以降出土遺物……………	205

表目次

表1	周辺遺跡一覧表……………	8
表2	土坑・ピット一覧表……………	211
表3	遺物観察表……………	221

図版目次

PL1	3区・4区全景(東から) 4区(東半部)全景(西から)
PL2	4区(西半部)全景(東から) 5区・95区礫・列石出土状況(南から)
PL3	6区(東側)全景(南から) 6区(西側)全景(南から)
PL4	4-7号住居跡全景(北から) 4-7号住居跡炉跡(埋設土器)全景(北から) 4-7号住居跡炉跡(埋設土器)近景(東から) 4-62号土坑セクション(北から) 4-62号土坑全景(西から)
PL5	4-8号住居跡全景(北から) 4-8号住居跡遺物出土状況(東から) 4-8号住居跡炉跡全景(南から) 4-67号土坑セクション(東から) 4-67号土坑全景(南から)
PL6	4-10号住居跡全景(南から) 4-10号住居跡炉跡セクション(南から) 4-11号住居跡全景(南から) 4-11号住居跡炉跡全景(南から) 4-11号住居跡3号埋設土器近景(西から)
PL7	4-14号住居跡全景(南から) 4-15号住居跡全景(南から)
PL8	5-16号住居跡全景(南半部)(南から) 5-16号住居跡炉跡礫出土状況(南から) 5-16号住居跡炉跡全景(南から) 5-16号住居跡埋設土器近景(南から) 5-16号住居跡埋設土器近景(南から)
PL9	5-16号住居跡遺物出土状況(南東から) 5-47号住居跡炉跡セクション(南から) 5-47号住居跡全景(南から) 5-47号住居跡炉跡近景(南から) 5-47号住居跡掘り方全景(南から)
PL10	5-48号住居跡上面遺物出土状況(南から) 5-48号住居跡遺物出土状況(南から) 5-48号住居跡炉跡検出状況(南から) 5-48号住居跡炉跡全景(南から) 5-48号住居跡石囲施設全景(南から)

P L 11	5-49号住居跡全景(南から) 5-49号住居跡炉跡全景(南から) 5-49号住居跡炉跡セクション(南から) 5-49号住居跡埋設土器近景(南から) 5-49号住居跡埋設土器全景(南から)	4-60号土坑セクション(西から) 4-61号土坑全景(東から) 4-63号土坑全景(東から)
P L 12	5-50号住居跡全景(南から) 5-7号列石全景(北から) 5-50号住居跡北壁近景(南西から) 5-50号住居跡炉跡埋設土器近景(北から) 5-50号住居跡掘り方全景(西から)	P L 21 4-65号土坑底面礫出土状況(西から) 4-65号土坑セクション(西から) 4-66号土坑全景(西から) 4-68号土坑全景(南から) 4-69号土坑全景(南から) 4-70号土坑全景(東から) 5-602号土坑全景(南から) 5-603号土坑全景(南から)
P L 13	5-51号住居跡全景(南から) 5-51号住居跡炉跡全景(西から) 5-703号土坑セクション(東から) 5-51号住居跡ビット完掘全景(西から) 5-51号住居跡掘り方全景(西から)	P L 22 5-604号土坑全景(南から) 5-605号土坑全景(南東から) 5-606号土坑遺物出土状況(南から) 5-607号土坑全景(南西から) 5-608号土坑全景(南から) 5-612号土坑遺物出土状況(東から) 5-613号土坑全景(南西から) 5-615号土坑全景(南から)
P L 14	5-52号住居跡全景(北から) 5-52号住居跡全景(南から) 5-52号住居跡遺物出土状況(東から) 5-52号住居跡炉跡掘り方全景(南から) 6-10号住居跡遺物出土状況(西から)	P L 23 5-616号土坑遺物出土状況(南から) 5-619号土坑全景(南西から) 5-620号土坑全景(西から) 5-621号土坑全景(南から) 5-622号土坑セクション(南から) 5-623号土坑全景(南東から) 5-624・625号土坑全景(南から) 5-626号土坑全景(東から)
P L 15	6-11号住居跡炉跡遺物出土状況(南から) 6-11号住居跡焼土確認状況(南から) 6-11号住居跡炉跡全景(南から) 6-11号住居跡ビット13全景(南から) 6-11号住居跡ビット15全景(南から)	P L 24 5-627号土坑全景(南から) 5-628号土坑全景(南から) 5-629号土坑全景(南から) 5-630号土坑全景(南から) 5-631号土坑全景(南から) 5-632号土坑全景(南から) 5-633・634号土坑全景(南東から) 5-635・636号土坑全景(東から)
P L 16	6-12号住居跡全景(南から) 6-12号住居跡炉跡全景(東から) 6-12号住居跡炉跡埋設土器近景(南から) 6-12号住居跡埋設土器近景(南から) 6-12号住居跡掘り方全景(南から)	P L 25 5-637~640号土坑全景(南から) 5-641~646号土坑全景(北から) 5-641号土坑全景(北から) 5-644号土坑遺物出土状況(南から) 5-647号土坑全景(南から) 5-648号土坑全景(南東から) 5-649号土坑全景(南東から) 5-650号土坑全景(南から)
P L 17	6-13号住居跡全景(東から) 6-13号住居跡遺物出土状況(南から) 6-13号住居跡炉跡全景(南から) 6-13号住居跡炉跡遺物出土状況(南から) 6-13号住居跡炉跡掘り方セクション(南から)	P L 26 5-651・652号土坑全景(南東から) 5-653号土坑遺物出土状況(南東から) 5-653号土坑遺物出土状況(南東から) 5-654号土坑全景(南西から) 5-655・656号土坑全景(北西から) 5-658~660号土坑全景(南から) 5-660号土坑遺物出土状況(南から) 5-660号土坑遺物出土状況近景(南から)
P L 18	6-14号住居跡炉跡全景(南東から) 6-14号住居跡炉跡掘り方全景(南から) 95-1号住居跡全景(南から) 95-1号住居跡遺物出土状況(南から) 95-1号住居跡炉跡掘り方セクション(西から)	
P L 19	4-1号埋設土器全景(東から) 4-1号埋設土器全景(西から) 4-1号埋設土器掘り方遺物出土状況(西から) 4-1号埋設土器掘り方全景(西から) 5-7号埋設土器全景(南西から) 5-7号埋設土器近景(南西から) 95-4号埋設土器近景(東から) 95-5号埋設土器近景(北から)	
P L 20	4-45号土坑全景(南西から) 4-50号土坑全景(西から) 4-59号土坑全景(西から) 4-59号土坑セクション(西から) 4-60号土坑全景(東から)	

- P L 27 5-662号土坑全景(南から)
5-663号土坑全景(南から)
5-664・665号土坑全景(西から)
5-666号土坑遺物出土状況(南から)
5-667号土坑遺物出土状況(南から)
5-668号土坑全景(南から)
5-669号土坑全景(南東から)
5-669号土坑遺物出土状況(南から)
- P L 28 5-670号土坑遺物出土状況(西から)
5-671号土坑礫出土状況(南から)
5-673号土坑全景(南西から)
5-674号土坑セクション(西から)
5-675号土坑礫出土状況(東から)
5-676号土坑セクション(西から)
5-677号土坑全景(南から)
5-678・679号土坑全景(南から)
- P L 29 5-680号土坑全景(南から)
5-681号土坑遺物出土状況(東から)
5-682号土坑全景(南から)
5-684号土坑全景(東から)
5-685号土坑全景(東から)
5-686号土坑全景(東から)
5-686号土坑遺物出土状況(東から)
5-689号土坑遺物出土状況(東から)
- P L 30 5-687号土坑全景(東から)
5-688号土坑全景(南から)
5-690号土坑全景(南から)
5-691号土坑全景(南から)
5-693号土坑全景(南から)
5-694号土坑全景(南東から)
5-695号土坑全景(南から)
5-696・697号土坑全景(南東から)
- P L 31 5-698号土坑全景(東から)
5-700号土坑全景(北から)
5-701・702号土坑全景(東から)
5-708号土坑全景(南東から)
5-709・710号土坑全景(南西から)
6-178・179号土坑全景(南から)
6-179号土坑遺物出土状況(南から)
6-180号土坑全景(南から)
- P L 32 6-181号土坑全景(西から)
6-182号土坑全景(南から)
6-184号土坑全景(南から)
6-185号土坑全景(南から)
6-186号土坑全景(南から)
6-187号土坑全景(南から)
6-187号土坑遺物出土状況(南から)
6-189号土坑全景(南から)
- P L 33 6-190号土坑全景(南西から)
6-191号土坑全景(南から)
6-191号土坑礫出土状況(東から)
6-192号土坑全景(南から)
6-193号土坑全景(南から)
6-194・195号土坑全景(南から)
6-196号土坑全景(南から)
6-198号土坑全景(南から)
- P L 34 6-199号土坑全景(北から)
6-200号土坑全景(南から)
6-201号土坑セクション(南東から)
6-203号土坑全景(南東から)
95-7号土坑全景(南から)
95-9号土坑セクション(西から)
95-10号土坑セクション(西から)
95-11号土坑全景(西から)
- P L 35 95-12号土坑全景(西から)
95-13号土坑全景(西から)
95-16号土坑セクション(北から)
95-17・18・21号土坑全景(東から)
95-19号土坑全景(西から)
95-20号土坑全景(南から)
95-22号土坑全景(北から)
95-23号土坑全景(西から)
- P L 36 95区土坑群(掘立状遺構)(西から)
95-8号土坑礫出土状況(南から)
95-14号土坑礫出土状況(南から)
95-15号土坑全景(東から)
95-24号土坑遺物出土状況(西から)
- P L 37 95-24号土坑遺物出土状況(南から)
95-24号土坑西壁工具痕(東から)
95-24号土坑南壁工具痕(北から)
95-25号土坑全景(東から)
95-26号土坑全景(南から)
95-27号土坑全景(南から)
6-15号ピット遺物出土状況(北から)
6-15号ピット遺物出土状況(北から)
- P L 38 4-1号集石全景(南から)
4-2号集石全景(南から)
6-2～5号集石全景(南から)
6-4号集石全景(南から)
6-5号集石全景(南から)
6-6号集石全景(南から)
95X-22グリッド遺物出土状況(東から)
95X-22グリッド遺物出土状況(東から)
- P L 39 4-5号住居跡全景(南から)
4-5号住居跡カマド全景(南から)
4-5号住居跡カマド焼土出土状況(南から)
4-5号住居跡カマド掘り方全景(南から)
4-6号住居跡全景(西から)
4-6号住居跡カマド全景(西から)
4-6号住居跡カマド焼土出土状況(西から)
4-6号住居跡カマド掘り方全景(西から)
- P L 40 4-9号住居跡全景(南から)
4-9号住居跡カマドセクション(南から)
4-12号住居跡全景(西から)
4-12号住居跡カマドセクション(西から)
4-13号住居跡全景(南から)
4-13号住居跡カマドセクション(南から)
3-8号土坑全景(南から)
3-8号土坑セクション(南から)

- P L 41 3-9号土坑全景(左9、右10)(南から)
3-9号土坑セクション(南から)
3-11号土坑全景(南から)
3-11号土坑セクション(南から)
3-12号土坑全景(東から)
3-12号土坑セクション(東から)
3-13号土坑全景(南から)
3-13号土坑セクション(南西から)
- P L 42 4-46号土坑全景(南から)
4-46号土坑セクション(南から)
4-48号土坑全景(南から)
4-51号土坑全景(西から)
4-51号土坑セクション(西から)
4-52号土坑全景(南から)
4-52号土坑セクション(南から)
4-53号土坑全景(南から)
- P L 43 4-53号土坑セクション(南から)
4-55号土坑全景(南から)
4-55号土坑セクション(南から)
4-56号土坑全景(北から)
4-56号土坑セクション(北西から)
4-57号土坑全景(東から)
4-57号土坑セクション(東から)
4-58号土坑全景(西から)
- P L 44 4-58号土坑セクション(西から)
4-64号土坑全景(北から)
5-386号土坑全景(北西から)
5-386号土坑セクション(北西から)
5-609号土坑遺物出土状況(南から)
5-609号土坑遺物出土状況(南から)
5-609号土坑セクション(南から)
5-610号土坑全景(南から)
- P L 45 5-610号土坑底面工具痕(北から)
5-610号土坑セクション(南東から)
5-611号土坑全景(南から)
5-611号土坑セクション(南から)
5-672号土坑全景(東から)
5-672号土坑セクション(東から)
95-6号土坑セクション(東から)
95-6号土坑全景(南西から)
- P L 46 4-1号竪穴遺構全景(南から)
4-1号竪穴遺構セクション(東から)
4-2号竪穴遺構全景(東から)
4-2号竪穴遺構セクション(東から)
4-47号土坑全景(南から)
4-47号土坑セクション(東から)
4-49号土坑全景(南から)
4-49号土坑セクション(南から)
- P L 47 6-183号土坑全景(南から)
6-202号土坑全景(南から)
4-3号集石(東から)
4-1号柵列 全景(西から)
4-1号柵列ピット3全景(南から)
4-1号柵列ピット5全景(南から)
4-1号柵列ピット6全景(南から)
4-1号柵列ピット7全景(南東から)
- P L 48 4-1号柵列ピット8全景(南から)
4-1号柵列ピット9.10全景(南から)
4-1号柵列ピット11全景(南東から)
4-1号柵列ピット12全景(南から)
4-1号柵列ピット13全景(南から)
4-1号柵列ピット14全景(南から)
4-1号柵列ピット15全景(南から)
4-1号柵列ピット16全景(南西から)
- P L 49 4-7号住居跡・8号住居跡出土遺物(1)
- P L 50 4-8号住居跡出土遺物(2)
- P L 51 4-8号(3)・10号・11号住居跡出土遺物
- P L 52 4-14・15号・5-16号住居跡出土遺物(1)
- P L 53 5-16号住居跡出土遺物(2)
- P L 54 5-16号(3)・47号住居跡出土遺物
- P L 55 5-48号住居跡出土遺物(1)
- P L 56 5-48号(2)・49号・50号住居跡出土遺物(1)
- P L 57 5-50号住居跡出土遺物(2)
- P L 58 5-50号住居跡出土遺物(3)
- P L 59 5-50号住居跡出土遺物(4)
- P L 60 5-51号住居跡出土遺物(1)
- P L 61 5-51号住居跡出土遺物(2)
- P L 62 5-52号・6-10号住居跡出土遺物
- P L 63 6-11号・12号住居跡出土遺物(1)
- P L 64 6-12号住居跡出土遺物(2)
- P L 65 6-13号住居跡出土遺物(1)
- P L 66 6-13号(2)・95-1号住居跡出土遺物(1)
- P L 67 95-1号住居跡(2)・4-1号埋設土器(1)
- P L 68 4-1号埋設土器(2)
- P L 69 4区以外の埋設土器・4区土坑出土遺物
- P L 70 5区土坑出土遺物(1)
- P L 71 5区土坑出土遺物(2)
- P L 72 6区・95区土坑出土遺物(1)
- P L 73 95区土坑出土遺物(2)
- P L 74 6区ピット・4区1号集石・3・4区遺構外出土土器(1)
- P L 75 4区(2)・5区遺構外出土土器(1)
- P L 76 5区遺構外出土土器(2)
- P L 77 5区遺構外出土土器(3)
- P L 78 5区遺構外出土土器(4)
- P L 79 5区遺構外出土土器(5)
- P L 80 5区(6)・6区遺構外出土土器(1)
- P L 81 6区遺構外出土土器(2)
- P L 82 6区遺構外出土土器(3)
- P L 83 6区(4)・95区遺構外出土土器(1)
- P L 84 95区遺構外出土土器(2)
- P L 85 95区遺構外出土土器(3)
- P L 86 95区遺構外出土土器(4)
- P L 87 95区遺構外出土土器(5)
- P L 88 95区遺構外出土土器(6)
- P L 89 95区(7)・17区遺構外出土土器、4区遺構外出土土器(1)
- P L 90 4区(2)・5区遺構外出土土器(1)
- P L 91 5区遺構外出土土器(2)
- P L 92 5区(3)・6区遺構外出土土器(1)
- P L 93 6区(2)・95区遺構外出土土器(1)
- P L 94 95区遺構外出土土器(2)
- P L 95 95区(3)・弥生・古墳・中世以降出土遺物

第1章 長野原一本松遺跡の発掘調査

第1節 発掘調査に至る経緯

八ッ場ダム建設工事に伴う発掘調査は、平成6年度から本格的に開始され、長野原一本松遺跡が最初に着手された遺跡である。本遺跡の発掘調査は、工事用進入路・水没地区代替地造成などに関連して行われ、本年度も継続している。また、平成6～8年度までの調査分を平成13年度、平成9～11年度までの調査分を平成18年度に報告書として刊行しており、本書では平成12年度と13年度の調査分について報告する。

平成12年度は、代替地造成予定地にあたる旧調査事務所地を調査した。調査対象地は、調査区では5区・95区にあたり、平成8・9年度の調査結果から台地の南側縁辺部にあたると見られ、縄文時代中期～後期の集落跡の南端部にあたる区域と推察された。

平成13年度は、工事用進入路・代替地造成予定地・新設の県道予定地などを対象に調査を実施した。調査区では、「一本松・幸神進入路」の工事用進入路区域が3区・4区、代替地造成予定地が5区・95区、進入路も含めて新設の県道に関わる区域が6区・15区～19区である。3区・4区は、工事用進入路の南側と北側の地点に分かれ、南側の3区・4区は谷地と段丘崖が会合する傾斜地、北側の4区は谷頭を挟む尾根状地を含めた台地東縁部である。5区・95区は、12年度調査区の東側に隣接する台地中心部、6区は台地西縁部、15区～19区は前記した地点よりさらに上位に位置する傾斜地にあたる地勢である。これらのうち、4区・5区・6区・95区では、縄文時代中期～後期の集落跡が展開する区域と推察された。また3区・4区、15区～19区は、集落跡の外縁部として陥穴などの遺構が展開する可能性が推察された。

第2節 発掘調査の方法

発掘調査の方法について、平成6年度の調査開始時に協議が行われ、以下のようになっている。

1. 八ッ場ダム略称 : YD (Y a n b a - D a m u)
2. 遺跡番号 : 水没対象となる長野原町内の5地区に1～5の番号を付し、各地区内に所在する遺跡に対して調査順の通番を用いる。

〔地区番号〕 1－川原畑地区、2－川原湯地区、3－横壁地区、4－林地区、5－長野原地区

3. 遺構名 : 各遺跡の調査区名(100m方眼の中グリッド)を冠し、遺構の種類ごとに通番で表す。

上記において長野原一本松遺跡は、長野原地区において最初に調査された遺跡であり、遺跡略号は「YD 5-01 (八ッ場ダム・長野原地区-調査順番号)」となる。また、遺構名の表記について、例えば「長野原一本松遺跡5区1号住居跡」は、「YD 5-01・5-1号住居跡」となる。

この他、グリッドについても平成6年度の調査開始時に設定されており、日本平面直角座標第IX系を使用して1km方眼の大グリッドにあたる「地区」が設定され、この大グリッド内が100m方眼の中グリッドにあたる「区」、さらに中グリッド内が4m方眼の小グリッドに区画されている。「地区」は、八ッ場ダム建設工事に関連する区域全体を覆う形で設定され、「区」は調査区を示す名称として使用され、小グリッドは東西方向のX軸をアルファベット(A～Yまで)、南北方向のY軸を算用数字(1～25まで)で呼称し、南東隅の座標名称に「区」の番号を冠したものを測量基準のグリッド名称としている。この例として、「八ッ場ダム・長野原一本松遺跡・5区・A(X軸)－1(Y軸)」グリッドは、「YD 5-01・5A-1」グリッドとして表記される。なお、これらの区画の原点は、全て南東隅を基準としている。

発掘調査は、対象地の用地杭の確認から始め、重機による表土掘削・遺構確認・方眼杭打等測量・個別遺

第1章 長野原一本松遺跡の発掘調査

構調査・写真撮影・遺構測量・旧石器試掘という大枠の順で進められた。このうち個別遺構調査では、遺構番号を各区ごとに確認順の通し番号で付番したため、発掘調査後の検討で遺構名称を変更したものや、年度を跨いで同一遺構を調査しているものがある。このため、遺構番号が大きく前後するものがあるが、ご了解いただきたい。また、出土遺物のうち、埋設土器や炉内の土器などには劣化して極めて脆い状態のものがあり、薬品(凝固剤)を使用して補強に努めたが、出土時の状態に復元できなかった個体もある。

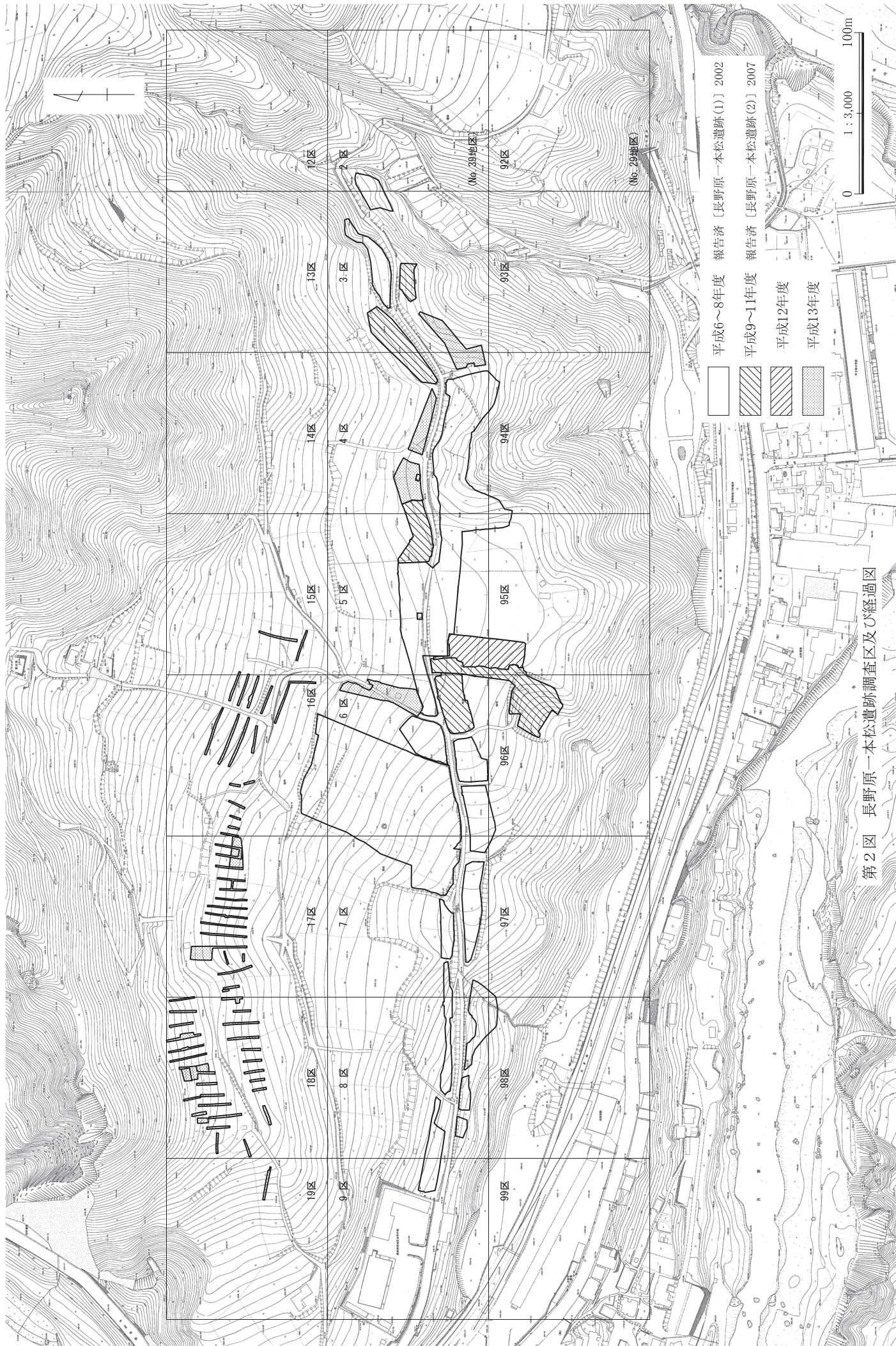
第3節 調査経過

平成12年度の調査は、平成11年度に調査した6区の南東で、旧事務所用地である代替地造成予定地を対象に調査を実施した。調査区では5区・95区にあたり、北側に隣接する区域を平成8年度、西側に隣接する区域を平成9年度に調査しており、過年度調査遺構で調査区外にかかっていた遺構の検出も想定された。調査は、平成11年度調査区域に新たな調査事務所を設置後、旧事務所を撤去し調査区を確定した。調査は、4月前半に旧事務所の基礎撤去・表土掘削が行われ、4月後半から遺構確認作業を開始した。確認された遺構から随時個別調査が行われたが、調査区には基本層序IV層に相当する黒褐色土が全面に堆積し、特に緩傾斜地であるため調査区南半部での黒褐色土の堆積が顕著であった。また、この黒褐色土の上面に多量の礫が分布する区域があり、遺構確認が困難な状況であった。このため、グリッドラインに沿う形でサブトレンチを入れて黒褐色土の堆積状況を把握し、さらにサブトレンチの土層断面から遺構を確認する方法が採られた。この結果、住居跡などが確認され、その調査が本格化するのは5月後半から6月以降であった。さらに、8月～12月には、二反沢遺跡の調査などが併行して行われた。このため、本遺跡の調査は12月から1月に作業を継続する状況となり、95区南端部の追加調査なども含めて遺構調査が完了したのが2月中旬、埋め戻し等の現場作業が終了したのが2月後半であった。なお、1月からは、冬季の基礎整理作業として遺物洗浄・遺物注記・図面整理などが調査事務所で行われ、この合間を見て現場作業が行われる形であった。

平成13年度の調査は、工事用進入路部分を対象に9月から開始された。調査区は、4区の現有道路北側の区域と、6区で山手に延びる現有道路の東側区域である。当初は、両区域を併行して調査していたが、新設の県道に関わる工程の関係から6区を優先する形となり、6区については現有道路東側が終了後、この部分に現有道路を切り回し、現有道路下と道路西側の区域についても拡張して調査を実施した。この後、6区については11月末に調査を終了して引き渡した。また4区については、区域の西半部を調査していたが、4区東半部及び3区にかけての現有道路南側の斜面地も調査対象となり、11月中旬から表土掘削を開始し、調査に着手した。さらには、新設の県道に関する範囲の調査を実施することになり、工事進入路の延長部分にあたる15・16区の一部の調査を10月前半に、県道の本線部分にあたる17区～19区の一部も同様に調査を12月から実施した。また、次年度の調査準備として、平成12年度調査区域の東側に隣接する代替地造成予定の5区について、表土掘削と遺構確認まで実施することになり、12月中旬から表土掘削を開始し、遺構確認後越冬用の養生をして次年度に備える形をとった。こうして、現場作業の全てが終了したのは12月後半であり、1月からは、平成12年度と同様に調査事務所でも冬季の基礎整理作業が行われた。なお、表土掘削した5区と、一部区域で遺構・遺物が検出された17区～19区の一部については、次年度に調査が継続することとなった。



第1図 長野原一本松遺跡位置図



第2図 長野原一本松遺跡調査区及び経過図

第2章 地理的及び歴史的環境

第1節 地理的環境

長野原一本松遺跡の所在する長野原町は、群馬県の北西部にある吾妻郡域の西南隅に位置する。町域の北部を吾妻川が東流し、川を挟んで北西には草津白根山、南西には浅間山が位置する。また東部には高間山や王城山、南側に丸岩や大洞山(菅峰)が南北に連なる。このような町域の地形は、吾妻川流域地帯の北部と浅間高原地帯の南部とに大別される。

長野原一本松遺跡は、北部の吾妻川流域地帯に位置する。吾妻川は、長野県境の鳥居峠付近に水源を發して東流し、町域の東端で吾妻溪谷を形成している。この支流の1つに、上信越国境の白砂山麓から發して南流する白砂川があり、吾妻川と白砂川の合流点から東側の上位段丘面上に本遺跡が立地する。

遺跡地の東から北側には、段丘面の北東にある王城山からの尾根状山地が迫り、西側には前述した白砂川が南流して吾妻川と合流する。南側には、崖下の中位段丘面に国道145号線やJR吾妻線などの公共交通網が走り、これに沿う町並やJR長野原草津駅が所在する。その向こうに吾妻川を臨み、対岸の段丘面には駅前吾妻川に架かる「久々戸橋」からのアクセス道路(県道)を含め、国道のバイパスの一部が山裾に沿って走っている。さらにこの背後には、「丸岩」や大洞山系の山並みが連なる。特に「丸岩」は、その容姿が巨大な円柱形の岩山や饅頭形の巨大な岩塊などに例えられ、その崖面に現れている柱を束ねて立て掛けたような柱状節理が見られる。

このような環境にあって、本遺跡の立地する段丘面は東西に延びるように開けている。この段丘面のほぼ中央には沢が流れ、谷地を開析するとともに東側に隣接する幸神遺跡との境界をなしている。また段丘面は、吾妻川に向かって概ね北から南へ傾斜する地形を呈し、背後の山地を起源とする砂礫が堆積したためと考えられる。このような立地にある遺跡地の現況は畑地や山林などで、かつては軽自動車を通れる程の農道が東西に横断していた。この道は、中世から近世にかけての「道陸神峠道」と呼ばれる旧街道にあたる。

遺跡地の地形を調査区ごとに概観すると、3区は東側の沢に面する谷の傾斜地、4区東半部は尾根状(舌状)地形、4区西半部は南側の谷地頭に面する緩傾斜地である。5区・6区・95区は南に向かう緩傾斜地であるが、遺跡地内では比較的安定した台地上の平坦部であり、6区は西側の縁辺・95区は南側の縁辺にかかる位置にある。また、15区～19区は、前記した調査区のさらに上位に位置し、南面や西面する傾斜や起伏が急な地形である。なお、今回調査が及んだ遺跡地範囲の標高は約620～650mの幅を測り、調査区が上位の区域まで及んだ状況もあるが、比高差が顕著である。

以上のような調査区域の地形からは、埋没谷も含め段丘面の等高線に直交するように北から南へ沢が入り、谷地が開析されている状況が窺える。このため段丘面上は、概ね東西に波打つように起伏し、特に4区東半部と5区の遺構では谷を挟んで別の台地に立地する様相を呈する。こうした谷地の形成は、段丘面背後の山地から発する湧水などに起因すると考えられる。

また、吾妻川と白砂川の合流点は、「草津道」や「真田道」などのかつての街道の会合点にもあたる。前記した「道陸神峠道」は、この会合点を起点に本遺跡地を通過して東方に向かっており、本遺跡の立地を交通面から捉えると、要衝といえる位置にあった状況を窺うことができる。

第2章 地理的及び歴史的環境

第2節 歴史的環境

町域の歴史的環境については、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団及び長野原町教育委員会による既刊の埋蔵文化財発掘調査報告書などに詳しい。ここでは、これら既刊の報告書や平成19年度の発掘調査成果などの概略について、町域における近年の調査動向や本遺跡に関わる時代・時期の事例を中心に概観したい。

旧石器時代 町域において該期の遺跡は発見されていないが、柳沢城跡の調査で細石器文化期と考えられるスクレイパー(珪質頁岩製)が1点出土している。また、横壁勝沼遺跡では、表採資料ながら石槍が見つかっており、遺跡の存在する可能性が想定される。

縄文時代 草創期・早期では、かつては多縄文系の土器などを出土した石畑岩陰遺跡が知られていたが、近年の発掘調査で発見例が増加している。特に楡木Ⅱ遺跡・立馬Ⅱ遺跡などで撚糸文や押型文の土器が出土している。さらに今年度調査の立馬Ⅲ遺跡では、撚糸文や条痕文などが見つかった。

前期では、早期末から継続する遺跡として立馬Ⅰ遺跡・三平遺跡において、早期末の繊維土器や前期初頭～後半にかけての花積下層式・関山式・諸磯式などが出土している。

中期では、前代に比して遺跡が拡大する傾向にあり、吾妻川兩岸の比較的広い区域を求めて居住するような遺跡の展開が看取される。初頭～前半にかけては楡木Ⅱ遺跡、立馬Ⅰ・Ⅱ遺跡で住居跡や土坑が確認され、特に立馬Ⅱ遺跡からは五領ヶ台式・阿玉台式などの個体がまとまって出土している。中葉～後半には、さらに遺跡数が増加し、吾妻川右岸側では横壁中村遺跡や山根Ⅲ遺跡、左岸側では本遺跡や上ノ平Ⅰ遺跡などがある。特に、横壁中村遺跡と本遺跡は、拠点的な様相を呈する大集落で、また上ノ平Ⅰ遺跡では勝坂式や焼町類型などの個体が出土している。

後期では、中葉あたりまで本遺跡、横壁中村遺跡では中葉以降も集落が継続し、さらに林中原遺跡や上原Ⅰ・Ⅳ遺跡などで住居跡が確認されている。

晩期では、川原湯勝沼遺跡で氷Ⅰ式併行の甕と在地系の壺形土器の2基が埋設された状態で発見され、再埋葬の可能性もある。また、立馬Ⅰ遺跡からは女鳥羽川式の資料が住居跡から発見され、この他にも下原遺跡や久々戸遺跡からも該期の資料が出土しており、近年発見例が増加しつつある。

弥生時代 該期の資料は少ないが、横壁中村遺跡では条痕文の甕を埋設する土坑1基や、立馬Ⅰ遺跡では中期の住居跡1軒や土器棺墓2基、川原湯勝沼遺跡では前期の土器片などが見つかった。本遺跡でも土器片が僅かながら出土しており、今後発見例が増えるものと思われる。

古墳時代 該期について、かつては明確な遺構の存在は確認されていなかったが、林宮原遺跡や下原遺跡において後期の住居跡が1軒ずつ発見され、新発見となった。また、遺物では川原湯勝沼遺跡で剣形模造品が1点、下原遺跡で白玉などが出土している。古墳については、林の「御塚」や与喜屋の「五輪塚」、大津の「鉄塚」などがあるが、古墳である確証はなく、現在のところ明確な古墳は確認されていない。

奈良・平安時代 奈良時代の遺跡は、町域では羽根尾Ⅱ遺跡が確認されているのみで、現在のところ確認例の増加はない。これに対して平安時代は全域に展開し、9～10世紀を中心とする住居跡などが本遺跡や楡木Ⅱ遺跡・花畑遺跡・立馬遺跡・横壁中村遺跡・上ノ平Ⅰ遺跡・三平遺跡・川原湯勝沼遺跡などで調査されている。このうち、楡木Ⅱ遺跡では、「長」・「三家」の墨書土器や「称」と刻書された紡錘車などが出土している。また、横壁中村遺跡では床の板敷きが残った状態の焼失住居跡が見つかった。さらに、上ノ平Ⅰ遺跡では、住居跡から本朝十二銭の1つである「貞観永宝」が出土している。

中世 町域には中世城館が点在しており、西から羽根尾城跡・長野原城跡・柳沢城跡・丸岩城跡・林城跡・

金花山砦跡などがあり、この他にも「林の烽火台」と呼ばれる箇所などが存在する。このうち、金花山砦跡では近年に堀切などが確認されている。また、林城跡は今年度に林中原Ⅰ遺跡として発掘調査が行われ、郭内の掘立柱建物跡や堀切・土橋、また土橋を支える石垣や湧水を利用した溜池、さらに郭から離れた位置から住居跡と見られる竪穴遺構などが見つっている。この他には、横壁中村遺跡・楡木Ⅱ遺跡や本遺跡などで掘立柱建物跡や竪穴遺構などが調査されている。

近世 該期は、天明3年の浅間山噴火に伴う泥流で埋没した建物や畑跡の調査例が増加しており、小林家屋敷跡・尾坂遺跡・中棚遺跡・下原遺跡・川原湯勝沼遺跡、また吾妻溪谷を超えた町域外ではあるが東吾妻町の上郷岡原遺跡などが調査されている。このうち、尾坂遺跡や上郷岡原遺跡では、泥流で埋没した屋敷跡が見つっており、さらに今年度調査した東宮遺跡でも大型の民家跡が見つっている。特に東宮遺跡では、上屋は倒壊して判然としないが、板間などがパックされた状態で出土し、粟と見られる穀類や梅干し・馬屋の馬糞などの遺存体も良好な残存状態で出土している。また、今年度調査の上郷岡原遺跡では、泥流直下の畑跡の耕作土を除去した下面から、掘立柱の屋敷跡が見つっている。

★引用・参考文献(本文及び一覧表)

- 長野原町 1976 『長野原町誌』上・下巻
 長野原町教育委員会・高崎鉄道管理局 1979 『石畑遺跡略報』
 長野原町教育委員会 1990 『長野原町の遺跡－町内遺跡詳細分布調査報告書－』長野原町埋蔵文化財報告書第1集
 長野原町教育委員会 2000 『坪井遺跡Ⅱ』長野原町埋蔵文化財報告書第7集
 長野原町教育委員会 2002 『町内遺跡Ⅰ』長野原町埋蔵文化財報告書第9集
 長野原町教育委員会 2003 『町内遺跡Ⅱ』長野原町埋蔵文化財報告書第10集
 長野原町教育委員会 2003 『町内遺跡Ⅲ』長野原町埋蔵文化財報告書第11集
 長野原町教育委員会 2004 『町内遺跡Ⅳ』長野原町埋蔵文化財報告書第13集
 長野原町教育委員会 2004 『林宮原遺跡Ⅱ』長野原町埋蔵文化財報告書第14集
 長野原町教育委員会 2005 『小林家屋敷跡』長野原町埋蔵文化財報告書第12集
 長野原町教育委員会 2005 『町内遺跡Ⅴ』長野原町埋蔵文化財報告書第15集
 長野原町教育委員会 2005 『町内遺跡Ⅵ』長野原町埋蔵文化財報告書第16集
 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002 『長野原一本松遺跡(1)』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第1集
 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002 『ハッ場ダム発掘調査集成(1)』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第2集
 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2003 『久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第3集
 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2004 『久々戸遺跡(2)・中棚Ⅱ遺跡(2)・西ノ上遺跡・上郷A遺跡』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第4集
 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2005 『横壁中村遺跡(2)』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第5集
 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2005 『川原湯勝沼遺跡(2)』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第6集
 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006 『横壁中村遺跡(3)』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第7集
 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006 『立馬Ⅱ遺跡』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第8集
 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006 『上郷B遺跡・廣石A遺跡・二反沢遺跡』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第9集
 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006 『横壁中村遺跡(4)』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第10集
 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006 『立馬Ⅰ遺跡』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第11集
 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006 『下原遺跡Ⅱ』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第12集
 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007 『三平Ⅰ・Ⅱ遺跡』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第13集
 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007 『横壁中村遺跡(5)』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第14集
 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007 『長野原一本松遺跡(2)』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第15集
 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007 『上郷岡原遺跡(1)』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第16集
 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007 「林中原Ⅰ遺跡」現地説明会パンフレット
 群馬県教育委員会 1983 『歴史の道調査報告書・吾妻の諸街道』群馬県歴史の道調査報告書第15集
 巾陰之 1988 「石畑岩陰遺跡」『群馬県史』資料編1原始古代1
 群馬県教育委員会 1989 『群馬県の中世城館跡』

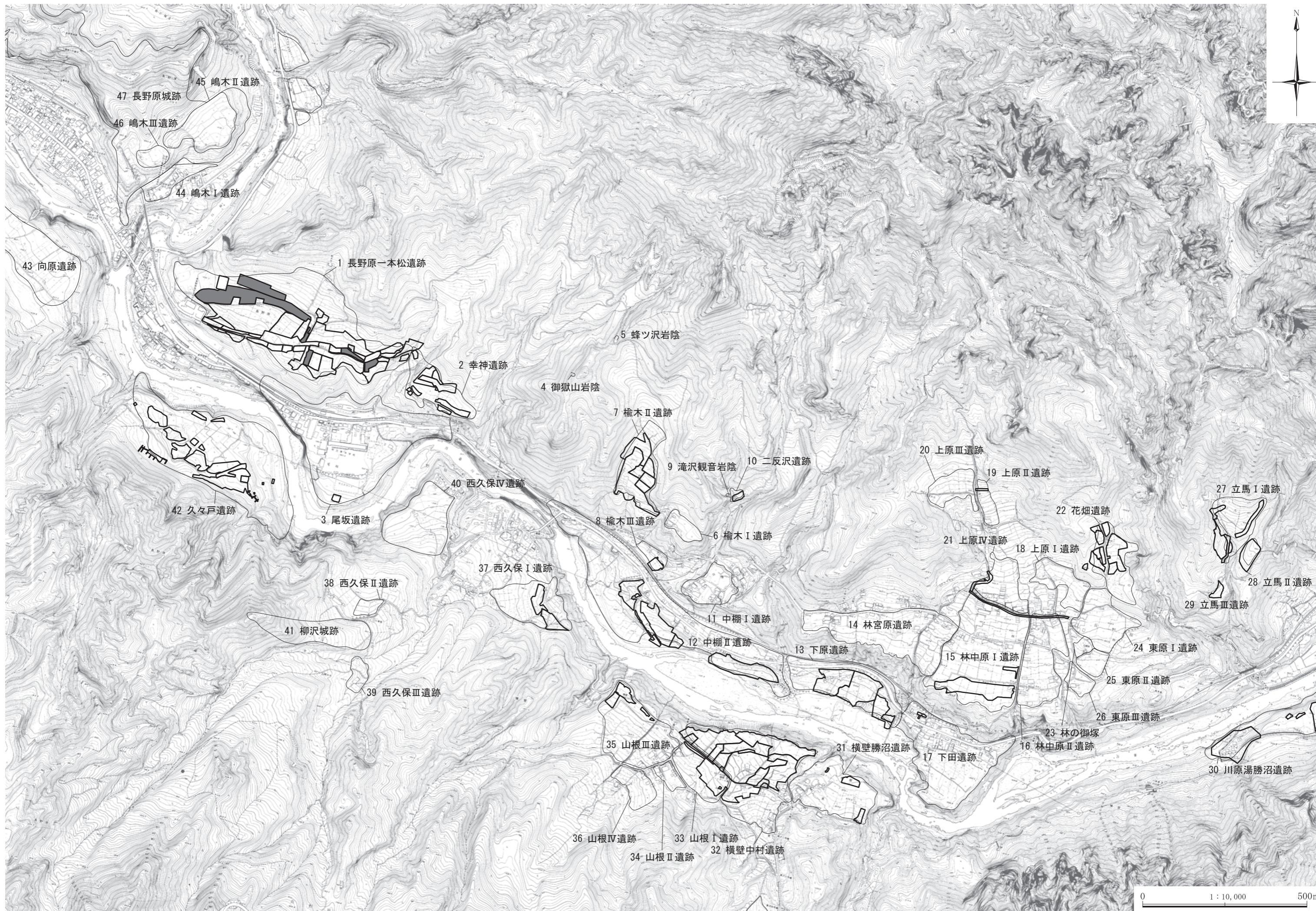
第2章 地理的及び歴史的環境

表1 周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	所在地	主な時代	概要	備考	文献・報告書等
1	長野原一本松遺跡	長野原	縄文～近世	縄文時代中期～後期にかけての集落跡、大形の掘立柱建物、敷石住居などを検出、平安時代の住居、中世の掘立柱建物や堅穴遺構・多くの土坑等を検出。	平6～17・19年度、埋文事業団調査、本書は平12・13年度調査分の報告	3・17
2	幸神遺跡	長野原	縄文	縄文時代中期の住居・土坑。陥し穴。	平8・9・17年度埋文事業団調査	
3	尾坂遺跡	長野原	近世	天明三年泥流下の畑・建物跡。	平6・7・11・18・19年度、埋文事業団調査	4
4	御嶽山岩陰	林	縄文・弥生	岩陰遺跡。		
5	峰ツ沢岩陰	林	縄文?	岩陰遺跡。打製石斧出土。		
6	楡木Ⅰ遺跡	林	縄文	散布地		
7	楡木Ⅱ遺跡	林	縄文	縄文時代早期の集落、前期、中期の住居、平安時代の住居跡	平12・13年度、埋文事業団調査	
8	楡木Ⅲ遺跡	林	縄文・弥生	縄文時代前期・後期、弥生時代の包含層。	平9年度、埋文事業団調査	4
9	滝沢観音岩陰	林	中世・近世	岩陰遺跡。「滝沢観音」の堂宇と石仏群あり。		
10	二反沢遺跡	林	中世・近世	中世の石垣を伴う造成跡、近世水路、畑跡。(旧大乘院堂跡)	平12年度、埋文事業団調査	11
11	中棚Ⅰ遺跡	林	縄文・平安	散布地		
12	中棚Ⅱ遺跡	林	近世	天明三年泥流下の畑、および安永九年と考えられる埋没畑等。	平11～13・15年度、埋文事業団調査	5・6
13	下原遺跡	林	古墳・近世	天明三年(1783)泥流下の畑、中世の畑、古墳時代の住居跡等	平12・16年度、埋文事業団調査	5・14
14	林宮原遺跡	林	古墳・平安	古墳時代の住居跡1、平安時代の住居跡6、土坑6。	平15年度、町教委調査	23
15	林中原Ⅰ遺跡	林	縄文・中世	縄文時代前期住居跡、中世城郭に伴う堀・溜池・石垣・掘立柱建物跡、中世堅穴遺構など。	平19年度、埋文事業団調査	19・20
16	林中原Ⅱ遺跡	林	縄文	縄文時代後期の敷石住居、晩期の土器片。	平15年度、町教委調査	
17	下田遺跡	林	平安・近世	散布地	平6・9年度埋文事業団調査	4
18	上原Ⅰ遺跡	林	縄文	縄文時代後期の敷石住居跡。	平15年度、町教委調査	4
19	上原Ⅱ遺跡	林	縄文	散布地		
20	上原Ⅲ遺跡	林	縄文	散布地		
21	上原Ⅳ遺跡	林	縄文・近世	縄文時代後期の敷石住居、配石遺構。	平15年度、埋文事業団調査	
22	花畑遺跡	林	縄文・平安	平安時代の住居跡、陥し穴群。	平9～12年度、埋文事業団調査	4
23	林の御塚	林	中世・近世	寛永二年(1625)に「権大僧都法印村信」の墳墓として築造されたと伝えられる。古墳の可能性も。	長野原町指定	
24	東原Ⅰ遺跡	林	縄文	縄文時代土器片、陥し穴。	平6・9年度、埋文事業団調査	
25	東原Ⅱ遺跡	林	縄文	縄文時代後期土器片、石器出土。	平10年度埋文事業団調査	
26	東原Ⅲ遺跡	林	平安・近世	散布地		
27	立馬Ⅰ遺跡	林	縄文	縄文時代早期・晩期の住居跡、弥生時代中期後半の土器棺墓。	平13・14年度、埋文事業団調査	13
28	立馬Ⅱ遺跡	林	縄文	縄文時代草創期・早期の土器・石器。中期初頭～前半の住居跡9軒、中期後半の住居跡1軒。平安時代前後の陥し穴等。	平14・15年度、埋文事業団調査	10
29	立馬Ⅲ遺跡	林	縄文	縄文時代早期住居跡?・後期敷石住居跡、陥穴など。	平成19年度、埋文事業団調査	
30	川原湯勝沼遺跡	川原湯	縄文・平安・近世	縄文時代晩期の埋設土器、古墳時代の遺物、平安時代の住居跡、天明三年泥流下の畑。	平15・16年度、埋文事業団調査	8
31	横壁勝沼遺跡	横壁	縄文	縄文時代中期～後期の土器片、槍先形土器出土。	平6・7年度、埋文事業団調査	4
32	横壁中村遺跡	横壁	縄文・弥生 平安・中世	縄文時代中期後半から後期後半を中心とする集落跡、縄文時代晩期、弥生時代の土器片、平安・中世の遺構・遺物。	平8～17年度、埋文事業団調査	5・7・9・12・16
33	山根Ⅰ遺跡	横壁	縄文・平安	散布地、磨製石斧、石鏃、石棒などの石器類出土		
34	山根Ⅱ遺跡	横壁	平安・近世	散布地。		
35	山根Ⅲ遺跡	横壁	縄文・近世	縄文時代中期後半の住居、土坑調査。	平10・13年度、埋文事業団調査	4
36	山根Ⅳ遺跡	横壁	縄文・近世	石器出土		
37	西久保Ⅰ遺跡	横壁	縄文	縄文時代後期の住居、水場を検出	平6・10・12年度、埋文事業団調査	4
38	西久保Ⅱ遺跡	横壁	平安	散布地。		
39	西久保Ⅲ遺跡	横壁	縄文	散布地。		
40	西久保Ⅳ遺跡	横壁	縄文	散布地。		
41	柳沢城跡	横壁	中世	別城一郭付随と呼ばれる特殊な構造、曲輪、堀、土居などを検出、常滑、瀬戸、美濃、珠洲焼、さらには中国陶磁などが出土。	平5年度、町教委調査	21
42	久々戸遺跡	長野原	近世	天明三年泥流下の畑、建物跡、縄文時代の土器片。	平9・10・15年度、埋文事業団調査	5・6
43	向原遺跡	長野原	縄文・弥生 平安	縄文時代中期後半～後期の住居跡3軒・敷石住居2軒、土坑群。弥生時代中期の土坑、平安時代の住居跡10軒を検出。	平5年度、町教委調査	22
44	嶋木Ⅰ遺跡	長野原	近世	天明泥流下の畑跡、近世の陶磁器片。	平16年度、町教委調査	30
45	嶋木Ⅱ遺跡	長野原	縄文・平安	縄文時代中期の土器片、石器出土。		
46	嶋木Ⅲ遺跡	長野原	縄文	縄文時代中期の石鏃、石錐等出土。		
47	長野原城跡	長野原	中世	土塁や堀切・物見台などが残る。長野原合戦の舞台となる。		

参考文献

- 1 長野原町 『長野原町誌』上巻 1976
- 2 長野原町 『長野原町の自然』1988
- 3 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002 『長野原一本松遺跡(1)』ハッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第1集
- 4 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002 『ハッ場ダム発掘調査集成(1)』ハッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第2集
- 5 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2003 『久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡』ハッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第3集
- 6 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2004 『久々戸遺跡(2)・中棚Ⅱ遺跡(2)・西ノ上遺跡・上郷A遺跡』ハッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第4集
- 7 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2005 『横壁中村遺跡(2)』ハッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第5集
- 8 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2005 『川原湯勝沼遺跡(2)』ハッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第6集
- 9 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006 『横壁中村遺跡(3)』ハッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第7集
- 10 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006 『立馬Ⅱ遺跡』ハッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第8集
- 11 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006 『上郷B遺跡・廣石A遺跡・二反沢遺跡』ハッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第9集
- 12 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006 『横壁中村遺跡(4)』ハッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第10集
- 13 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006 『立馬Ⅰ遺跡』ハッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第11集
- 14 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006 『下原遺跡Ⅱ』ハッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第12集
- 15 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007 『三平Ⅰ・Ⅱ遺跡』ハッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第13集
- 16 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007 『横壁中村遺跡(5)』ハッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第14集
- 17 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007 『長野原一本松遺跡(2)』ハッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第15集
- 18 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007 『上郷岡原遺跡(1)』ハッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第16集
- 19 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007 『林中原Ⅰ遺跡』現地説明会パンフレット
- 20 群馬県教育委員会 1989 『群馬県の中世城館跡』
- 21 長野原町教育委員会 1995 『柳沢城跡』長野原町埋蔵文化財報告書第4集
- 22 長野原町教育委員会 1996 『向原遺跡』長野原町埋蔵文化財報告書第5集
- 23 長野原町教育委員会 1998 『坪井遺跡Ⅱ発掘調査概報』
- 24 長野原町教育委員会 『林宮原遺跡Ⅱ』2004
- 25 長野原町教育委員会 2002 『町内遺跡Ⅰ』長野原町埋蔵文化財報告書第9集
- 26 長野原町教育委員会 2003 『町内遺跡Ⅱ』長野原町埋蔵文化財報告書第10集
- 27 長野原町教育委員会 2003 『町内遺跡Ⅲ』長野原町埋蔵文化財報告書第11集
- 28 長野原町教育委員会 2004 『町内遺跡Ⅳ』長野原町埋蔵文化財報告書第13集
- 29 長野原町教育委員会 2004 『林宮原遺跡Ⅱ』長野原町埋蔵文化財報告書第14集
- 30 長野原町教育委員会 2005 『町内遺跡Ⅴ』長野原町埋蔵文化財報告書第15集
- 31 長野原町教育委員会 2005 『町内遺跡Ⅵ』長野原町埋蔵文化財報告書第16集



第3図 周辺の遺跡

第3章 検出された遺構・遺物

第1節 基本層序

本遺跡は、吾妻川左岸に形成された河岸段丘の上位段丘面に立地する。この段丘は、「応桑泥流」堆積物を吾妻川が浸食して形成されたと考えられ、この堆積物が本遺跡地の基盤層となっている。本遺跡の基本層序では、この「応桑泥流」堆積物が最下層で確認され、層番ではⅩⅦ層にあたる。なお、この泥流堆積物の下位には泥流発生以前の噴火活動で降下した浅間一板鼻褐色軽石(以下As-BP)、さらに下位には始良Tn火山灰(AT)によるテフラ層が堆積している可能性が想定されている。

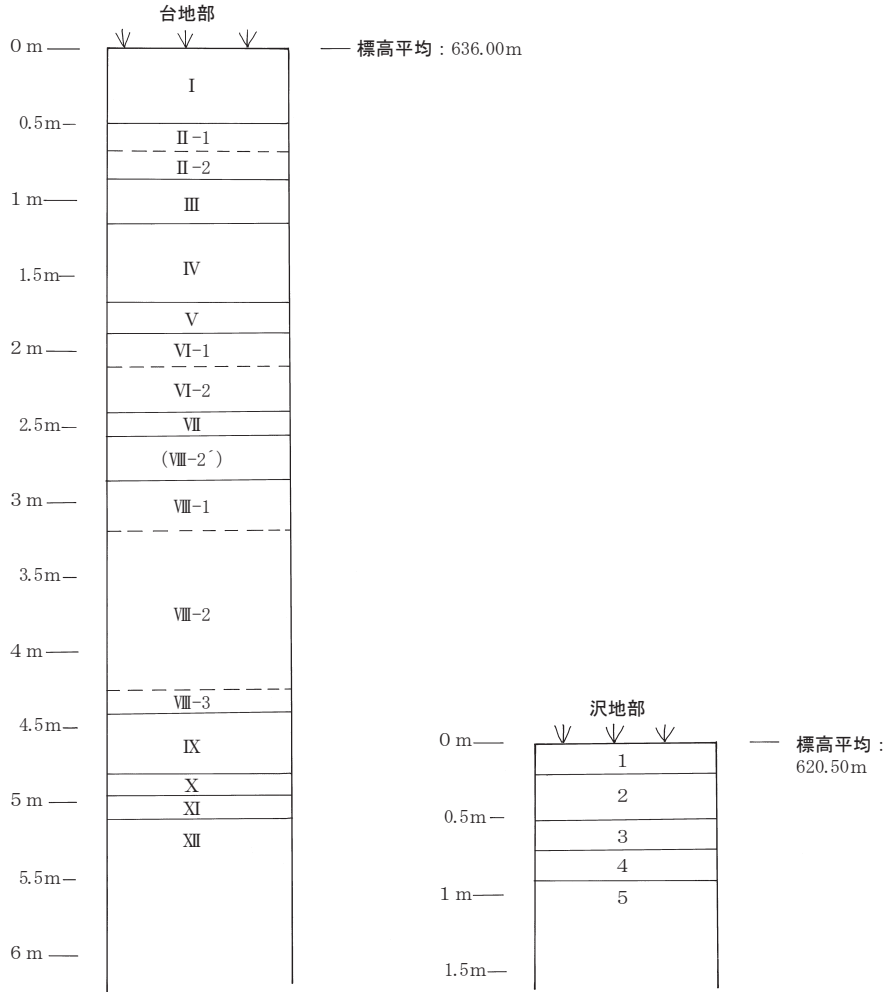
泥流堆積物より上部のローム層には、泥流発生後の噴火活動で降下したAs-BP、浅間一白糸軽石(As-SP)、浅間一板鼻黄色軽石(As-YP)、浅間一草津黄色軽石(以下As-YPk)の各テフラ層の堆積が想定される。このうち、本遺跡で明確に確認できるテフラ層はAs-YPkで、層番は同一ユニットの火山灰互層も含めてⅧ-1層からⅧ-3層にあたる。このうち、Ⅷ-2層が軽石層で約1～2mの堆積厚を測り、この上下が火山灰互層(Ⅷ-3層、Ⅷ-1層)である。Ⅷ層の上位には、Ⅶ層とⅥ層にあたる黄褐色ロームがあり、特にⅦ層は小軽石粒を基調とする砂質土である。なお、Ⅷ-1層とⅦ層との間には、Ⅷ-2層の二次堆積と推定される軽石層が部分的に認められ、現状ではⅧ-2'層としている。また、台地部のⅥ層には角礫が多く混入しており、北側の尾根状地を起源とする砂礫の崩落による堆積を示すと考えられる。

Ⅵ層の上位は、黒色土層としてローム層と区別され、現表土であるⅠ層を除いて下位からⅤ層～Ⅱ層までに分けられる。Ⅴ層は、ローム漸移層とされる暗褐色土であるが、調査では一部にⅣ層の最下層にあたる漸移的部分を包括している状況もあり、出土層位がⅤ層とされる遺物については誤認と思われる。Ⅳ層は、白色や黄色などを呈する粒径約1～5mm前後の小軽石粒を多量に混入するが、これは浅間山や草津白根山を起源とするテフラの可能性が想定されている。また、4区や5区・95区には4層の二次堆積と思われる黒褐色土がⅣ層の上位に堆積・分布しており、これについては「Ⅳ層相当」としてⅣ層に含めて扱った。Ⅲ層は、小軽石粒が僅かに見られる他は混入物を殆ど含まない黒色土で、締まりのない軟質土である。Ⅱ層は、調査当初は浅間A軽石(以下As-A、1783年)を多量に混入するⅡ-1層が単一的に確認されていたが、この下位にAs-Aを含まないシルト質土の存在が確認されたため、Ⅱ-2層として細分した。Ⅱ-2層は、上層のⅡ-1層の基調であり、本遺跡と隣接する長野原幸神遺跡の調査で浅間一粕川テフラ(以下As-Kk、1128年)を含む可能性が示唆されている。Ⅱ-1層の上位は現表土にあたる畑の耕作土であるが、調査区によっては現表土下がⅤ～Ⅵ層面、さらにはⅧ-1～2層面となる区域がある。

以上の基本層序において、遺構確認の最上位となり得る面はⅡ-2層下・Ⅲ層上面からである。本遺跡では、Ⅱ-1層～Ⅲ層を基調とする中・近世から平安時代までの遺構が確認可能であるが、Ⅳ層面まで下げた段階で確認できたものもある。また、縄文時代の遺構はⅣ層面での遺構確認が可能と思われるが、実質的にはⅣ層と覆土の色調が類似するため遺構確認が困難であった。このため、Ⅳ層面でプランが確認されながらも、遺構の全容が確認できるのは、Ⅴ層面まで下げた時点になることが殆どであった。

また、15～19区の状況については、現表土にあたる腐植土の下位にⅣ層相当の黒褐色土が堆積し、以下は柱状図のとおりである。

第3章 検出された遺構・遺物



第4図 基本層序

基本層序

I層	現表土	As-Aを混入する耕作土。
II-1層	暗褐色土	色調やや茶色がかかる。As-Aを多量混入し、I層に類似するが締まり強い。
II-2層	黒褐色土	色調やや灰色がかかる。シルト質土をブロック状に混入するが、他の混入物を殆ど含まない。土壤粒子が細かく、サラサラする。
III層	黒色土	白色や黄色などの小軽石粒を微量混入する他は、全体的に混入物を殆ど含まない。締まりなく軟質。
IV層	黒褐色土	白色や黄色などを呈する粒径約1～5mm前後の小軽石粒やローム粒を多量混入する。層の上・下位で混入物の量に差が看取される部分がある。
V層	暗褐色土	いわゆるローム漸移層。軽石粒を微～少量混入する。(一部にIV層との漸移的な層も含む。)
VI層	黄褐色ローム	(VI-1層)：ソフトローム (VI-2層)：ハードローム
VII層	黄褐色砂質土	粒径約1～3mm前後の小軽石粒による砂質土。硬化しており、ブロック状の堆積部分も看取される。
(VIII-2'層)	As-YPk軽石の二次堆積層。	台地部の特定範囲で確認される。
VIII層	As-YPk	
	(VIII-1層)	赤褐色・黄橙色・灰白色などの火山灰に分けられる。軽石に伴うもので、硬化しているアッシュ。
	(VIII-2層)	浅間-草津黄色軽石層。風化などにより、色調が白色がかかる部分がある。粒径は概ね約10～50mm前後の幅が看取される。
	(VIII-3層)	橙色・赤褐色・灰色などの火山灰に分けられる。軽石に伴うアッシュ。
IX層	黄褐色ローム	X層に類似するが、軽石の量が少ない。
X層	黄褐色ローム	ロームを主体に、軽石粒を多量混入する。
XI層	黄褐色ローム	色調がやや白色がかかる。As-BPと思われる軽石と小角礫を少量混入する。
XII層	「応桑泥流堆積物」	赤色・青色スコリアを多量混入する。
沢地部		
1層	暗褐色土	色調がやや茶色がかかる。現表土。
2層	黒色土	礫を少～多量混入する。土質は、台地部のIII層に類似する。
3層	黒褐色土	植物質の遺存体を多量混入する泥炭質土で、少量の湧水がある。
4層	礫層	小角礫を主体とする淡褐色土との混土層。淡褐色土は変質したロームで、台地部のVI層相当と思われる。
5層	砂礫層	砂礫を主体とする黒褐色土との混土層で、湧水がある。

第2節 調査遺構・遺物の概要

本遺跡の発掘調査は、平成6年度から継続的に行われ、今年度も調査が行われている。これまでに検出された遺構や遺物は、縄文時代のものが主体で、これに弥生時代、古墳時代、平安時代、中・近世のものが複合・混在する状況である。また、現在までに旧石器時代、奈良時代の遺構・遺物は確認されていない。こうした本遺跡の遺構・遺物について、今回報告する平成12・13年度の調査成果分について概要をまとめる。

旧石器時代 各調査区において、2×4m四方を基準とする試掘調査を随時実施したが、該期の遺物は確認されていない。本遺跡では、As-YPkが約1～2mの厚さで堆積しているため、安全対策や掘削方法などの問題から、この上位のローム層が主たる調査対象となり、この下位層における明確な調査は困難な状況であった。また、基盤層である応桑泥流堆積物は、As-BPを伴う一連の噴火活動が起源と推測され、今後As-YPk下や、さらには応桑泥流堆積物下の調査が可能となれば、該期の様相がさらに具体的になると思われる。

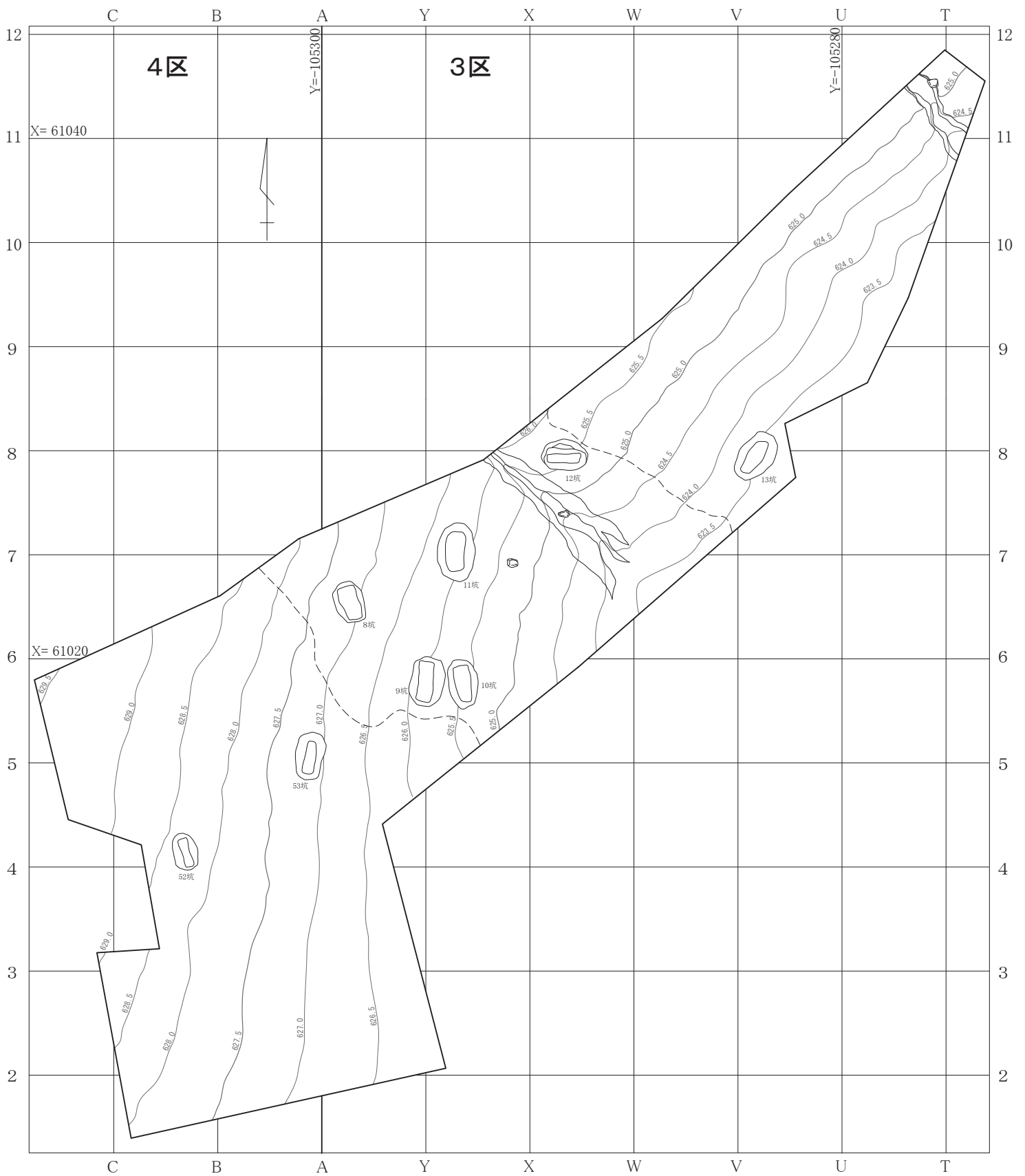
縄文時代（遺構） 該期の遺構は、住居跡20軒・炉跡1基・埋設土器4基・土坑152基・ピット40基・集石7基などが確認された。住居跡は、15～19区を除く各区で確認され、内訳では4区6軒・5区8軒・6区5軒・95区1軒である。時期は、中期後葉から後期前葉までと考えられ、後期前葉の住居跡には柄鏡形の敷石住居跡と考えられるものが存在する。なお、6-10号住居跡は、調査区壁際で西半部のみが検出された状況であり、残る東半部は平成15年度に調査されているもので、張出部に敷石を伴う柄鏡形の住居跡と考えられる。また、平成12年度の発掘調査において「95-2号住居跡」が付番され、北半部のみが調査されていた。しかし、焼土と遺物が分布するのみで、明確な炉跡やピットなど住居跡の属性を示す施設は確認されなかった。さらに、平成16年度に残る南半部を調査した結果、炉跡やピットなどが確認されず住居跡と認定するのに難しい状況となり、整理時点の判断で住居跡とはせず欠番とした。なお、「95-2号住居跡」として発掘調査時に取り上げた遺物については、遺構外遺物に置き換えて報告している。

炉跡や埋設土器は、単独の遺構と判断したものであるが、5-7号埋設土器は過年度に調査した住居跡に伴う可能性がある。また6-1号集石は、遺構名は「集石」であるが整理段階で炉跡と判断したため、単独の炉跡として報告する。

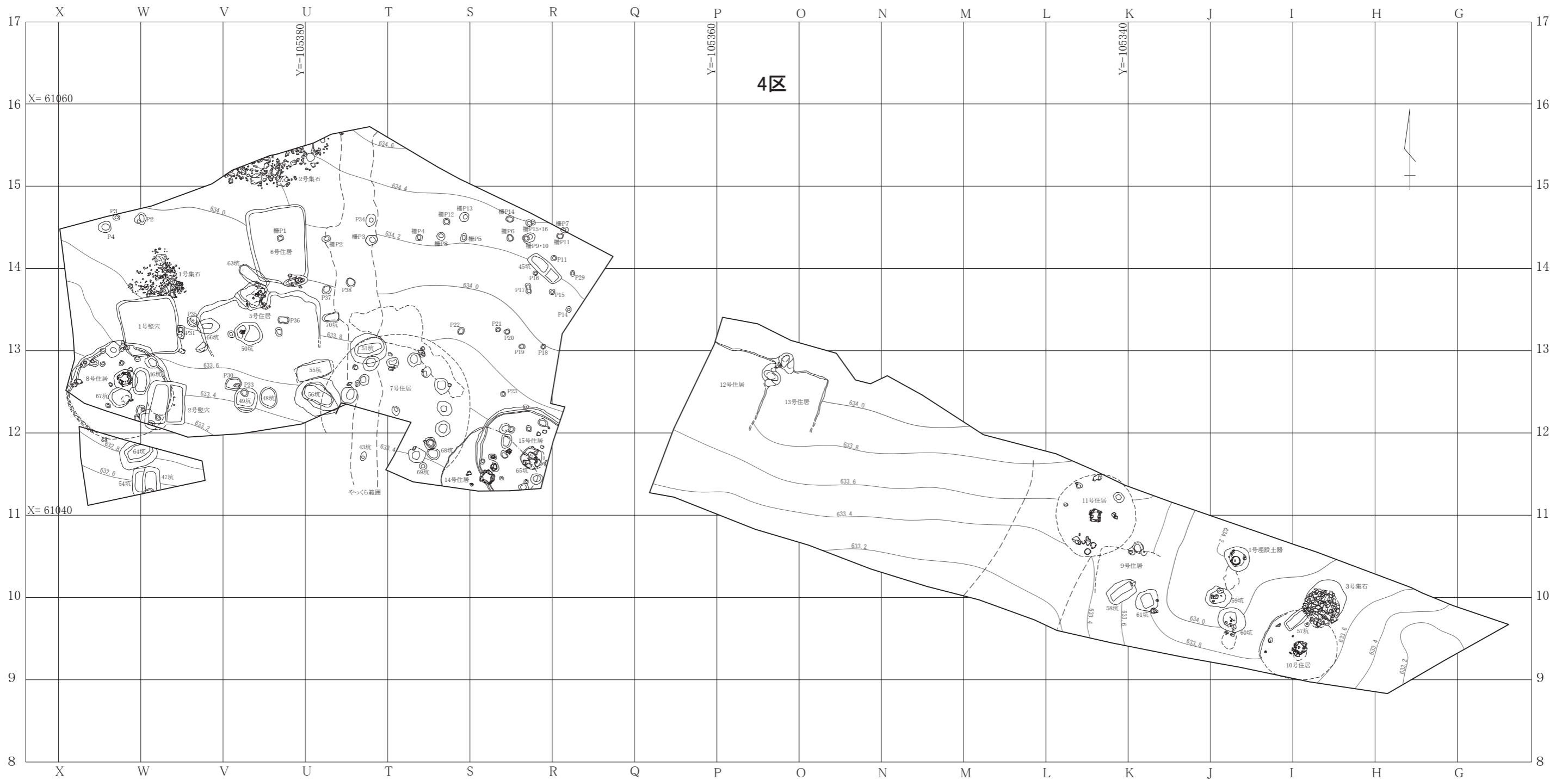
土坑・ピットは、5区台地上から6区の台地縁辺に集中し、4区にもまとまる状況が認められる。このうち、特に5区の調査区の北東側に集中して分布する状況である。推測された土坑の種別としては、土壇・柱穴・貯蔵穴などがあるが、確定的なものは少ない状況である。さらに、時期を推定できる資料に乏しいものが多数を占めるが、重複や形状・覆土の状況や出土遺物の様相などから縄文時代と判断している。

集石は4区と6区で確認され、ブロック状に礫が集中しており、特に4区では礫の分布範囲に焼土を伴う集石が看取された。

（遺物：土器） 平成12・13年度の調査で出土した縄文時代の遺物は、土器・石器を合わせた遺物収納箱数で約100箱ほどを数える。土器は、胴部破片など全ての破片を含めた総点数で約33,446点余りを数え、このうち遺構から出土した土器の総点数は約6,752点で、内訳は住居跡が約5,509点、炉跡・埋設土器が約29点、土坑・ピットが約1,176点・集石が約38点などである。各遺構ごとの内訳は、個々の記載や一覧表に示してあるので、そちらを参照されたい。また、残る約26,694点余りの土器は、縄文時代以外の遺構や、グリッド・包含層など、遺構外からの出土である。土器の時期としては、早期～後期までのものが認められるが、主体は中期後葉～後期前葉であり、次いで後期中葉があり、早期・前期は僅かに認められる程度であり、

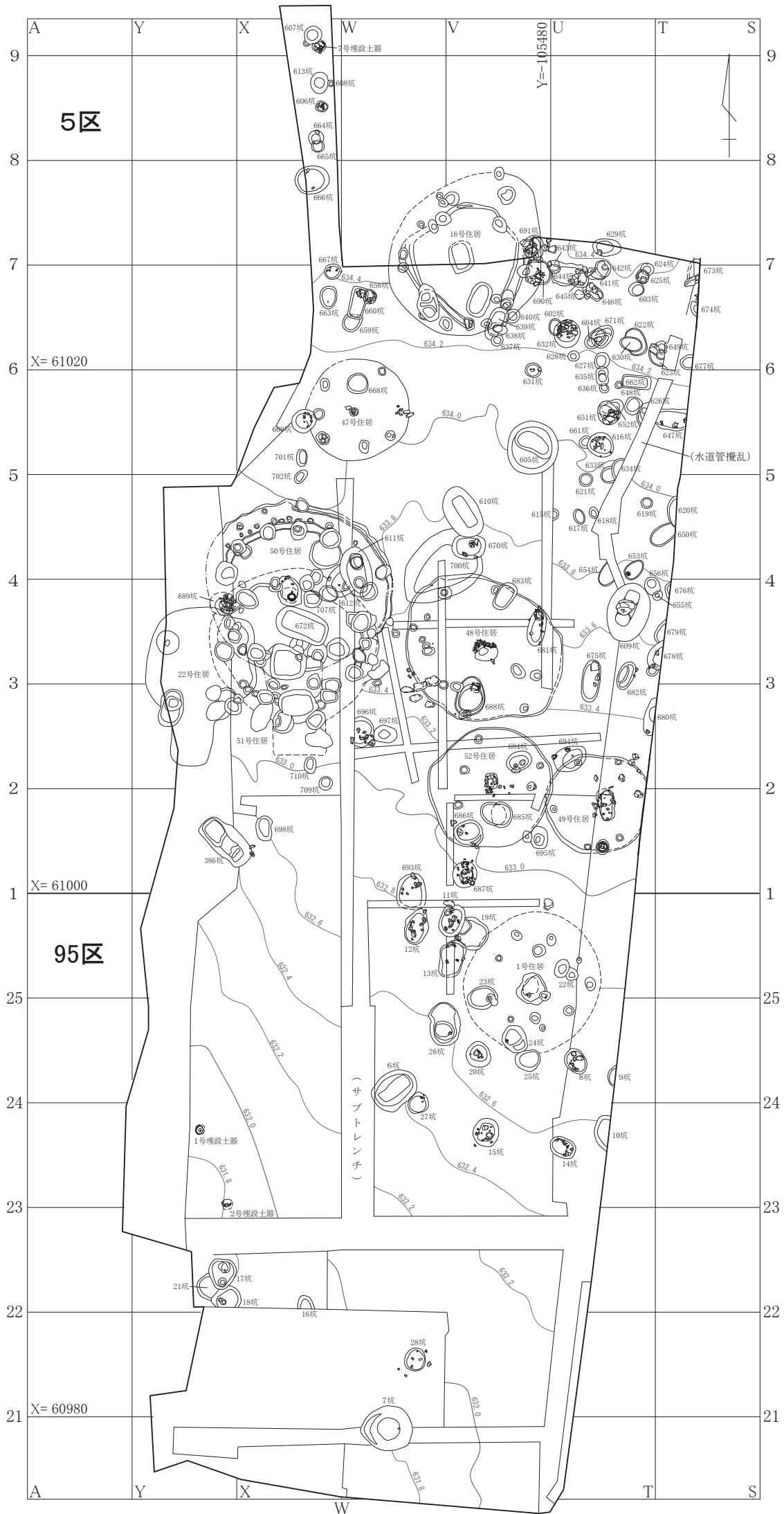


第5図 3区・4区全体図

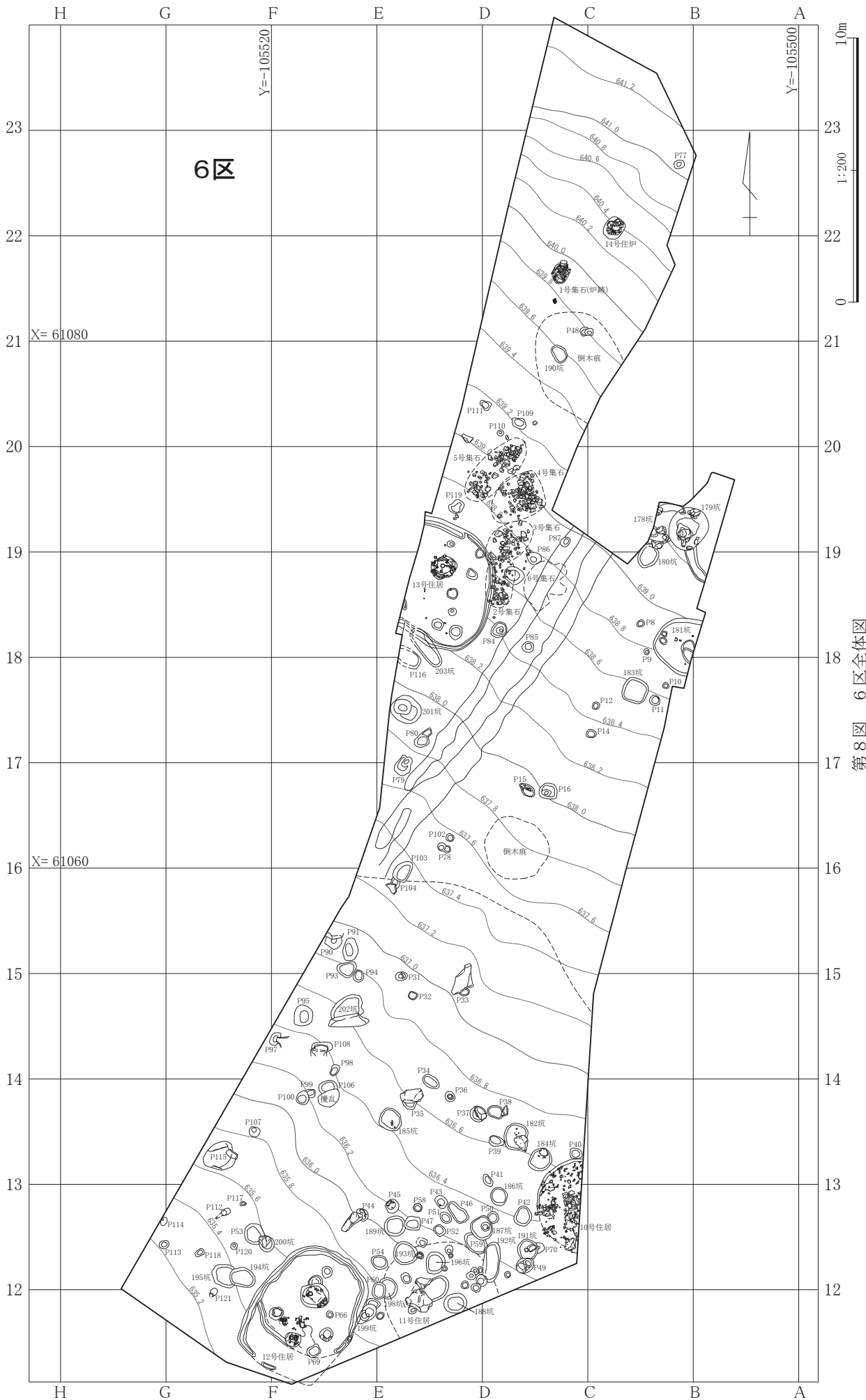


第6図 4区全体図

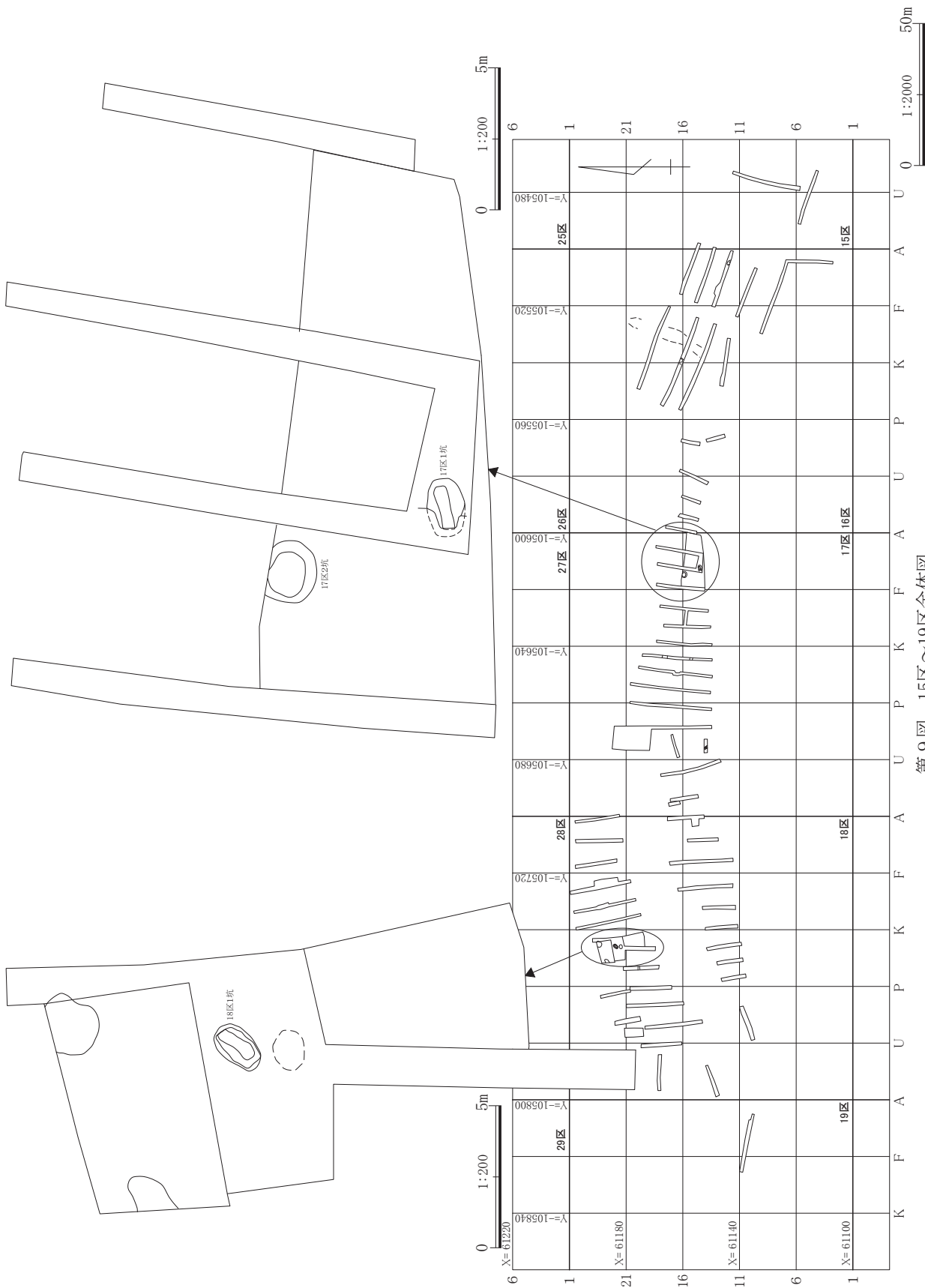




第7図 5区・95区全体図



第8图 6区全体图



第9図 15区～19区全体図

第3章 検出された遺構・遺物

明確に晩期と確認できる資料は見られなかった。また、出土状況的には遺構出土が約20%、遺構外出土が約80%を占め、後者が圧倒的な状況である。遺構外から出土した土器のうち、グリッド・包含層として取り上げた土器の中には、住居跡などに伴う可能性のものが含まれていると思われるが、詳細な判別はできなかった。

(遺物：石器) 石器は、石鏃・石錐・石匙・スクレイパー・打製石斧・磨製石斧・石核・磨石・凹石・多孔石・石皿、石棒・垂飾、石製品などの製品が708点、剥片類が276点、黒曜石のチップ類が約1,269点出土し、この総点数は2,253点を数えるが、不明確なものを含む。このうち、遺構から出土した石器の総点数は、剥片・チップ類を含め約554点を数え、内訳は住居跡が約487点、炉跡・埋設土器が1点、土坑・ピットが約65点・集石が1点などである。残る約1,699点の石器は縄文時代以外の遺構や、グリッド・包含層など、遺構外からの出土である。特に黒曜石のチップ類に関しては、遺構出土が248点・遺構外出土が1,021点の内訳で、さらに総重量は1,239.8gを測る。なお、本文中では、剥片・チップ類などを含めて「石器類」という用語を使用しており、「土坑・ピット一覧表」の遺物数に示した「石器」は石器類の意味である。

弥生時代 弥生時代の遺構は、17区において1基確認されており、土坑や土坑の周辺から該期と見られる土器が出土したことによる。また、縄文土器とした破片の中には、条痕文や酸化焰焼成で丁寧な磨きを施す破片などが看取され、晩期から弥生時代の可能性のものが含まれており、検討を要する。また、縄文時代とした打製石斧の中には、破片も含め比較的大型のものが認められ、石鏃の可能性を含むものもある。

古墳時代 古墳時代の遺構は確認されていないが、6区の遺構外から該期と見られる埴の口縁部片が2点出土した。時期は、小破片ながら中期末～後期と推定される。

奈良・平安時代 4区で平安時代の住居跡が5軒確認された。谷頭に面する傾斜面に立地するためか、谷側にあたる南半部が確認されず、北半部を確認する状況のものが4軒あり、外形の全体を確認できたものは1軒のみである。いずれの住居跡もカマドを伴い、北カマドが3軒・東カマドが2軒である。住居跡からの出土遺物は、灰釉陶器の埴・土師器の甑と見られる底部片・角釘と見られる鉄製品・砥石などがあり、さらに15世紀後葉と考えられる古瀬戸の破片も1点出土している。古瀬戸の破片については混入品と考えられ、厳密には中世の遺構外遺物として扱うべきものと考えられるが、特徴的な遺物であるため住居跡に含めて報告している。

また、土坑が24基・ピットが13基確認された。土坑・ピットについては、覆土観察からAs-Kkを混入する基本層序Ⅱ-2層を基調とするものを平安時代以降として平安時代の項にまとめた。これには、今回の調査分で報告する陥穴の全てが含まれる形となり、中には縄文時代後期の敷石住居跡を切る陥穴も確認されている。

遺構外出土の遺物には、須恵器・土師器の破片があり、特に埴の底部による転用硯が1点出土している。

中・近世 該期の遺構は、竪穴遺構2基・土坑5基・集石1基・柵列1基・ピット44基などの他、やっくらや轍と見られる溝状遺構などが確認されている。このうち、柵列については平成15年度の本遺跡の調査で確認された掘立柱建物跡に関連する可能性が想定される。また、遺物は全て遺構外からで、陶磁器片やキセル・鉄製品・古銭・泥人形などがあり、鉄製品は笠形の火打金、古銭は寛永通宝が1点と「開元通宝」の可能性のある渡来銭と見られる破片が1点である。

以上の他に、自然流路と考えられる溝や倒木痕なども確認されている。

第3節 縄文時代

1 住居跡

4-7号住居跡 (第10~14図、PL4・49)

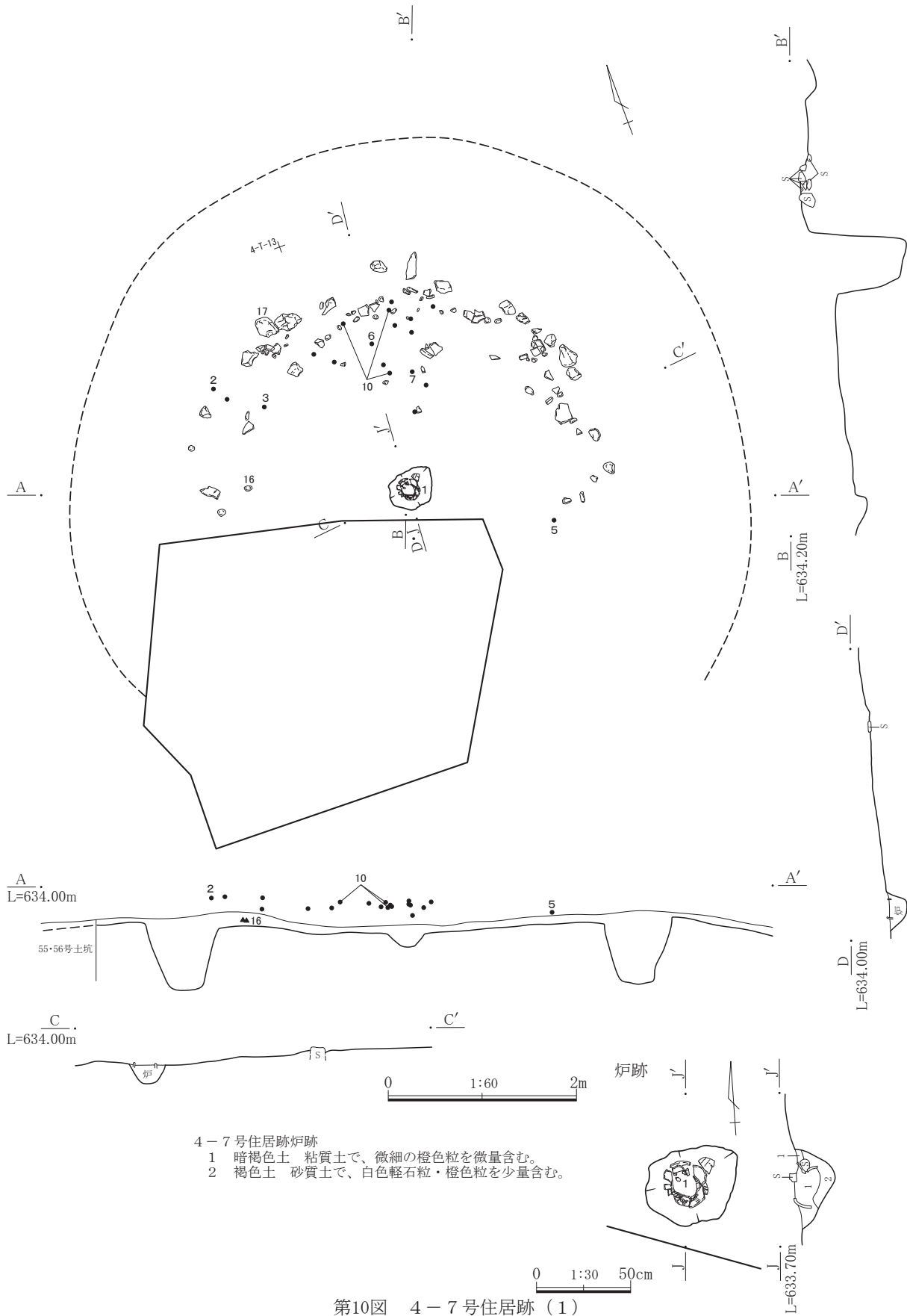
位置 4S・T-12グリッドに位置し、南の谷頭に面する緩傾斜地に立地する。**確認面** IV層相当面で敷石の一部を確認したため、床面～掘り方相当面が確認面にあたり、残存状況が悪い。**重複** 4-51号・55号・56号土坑が重複する位置にあり、4-51号土坑は本住居跡のピットである4-62号土坑を切る関係で新しい。また、4-55号・56号土坑も平安時代の陥穴で新しいと考えられる。また、南東に4-68号・69号土坑が近接し、また南西に過年度調査の4-43号土坑があり、これらは本住居跡に伴うピットの可能性がある。**覆土** 確認面が床面～掘り方相当面にあたるため、明確な覆土は確認できなかった。**形状** 残存した敷石の一部やピット配置から、平面は楕円形を呈すると推定される。**規模** 長軸(ピット6・9間)(562)cm×短軸(炉跡・ピット7間)(316)cmを測る。**方位** 長軸でN-70°-Wを測る。**壁高** 確認されていない。**床面** 板状礫や中・小型の円礫が弧状に列をなす敷石の一部が残存し、床面と考えられる。しかし、敷石はピット配置の内縁に沿って列状に確認されたのみで、全体的には残存状況が悪く判然としない。**周溝** 確認されていない。**柱穴** 敷石確認面を精査時に3基(ピット1~3)、掘り方調査時に11基(ピット4~14)のピットを確認した。また、4-62号土坑は本住居跡のピットと考えられる。このうち、ピット1~3は自然の凹み等で欠番としており、実質12基が確認されたことになる。この12基は、敷石の外縁側に沿ってほぼ等間隔で円形に配置され、ピット6、4-62号土坑、ピット7・8・9・10を主として、これらにピット5・14・13・12・11が挟まるような配列である。またピット4は小規模で、柱穴になるかは不確定である。**炉** 住居跡の中央からやや南寄りと思われる位置で埋設土器が確認され、覆土に焼土粒が看取されたことから、土器埋設炉と判断した。土器は、口縁～胴部上半の深鉢が正位に埋設されていたが、やや北に傾いており、南側の口縁部は欠損していた。規模は、掘り方で長径53cm×短径39cm×深さ30cmを測る。**埋設土器** 確認されていない。**掘り方** 敷石を除去し、掘り方調査で下部をV層面まで下げた時点でピット等のプランを確認したが、掘り方に関する掘り込みや明確な土層は確認できず、判然としない。**出土遺物** 土器類77点、石器類6点が出土した。遺物は、床面～掘り方相当面からの出土と捉えられ、これらのうち炉跡の埋設土器が本住居跡の構築時期を示す遺物である。**所見** 床面に敷石を伴う住居跡で、出土遺物から時期は縄文時代後期前葉と考えられる。

ピット規模(長径×短径×深さ・cm)【ピット1~3は、自然の凹みにより欠番】

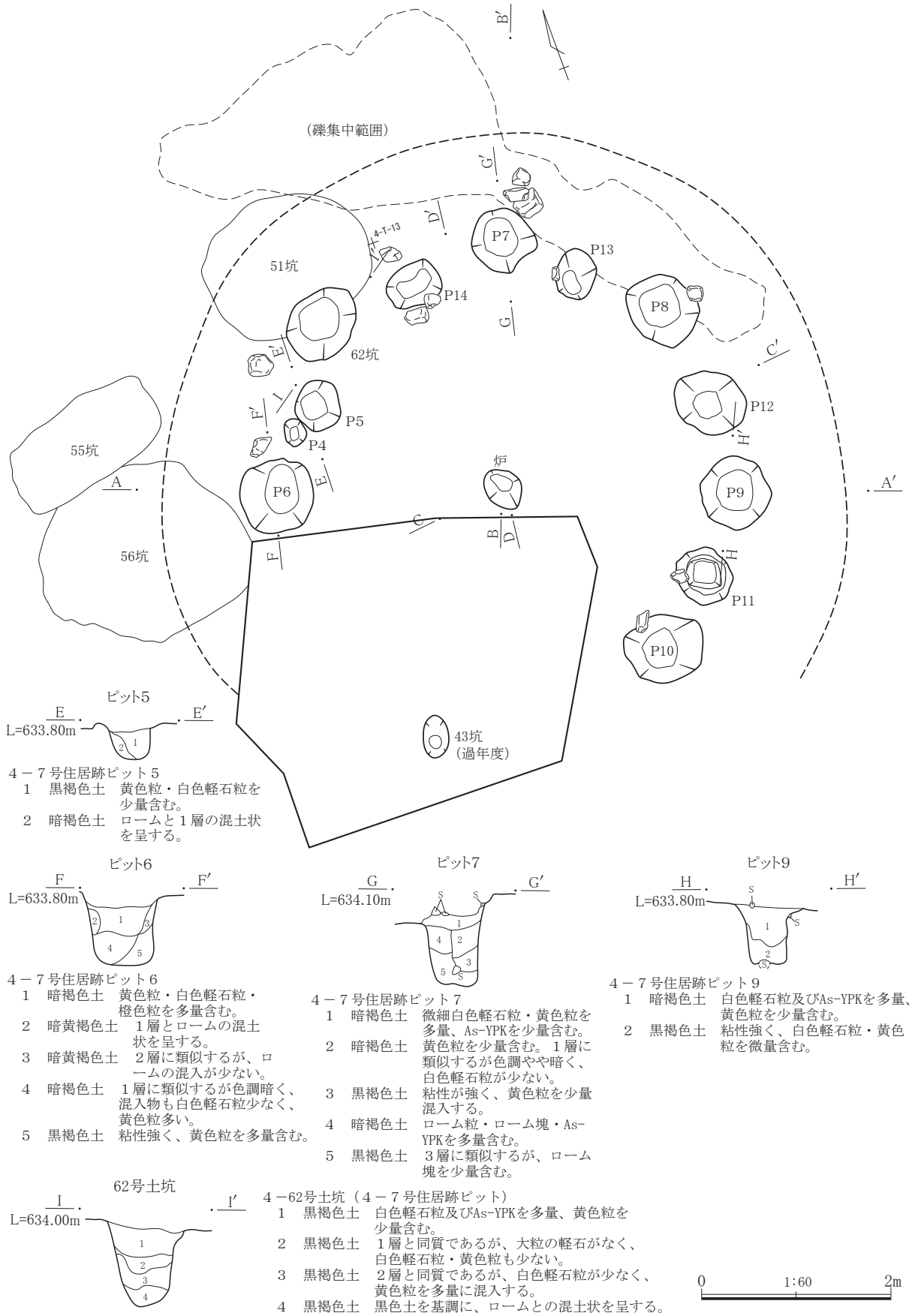
P4	28×22×20	P5	52×47×30	P6	77×74×73	P7	69×68×83	P8	78×71×79
P9	76×70×60	P10	84×72×39	P11	59×54×28	P12	79×64×31	P13	54×45×44
P14	58×43×44	62坑	84×66×80						

4-8号住居跡 (第15~19図、PL5・49~51)

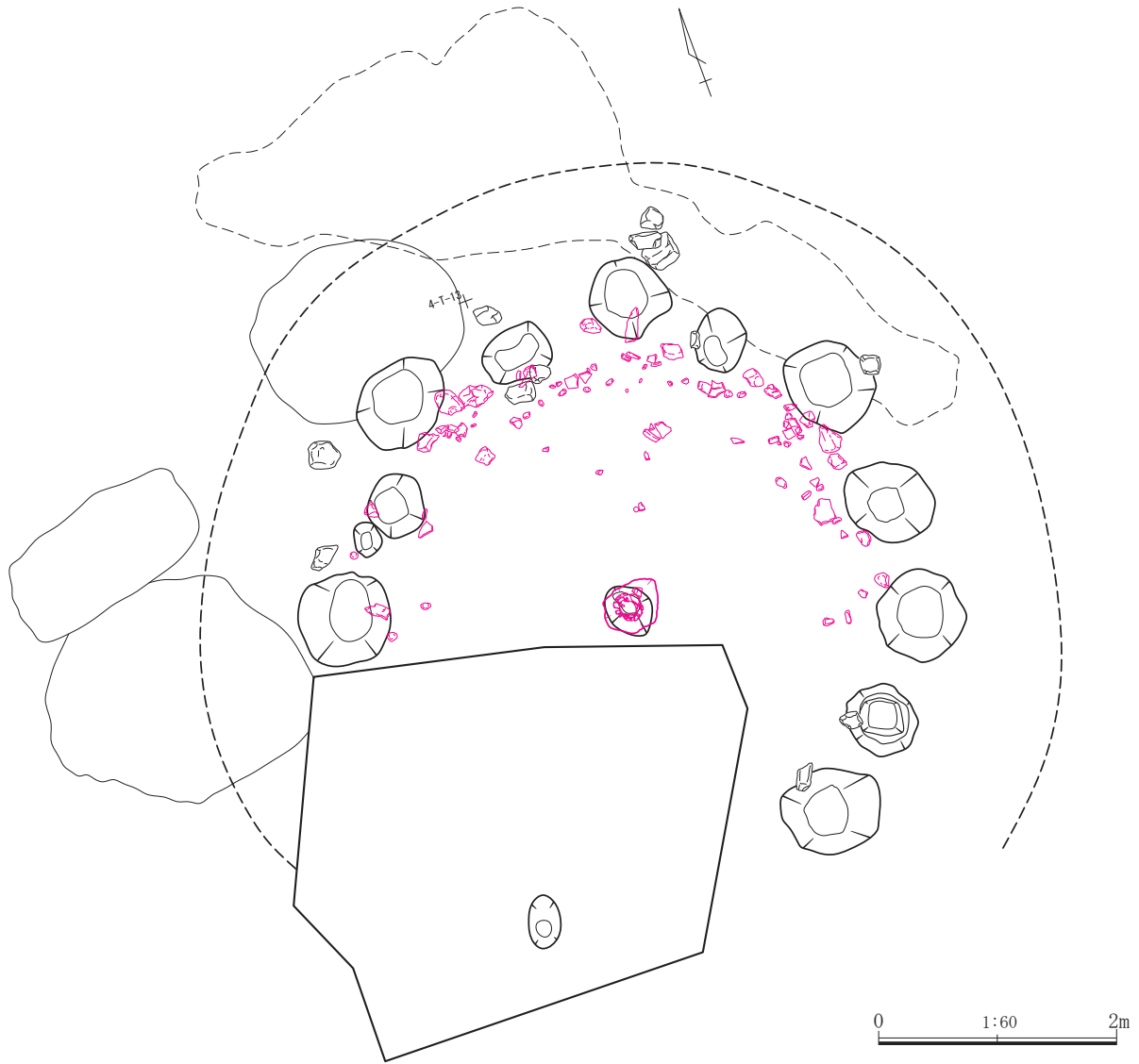
位置 4V・W-12・13グリッドに位置し、南の谷頭に面する緩傾斜地に立地する。**確認面** IV層相当面で確認された形であるが、平面での確認は難しく、実際は重複する4-2号竪穴の壁面において本住居跡の掘り込みを確認した状況であった。また、住居跡の南西部は水道管敷設による攪乱で切られている。**重複** 中・近世と考えられる4-1号・2号竪穴と、平安時代と考えられる4-46号土坑は新しい。また床面で確認された状況の4-67号土坑については、炉跡に関連させて後述する。**覆土** 暗褐色土を基調に4層に分層され、II-2層を基調とするピット・土坑状の攪乱層(1・2層)も看取された。**形状** 平面は、楕円



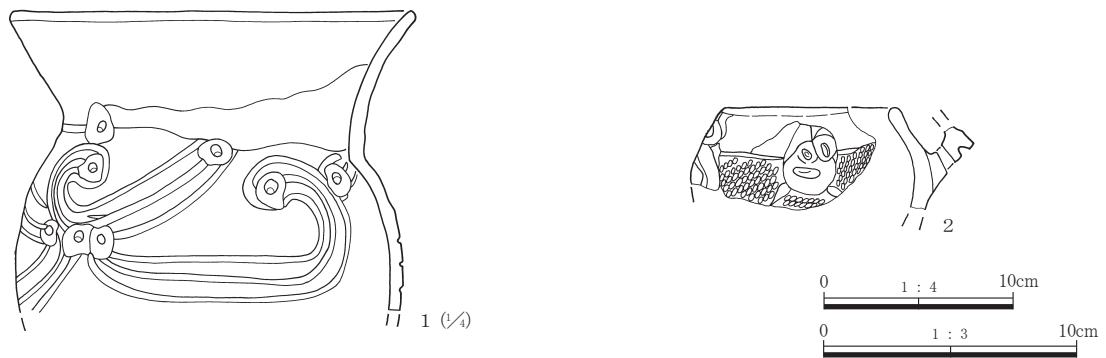
第10図 4-7号住居跡(1)



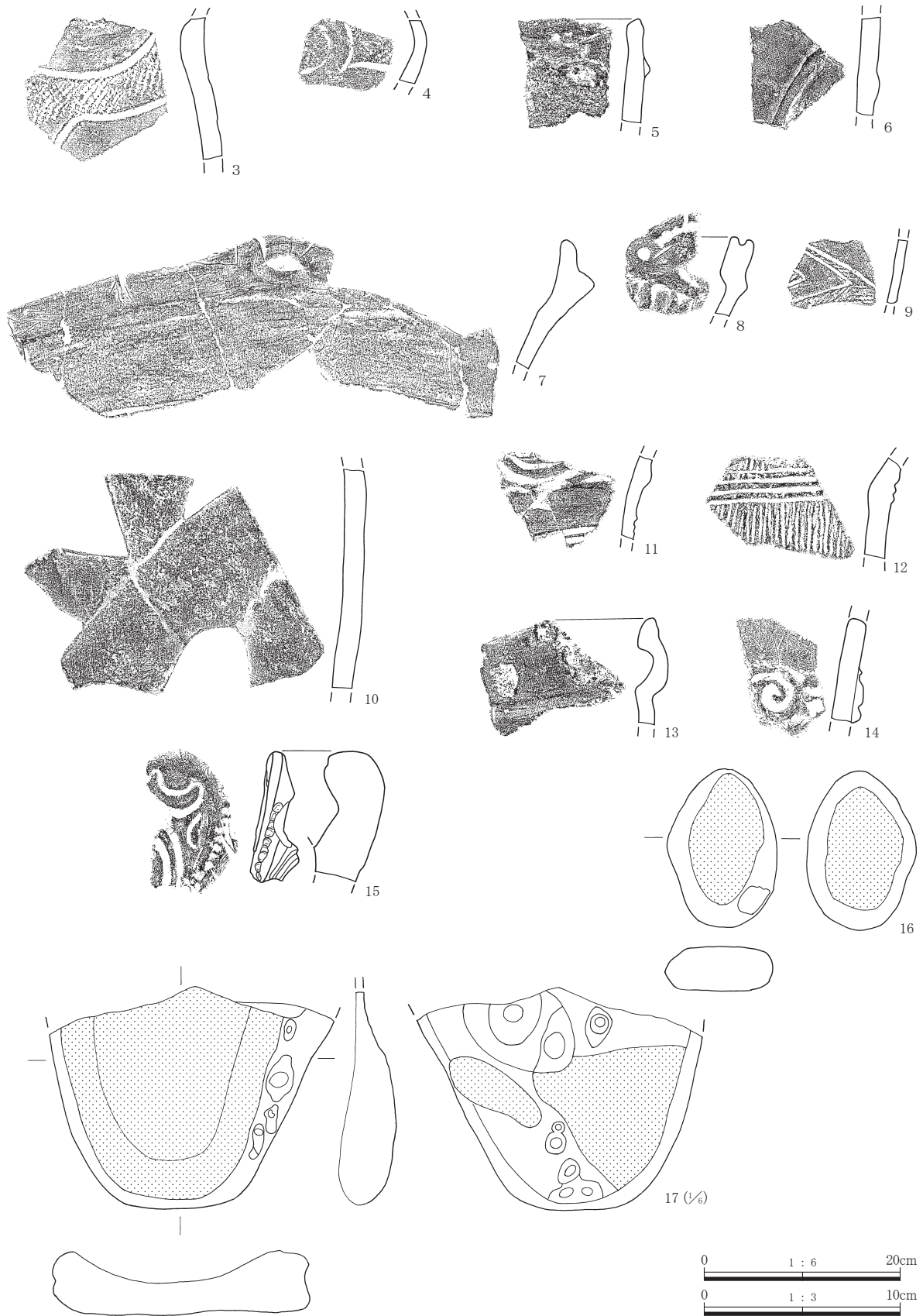
第11図 4-7号住居跡(2)



第12図 4-7号住居跡(3)



第13図 4-7号住居跡出土遺物(1)



第14図 4-7号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構・遺物

形を呈すると推定される。**規模** 長軸(500)cm×短軸(347)cmを測る。**方位** 長軸でN-88°-Wを測る。**壁高** 最大で54cmを測り、やや傾斜する立ち上がりである。**床面** 平坦で、全体的に硬化しており、構築土を充填する貼床の部分と地山を削りだして床面を構成する部分とに分けられる。**周溝** 北側壁の一部を除いて全周すると思われ、規模は最大で上幅20cm×下幅13cm×深さ7cmを測る。**柱穴** ピットが14基確認された。このうち、ピット1・7は壁際に位置し、他と比べて規模も大きいことから支柱穴と考えられ、重複で切られているがピット11も同様と思われる。また、ピット8は壁に刺さるように斜めに掘り込まれており、杭状の施設と考えられる。**炉** 住居跡の中央からやや北寄りに位置し、扁平な角礫を主体とする五角形状の石囲炉である。楕円形の掘り方内に礫が据えられており、掘り方の南側が4-67号土坑と重複する。67号土坑との新旧は判然としないが、土坑底面に灰の分布が確認され、炉跡や住居跡に関連する土坑の可能性はある。炉跡掘り方の底面で焼土(9層)が確認され、火床面と考えられるが、南側の石囲にあたる炉石の下位まで焼土が分布しており、この点で南側の炉石は火床面上に崩落したものと考えられる。規模は、掘り方で長径116cm×短径(105)cm×深さ35cmを測る。**埋設土器** 確認されていない。**掘り方** 床面北東側と南西側は地山を削りだして床面を構築しており、この間にあたる北西側～南東側にかけては、構築土を充填して床面を構成する部分が帯状に展開する。構築土はロームを主とする暗褐色土との混土で、北西側の掘り方底面は平坦で、南東側は傾斜しており、床面からの厚さは最大で15cmを測る。**出土遺物** 土器類796点、石器類69点が出土した。遺物は、覆土中からの出土が主体で、北側中央付近にまとまる状況があり、住居跡廃絶後に北側から廃棄された土器群と考えられる。また、石器類のうち50点は、黒曜石のチップである。**所見** 出土遺物の様相から、時期は縄文時代中期後葉と考えられる。

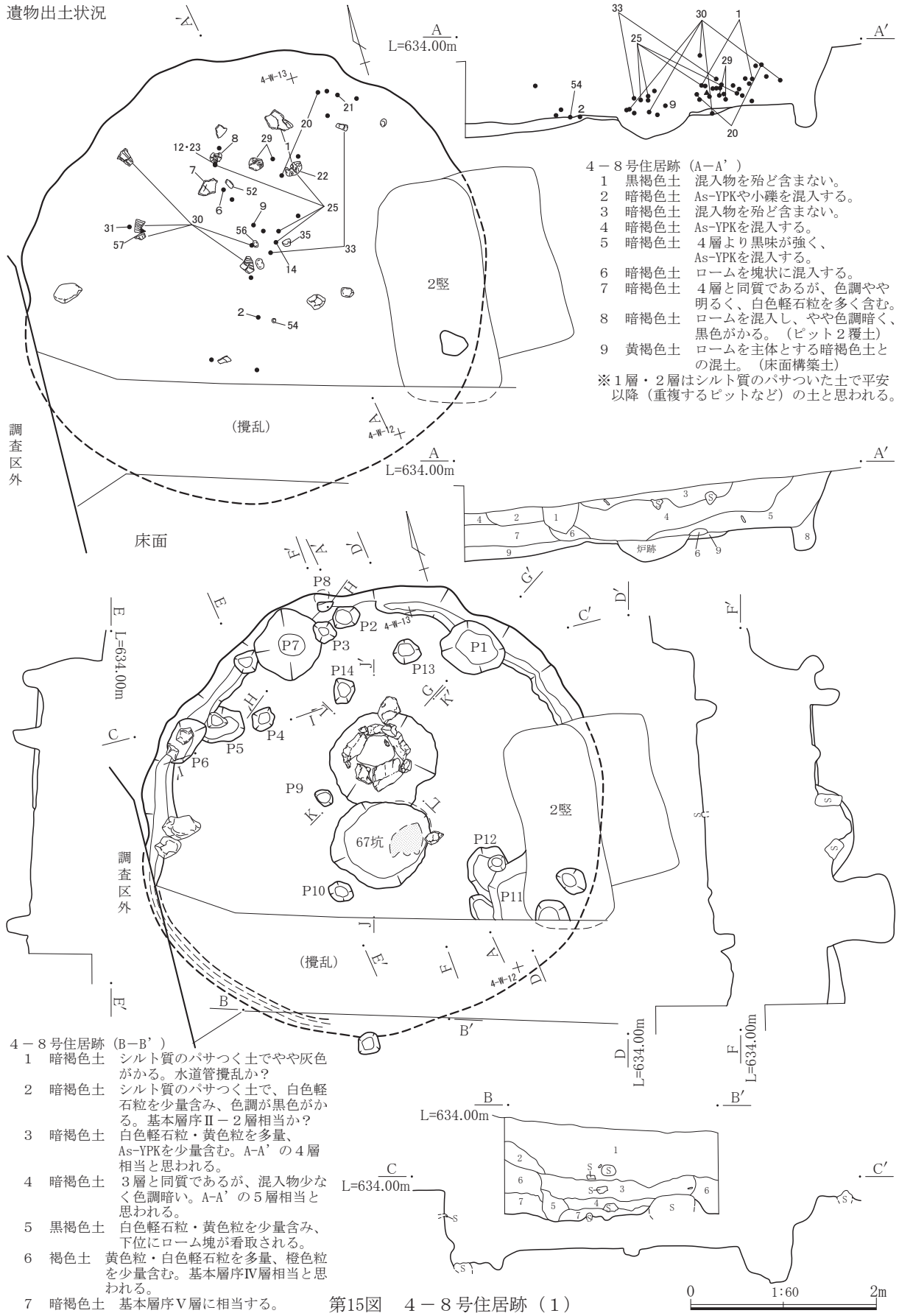
ピット規模(長径×短径×深さ・cm)

P 1	71×56×41	P 2	28×23×28	P 3	24×21×28	P 4	28×23×26	P 5	(41)×38×11
P 6	50×29×24	P 7	79×(65)×23	P 8	19×9×16	P 9	22×17×9	P 10	28×21×26
P 11	(69)×(36)×29	P 12	(59)×44×11	P 13	30×26×22	P 14	26×23×8		

4-10号住居跡(第20・21図、PL 6・51)

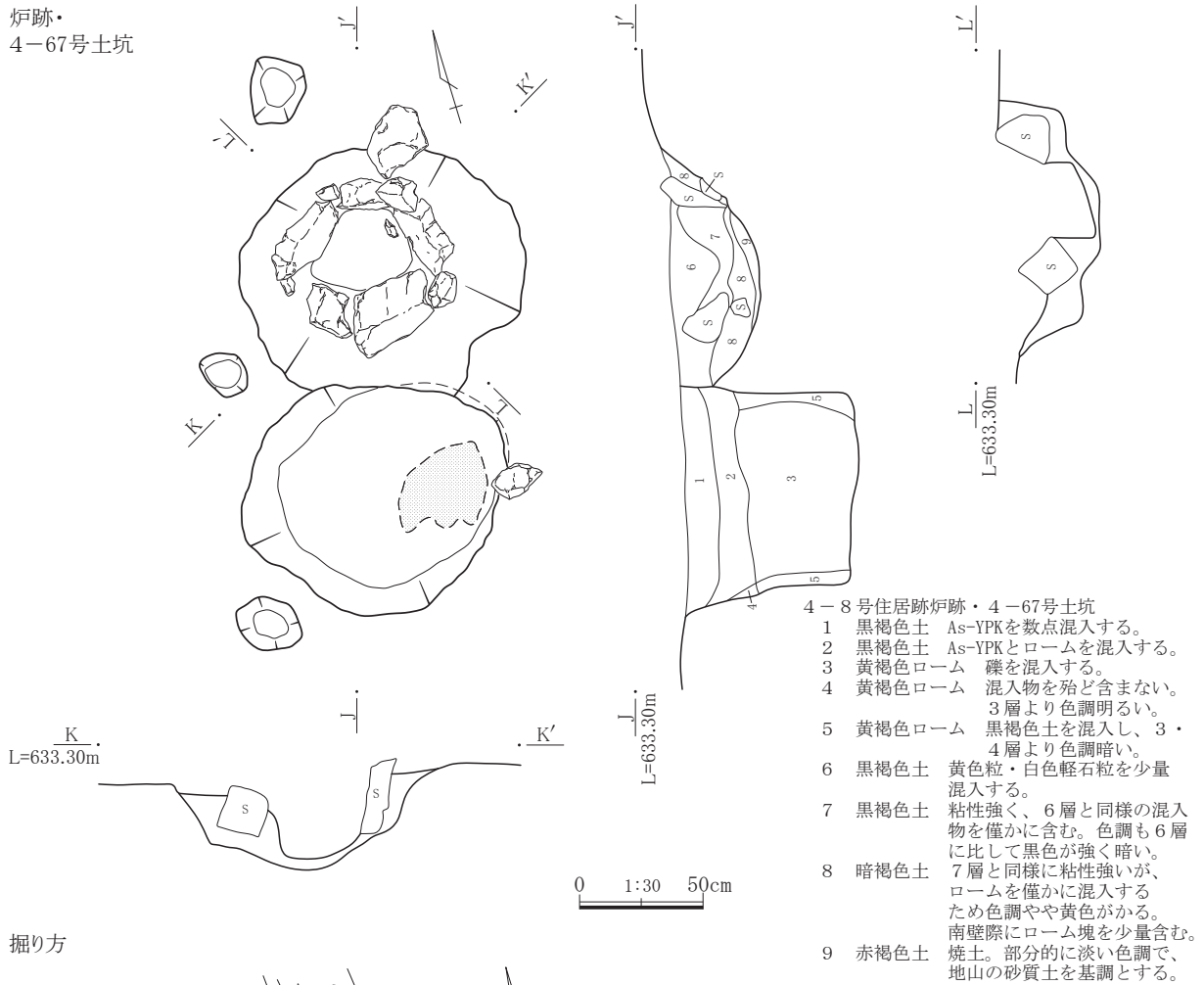
位置 4H・I-9グリッドに位置し、谷に挟まれる尾根状台地にあつて基部の中央に立地する。**確認面** IV層相当面で確認されたが、残存状況が悪く、炉跡の他は全体的に不明瞭であった。**重複** 平安時代と考えられる4-57号土坑と、やっくら状の4-3号集石は新しいと考えられる。**覆土** 西側の一部を主体に残存し、黒褐色土の単一層として確認されたが、この他は攪乱などで不明瞭である。**形状** 平面は、楕円形を呈すると推定される。**規模** 長軸(365)cm×短軸(310)cmを測る。**方位** 長軸でN-69°-Wを測る。**壁高** 西壁の一部が残存し、最大で20cmを測り、やや傾斜する立ち上がりである。**床面** 覆土の残存部と同じ範囲で確認され、平坦で硬化している貼床である。**周溝** 確認されていない。**柱穴** ピットが2基確認されたが、小穴で柱穴になるか判然としない。**炉** 住居跡のほぼ中央と思われる位置で確認され、扁平な角礫を主体とする方形の石囲炉である。楕円形の掘り方内に礫が据えられ、掘り方の底面で焼土(4層)が確認され、火床面と考えられる。また、石囲の南側にあたる床面にも焼土の分布が見られた。規模は、掘り方で長径97cm×短径75cm×深さ31cmを測る。**埋設土器** 確認されていない。**掘り方** 床面は黒褐色土を充填して構築されており、厚さは最大で4cmを測り、掘り方の底面は平坦である。**出土遺物** 土器類23点、石器類1点が出土した。土器は破片が主体で、石器類は黒曜石のチップである。**所見** 出土遺物の様相から、時期は縄文時代中期後葉と考えられる。

遺物出土状況



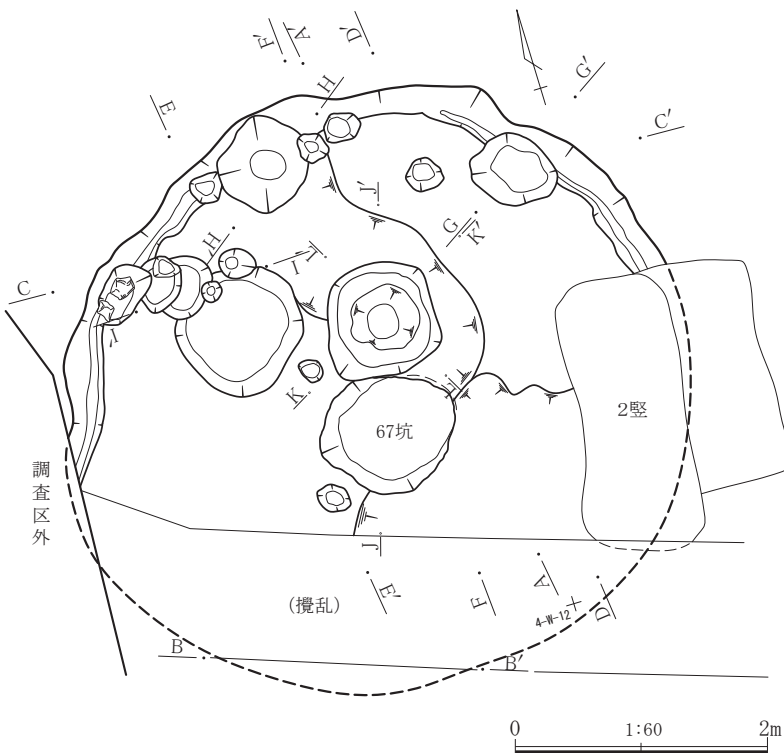
第3章 検出された遺構・遺物

炉跡・
4-67号土坑



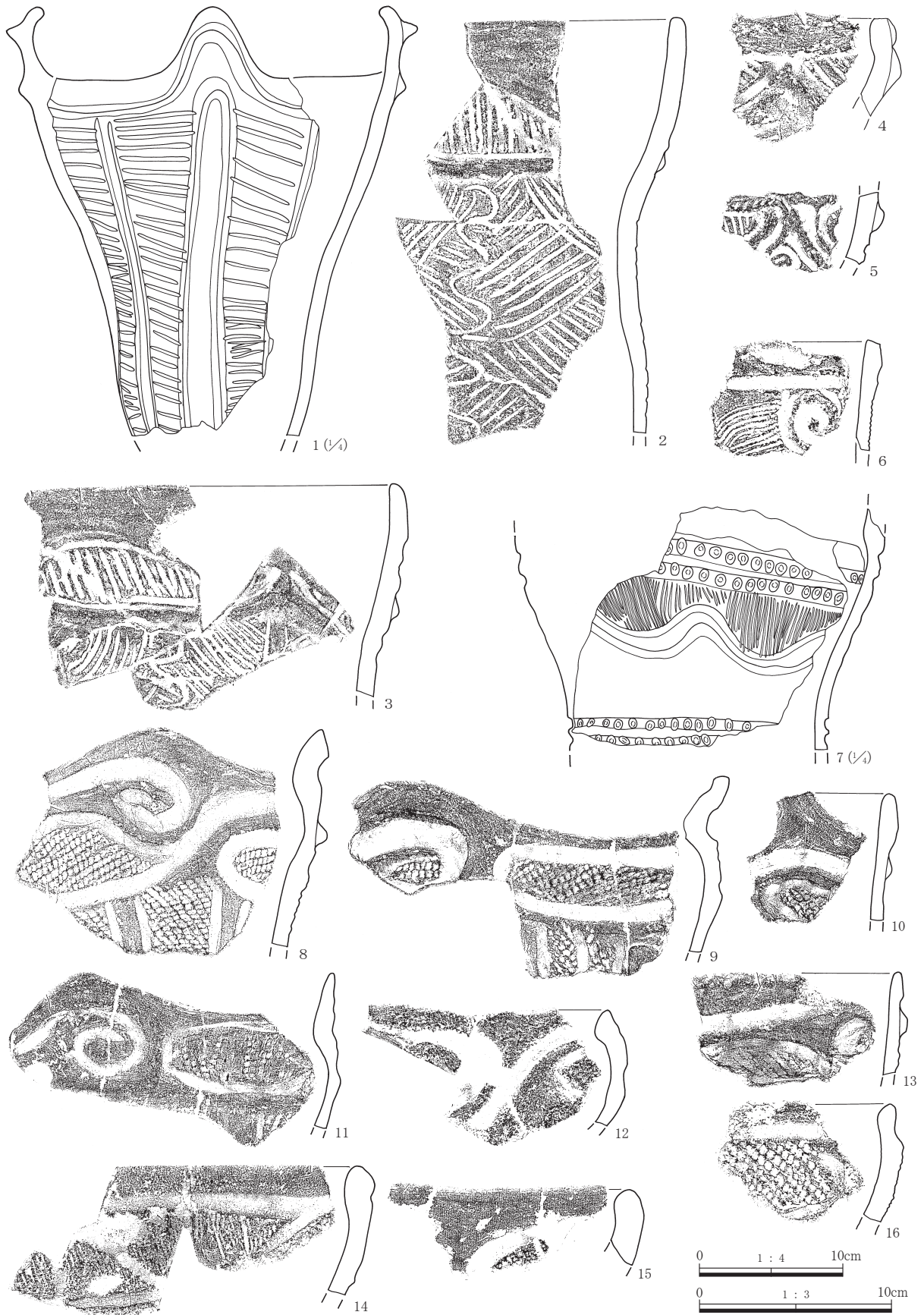
- 4-8号住居跡炉跡・4-67号土坑
- 1 黒褐色土 As-YPKを数点混入する。
 - 2 黒褐色土 As-YPKとロームを混入する。
 - 3 黄褐色ローム 礫を混入する。
 - 4 黄褐色ローム 混入物を殆ど含まない。3層より色調明るい。
 - 5 黄褐色ローム 黒褐色土を混入し、3・4層より色調暗い。
 - 6 黒褐色土 黄色粒・白色軽石粒を少量混入する。
 - 7 黒褐色土 粘性強く、6層と同様の混入物を僅かに含む。色調も6層に比して黒色が強く暗い。
 - 8 暗褐色土 7層と同様に粘性強いが、ロームを僅かに混入するため色調やや黄色がる。南壁際にローム塊を少量含む。
 - 9 赤褐色土 焼土。部分的に淡い色調で、地山の砂質土を基調とする。

掘り方

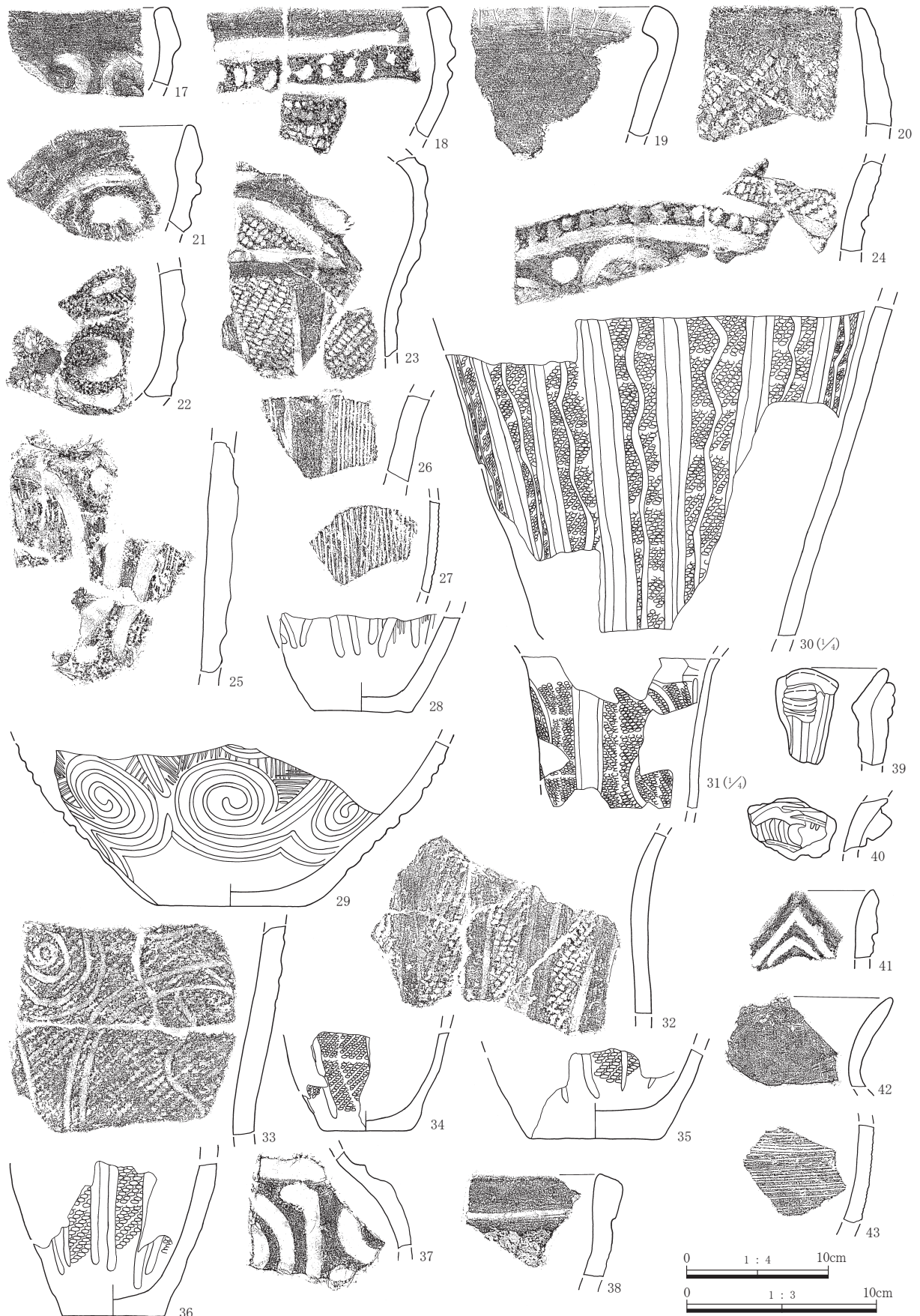


- 4-8号住居跡ピット1
- 1 黒褐色土 As-YPKを混入する。
 - 2 黒褐色土 褐色粒を多量含む。
 - 3 暗褐色土 ローム粒を多量含む。
 - 4 暗褐色土 2層と同質であるが、ローム粒を多量含む。
- 4-8号住居跡ピット7
- 1 暗褐色土 微細白色軽石粒及び黄色粒を少量含む。
 - 2 黄褐色土 ローム塊を主とする褐色土塊との混土。(床面構築土)
 - 3 黒褐色土 黄色粒・白色軽石粒・As-YPKを少量混入する。
- 4-8号住居跡ピット14
- 1 黄褐色土 床面構築土に黒色土を塊状に混入する。
 - 2 黒褐色土 黒色土を主としてローム塊を多量混入する。
 - 3 暗褐色土 ローム粒を主として黒色土を少量混入する。
 - 4 黄褐色土 ロームが塊状に堆積する。

第16図 4-8号住居跡(2)



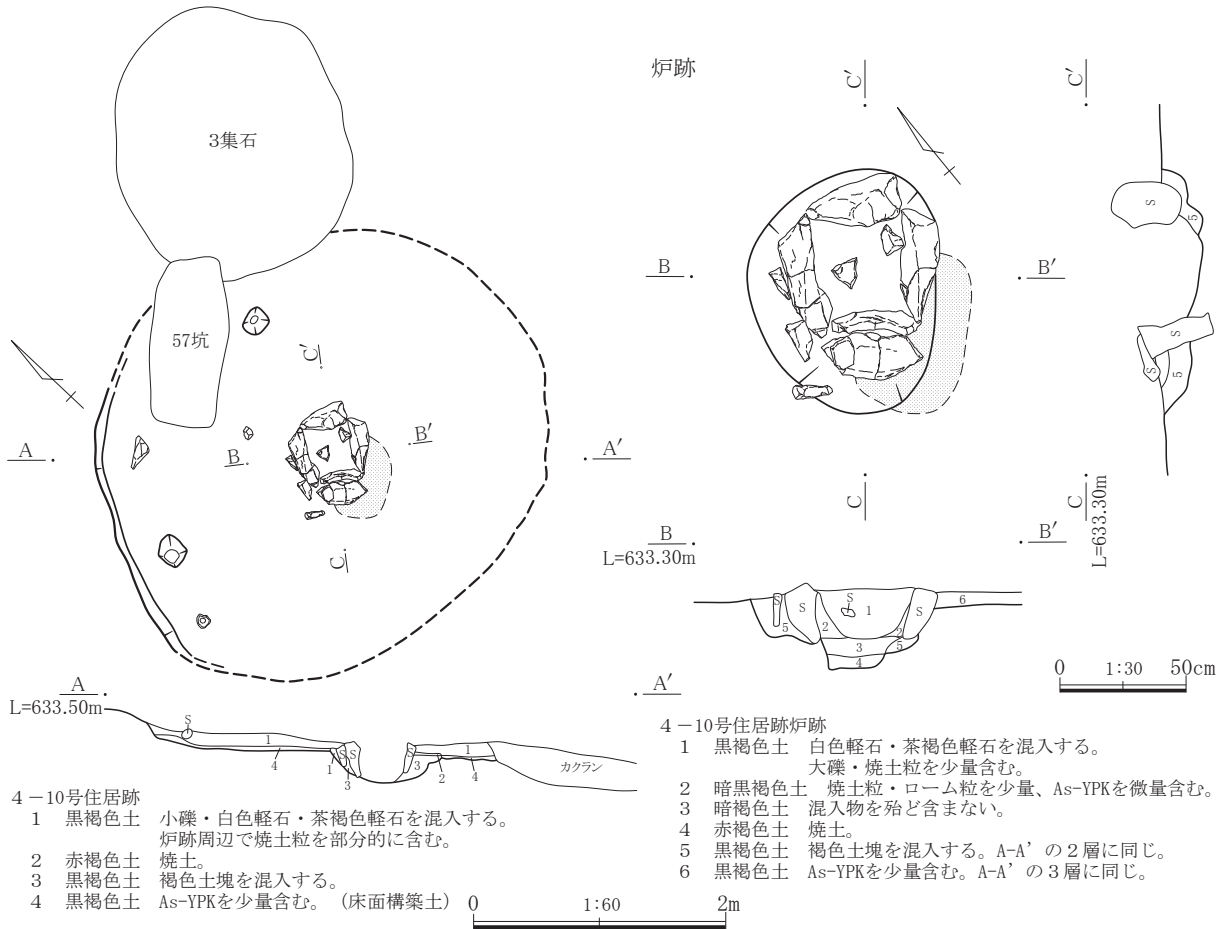
第17图 4-8号住居跡出土遺物(1)



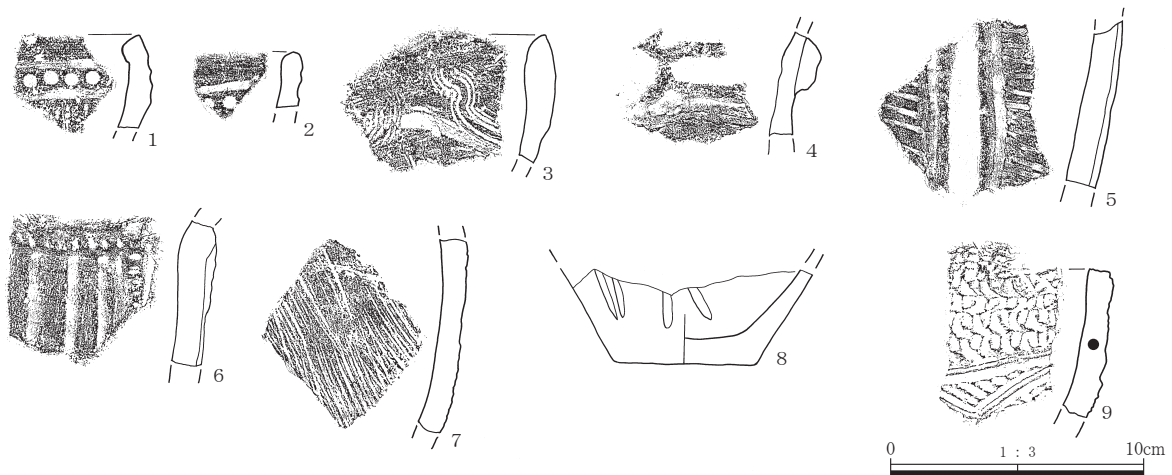
第18図 4-8号住居跡出土遺物(2)



第19図 4-8号住居跡出土遺物(3)



第20図 4-10号住居跡



第21図 4-10号住居跡出土遺物

ピット規模(長径×短径×深さ・cm)

P 1	27×22×38	P 2	20×18×52
-----	----------	-----	----------

4-11号住居跡(第22・23図、PL 6・51)

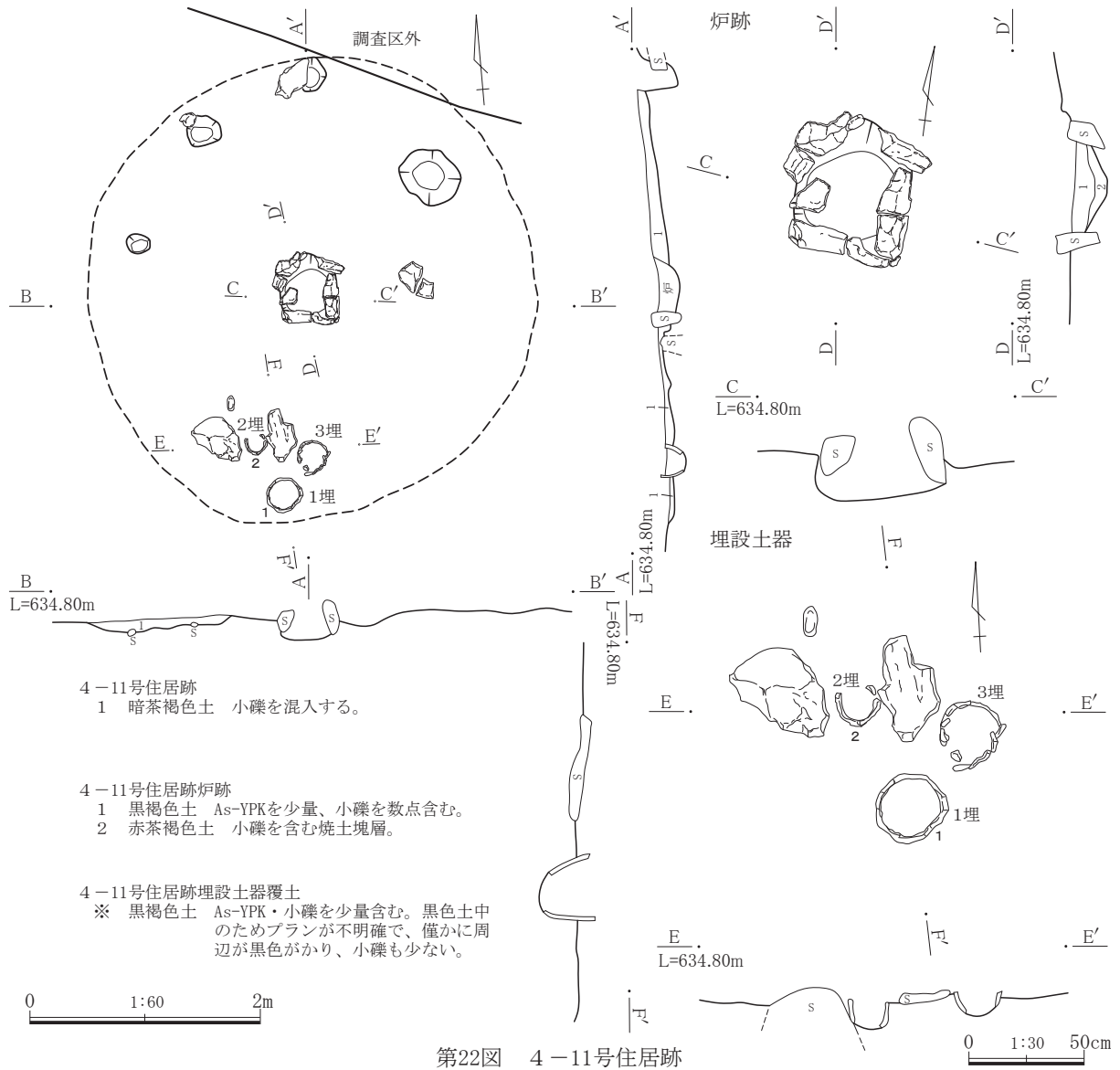
位置 4 J・K-10・11グリッドに位置し、谷に挟まれる尾根状台地にあつて基部の中央に立地する。**確認面** IV層相当面で確認されたが、残存状況が悪く、掘り方相当面が確認面と考えられ、炉跡・埋設土器の他は全体的に不明瞭であった。**重複** 南東側に平安時代と考えられる4-9号住居跡が近接し、重複する位置関係と思われる。**覆土** 確認面が掘り方相当面であり、明確な覆土は確認されていない。**形状** 平面は、楕円形を呈すると推定される。**規模** 長軸(400)cm×短軸(389)cmを測る。**方位** 埋設土器・炉跡を通る長軸でN-3°-Eを測る。**壁高** 確認されていない。**床面** 確認面が掘り方相当面と考えられ、判然としない。**周溝** 確認されていない。**柱穴** ピットが4基確認されたが、柱穴になるか判然としない。**炉** 住居跡のほぼ中央と思われる位置で確認され、扁平な角礫を主体とする方形の石囲炉である。掘り方に沿って直接礫が据えられ、底面で焼土(2層)が確認され、火床面と考えられる。規模は、長径61cm×短径51cm×深さ19cmを測る。**埋設土器** 住居跡南端部で3基確認された。3基とも深鉢の胴部が正位に据えられていたが、いずれも脆い土器で、特に1号埋設土器の劣化がひどい状況であった。また、土器の周囲に覆土と見られる黒褐色土の分布が看取されたが、掘り方のプランは確定できなかった。**掘り方** 確認面が掘り方に相当する状況であったが、部分的に床面構築土と考えられる暗茶褐色土が確認され、厚さは最大で10cmを測る。**出土遺物** 土器類3点、石器類2点が出土したが、土器類は3基の埋設土器で住居跡の構築時期を示す遺物である。しかし、この他の土器類は確認されておらず、また遺憾ながら1号埋設土器は劣化がひどく、図示できなかった。**所見** 出土遺物から、時期は縄文時代中期後葉と考えられる。

ピット規模(長径×短径×深さ・cm)

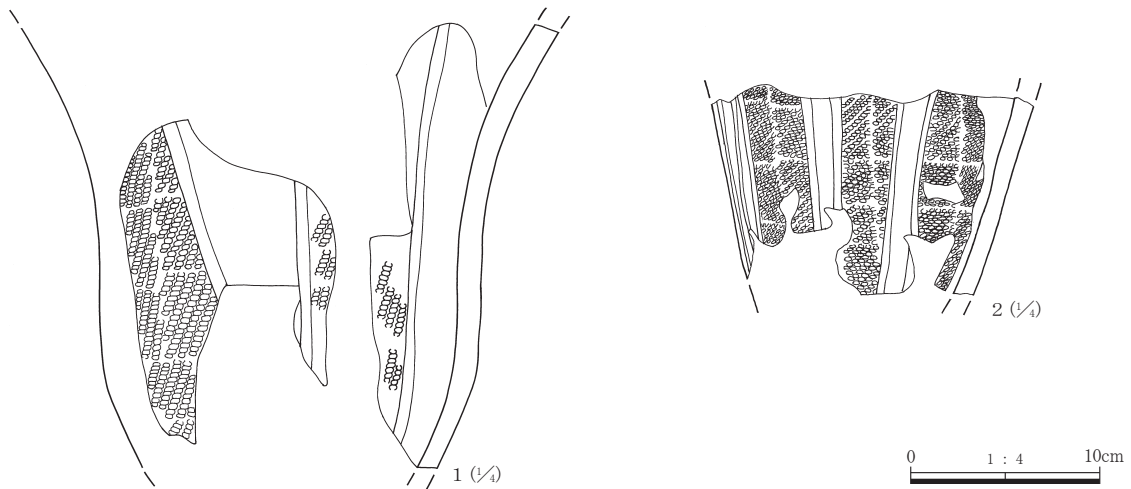
P 1	54×43×32	P 2	29×17×32	P 3	29×26×32	P 4	21×17×15
-----	----------	-----	----------	-----	----------	-----	----------

4-14号住居跡(第24・26・27図、PL 7・52)

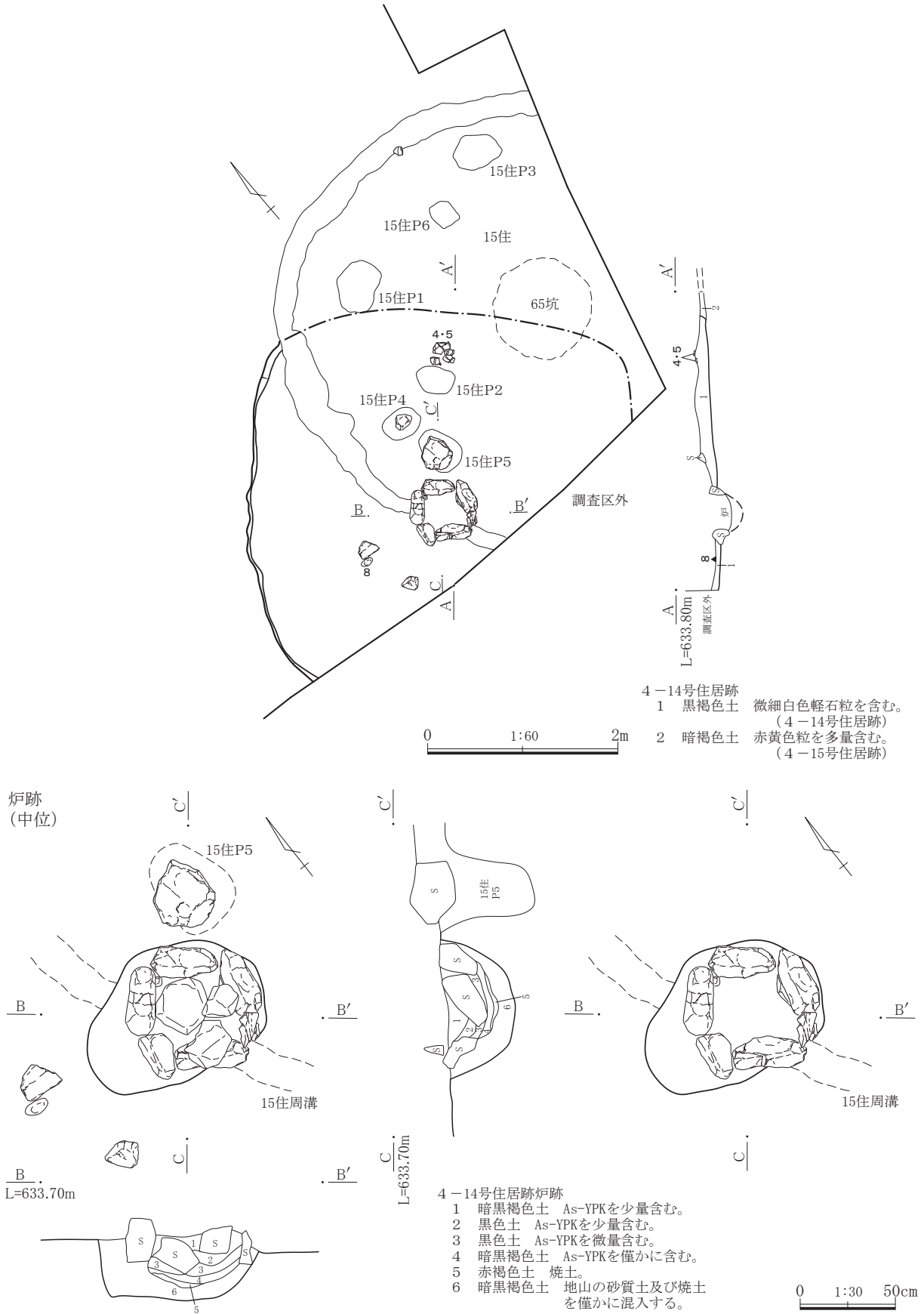
位置 4 R・S-11・12グリッドに位置し、南の谷頭に面する緩傾斜地に立地する。**確認面** IV層相当～V層面で確認された。IV層調査時にはプランが判然とせず、V層面あたりでプランを確認した状況であり、削平等も受けているため残存状況が悪い。また、東～南壁部は調査区外にかかる。**重複** 4-15号住居跡を切る関係で新しく、4-65号土坑とも重複する位置関係であるが、新旧は判然としない。**覆土** 黒褐色土の単一的な堆積が確認された。**形状** 平面は、隅丸方形を呈すると推定される。**規模** 長軸(306)cm×短軸(294)cmを測る。**方位** 長軸でN-47°-Wを測る。**壁高** 最大で8cmを測り、傾斜する立ち上がりである。**床面** 平坦で、硬化している。**周溝** 確認されていない。**柱穴** 確認されていない。**炉** 住居跡のほぼ中央と思われる位置で確認され、扁平な角礫や円礫による方形の石囲炉である。4-15号住居跡の周溝を切って構築されており、楕円形の掘り方の東寄りに礫が据えられている。石囲内には大形の礫が3点混入しており、この下位で焼土(5層)が確認され、火床面と考えられる。このため、3点の礫は炉跡廃絶後に意図的に込められた可能性がある。規模は、掘り方で長径101cm×短径70cm×深さ36cmを測る。**埋設土器** 確認されていない。**掘り方** 構築土を充填した掘り込みは確認されず、地山を削りだして床面を構築していると考えられる。**出土遺物** 土器類52点、石器類3点が出土した。遺物は、ほぼ床面から出土した状態で、土器類は破片を主体とするが、炉跡内出土や接合する大形破片などが僅かに見られた。**所見** 出土遺物の様相から、時期は縄文時代中期後葉と考えられる。

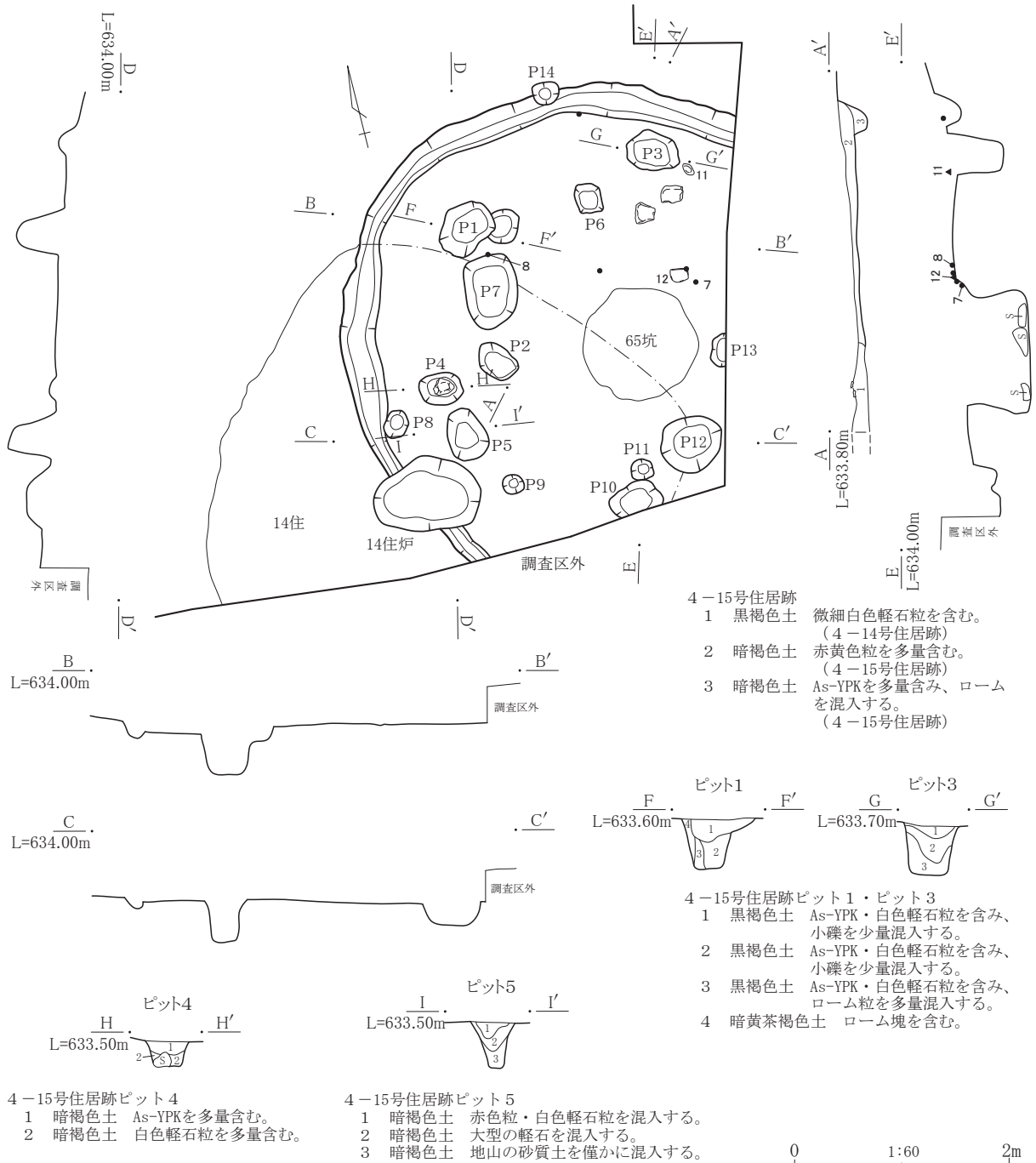


第22図 4-11号住居跡

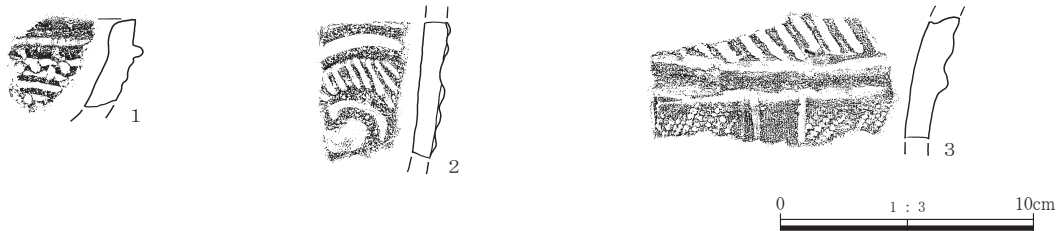


第23図 4-11号住居跡出土遺物

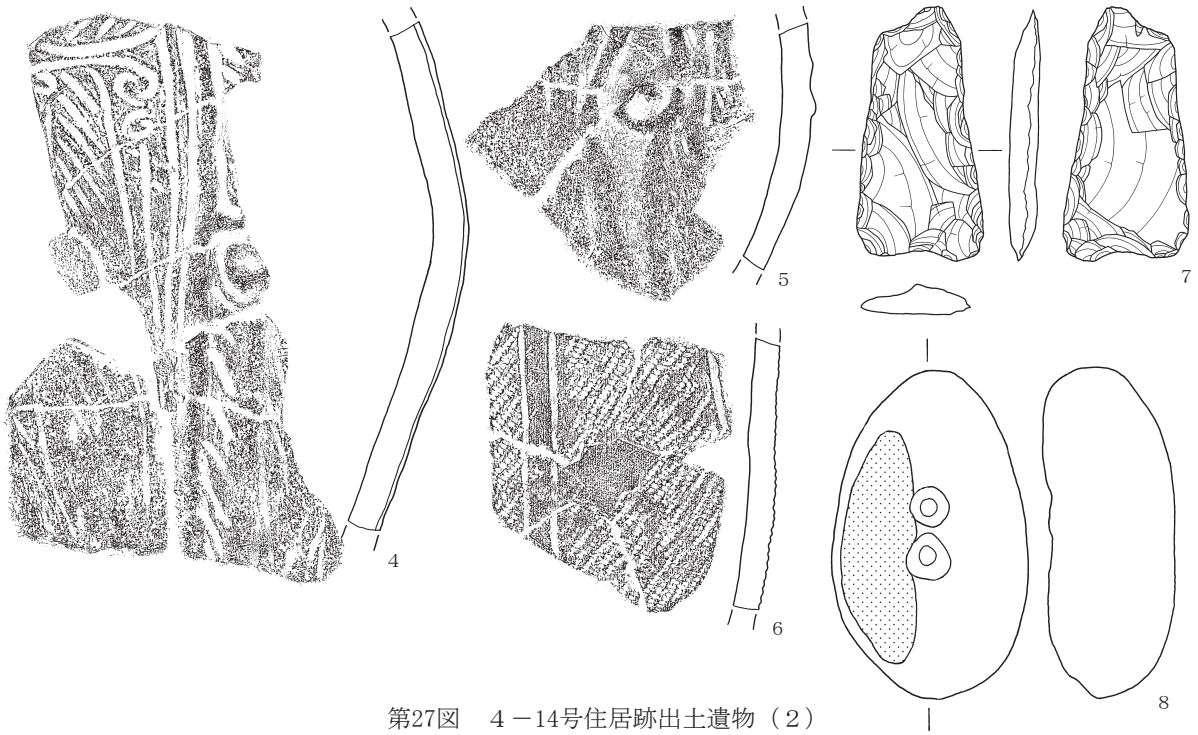




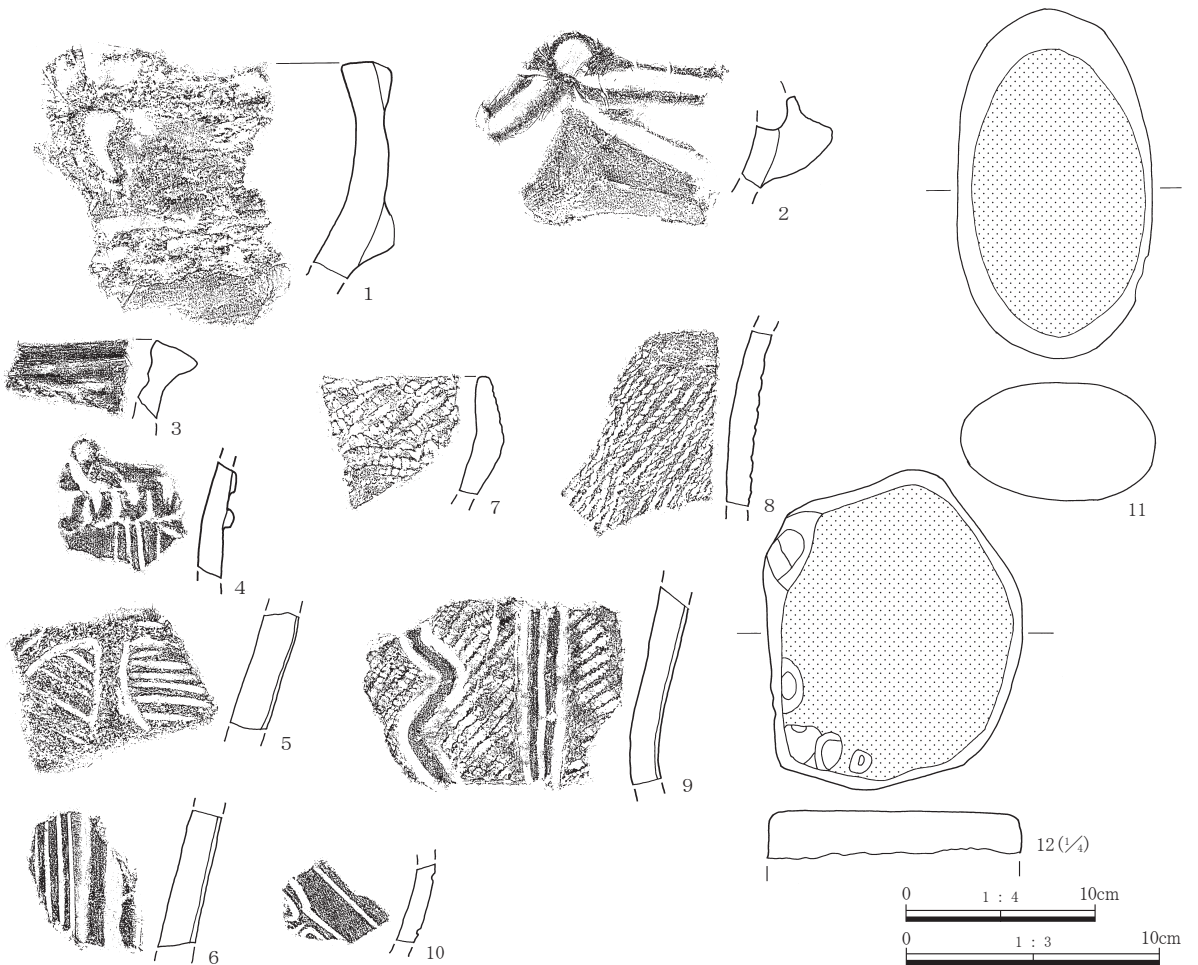
第25図 4-15号住居跡



第26図 4-14号住居跡出土遺物(1)



第27図 4-14号住居跡出土遺物(2)



第28図 4-15号住居跡出土遺物

4-15号住居跡 (第25・28図、PL7・52)

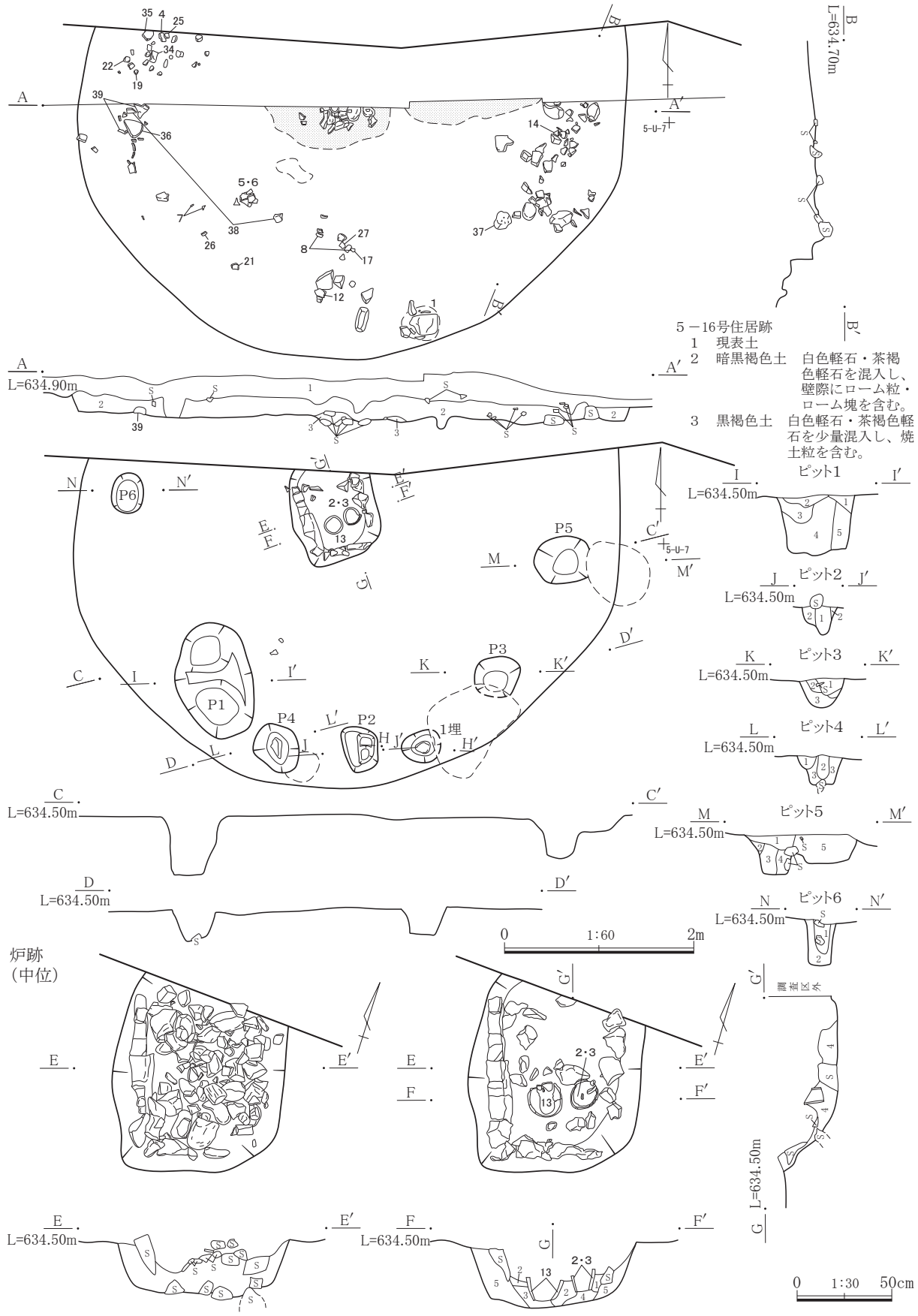
位置 4R-11・12グリッドに位置し、南の谷頭に面する緩傾斜地に立地する。**確認面** IV層相当～V層面で確認された。IV層調査時にはプランが判然とせず、V層面あたりでプランを確認した状況であり、削平等も受けているため残存状況が悪い。また、東～南壁部は調査区外にかかる。**重複** 4-14号住居跡に切られる関係で古く、また炉跡に関連して後述するが、4-65号土坑にも切られる関係で古いと考えられる。**覆土** 暗褐色土の単一的な堆積が確認された。**形状** 平面は、楕円形を呈すると推定される。**規模** 長軸(420)cm×短軸(357)cmを測る。**方位** 長軸でN-19°-Eを測る。**壁高** 最大で11cmを測り、やや傾斜する立ち上がりである。**床面** 平坦で、硬化している。**周溝** 確認した範囲では全周する。規模は、最大で上幅34cm×下幅18cm×深さ11cmを測る。**柱穴** ピットが14基確認された。このうち、ピット3・1・4・5・10などが壁に沿うような円形の配置を呈し、支柱穴の可能性はあるが、ピット4・5は近接する位置関係でもあり不確定である。**炉** 住居跡のほぼ中央と思われる位置に4-65号土坑が重複し、土坑の底面から被熱痕のある扁平な円礫や角礫、焼土塊などが出土した。このため、土坑が本住居跡の石囲炉を破壊し、その構築材や焼土を混入する形で人為埋没したと考えられる。**埋設土器** 確認されていない。**掘り方** 構築土を充填した掘り込みは確認されず、地山を削りだして床面を構築していると考えられる。**出土遺物** 土器類59点、石器類3点が出土した。遺物は、ほぼ床面から出土した状況で、土器類は破片を主体としている。**所見** 出土遺物の様相から、時期は縄文時代中期後葉と考えられる。

ピット規模(長径×短径×深さ・cm)

P1	73×48×45	P2	40×28×17	P3	52×36×44	P4	42×29×23	P5	48×36×42
P6	27×23×34	P7	67×49×10	P8	25×20×21	P9	20×18×27	P10	51×(28)×24
P11	20×19×23	P12	57×52×24	P13	31×(13)×17	P14	24×21×34		

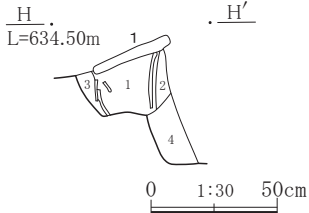
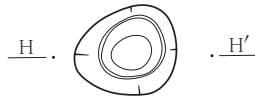
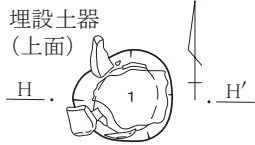
5-16号住居跡 (第29・30・32～34図、PL8・9・52～54)

位置 5U・V-6～8グリッドに位置し、台地西側の平坦部に立地する。**確認面** IV層下位～V層面にかけて確認された。平成8年度に北半部を調査しており、今回は南半部を確認した。確認面の東側を主に礫の分布が見られたが、住居跡のプランは不明瞭であった。**重複** 北に5-15号住居跡(平成8年度調査)が重複し、本住居跡が古い可能性がある。また5-637号～640号・690号・691号などの各土坑と重複し、639号と690B号が古く、690A号・691号が新しい他は判然としない。**覆土** 暗い黒褐色土を主体とする単一的な堆積で、床面付近に黒褐色土の堆積が部分的に看取された。**形状** 平面は、楕円形を呈する。**規模** 過年度調査分を含め、掘り方で長軸600cm×短軸(573)cmを測る。**方位** 長軸でN-74°-Eを測る。**壁高** 最大で11cmを測るが、土層断面での確認である。**床面** 平坦で、炉跡周辺で焼土化したロームの分布が確認された。**周溝** 床面では確認されていないが、掘り方調査時にピット間をつなぐように巡る周溝状の溝を確認している。**柱穴** ピットを6基確認し、過年度分を含めると総数12基となる。住居跡の壁に沿うような円形の配置を呈し、いずれも支柱穴の可能性はある。このうち、ピット1は対ピット状の形状を呈し、ピット3は639号・ピット5は690A・B号の各土坑と重複し、690A号のみが切る関係で新しい。**炉** 住居跡のほぼ中央に当たる位置で確認され、扁平な角礫を主とする長方形の石囲炉であるが、北壁部は調査区境にかかり不明瞭で、東壁部の礫も整然としない。また、上面から中位には、炉跡廃絶後に礫を込めたとされる集礫があり、この下位で2基の埋設土器が確認され、この面が使用面と考えられる。また、炉内の埋設土器は、2基とも深鉢の胴部が正位に埋設されていた。規模は、掘り方で長径(99)cm×短径92cm×深さ33cmを測る。**埋設土器** 住居跡南端のやや東寄りで1基確認された。5-639号土坑の上位に構築さ



第29図 5-16号住居跡 (1)

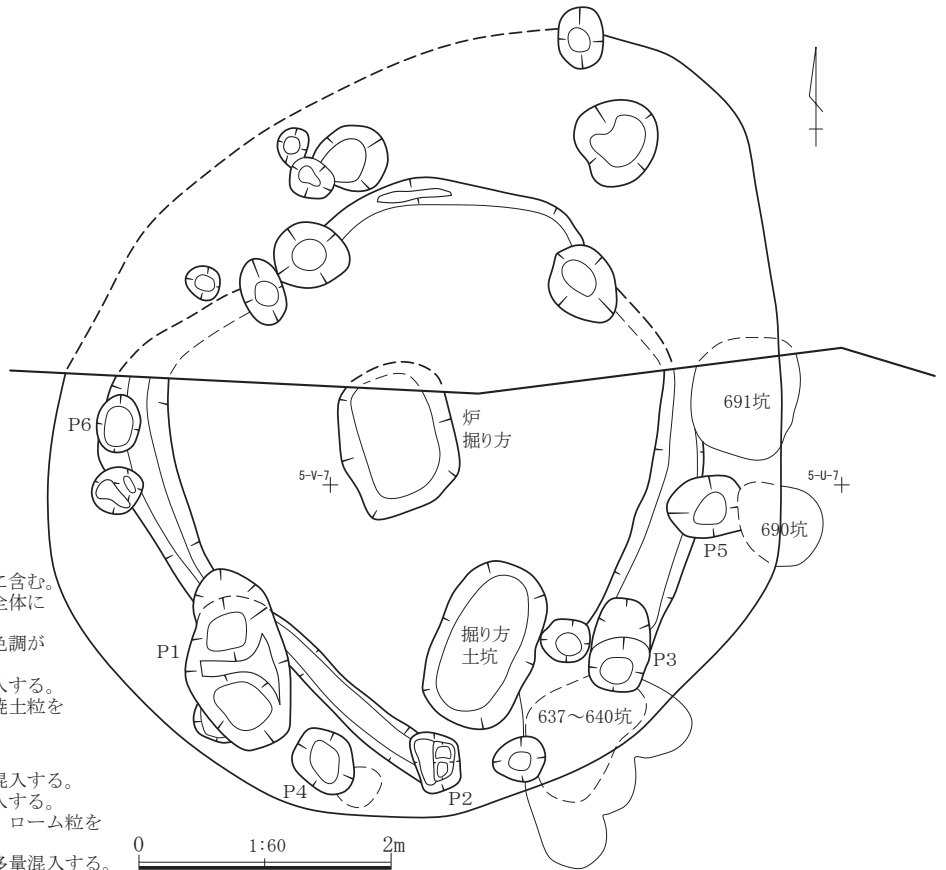
第3章 検出された遺構・遺物



- 5-16号住居跡炉跡
- 1 黒褐色土 焼土粒・As-YPKを僅かに含む。
 - 2 暗褐色土 焼土粒を僅かに含み、全体に被熱で赤味がかかる。
 - 3 暗褐色土 焼土粒を多量混入し、色調が赤味がかかる。
 - 4 黒褐色土 ロームの細粒を多量混入する。
 - 5 黒褐色土 暗褐色土塊を混入し、焼土粒を僅かに含む。

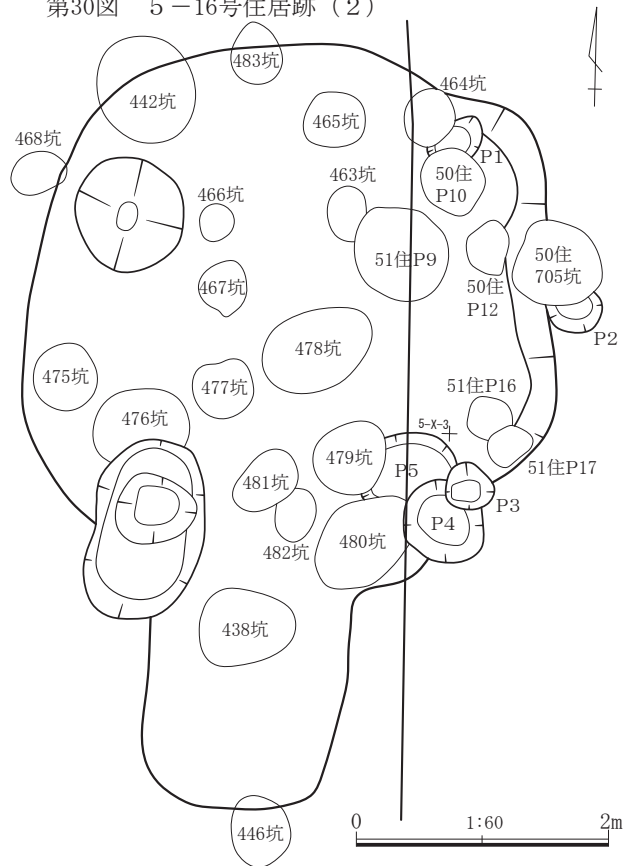
- 5-16号住居跡埋設土器
- 1 暗褐色土 ローム粒・黒色土塊を混入する。
 - 2 黒褐色土 ローム粒・As-YPKを混入する。
 - 3 暗黒褐色土 1層と同様であるが、ローム粒を多量混入する。
 - 4 暗褐色土 ローム粒・ローム塊を多量混入する。
(重複土坑覆土)

※本住居跡の埋設土器は、重複する土坑を切って構築されている。



第30図 5-16号住居跡(2)

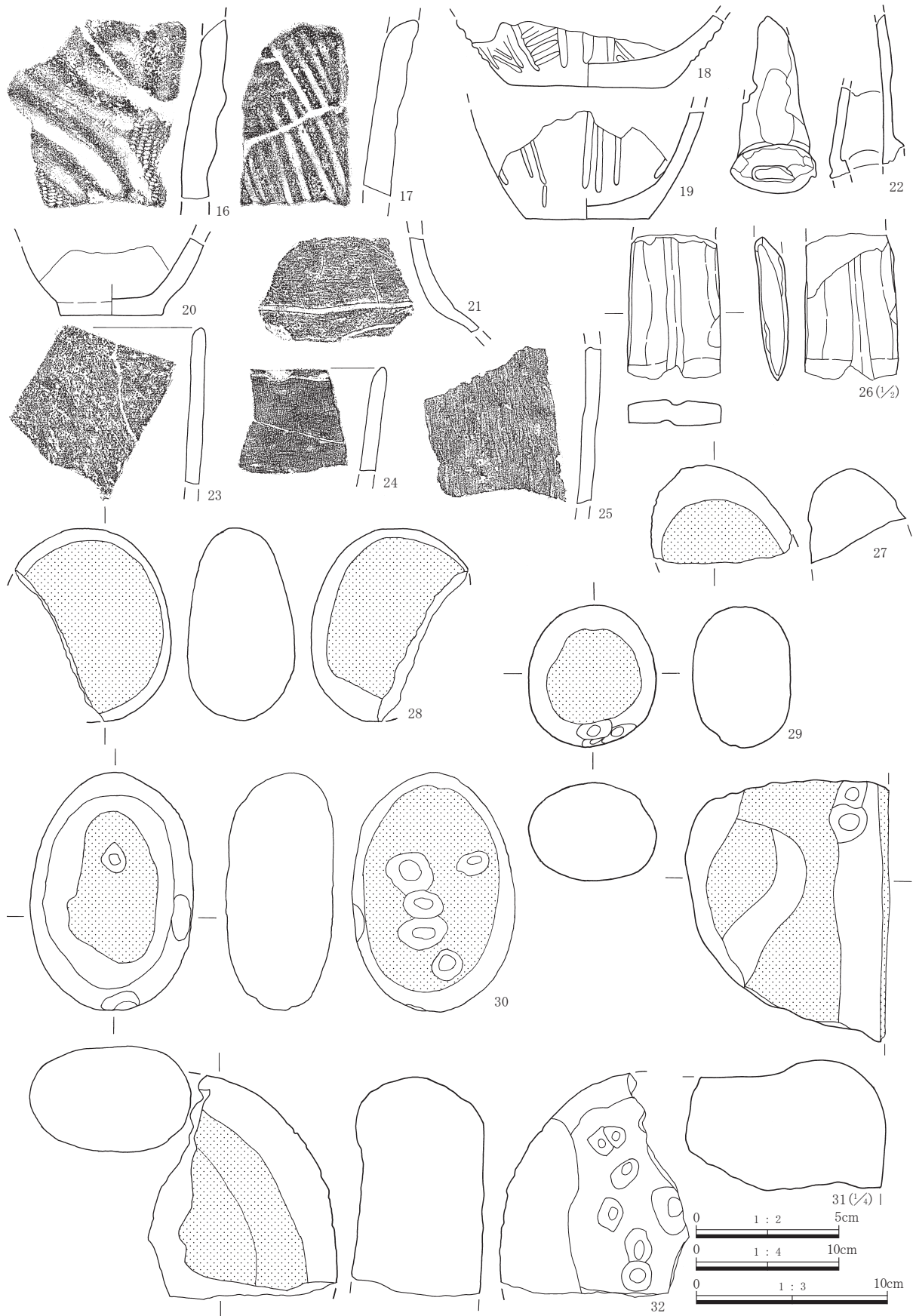
- 5-16号住居跡ピット1
- 1 黒色土 軽石を僅かに混入する黒ボク土。
 - 2 黒色土 白色軽石・茶褐色軽石粒を含み、炭化物粒を混入する。
 - 3 暗褐色土 As-YPK・白色軽石・炭化物粒を混入する。
 - 4 暗褐色土 As-YPK・ローム粒・ローム塊を多量混入し、礫を含む。
 - 5 暗褐色土 As-YPKを混入し、ローム粒を多量含む。
- 5-16号住居跡ピット2
- 1 黒褐色土 白色軽石・炭化物粒を混入する。
 - 2 暗褐色土 白色軽石・ローム粒・ローム塊を混入する。
- 5-16号住居跡ピット3
- 1 黒褐色土 ピット2の1層と同質。
 - 2 暗褐色土 ピット2の2層と同質。
 - 3 褐色土 2層よりローム塊を多量混入する。
- 5-16号住居跡ピット4
- 1 黒色土 ピット1の1層と同質。
 - 2 暗褐色土 ピット1の3層と同質。
 - 3 暗褐色土 ピット1の4層と同質。
- 5-16号住居跡ピット5
- 1 黒褐色土 As-YPKを少量、炭化物粒を僅かに含む。
 - 2 暗褐色土 As-YPKを微量、ロームの細粒を僅かに含む。
 - 3 暗褐色土 ロームの細粒を少量、As-YPKを僅かに含む。
 - 4 暗褐色土 ピット2の2層と同質。
 - 5 暗褐色土 ローム粒・白色軽石粒・As-YPKを少量、炭化物粒僅かに含む。(重複土坑覆土)
- 5-16号住居跡ピット6
- 1 黒褐色土 白色軽石・炭化物粒を混入する。
 - 2 暗褐色土 ローム粒を多量混入する。



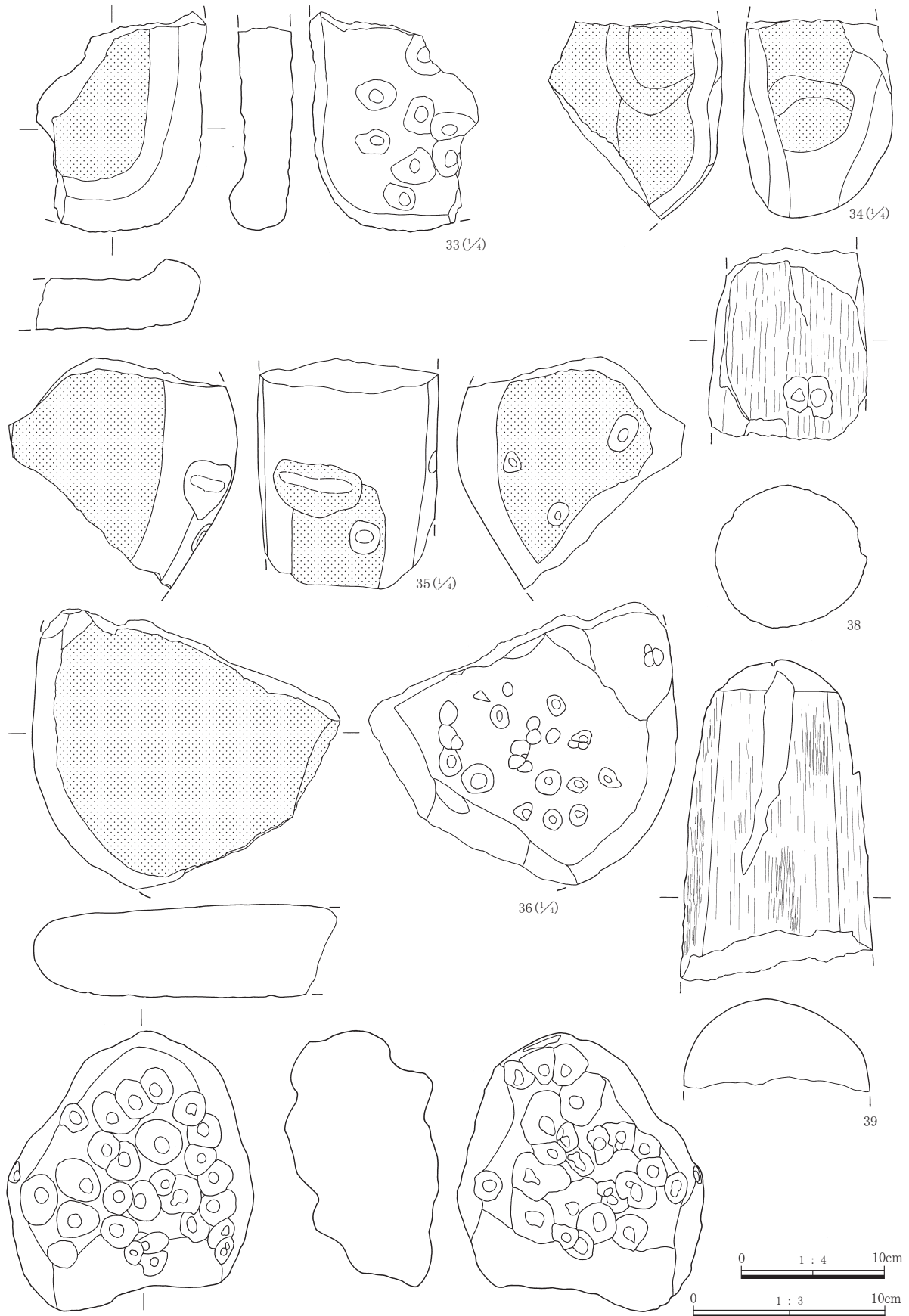
第31図 5-22号住居跡



第32図 5-16号住居跡出土遺物(1)



第33図 5-16号住居跡出土遺物(2)



第34図 5-16号住居跡出土遺物(3) ^{37(1/4)}

第3章 検出された遺構・遺物

れ、深鉢の口縁～胴部が正位に埋設されていた。埋設土器の上には、扁平な角礫が平位に置かれており、蓋石と考えられる。規模は、掘り方で長径41cm×短径36cm×深さ21cmを測る。掘り方 掘り方調査時に、各ピットをつなぐような周溝状の溝を確認した。この溝の規模は、最大で上幅60cm×下幅16cm×深さ7cmを測り、土坑が重複する部分は判然としないが、ピット2・埋設土器間を除いて全周すると推定される。この他、埋設土器の北側に近接して、土坑状の掘込みを1基確認した。形状は楕円形で、規模は長径133cm×短径80cm×深さ26cmを測る。さらに、ピット状の凹みを5箇所確認した。このうち2基はピット1・1基はピット3に重複し、さらにピット3とピット6に近接して1基ずつ位置する。出土遺物 土器類278点、石器類26点が出土した。遺物は、上面の礫分布から中位にかけての覆土中が主であるが、炉跡内の埋設土器や住居跡本体の埋設土器などが本住居跡の構築時期を示す遺物である。また石器類では、上面西側の礫集中部から石棒の大型片が出土し、さらに制作途中と見られる小型磨製石斧が1点出土している。これは、扁平で巾のある小型磨製石斧の中央に溝が看取されるもので、切り離して2個にする途中のものと考えられる。

所見 出土遺物から、時期は縄文時代中期後葉と考えられる。

ピット規模(長径×短径×深さ・cm)

P 1	123×81×57	P 2	48×35×28	P 3	46×43×30	P 4	54×46×31	P 5	62×49×45
P 6	43×34×50								

5-22住居跡 (第31図)

位置 5W・X-2・3グリッドに位置し、台地西側の平坦部に立地する。確認面 IV層相当～V層面で確認された。平成9年度に東壁部を除く部分を調査しており、今回はこの東壁部を確認した。重複 今回の調査では5-51号住居跡と重複し、切られる関係で古い。覆土 5-51号住居跡のセクション(B-B')にかかって黒褐色土の単一的な堆積が確認された。形状 全体は柄鏡形の敷石住居跡であるが、敷石は西・北壁に沿って残存する状況で、今回の調査では確認されなかった。規模 長軸530cm×短軸425cmを測る。方位 長軸でN-12°-Eを測る。壁高 最大で38cmを測るが、掘り方の可能性がある。床面 明瞭な床面は確認できず、掘り方を確認した状況と思われる。周溝 確認されていない。柱穴 今回の調査で、住居跡に伴う可能性のピットを5基確認したが、主柱穴に当たるかは判然としない。炉 過年度に方形の石囲炉が住居跡のほぼ中央と思われる位置で確認されている。埋設土器 確認されていない。掘り方 今回は掘り方部分を確認したと考えられ、この底面は細かな凹凸は見られるが概ね平坦である。出土遺物 確認されていない。所見 時期は縄文時代後期前葉と考えられている。

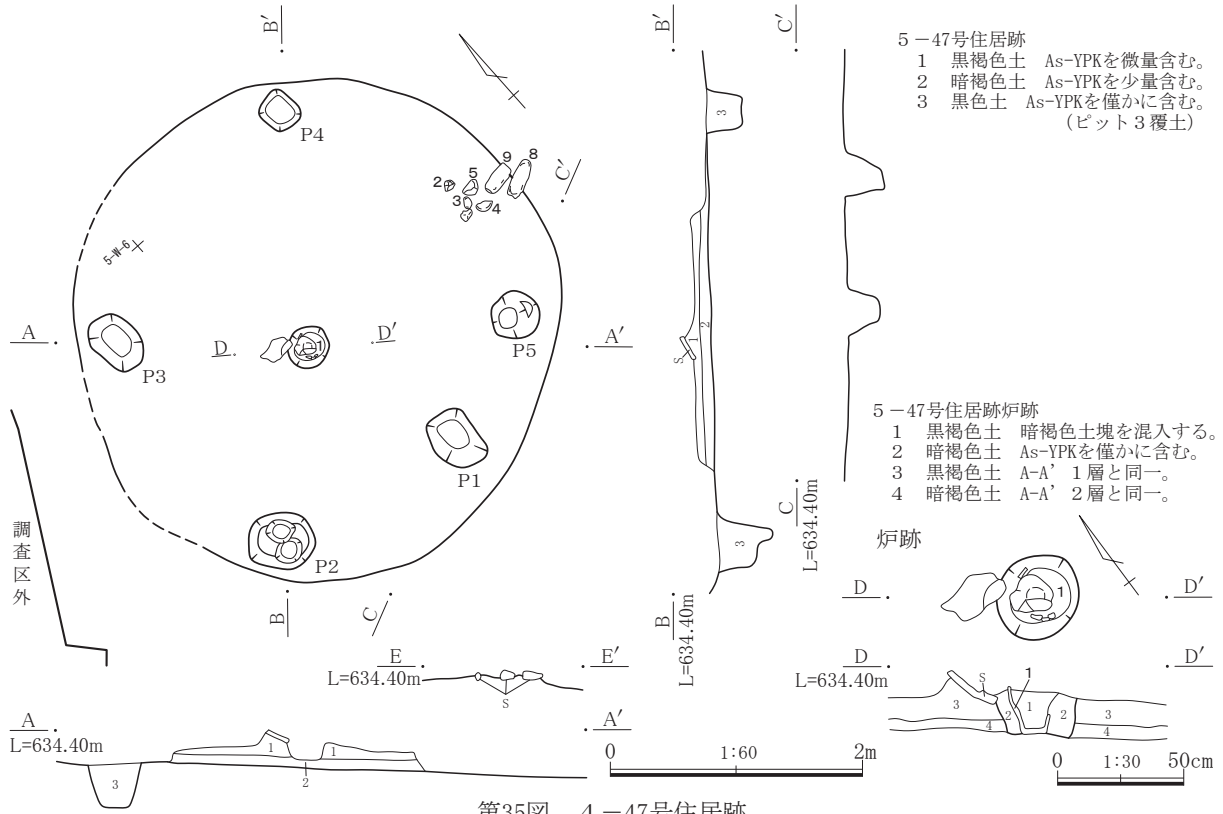
ピット規模(長径×短径×深さ・cm)

P 1	48×(30)×10	P 2	42×(22)×51	P 3	39×37×67	P 4	69×(46)×60	P 5	72×(45)×17
-----	------------	-----	------------	-----	----------	-----	------------	-----	------------

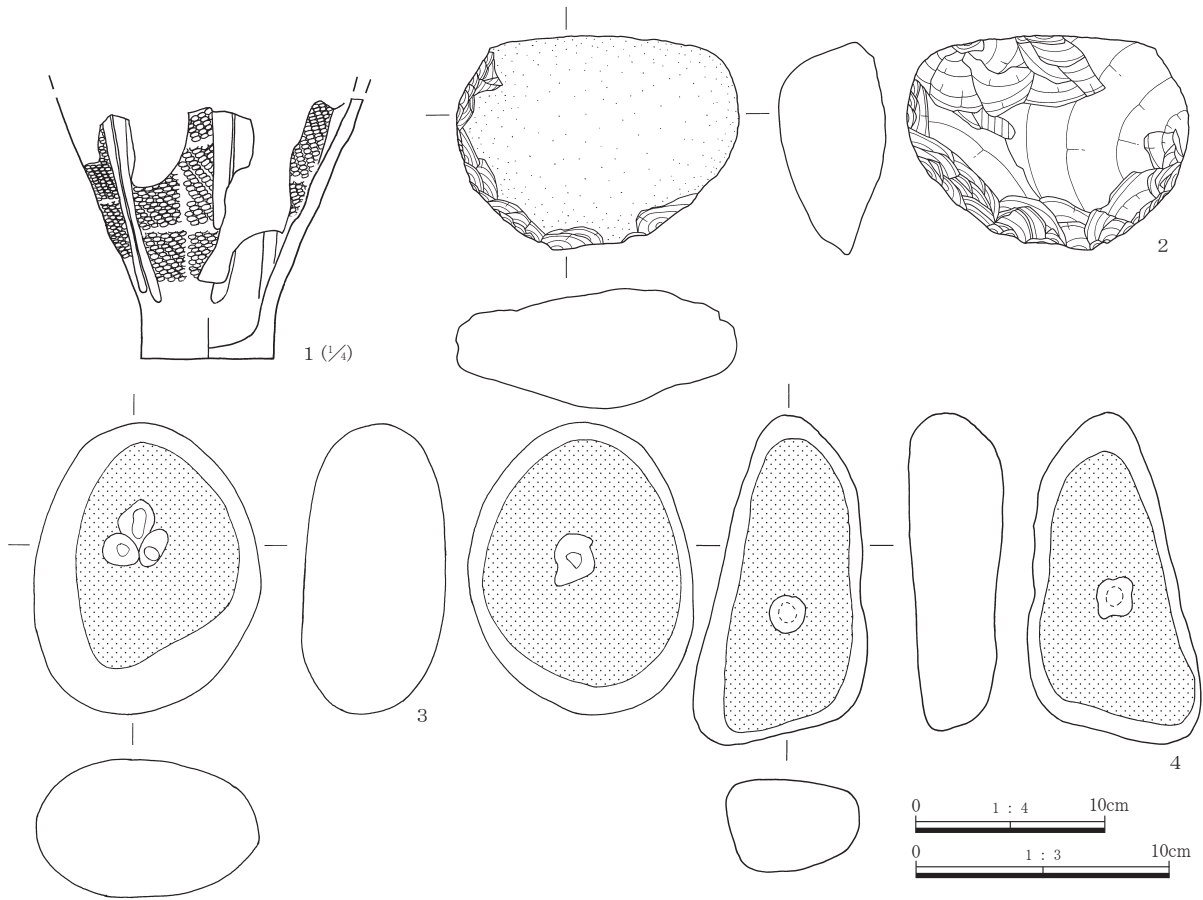
5-47号住居跡 (第35～37図、PL9・54)

位置 5V・W-5・6グリッドに位置し、台地西側の平坦部に立地する。確認面 IV層相当～V層面で確認された。IV層相当面で炉跡の埋設土器、V層(～一部VI層上)面にかけてピットが確認されたことで住居跡と判断しており、床面～掘り方面が確認面である。重複 5-668号・669号の各土坑が重複するが、新旧関係は判然としない。覆土 炉跡周辺で黒褐色土・暗褐色土の堆積が確認されたが、床面構築土にあたる掘り方埋土である。形状 平面は、円形を呈すると推定される。規模 長軸(400)cm×短軸(392)cmを測る。方位 長軸でN-45°-Eを測る。壁高 確認面が床面～掘り方面であるため、確認されていない。床面 確認されていない。周溝 確認されていない。柱穴 ピットを5基確認した。プランに沿うような円形の配置を呈し、いずれも主柱穴と考えられる。炉 住居跡のほぼ中央と思われる位置で

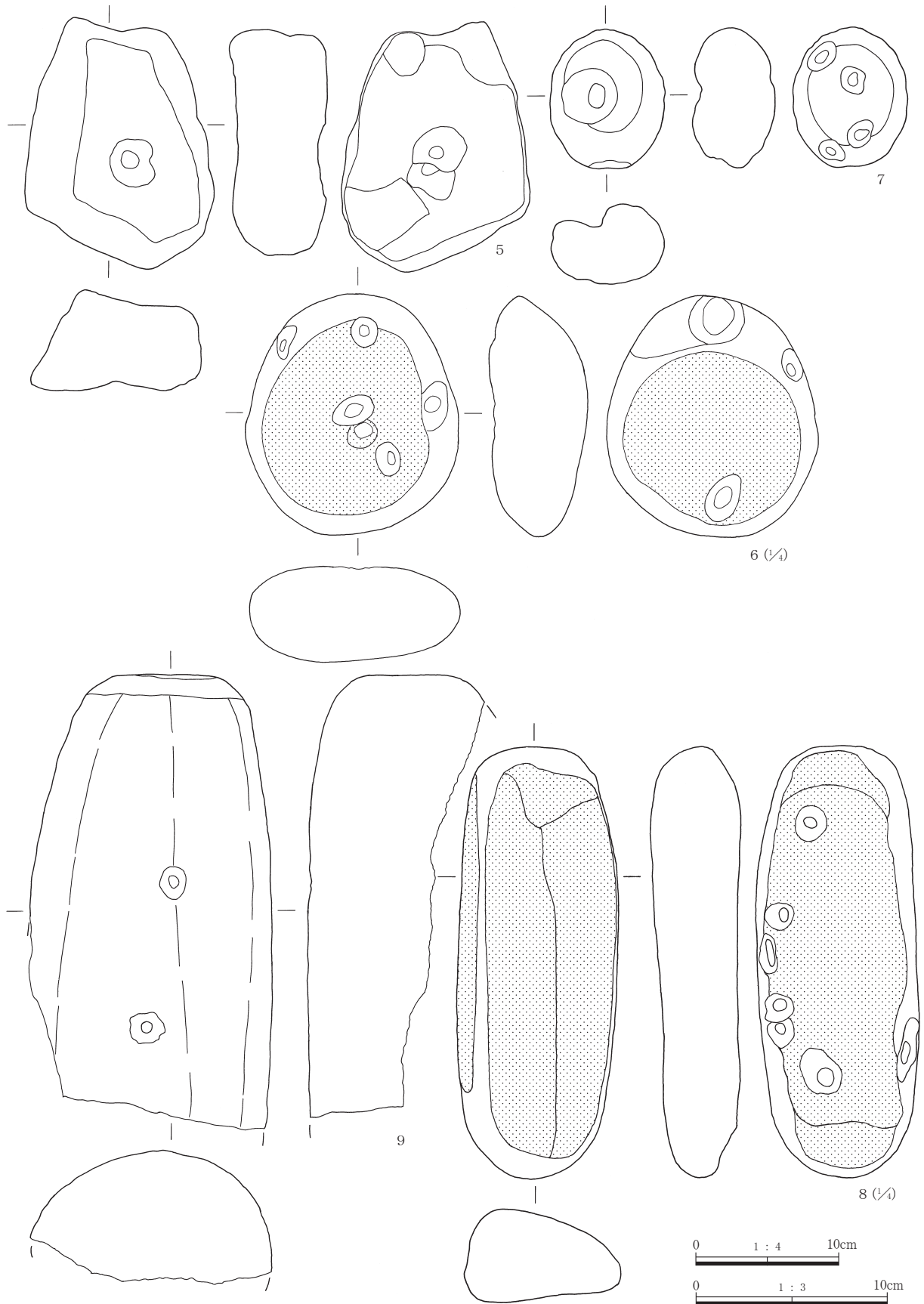
第3節 縄文時代



第35図 4-47号住居跡



第36図 5-47号住居跡出土遺物(1)



第37図 5-47号住居跡出土遺物(2)

確認された。深鉢の胴～底部を正位に埋設する埋設炉で、この上位で板状礫が一点確認されており、石囲炉か敷石の一部である可能性が考えられる。規模は、掘り方で長径35cm×短径32cm×深さ17cmを測る。埋設土器 確認されていない。掘り方 床面から掘り方面が確認面であり、炉跡周辺で構築土を確認した。構築土下面は平坦である。出土遺物 土器類34点、石器類9点が出土した。遺物は、床面から掘り方面の出土と捉えられ、さらに炉跡の埋設土器が本住居跡の構築時期を示す遺物である。また、5-438号配石とした礫群が本住居跡の北東隅にかかる位置にあり、出土レベルも本住居跡の確認面とほぼ一致することから、本住居跡に伴うと考えられる。このため、5-438号配石出土石器は、本住居跡に含めて報告している。

所見 出土遺物から、時期は縄文時代中期後葉と考えられる。

ピット規模(長径×短径×深さ・cm)

P 1	48×36×28	P 2	53×45×43	P 3	49×33×35	P 4	30×27×30	P 5	39×38×32
-----	----------	-----	----------	-----	----------	-----	----------	-----	----------

5-48号住居跡 (第38～43図、PL10・55・56)

位置 5 T-2・3、5 U・V-2～4グリッドに位置し、台地西側の平坦部に立地する。確認面 IV層相当～V層面で確認された。上面～中位にかけて礫が分布・混入しており、プラン確認が困難であった。重複

5-681号・683号・688号・700号の各土坑が重複し、681号が本住居跡を切って新しい他は、古い関係である。覆土 暗褐色～暗黒褐色土を主とする覆土で、5層までと6層以降の層が切り合うような状況が看取される。形状 平面は、やや不整な楕円形を呈する。また、上面礫分布の西側から北側にかけて直線的にL状に並ぶ礫が看取される。規模 長軸645cm×短軸540cmを測る。方位 長軸でN-65°-Wを測る。

壁高 最大で30cmを測り、傾斜する立ち上がりである。床面 部分的に凹凸が看取されるが、全体的には平坦である。周溝 確認されていない。柱穴

ピットを12基確認した。このうち、ピット1・5・6・7・8・10・11・12の8基が、住居跡外形に沿うような等間隔の配置を呈し、支柱穴と考えられる。炉 住居跡のほぼ中央と思われる位置で確認された。掘り方にあたる土坑の北・西壁に、小角礫を主とする石囲の一部が残存し、元は方形の石囲炉であったと考えられる。また、炉跡の上面にも礫が分布していた。規模は、掘り方で長径94cm×短径75cm×深さ30cmを測る。埋設土器

埋設土器ではないが、炉跡の南側で、南壁との中間あたりから、板状礫を上下に組み合わせた石囲施設が確認された。掘り方は不明瞭で判然としなかったが、規模は長径35cm×短径(30)cm×深さ9cmを測る。掘り方 構築土を充填した掘り込みは確認されず、地山を削りだして床面を構築していると考えられる。出土遺物 土器類622点、石器類64点が出土した。遺物は、上面から中位にかけての覆土中が主体であるが、炉跡から出土した土器が数点あり、本住居跡の時期を示す遺物と考えられる。また石器は磨石等の礫石器が多く、未掲載品として石鏃の脚部片が1点ある。

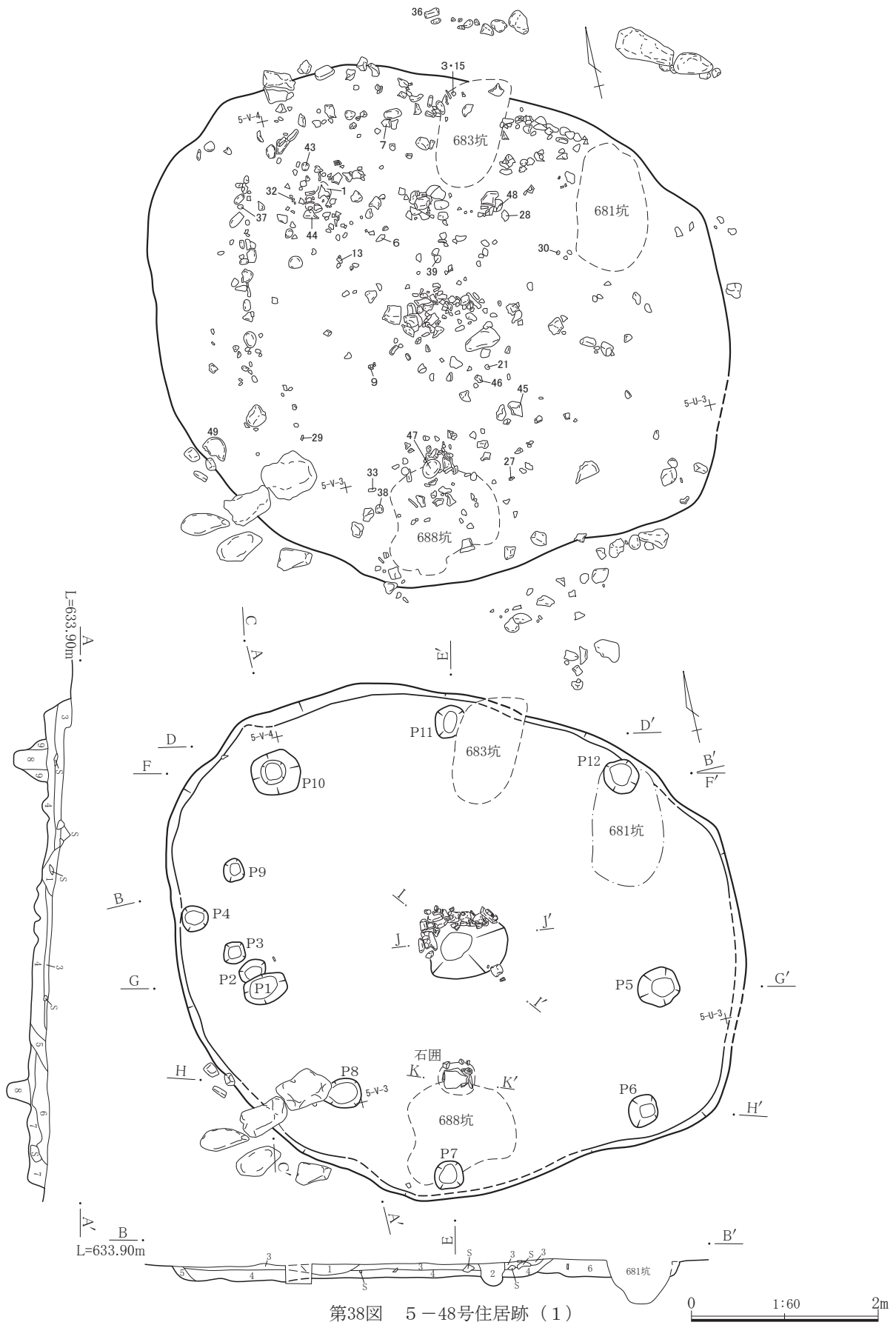
所見 石囲施設は、柄鏡形敷石住居跡の柄部と本体の連結部に見られる施設の一つである可能性があり、上面から中位にかけての礫分布、特にL状を呈する部分などから、本住居跡は方形の平面プランを呈する敷石住居跡である可能性が推測される。出土遺物の様相から、時期は縄文時代後期初頭(～前葉)と考えられる。

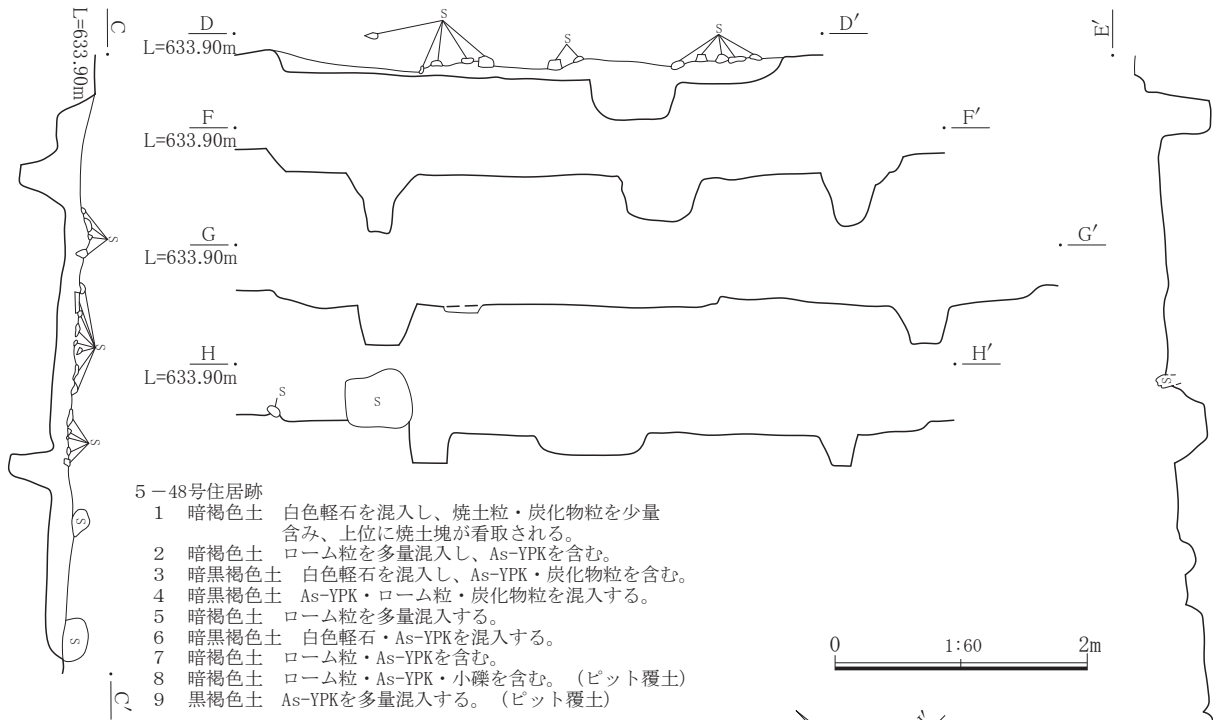
ピット規模(長径×短径×深さ・cm)

P 1	48×31×35	P 2	30×19×30	P 3	27×23×17	P 4	29×27×10	P 5	46×42×33
P 6	39×33×27	P 7	34×30×19	P 8	42×32×25	P 9	26×23×19	P10	55×48×46
P11	38×26×49	P12	39×36×43						

5-49号住居跡 (第44・45図、PL11・56)

位置 5 T・U-1・2グリッドに位置し、台地西側の平坦部に立地する。確認面 IV層相当～V層面で確認された。上面の西側を主に礫が分布しており、また東側の一部が調査区外にかかる。重複 5-52号





5-48号住居跡

- 1 暗褐色土 白色軽石を混入し、焼土粒・炭化物粒を少量含み、上位に焼土塊が看取される。
- 2 暗褐色土 ローム粒を多量混入し、As-YPKを含む。
- 3 暗黒褐色土 白色軽石を混入し、As-YPK・炭化物粒を含む。
- 4 暗黒褐色土 As-YPK・ローム粒・炭化物粒を混入する。
- 5 暗褐色土 ローム粒を多量混入する。
- 6 暗黒褐色土 白色軽石・As-YPKを混入する。
- 7 暗褐色土 ローム粒・As-YPKを含む。
- 8 暗褐色土 ローム粒・As-YPK・小礫を含む。(ピット覆土)
- 9 黒褐色土 As-YPKを多量混入する。(ピット覆土)

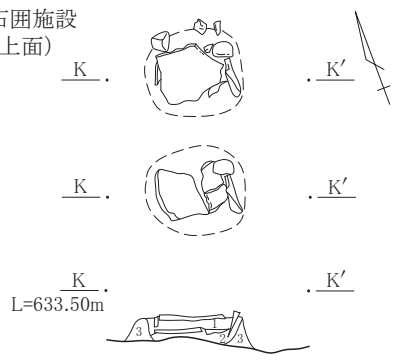
炉跡(上面)



5-48号住居跡炉跡

- 1 黒褐色土 白色軽石粒・As-YPKを含む。
- 2 暗褐色土 褐色粒を多量、白色軽石粒を少量含む。
- 3 暗褐色土 2層と同様に締まりがなく、As-YPKを混入する。
- 4 暗黒褐色土 白色軽石粒・As-YPKを含み、炭化物粒を少量混入する。
- 5 褐色土 黄褐色軽石粒・茶褐色軽石粒を少量、焼土粒を微量混入する。
- 6 黒褐色土 As-YPKを少量、焼土粒・ローム粒を僅かに含む。色調が赤味がかかる。
- 7 赤褐色土 焼土。
- 8 黒褐色土 焼土粒を多量含む。
- 9 暗褐色土 ローム粒を多量、As-YPK・焼土粒を少量混入する。色調が赤味がかかる。
- 10 黒褐色土 ローム粒を少量、As-YPK・焼土粒を僅かに含む。
- 11 黒褐色土 As-YPKを僅かに含み、ローム粒を少量混入する。
- 12 暗褐色土 白色軽石・As-YPKを僅かに含み、下位に黄褐色土塊を混入する。

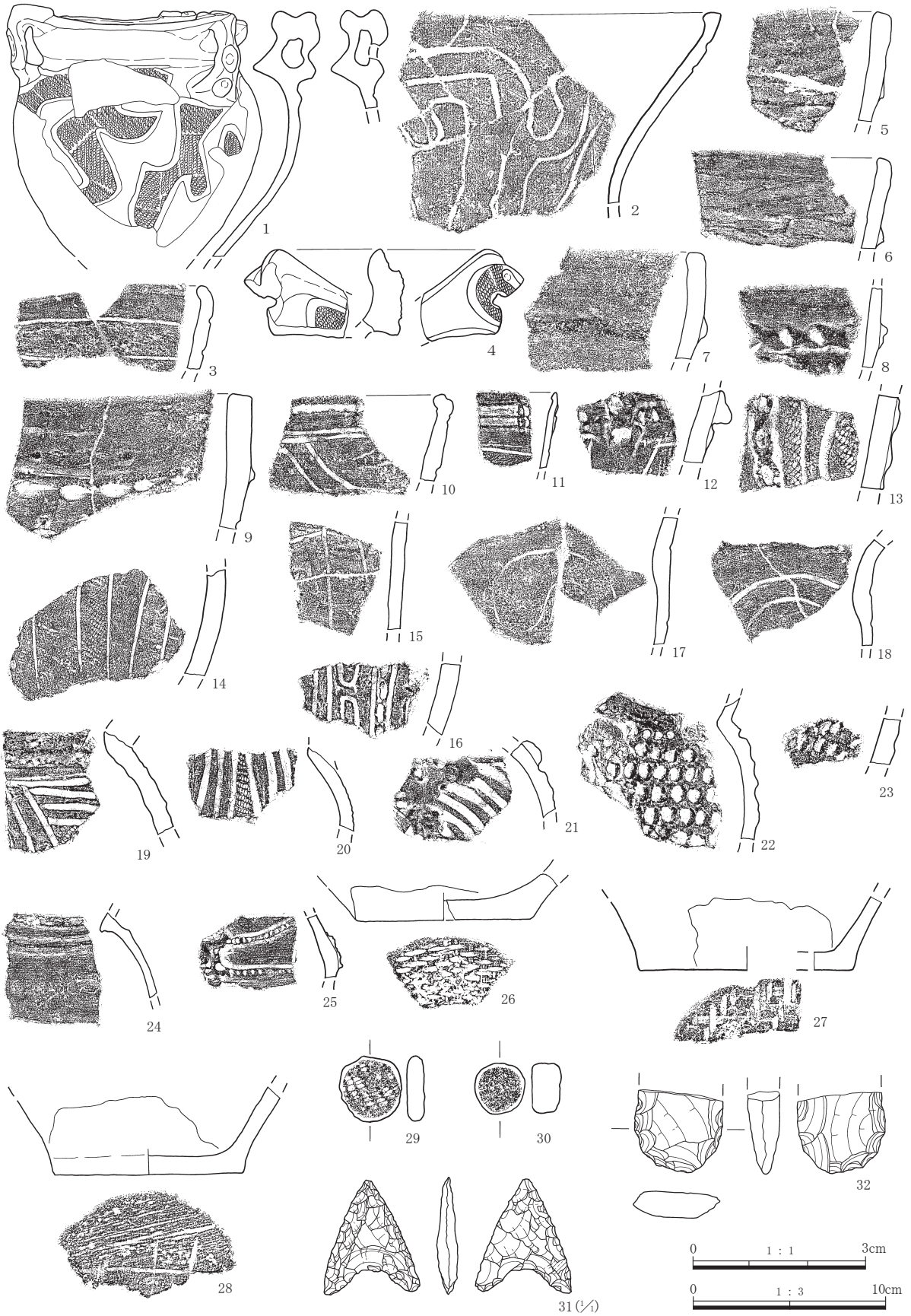
石囲施設(上面)



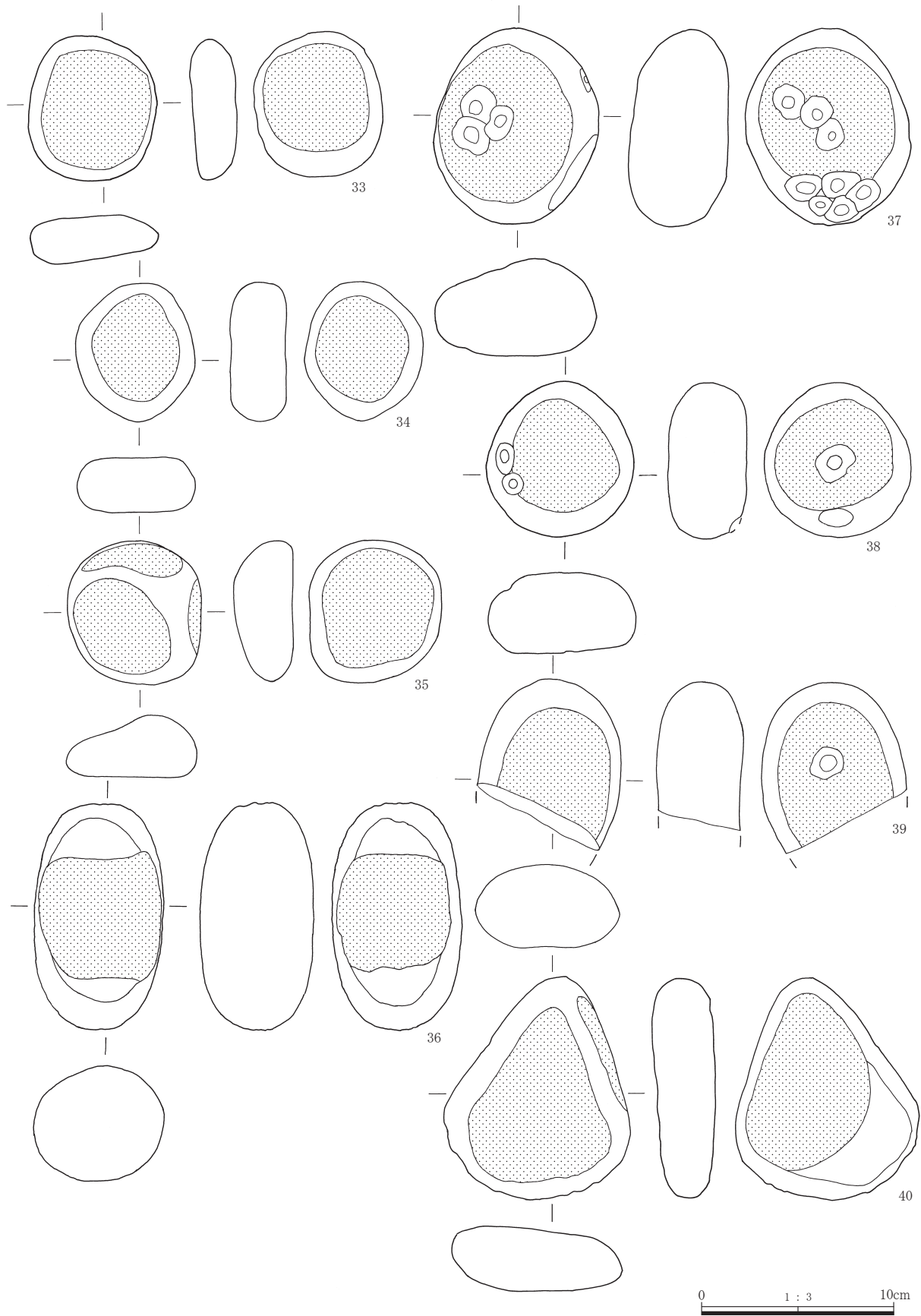
5-48号住居跡石囲施設

- 1 黒褐色土 白色軽石・茶褐色軽石を少量混入する。
- 2 黒色土 白色軽石・炭化物粒を少量混入する。
- 3 黒褐色土 白色軽石を混入する。

第39図 5-48号住居跡(2)



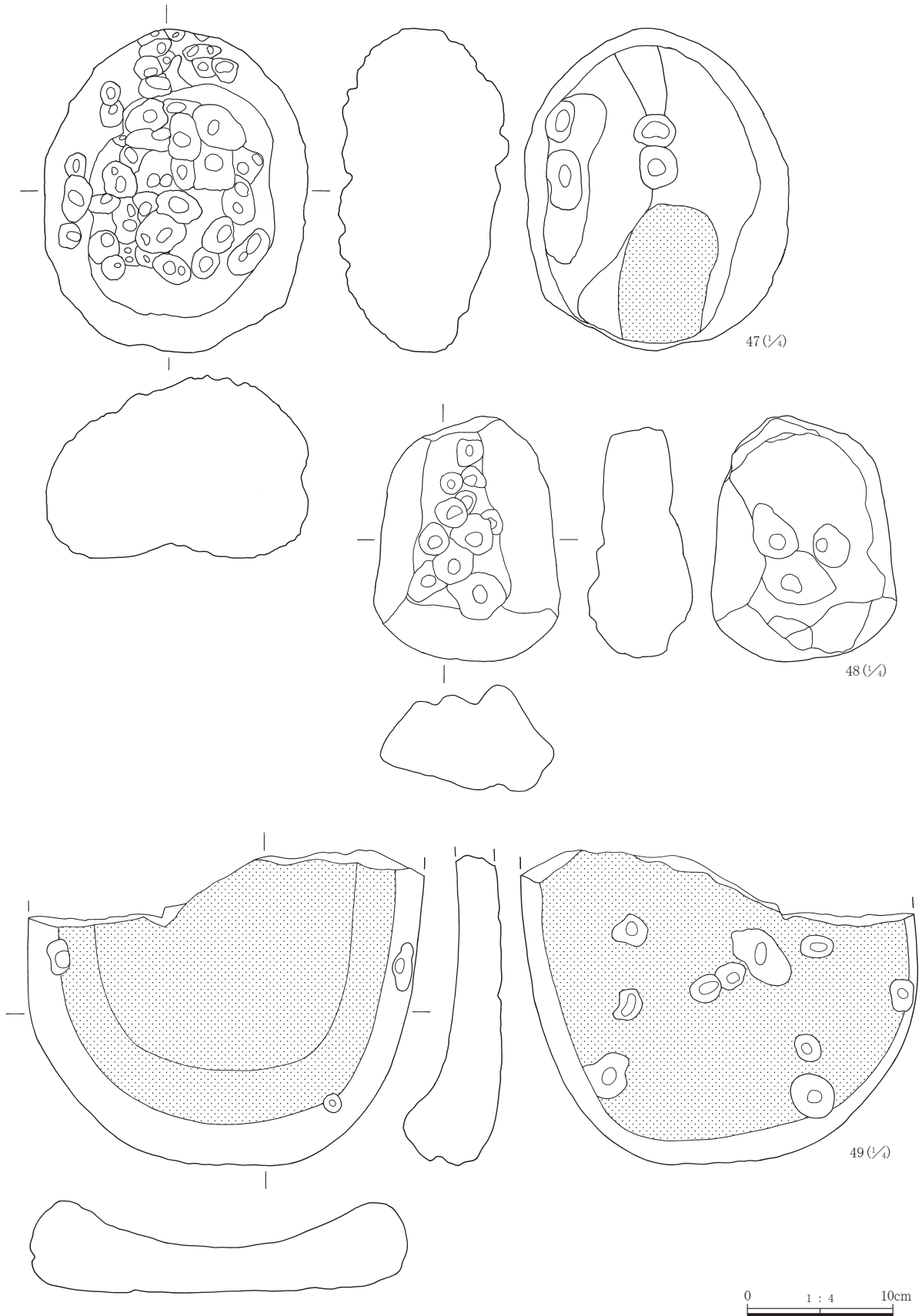
第40図 5-48号住居跡出土遺物(1)



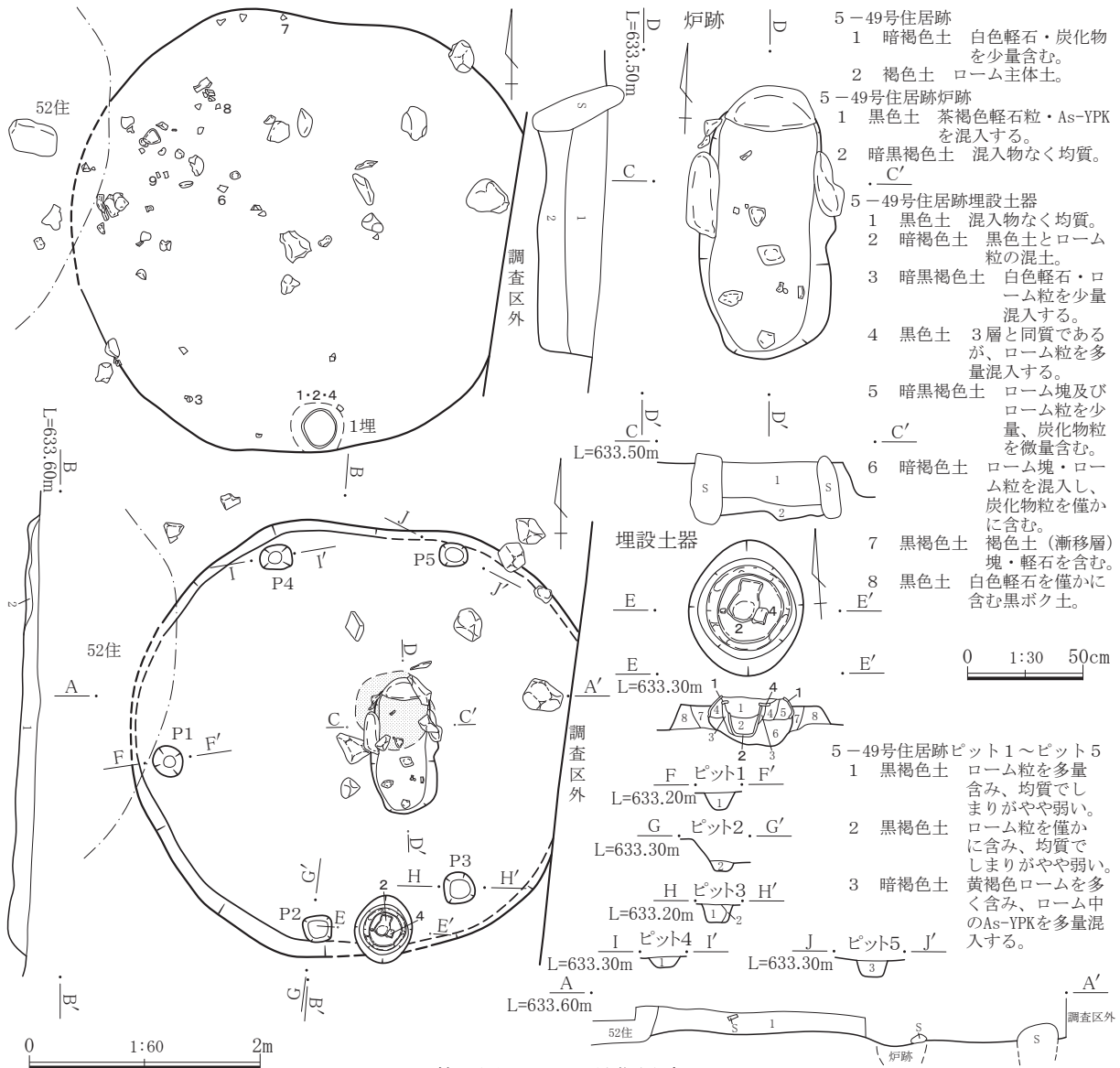
第41図 5-48号住居跡出土遺物(2)



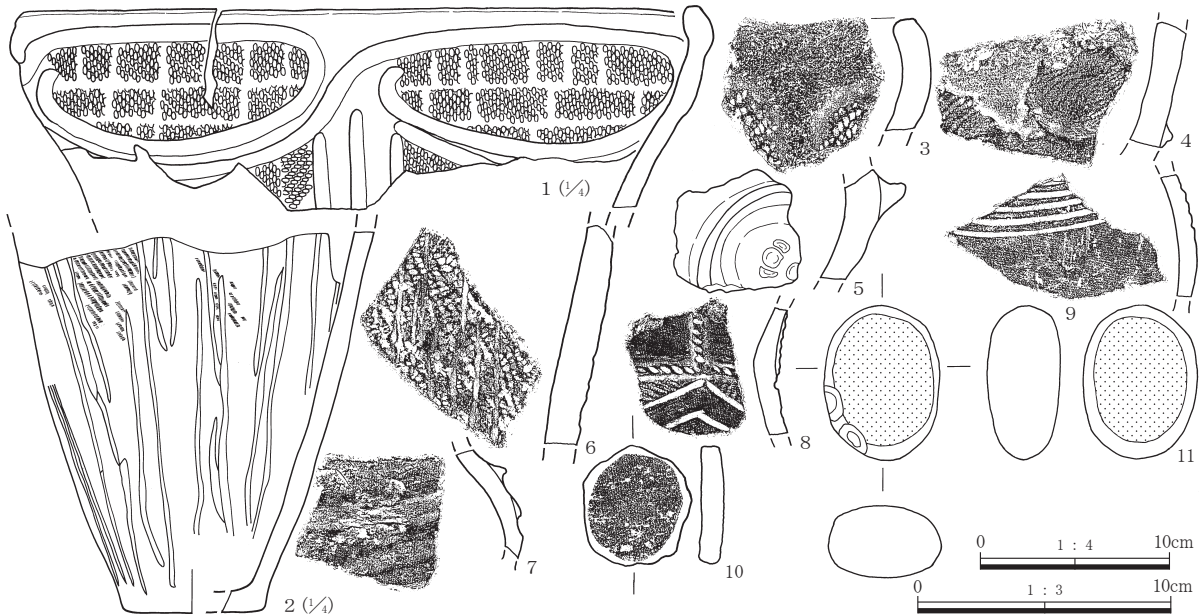
第42図 5-48号住居跡出土遺物(3)



第43図 5-48号住居跡出土遺物(4)



第44図 5-49号住居跡



第45図 5-49号住居跡出土遺物

住居跡、5-694号・699号の土坑が重複し、52号住居跡が本住居跡を切って新しく、694号・699号土坑との新旧は判然としない。**覆土** 暗褐色土の単一的な堆積で、一部にローム主体の褐色土が堆積する。**形状** 平面は、やや不整な円形を呈する。**規模** 長軸(411)cm×短軸393cmを測る。**方位** 長軸でN-73°-Eを測る。**壁高** 最大で16cmを測り、傾斜する立ち上がりである。**床面** 部分的に凹凸が看取されるが、全体的には平坦である。**周溝** 確認されていない。**柱穴** ピットを5基確認した。このうち、ピット2・3が南壁側、ピット4・5が北壁側にあつて相対する位置関係にあり、この中間にあたる西壁側にピット1があり、いずれも支柱穴と考えられる。**炉** 住居跡のほぼ中央と思われる位置で確認された。当初は焼土分布を炉跡としていたが、この下位から一部に石囲を伴う土坑が確認され、これを炉跡と判断した。掘り方にあたる土坑は、長楕円形の平面形で、この北半部の壁に扁平な円礫を主とする石囲を伴う。このため、元は石囲炉であった可能性があるが、南半部に礫が抜かれたような攪拌の痕跡は看取されず、元からこの形態であった可能性も否定はできないと思われる。規模は、掘り方で長径119cm×短径55cm×深さ22cmを測る。**埋設土器** 南壁のほぼ中央と思われる位置で確認された。上位から深鉢の口縁部が逆位に、この下位から深鉢の胴～底部が入れ子状に正位に設けられている状況が確認され、蓋状に組み合わせていたものと考えられる。規模は、掘り方で長径59cm×短径50cm×深さ20cmを測る。**掘り方** 構築土を充填した掘り込みは確認されず、地山を削りだして床面を構築していると考えられる。**出土遺物** 土器類57点、石器類8点が出土した。遺物は、覆土中からの出土が主体であるが、埋設土器が本住居跡の時期を示す遺物と考えられる。また石器は、磨石の他は黒曜石のチップ類である。**所見** 出土遺物から、時期は縄文時代中期後葉と考えられる。

ピット規模(長径×短径×深さ・cm)

P1	28×25×18	P2	28×24×8	P3	30×28×14	P4	28×24×11	P5	25×22×14
----	----------	----	---------	----	----------	----	----------	----	----------

5-50号住居跡 (第46～61図、PL12・56～59)

位置 5V～X-3・4グリッドに位置し、台地西側の平坦部に立地する。**確認面** IV層相当～V層面で確認された。IV層相当面での遺構確認時に多量の礫が分布しており、この中には弧状列石状や列石状を呈する礫群が看取され、前者は住居跡北壁に沿う縁石、後者は柄鏡形敷石住居跡の連結部から延びる髭状の列石と考えられる。**重複** 5-51号住居跡、5-611号・612号・672号・707号の各土坑が重複し、51号住居跡を本住居跡が切る関係で新しく、707号土坑が本住居跡に切られて古い他は、本住居跡を切る関係で新しい。**覆土** 黒褐色土の単一的な堆積であるが、北壁側に周溝や立ち上がりの壁部を示すような層理が看取され、北壁部の縁石に関わる造作の痕跡と考えられる。**形状** 平面は、柄鏡形を呈すると推測され、縁石や礫の分布などから敷石を伴う住居跡であったと考えられる。**規模** 長軸786cm×短軸(720)cmを測る。**方位** 長軸でN-3°-Wを測る。**壁高** 最大で27cmを測り、傾斜する立ち上がりである。**床面** 北壁の縁石付近に敷石の一部と見られる扁平な礫や板状礫が看取された他は、明確な敷石は確認されていない。また、土層断面の2層が床面構築土の可能性もあるが、炉跡の上位を被覆する状況であり、判然としない。**周溝** 全周はしないが、部分的に2重に巡る周溝が確認されている。周溝は、縁石が巡るテラス状部を内外で画するように巡っており、内側の周溝はピット2～ピット7間において、外側の周溝は住居跡北東隅の壁に沿って明瞭に看取される。規模は、最大で内側が上幅40cm×下幅30cm×深さ9cm、外側が上幅22cm×下幅12cm×深さ10cmを測る。**柱穴** ピットを21基確認した。このうち、5-699号・704号・705号の各土坑は、本住居跡に伴うものと考えられ、本住居跡のピットに含めた。配置は、内側の周溝に沿って円形の配置を呈するものが主と考えられ、704号土坑とピット15は外側の周溝に接する位置にあり、またピット17・18は699号土坑の南西・南東に近接し、対ピット状を呈するが、組になるかは判然としない。さらに699号土坑は、柄鏡形敷

第3章 検出された遺構・遺物

石住居跡の連結部などにみられる大形土坑と考えられる。**炉** 住居跡のほぼ中央と思われる位置で確認された。不整な楕円形を呈する掘り方の土坑内に口縁を欠く深鉢の胴～底部を据えた埋設炉で、埋設土器の面では、混土状も含めて焼土が明瞭に確認されている。規模は、掘り方で長径123cm×短径93cm×深さ23cmである。**埋設土器** 確認されていない。**掘り方** 前述した土層断面の2層が構築土の可能性はあるが判然とせず、また21基のピットはV層の掘り方面まで下げた時点で確認されている。なお、掘り方調査時にピット2に切られる関係の土坑を1基確認しており、中期後葉の深鉢底部が出土しており、時期の異なる土坑の可能性はある。**出土遺物** 土器類1,218点、石器類148点が出土した。遺物は、覆土中からの出土が主体であるが、炉内の埋設土器が本住居跡の時期を示す遺物と考えられ、他にも深鉢の大形片が多く出土している。また石器は、縁石に関わる礫石器が主体で、この他には未掲載品として石鏃の脚部片が1点ある。**所見** 本住居跡は、縁石や髭状の列石・ピットの配置などから柄鏡形敷石住居跡と考えられ、51号住居跡との重複関係からは拡張等で建て替えられた可能性が推測される。出土遺物から、時期は縄文時代後期前葉と考えられる。

ピット規模(長径×短径×深さ・cm)

P 1	64×59×108	P 2	82×74×92	P 3	76×61×111	P 4	95×69×95	P 5	73×62×73
P 6	90×83×76	P 7	93×77×103	P 8	60×48×116	P 9	76×65×86	P10	55×44×67
P11	88×79×63	P12	43×32×44	P13	46×36×34	P14	60×52×31	P15	64×48×14
P16	54×(32)×14	P17	54×38×13	P18	62×50×61				
699坑	162×136×101	704坑	57×45×34	705坑	71×69×63				

5-51号住居跡 (第46～52・62～67図、PL13・60・61)

位置 5V・W-2・3グリッドに位置し、台地西側の平坦部に立地する。**確認面** IV層相当～V層面で確認された。IV層相当面での遺構確認時に多量の礫が分布していた。**重複** 5-22号・50号の各住居跡、5-672号土坑が重複し、22号住居跡を切り新しく、50号住居跡には切られる関係で古い。また672号土坑には切られる関係で古い。**覆土** 黒褐色～褐色土を主体とする覆土である。**形状** 平面は、柄鏡形を呈すると推測され、礫の分布などから敷石を伴う住居跡であったと考えられる。**規模** 長軸(666)cm×短軸(654)cmを測る。**方位** 長軸でN-0°を測る。**壁高** 最大で24cmを測り、緩く傾斜する立ち上がりである。**床面** 覆土上面から下位にかけて敷石の一部と見られる扁平な礫や板状礫が看取されたが、明確な敷石は確認されていない。また、土層断面の8層が床面構築土の可能性もあるが、判然としない。**周溝** 確認されていない。**柱穴** ピットを20基確認した。このうち、5-703号・706号の各土坑は、本住居跡に伴うものと考えられ、本住居跡のピットに含めた。配置は、ピット6と706号土坑が、703号土坑の南東・南西に付帯する対ピットと考えられ、703号土坑は柄鏡形敷石住居跡の連結部などにみられる大形土坑と考えられる。この他のピットは円形の配置を呈し、ピット11・15が50号住居跡の炉跡、ピット12が50号住居跡ピット4に切られる重複関係である。**炉** 住居跡のほぼ中央と思われる位置で確認されたが、北側を672号土坑、南側を50号住居跡に伴う699号土坑に切れ、また東側には50号住居跡のピット11が近接する関係のため、残存状況が悪い。炉跡は、焼土の分布に伴って浅い掘り込みが確認された状況のもので、規模は長径69cm×短径(21)cm×深さ6cmを測る。**埋設土器** 確認されていない。**掘り方** 前述した土層断面の8層が構築土の可能性はあるが判然とせず、また20基のピットはV層の掘り方面まで下げた時点で確認されている。**出土遺物** 土器類913点、石器類100点が出土した。遺物は、覆土中からの出土が主体であるが、ピット内から大形の土器片が出土しており、本住居跡の時期を示す遺物と考えられる。また石器は、上面～覆土中の礫に関わる礫石器が主体である。**所見** 本住居跡は、礫の分布やピットの配置などから柄鏡形敷石住居跡と考えられ、50号住居跡との重複関係からは拡張等で建て替えられる前の住居跡である可能性が推

測される。出土遺物から、時期は縄文時代後期初頭（～前葉）と考えられる。

ピット規模（長径×短径×深さ・cm）

P 1	71×65×63	P 2	76×64×36	P 3	52×44×28	P 4	68×56×81	P 5	60×(43)×21
P 6	80×62×54	P 7	69×57×59	P 8	95×68×82	P 9	81×69×42	P10	72×57×44
P11	44×37×59	P12	64×(28)×79	P13	67×(49)×48	P14	66×46×8	P15	53×(12)×20
P16	40×28×9	P17	37×30×8	P18	30×27×13				
703坑	146×131×70	706坑	86×(76)×56						

5-52号住居跡（第68・69図、PL14・62）

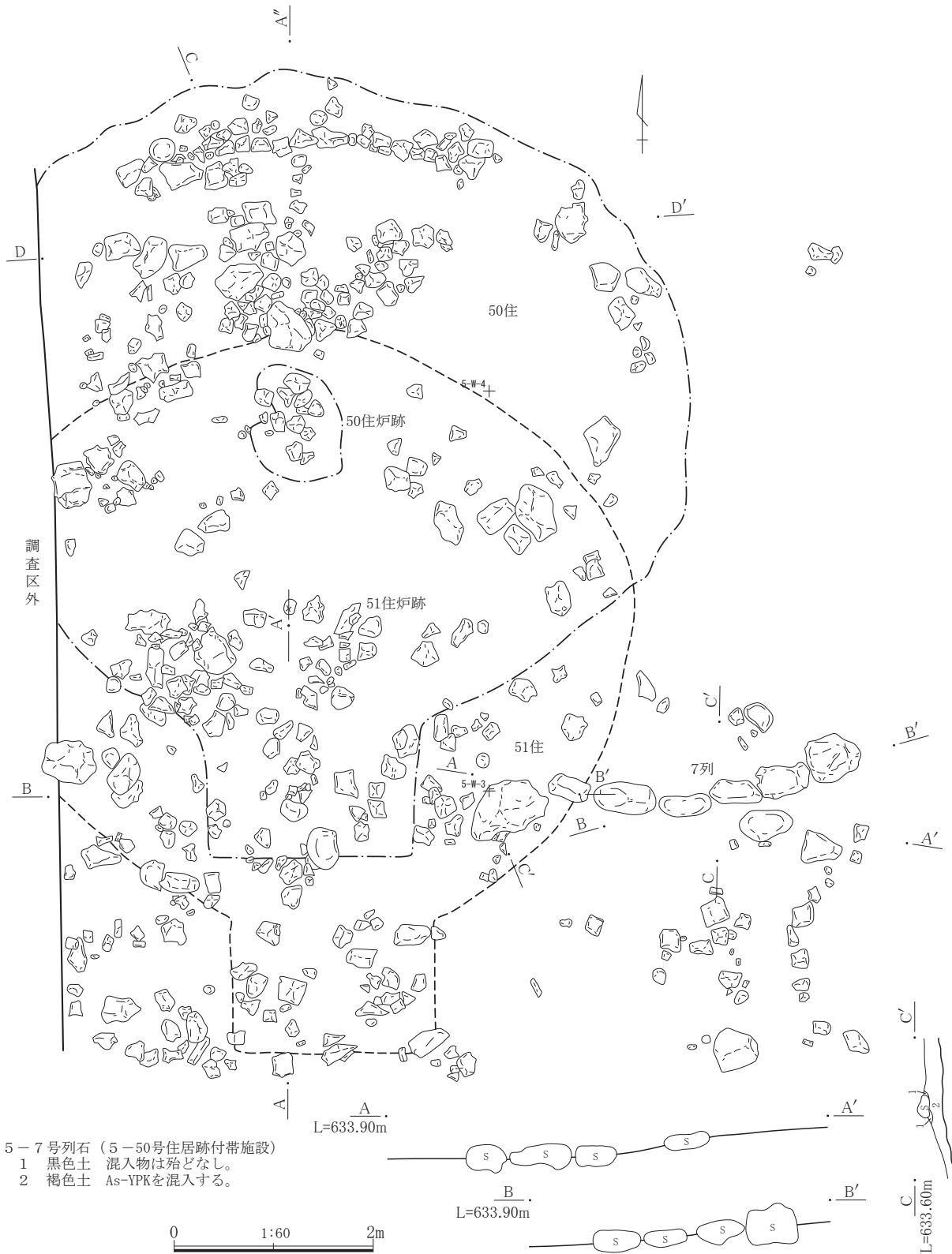
位置 5V～X-3・4グリッドに位置し、台地西側の平坦部に立地する。**確認面** IV層相当～V層面で確認された。上面～中位にかけて礫が分布・混入しており、比較的大型の礫が看取された。**重複** 5-684号・685号・686号の各土坑と重複し、684号が本住居跡を切って新しい他は、新旧は判然としない。**覆土** 暗褐色～黒褐色土の覆土で7層に分層されるが、層理に切り合うような不自然な部分が看取され、人為的な埋没の可能性が考えられる。**形状** 平面は、やや不整な円形を呈する。**規模** 長軸495cm×短軸450cmを測る。**方位** 長軸でN-45°-Eを測る。**壁高** 最大で28cmを測り、全体には傾斜する立ち上がりであるが、直に立ち上がる部分も看取される。**床面** 緩く波打つような凹凸が看取される。**周溝** 確認されていない。**柱穴** ピットを5基確認した。いずれも柱穴と考えられるが、不規則な配置であり、支柱穴は判然としない。**炉** 住居跡のほぼ中央と思われる位置で確認された。隅丸長方形を呈する掘り方の東壁と西壁に石囲を伴う。また、南側に礫が分布する状況などから、元は石囲炉であった可能性が考えられる。規模は、掘り方で長径59cm×短径51cm×深さ9cmを測る。**埋設土器** 確認されていない。**掘り方** 構築土を充填した掘り込みは確認されず、地山を削りだして床面を構築していると考えられる。**出土遺物** 土器類51点、石器類10点が出土した。遺物は、覆土中からの出土が主体であるが、炉跡や床面付近から出土した土器片があり、本住居跡の時期を示す遺物と考えられる。また石器は、石皿や多孔石など大型の礫石器が主であるが、小型の磨製石斧が1点出土している。**所見** 出土遺物の様相から、時期は縄文時代後期（初頭～）前葉と考えられる。

ピット規模（長径×短径×深さ・cm）

P 1	33×29×14	P 2	34×30×19	P 3	36×29×16	P 4	37×33×26	P 5	28×23×14
-----	----------	-----	----------	-----	----------	-----	----------	-----	----------

6-10号住居跡（第70・71図、PL14・62）

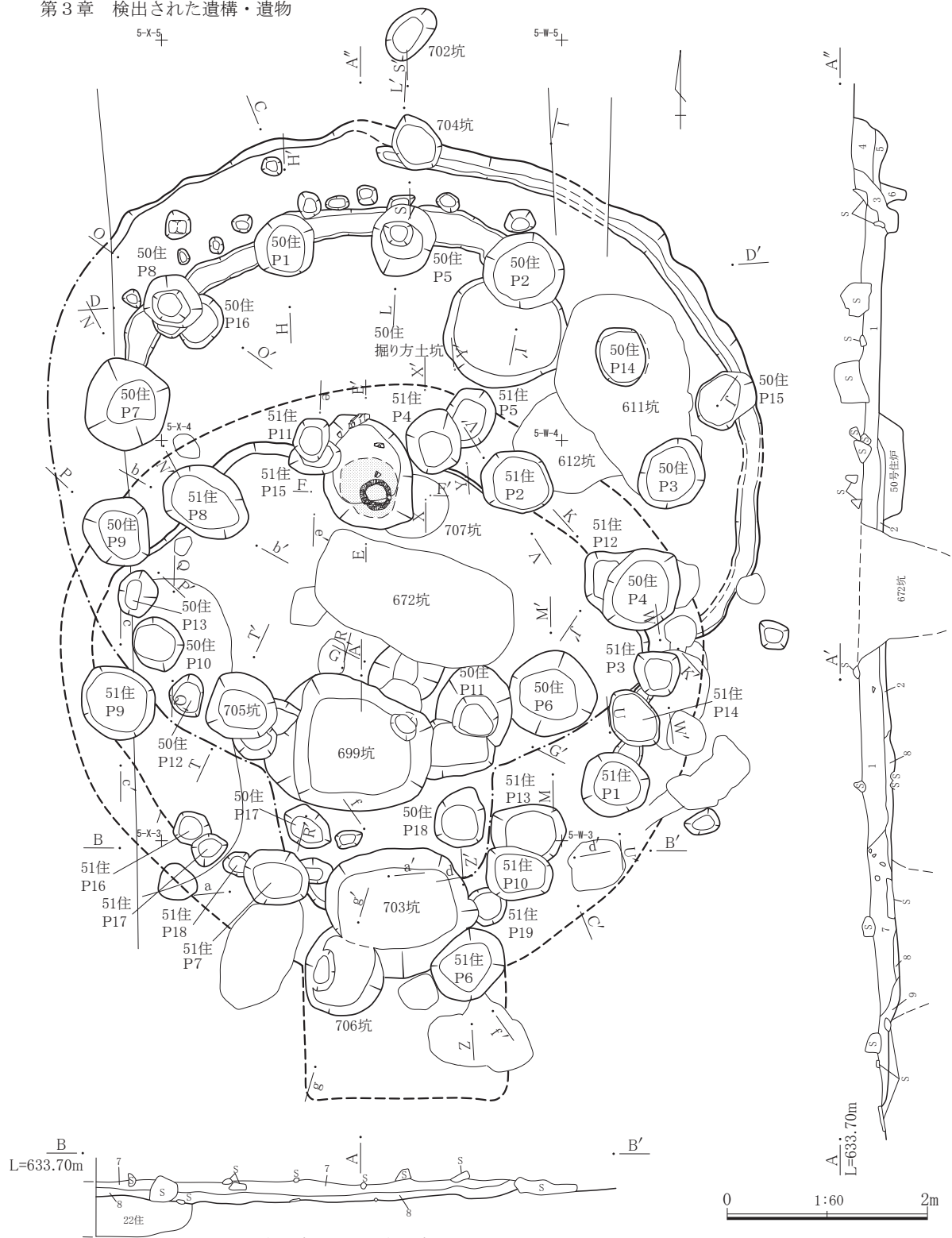
本住居跡は、6B・C-12・13グリッドに位置し、台地西側縁辺で南西に面する傾斜地に立地する。本住居跡は、平成13年度と15年度にわたって調査されているため、本文では平成13年度の調査における概要を記すことにしたい。平成13年度の調査では、IV～V層面で礫や遺物が集中する状況から住居跡の西半部を検出し、この時点で東半部は調査区外にかかる状況であった。重複関係などでは、北壁に6-40ピットが近接するが切り合う遺構は確認されていない。平面形は柄鏡形を呈すると考えられ、張出部に敷石を伴う。また、覆土上位から中位にかけて礫や遺物が多く混入していた。このように、本住居跡は柄鏡形敷石住居跡と考えられ、残る東半部の調査において全容を明らかにする必要性や有効性が検討され、土嚢やケミカルシート等で養生後に一旦埋め戻された。その後、平成15年度に残る東半部の調査が行われ、住居跡の全体が調査された。なお、平成13年度の調査において本住居跡から出土した遺物は、土器108点・石器類3点である。遺物は覆土中からの出土を主体とするが、この中には補修孔を伴う朝顔形の深鉢の個体があり、石器は磨石類などである。現状では、出土遺物の様相から、時期は後期前葉と推定されるが、詳細については平成15年度の



第46図 5-50号・51号住居跡(1)



第47図 5-50号・51号住居跡(2)



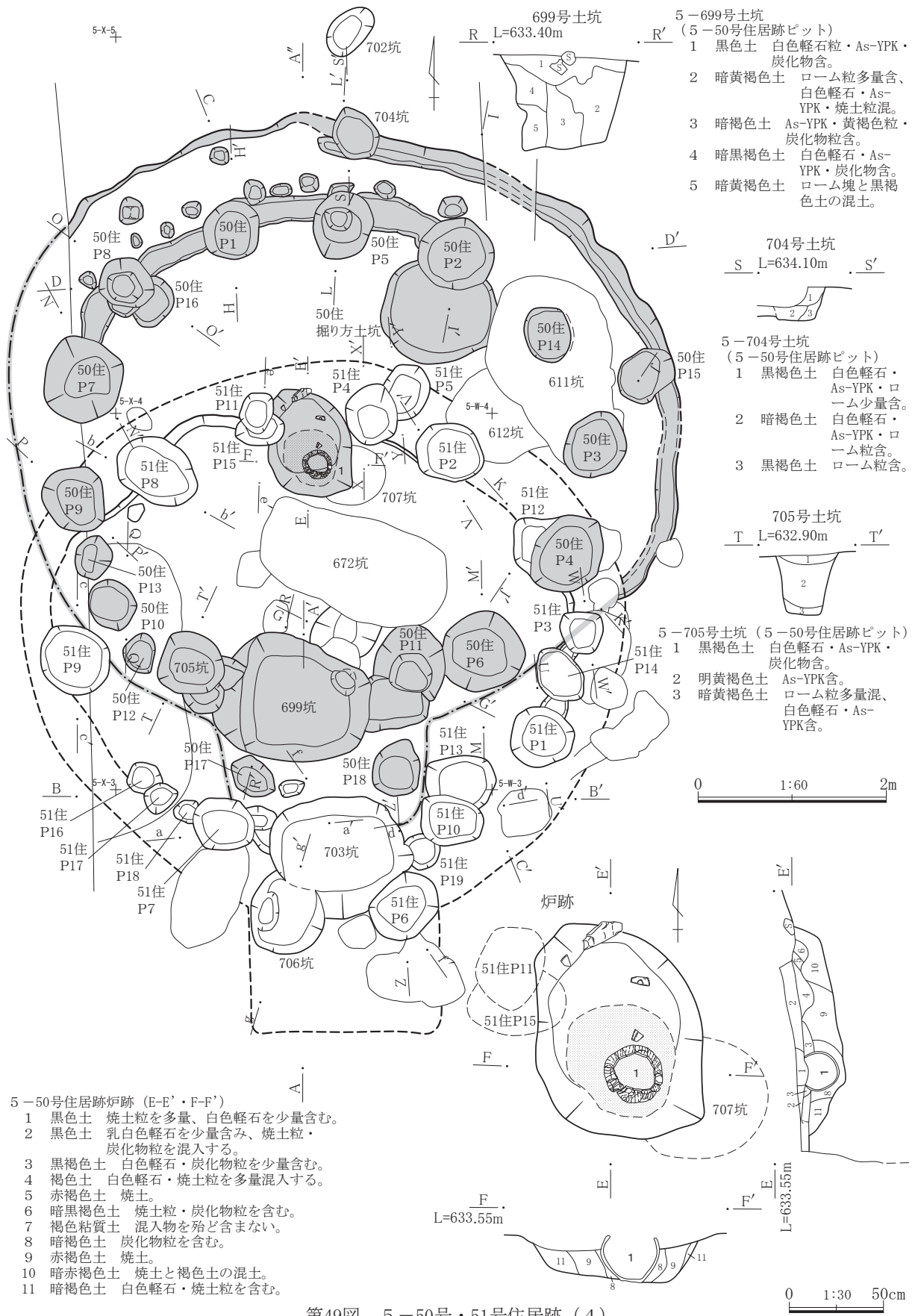
5-50号住居跡・5-51号住居跡

(A-A'・A'-A''・B-B')

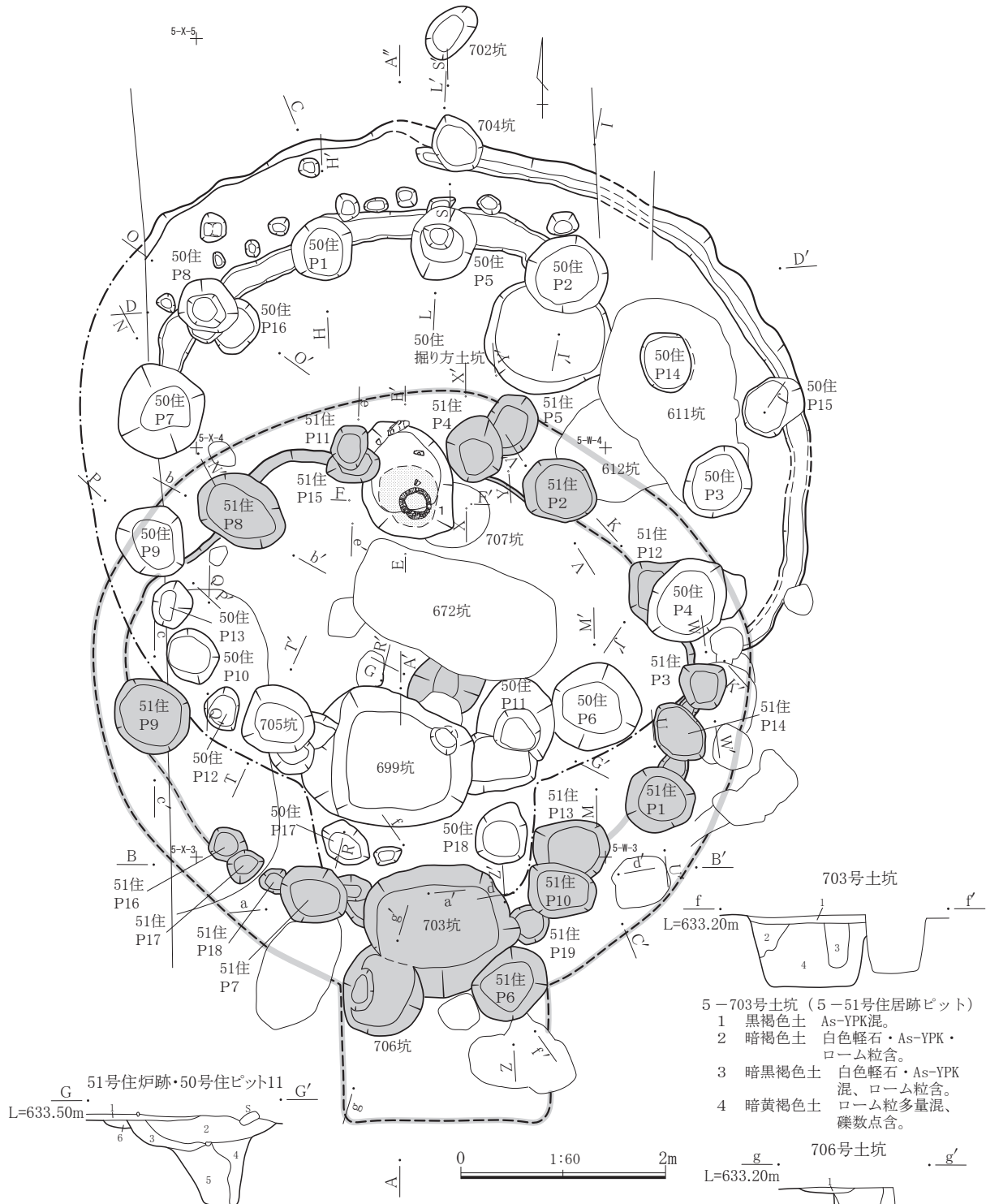
- 1 黒褐色土 白色軽石を多量、炭化物粒を少量混入する。(5-50号住居跡)
- 2 黒褐色土 焼土粒を混入する。(5-50号住居跡)
- 3 暗褐色土 白色軽石粒・As-YPKを少量含む。(5-50号住居跡)
- 4 暗褐色土 As-YPK・ローム粒を含む。(5-50号住居跡)
- 5 黒褐色土 As-YPKを少量含む。(5-50号住居跡)
- 6 褐色土 白色軽石粒・ローム粒を混入する。(5-50号住居跡)
- 7 黒褐色土 白色軽石粒・As-YPK・炭化物粒を混入する。(5-51号住居跡)
- 8 褐色土 混入物を殆ど含まない。(5-51号住居跡)
- 9 暗褐色土 白色軽石を少量混入する。(5-51号住居跡)

第48図 5-50号・51号住居跡(3)

第3節 縄文時代



第49図 5-50号・51号住居跡 (4)



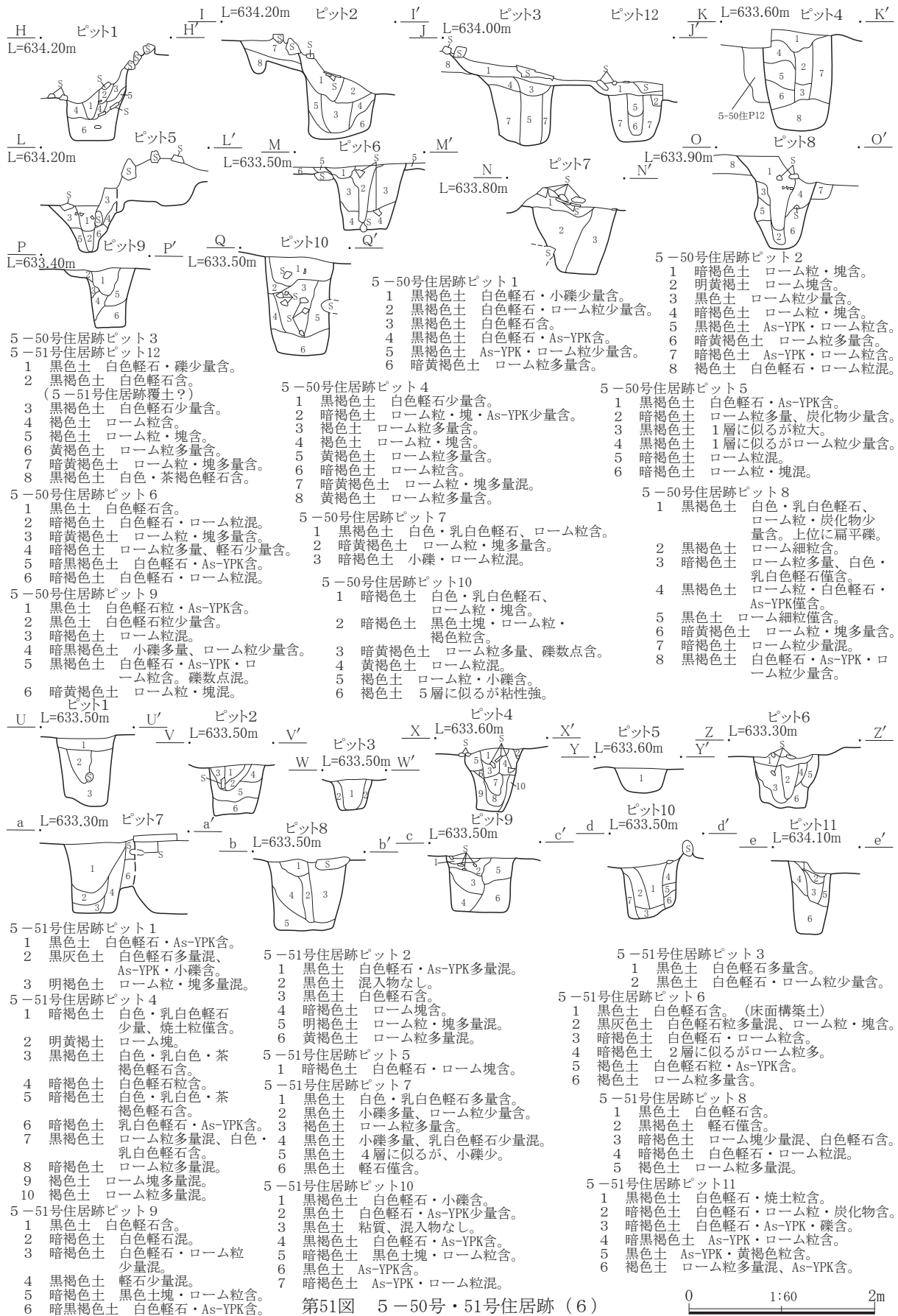
- 5-51号住居跡・5-50号住居跡ピット11 (G-G')
- 1 黒褐色土 As-YPK・白色軽石を多量、小礫を僅かに含む。部分的に黒色土あり。A-A'の2層に相当。
 - 2 黒褐色土 As-YPK・白色軽石を多量含む。
 - 3 暗褐色土 As-YPKを多量、ローム粒・焼土粒を少量含む。軽石が少ない部分あり。
 - 4 暗褐色土 As-YPK・ローム粒を少量含む。(柱痕か?)
 - 5 暗褐色土 ローム粒・As-YPK・焼土塊を多量、小礫を少量混入する。焼土塊が少ない部分あり。
 - 6 赤暗褐色土 全体に被熱を受け、赤色がかかる焼土。(5-51号住居跡炉跡)

- 5-703号土坑 (5-51号住居跡ピット)
- 1 黒褐色土 As-YPK混。
 - 2 暗褐色土 白色軽石・As-YPK・ローム粒含。
 - 3 暗黒褐色土 白色軽石・As-YPK混、ローム粒含。
 - 4 暗黄褐色土 ローム粒多量混、礫数点含。

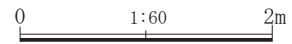
- 5-706号土坑 (5-51号住居跡ピット)
- 1 黒褐色土 ローム粒僅含。
 - 2 黒褐色土 As-YPK・白色軽石・ローム粒多量混。(5-703号土坑覆土)
 - 3 黒褐色土 As-YPK・白色軽石少量含。
 - 4 黒褐色土 ローム粒多量、As-YPK少量含。
- ※5-703号土坑が5-706号土坑を切る重複関係。

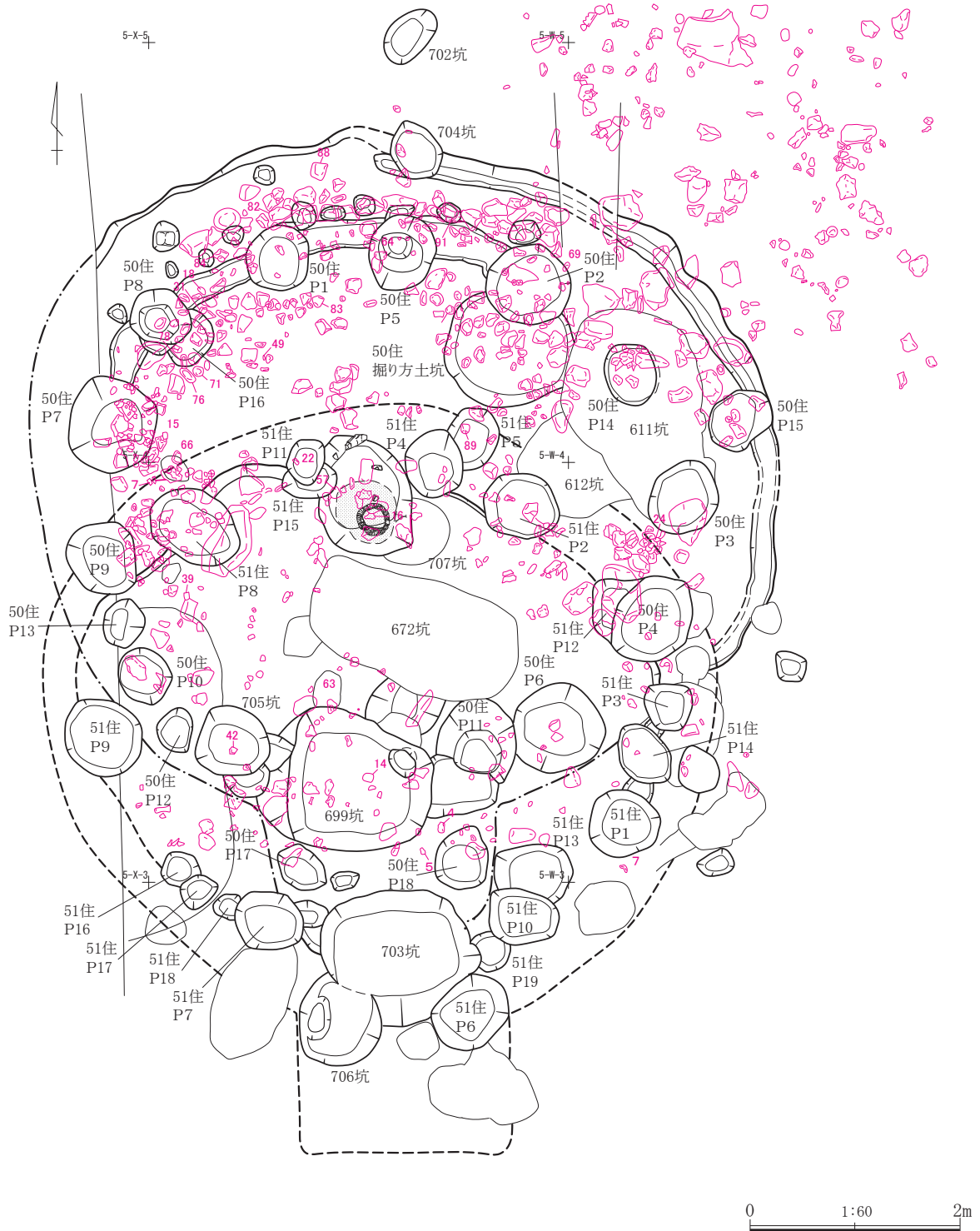
第50図 5-50号・51号住居跡 (5)

第3節 縄文時代

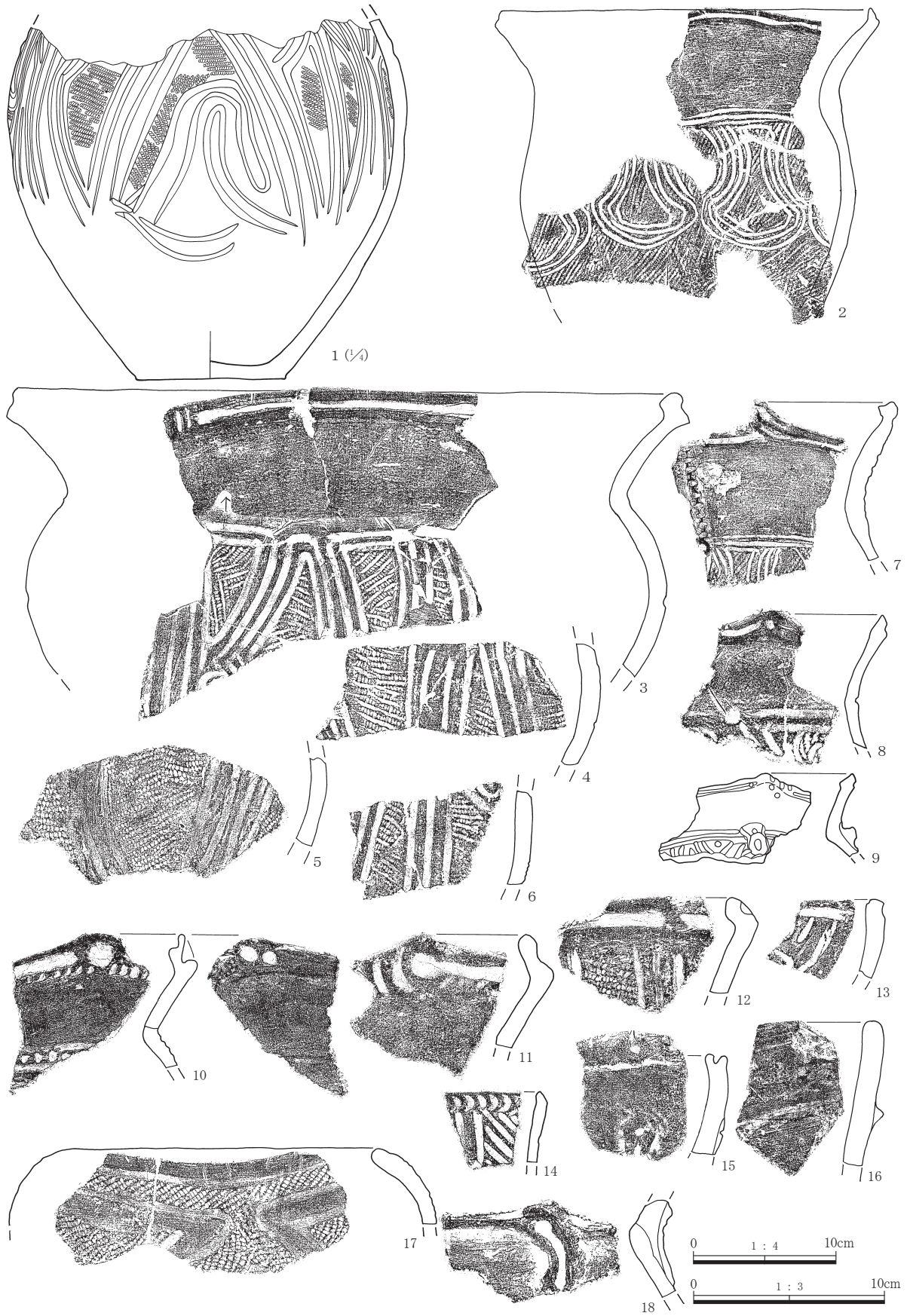


第51図 5-50号・51号住居跡(6)

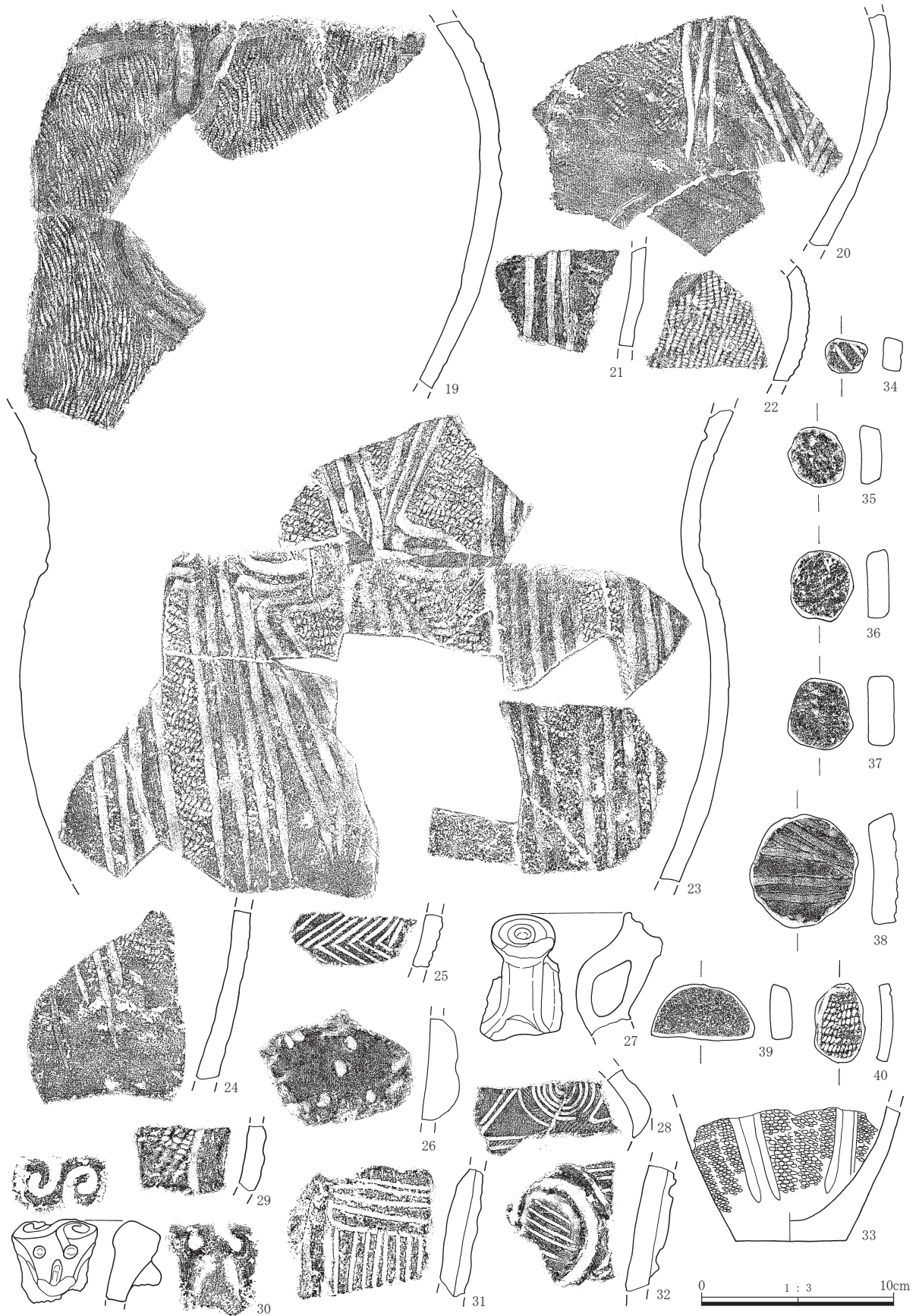




第52図 5-50号・51号住居跡(7)



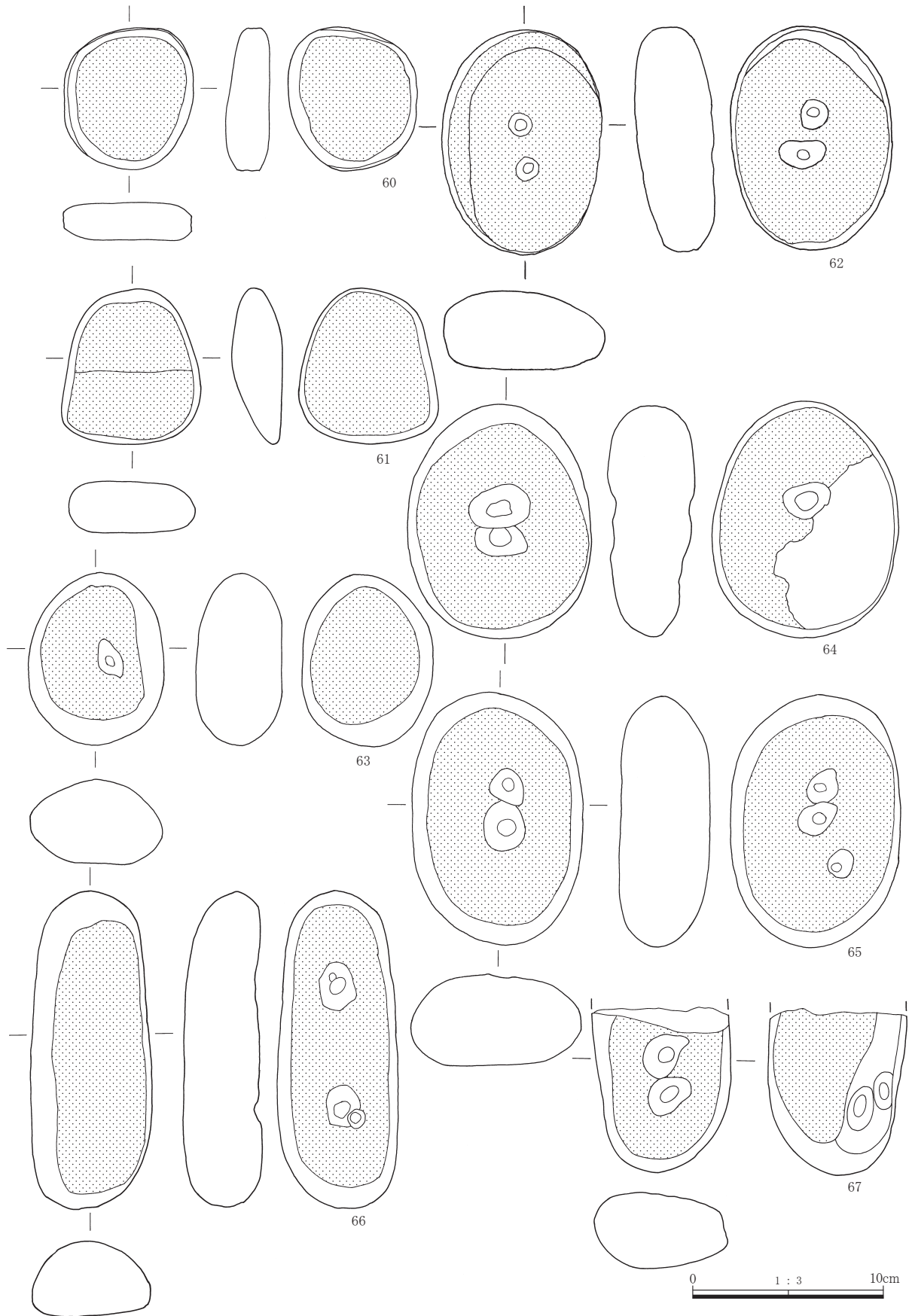
第53図 5-50号住居跡出土遺物(1)



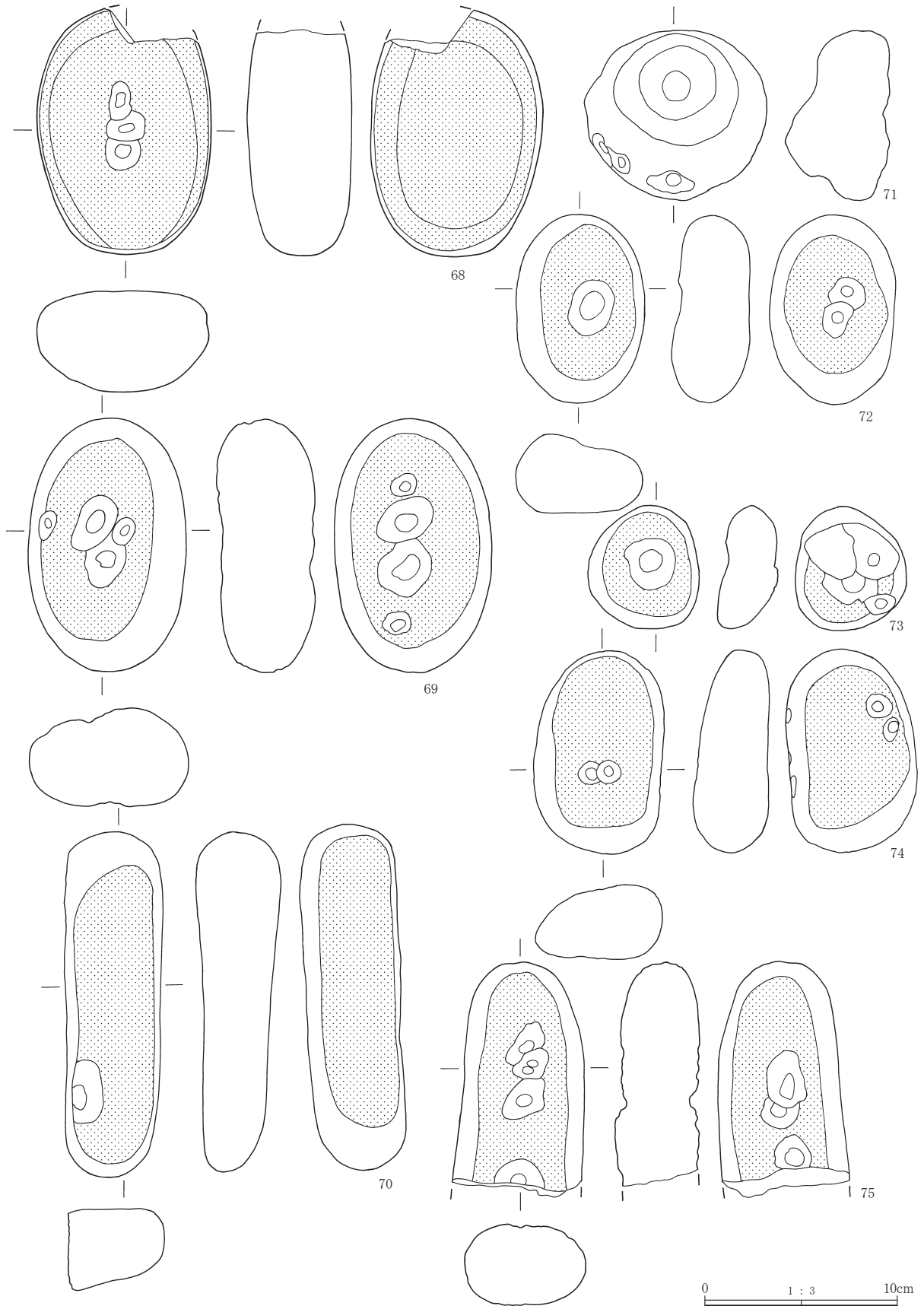
第54図 5-50号住居跡出土遺物(2)



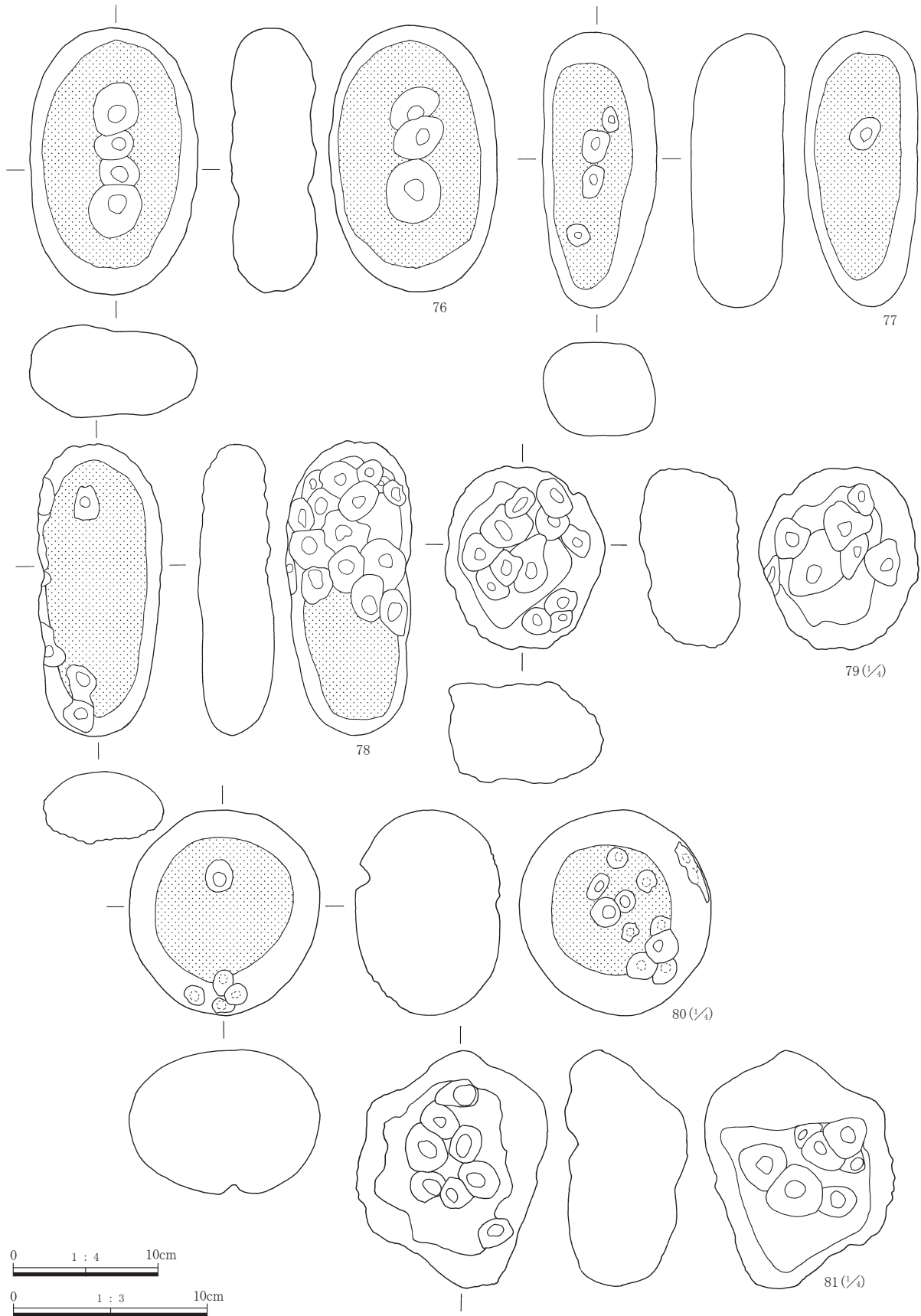
第55図 5-50号住居跡出土遺物(3)



第56図 5-50号住居跡出土遺物(4)



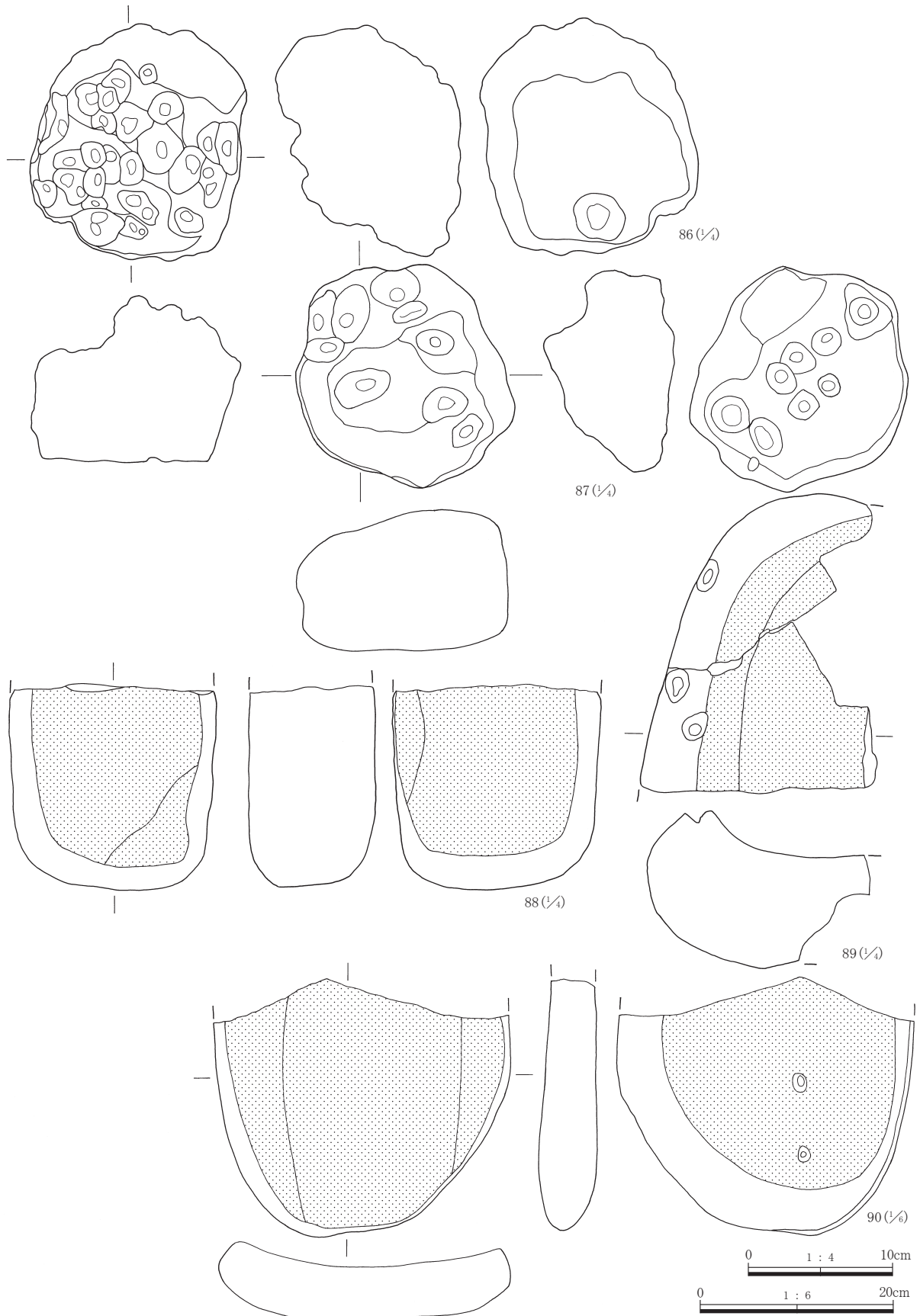
第57図 5-50号住居跡出土遺物(5)



第58図 5-50号住居跡出土遺物(6)



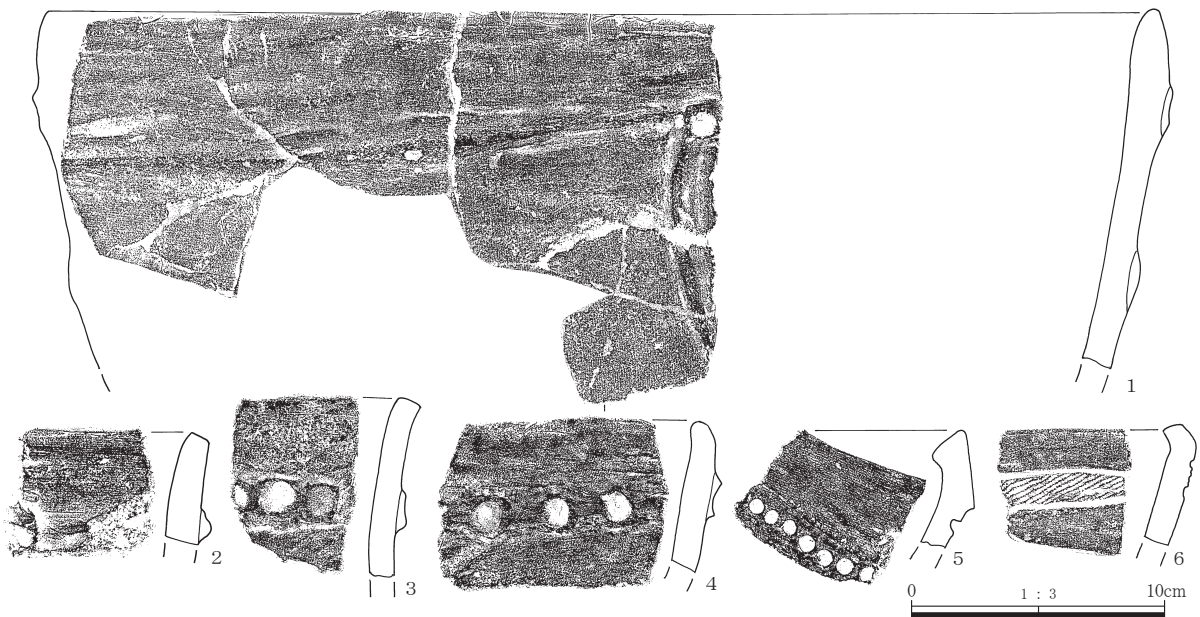
第59図 5-50号住居跡出土遺物(7)



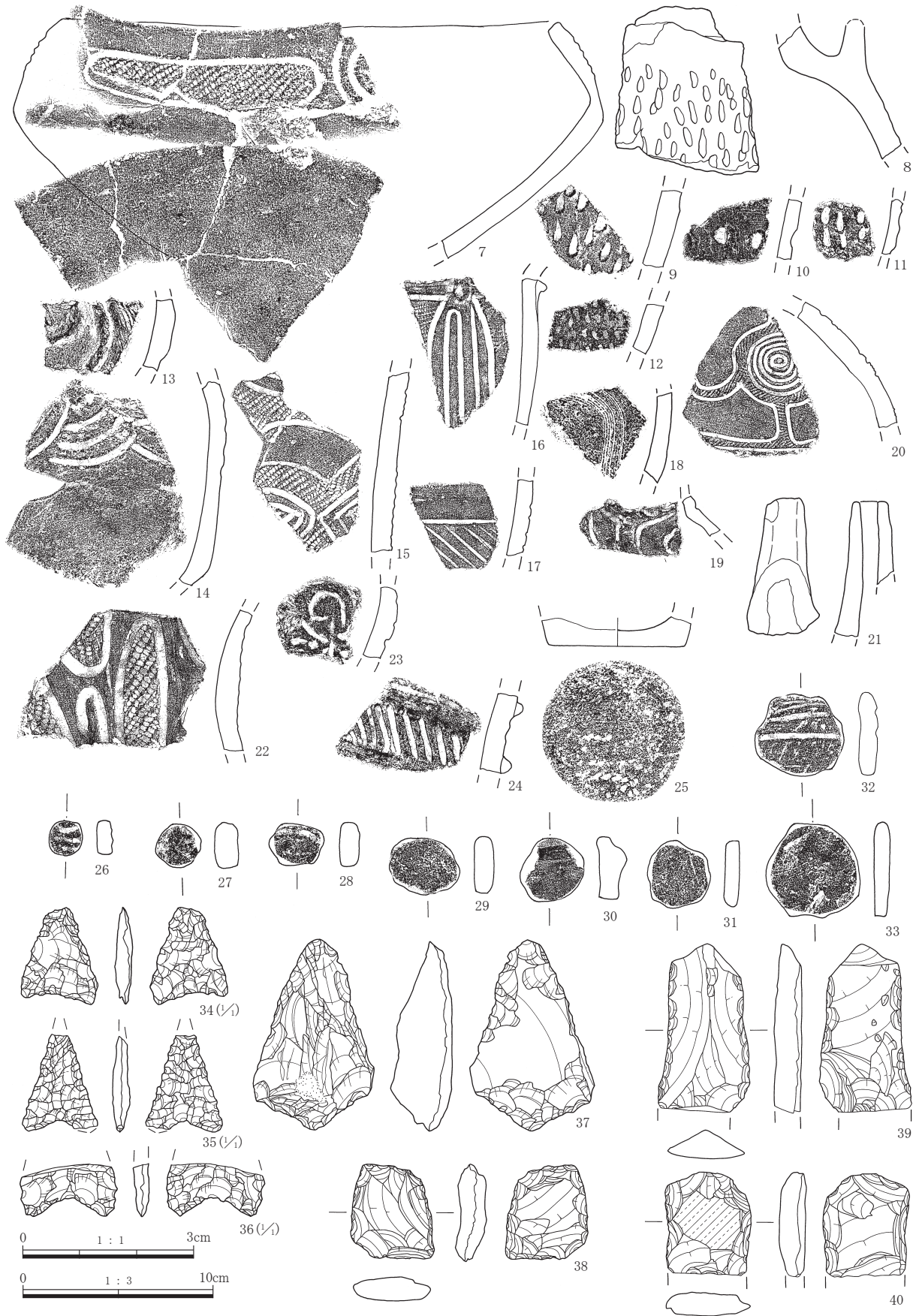
第60図 5-50号住居跡出土遺物(8)



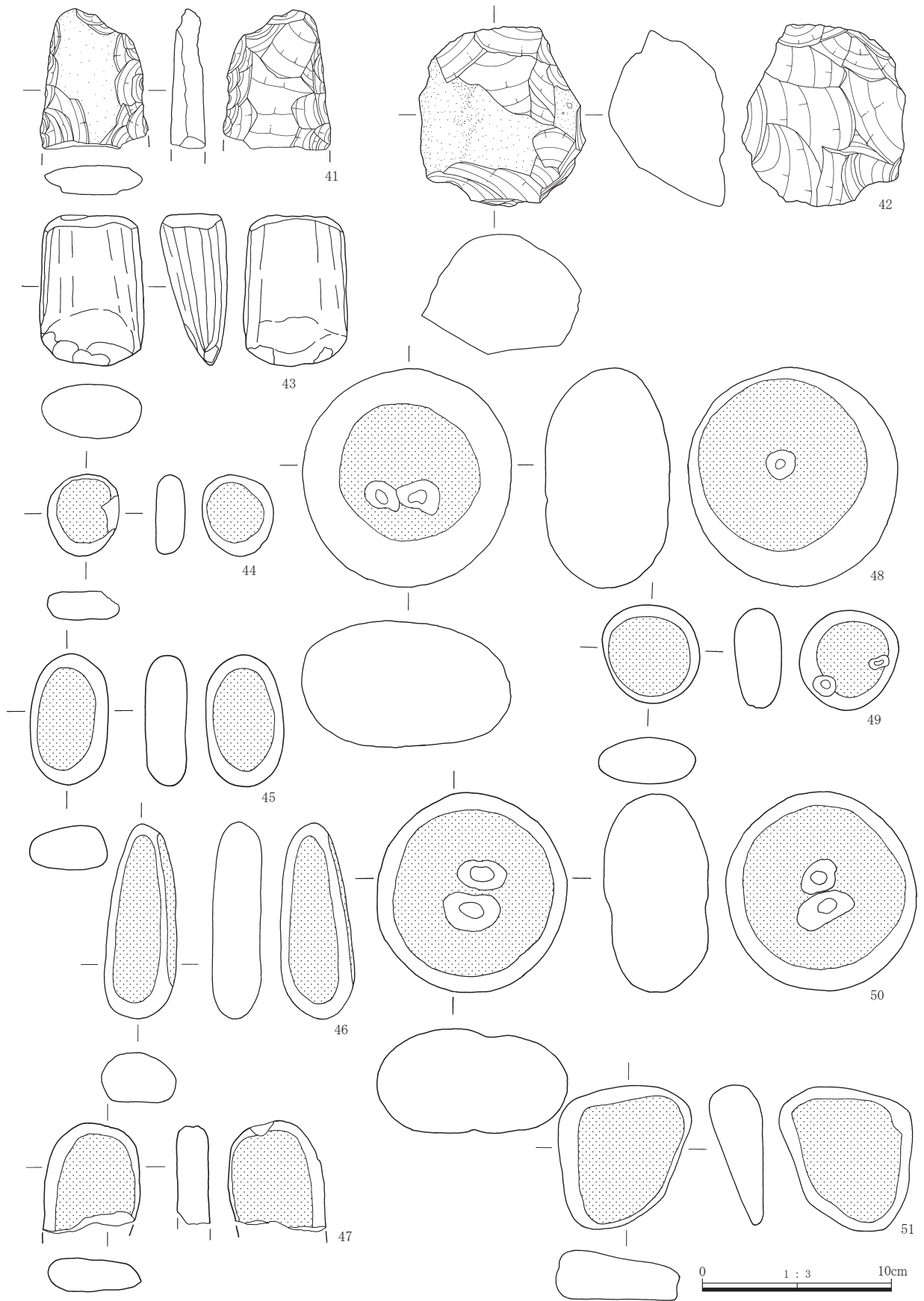
第61図 5-50号住居跡出土遺物(9)



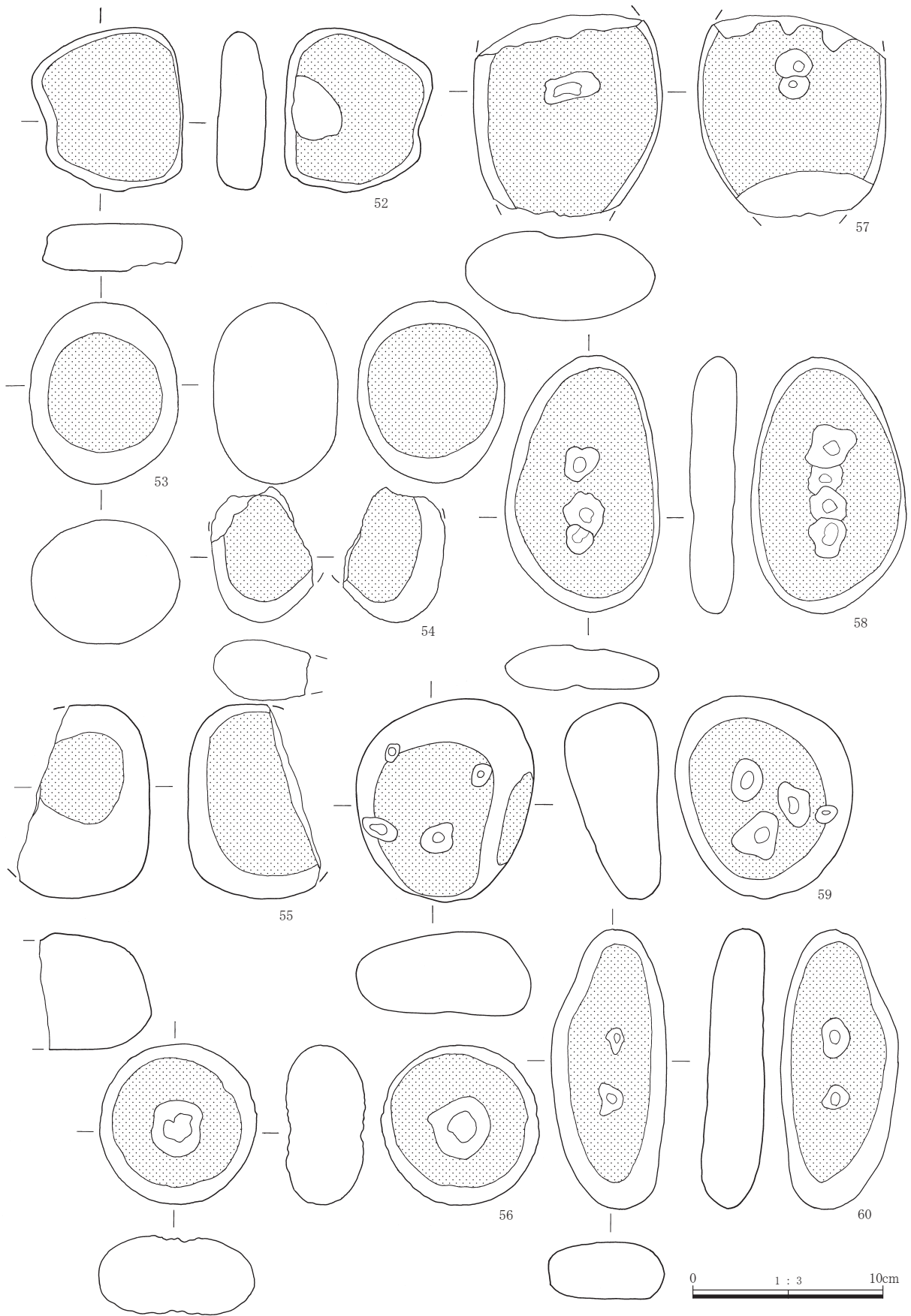
第62図 5-51号住居跡出土遺物(1)



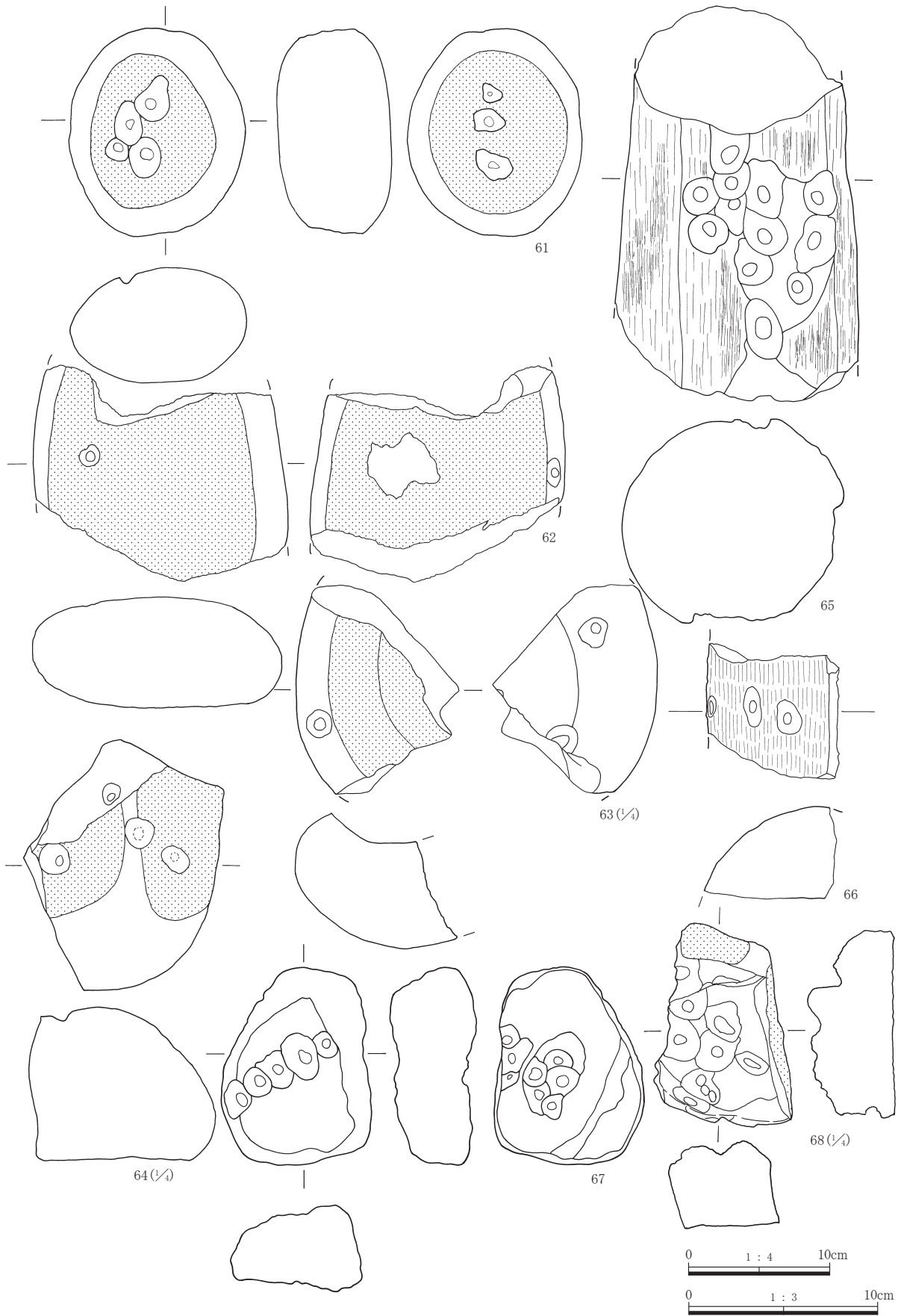
第63図 5-51号住居跡出土遺物(2)



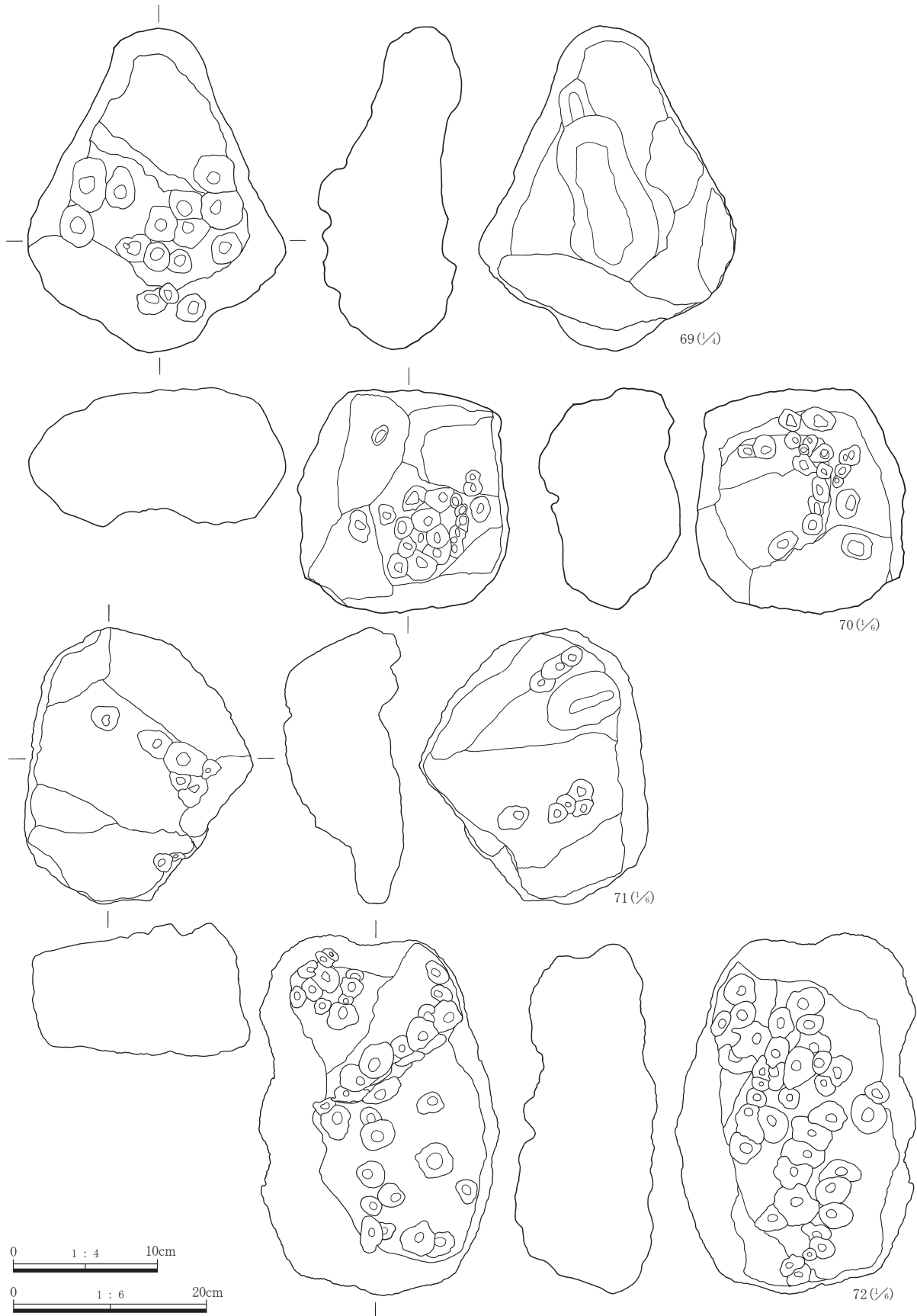
第64図 5-51号住居跡出土遺物(3)



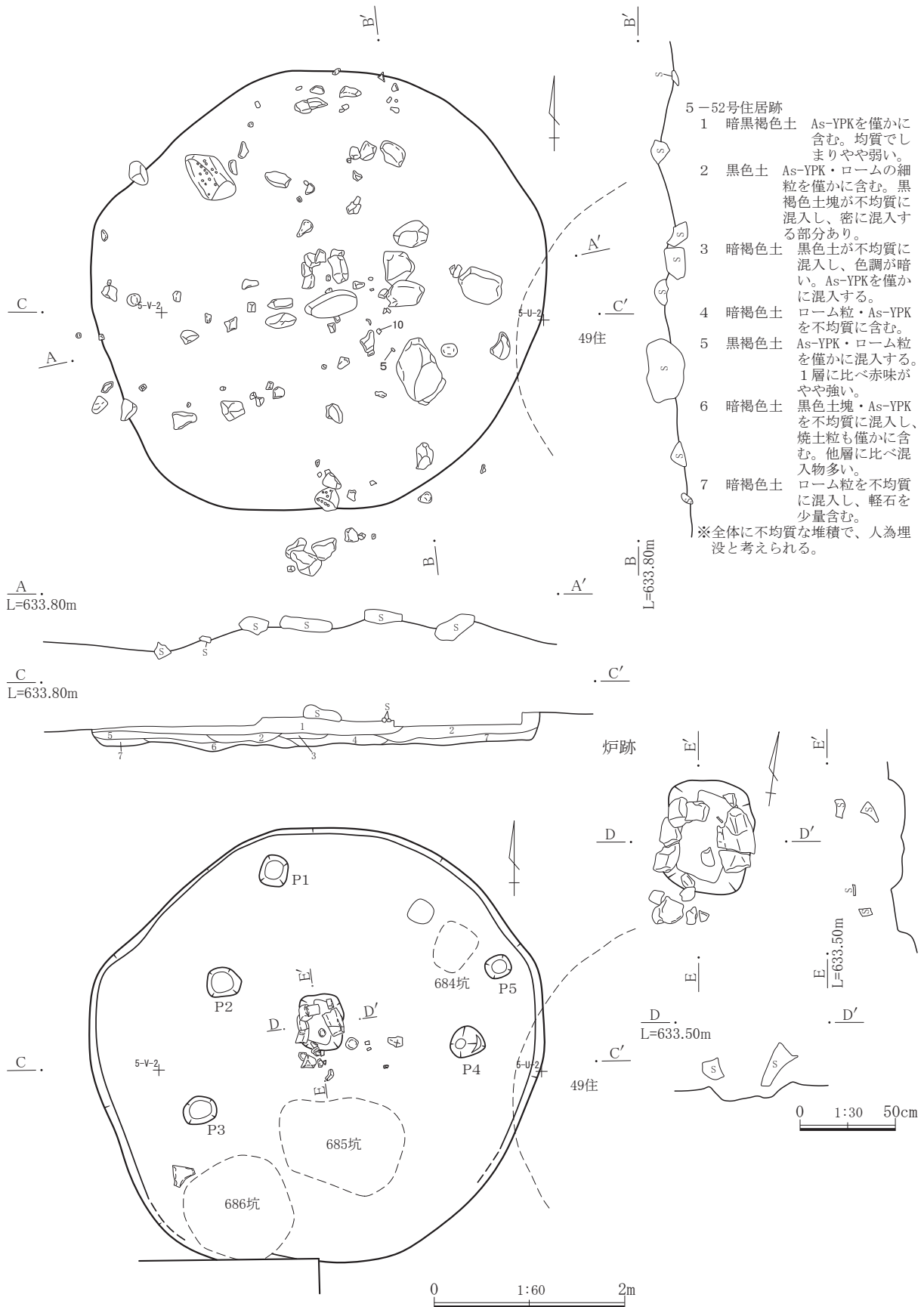
第65図 5-51号住居跡出土遺物(4)



第66図 5-51号住居跡出土遺物(5)



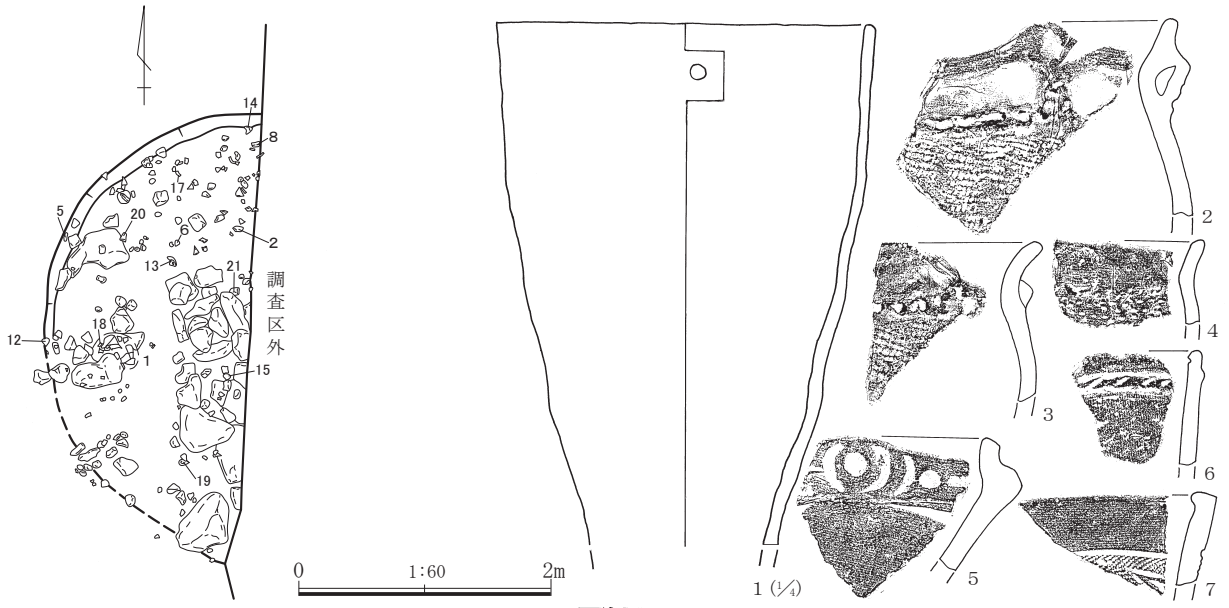
第67図 5-51号住居跡出土遺物(6)



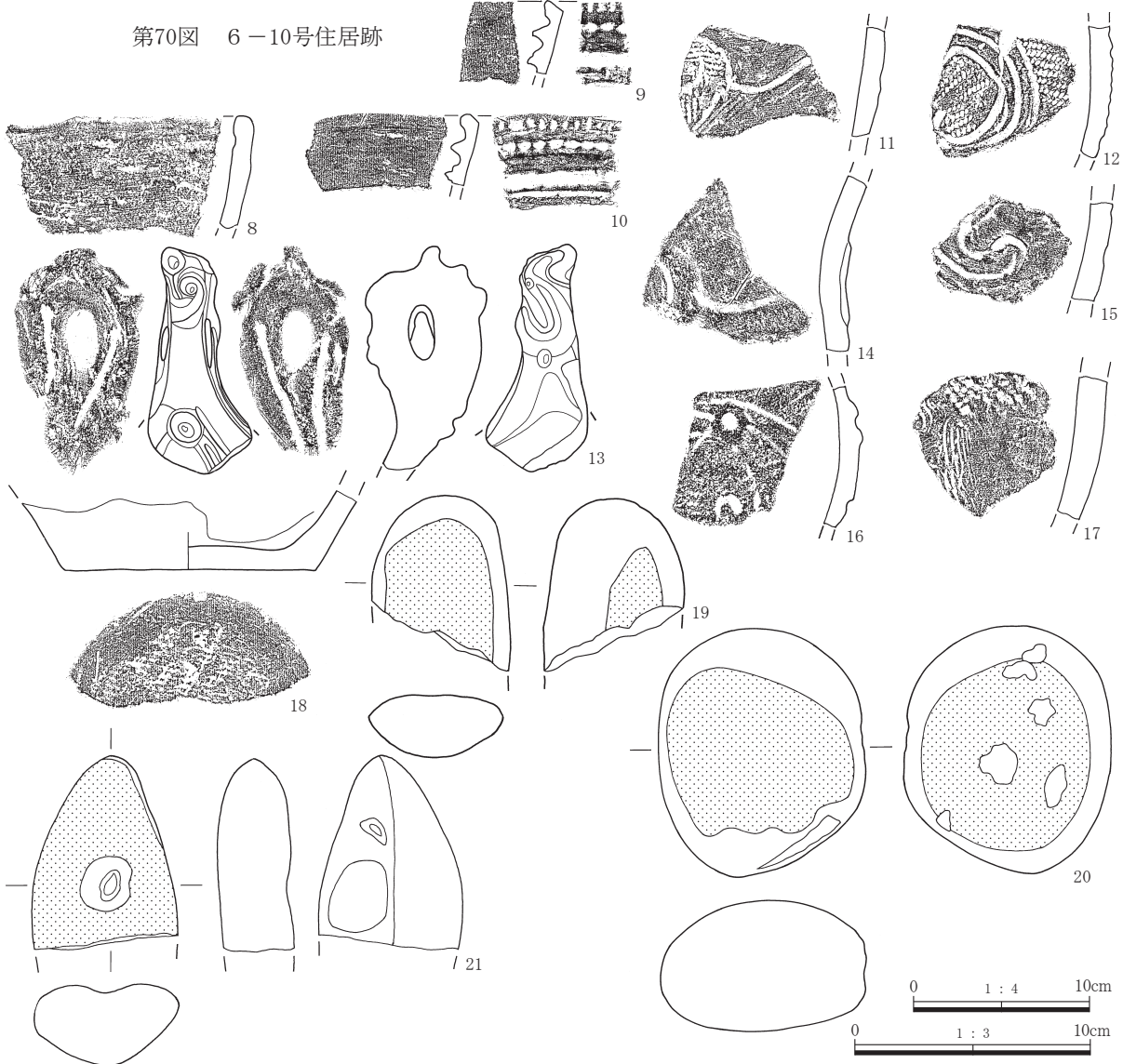
第68図 5-52号住居跡



第69図 5-52号住居跡出土遺物



第70図 6-10号住居跡



第71図 6-10号住居跡出土遺物

第3章 検出された遺構・遺物

調査成果として報告したい。

6-11号住居跡 (第72・75図、PL15・63)

位置 6D-11・12グリッドに位置し、台地西側縁辺で南西に面する傾斜地に立地する。**確認面** IV層相当～V層面で確認された。IV層の黒褐色土面で焼土の分布を確認し、住居跡を想定したが、プランは判然としなかった。この後、V層面で土坑・ピットを確認し、これらは単独のピットとして調査したが、これらが焼土範囲を中心にまとまる状況が看取されたため、住居跡のピットに振り替えた。また、南半部が過年度調査区にかかるが、プランが不明瞭であり、過年度には本住居跡は確認されていない。**重複** 6-192号土坑がピットと直接切り合う関係にあり、また6-188号・192号・193号・196号・198号の各土坑、6-54号・59号・60号の各ピットが重複する位置にあり、192号が切られて古い他は、新旧は判然としない。**覆土** 黒褐色～暗褐色土の堆積が確認されているが、確認面が床面～掘り方相当面と考えられるため、確認された土層は掘り方にあたるものと考えられる。**形状** 平面は、円形を呈すると推定される。**規模** ピット間で長軸(546)cm×短軸(186)cmを測る。**方位** 長軸でN-72°-Eを測る。**壁高** 確認されていない。**床面** 確認面が床面～掘り方にあたり、焼土分布面が床面に近いと考えられる。**周溝** 確認されていない。**柱穴** ピットを15基確認したが、調査時には単独のピットとされていたものを整理時に住居跡に伴う可能性を推定して振り替えたものである。このうち、ピット1・2・3・4は等間隔に並び、この延長にピット6～11までの重複するピット群が位置する。**炉** 焼土範囲の東側下面で、住居跡のほぼ中央と思われる位置に6-197号土坑が位置し、これを炉跡の掘り方と推定した。この土坑の北西～西壁部には地山礫が露出し、これが壁をなしている。規模は、長径100cm×短径78cm×深さ24cmを測る。**埋設土器** 確認されていない。

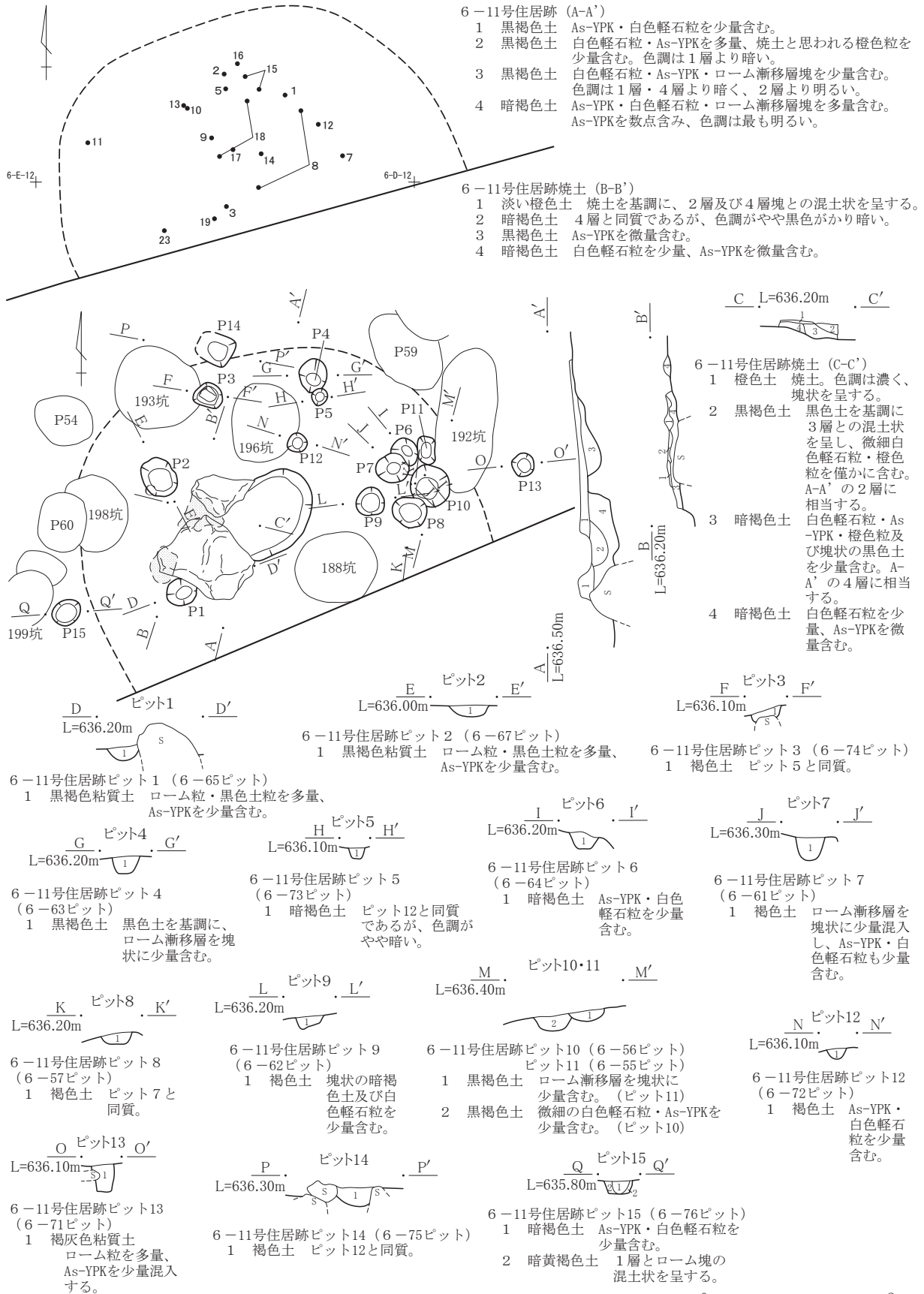
掘り方 床面～掘り方が確認面にあたるため、判然としない。**出土遺物** 土器類232点、石器類13点が出土した。遺物は、焼土範囲の北東側にまとまる状況が看取され、土器は破片が殆どである。石器類は、磨石と思われる礫石器の他は剥片類である。**所見** 出土遺物の様相から、時期は縄文時代後期前葉と考えられる。

ピット規模(長径×短径×深さ・cm)

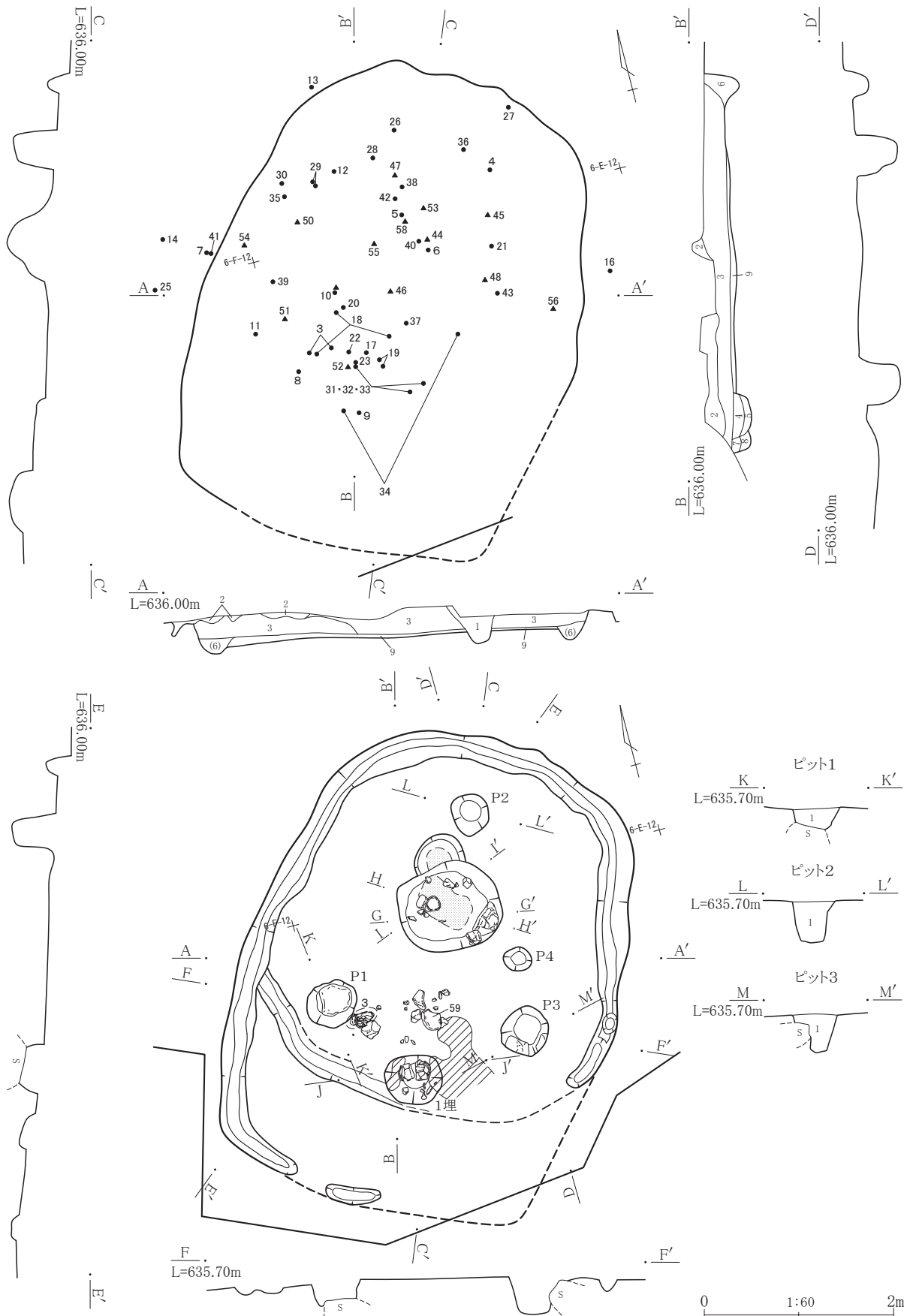
P1	32×(27)×7	P2	44×35×10	P3	32×26×14	P4	36×29×19	P5	19×17×8
P6	29×(19)×24	P7	34×31×24	P8	38×32×7	P9	32×28×8	P10	47×(28)×12
P11	50×39×21	P12	24×19×11	P13	26×24×28	P14	45×32×15	P15	32×24×5

6-12号住居跡 (第73・74・76～79図、PL16・63・64)

位置 6E・F-11・12グリッドに位置し、台地西側縁辺で南西に面する傾斜地に立地する。**確認面** IV層相当～V層面で確認された。IV層面の包含層調査時に多量の遺物が出土しており、V層面付近で住居跡のプランが確認できた状況である。当初は隅丸方形のプランを確認したが、掘り方調査時に南側に張り出す部分が確認された。また、北東隅のプランは不明瞭で確認できなかった。**重複** 6-66号ピットが上面から切り込む関係で新しい。**覆土** 黒褐色～褐色土を主体とする覆土で、特に褐色土は単一的な様相を呈する。**形状** 平面は、隅丸方形を呈すると推定されるが、南側の張り出し部を含めると隅丸長方形と推定される。**規模** 長軸408cm×短軸405cmを測り、張り出し部を含めると長軸は525cmを測る。**方位** 長軸でN-35°-Eを測る。**壁高** 最大で40cmを測り、傾斜する立ち上がりである。**床面** 埋設土器の東側に貼床の硬化面が部分的に確認され、全体的には平坦な床面である。**周溝** 確認した範囲では、張り出し部も含めてほぼ全周する。規模は、最大で上幅40cm×下幅15cm×深さ19cmを測る。**柱穴** ピットを4基確認した。このうち、炉跡を中心にピット1・2・3が三角形を呈する位置にあり、ピット2・3間に規模の小さいピット4が位置する配置である。規模や間隔等から、三角形の配置である3本が支柱穴と考えられ



第72図 6-11号住居跡



第73図 6-12号住居跡(1)

6-12号住居跡

- 1 黒色土 (6-66ピット覆土)
- 2 黒褐色土 混入物が少ない。
- 3 褐色土 白色軽石粒・褐色粒を多量、ローム漸移層塊を少量含む。
- 4 黒褐色シルト質土 褐色粒を多量含む。(埋設土器覆土)
- 5 黒褐色シルト質土 4層よりも褐色粒を多く含む。(埋設土器覆土)
- 6 黒色粘質土 ローム漸移層粒を多量、As-YPKを僅かに含む。(周溝覆土)
- 7 黒褐色粘質土 褐色粒・白色軽石粒を多量、As-YPKを少量含む。(周溝覆土)
- 8 灰黄褐色シルト質土 黒色粒を多量、As-YPKを僅かに含む。(周溝覆土)
- 9 黒褐色粘質土 7層に類似するが、7層より褐色粒を多く含む。(床面構築土)

6-12号住居跡ピット1

- 1 黒色シルト質土 褐色粒・As-YPKを多量含み、ローム粒・焼土粒・炭化物粒を僅かに含む。

6-12号住居跡ピット2

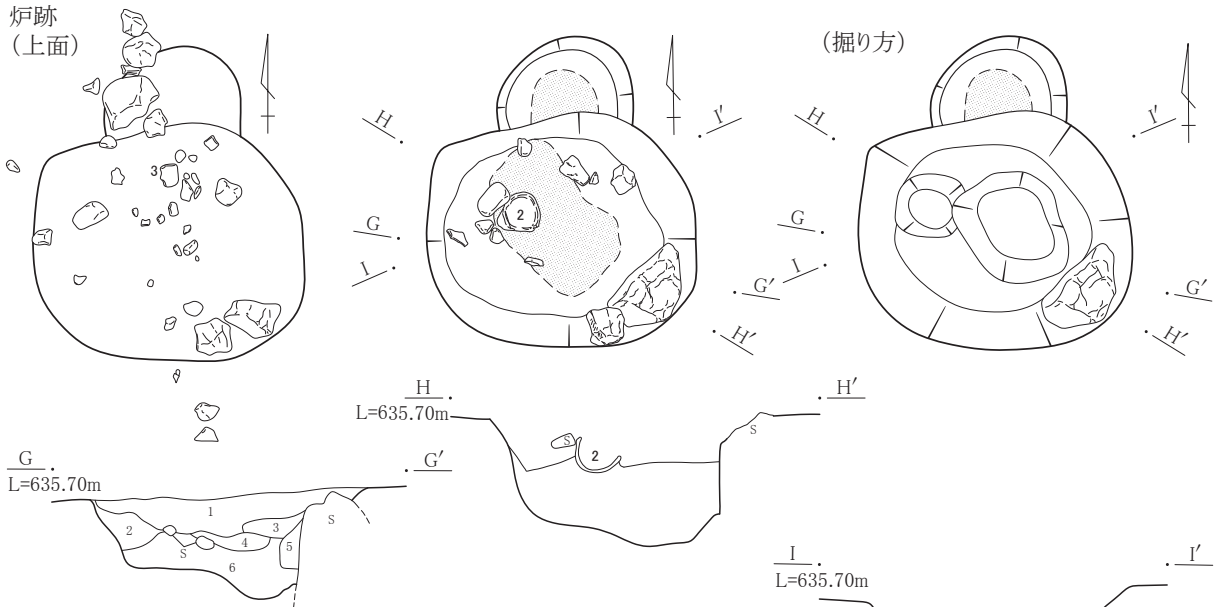
- 1 黒色シルト質土 As-YPK・白色軽石粒・焼土粒・炭化物粒を多量、ローム粒を僅かに含む。

6-12号住居跡ピット3

- 1 黒色シルト質土 ローム粒・As-YPKを多量含み、焼土粒・炭化物粒を少量、白色軽石粒・ローム塊を僅かに含む。

炉跡

(上面)



(掘り方)

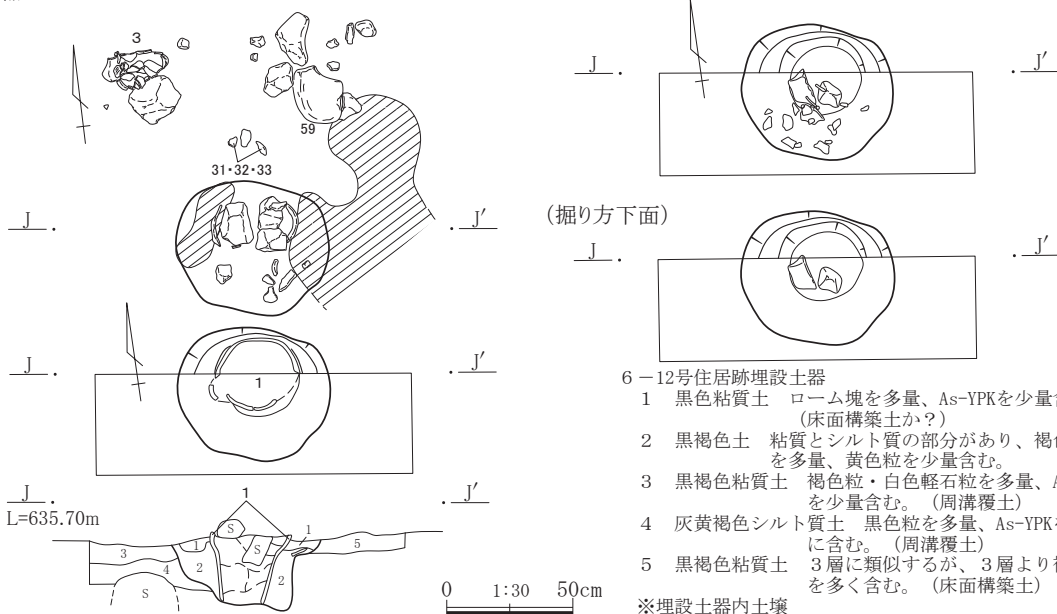
6-12号住居跡炉跡

- 1 黒色粘土質土 As-YPK・白色軽石粒・焼土粒・炭化物粒を多量含む。
- 2 黄褐色シルト質土 ローム粒・As-YPKを多量含む。
- 3 暗灰黄色シルト質土 ローム粒を多量、As-YPKを少量含む。
- 4 褐色シルト質土 焼土粒・焼土塊・ローム粒を多量、As-YPKを僅かに含む。
- 5 黒色シルト質土 白色軽石粒を多量含む。
- 6 灰褐色シルト質土 白色軽石粒・ローム粒・ローム塊を多量含む。

埋設土器

(上面)

(掘り方上面)



(掘り方下面)

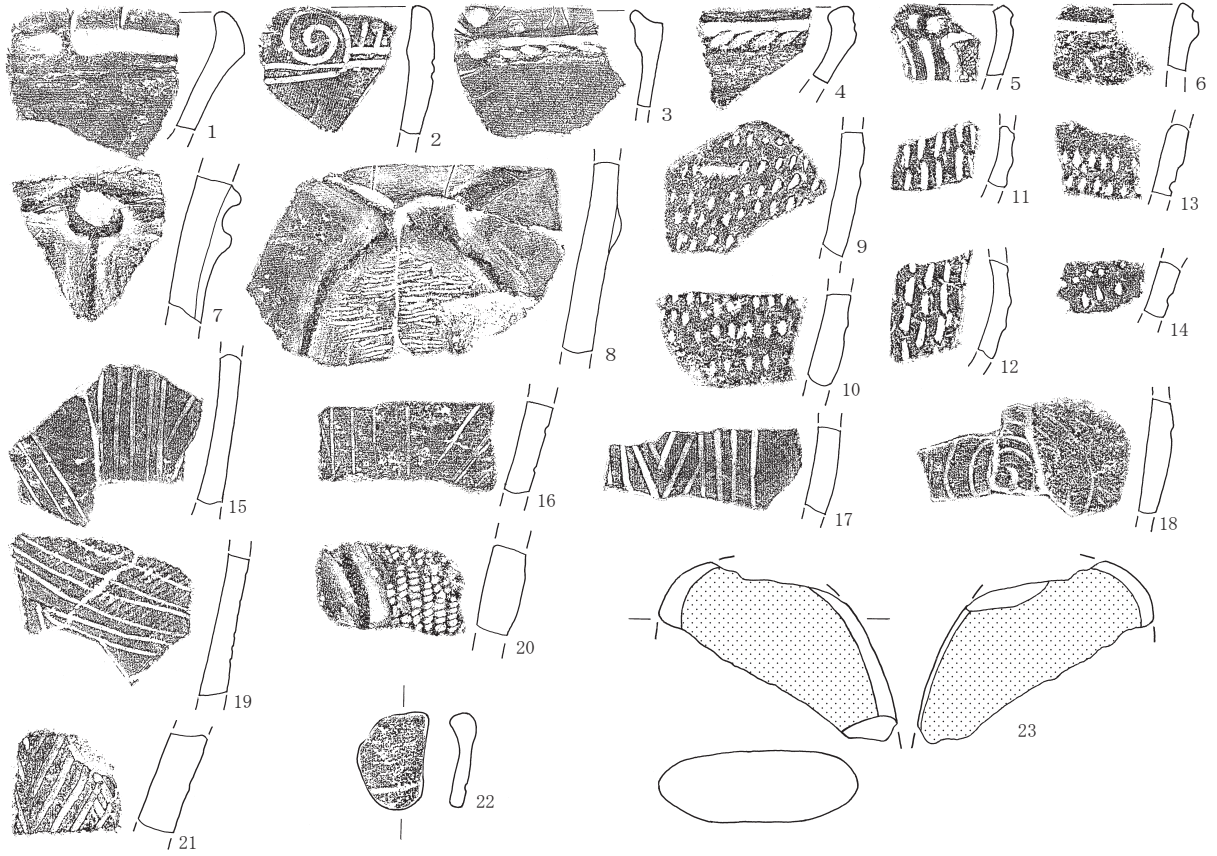
6-12号住居跡埋設土器

- 1 黒色粘質土 ローム塊を多量、As-YPKを少量含む。(床面構築土か?)
- 2 黒褐色土 粘質とシルト質の部分があり、褐色粒を多量、黄色粒を少量含む。
- 3 黒褐色粘質土 褐色粒・白色軽石粒を多量、As-YPKを少量含む。(周溝覆土)
- 4 灰黄褐色シルト質土 黒色粒を多量、As-YPKを僅かに含む。(周溝覆土)
- 5 黒褐色粘質土 3層に類似するが、3層より褐色粒を多く含む。(床面構築土)

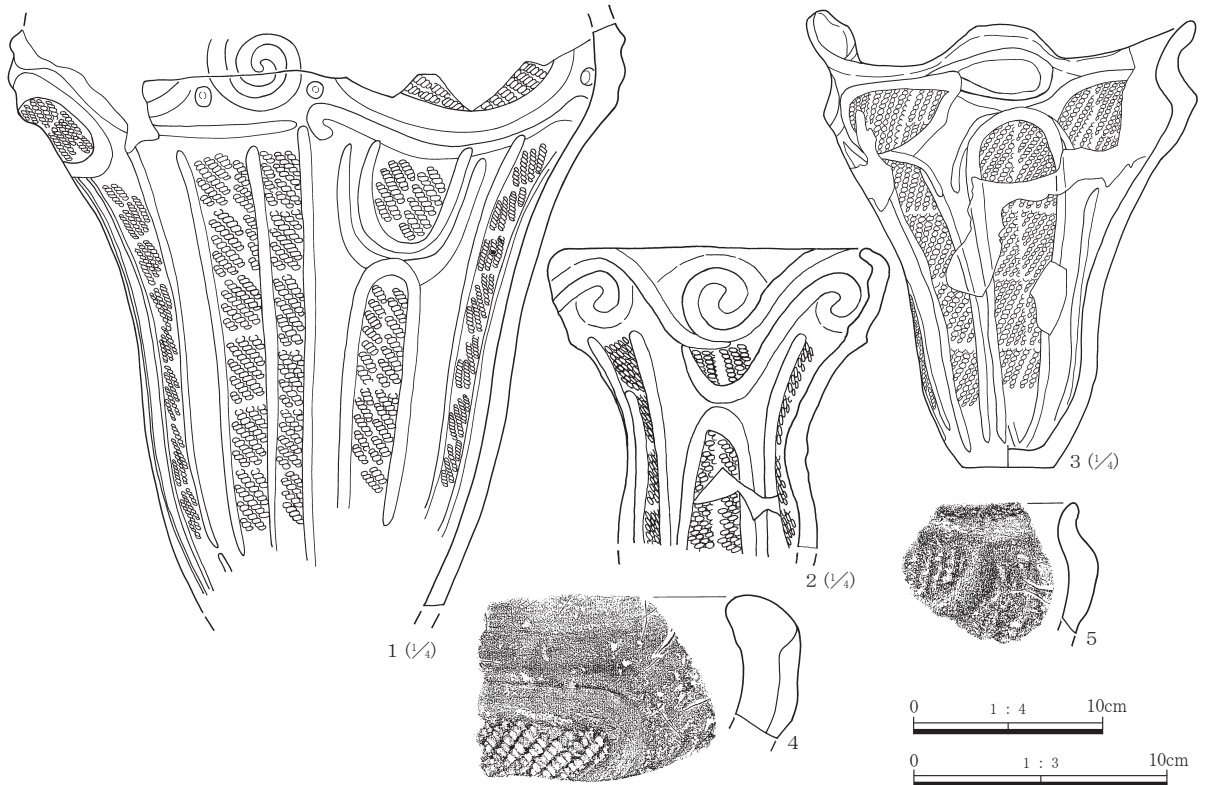
※埋設土器内土壌

黒褐色シルト質土 白色軽石粒・焼土粒を少量含む。

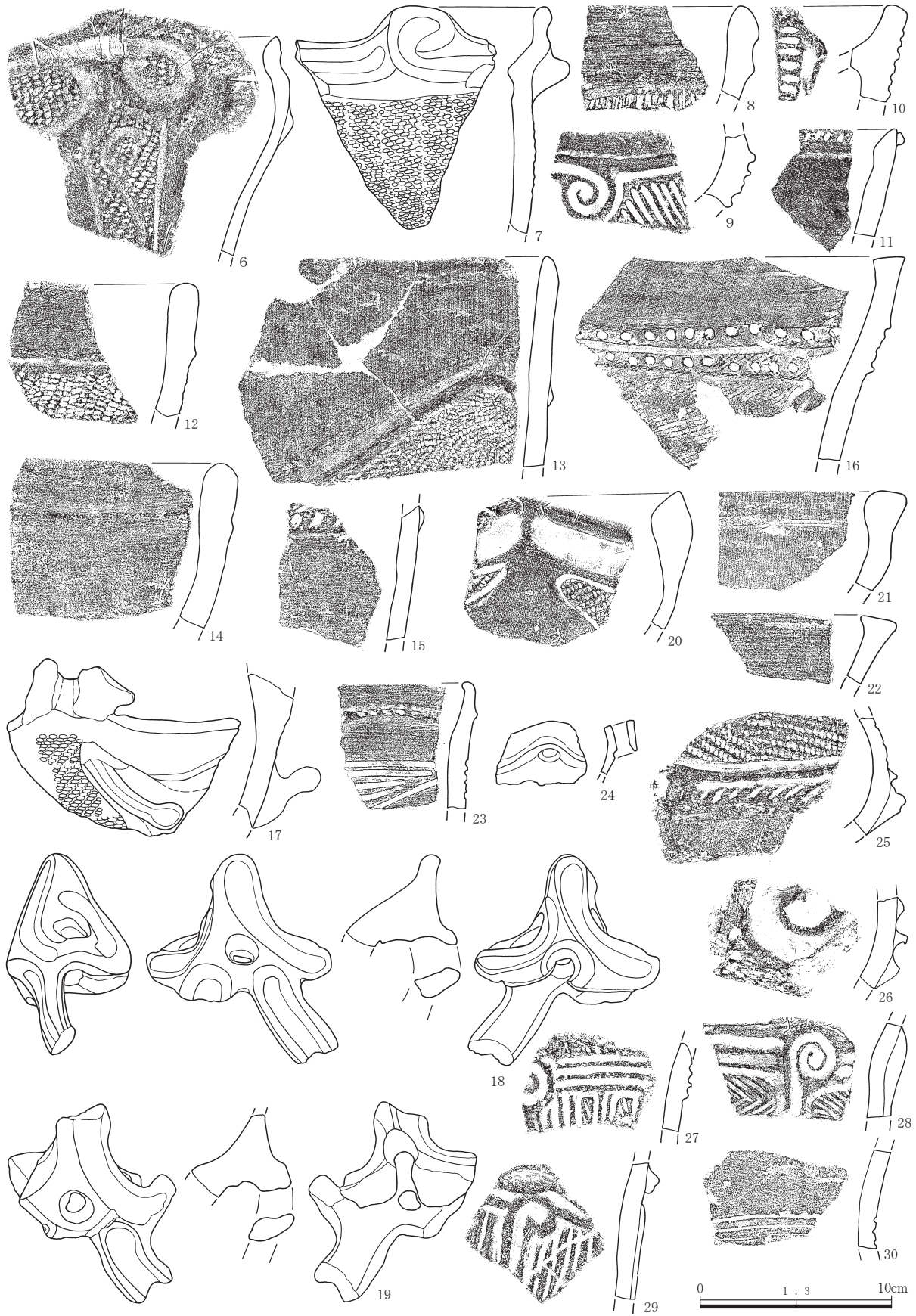
第74図 6-12号住居跡(2)



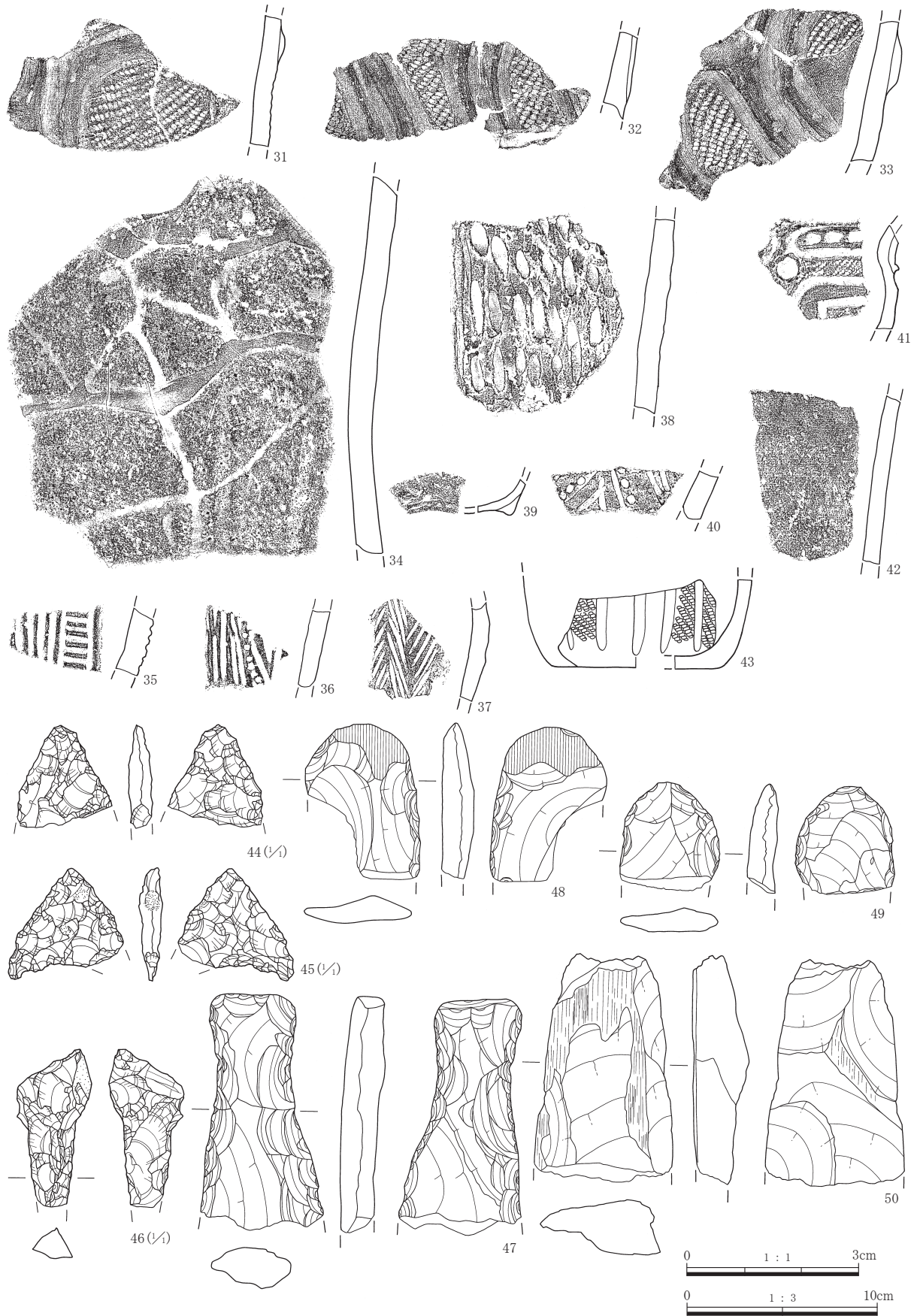
第75図 6-11号住居跡出土遺物



第76図 6-12号住居跡出土遺物(1)



第77図 6-12号住居跡出土遺物(2)



第78図 6-12号住居跡出土遺物(3)



第79図 6-12号住居跡出土遺物(4)

第3章 検出された遺構・遺物

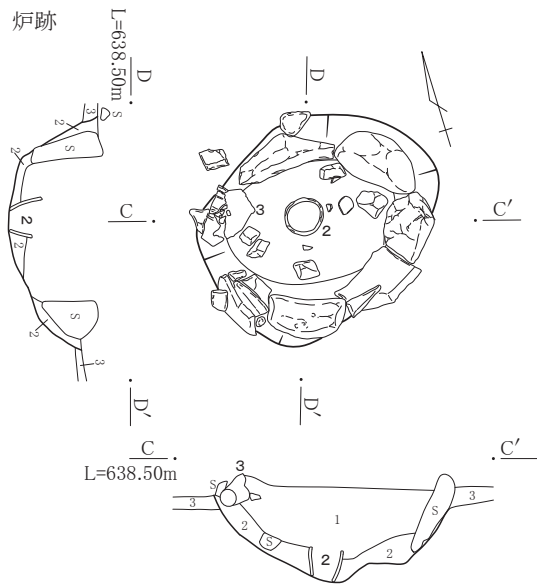
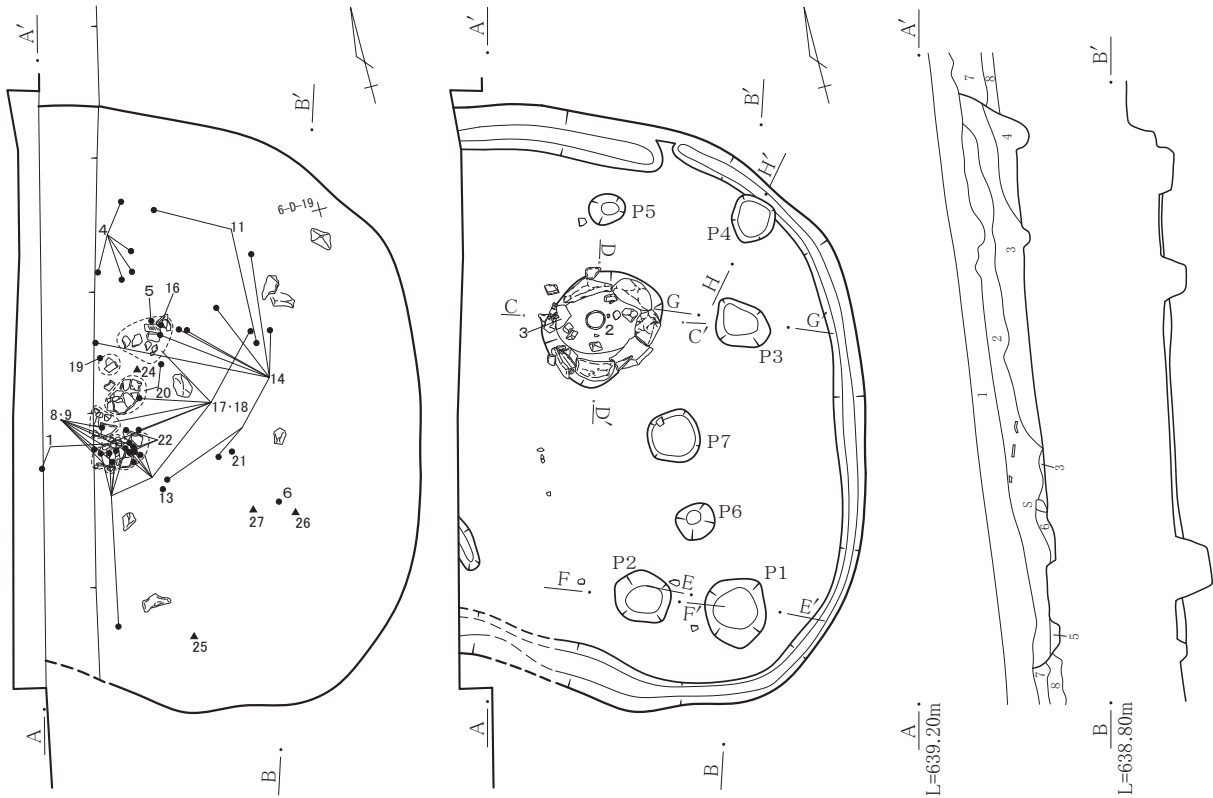
る。 **炉** 住居跡のほぼ中央と思われる位置で確認された。確認面には礫が分布し、隅丸方形を呈する掘り方内に、底部を欠く深鉢が東側に傾いた状態で確認され、炉内の埋設土器と考えられる。また埋設土器の面や、掘り方北壁にテラス状に重複する部分の底面から焼土分布が確認されている。さらに、北東隅の底面に地山礫が露出するが、石囲を示すような礫は確認されていない。規模は、掘り方で128cm×95cm×50cmを測る。 **埋設土器** 南壁のほぼ中央の位置で確認された。上面には貼床の一部や礫がかかり、この下位に底部を欠く深鉢が正位に埋設されていた。また、土器の下位からは礫がまとまって出土しており、土器を据える際に入れたものと考えられる。規模は、掘り方で長径62cm×短径53cm×深さ27cmを測る。 **掘り方** 黒褐色粘質土を充填して床面が構築されており、南東側では硬化面も看取された。構築土の厚さは最大で9cmを測り、この底面は細かな凹凸はあるが全体には平坦である。また、掘り方調査時に、南側へ張り出す周溝を確認し、埋設土器につながる当初の周溝を切る関係が確認された。 **出土遺物** 土器類679点、石器類66点が出土した。遺物は、覆土中の上～下位にかけて全体的に混入している破片が主体であるが、炉内の土器や埋設土器が本住居跡の構築時期を示す遺物である。また、石器類では石鏃や打製石斧・磨石などがあり、打製石斧では石棒片を調整しようとしたと見られるものが出土した。また、66点中の30点は黒曜石のチップ類である。 **所見** 炉跡の状況では、北壁テラス部が旧、土器を伴う方が新の炉跡で作り替えの可能性が想定され、また張り出し部の状況からは住居跡の拡張の可能性や、柄鏡的なプランを呈する可能性などが想定される。出土遺物から、時期は縄文時代中期後葉と考えられる。

ピット規模(長径×短径×深さ・cm)

P1	56×46×16	P2	46×42×39	P3	54×50×38	P4	30×24×12
----	----------	----	----------	----	----------	----	----------

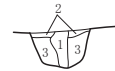
6-13号住居跡(第80～82図、PL17・65・66)

位置 6D-18・19グリッドに位置し、台地西側縁辺で南西に面する傾斜地に立地する。 **確認面** IV層相当～V層面で確認された。IV層面の調査区壁際で大形土器片がまとまって出土したが、住居跡のプランが不明瞭であった。このため、調査区壁に沿ってサブトレンチを入れ、この土層断面で住居跡の存在を確定した。しかし、IV層中では平面での確認が困難で、平面プランはV層付近まで下げた面で確認した。なお、住居跡西半部は調査区外にかかる。 **重複** 南壁に6-203号土坑が重複し、住居跡に切られる関係が古い。 **覆土** 黒色～黒褐色土を主体とする覆土である。 **形状** 平面は、不整な隅丸方形を呈すると推定される。 **規模** 長軸456cm×短軸(408)cmを測る。 **方位** 長軸でN-27°-Eを測る。 **壁高** 最大で54cmを測り、傾斜する立ち上がりである。 **床面** 暗褐色土を充填する貼床であるが、硬化面は確認されておらず、全体的に平坦である。 **周溝** 確認した範囲では、北壁部で僅かに途切れる他は全周する。規模は、最大で上幅38cm×下幅18cm×深さ13cmを測る。 **柱穴** ピットを7基確認した。このうち、ピット1・3・6は南北、ピット1・2及びピット4・5の両組は東西の方向に並ぶ配置であるが、間隔等は不規則で、支柱穴は判然としない。 **炉** 住居跡中央のやや北寄りと思われる位置で確認された。楕円形の掘り方の壁に扁平な礫や板状礫を伴う石囲炉で、底面のほぼ中央に上半部を欠く深鉢の胴～底部が正位に埋設されていた。また、炉跡北西隅の上位には、半面を欠く深鉢の個体が北東側に倒れた状態で出土している。規模は、掘り方で長径119cm×短径81cm×深さ38cmを測る。 **埋設土器** 確認されていない。 **掘り方** 暗褐色土を充填して床面が構築され、厚さは最大で9cmを測り、この底面は細かな凹凸はあるが全体には平坦である。 **出土遺物** 土器類212点、石器類19点が出土した。遺物は、覆土中の上～下位にかけて全体的に混入している破片が主体であるが、上面の調査区壁際あたりから大形の土器片がまとまって出土しており、また炉内の土器が本住居跡の構築時期を示す遺物である。また、石器類では打製石斧・磨石・石皿などの他は剥片類である。 **所**



- 6-13号住居跡炉跡
- 1 暗褐色土 黄色粒・白色軽石粒を多量、As-YPKを少量、炭化物粒を微量含む。
 - 2 暗褐色土 褐色土とローム漸移層の混土状を呈し、塊状の焼土を混入する。
 - 3 黄褐色土 ロームを主とする暗褐色土との混土。(床面構築土)

ピット1
E L=638.60m E'



ピット2
F L=638.60m F'



ピット3
G L=638.60m G'



ピット4
H L=638.60m H'



6-13号住居跡

- 1 現表土
- 2 暗褐色土 黒褐色土塊とローム漸移層の混土状を呈する。白色軽石・黄色粒を多量、As-YPKを少量含む。
- 3 黒色土 黄色粒を多量含む。
- 4 黒褐色土 3層と同質であるが、粒が大きく、色調も黒色が強い。
- 5 黄褐色土 ローム漸移層基調の暗褐色土を主にローム塊を混入する。(周溝覆土)
- 6 暗褐色土 2層とロームの混土状を呈する。(床面構築土)
- 7 黒褐色土 As-YPKを含む。
- 8 暗褐色土 基本層序V層に相当するが、IV層との漸移的部分である。

6-13号住居跡ピット1

- 1 黒色シルト質土 焼土粒・As-YPK・白色軽石粒を少量含む。
- 2 黒色シルト質土 焼土粒・As-YPK・白色軽石粒を僅かに含む。
- 3 黒色シルト質土 褐色粒・褐色土塊を少量、焼土粒・As-YPK・白色軽石粒を僅かに含む。

6-13号住居跡ピット2

- 1 黒褐色シルト質土 黒色粒を多量、ローム粒を少量、焼土粒・As-YPKを僅かに含む。

6-13号住居跡ピット3

- 1 黒色シルト質土 褐色粒・ローム粒・ローム塊を多量、焼土粒・As-YPKを僅かに含む。

6-13号住居跡ピット4

- 1 黒色シルト質土 褐色粒を多量、ローム粒を僅かに含む。

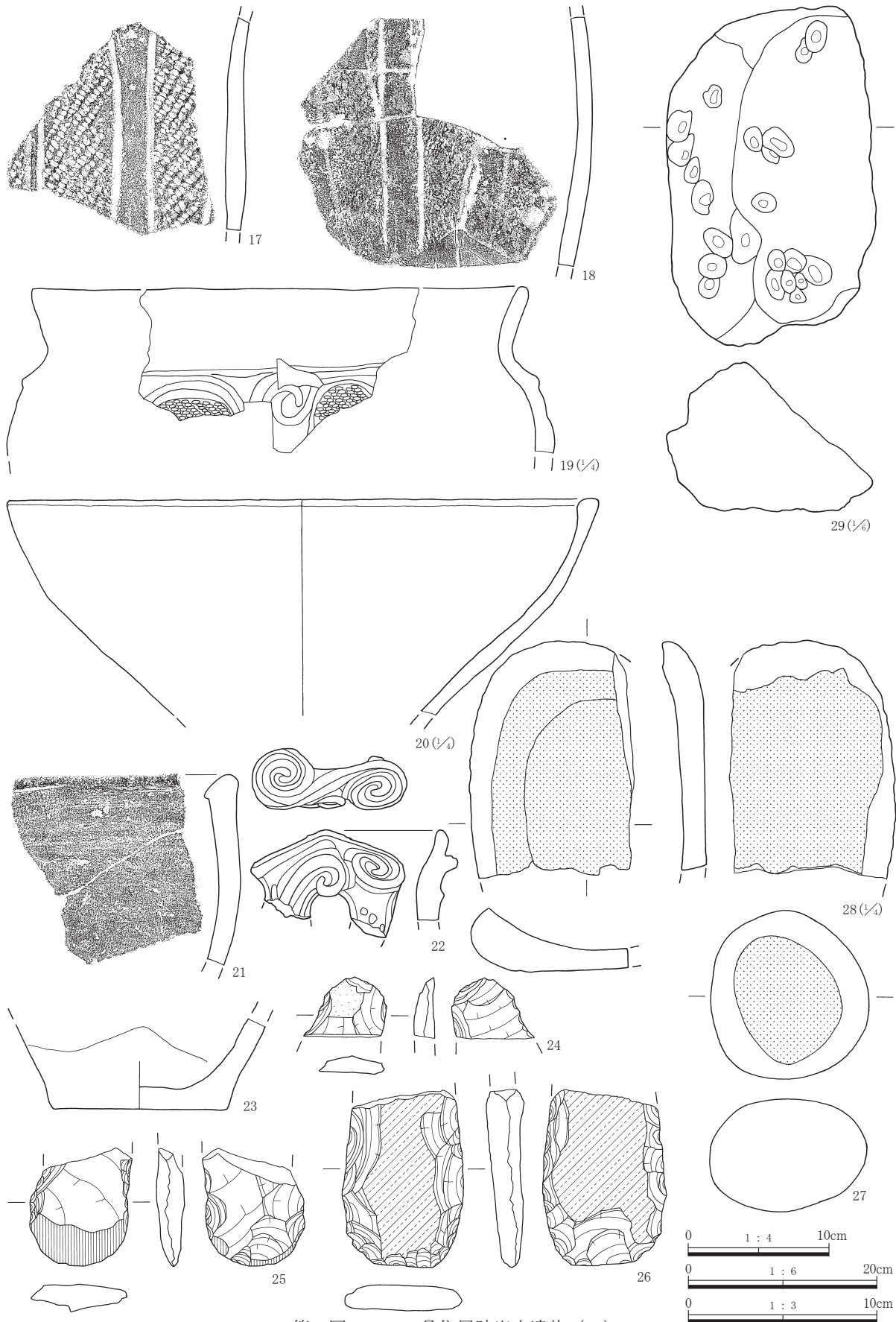
0 1:30 50cm

0 1:60 2m

第80図 6-13号住居跡



第81図 6-13号住居跡出土遺物(1)



第82図 6-13号住居跡出土遺物(2)

見 出土遺物から、時期は縄文時代中期後葉と考えられる。

ピット規模(長径×短径×深さ・cm)

P 1	56×48×31	P 2	46×38×20	P 3	45×34×20	P 4	38×34×14	P 5	29×23×18
P 6	33×29×25	P 7	44×42×7						

6-14号住居跡(第83図、PL7)

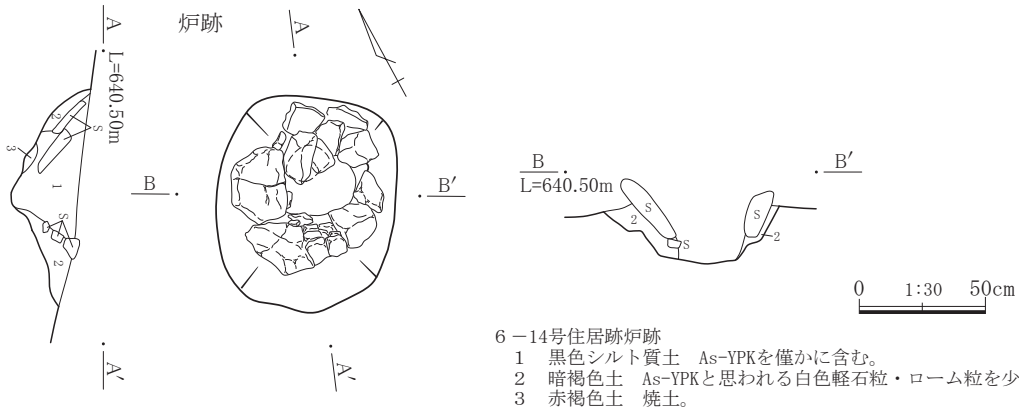
位置 6B-22グリッドに位置し、台地西側縁辺で南西に面する傾斜地に立地する。**確認面** VI層上面で、石囲炉とこの周囲に黒褐色土が面的に確認されたことから住居跡とした。他の遺構と比べて標高の高い位置にあり、傾斜も急で現表土下がVI層面の状況であった。**重複** 確認されていない。**覆土** 石囲炉の周囲に黒褐色土の分布が見られたが、浅い堆積でプランを確定できるものではなかった。**形状** 炉跡周囲の黒褐色土は炉跡の北側を主に不整形な分布でプランを確定できるものではなく、平面は不明である。**規模** 不明である。**方位** 不明である。**壁高** 不明である。**床面** 不明である。**周溝** 不明である。**柱穴** 不明である。**炉** 炉跡の確認を中心に住居跡を確定した。楕円形の掘り方の壁に扁平な礫や板状礫などを伴う石囲炉であるが、北壁には礫が内側へ崩落したような部分、また南壁には拳大の小礫を組む部分が看取される。規模は、掘り方で長径86cm×短径71cm×深さ27cmを測る。**埋設土器** 確認されていない。**掘り方** 不明である。**出土遺物** 出土していない。**所見** 炉跡と黒褐色土の分布が確認されたのみで住居跡を示す属性に乏しいが、いずれも住居跡に伴う可能性を想定して遺構を判断した。時期は、他の住居跡の石囲炉の様相などから、縄文時代中期後葉頃と推測される。

95-1号住居跡(第84~88図、PL18・66・67)

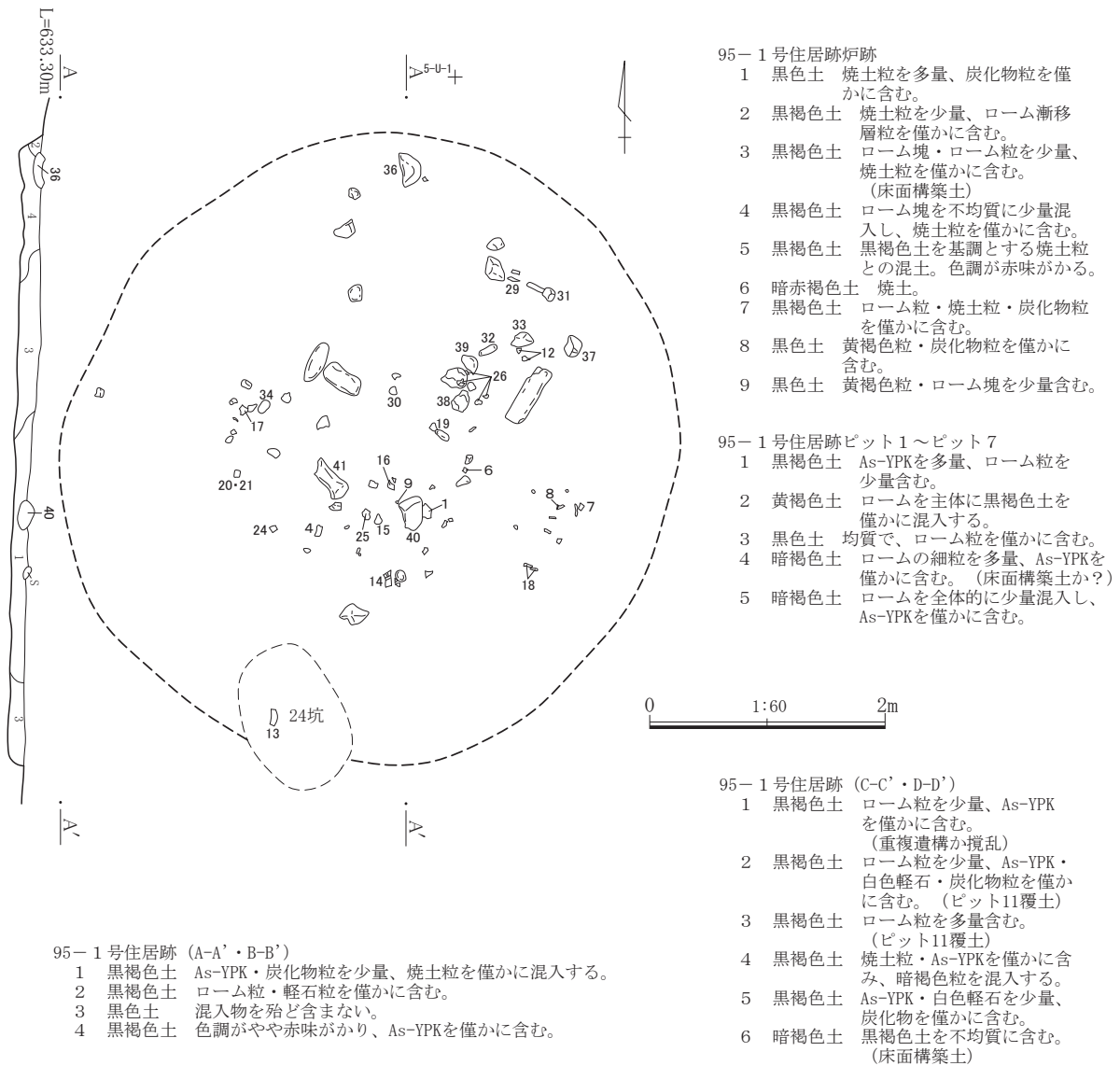
位置 95T・U-24・25グリッドに位置し、台地西側の平坦部に立地する。**確認面** IV層相当~V層面で確認され、上面の北東側を主に礫が分布している。全体的に不明瞭なプランで、住居跡の範囲は土層断面で確認している。**重複** 95-19号・22号・23号・24号・25号の各土坑と重複し、19号・24号・25号は切る関係で新しく、23号は切られて古く、22号は判然としない。**覆土** 黒褐色土を主とする覆土であるが、層理に切り合うような不規則な部分が看取され、人為埋没の可能性はある。**形状** 平面は、円形を呈すると推定される。**規模** 長軸537cm×短軸(441)cmを測る。**方位** 長軸でN-0°を測る。**壁高** 最大で16cmを測り、傾斜する立ち上がりである。**床面** 細かな凹凸はあるが、全体的には平坦で、貼床や硬化面は確認されていない。**周溝** 確認されていない。**柱穴** ピットを11基確認した。このうち、ピット5・7・11の3基が等間隔で三角形の位置関係、この他にも等間隔に円形の位置関係を呈し、不規則な配置で支柱穴は判然としない。**炉** 住居跡のほぼ中央と思われる位置で確認された。不整な楕円形を呈する掘り方内に焼土が分布しており、炉跡と判断した。また、東側にはピットが重複し、上面を炉跡に切られる関係で古いピットである。さらには、石囲を示すような礫は確認されていない。規模は、掘り方で長径126cm×短径114cm×深さ18cmを測る。**埋設土器** 確認されていない。**掘り方** 構築土を充填した掘り込みは確認されず、地山を削りだして床面を構築していると考えられる。**出土遺物** 土器類150点、石器類27点が出土した。遺物は、覆土中からの出土した破片が殆どである。石器類は、上面の礫石器を主としており、この中には縦長の円礫を用いた筋砥石が出土している。**所見** 出土遺物の様相から、時期は縄文時代中期後葉と考えられる。

ピット規模(長径×短径×深さ・cm)

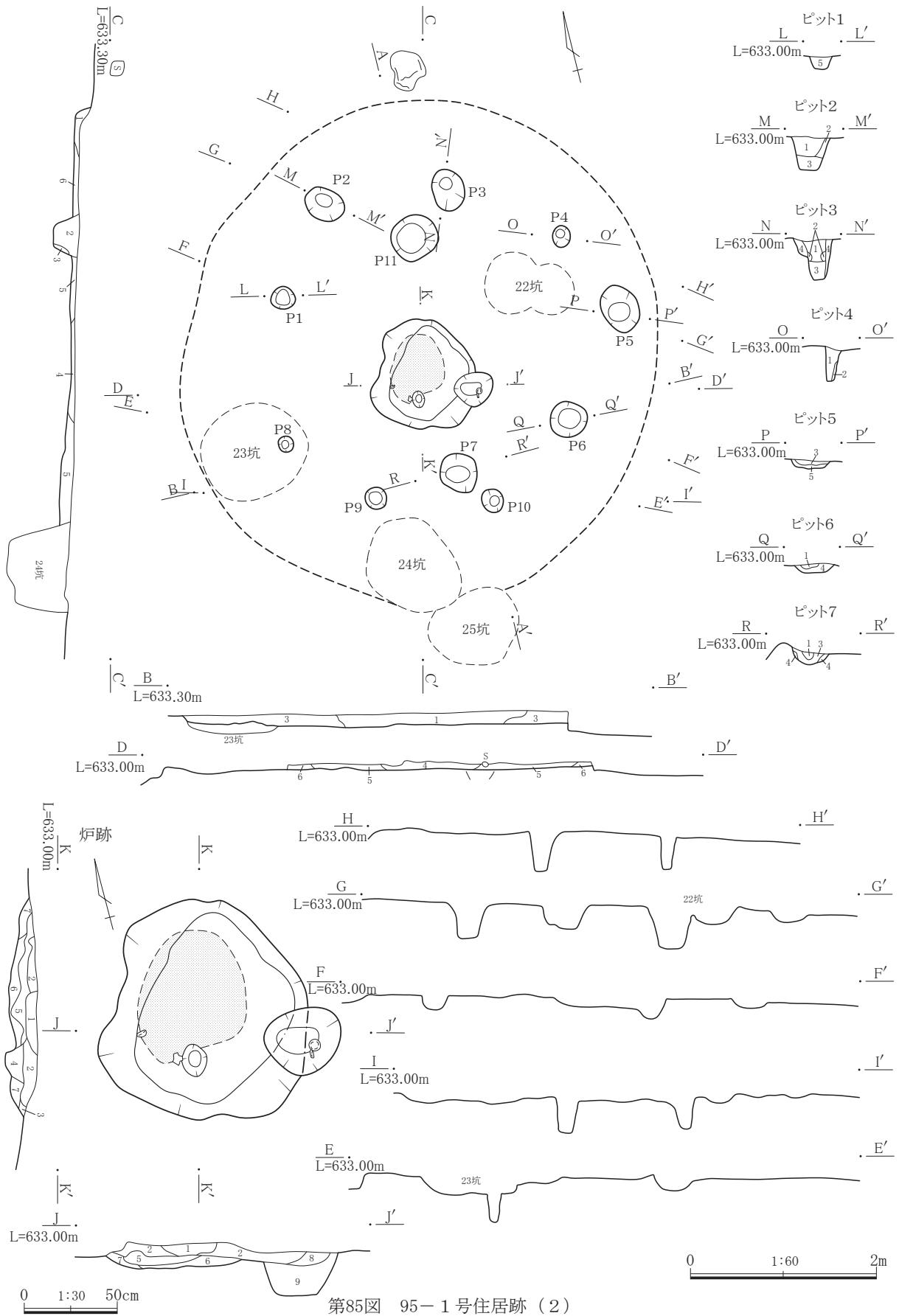
P 1	28×24×15	P 2	45×32×38	P 3	45×34×36	P 4	22×18×14	P 5	52×40×45
P 6	42×38×26	P 7	46×41×14	P 8	17×16×29	P 9	24×22×13	P 10	26×22×12
P 11	51×44×20								



第83図 6-14号住居跡



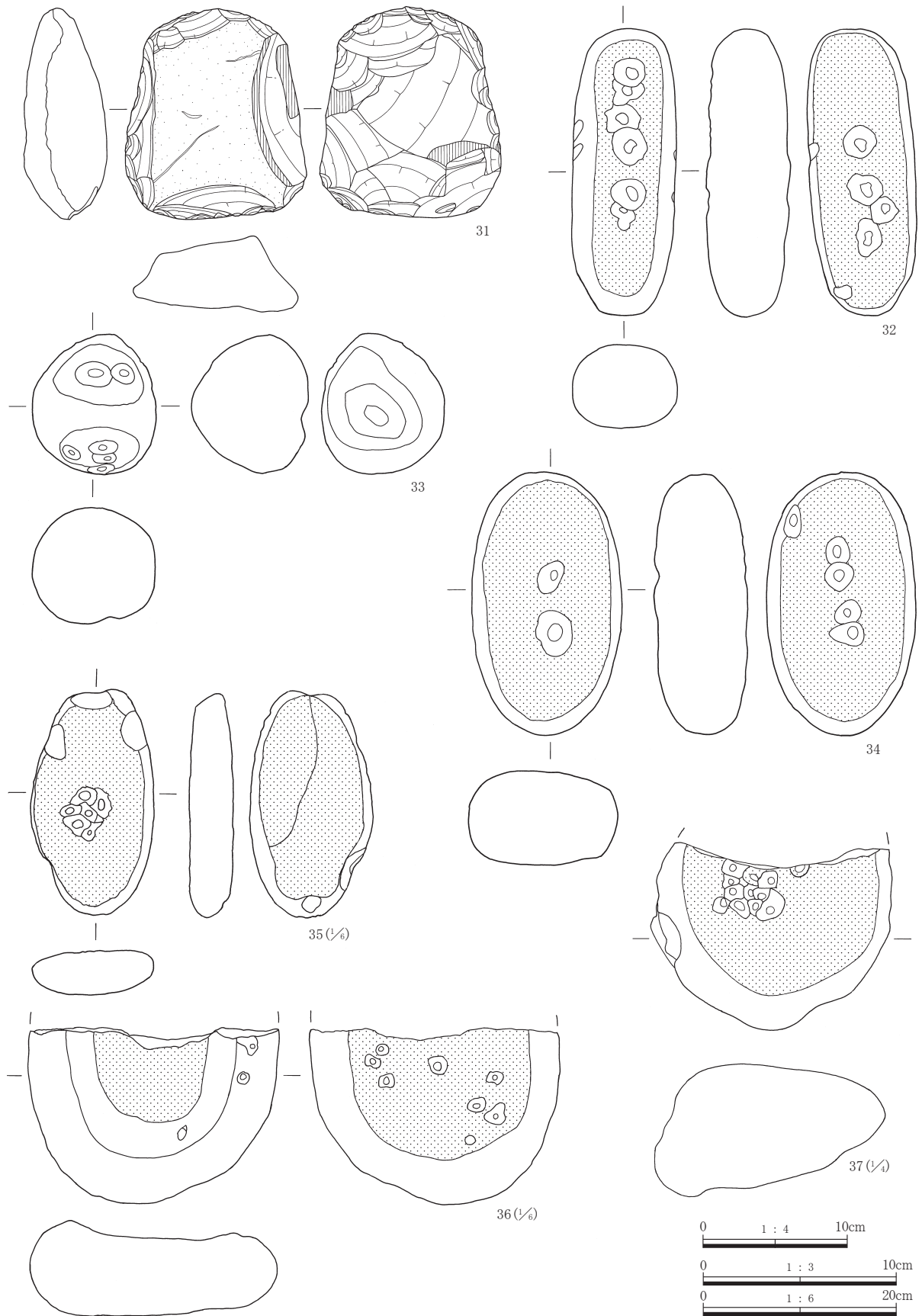
第84図 95-1号住居跡 (1)



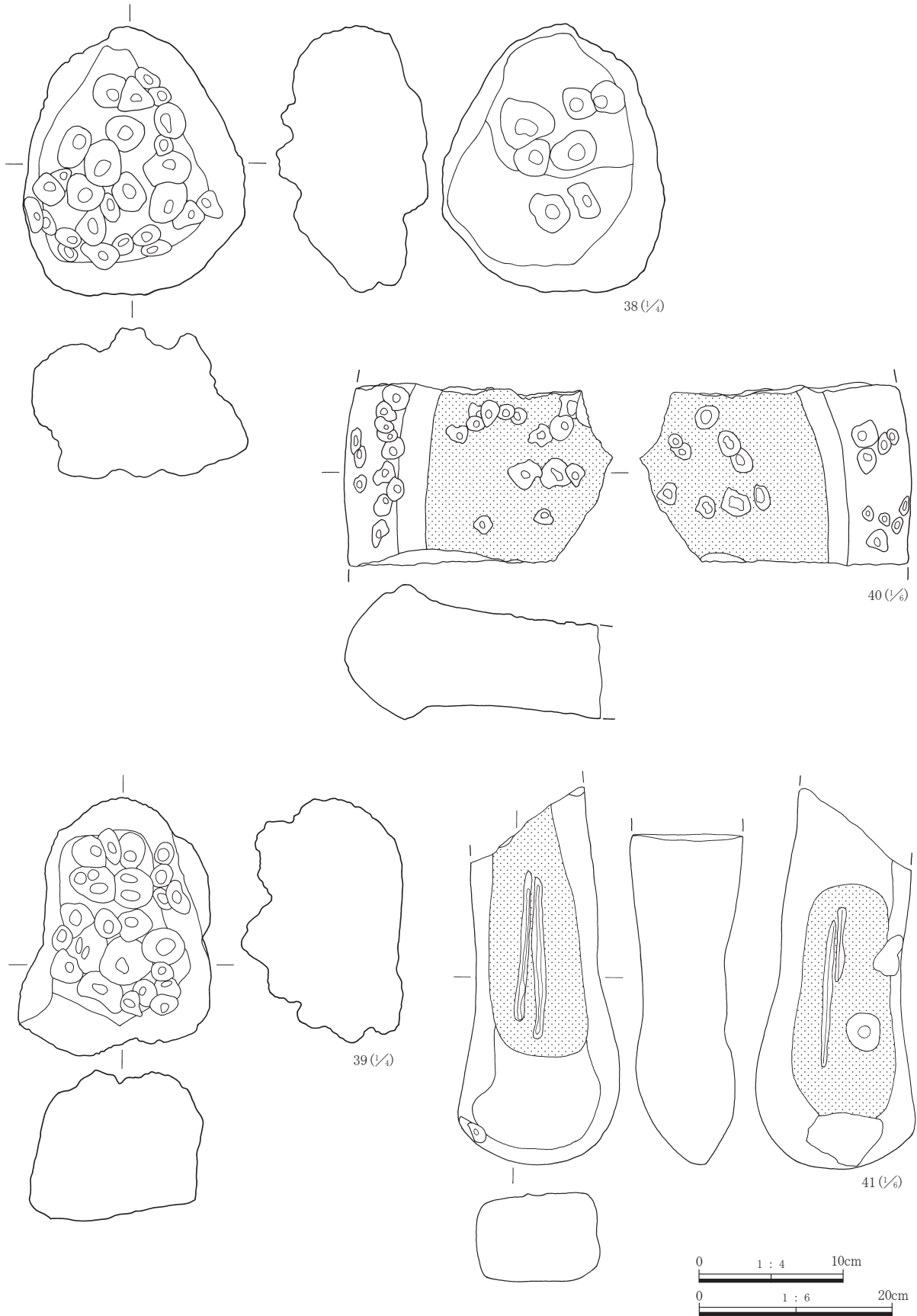
第85図 95-1号住居跡(2)



第86図 95-1号住居跡出土遺物(1)



第87図 95-1号住居跡出土遺物(2)



第88図 95-1号住居跡出土遺物(3)

2 炉跡・埋設土器

4-1号埋設土器（第90～92図、PL19・67・68）

位置 4I-10グリッドに位置し、谷に挟まれる尾根状台地にあつて基部の中央に立地する。**確認面** IV層相当面で確認された。**重複** 直接切り合う遺構はないが、南側に接して礫集中があり、さらに南側に4-59号土坑や4-60号土坑が近接している。**覆土** 黒褐色土を基調に5層に分層されるが、1・2層と3・4・5層が切り合うような堆積状況である。このうち、1層の範囲に土器が埋設され、4層下位から5層中にかけて礫や土器片が多量に混入していた。**形状** 掘り方にあたる土坑の平面は、やや不整な楕円形を呈し、壁はほぼ直に立ち上がる。底面はほぼ平坦で、断面はU字状を呈する。**規模** 掘り方にあたる土坑の規模で、長軸124cm×短軸114cm×深さ82cmを測る。**方位** 長軸でN-32°-Wを測る。**埋設土器** 口縁の一部と底部を欠損するが、ほぼ完形に近い大形の深鉢が正位に埋設されている。**出土遺物** 埋設土器の他には、土器類79点・石器類4点が出土した。土器では、3・4・5層中から大形の破片などが出土し、本体の埋設土器の以前に別個体の埋設土器が存在したか、あるいは本体の土器を埋設する際の充填土に混入していた可能性の破片と考えられる。また、これらの中には、近接する4-59号・60号の各土坑から出土した破片と接合したものがある。石器類では、スクレイパーが1点ある他は剥片類である。さらに、埋設土器内の覆土をふるいにかけてところ、炭化物片が約75g検出された。**所見** 土層断面の観察では、3・4・5層を切る形で本体の土器が埋設されたか、あるいは本体の土器を据える際に2・3・4・5層を充填し、その後に1層で土器を埋めている可能性が想定される。この点において、切り合いによる重複関係の前者を仮定すると大形破片は別の埋設土器、後者では充填土に混入している状況であるが、4層下位から5層中に礫が多量に混入している状況では、土器を据える際に充填された可能性が強いように思われる。出土遺物から、時期は縄文時代後期初頭～前葉頃と考えられる。

5-7号埋設土器（第92図、PL19・69）

位置 5W-8・9グリッドに位置し、台地西側の平坦部に立地する。**確認面** IV層相当～V層面で確認された。**重複** 北側に5-607号土坑が重複し、土坑が切る関係で新しい。また、東側に過年度調査の5-17号住居跡が近接する位置関係にある。**覆土** 褐色土の単一的な堆積である。**形状** 掘り方にあたる土坑の平面は楕円形を呈し、壁はやや傾斜する立ち上がりである。底面には緩い凹凸があり、断面はU字状を呈する。**規模** 掘り方にあたる土坑の規模で、長軸54cm×短軸(44)cm×深さ15cmを測る。**方位** 長軸でN-78°-Eを測る。**埋設土器** 深鉢の口縁部が逆位に埋設されている。**出土遺物** 埋設土器の他には、土器類12点が出土した。土器は、小破片で中期後半を主体とするが、後期の土器が1点混入している。**所見** 単独の埋設土器としたが、過年度を含めた遺構の状況では5-17号住居跡の範囲内の可能性があり、これに伴う埋設土器の可能性が想定される。出土遺物から、時期は縄文時代中期後葉と考えられる。

95-4号埋設土器（第89図、PL69）

位置 95X-23グリッドに位置し、台地南西側の縁辺部に立地する。**確認面** IV層相当面で確認された。**重複** 重複する遺構はないが、同一グリッドの南東隅に5号埋設土器が位置する。**覆土** 黒色土の単一的な堆積である。**形状** 掘り方にあたる土坑の平面は楕円形を呈し、壁は傾斜する立ち上がりである。底面は平坦で、断面は台形状を呈する。**規模** 掘り方にあたる土坑の規模で、長軸39cm×短軸36cm×深さ23cmを測る。**方位** 長軸でN-0°を測る。**埋設土器** 口縁部を欠く深鉢の胴～底部が正位に埋設されている。埋設土器の底部が掘り方の底面と接する状態で、また土器の底部中央に穴があり、意図的に穿孔された

可能性が考えられる。**出土遺物** 埋設土器の他に遺物は出土していない。**所見** 住居跡に伴う可能性が想定されるが、この他に住居跡を示す属性は確認されず、単独の埋設土器とした。なお、本遺構は調査時にはグリッドの埋設土器として扱われていたが、整理時に新たに区の通し番号を付番したため、年度を跨ぐ形の通番となっている。出土遺物から、時期は縄文時代後期初頭と考えられる。

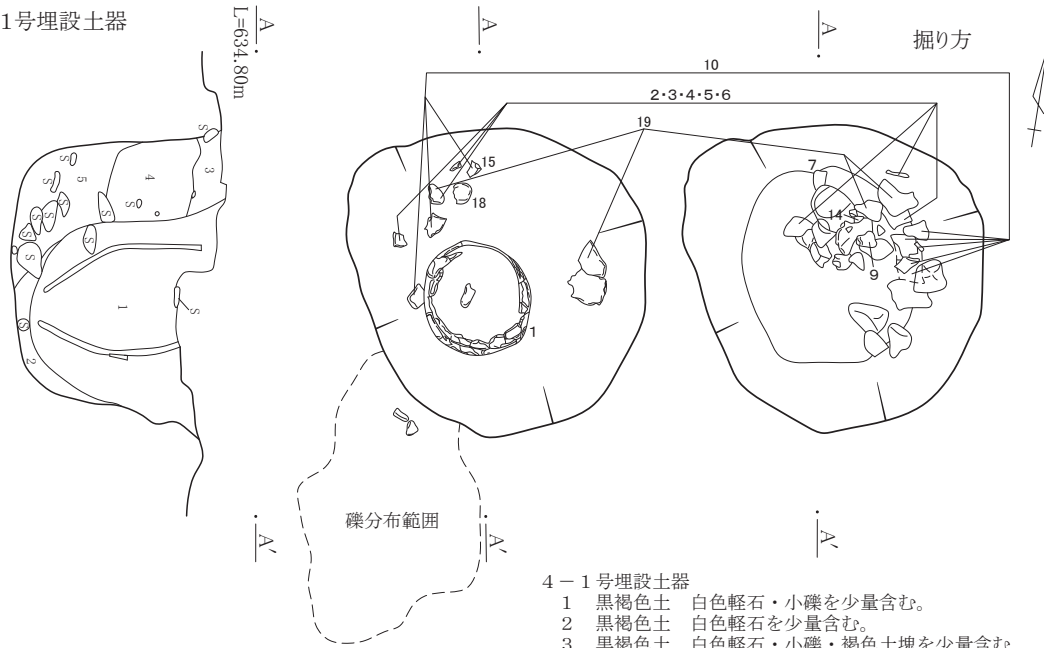
95-5号埋設土器 (第89図、PL69)

位置 95X-23グリッドに位置し、台地南西側の縁辺部に立地する。**確認面** IV層相当面で確認された。**重複** 重複する遺構はないが、同一グリッドの北西側の調査区壁際に4号埋設土器が位置する。**覆土** 黒色土の単一的な堆積である。**形状** 掘り方にあたる土坑の平面は隅丸方形を呈し、壁は傾斜する立ち上がりである。底面は平坦で、断面は台形状を呈する。**規模** 掘り方にあたる土坑の規模で、長軸39cm×短軸38cm×深さ27cmを測る。**方位** 長軸でN-5°-Wを測る。**埋設土器** 口縁部を欠く深鉢の胴～底部が正位に埋設されている。**出土遺物** 埋設土器の他に遺物は出土していない。**所見** 住居跡に伴う可能性が想定されるが、この他に住居跡を示す属性は確認されず、単独の埋設土器とした。なお、本遺構は調査時にはグリッドの埋設土器として扱われていたが、整理時に新たに区の通し番号を付番したため、年度を跨ぐ形の通番となっている。出土遺物から、時期は縄文時代中期後葉と考えられる。

6-1号集石 (第89図)

位置 6C-21グリッドに位置し、台地西側縁辺で南西に面する傾斜地に立地する。**確認面** VI面で確認された。他の遺構と比べて標高の高い位置にあり、傾斜も急で現表土下がVI層面の状況であった。**重複** 重複する遺構はないが、北東側に隣接するグリッドに6-14号住居跡(炉跡)が位置する。**覆土** 褐色～暗褐色土が堆積するが、礫が多数混入している。**形状** 掘り方にあたる土坑の平面は楕円形を呈し、壁は傾斜する立ち上がりで、壁には地山礫が露出しており、この内側に礫が詰められたように混入し、一部に被熱が看取されるものがあった。底面は緩い凹凸があり、断面は台形状を呈する。**規模** 掘り方にあたる土坑の規模で、長軸90cm×短軸63cm×深さ24cmを測る。**方位** 長軸でN-12°-Eを測る。**埋設土器** 埋設土器ではないが、集石の南側約60cmに近接して、深鉢の口縁部がつぶれたような状態で出土しており、本遺構に関連する遺物と考えて取り上げた。**出土遺物** 前述の土器の他に遺物は出土していない。**所見** 調査時には集石としたが、被熱の痕跡が看取される礫や形態等から、本遺構は石囲炉の可能性が想定され、また近接して出土した土器についても、埋設土器など住居跡に関連する遺物の可能性が想定される。このため、本遺構と出土土器は住居跡に伴う可能性が想定されるが、この他に住居跡を示す属性は確認されず、単独の遺構として調査された。出土遺物の様相から、時期は縄文時代中期後葉と考えられる。

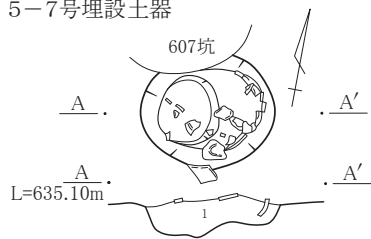
4-1号埋設土器



4-1号埋設土器

- 1 黒褐色土 白色軽石・小礫を少量含む。
- 2 黒褐色土 白色軽石を少量含む。
- 3 黒褐色土 白色軽石・小礫・褐色土塊を少量含む。
- 4 黒褐色土 白色軽石・茶褐色軽石を混入し、炭化物粒を少量含む。
- 5 黒褐色土 礫を多量混入する。

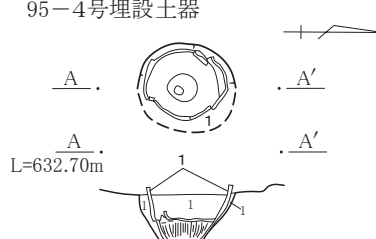
5-7号埋設土器



5-7号埋設土器

- 1 褐色土 ロームを主とする黒褐色土との混土。

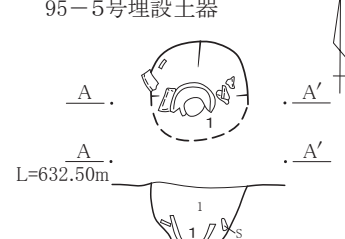
95-4号埋設土器



95-4号埋設土器

- 1 黒色土 白色軽石を少量含む。

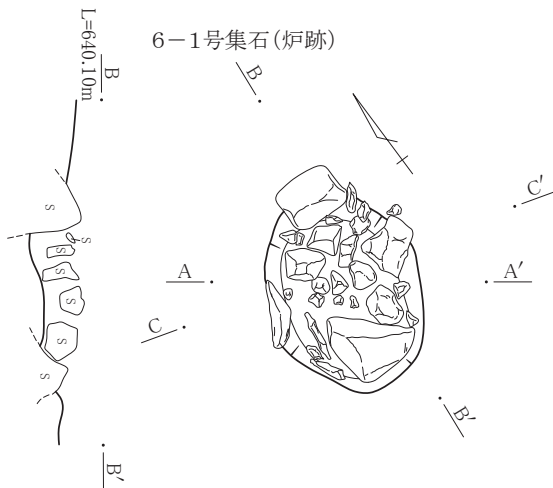
95-5号埋設土器



95-5号埋設土器

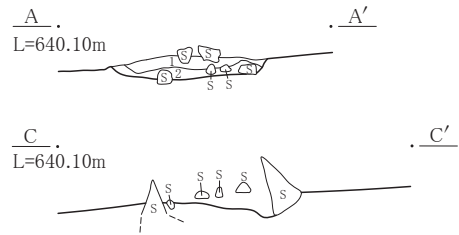
- 1 黒色土 As-YPKを僅かに含む。

6-1号集石(炉跡)



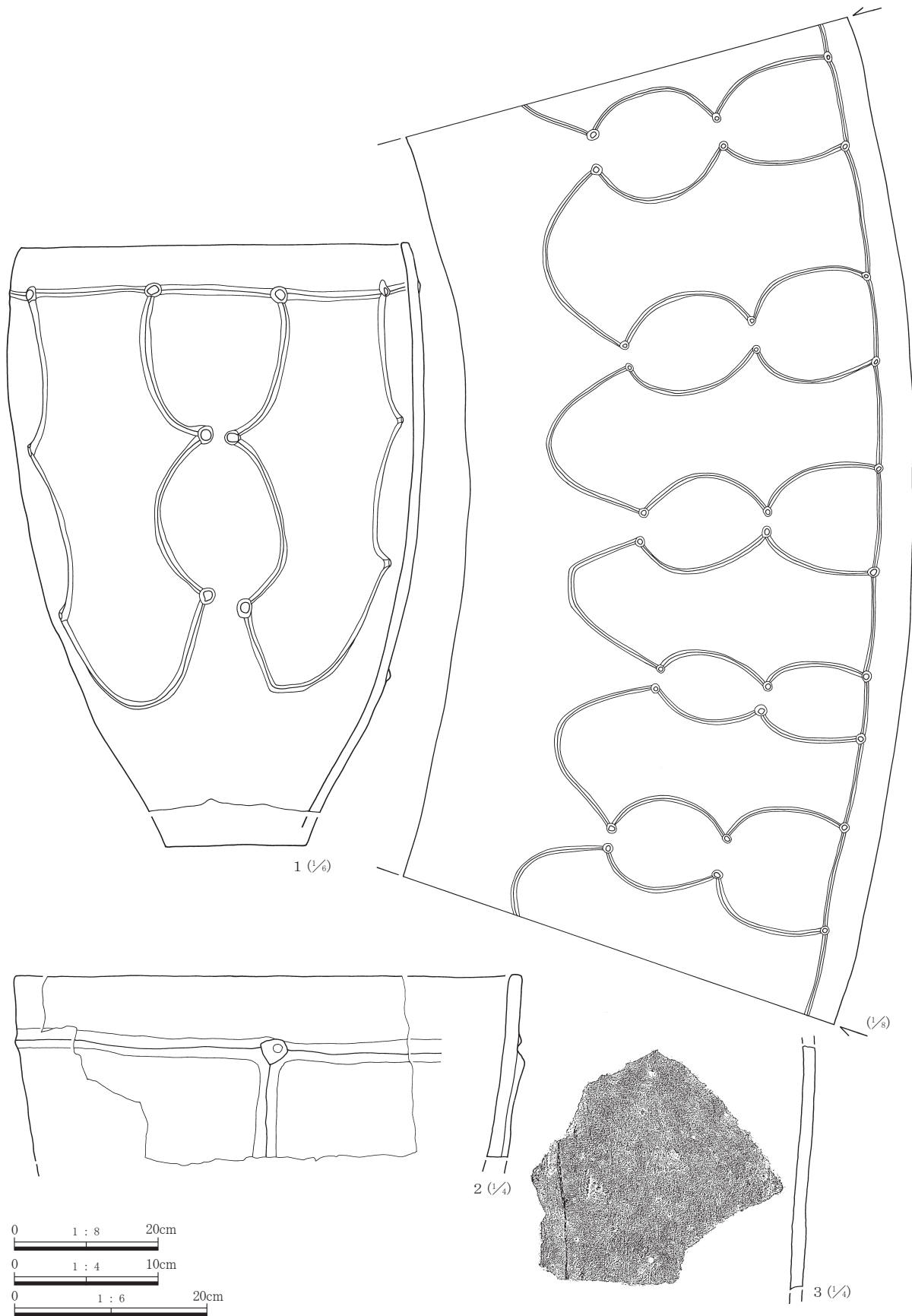
6-1号集石(炉跡)

- 1 暗褐色土 白色軽石粒を微量含む。
- 2 褐色土 ローム漸移層を主体に、1層と思われる暗褐色土を少量混入する。

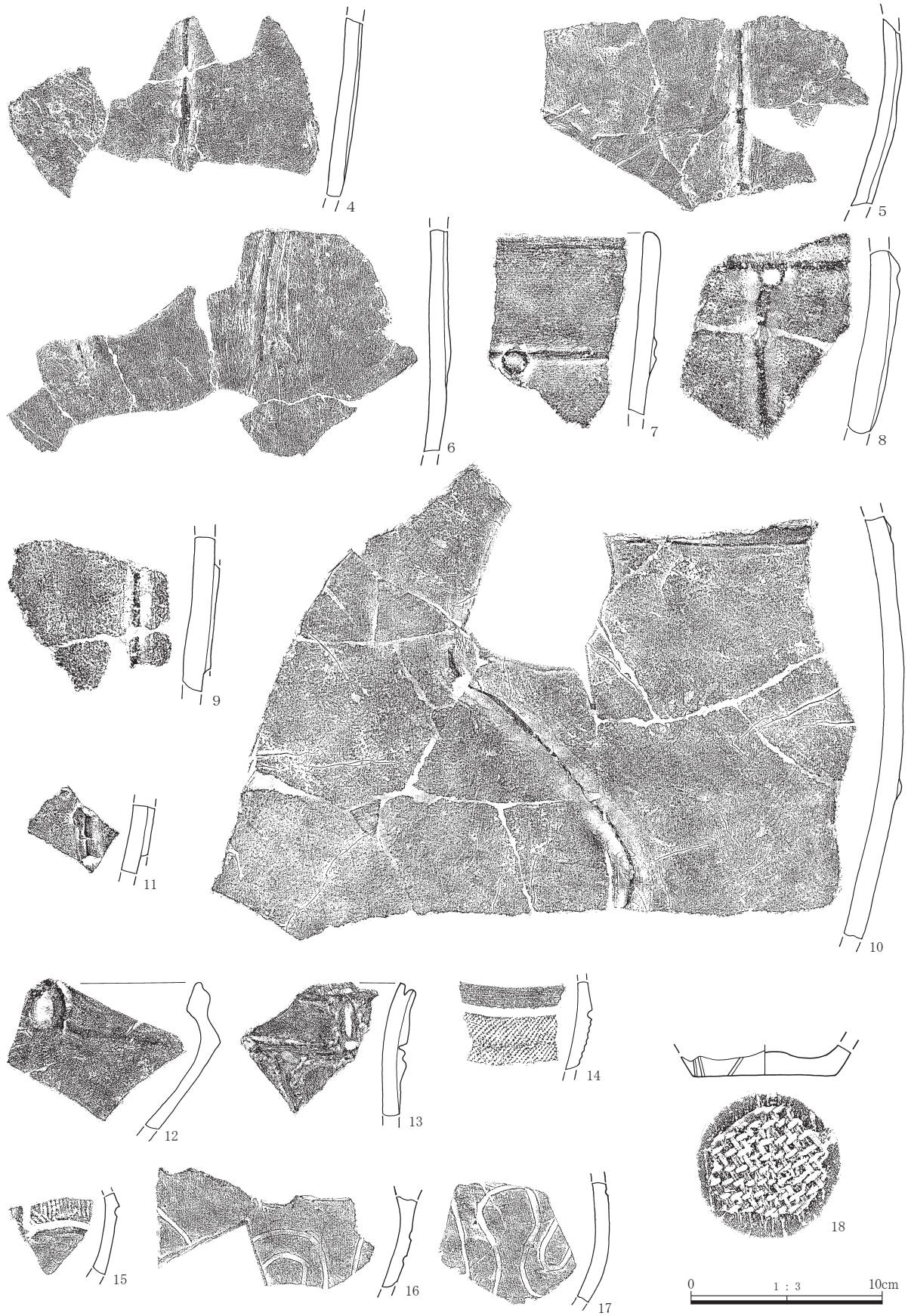


0 1:30 50cm

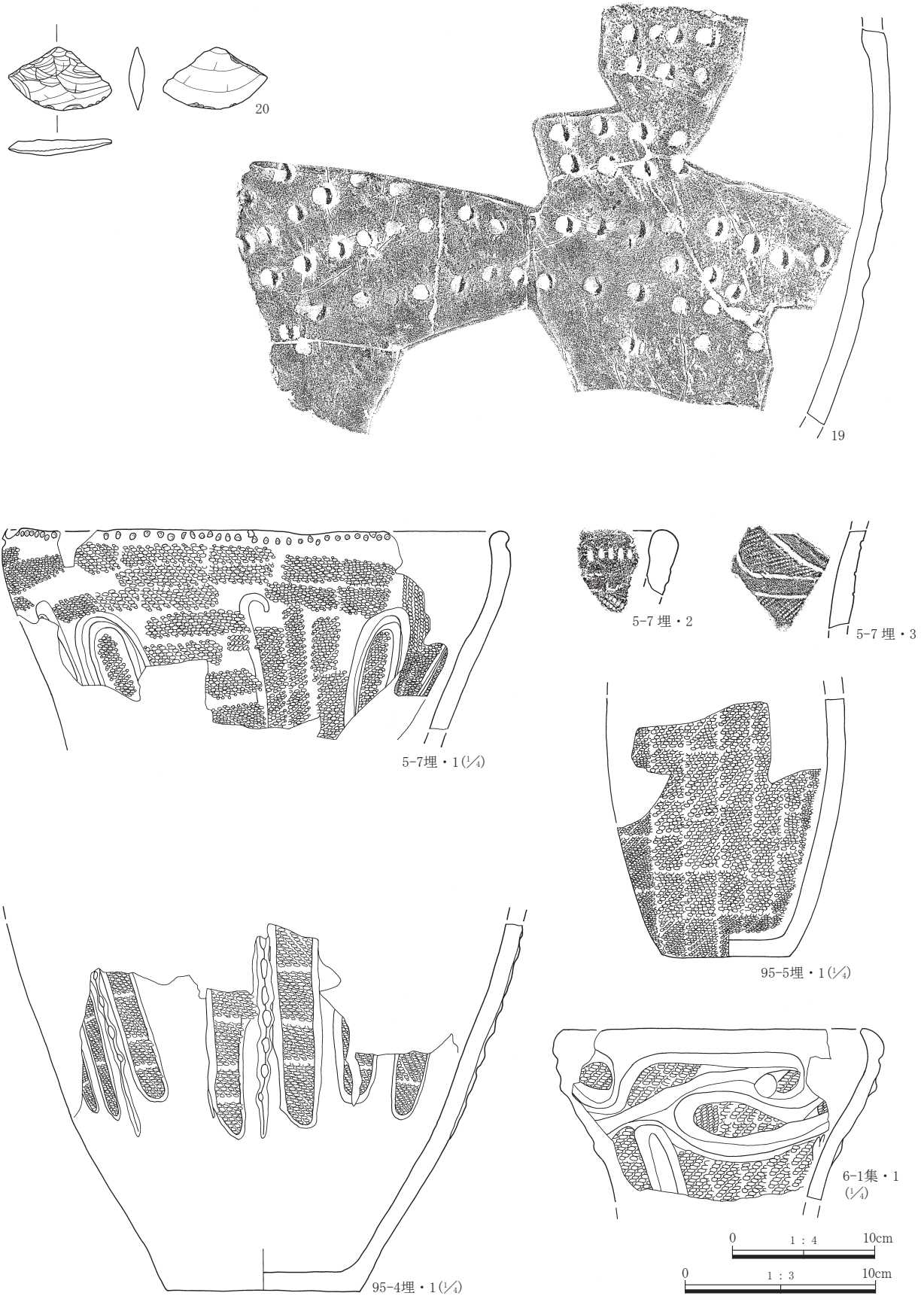
第89図 4区・5区・6区・95区 埋設土器・炉跡



第90図 4-1号埋設土器出土遺物(1)



第91図 4-1号埋設土器出土遺物(2)



第92図 4-1号(3)・その他の埋設土器

3 土坑・ピット

土坑・ピットの概要

平成12・13年度の調査において、土坑は191基・ピットは153基分の遺構番号を付している。このうち、遺構名称を変更したもの、倒木痕・根株痕と考えられるもの、縄文時代以外のものなどを除いて整理すると、縄文時代の土坑・ピットの実数は、土坑152基・ピット40基を数える。各区ごとの内訳は、4区が土坑12基、5区が土坑96基、6区が土坑22基・ピット40基、95区が土坑22基を数える。なお、遺構名称の変更については、6-181号土坑が後年の調査で「6-15号住居跡」になったものや、6-197号土坑や6区のピットの一部分が6-11号住居跡に伴う炉跡やピットになったものなどがある。

本遺跡で検出された土坑は、殆どが5区・6区・95区にあたる台地上から縁辺にかけて分布し、次いで4区の谷頭縁辺から尾根状台地にまとまる状況が見られる。これらの分布傾向としては、個々の土坑が密集して土坑群的な様相を呈するものや、間隔を置いて散在するような様相を呈するものなどが見受けられる。

こうした土坑の調査において、確認面の最上位にあたる面はIV層（相当）面であった。しかし、殆どが当該面での確認は困難であり、V層面を主体に確認されている。また、基本層序の遺存状態の差異などもあり、ローム面にあたるVI層面が現表土下に相当する区域もあった。このように、遺跡全体において斉一的な確認面の状況を把握できる状況にはないが、構築面（掘込み面）はIV層を上限とすると推測される。

土坑の覆土は、IV層を基調とするものが主体的と見られる。堆積の状況では、均質な堆積を呈するものと、塊状のロームやローム漸移層・礫などを多量に混入する不均質な堆積のものがあり、前者は自然堆積・後者は人為堆積と考えられる。また、均質な自然堆積と見られる覆土の中に炭化物を混入するものなどがあり、自然堆積か人為堆積か判然としないものも見受けられた。

形状・規模・方位について、平面形・断面形ともに模式的な形状を判別し、規模は平面形に則した長軸を長径、これに直交する軸を短軸として計測し、方位は長径を基準とした。また、平面形は確認面と底面の平面形に差異が明確な場合には、上面形（確認面）と底面形を区分した。判別した平面形は、「円形」・「楕円形」・「長楕円形」・「長方形」・「隅丸方形」・「隅丸長方形」などであり、これらに類するが形の整わないものは、各名称に「不整」を冠し、何れにも判別できないものは「不整形」とした。確認された土坑の平面形は円形や楕円形が主体で、隅丸を含めた方形・長方形のプランは少ないようである。断面は、方形状・台形状・U字状・皿状・袋状・Y字状・V字状などを判別したが、方形状は箱形を呈するもの、台形状はいわゆる逆台形の形状を呈するもの、U状は方形状の下場断面が丸みを持つもの、皿状はU字状の浅いもの、袋状は壁面に内傾部や内湾部が顕著なもの、Y字状はいわゆる漏斗状を呈するもの、V字状は尖底を呈するものである。確認された土坑の断面形は、台形状やU字状・皿状が多いが、U字状と皿状の関係については、削平等の攪乱や確認面などの問題で、本来はU字状であったものが二次的に浅くなった結果で皿状を呈する可能性もあり、不確定な要素を含むものである。また、袋状やY字状と判別されたものやこれに類する特徴を含む土坑では、壁面崩落により変形したと考えられるものが看取される。この他、壁面や底面に掘込み、ピット、凹み、小穴などを伴う属性のものなどもある。

出土遺物は、全土坑からの総点数で土器が約1,176点・石器が約65点を数える。土器・石器とも覆土中からの出土が殆どであるが、土器の中には底面付近から主体的に出土した個体や大型破片などがあり、土坑の性格や時期を示す遺物と考えられる。

検出された土坑・ピット及び出土遺物（第93～119図、PL20～37・69～74）

検出された土坑・ピットの種別については、「土壙」（墓坑）、「貯蔵穴」、「柱穴」、「陥穴」などが考えられるが、明確に判別できたものは僅かである。以下にこれらの概要を記すが、個々の土坑・ピットの詳細については「土坑・ピット一覧表」を参照されたい。

「土壙」（墓坑）と考えられるものでは、底面付近から主体的に土器を出土する土坑が5区を中心に見られる。具体的には、5-644号・660号・670号土坑などで、人為的に土器が配されたと考えられる。時期は出土土器から5-670号土坑が中期後葉、644号・660号土坑が後期前葉と考えられ、後期前葉と考えられる2例は、深鉢の口縁～胴部までの半面が被さるような状態を呈する特徴的なものである。また、6-15号ピットからは、深鉢の頸部の大型片が埋設されたような状態で出土しており、埋設土器の可能性はある。

「貯蔵穴」の可能性では、4-65号や67号土坑に可能性があり、両者には住居跡の炉跡付近にあることや、平面・断面の形状、特に断面に袋状の要素が看取されることなどに類似性が見られる。しかし、4-65号土坑は、4-15号住居跡のほぼ中央に位置し、土坑の底面から被熱痕のある扁平な礫や焼土塊、さらに石皿や大型の打製石斧などが出土したことから、住居跡の炉跡を破壊し、炉跡や住居跡に関係する遺物を混入する形で人為埋没したと考えられる。また、4-67号土坑は、4-8号住居跡の床面で炉跡の南側から確認され、炉跡と重複するが新旧は不明確で、底面で灰の分布が確認されている。こうした要素が「貯蔵穴」に適合するものであるかについては検討の必要があり、今後の課題として類例等を確認していきたい。

「柱穴」については、95区において長方形に規則的な配置を見せる土坑群があり、具体的には95-8号・14号・15号・24号・25号・26号・27号の土坑である。このうち、24号と25号は重複しており、実質的には6基の土坑が掘立柱建物跡のような配置を呈する。このうち、8号や14号土坑には根巻きの可能性がある礫の混入があり、24号や26号土坑ではセクションに柱痕と見られる層が看取される。これらの点では掘立柱建物跡の可能性が高いように思われるが、各土坑の平面形状や掘り込み（深さ）が斉一的ではなく、掘り込み（深さ）も他の掘立柱建物跡の柱穴に比して浅いように思われる。このため、これらの土坑については、「掘立柱建物跡」とは確定せずに「土坑群」として扱い、掘立柱建物跡の可能性を示唆する形で報告することにした。また、このうちの24号土坑の壁面では、掘削時の工具痕の単位と見られる縦位方向の凹みが看取されているが、不明瞭な部分もあり判然としない。

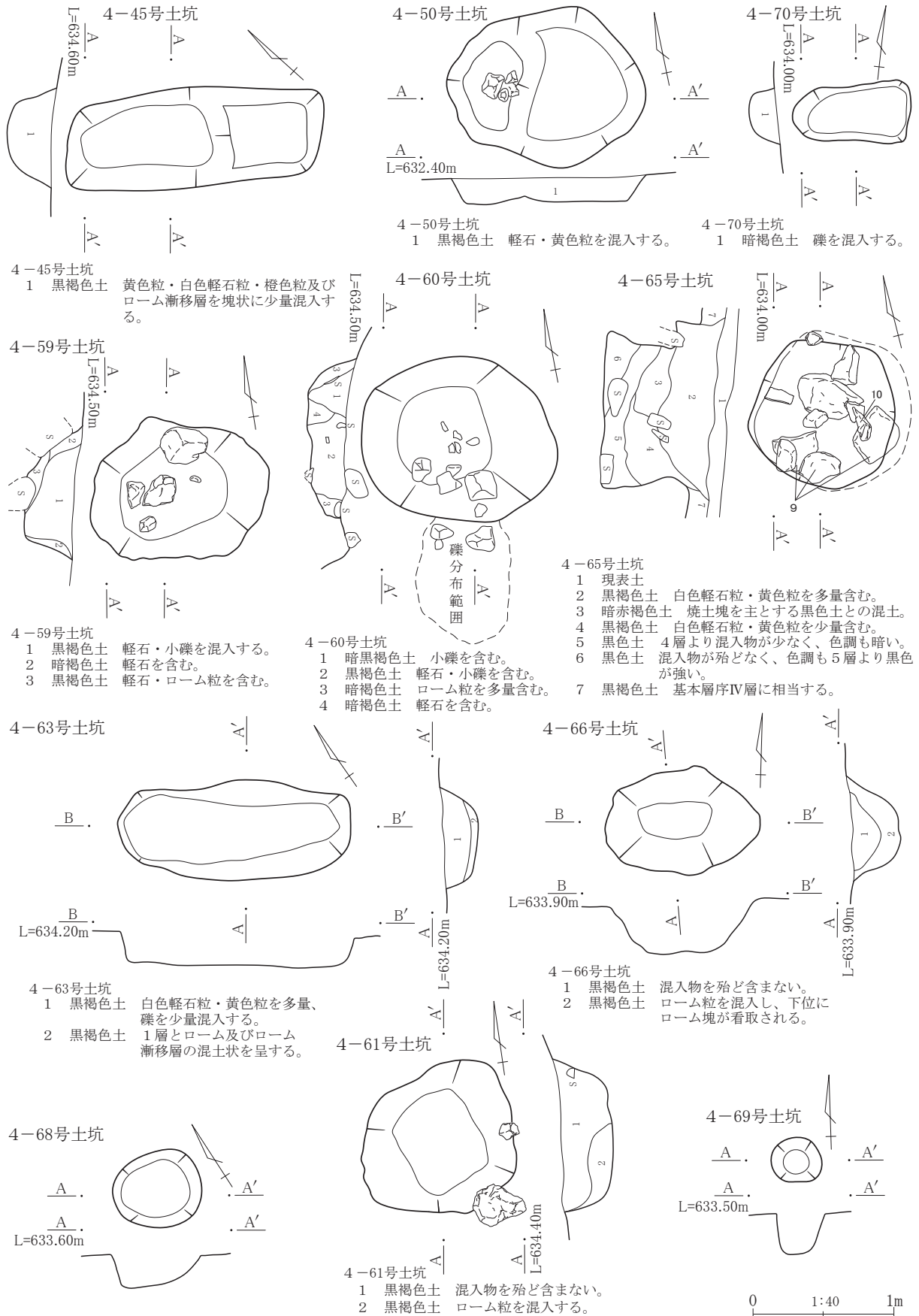
「陥穴」については、確認された陥穴の殆どが平安時代に比定されるものであった。しかし、4-45号土坑などのように、掘り込みが浅いながら長方形や隅丸長方形を呈する土坑が看取され、上面が削平された状態の陥穴の可能性を含むと考えられる。

この他の種別としては、5-606号や616号土坑は、混入していた礫に被熱の痕跡があることなどから炉跡の可能性が想定される。

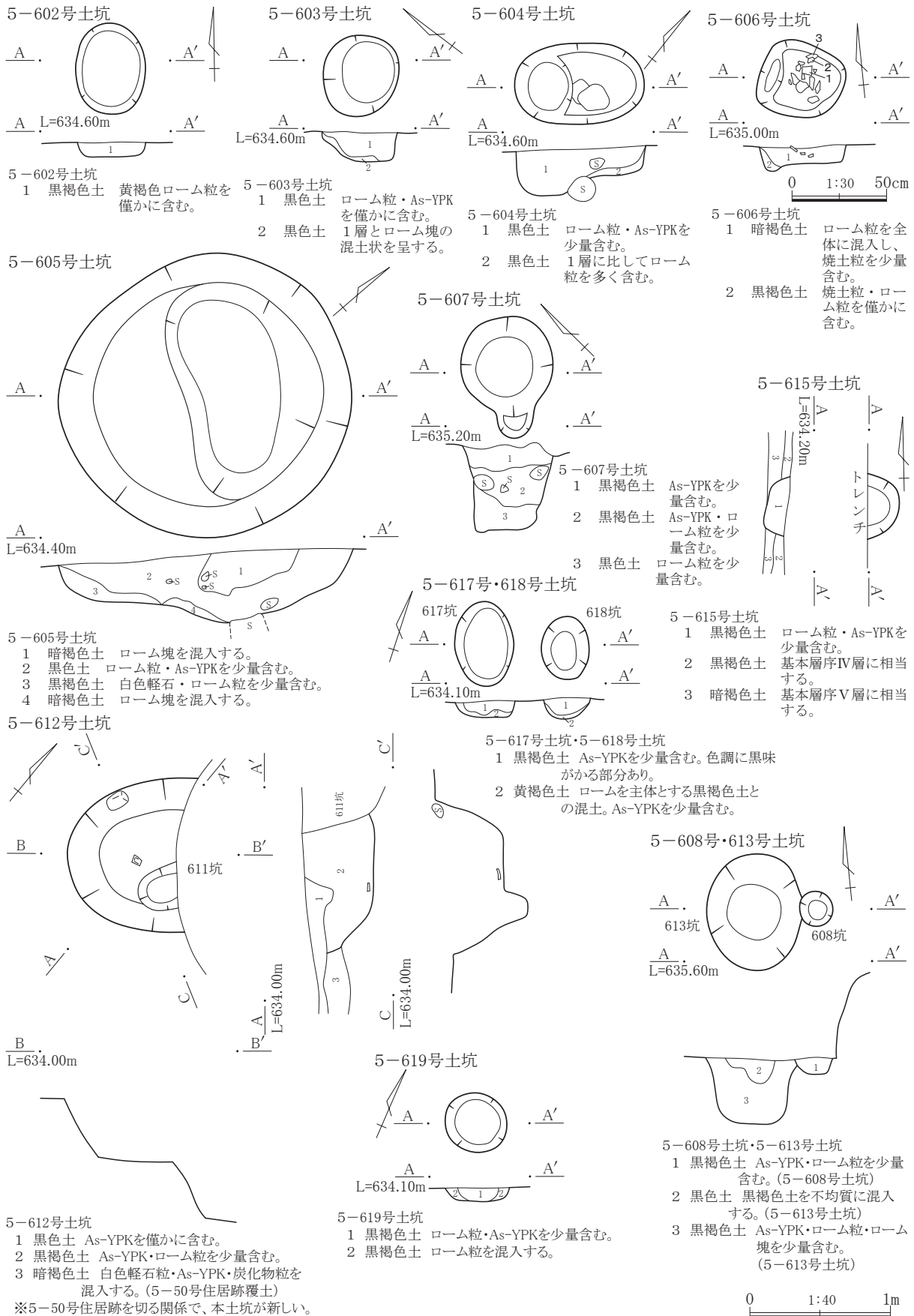
土坑からの出土遺物について、土器の時期は中期後葉～後期前葉のものが主体である。このうち、前述した土器の他にも、5-666号や669号土坑からも中期後葉に比定される深鉢口縁部の大型破片が出土しており、6-179号土坑からは吊手土器の吊手部が出土している。また、95-7号土坑からは、総数236点もの土器片が出土しており、特異な状況を呈する。

石器では、前述した4-65号土坑からは「石鋏」とも見られる大型の打製石斧や、意図的に欠かれていた3点が接合した大型の石皿が出土している。また、5-670号土坑からは片岩製の石棒の胴部、5-688号土坑からは、磨製石斧を模したと見られる軽石製の石製品が出土しており注目される。

第3章 検出された遺構・遺物



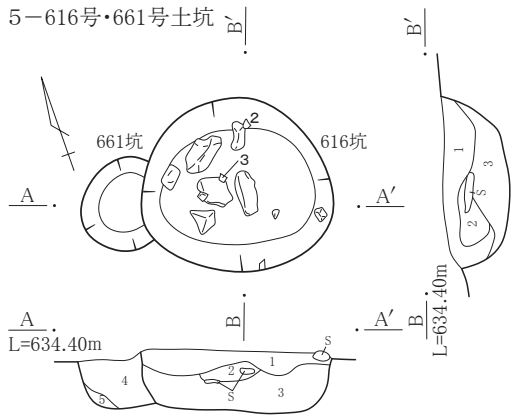
第93図 4区土坑(1)



第94図 5区土坑(1)

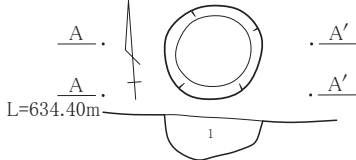
第3章 検出された遺構・遺物

5-616号・661号土坑



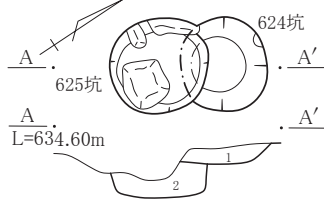
- 5-616号土坑・5-661号土坑
- 1 黒褐色土 焼土粒を多量混入し、色調が赤味がかかる。As-YPKを僅かに含む。(5-616号土坑)
 - 2 黒色土 均質で締まりがやや強い。暗褐色土の細粒が均質に混入し、色調が白味がかかる。(5-616号土坑)
 - 3 黒褐色土 As-YPKを多量、炭化物粒・焼土粒を僅かに含む。(5-616号土坑)
 - 4 黒褐色土 As-YPKを僅かに含む。(5-661号土坑)
 - 5 黒褐色土 ロームの細粒を全体に均質に混入する。(5-661号土坑)

5-621号土坑



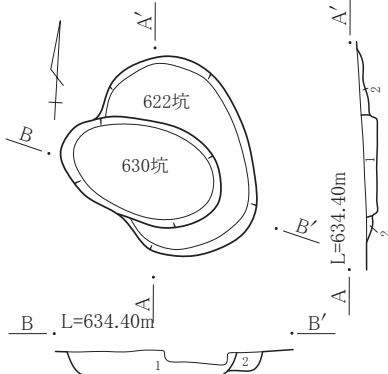
- 5-621号土坑
- 1 暗褐色土 黒褐色土を主とする黄褐色ロームとの混土。As-YPKを少量含む。

5-624号・625号土坑



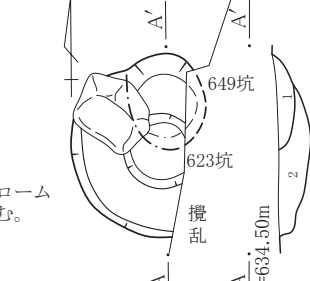
- 5-624号土坑・5-625号土坑
- 1 黒褐色土 ローム粒を少量含む。(5-624号土坑)
 - 2 暗褐色土 ローム粒を多量混入する。(5-625号土坑)

5-622号・630号土坑



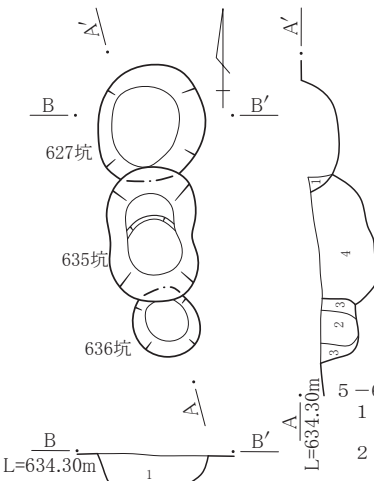
- 5-622号土坑・5-630号土坑
- 1 黒褐色土 As-YPKを僅かに含む。(5-630号土坑)
 - 2 黒褐色土 ローム塊を混入する。(5-622号土坑)

5-623号・649号土坑



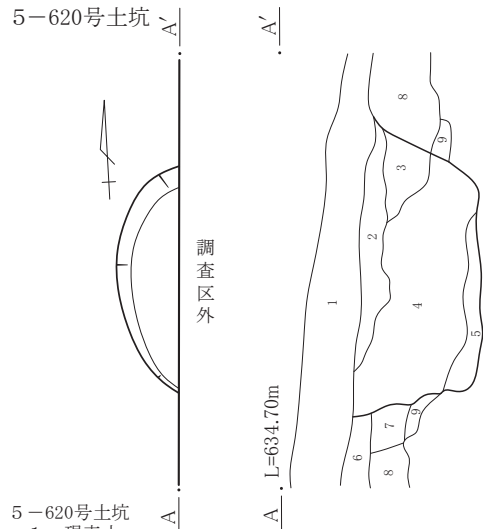
- 5-623号土坑・5-649号土坑
- 1 黒色土 As-YPK・ローム細粒を僅かに含む。(5-649号土坑)
 - 2 黒褐色土 As-YPK・黒色土塊・炭化物粒を僅かに含む。(5-623号土坑)

5-627号・635号・636号土坑



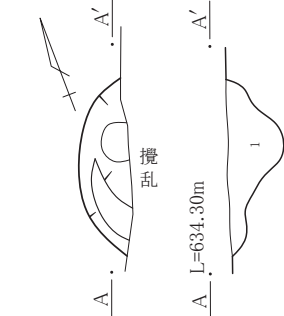
- 5-627号土坑・5-635号土坑・5-636号土坑
- 1 黒褐色土 As-YPK・ローム粒を僅かに含む。(5-627号土坑)
 - 2 黒褐色土 ローム粒を少量含む。(5-636号土坑)
 - 3 暗褐色土 ローム細粒を多量、黒色土・黄褐色土を塊状に混入する。(5-636号土坑)
 - 4 黒褐色土 As-YPKを僅かに含み、下位に軽石を含まない部分有り。(5-635号土坑)

5-620号土坑



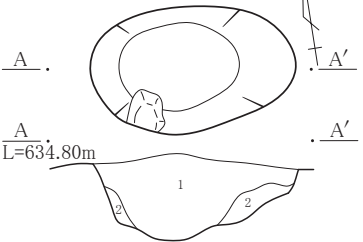
- 5-620号土坑
- 1 現表土
 - 2 黒褐色土 ローム粒・As-YPKを僅かに含む。
 - 3 黒褐色土 ローム塊を多量含む。
 - 4 黒褐色土 ローム塊・ローム粒を不均質に混入する。
 - 5 黒褐色土 混入物を殆ど含まない。
 - 6 黒色土 基本層序III層に相当する。
 - 7 黒色土 基本層序IV層に相当するが、ローム漸移層粒を僅かに含む。
 - 8 黒褐色土 基本層序IV層に相当する。
 - 9 暗褐色土 基本層序V層にAs-YPKを僅かに含む塊状の堆積。(地山相当)

5-626号土坑



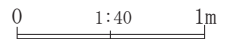
- 5-626号土坑
- 1 黒褐色土 As-YPKを少量、ローム粒を僅かに含む。

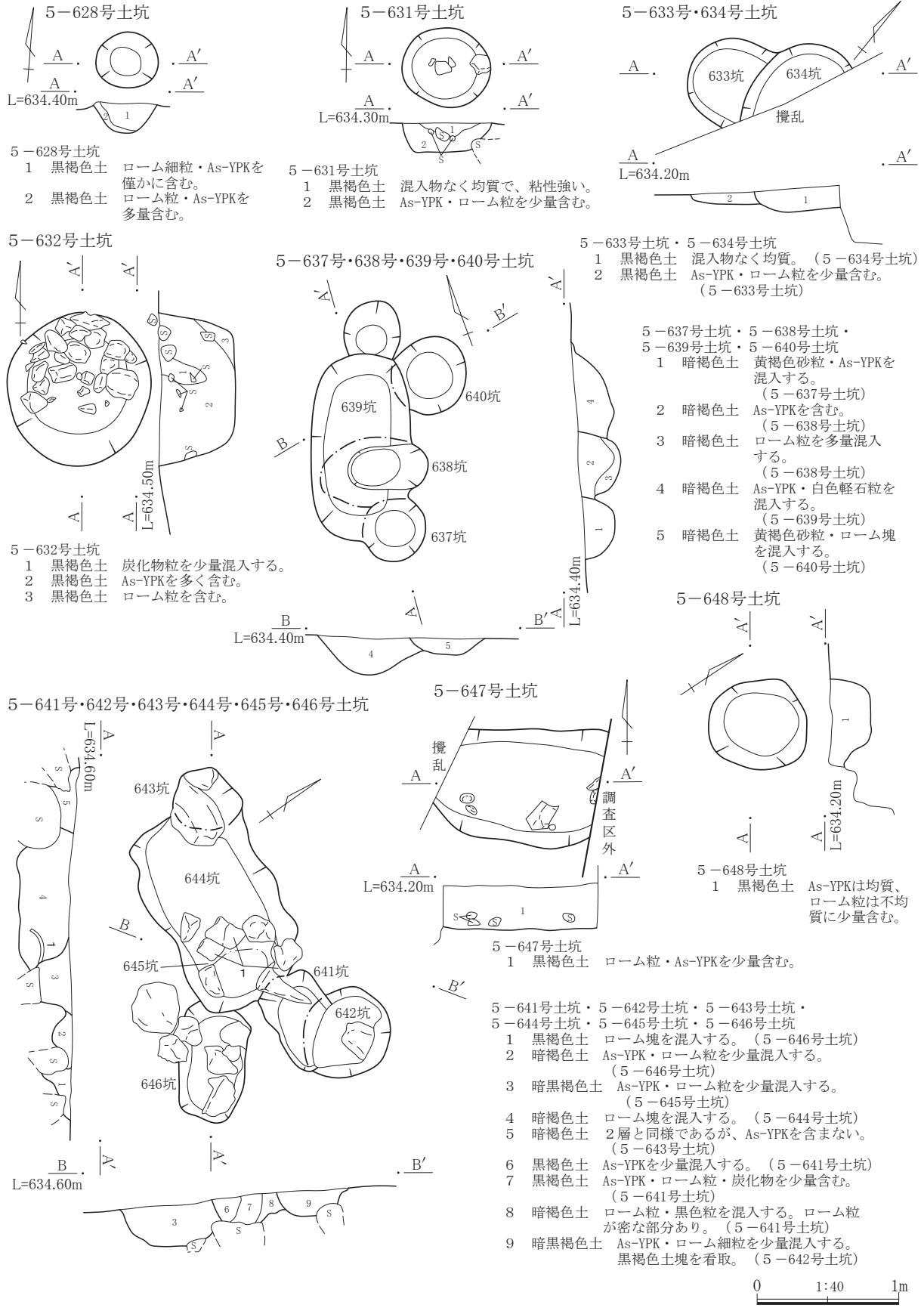
5-629号土坑



- 5-629号土坑
- 1 黒色土 混入物を殆ど含まない。
 - 2 黒褐色土 As-YPK・ローム粒を少量含む。

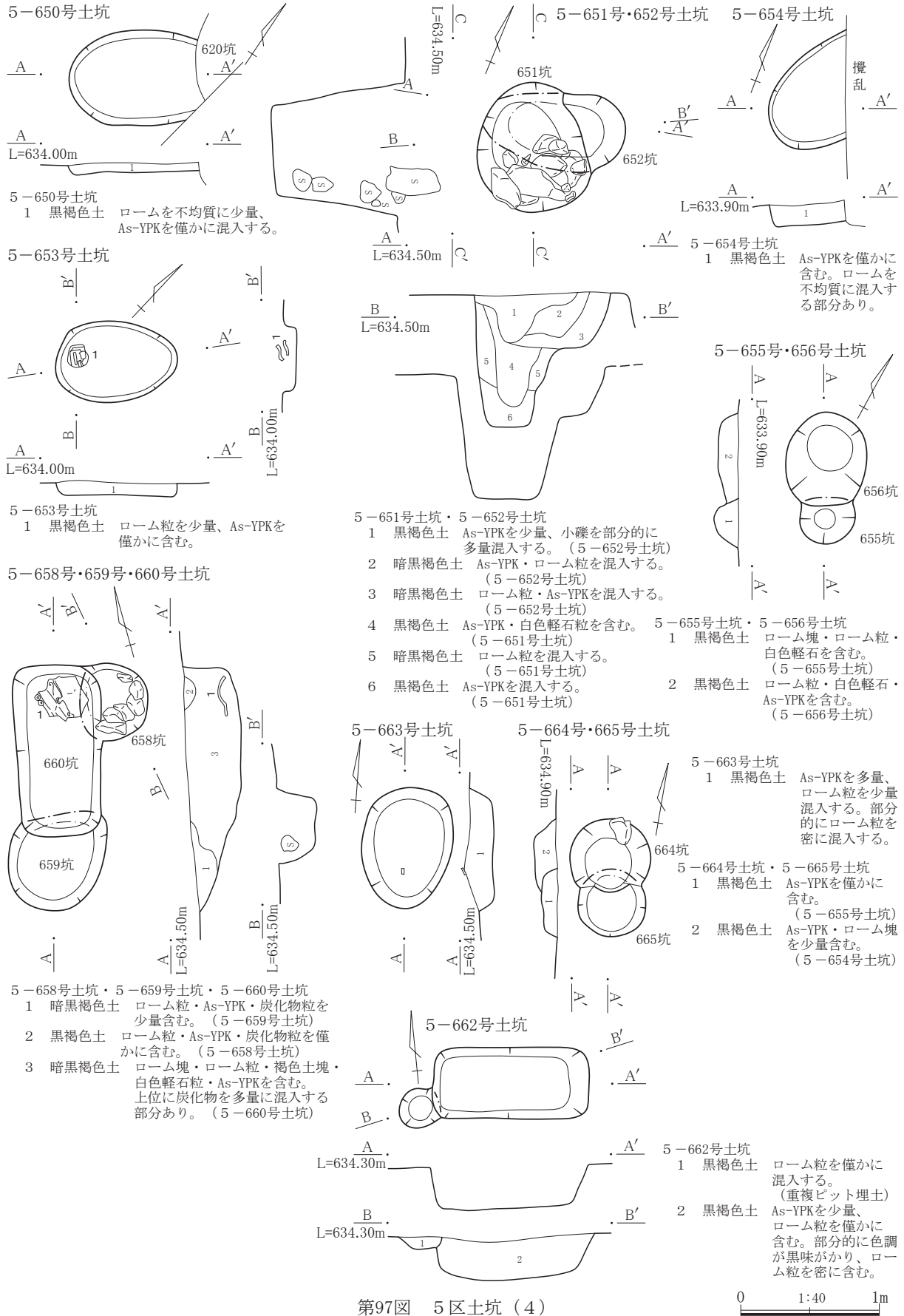
第95図 5区土坑(2)



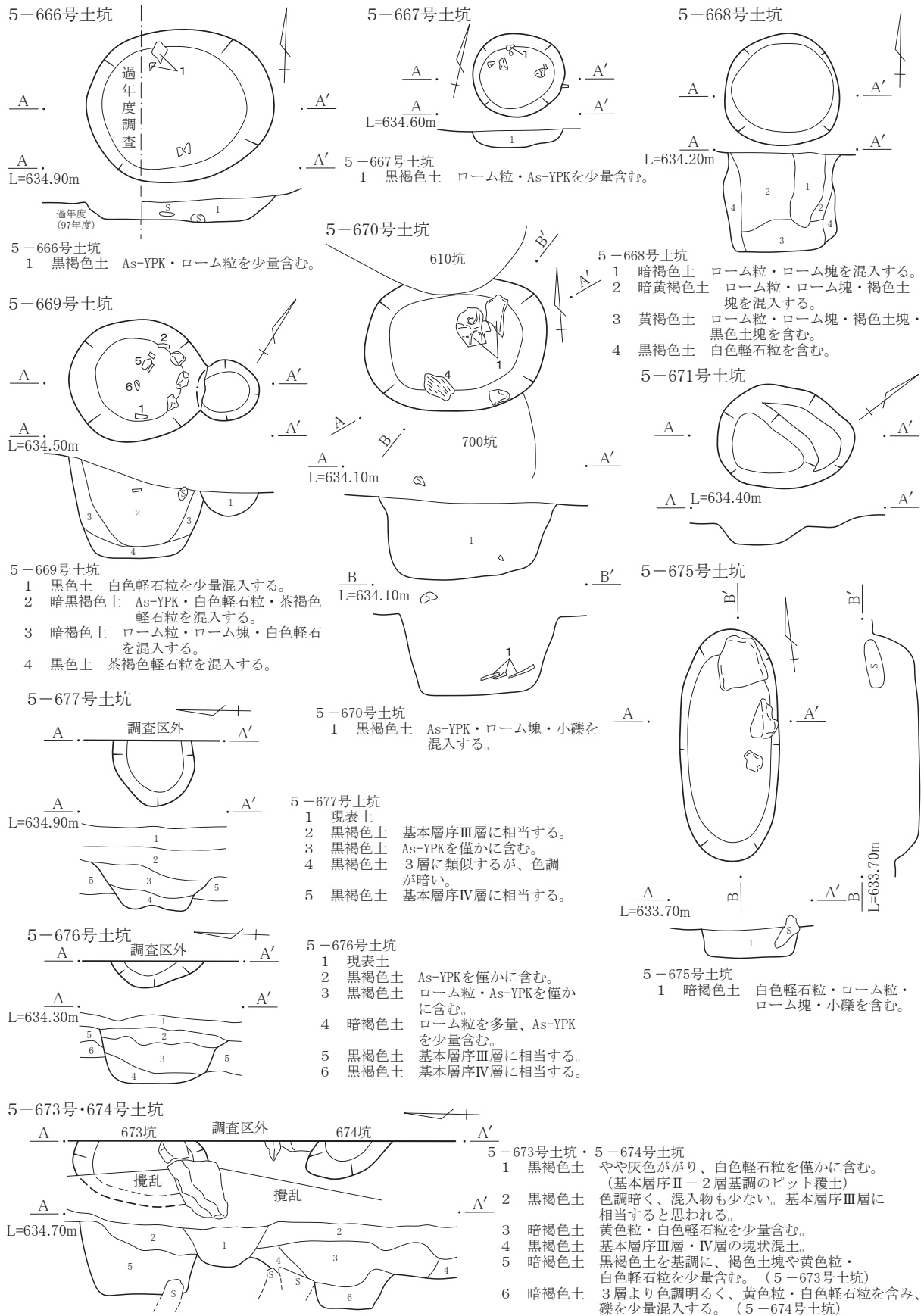


第96図 5区土坑(3)

第3章 検出された遺構・遺物

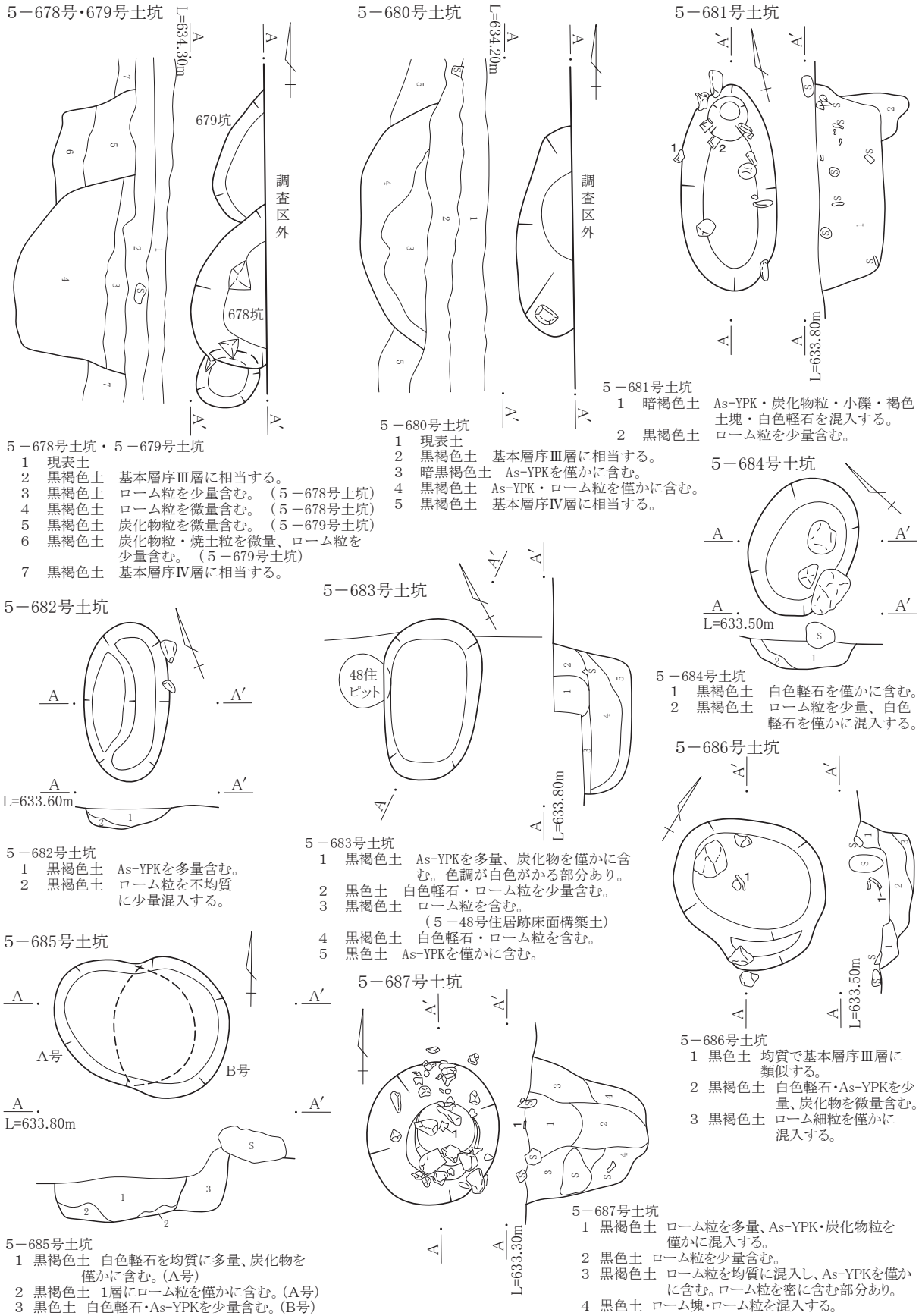


第97図 5区土坑(4)



第98図 5区土坑(5)

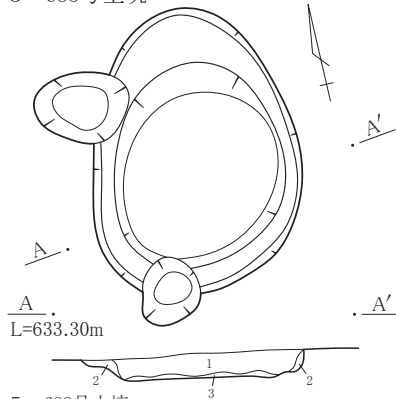




第99図 5区土坑(6)

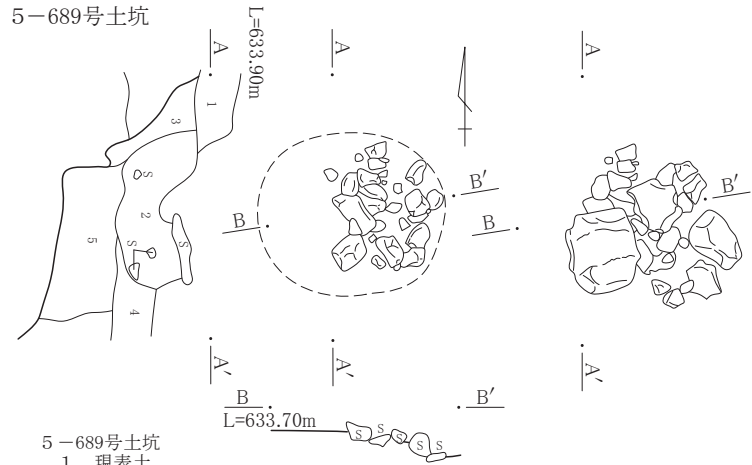
0 1:40 1m

5-688号土坑



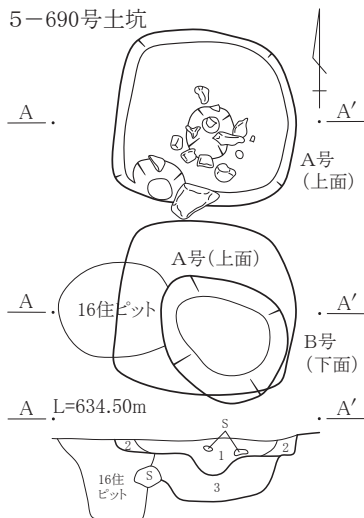
- 5-688号土坑
 1 黒褐色土 As-YPKを多量混入する。
 2 暗褐色土 ローム粒・ローム塊を混入する。
 3 暗黒褐色土 As-YPK・ローム塊を混入する。

5-689号土坑



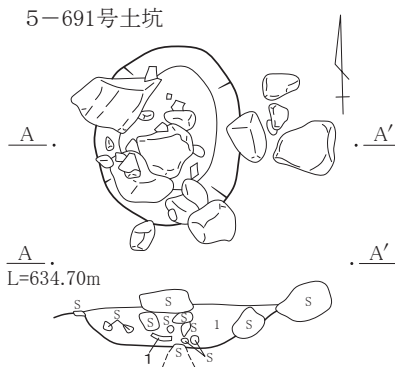
- 5-689号土坑
 1 現表土
 2 黒色土 白色軽石・As-YPK・小礫を混入する。
 3 黒褐色土 白色軽石を混入する。
 4 黒褐色土 白色軽石・As-YPK・炭化物粒を含む。
 5 黒褐色土 白色軽石・As-YPK・ローム粒・ローム塊を混入する。

5-690号土坑



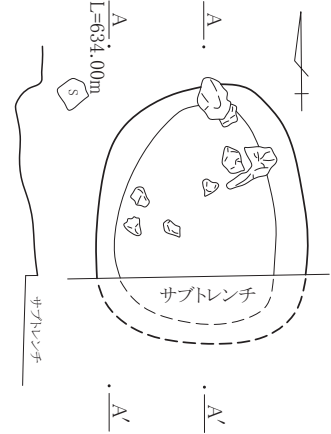
- 5-690号土坑
 1 暗褐色土 白色軽石・礫を混入する。(A号)
 2 褐色土 ローム漸移層粒を多量含む。(A号)
 3 黒褐色土 白色軽石・As-YPKを含む。(B号)

5-691号土坑

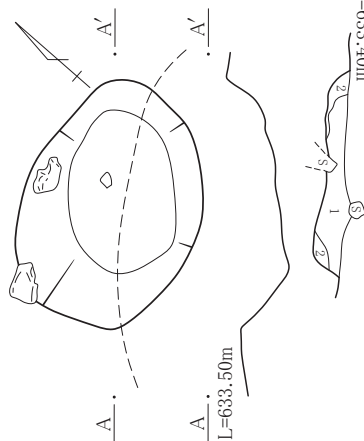


- 5-691号土坑
 1 暗褐色土 ローム粒を多量混入し、白色軽石・As-YPKを含む。

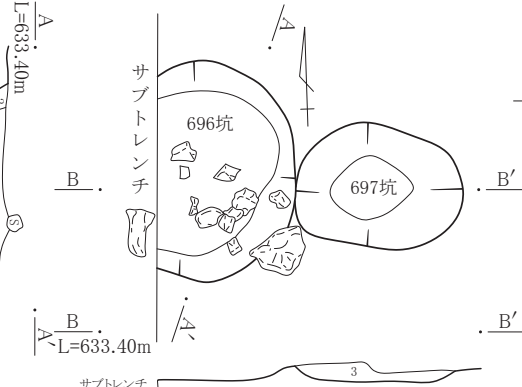
5-693号土坑



5-694号土坑

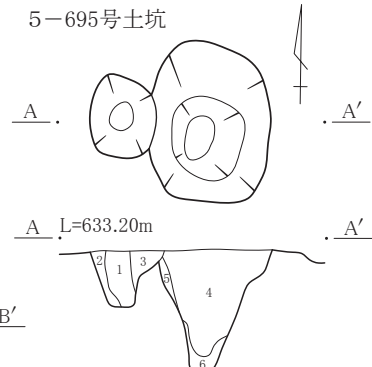


5-696号・697号土坑



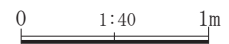
- 5-696号土坑・5-697号土坑
 1 黒褐色土 ローム粒を多量、黒色土塊・As-YPKを僅かに含む。(5-696号土坑)
 2 暗褐色土 黒褐色土塊・ローム塊を多量、As-YPKを僅かに含む。(5-696号土坑)
 3 黒褐色土 As-YPKを少量、ローム粒を僅かに含む。(5-697号土坑)

5-695号土坑



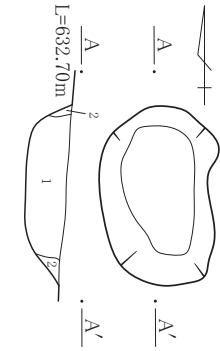
- 5-695号土坑
 1 黒褐色土 As-YPK・ローム粒を僅かに含む。
 2 暗褐色土 ローム粒を多量、As-YPKを少量含む。
 3 黒褐色土 暗褐色土を全体に混入する。
 4 黒褐色土 ローム粒・炭化物粒を僅かに含む。
 5 黒褐色土 黒色土を主とするロームとの混土。
 6 黒褐色土 ローム粒を多量含む。

第100図 5区土坑(7)



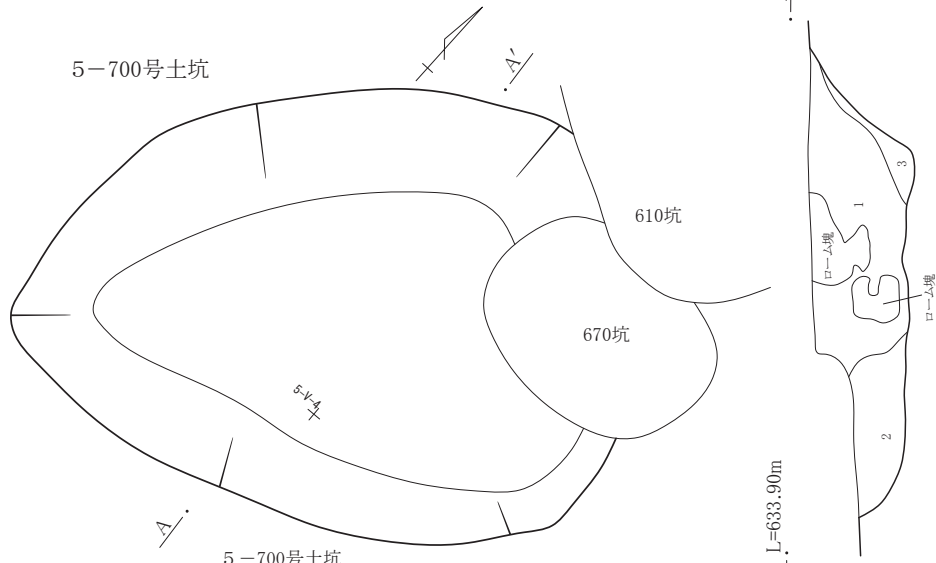
第3章 検出された遺構・遺物

5-698号土坑

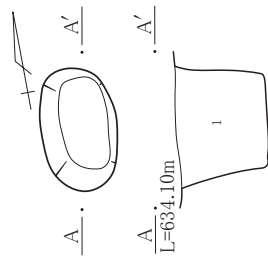


- 5-698号土坑
 1 黒褐色土 As-YPK・ローム粒を含む。
 2 暗褐色土 ローム粒を多量、As-YPKを僅かに含む。

5-700号土坑



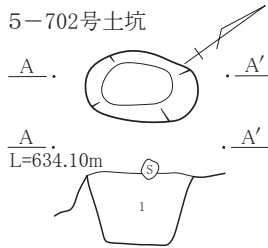
5-701号土坑



- 5-701号土坑
 1 黒褐色土 As-YPK・白色軽石を僅かに含む。

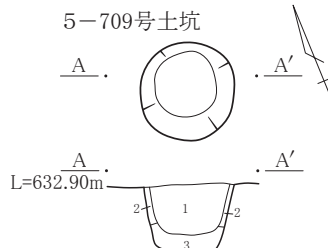
- 5-700号土坑
 1 黒色土 ローム塊を多量、礫を少量含む。
 2 黒色土 白色軽石粒を多量含む。
 3 黄褐色土 ロームを主とする少量の黒色土との混土。

5-702号土坑



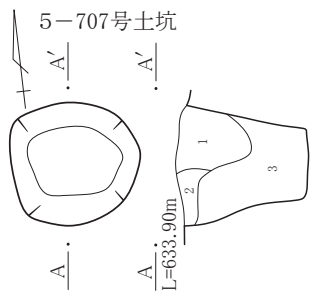
- 5-702号土坑
 1 黒褐色土 As-YPK・白色軽石を僅かに含む。

5-709号土坑



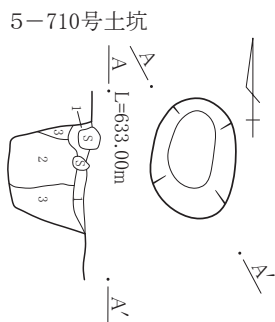
- 5-709号土坑
 1 黒色土 As-YPK・ローム粒を少量含む。
 2 暗褐色土 ローム粒を多量混入し、As-YPKを少量含む。
 3 暗褐色土 ローム粒・As-YPKを少量含む。

5-707号土坑



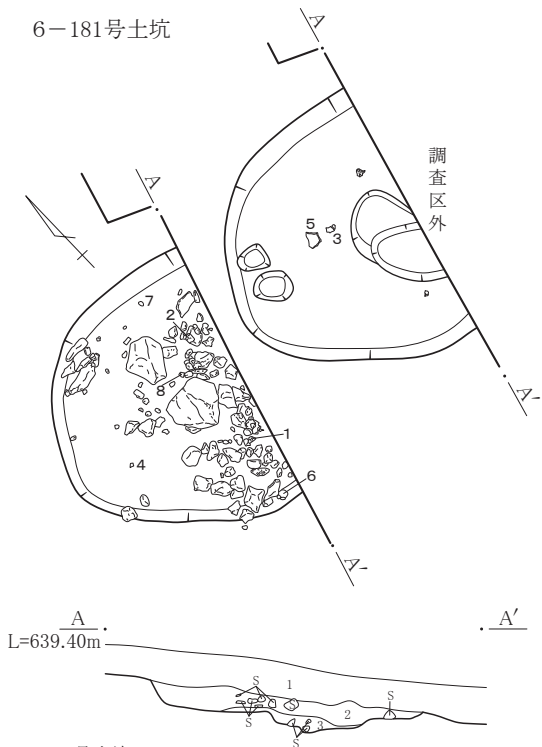
- 5-707号土坑
 1 黒褐色土 As-YPK・白色軽石・ローム粒を多量含む。
 2 黒褐色土 As-YPK・白色軽石を多量、ローム粒を少量含む。
 3 暗褐色土 ローム粒を多量、As-YPK・白色軽石を僅かに含む。

5-710号土坑

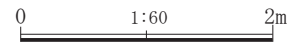
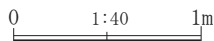


- 5-710号土坑
 1 黒褐色土 ローム粒・As-YPKを僅かに含む。
 2 黒褐色土 As-YPK・ローム粒を少量含む。柱痕か？
 3 暗褐色土 ローム粒を多量、As-YPKを少量含む。

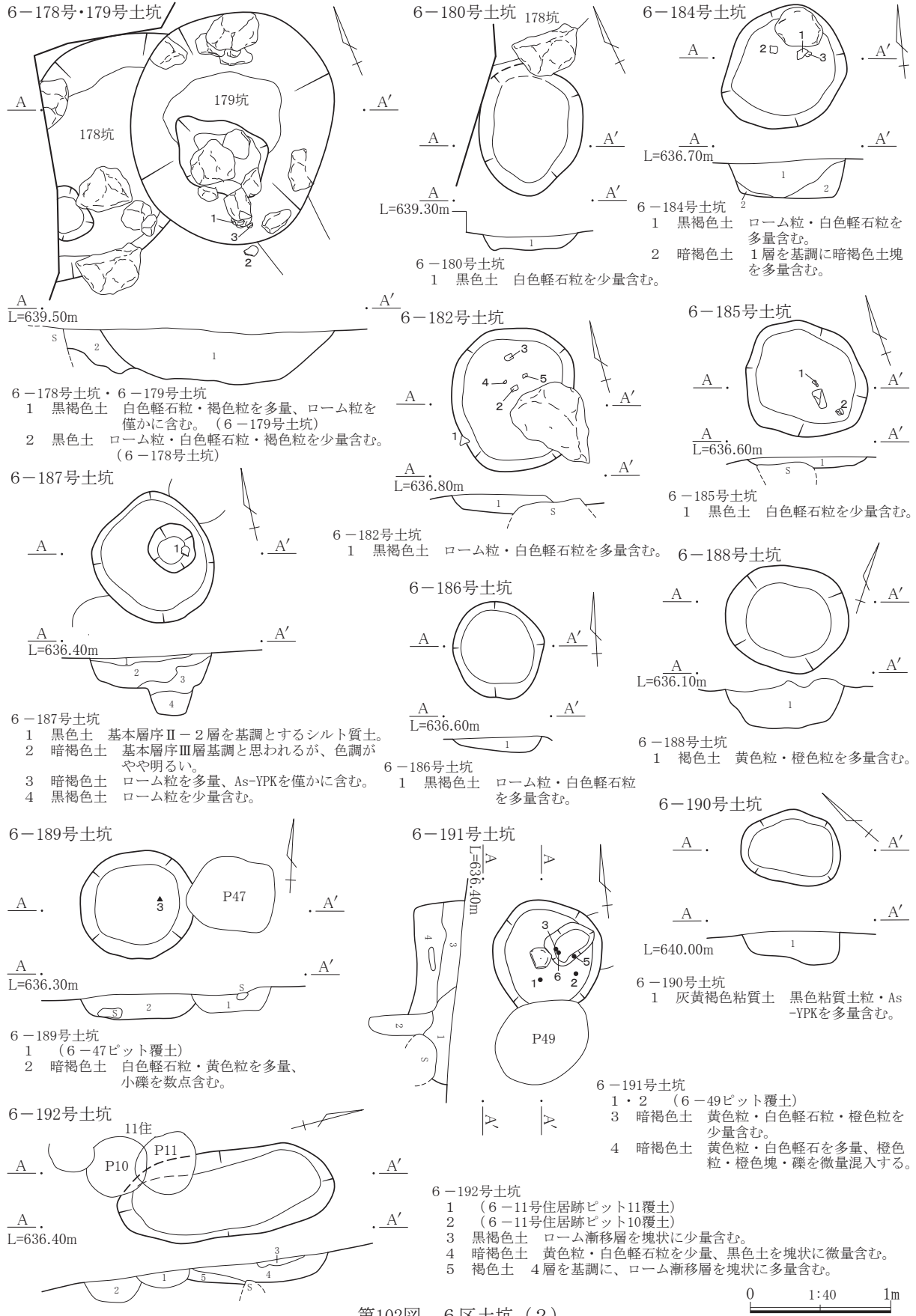
6-181号土坑



- 6-181号土坑
 1 現表土
 2 黒色土 褐色粒を多量含む。
 3 暗黄褐色土 褐色土を基調にローム塊を多量含む。

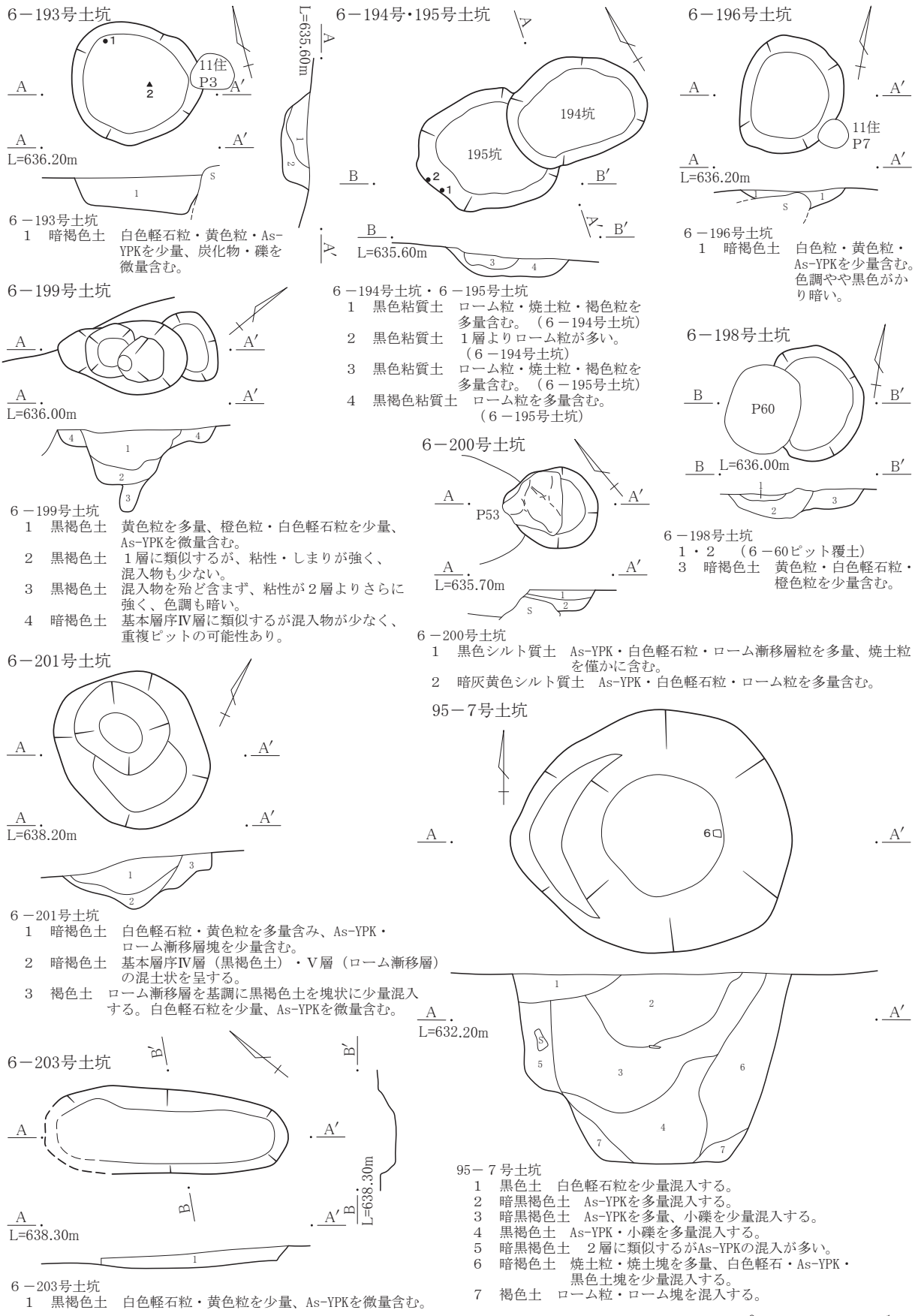


第101図 5区土坑(8)・6区土坑(1)

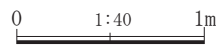


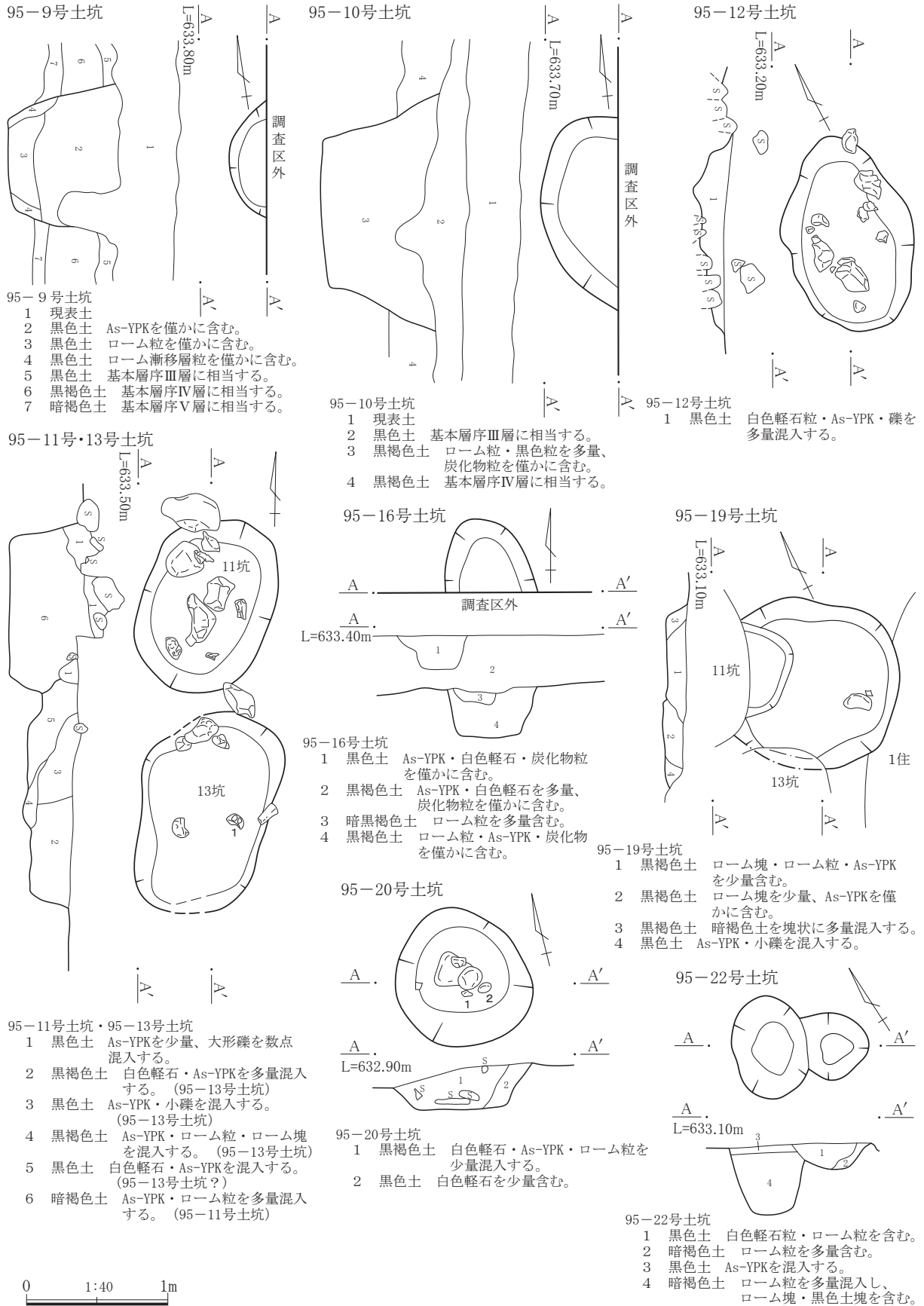
第102図 6区土坑(2)

第3章 検出された遺構・遺物



第103図 6区土坑(3)・95区土坑(1)

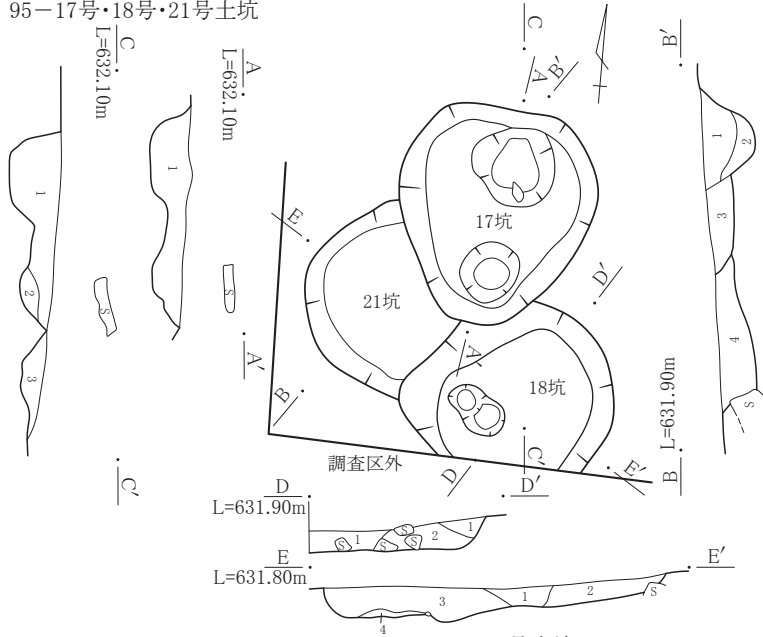




第104図 95区土坑(2)

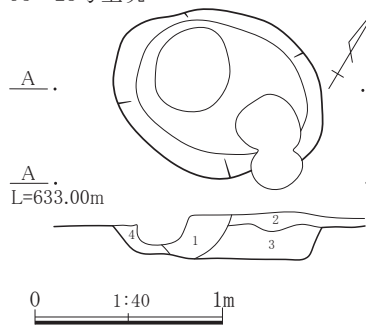
第3章 検出された遺構・遺物

95-17号・18号・21号土坑

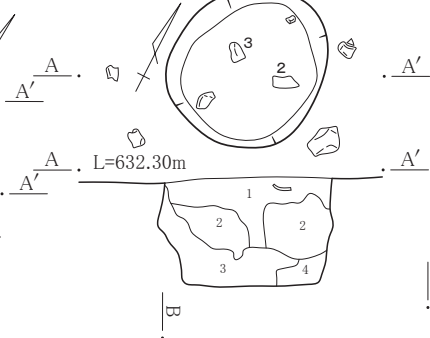


- 95-17号土坑・95-18号土坑・95-21号土坑
- ・A-A' (95-17号土坑)
 - 1 黒褐色土 As-YPK・白色軽石を多量、炭化物粒を僅かに含む。
 - ・B-B'
 - 1 黒色土 As-YPK・ローム粒・焼土粒を僅かに含む。(95-17号土坑)
 - 2 黒褐色土 ローム粒を僅かに含む。(95-17号土坑)
 - 3 黒褐色土 As-YPK・白色軽石を多量、炭化物粒を僅かに含む。(95-17号土坑)
 - 4 黒褐色土 ローム粒を多量、As-YPKを僅かに含む。(95-21号土坑)
 - ・C-C'
 - 1 黒褐色土 A-A' の1層と同一。(95-17号土坑)
 - 2 黒色土 As-YPKを僅かに含む。(95-17号土坑)
 - 3 黒色土 ローム粒を多量混入する。(95-18号土坑)
 - ・D-D' (95-18号土坑)
 - 1 黒褐色土 暗褐色土塊を少量、ローム粒・炭化物粒を僅かに含む。
 - 2 黒色土 C-C' の3層と同一。
 - ・E-E'
 - 1 黒褐色土 ローム粒・As-YPKを僅かに含む。(95-18号土坑)
 - 2 黒褐色土 As-YPKを少量含む。(95-18号土坑)
 - 3 黒褐色土 ローム粒を多量、As-YPKを僅かに含む。(95-21号土坑)
 - 4 暗褐色土 ローム粒を多量混入する。(95-21号土坑)

95-23号土坑

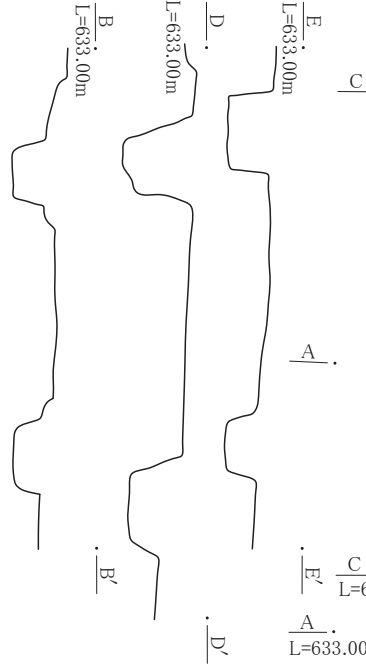


95-28号土坑

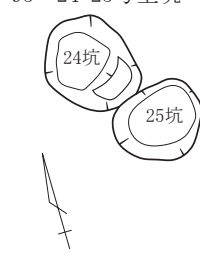


- 95-23号土坑
- 1 黒褐色土 白色軽石粒・ローム粒を含む。(ビット覆土)
 - 2 黒色土 白色軽石粒・As-YPKを含む。(95-1号住居跡床面構築土?)
 - 3 黒褐色土 白色軽石粒・As-YPK・赤褐色粒を含む。赤褐色粒は焼土粒か?
 - 4 黒褐色土 白色軽石粒を含む。
- 95-28号土坑
- 1 黒褐色土 ローム粒を僅かに含む。
 - 2 黒褐色土 ローム粒を多量混入する。
 - 3 黒色土 ローム粒を少量含む。
 - 4 黒褐色土 ローム粒を多量混入する。

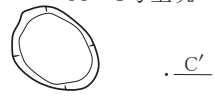
95-26号土坑



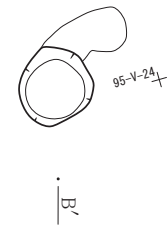
95-24・25号土坑



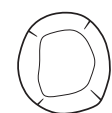
95-8号土坑



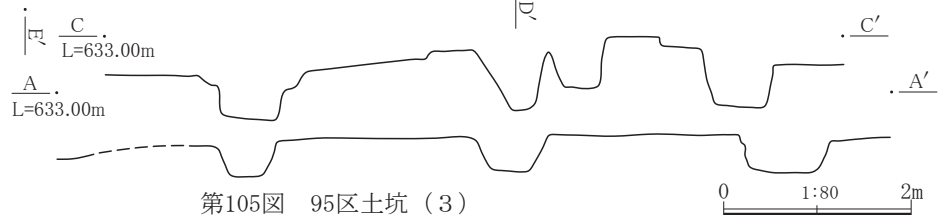
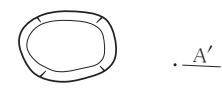
95-27号土坑



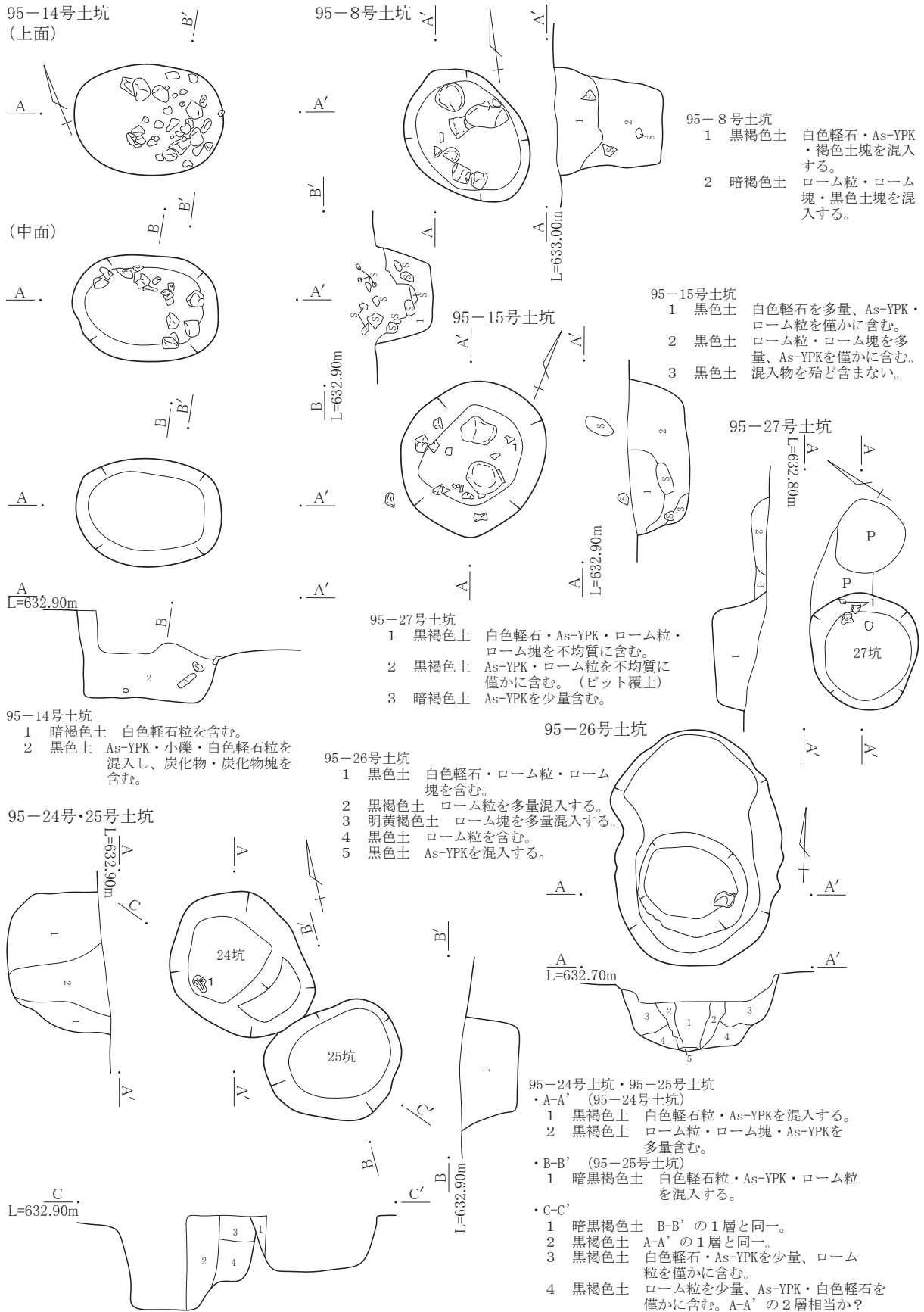
95-15号土坑



95-14号土坑



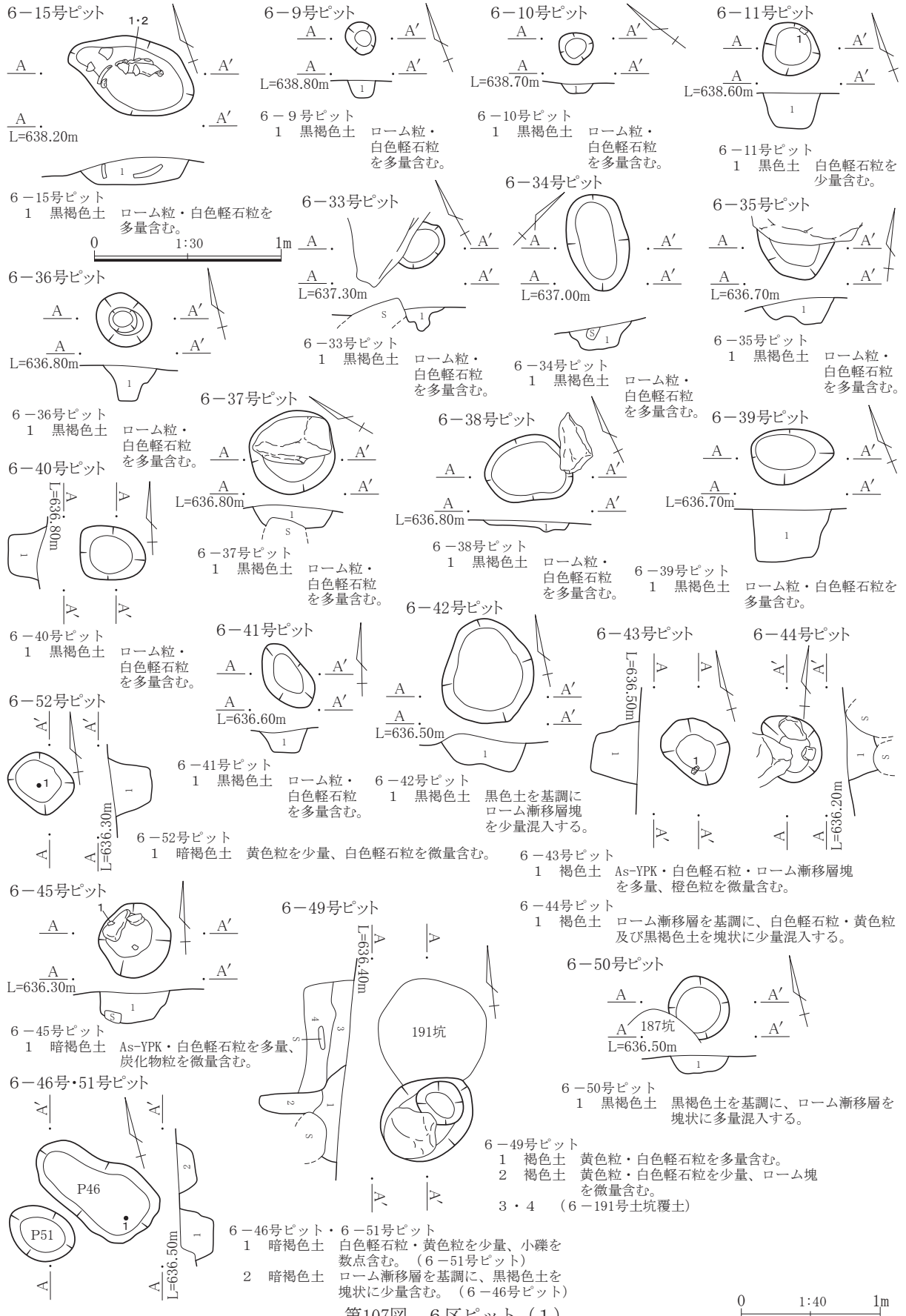
第105図 95区土坑 (3)



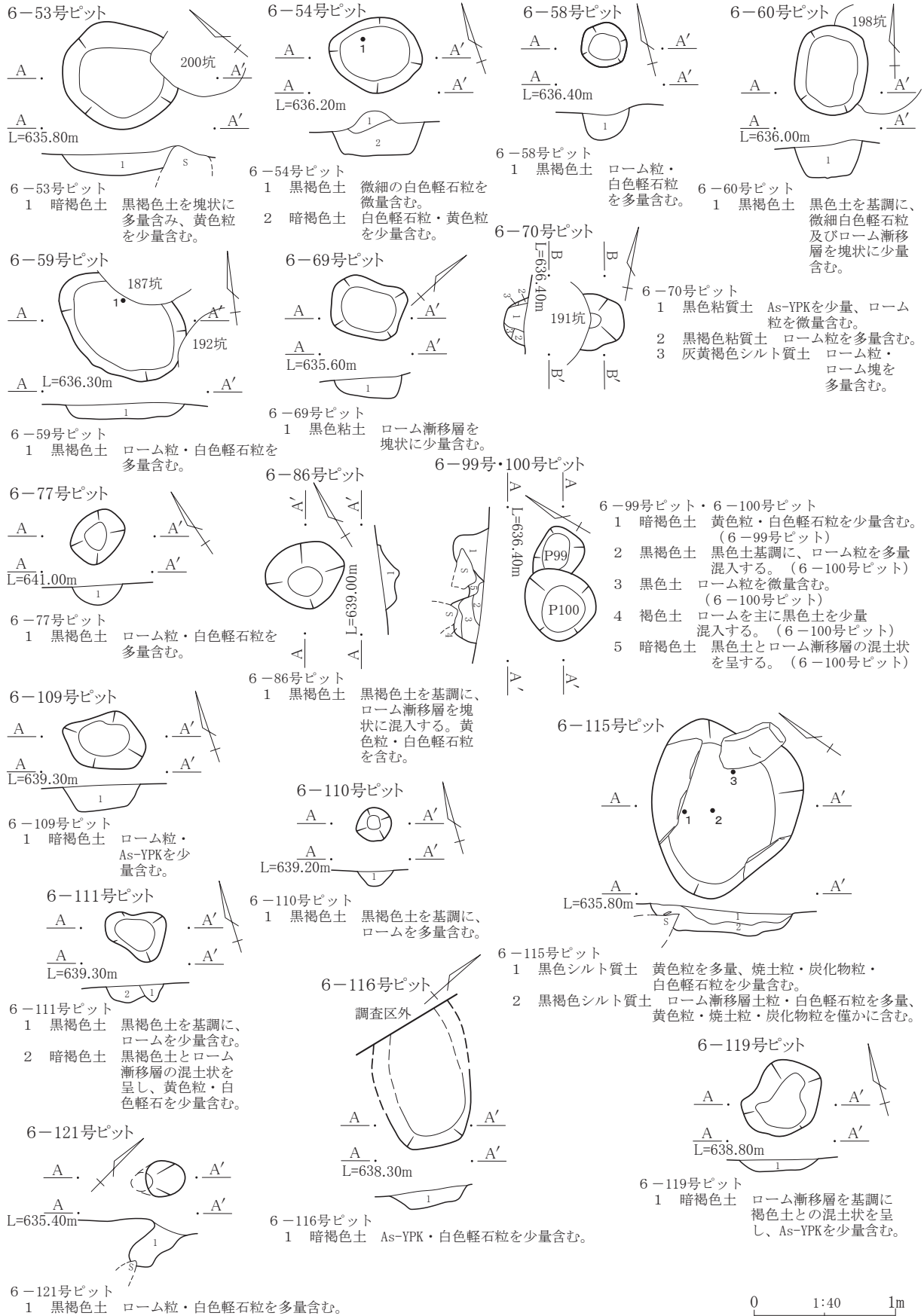
第106図 95区土坑 (4)

0 1:40 1m

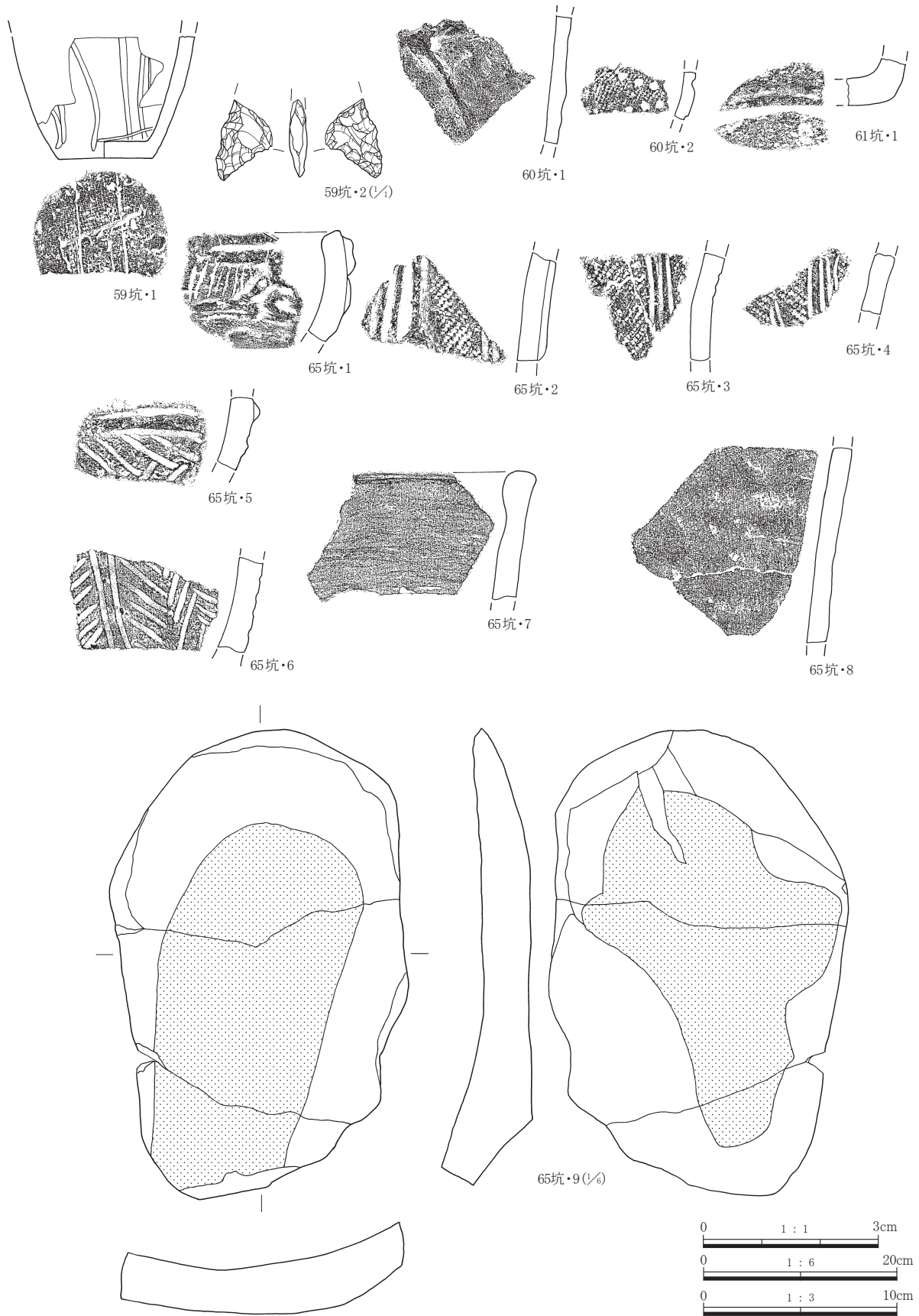
第3章 検出された遺構・遺物



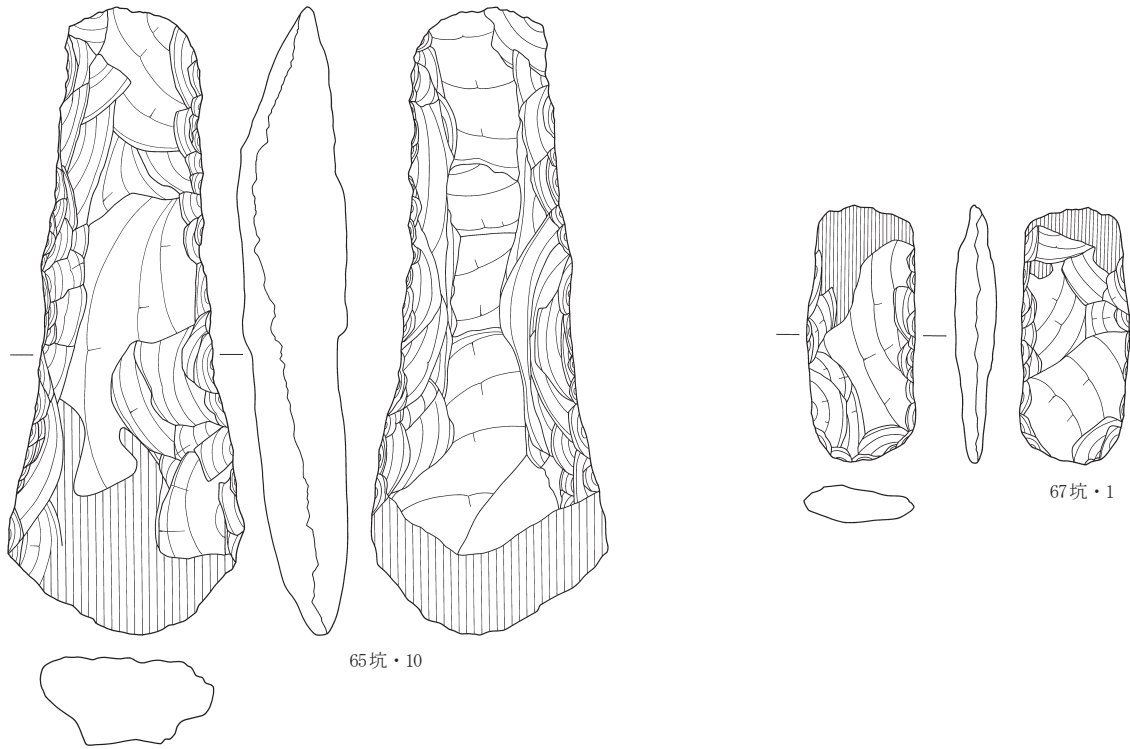
第107図 6区ピット(1)



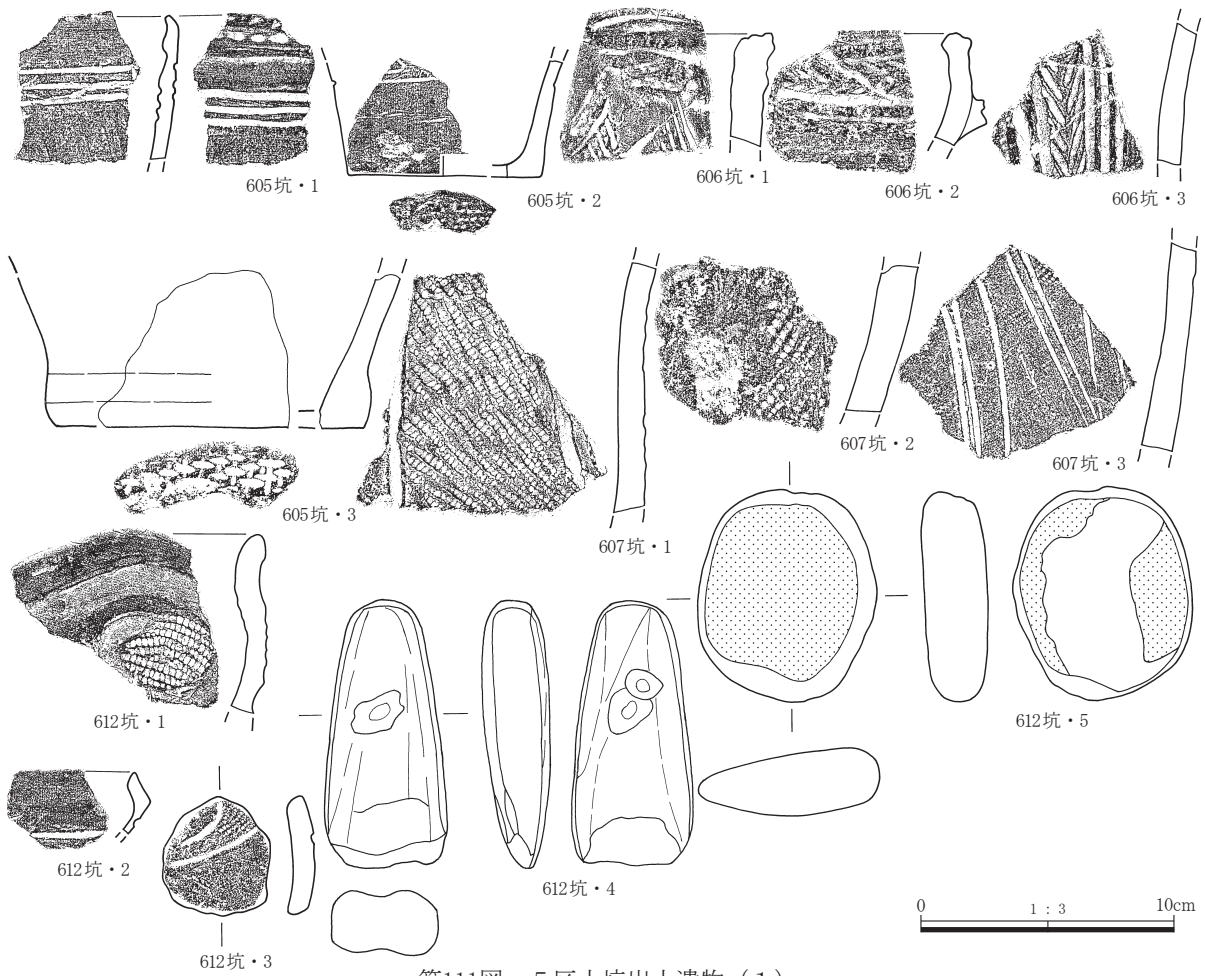
第108図 6区ピット(2)



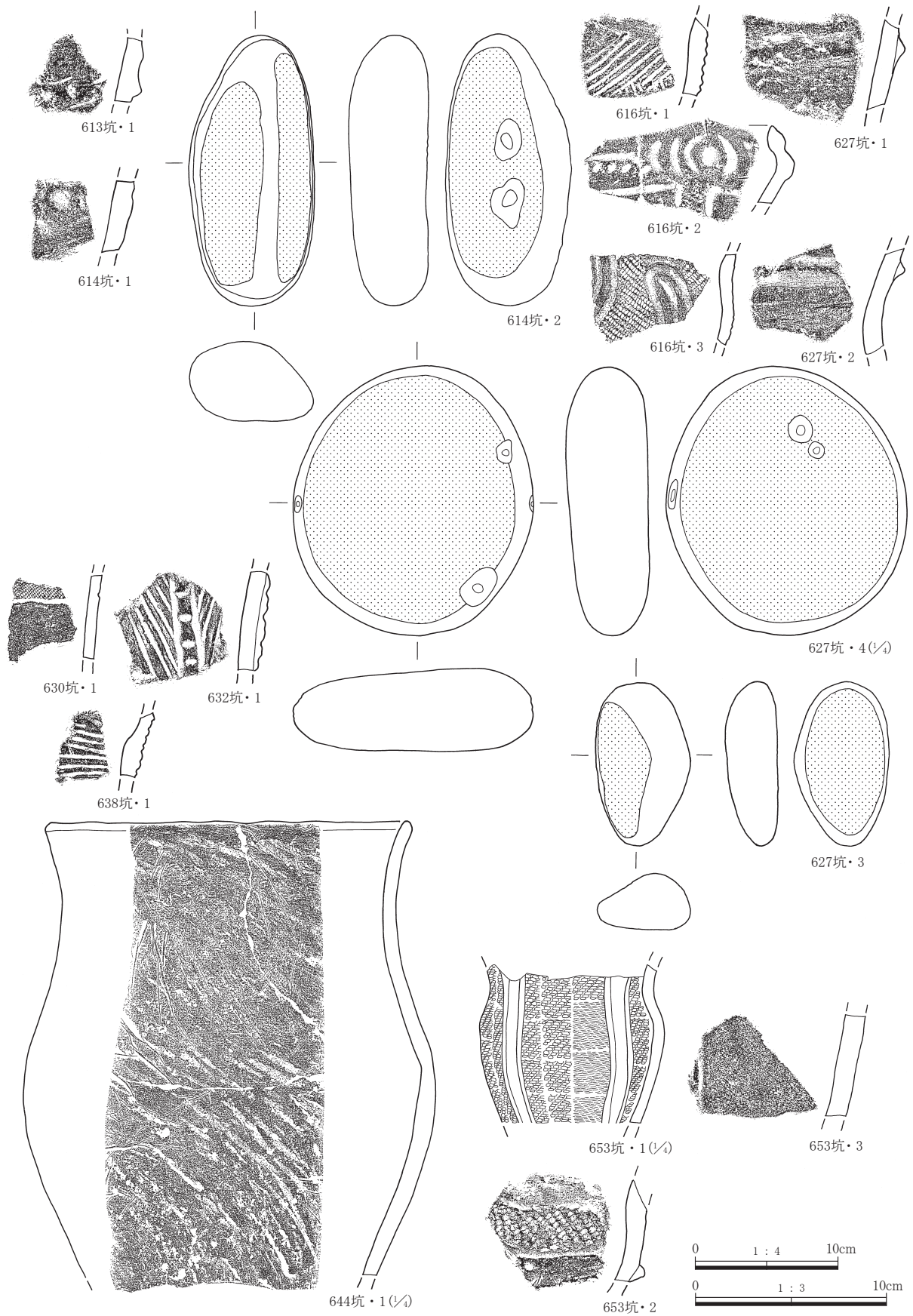
第109図 4区土坑出土遺物(1)



第110図 4区土坑出土遺物(2)

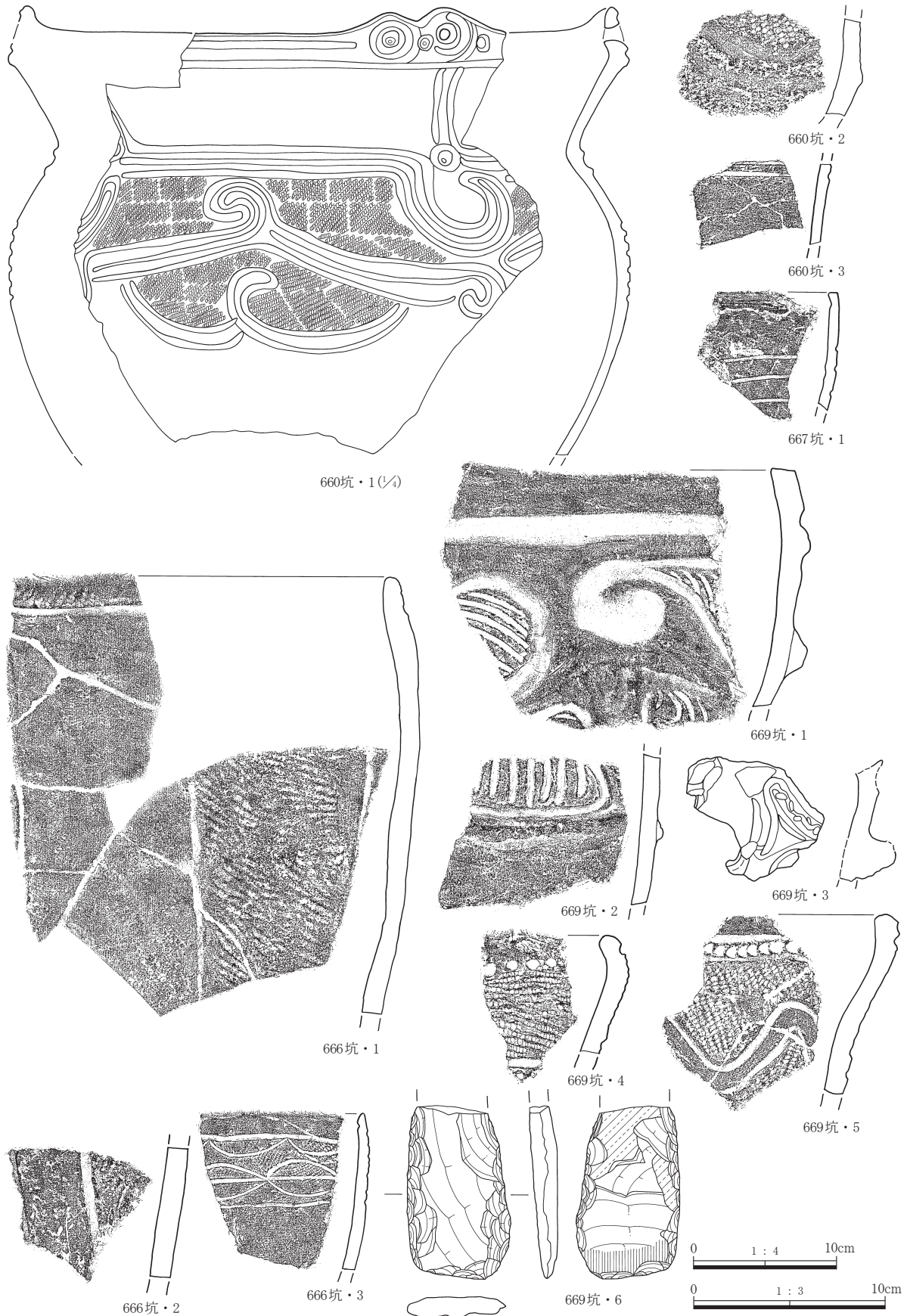


第111図 5区土坑出土遺物(1)

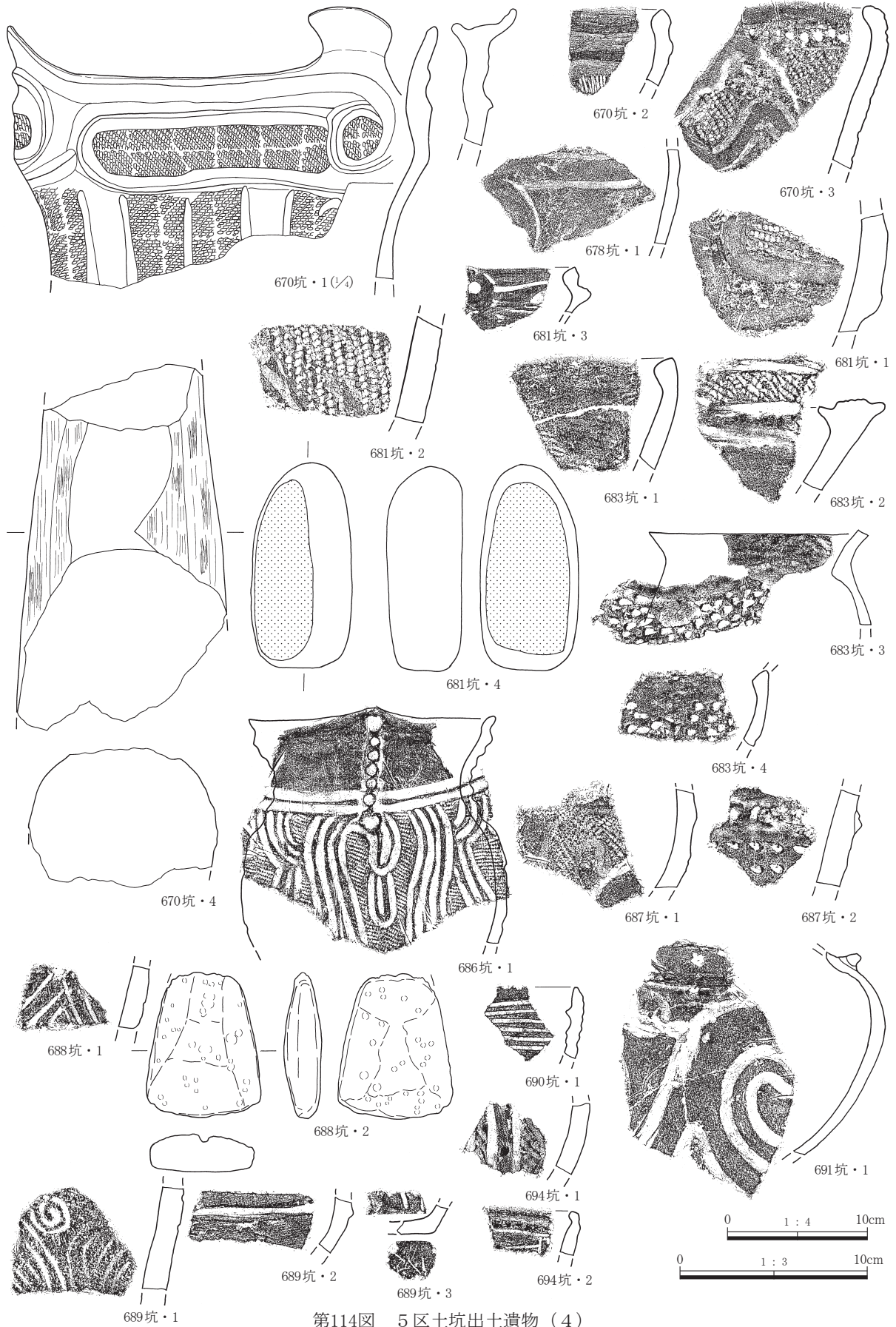


第112図 5区土坑出土遺物(2)

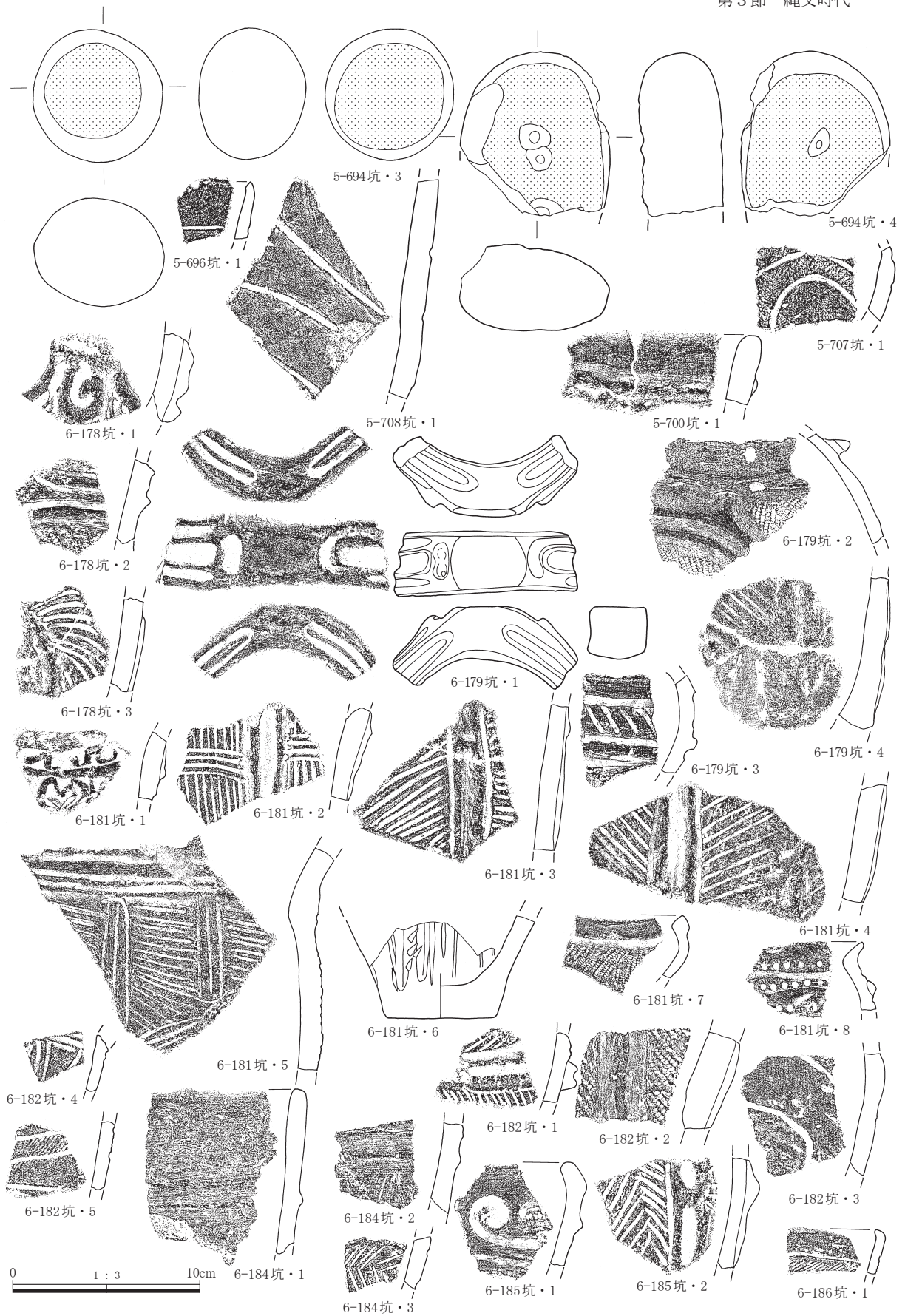
第3節 縄文時代



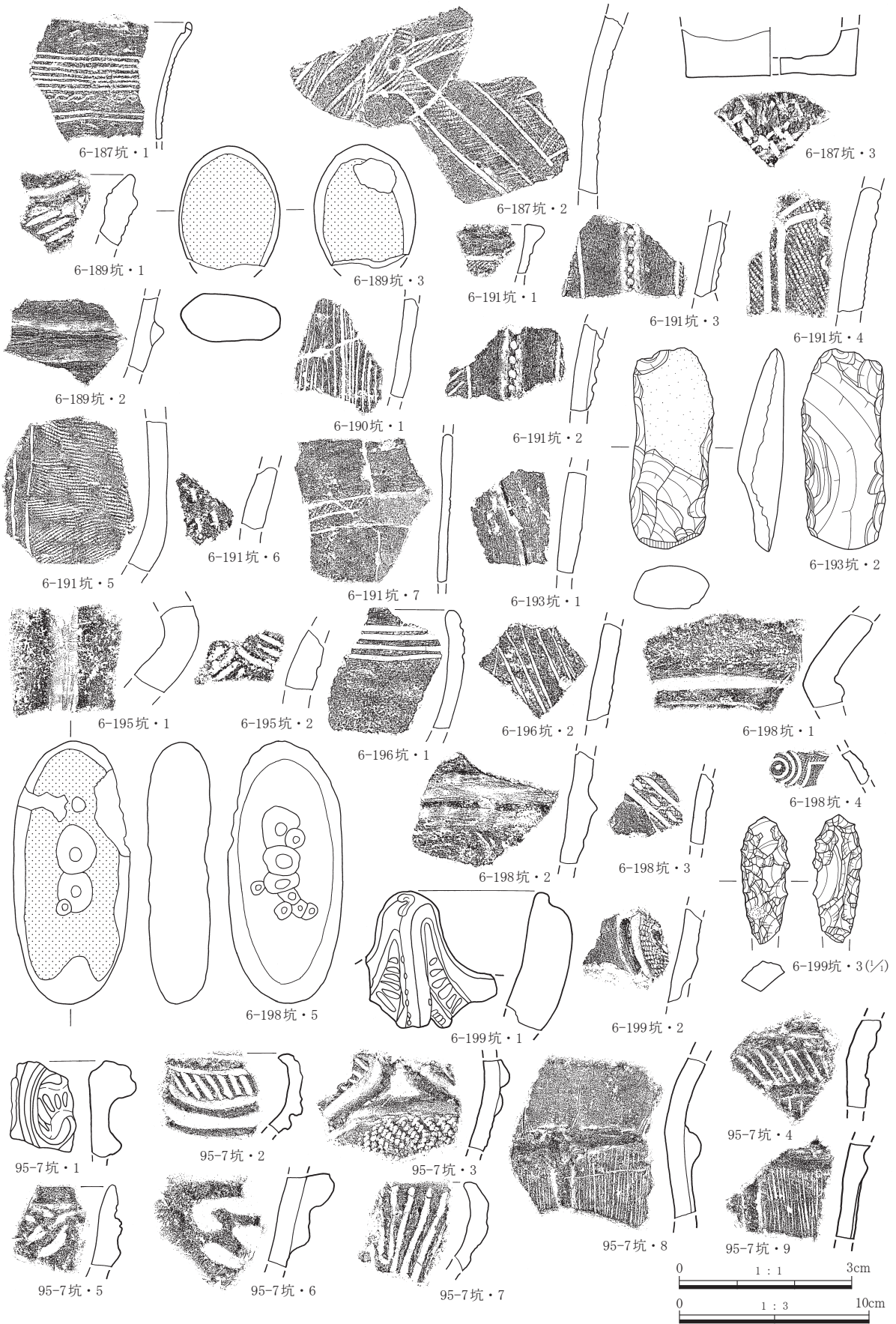
第113図 5区土坑出土遺物(3)



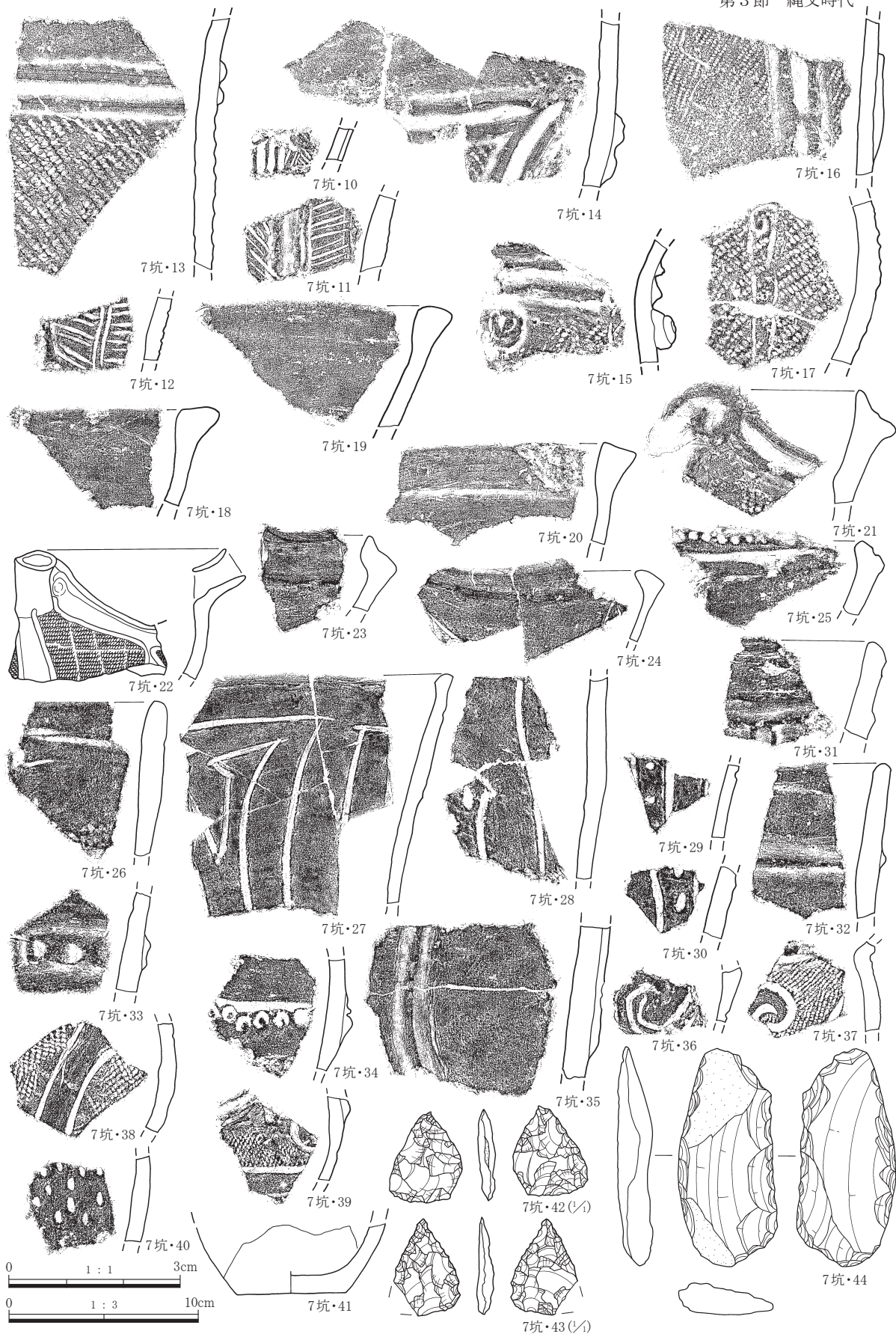
第114図 5区土坑出土遺物(4)



第115図 5区土坑(5)・6区土坑出土遺物(1)



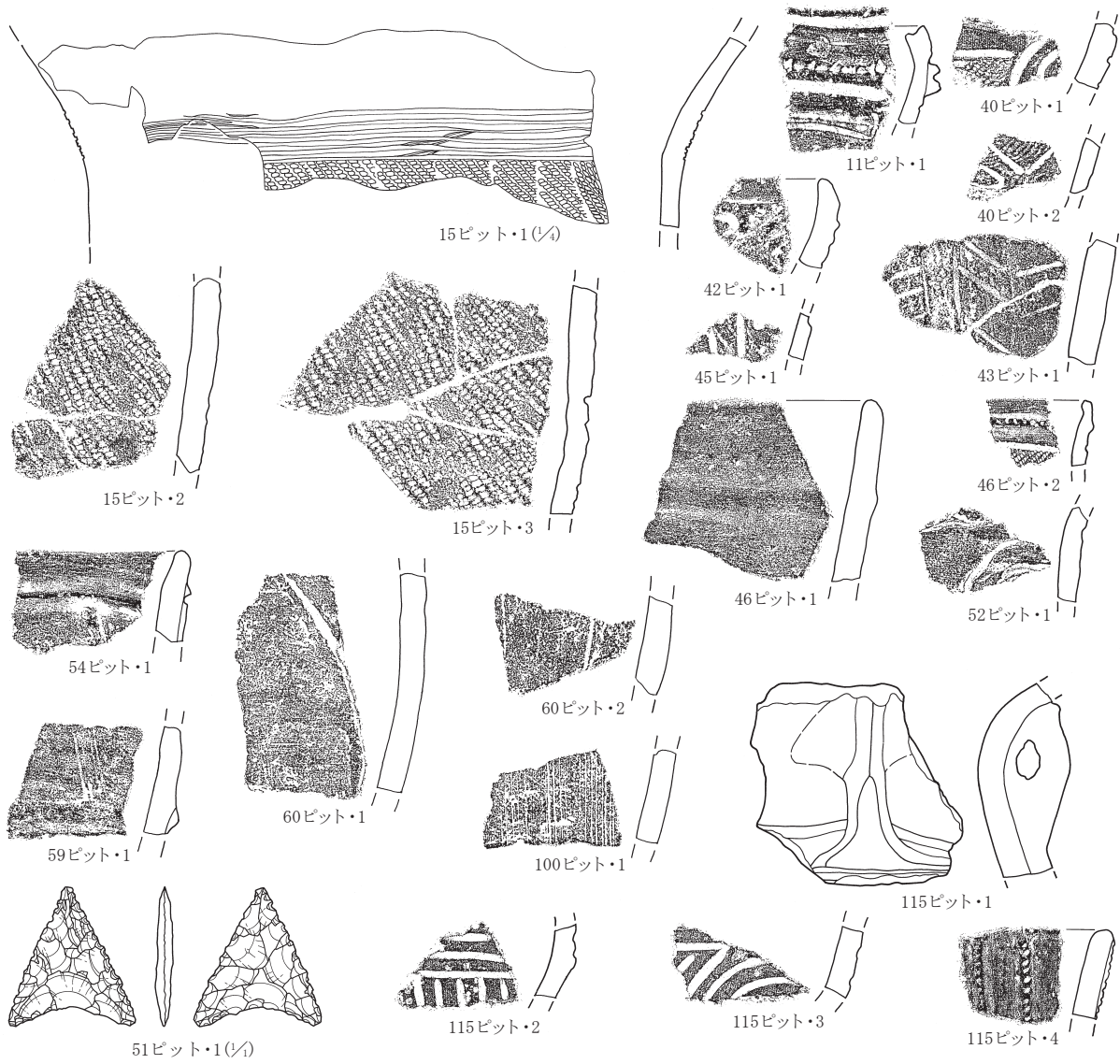
第116図 6区土坑(2)・95区土坑出土遺物(1)



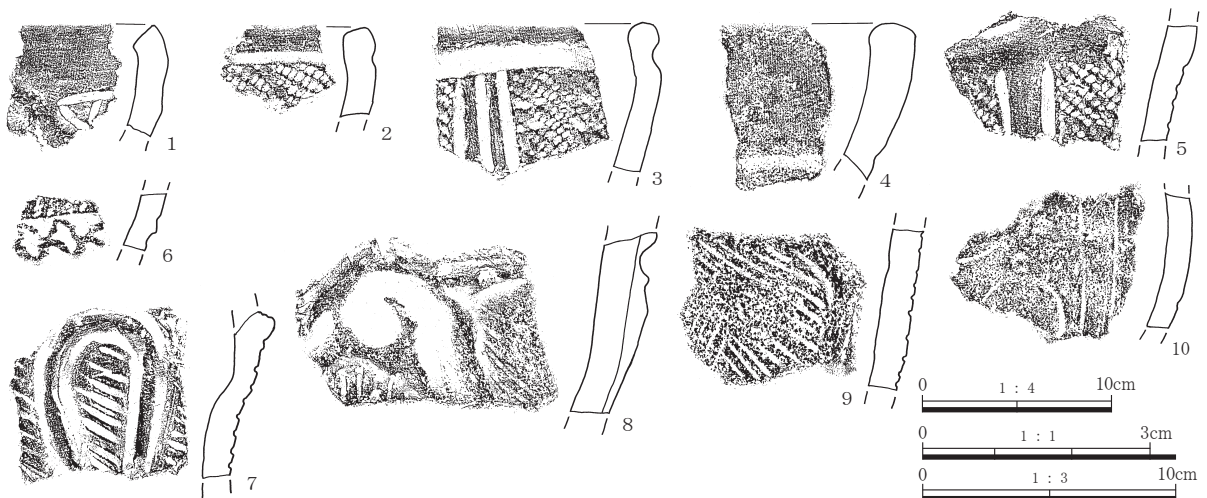
第117図 95区土坑出土遺物 (2)



第118図 95区土坑出土遺物 (3)



第119図 6区ピット出土遺物



第120図 4-1号集石出土遺物

4 集石

4-1号集石 (第120・121図、PL38・74)

位置 4V-13・14グリッドに位置し、南の谷頭に面する緩傾斜地に立地する。**確認面** IV層相当面で確認された。**重複** 南側に4-1号堅穴が近接し、一部を切られている可能性がある。**覆土** III層以降の土層に被覆されている状況と考えられる。**形状** 礫の分布に粗密はあるが、全体的な平面は三角形を呈し、径30~60cm程の大形礫の間に拳大の小形礫が集まる状況で、東側が密・西側が粗い状況を呈する。**規模** 長軸268cm×短軸248cmを測る。**方位** 長軸でN-71°-Eを測る。**石材** 「山石」である角礫がほとんどで、石質は安山岩が主体と見られる。**出土遺物** 土器類33点・石器類1点が出土した。遺物は、礫が粗い西側にまとまる状況があるが、集石に明確に伴うものであるかは判然としない。なお、石器類の1点は、黒曜石のチップ類である。**所見** 確認状況などから、時期は縄文時代と考えられる。

4-2号集石 (121図、PL38)

位置 4T・U-14・15グリッドに位置し、南の谷頭に面する緩傾斜地に立地する。**確認面** IV層相当面で確認された。**重複** 北側が調査区外にかかる。**覆土** III層以降の土層に被覆されている状況と考えられる。**形状** 礫の分布に粗密はあるが、平面は確認部分ではやや弧状を呈し、全体的には楕円状と推定される。径20~60cm程の大形礫が主体と見られ、西側が密な状況を呈する。また、東側からは焼土の塊状分布が2カ所確認された。**規模** 長軸604cm×短軸(160)cmを測る。**方位** 長軸でN-70°-Eを測る。**石材** 「山石」である角礫がほとんどで、石質は安山岩が主体と見られる。**出土遺物** 確認されていない。

所見 確認状況などから、時期は縄文時代と考えられる。

6-2号・3号・4号・5号・6号集石 (121図、PL38)

位置 6C・D-18~20グリッドに位置し、台地西側縁辺で南西に面する傾斜地に立地する。**確認面** V層相当面で確認された。**重複** 南東から北西に向かって2号~5号までのブロックが並び、2号の東側に6号が位置する。また、2号・3号の南側に6-13号住居跡が重複し、住居跡が切る関係で新しいと考えられる。**覆土** IV層以降の土層に被覆されている状況と考えられる。**形状** 礫の分布に粗密はあるが、平面は2号・3号は楕円状、4号は不整な楕円状、5号は小ブロックが並列する長楕円状と見られ、6号は不整形である。各ブロックとも径10~30cm程の礫が主体と見られ、4号が密な状況を呈する他は、やや粗い感がある。また、個々のブロックに分けているが、関連する礫群の可能性もあり、一概ではない。なお、6号は、不整形な平面や礫の周囲にロームが看取されていることなどから地山の礫を誤認している可能性がある。**規模** 2号~5号までの全体で長軸750cm×短軸270cmを測る。**方位** 全体の長軸でN-5°-Eを測る。**石材** 「山石」である角礫がほとんどで、石質は安山岩が主体と見られる。**出土遺物** 確認されていない。**所見** 確認状況などから、時期は縄文時代と考えられ、近接する6-13号住居跡に関連する礫が寄せられた可能性も想定される。

集石規模(長径×短径・cm:方位)

2号	178×64 (N-5°-E)	3号	184×120 (N-57°-E)	4号	214×190 (N-40°-E)
5号	276×122 (N-46°-E)	(6号)	(234×156 : N-26°-E)		



第121図 4区集石(1)・6区集石

5 遺構外出土遺物

(1) 土器・土製品等

平成12・13年度の調査における遺構外からの出土土器は、破片の総点数で約26,312点余りを数える。各区ごとの内訳では、3区で約15点、4区で約767点、5区で約10,565点、6区で約5,479点、95区で約9,476点、17区で約10点、時代別遺構から出土したものが約382点などである。このように、点数的には5区の台地上からの出土量が圧倒的であり、次いで台地南側縁辺の95区、また台地西側縁辺の緩傾斜地にあたる6区、谷地頭を取り巻くような緩傾斜面の4区の順となる。

また、層位的にはIV層出土の土器が主体的で、この次にはIII層からの出土数が多く、各時期の土器が混在する状況で層位論的な出土土器の傾向等は看取されなかった。これらの土器は小破片が殆どで、時期は早期～後期中葉までのものがあり、これらの土器の中から特徴的と思われる資料を図示した（第122～149図、PL74～89）。

以下、出土土器について時期別に概観するが、文中に記した各調査区における各時期ごとの出土土器点数については、遺構外出土土器の未掲載資料について分類・カウントしたものの数値であることをお断りしておきたい。

早期 該期の土器は、3区・5区・6区から出土しているが、総量は僅かである。各区の内訳では、3区が1点のみで、5区・6区にまとまる状況を呈し、特に5区では5W-4グリッドに集中する状況である。細片のため判別が困難なものが主体であるが、捺糸文が多く、この他に条痕文も看取される。また、胎土の特徴として片岩を含むものが多数見られる。

前期 早期と同様に、前期も5区・6区で僅かに見られる状況である。各区の内訳では、6区が1点のみで他は全て5区からの出土であり、さらに5区では早期と同様に5W-4グリッドに集中する状況を呈する。5区は、組紐縄文の地文に半裁竹管のコンパス文を施す関山式や多条縄文を地文とする黒浜式と見られる破片があり、これらは胎土中に繊維を含む。また、沈線や集合条線・楕円浮文などを施す諸磯式や、不確定ながら浮線文を施すものや結束縄文を施すものも看取され、前期末から中期初頭の可能性を含むものである。

中期 該期は、初頭～末期までの土器が見られ、編年的には五領ヶ台II式から加曾利EIV式までの幅で捉えられる。しかし、一様の継続性を持つ内容ではなく、初頭～中葉の土器は僅かで、後葉～末の土器が圧倒的な状況を呈する。

初頭～中葉と考えられる土器は5区から出土しており、これも早期・前期と同様に5W-4グリッドに集中する状況を呈する。出土した土器は、連続刺突文や結節沈線文などを施す五領ヶ台II式や阿玉台I式と考えられる破片であるが、不確定なものも含む。

後葉～末では、加曾利EIII式期が主体であり、この他は少ない傾向にある。また、加曾利E式にほぼ併行すると思われる唐草文系土器や曾利式の系統と考えられる土器群が注目される。これらの中には、加曾利E式と唐草文系土器との折衷的な様相の土器も看取され、「郷土式土器」に対応するものと考えられる。また、この他に僅かながら新潟系や大木系などの土器も含まれている。

加曾利E I式併行期では、勝坂式・「焼町類型」・「三原田式」などが見られ、僅かではあるが各区から出土している。このうち、4区・6区・95区に対して5区が少ない状況が見られ、台地上に対し縁辺部に多い傾向が看取される。具体的には、4区では「焼町類型」の良好な破片、6区では、「焼町類型」の破片や勝坂終末と見られる浅鉢の口縁（頸）部片があり、95区では曾利I式と見られる土器が多く見られ、特徴的

な様相を呈する。また5区では、他区より少ない傾向ではあるが、勝坂式末と見られる深鉢口縁部の大型片が出土している。

加曽利EⅡ式併行期では、加曽利EⅡ式に対して曾利式や唐草文系土器が目立つ状況を呈する。加曽利EⅡ式と曾利式・唐草文系土器について、各区ごとでの点数を比較すると、4区「1点：9点」、5区「37点：36点」、6区「30点：67点」、95区「285点：494点」となり、5区で拮抗する状況の他は後者の曾利式・唐草文系土器の方が上回る結果である。特に95区が顕著であり、前段階と同様に縁辺部に多い傾向と思われる。この他には、僅かながら新潟系の土器が看取される。

加曽利EⅢ式期では、前段階の傾向が逆転する状況となる。加曽利EⅢ式と曾利式・唐草文系土器についての各区ごとの点数比較は、4区「82点：55点」、5区「480点：225点」、6区「569点：430点」、95区「569点：1,291点」となり、4区・5区・6区で前者の加曽利EⅢ式が後者の曾利式・唐草文系土器を上回る状況となる。しかし、95区については、前段階以上に曾利式・唐草文系土器が加曽利EⅢ式を上回り、倍以上の比率である。これについては、95区の台地縁辺部が「土器捨て場」の様相を呈する状況とも関連して、特徴的な事例といえる。

また、唐草文系土器の中に、加曽利E式の文様構成に斜行や綾杉状・魚鱗状などの沈線文を地文とする唐草文系土器との折衷的な様相の土器が目立つようになる。これらは、「郷土式土器」に対応するものと考えられ、土器観察では「郷土式」として唐草文系土器と区分した。この他には、新潟系や大木系と考えられる土器が僅かではあるが出土している。

加曽利EⅣ式期では、曾利式・唐草文系土器は見られなくなり、加曽利EⅣ式が主体となる。しかし、点数的には前段階と比較して極端に減少する状況であり、各区の点数は4区「11点」、5区「57点」、6区「43点」、95区「60点」を数え、減少傾向が顕著である。具体的には、深鉢の口縁部文様帯が消失する段階の破片が見られるが、胴部文様帯が上下2帯構成を取るような個体は見られず、隆帯や沈線の懸垂文で幅広の無文帯を持つ個体が主体と見られる。

後期 該期は、初頭～中葉までの土器が見られ、編年的には称名寺Ⅰ式から加曽利BⅠ式の幅で捉えられる。しかし、後期も中期と同様に一様の継続性は見られず、称名寺Ⅰ・Ⅱ式併行期の土器は少なく、次いで堀之内Ⅰ・Ⅱ式併行期に圧倒的な状況となり、さらに加曽利BⅠ式併行期は減少する状況を呈する。また、加曽利BⅠ式以降の土器が確認されておらず、本遺跡の画期を示す様相を呈している。

称名寺Ⅰ式併行期では、全体的な出土量は少ないながら前段階よりは増加する傾向を呈する。しかし、この内訳を見ると、称名寺Ⅰ式に比定される土器は少なく、加曽利EⅣ式からの系統にある所謂「加曽利E式系」とされる土器が主体であり、他にも「関沢類型」と考えられる破片も出土している。

称名寺Ⅱ式併行期では、前段階よりもやや点数が増える傾向にあり、称名寺Ⅱ式を主体とするが、前段階からの系統性を持つと考えられる微隆帯で文様を描出するものや、この中にはさらに口縁下の横位隆帯に刻みを施すものなども看取される。この他、「関沢類型」と考えられる土器片も出土している。

堀之内Ⅰ式併行期では、前段階と比較的で爆発的な増加を見せる。点数による比較では、称名寺Ⅰ・Ⅱ式併行期の点数は4区「18点」、5区「237点」、6区「331点」、95区「193点」を数える。これに対し、堀之内Ⅰ式の点数は4区「10点」、5区「778点」、6区「215点」、95区「201点」を数える。区ごとの差異はあるが、5区の台地上において堀之内Ⅰ式の増加が顕著であり、逆に縁辺部にあたる他区では拮抗するかやや減少する傾向が見られる。堀之内Ⅰ式については、関東的な堀之内Ⅰ式に対し、口縁（口頸）部が括れて外反し、頸部以下の胴部に膨らみを持ち、さながら「金魚鉢」の器形を連想させる深鉢が殆どであった。こうした特

第3章 検出された遺構・遺物

徴を呈する深鉢は、信州地方の地域色として捉えられるものであり、本報告書ではこれらを中心に「信州系の堀之内1式」として区分した。また、この他には三十稲場式や南三十稲場式などの新潟系の土器も出土している。

堀之内2式併行期では、前段階よりも全体的には減少する傾向が見られ、点数は4区「1点」、5区「691点」、6区「85点」、95区「78点」を数え、台地上の5区では前段階と拮抗するが、縁辺部にあたる他の区での減少が顕著であり、特徴的な傾向である。堀之内2式については、「朝顔形」を呈する器形の深鉢が主体となるが、朝顔形の胴部下半に括れを持つ「鐘形」の器形を呈する深鉢や、前段階から継続する「金魚鉢形」なども見られる。また、堀之内2式末に併行する「石神類型」の深鉢や、沈線文を施す粗製の深鉢などが出土している。

加曾利B1式併行期では、前段階での減少傾向がさらに顕著となり、4区では出土が確認されておらず、5区「30点」、6区「2点」、95区「3点」を数え、その減少が著しい。加曾利B1式については、深鉢や鉢・浅鉢が見られ、口縁内・外に集合する横位沈線を巡らすものや区切り文を持つものなどが主体である。

これ以降の土器については、確認されていないが、時期不確定な破片の中には、晩期の条痕文の可能性を含むものなどがあり、さらに検証を要する。

土器の他には、土偶やミニチュア土器・土製円盤などの土製品が出土している。土偶は、95区の95W-24グリッドから左脚部の破片が1点出土している。ミニチュア土器は、5区で台付の深鉢を模した完形品が1点出土し、他にも5区・6区・95区でミニチュア土器の可能性のある破片が見られる。この他、特徴的な遺物として、中位に擦り切りの溝を伴う深鉢の把手片が95区の95V-22グリッドから1点出土している。この擦り切り溝は、切り取る意図のものと考えられ、土製品として扱った。

以上が出土土器・土製品の概要であるが、個々の詳細については「遺物観察表」を参照されたい。

(2) 石器

平成12・13年度の調査における遺構外からの出土石器は、製品やその可能性を含むものの総点数で約472点を数える。各区ごとの内訳では、4区で約41点、5区で約195点、6区で約56点、95区で約172点、時代別遺構からの出土したものが約8点などである。このように、点数的には土器と同様に5区からの出土量が圧倒的で、次いで95区、6区・4区の順となる。

また器種別には、遺構外出土の総数で石鏃が94点・石錐が11点・石匙が1点・スクレイパーが27点・打製石斧が110点・磨製石斧が11点・石核が11点・磨石が147点・凹石が26点・多孔石が14点・石皿が11点・石棒が5点・石製品が4点を数える。

さらにチップ等を含む剥片類は約1,142点を数える。こうした石器類については、製品と判別したものについては極力図化に努めた。しかし、石鏃の脚部破片や調整剥片も含めた打製石斧の破片・磨石の破片などを主体に欠損が著しいものがあり、図示が困難であった。こうした石器85点分について、未掲載としたものがあることをご了承いただきたい。

以下、石器を各器種ごとに大別して概観する。(第150～172図、PL89～95)

石鏃は、「有茎鏃」と「無茎鏃」に大別されるが、前者は稀少であり、後者が圧倒的に多い傾向がある。また「無茎鏃」の基部を見ると平基は少なく、凹基が多数を占め、石材では黒曜石製のものが主体である。

また、今回報告する資料中では、未製品が看取され、スクレイパー状を呈するものや楔形状を呈するものなどがあり、さらには大型鏃も僅かながら看取される。

石錐は、欠損品を除いて摘みの有無で大別されるが、摘みを持つものは少ないように見られ、持つものでは横長の形状のものが看取される。

石匙は、遺構外からは4区で1点出土したのみであるが、縦長の形状で両側を刃部とする精巧な作りのものである。

スクレイパーは、定形・不定形を問わずに剥片の側縁部に調整や加工・使用痕と思われる微細剥離等の認められるものを扱った。形状的には大・小や縦長・横長などの属性が認められる。

打製石斧では、遺構外からの出土状況に特徴的な傾向があり、95区から63点分が集中的に出土している。形状は、短冊形・撥形・分銅形に大別され、破片も含め比較的大型のものも少量ながら看取される。これについては石核などの可能性を含むものがあり、検証を要する。

磨製石斧は、大型と小型のものに大別され、大型のものは完形品が少なく刃部を欠損するものが多いように見受けられ、欠損品を再調整して使用したと考えられるものや、完全に磨石に転用されたものなどが看取される。また、小型の中には未製品も看取される。

石核については、図示はないが黒曜石のものが5区で2点出土している。何れも表土からの出土であり、長さ31.3mm・幅29mm・厚さ24.1mm・重さ20.9gを測るものと、長さ29.4mm・幅27.5mm・厚さ15.9mm・重さ12gを測るもので、素材となる原石の大きさに制約されるためか小型である。

磨石は、器面を磨ることを優先的に考え、凹石の機能を持つものも含めている。

凹石も磨面を有するものが多いが、浅いものも含め敲打等の機能が優先的と考えられるものを凹石とした。また凹みを多数有するものには多孔石とした方が良いと思われるものもあるが、素材となる礫の大きさなどから凹石に含めている。

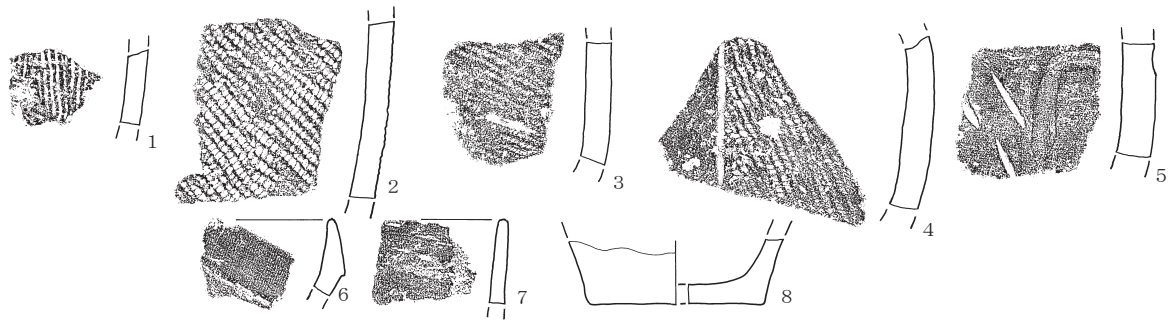
多孔石は、遺構外出土を除くと5区の敷石住居跡から比較的まとまって出土している。

石皿は、多孔石の機能を併せ持つものが多く、また素材となる円礫の地の面に磨面を有するものと、播り鉢状に凹む磨り面を作出する形態のものがある。

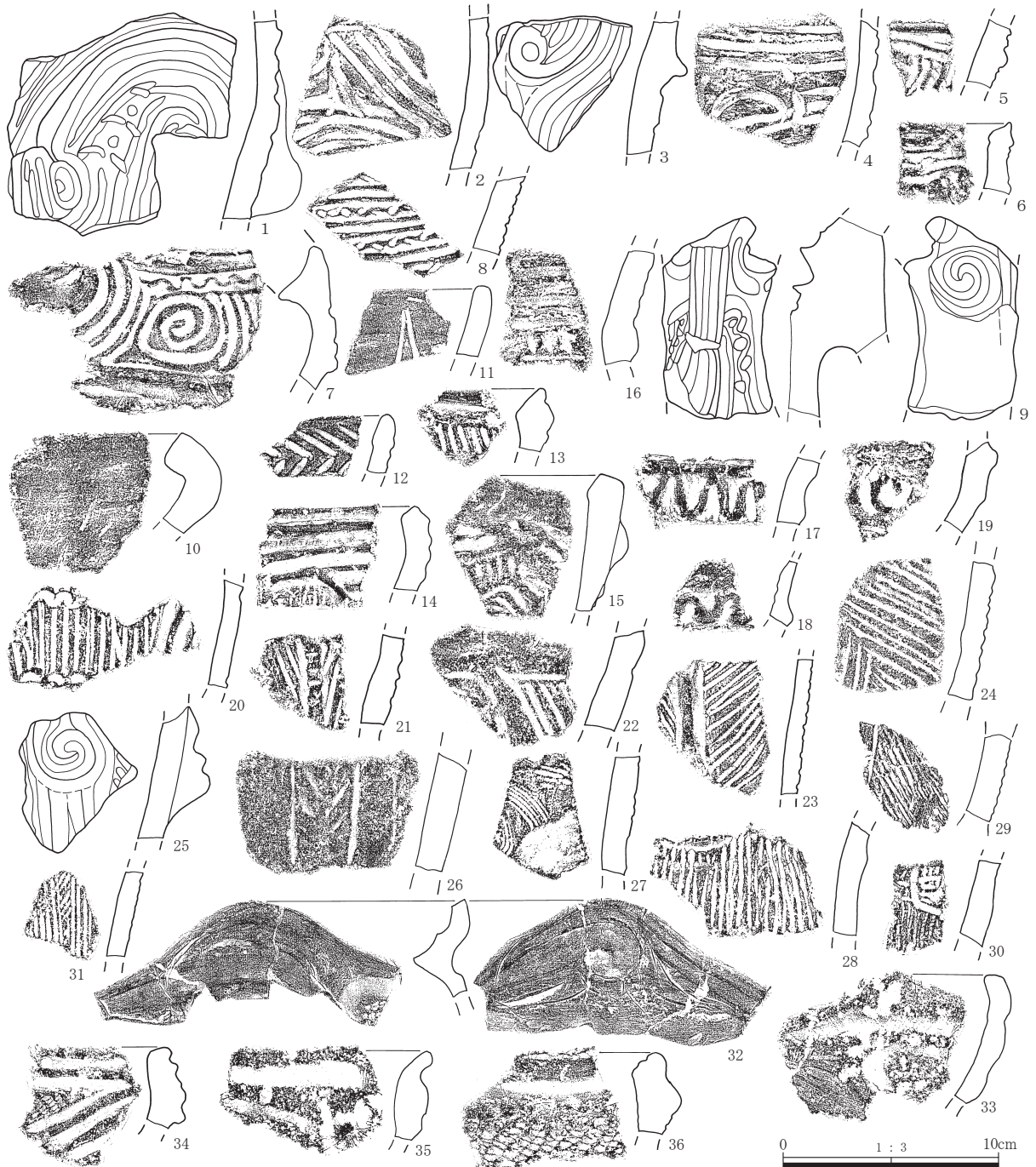
石棒は、大型のものから破片のものがあり、凹みや多孔石の機能を併せ持つものが看取される。

石製品は、軽石製品が主体で、磨製石斧を模した可能性の形状を呈するものや、穿孔途中と見られる凹みを伴うものが見られる。また、軽石の他には、片岩の破片を転用し、側縁を擦って楕円状に加工したものが出土している。

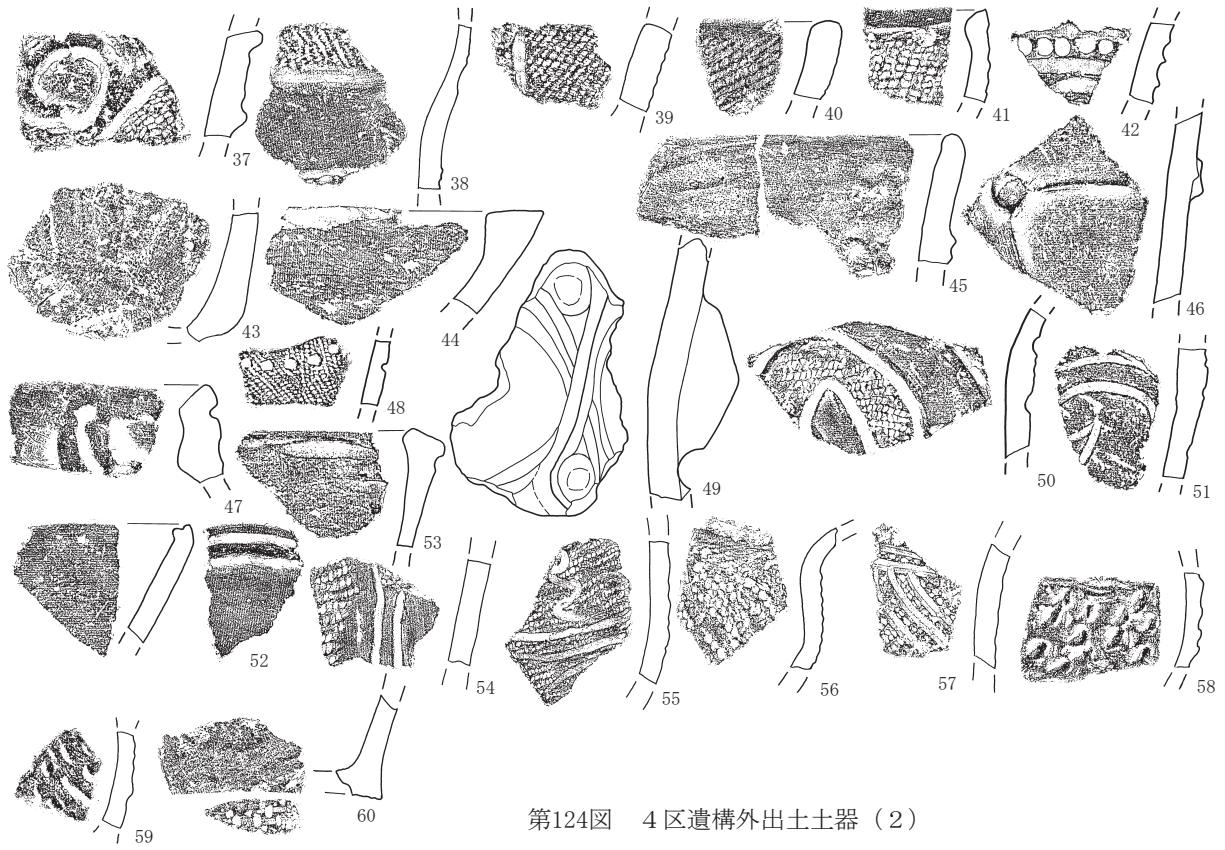
以上、石器について概観したが、個々の詳細については「遺物観察表」を参照されたい。



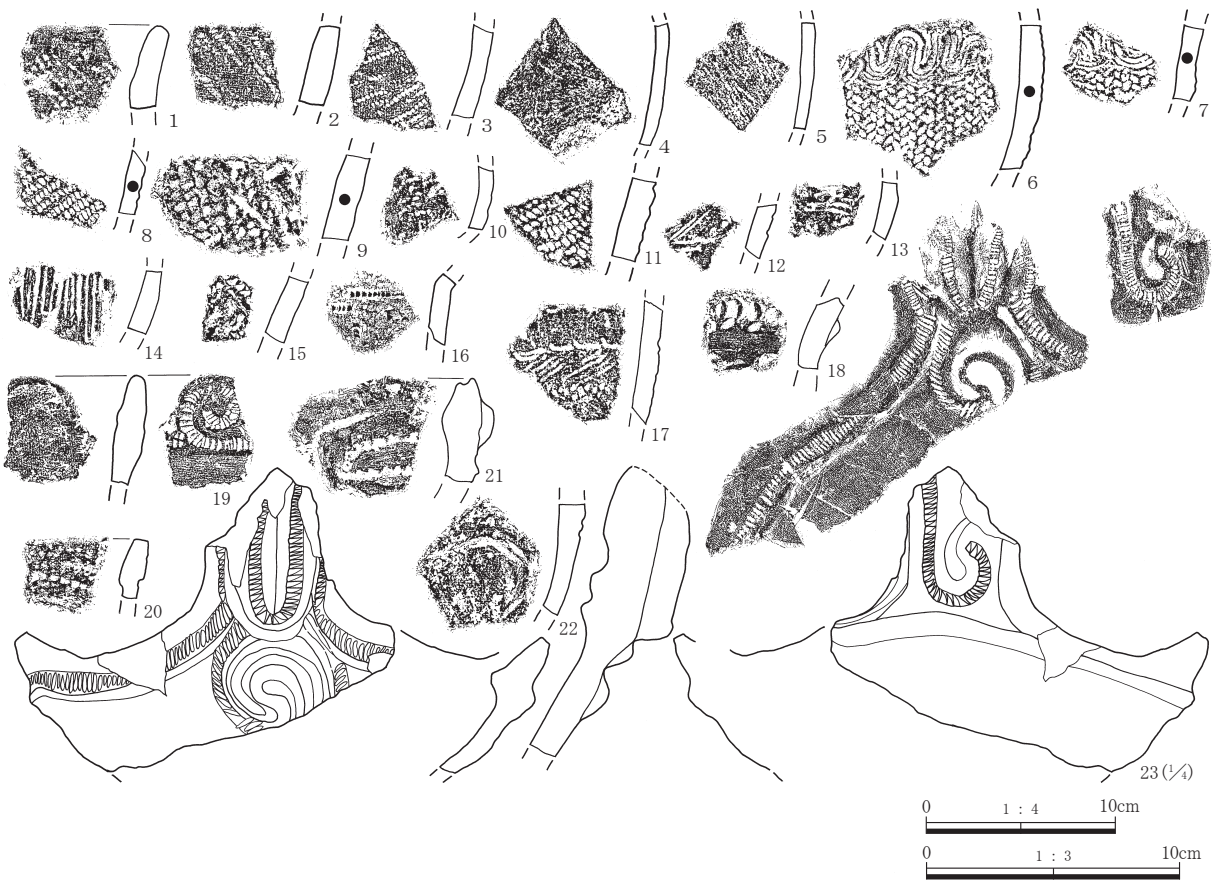
第122図 3区遺構外出土土器



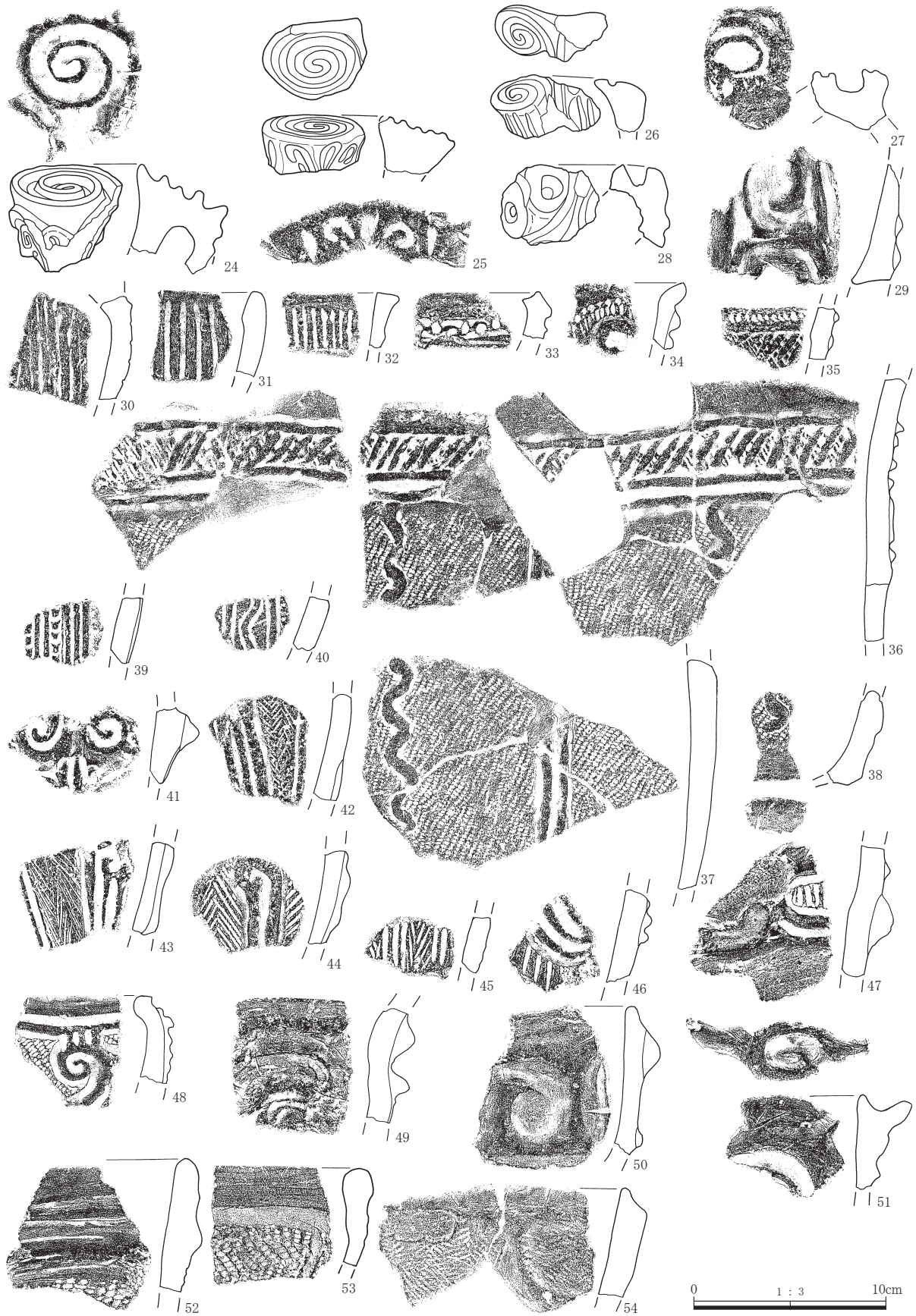
第123図 4区遺構外出土土器 (1)



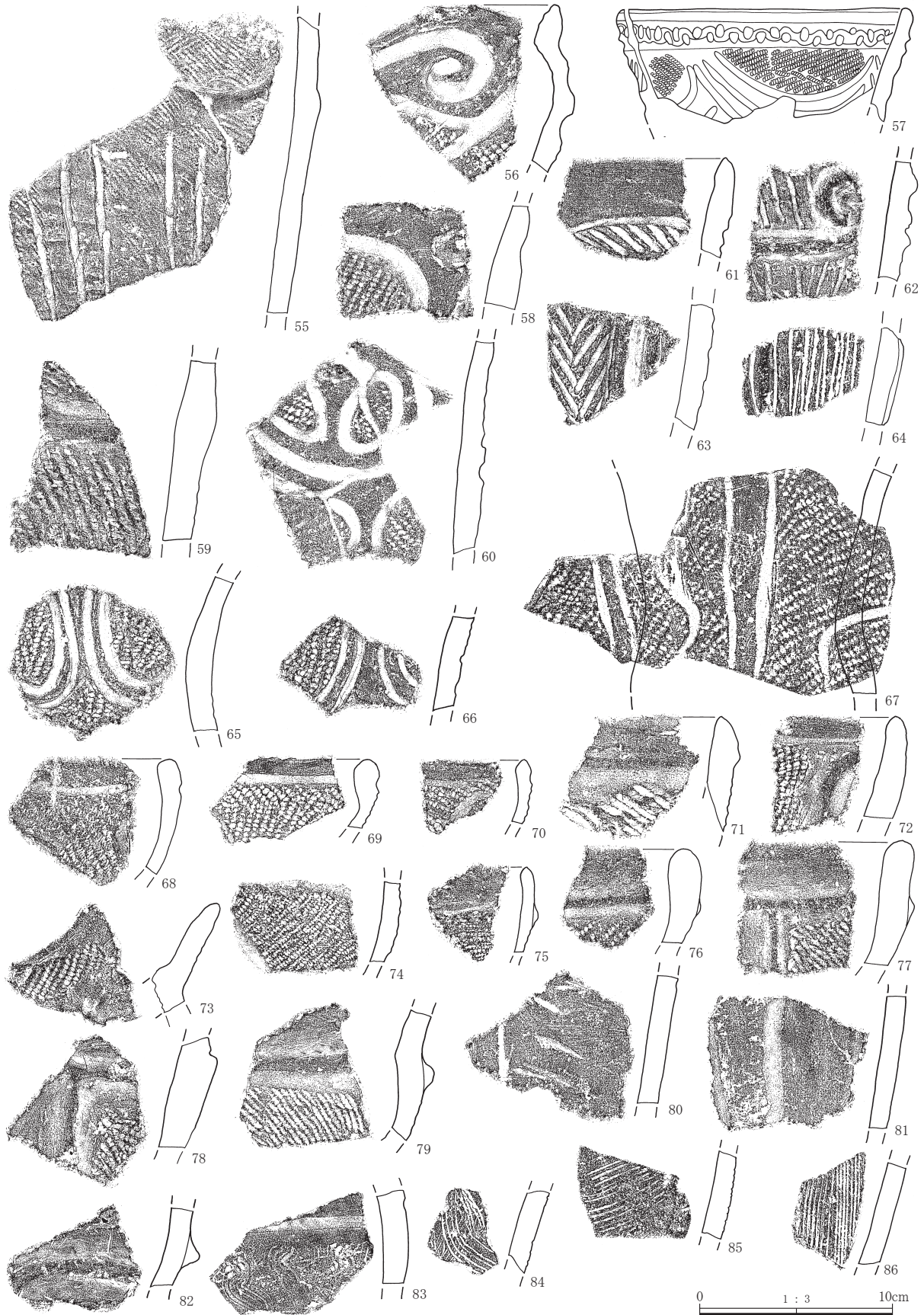
第124図 4区遺構外出土土器(2)



第125図 5区遺構外出土土器(1)



第126図 5区遺構外出土土器(2)



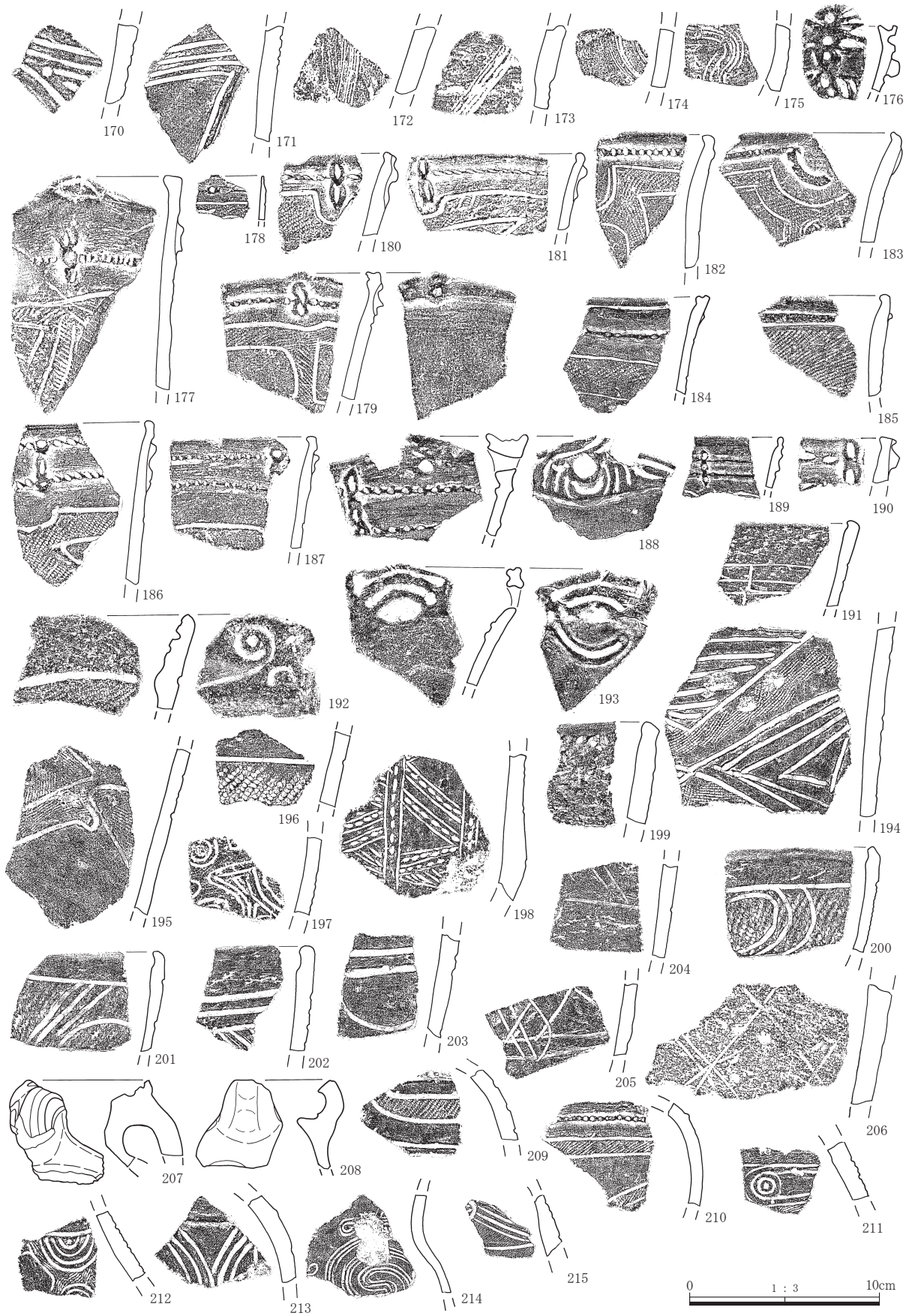
第127図 5区遺構外出土土器(3)



第128図 5区遺構外出土土器(4)



第129図 5区遺構外出土土器(5)



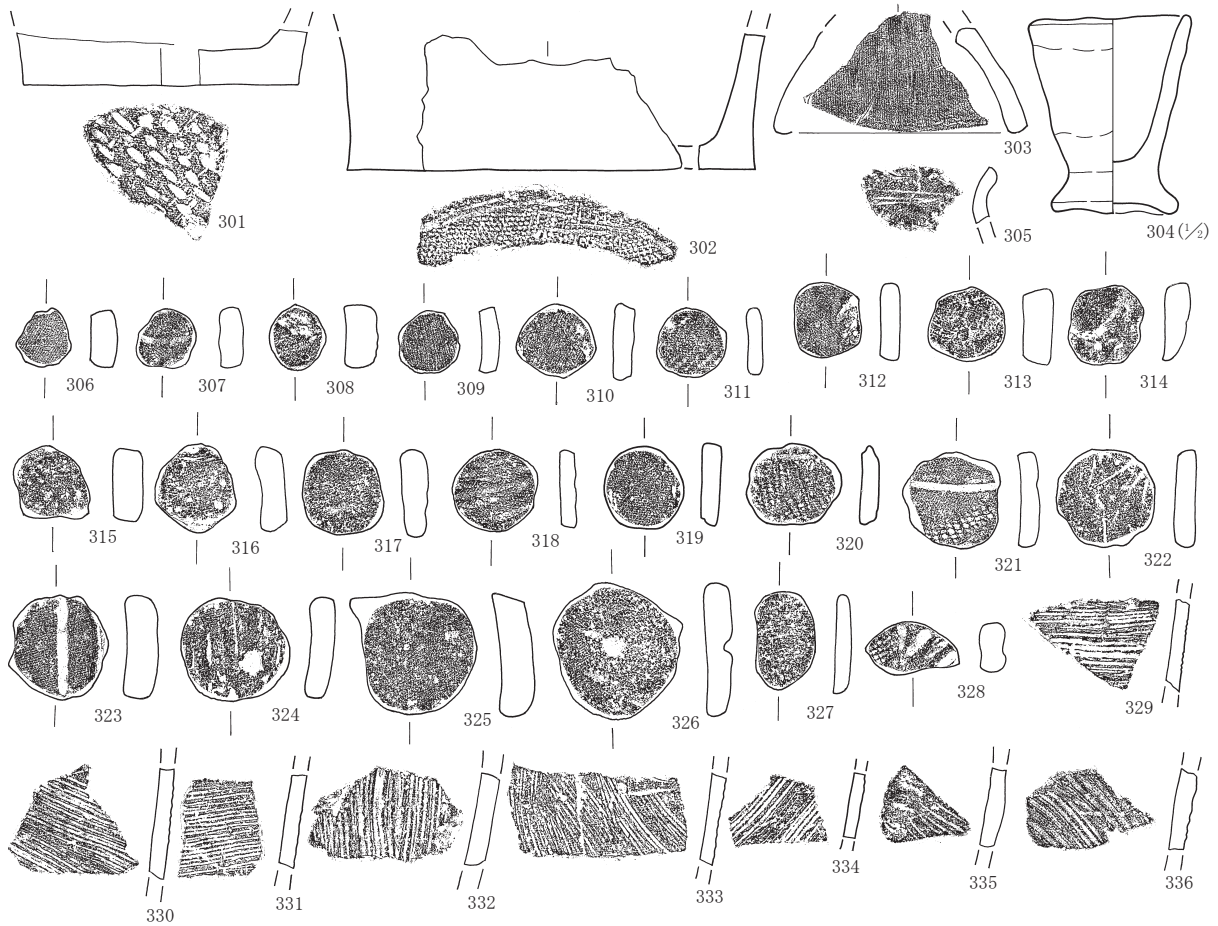
第130図 5区遺構外出土土器(6)



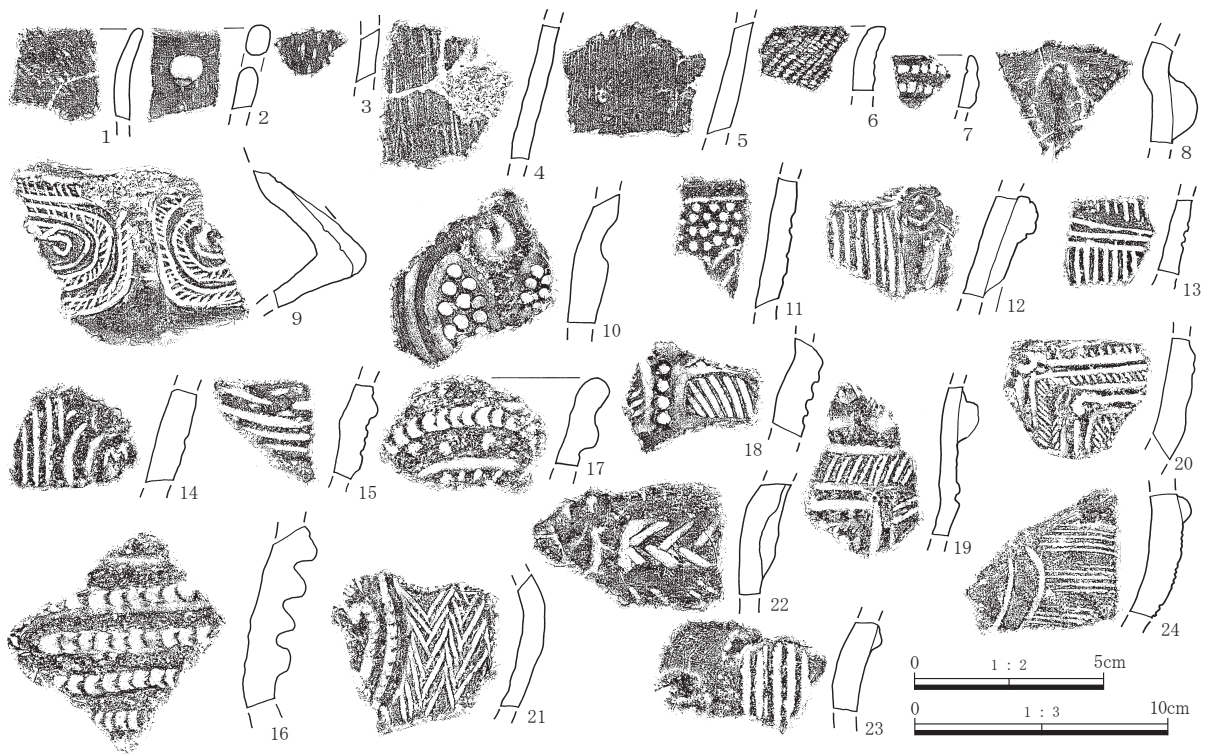
第131図 5区遺構外出土土器(7)



第132図 5区遺構外出土土器(8)



第133図 5区遺構外出土土器(9)



第134図 6区遺構外出土土器(1)



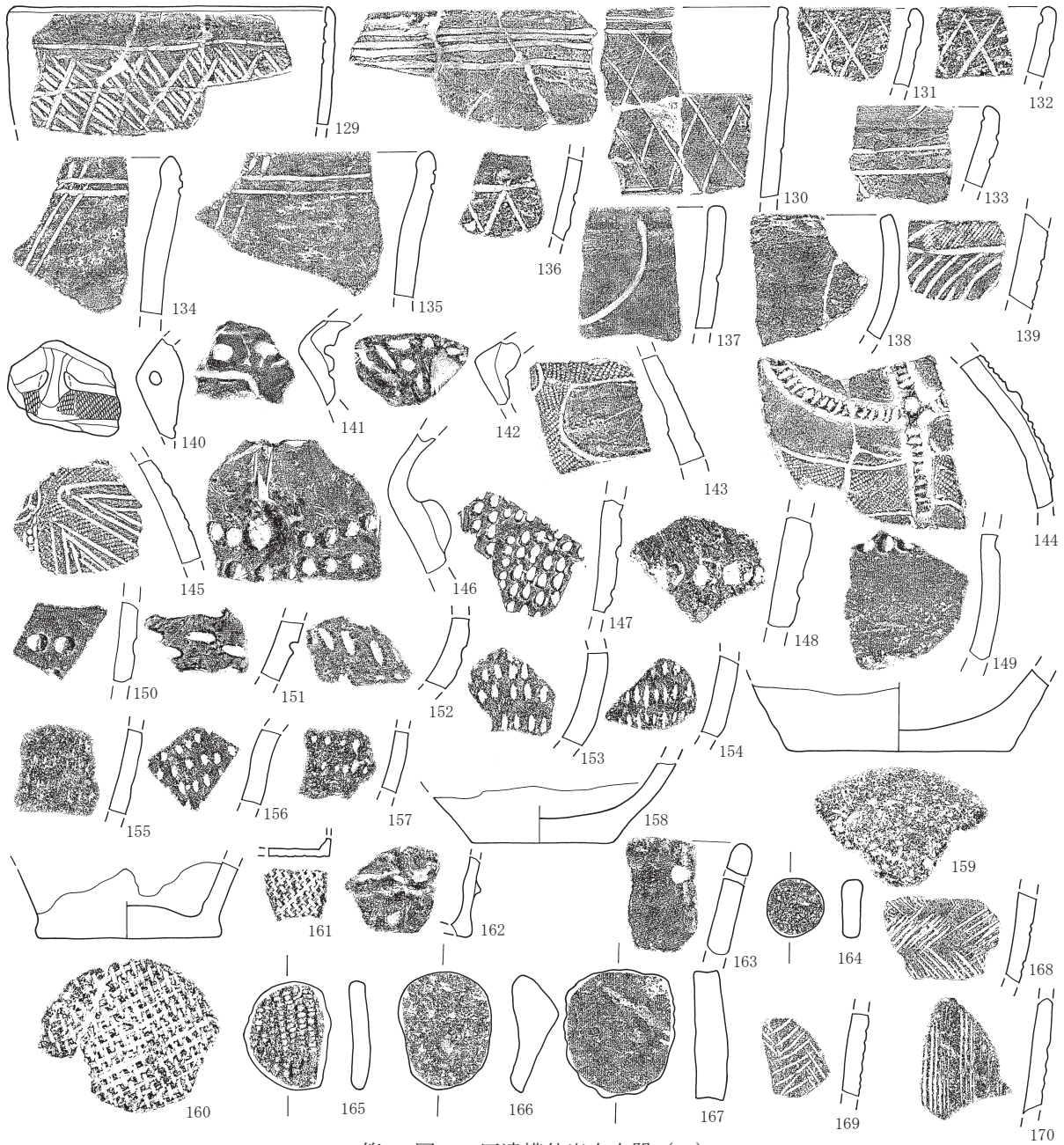
第135図 6区遺構外出土土器(2)



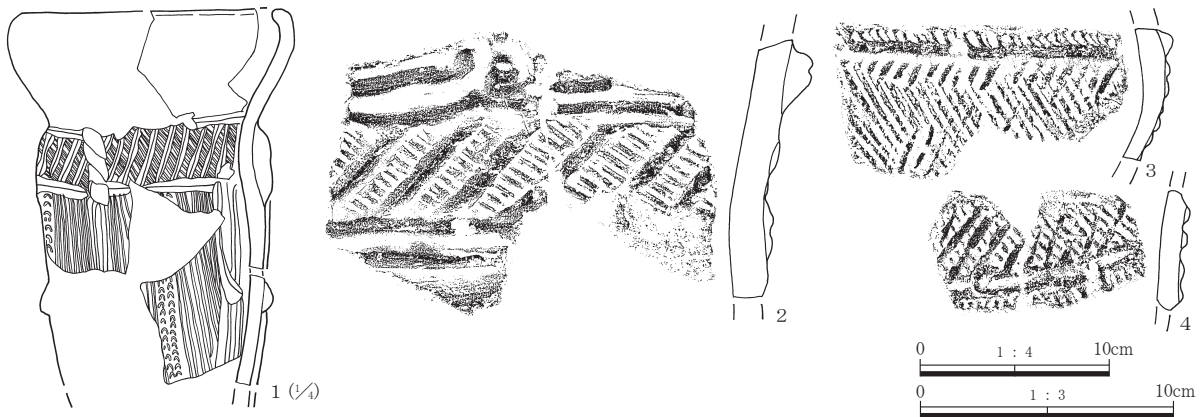
第136図 6区遺構外出土土器(3)



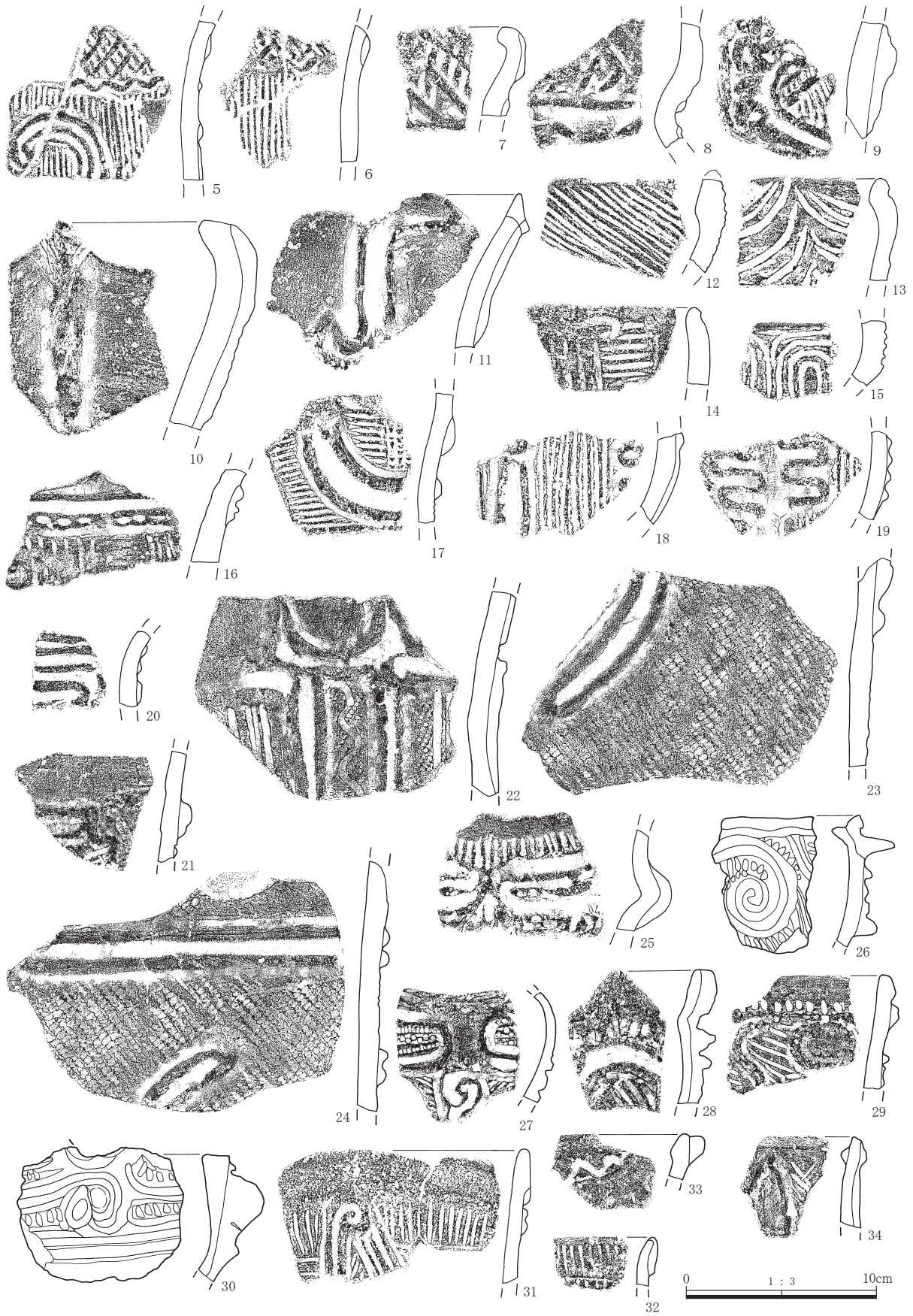
第137図 6区遺構外出土土器(4)



第138図 6区遺構外出土土器 (5)



第139図 95区遺構外出土土器 (1)



第140図 95区遺構外出土土器(2)



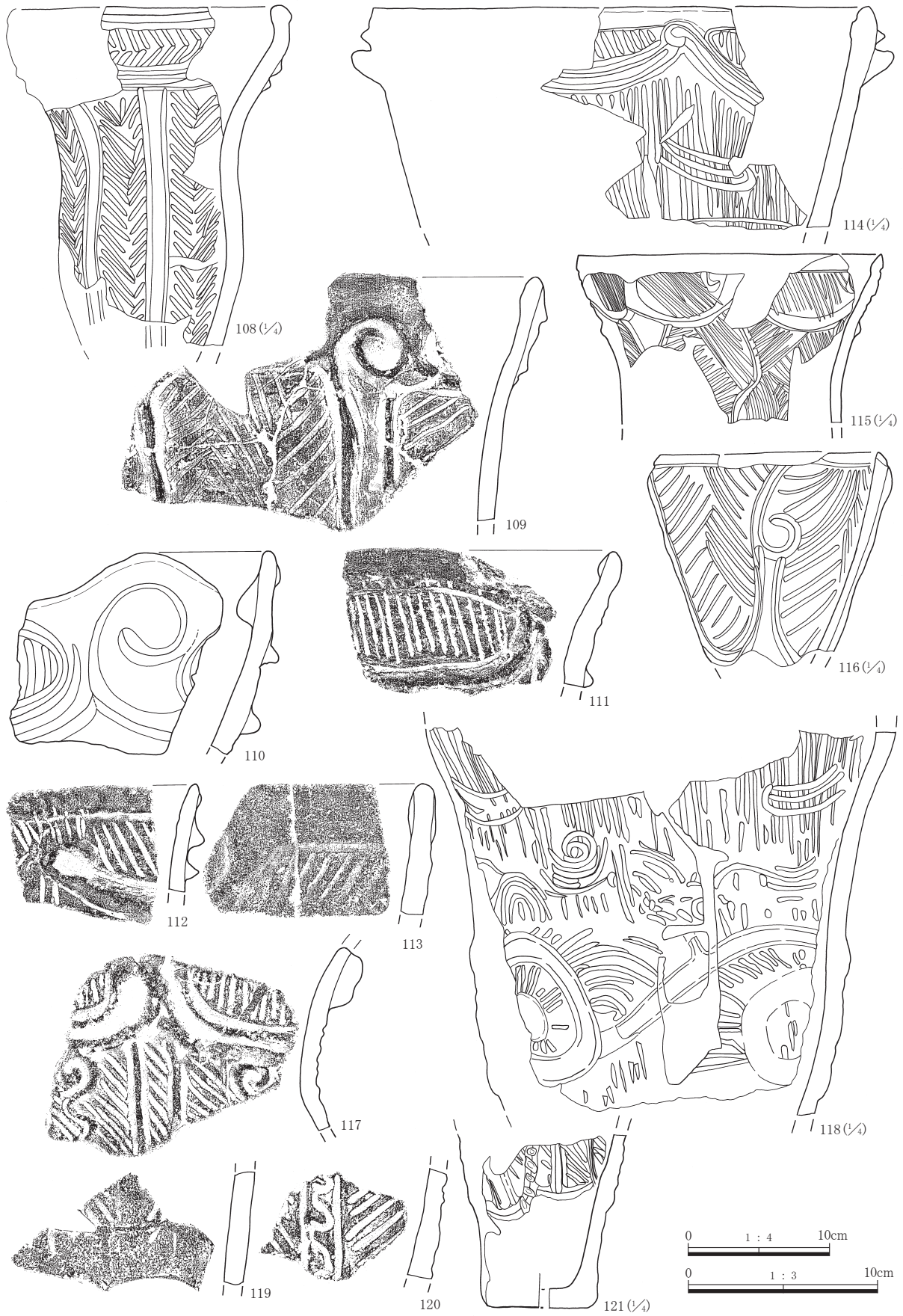
第141図 95区遺構外出土土器(3)



第142図 95区遺構外出土土器（4）



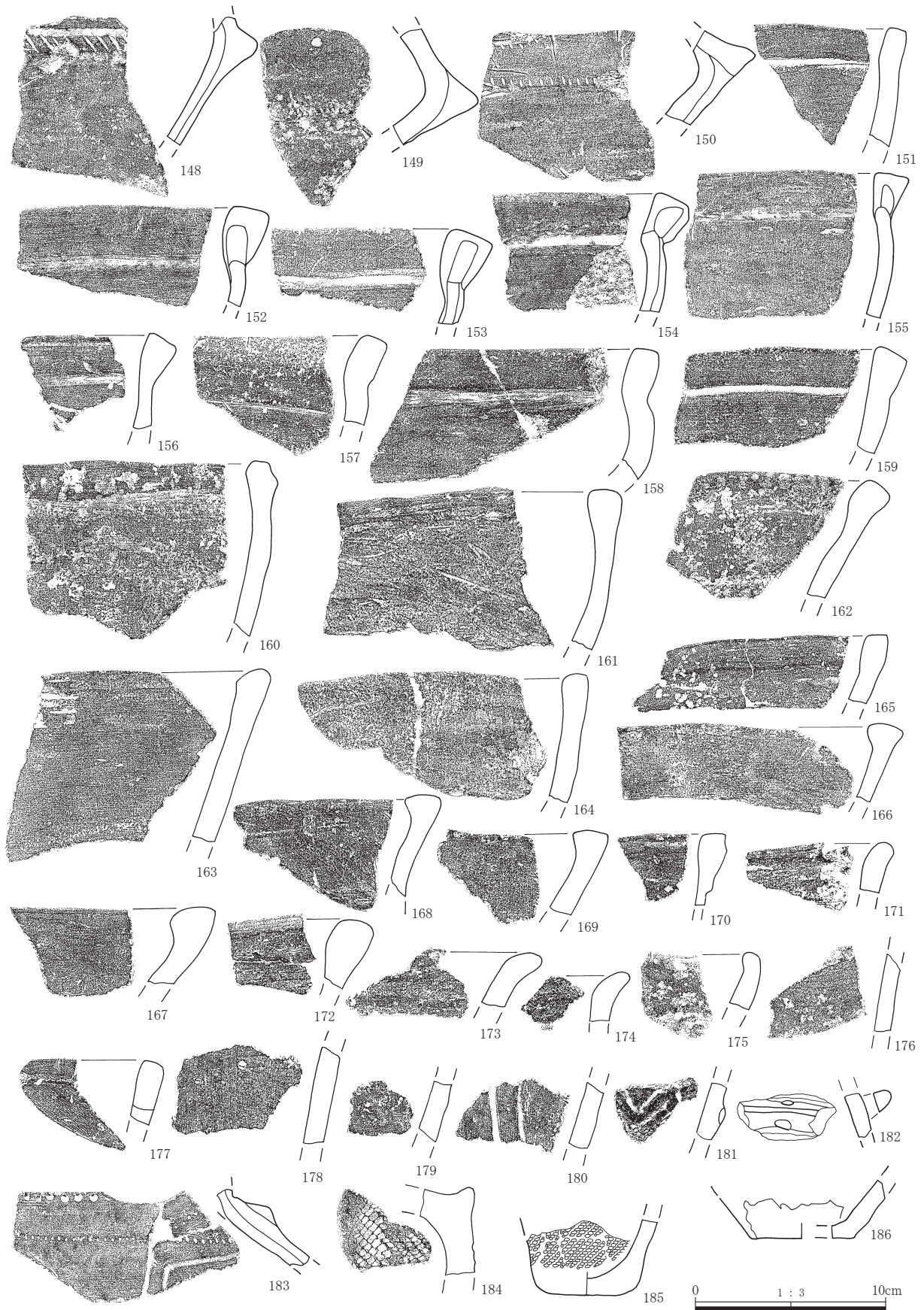
第143図 95区遺構外出土土器 (5)



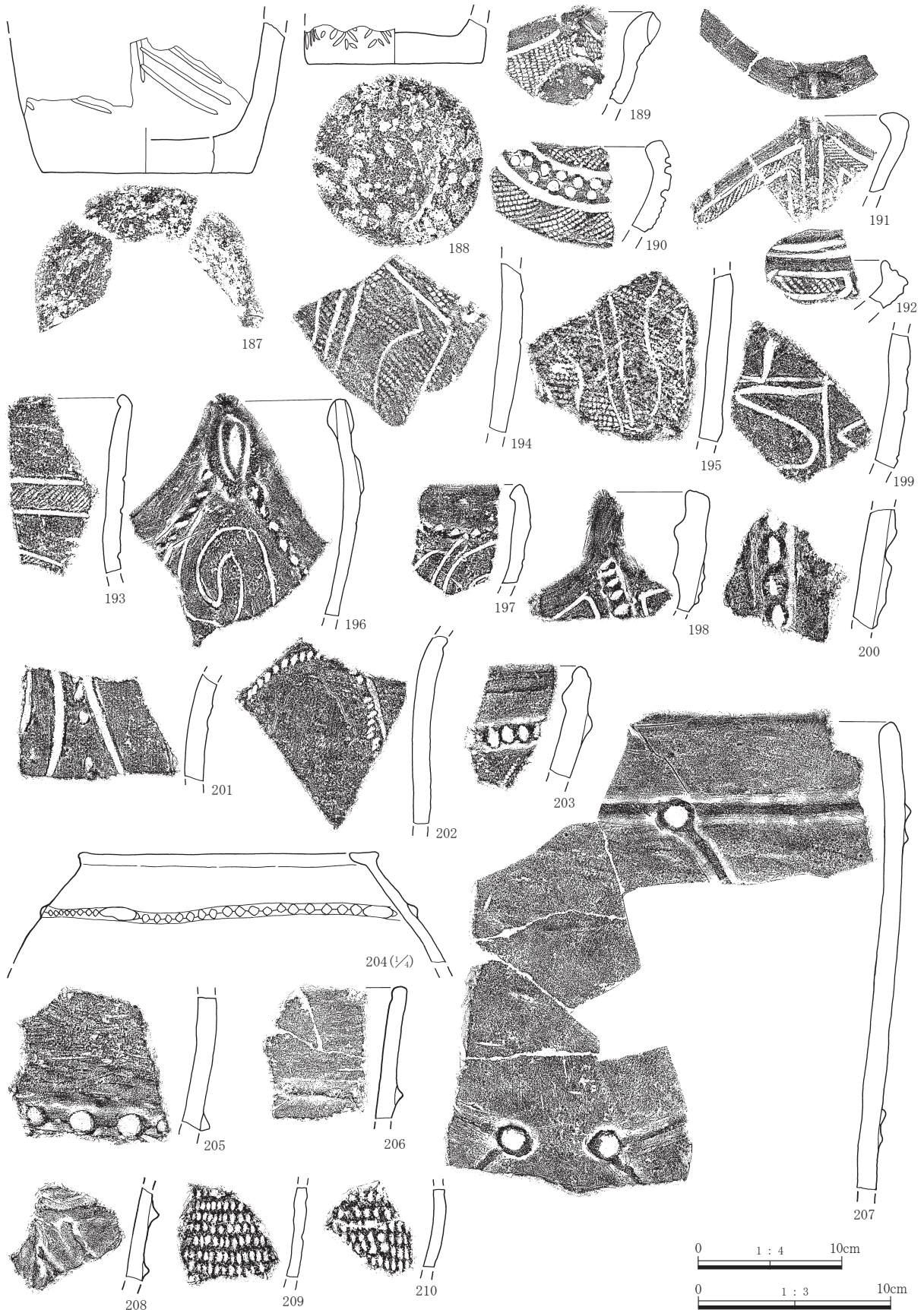
第144図 95区遺構外出土土器 (6)



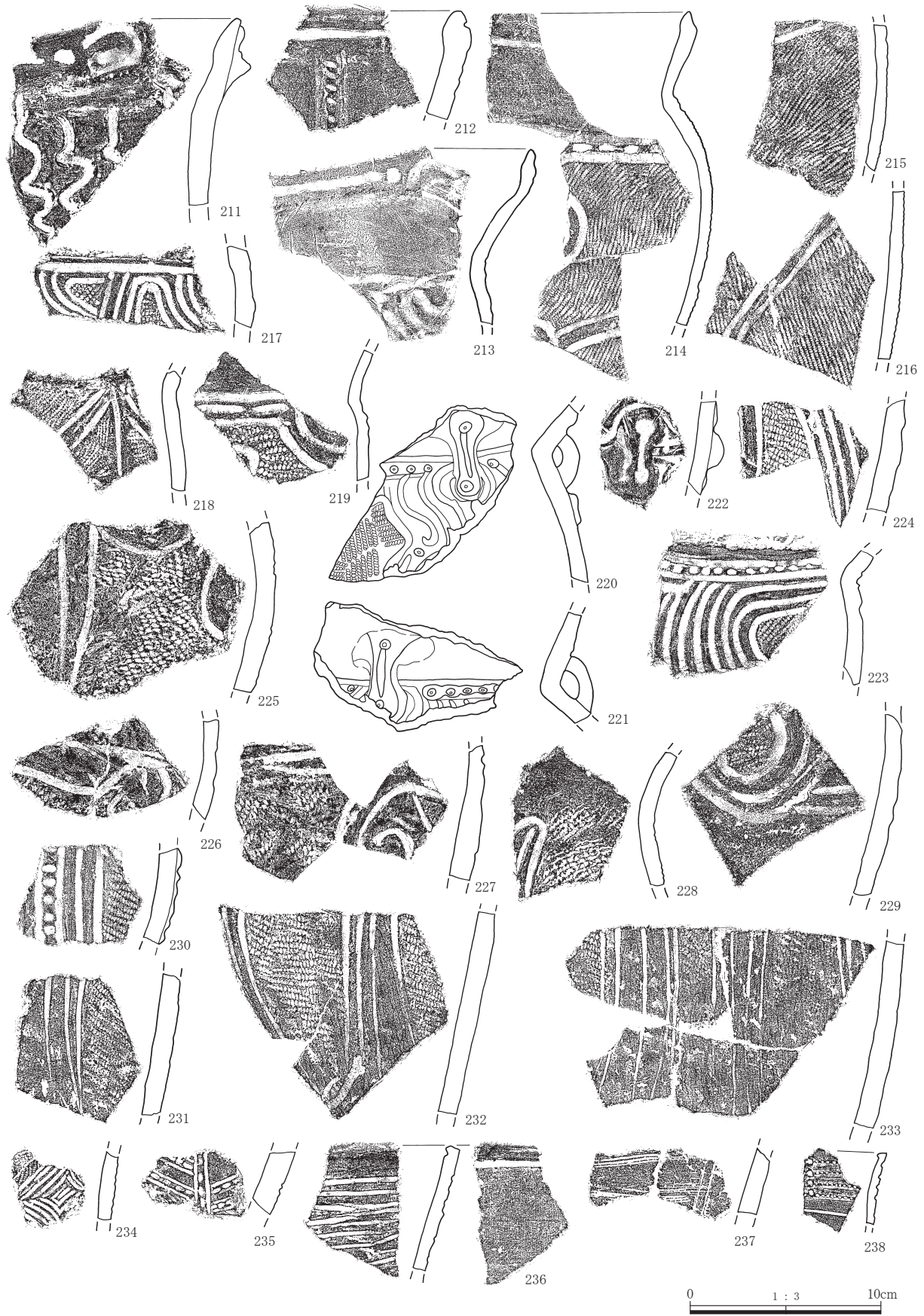
第145図 95区遺構外出土土器（7）



第146図 95区遺構外出土土器（8）



第147図 95区遺構外出土土器(9)



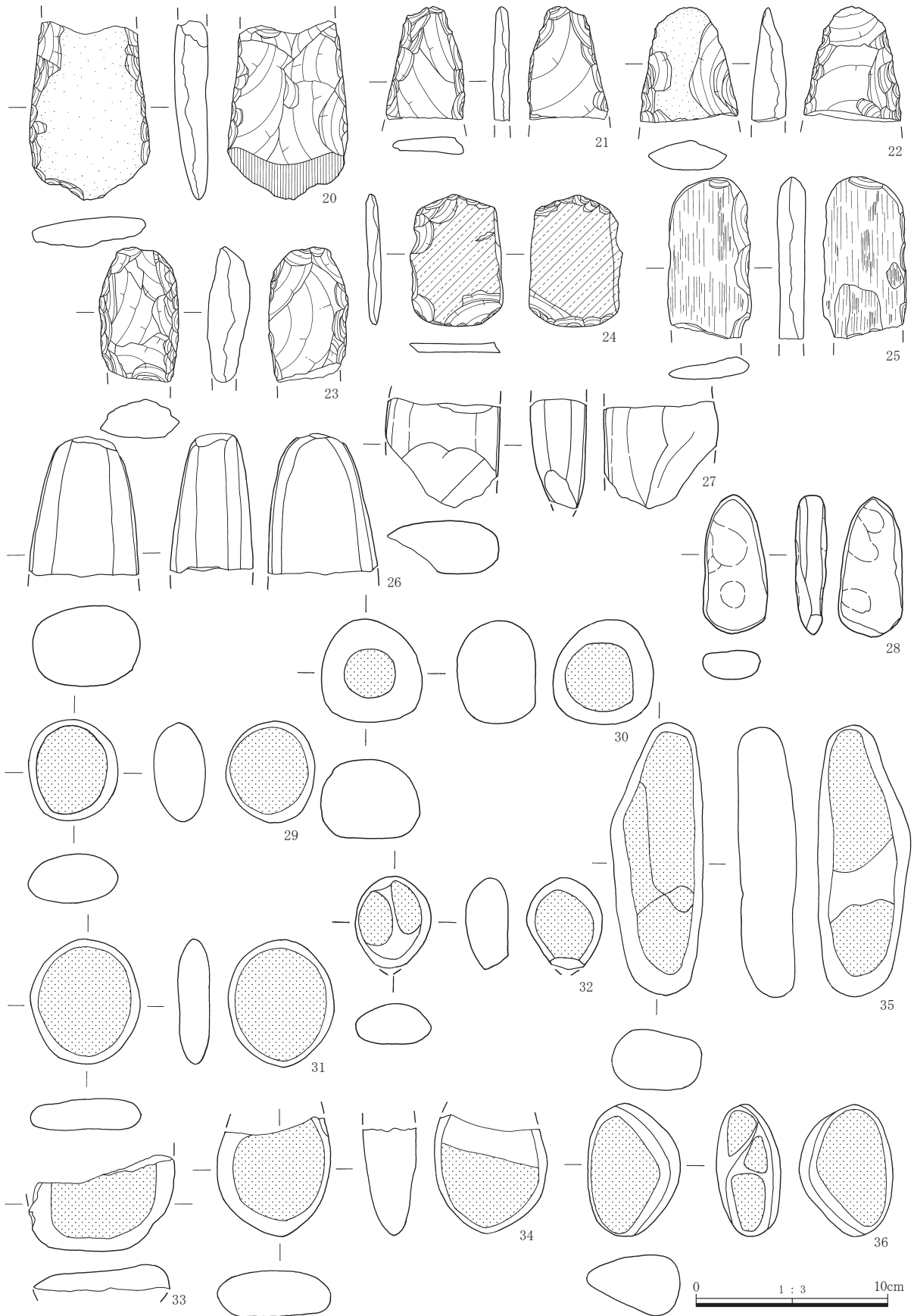
第148図 95区遺構外出土土器 (10)



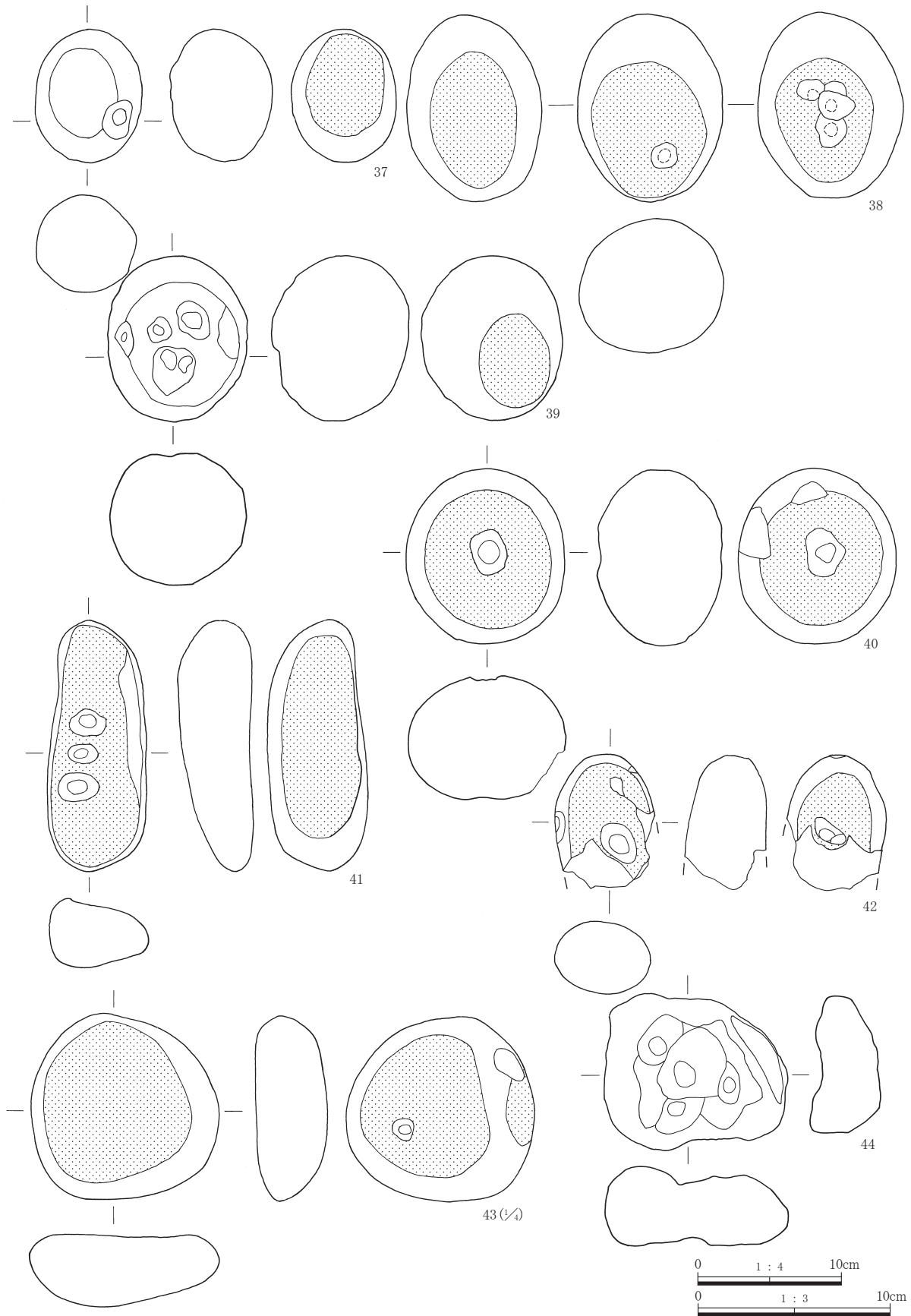
第149図 95区遺構外出土土器 (11)・17区遺構外出土土器



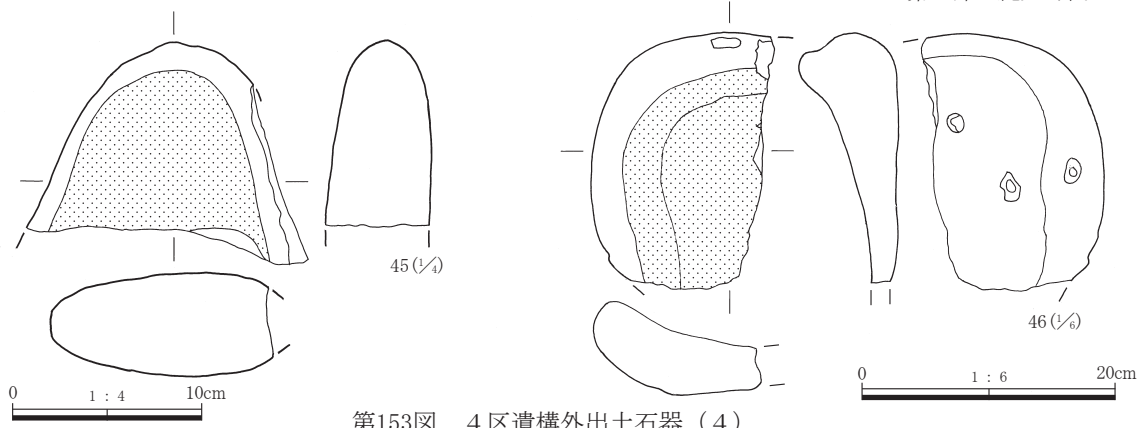
第150図 4区遺構外出土石器(1)



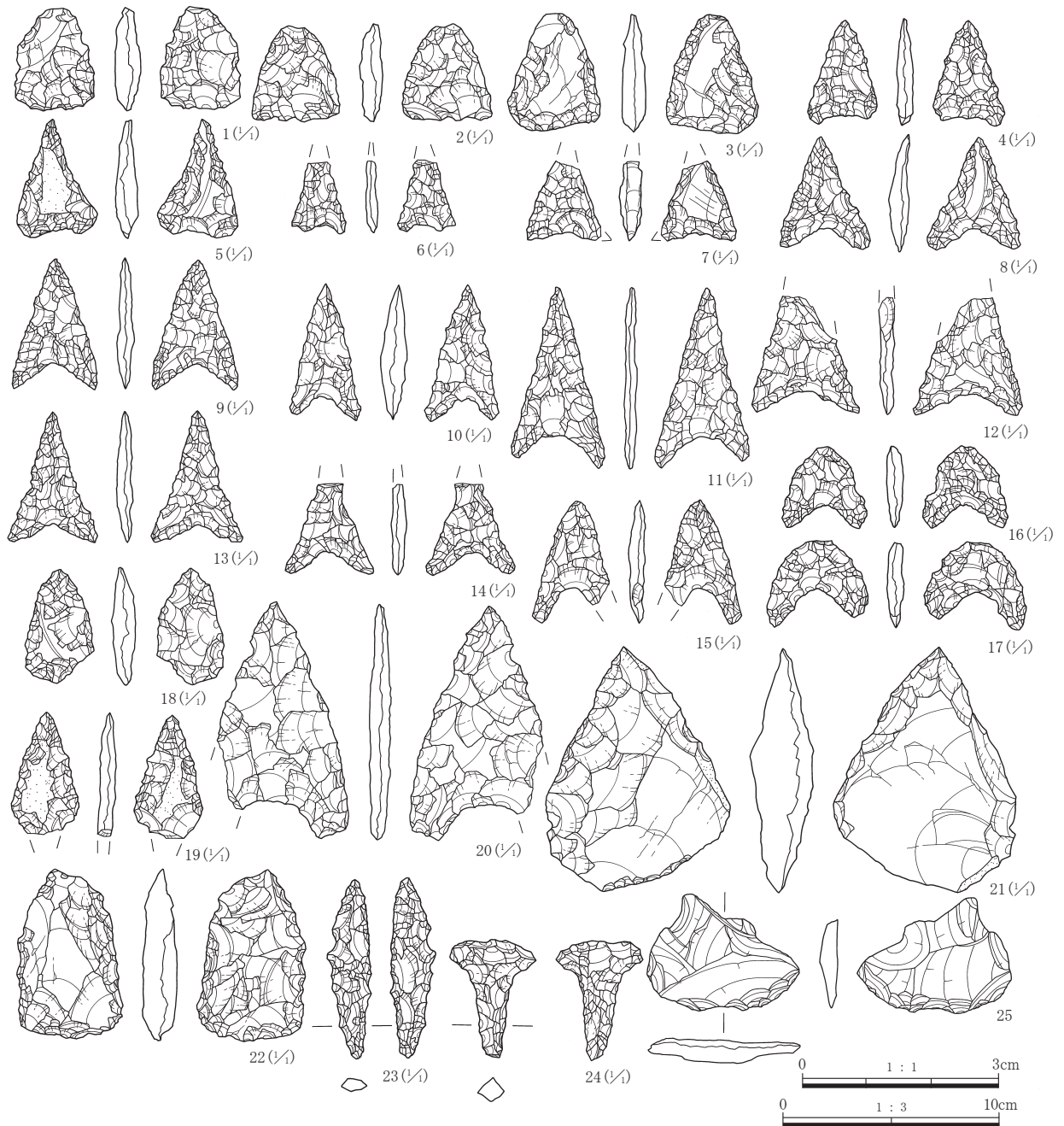
第151図 4区遺構外出土石器(2)



第152図 4区遺構外出土石器(3)



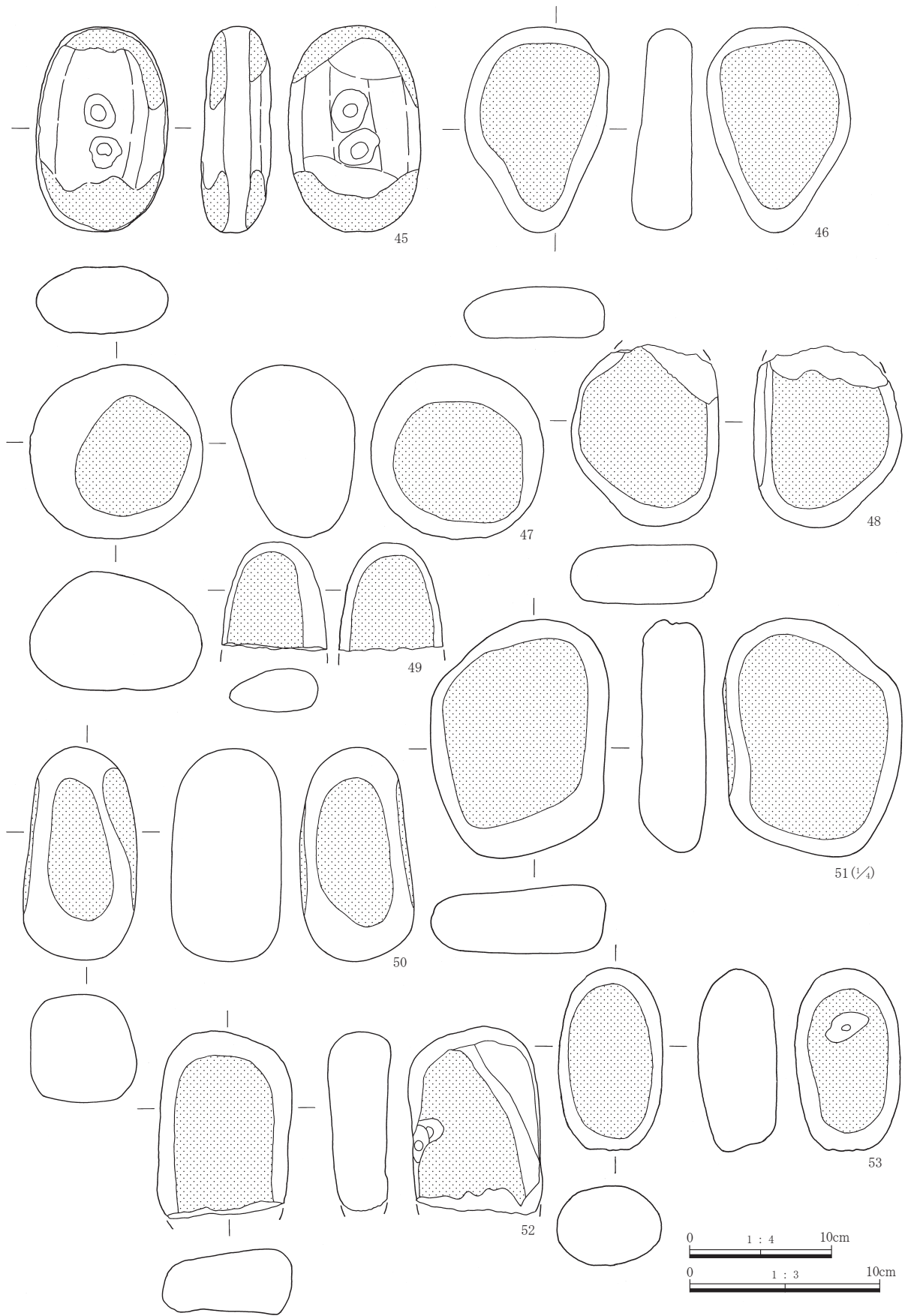
第153図 4区遺構外出土石器(4)



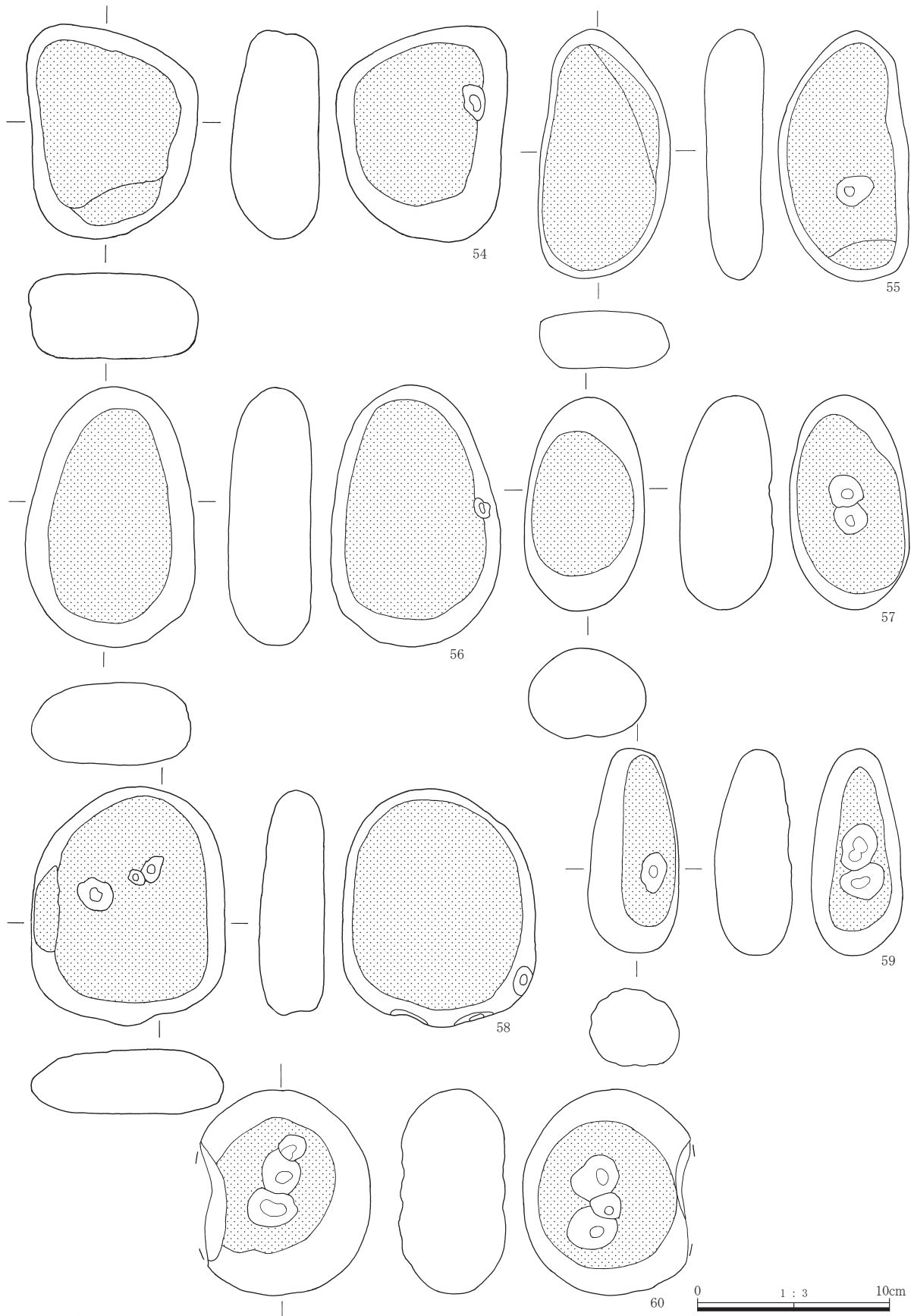
第154図 5区遺構外出土石器(1)



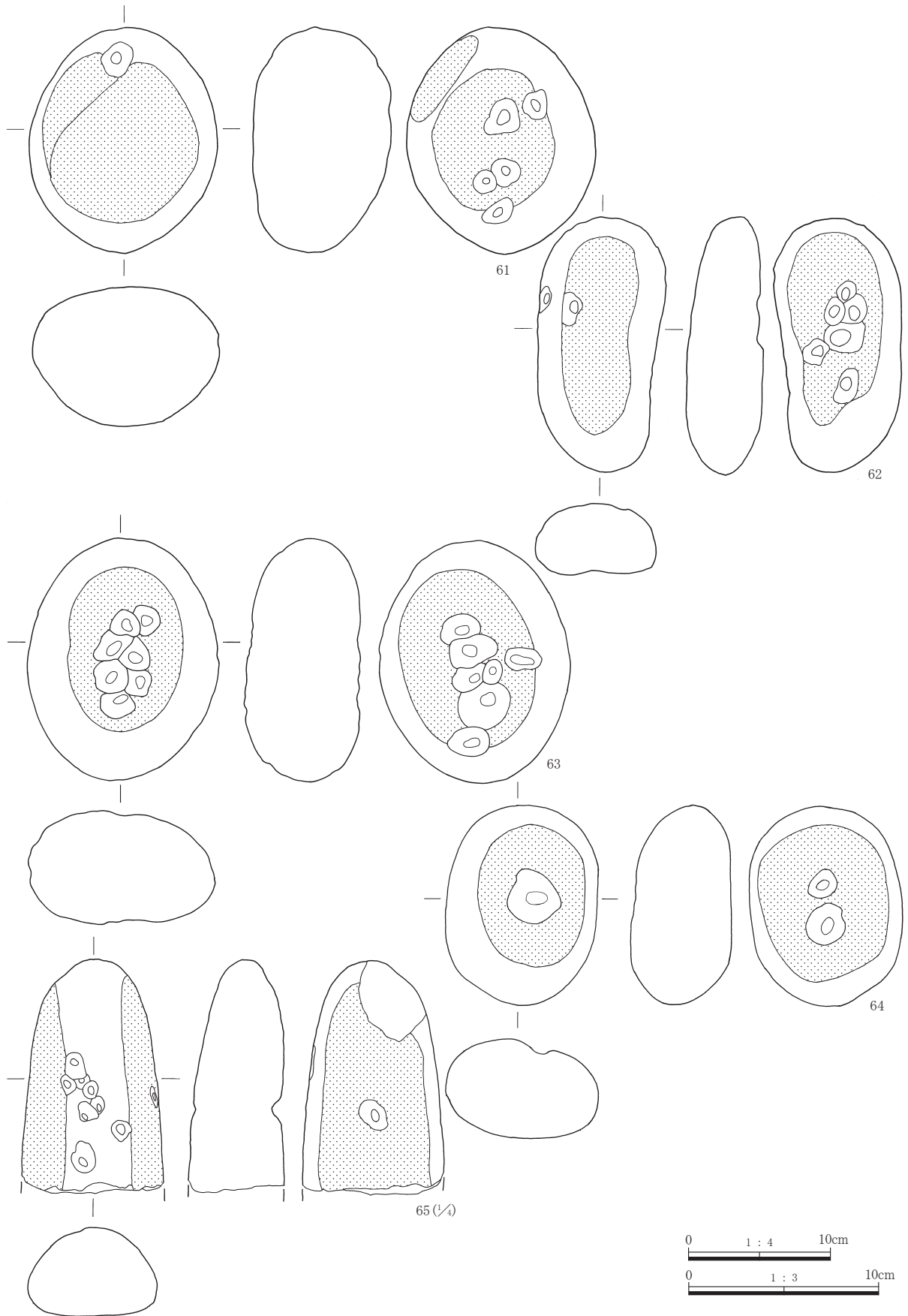
第155図 5区遺構外出土石器(2)



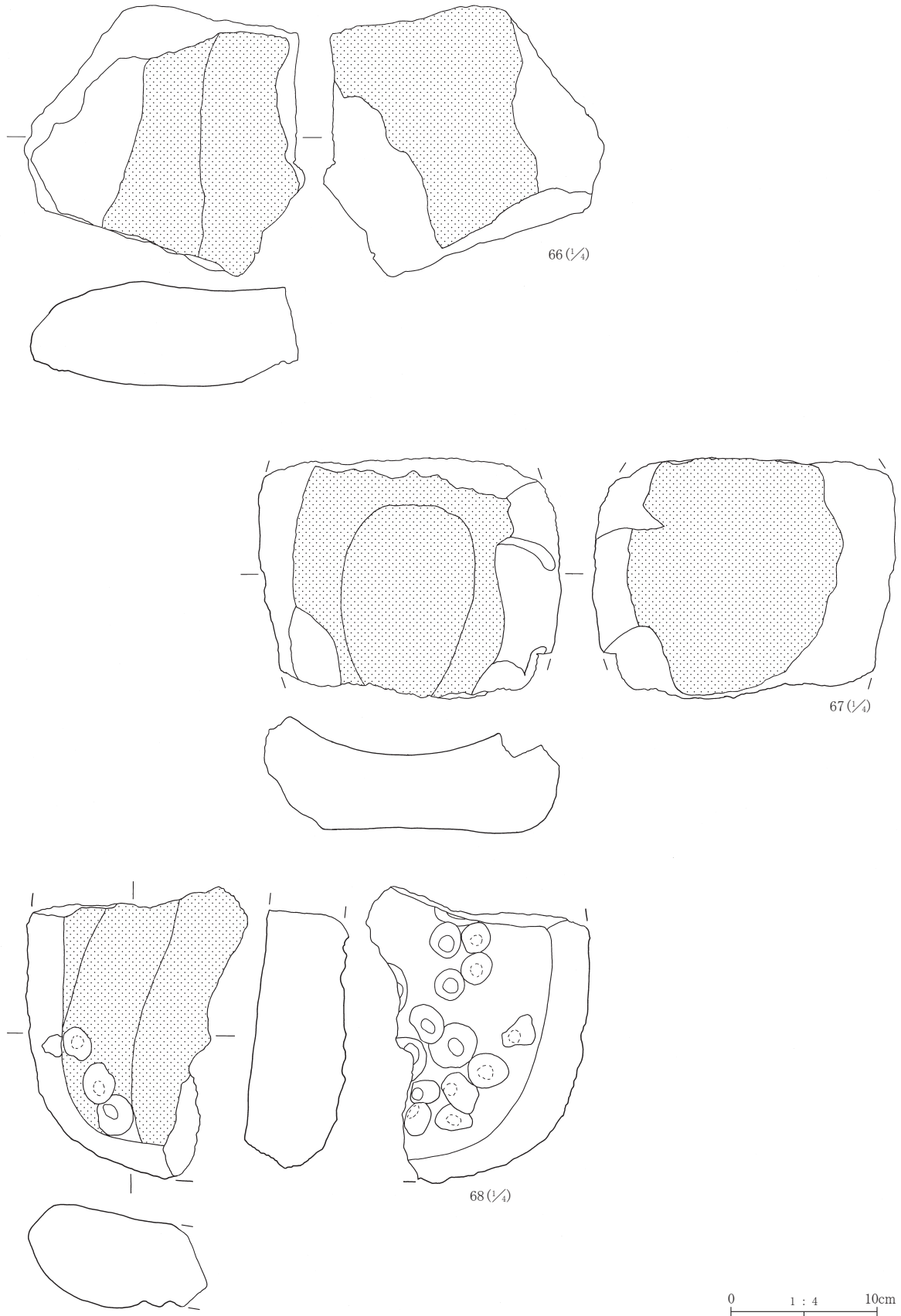
第156図 5区遺構外出土石器(3)



第157図 5区遺構外出土石器(4)



第158図 5区遺構外出土石器(5)

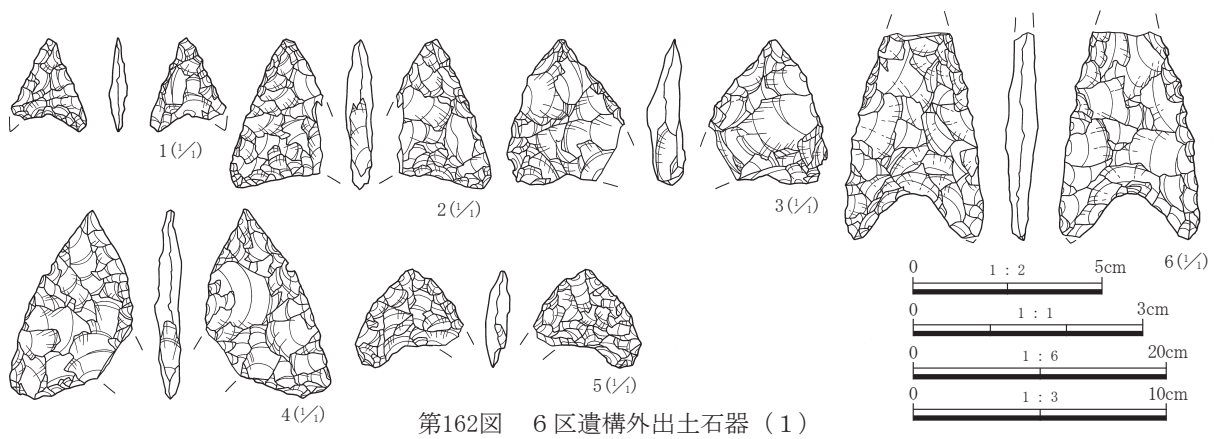


第159図 5区遺構外出土石器(6)

0 1 : 4 10cm

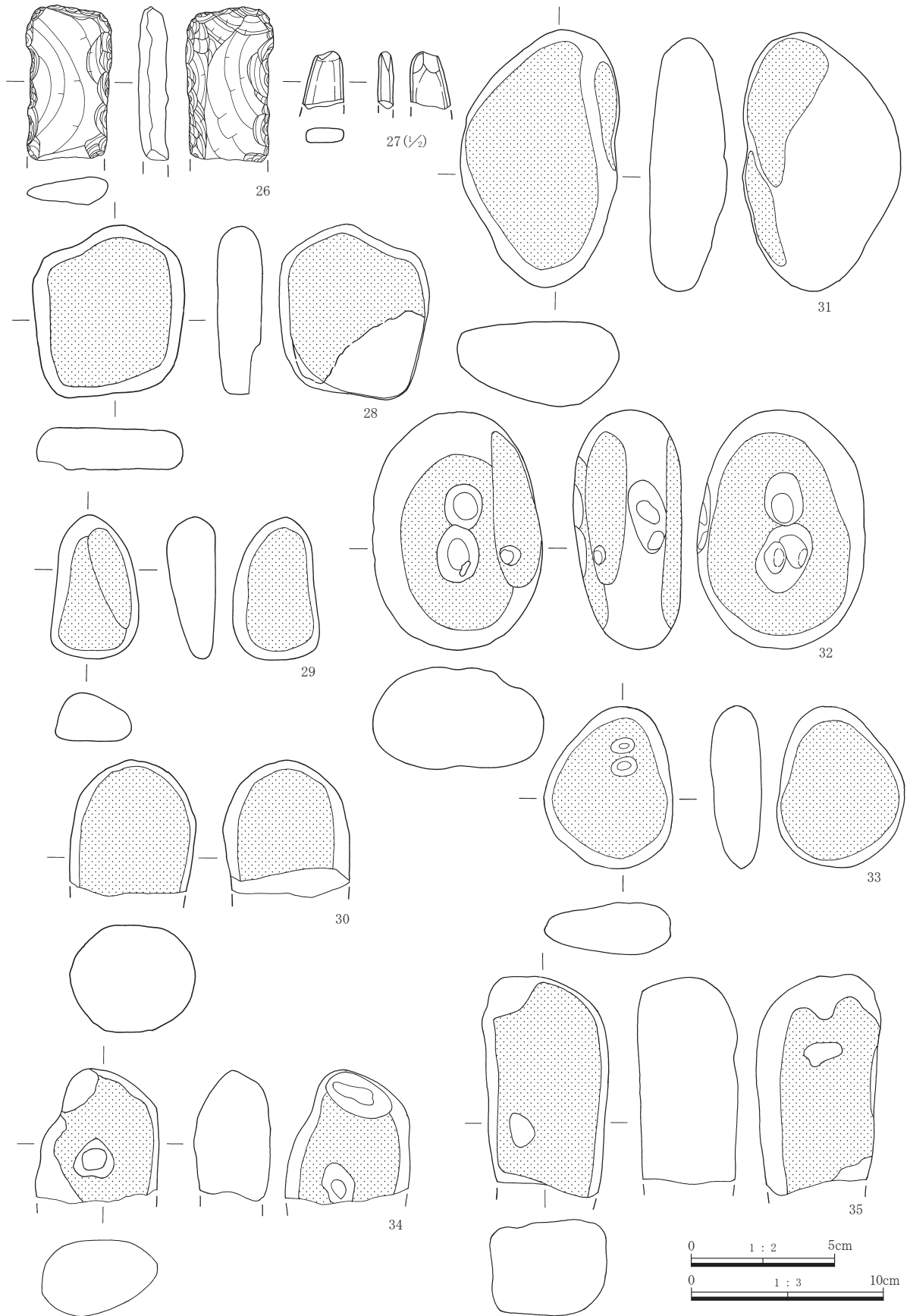


第160図 5区遺構外出土石器(7)

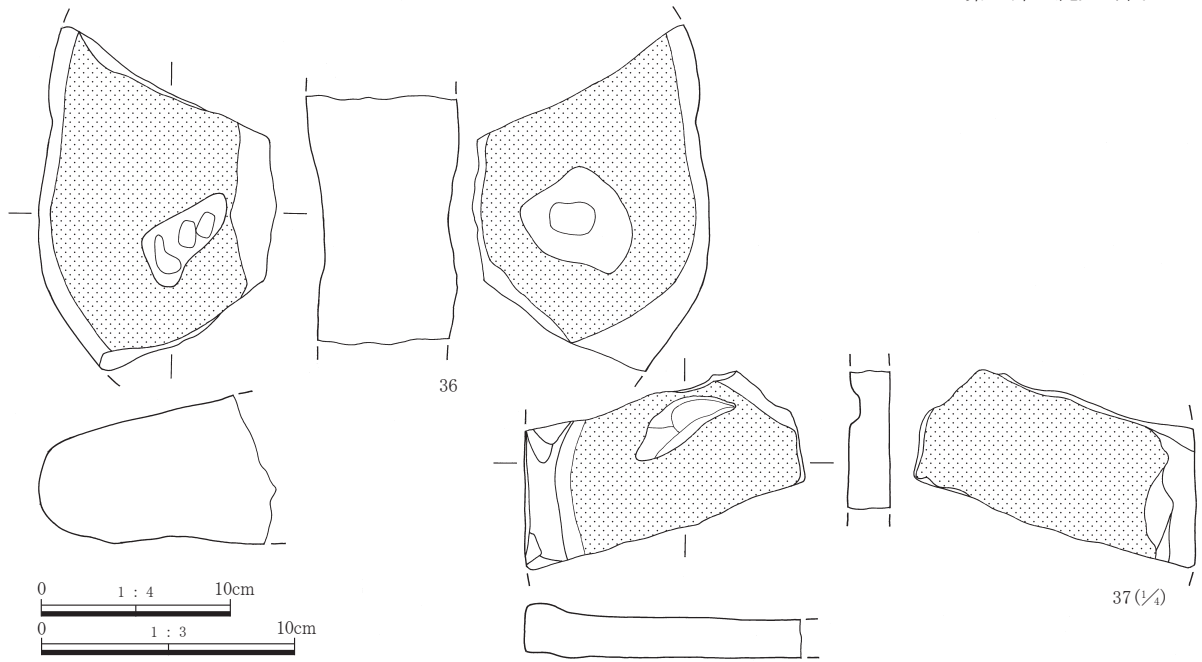




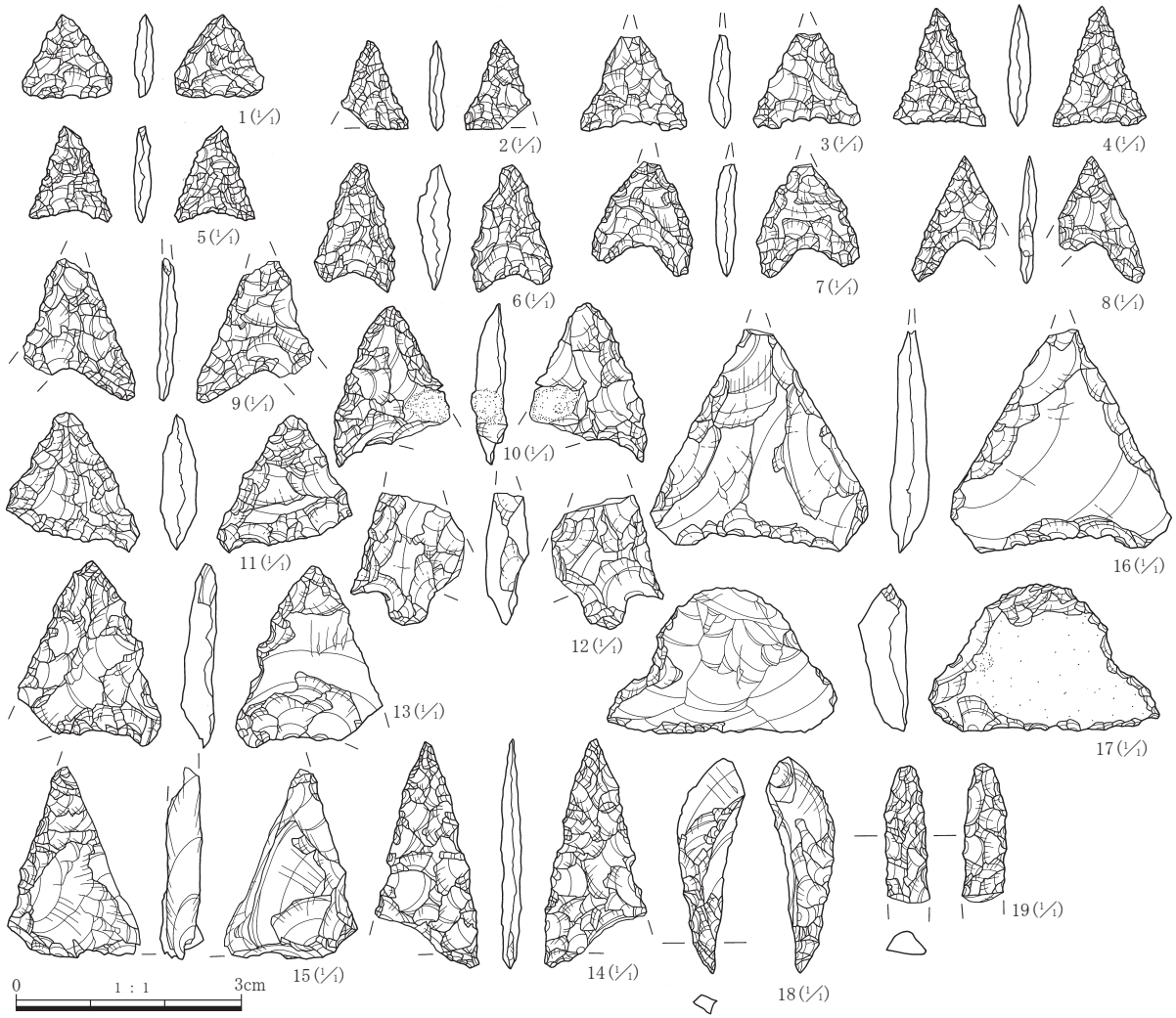
第163図 6区遺構外出土石器(2)



第164図 6区遺構外出土石器(3)



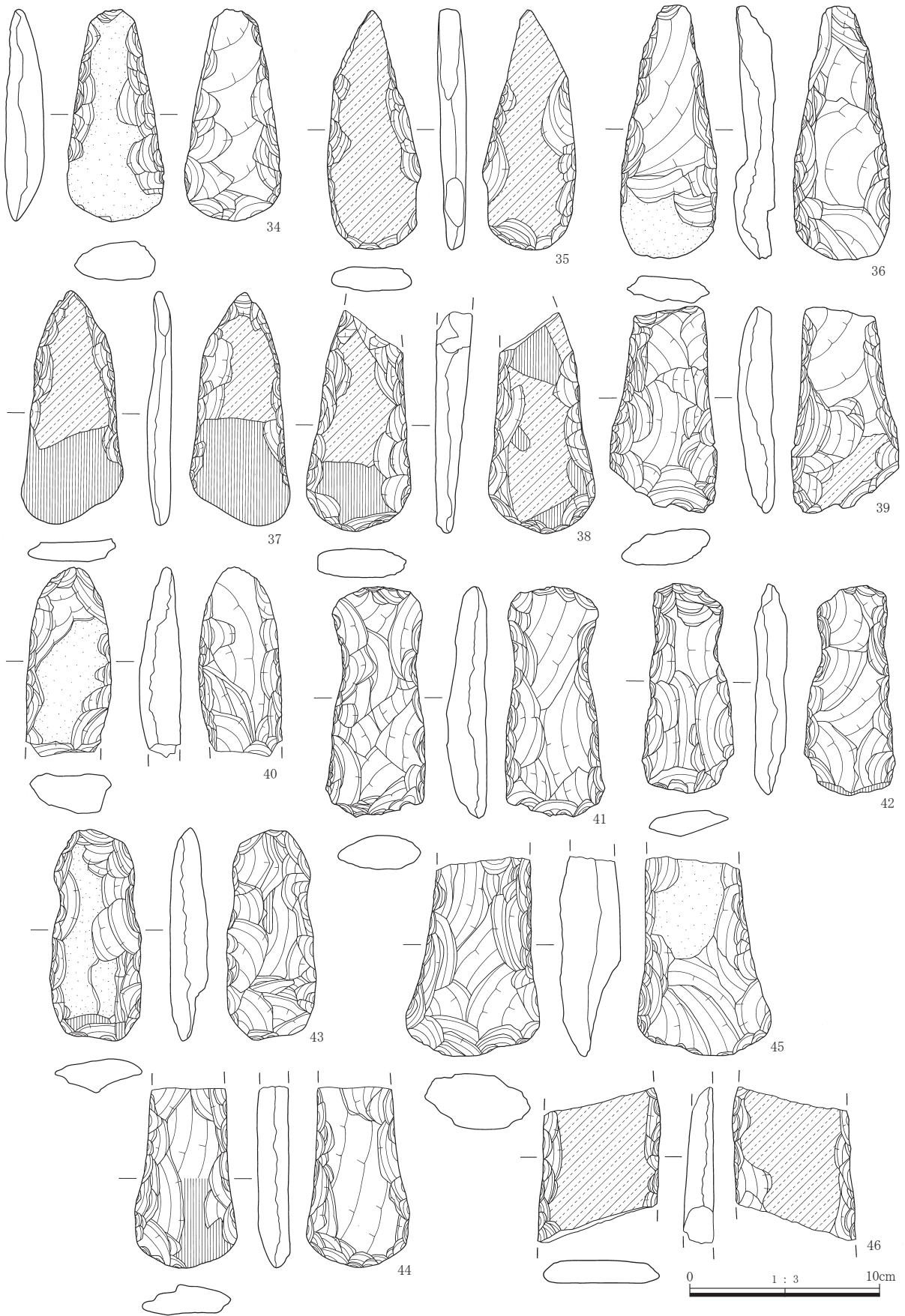
第165図 6区遺構外出土石器(4)



第166図 95区遺構外出土石器(1)



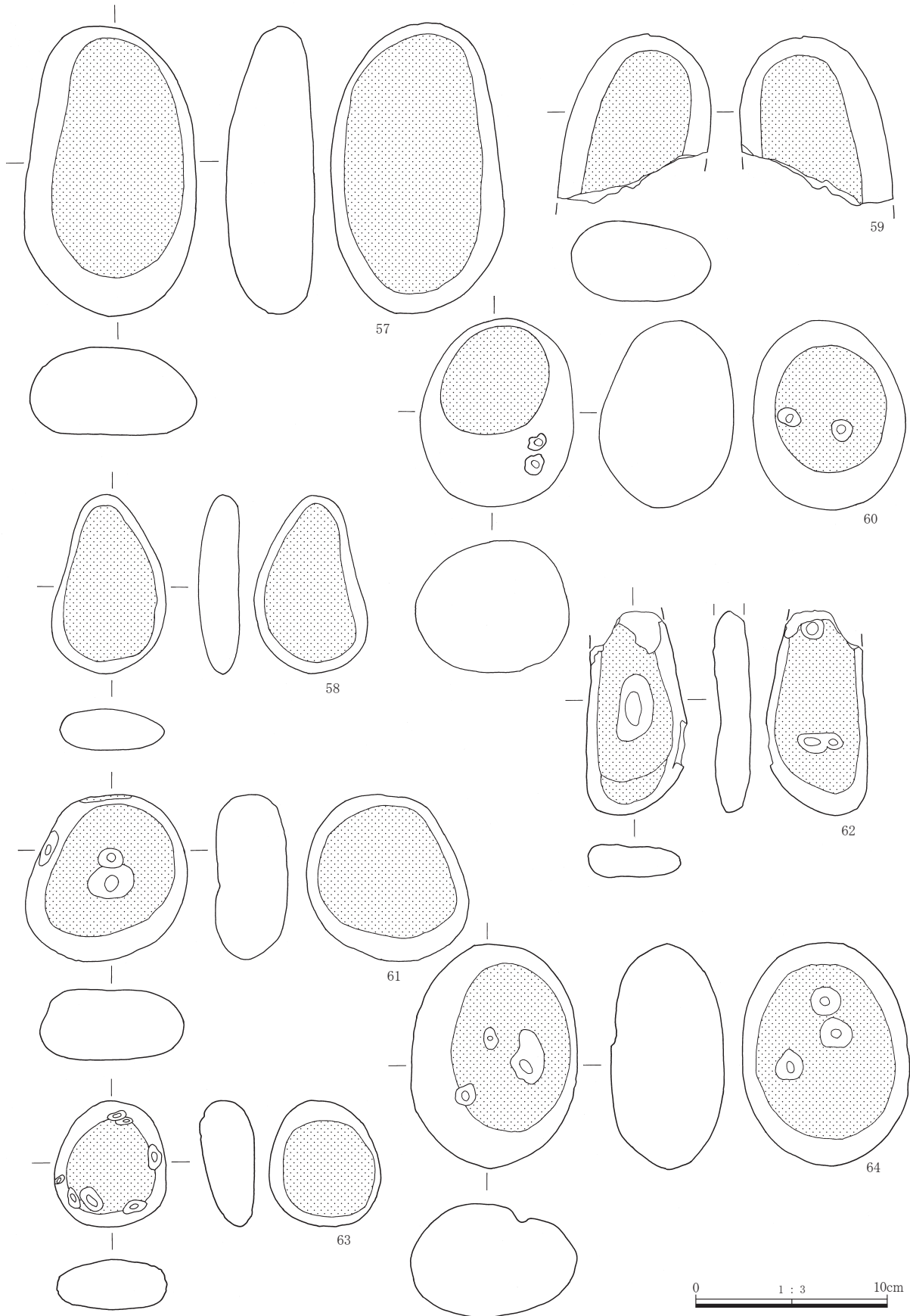
第167図 95区遺構外出土石器（2）



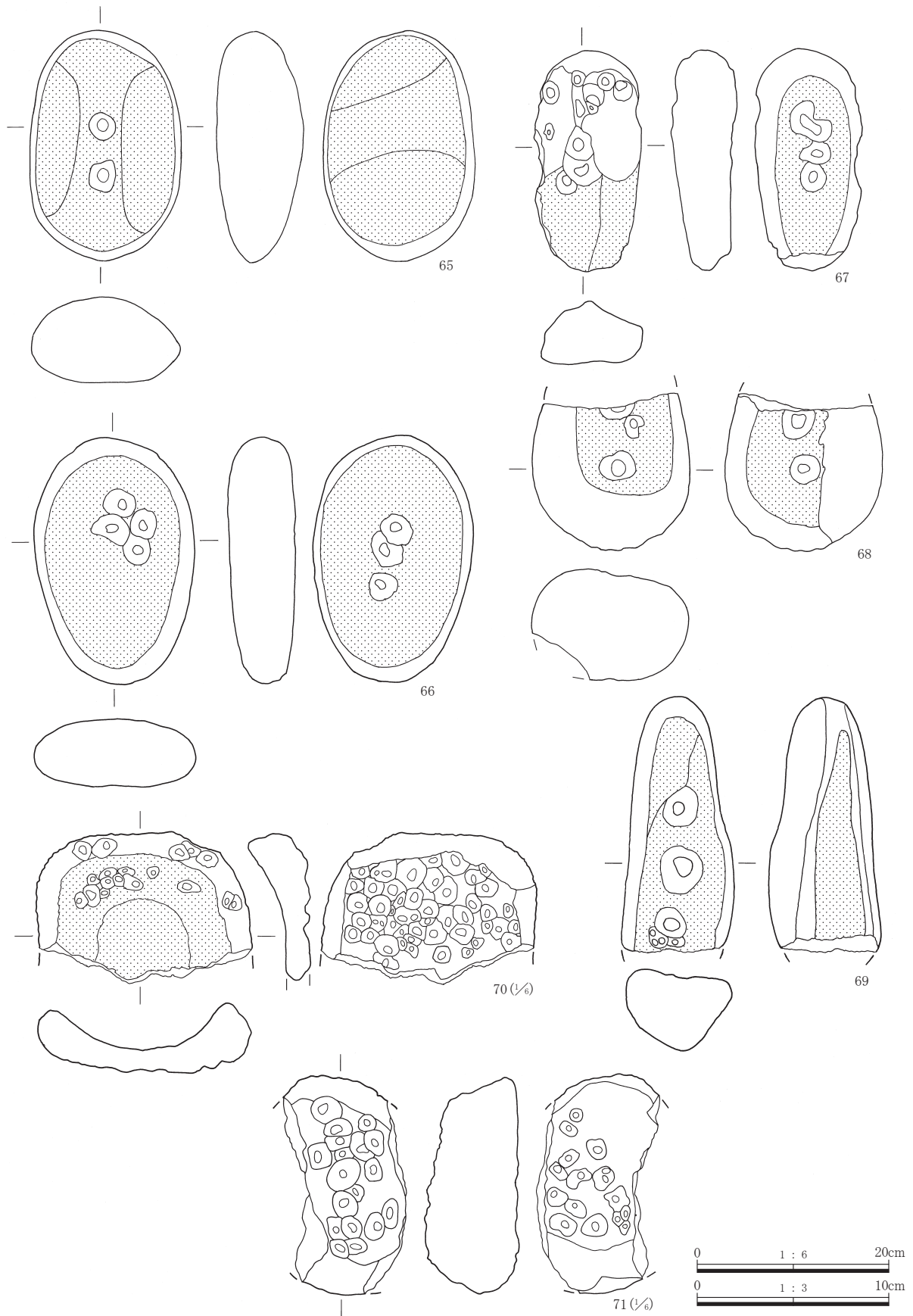
第168図 95区遺構外出土石器(3)



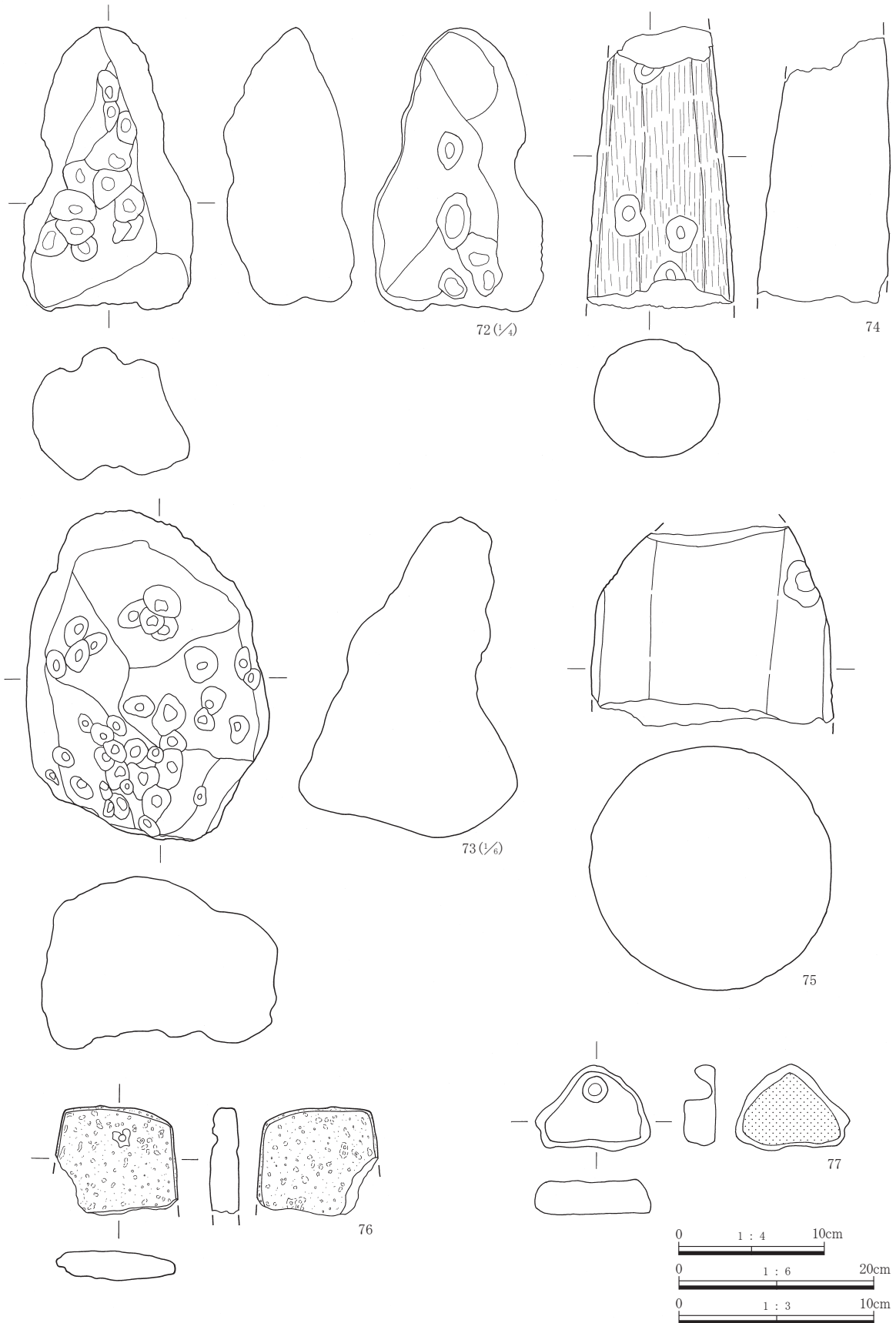
第169図 95区遺構外出土石器(4)



第170図 95区遺構外出土石器（5）



第171図 95区遺構外出土石器 (6)



第172図 95区遺構外出土石器（7）

第4節 弥生時代

1 土坑

平成12・13年度の調査において、弥生時代に比定された土坑が1基確認されている。これは、平成13年度の調査において、新設県道部分の調査区である17区で確認された。

確認された土坑は、17D-15・16グリッドに位置し、南面する緩傾斜地に立地する。黒褐色土が厚く堆積し、プラン確認が困難であったが、調査区壁において土層断面を確認し、遺構を確定した。また、土坑内や近接する土坑周辺から土器片などが出土した。(第173・174図、PL95)

この出土土器の中に、削り調整の見られる破片が数点看取され、これらは同一個体と考えられる。また、土坑内からは口縁部の破片が1点出土しているが、胎土や色調・調整などが縄文時代後期の土器と比較して異質な感があり、これらを弥生時代の土器と推定して遺構の時期が判断されている。しかし、これらの遺物を明確に弥生時代と確定する要素に乏しい点も否定できず、今後も検討を要する。

なお、本土坑や関連する出土遺物が確認されたことにより、さらなる精査の必要が検討され、この区域は次年度にも調査が継続することとなった。この次年度調査の内容については、後続して刊行される平成14年度分の報告書で報告される予定である。この内容において、本土坑の年代が変更となる可能性もあるが、本報告書では調査時の所見において報告させていただくことをご了解いただきたい。

この他に5区では、色調・胎土に特徴があり、内・外面を押圧で調整する土器片が出土し、弥生時代の可能性を推測した。また、該期の遺物に関しては、縄文時代の土器片の中に薄手で「条痕文」を施す破片などが看取され、該期の可能性も想定されるものが含まれている。

さらには、打製石斧の中にも、「石鋏」と見られる大型のものがあり、具体的には4-65号土坑出土の打製石斧などが該当し、今後の検討が必要と考えられる。

第5節 古墳時代

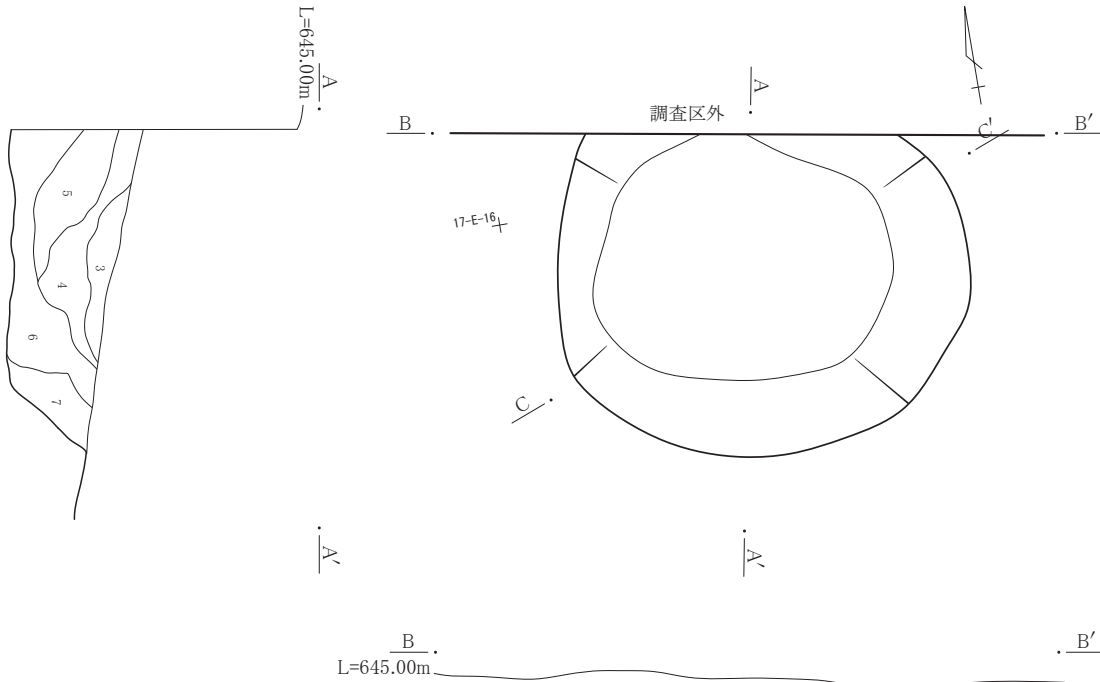
1 遺構外出土遺物

平成12・13年度の調査において、古墳時代に比定される遺構は確認されなかった。しかし遺物については、遺構外出土遺物の中に該期と見られる土師器の破片が僅かながら看取され、特徴的かつ図化が可能な資料2点を取り上げて図示した。(第174図、PL95)

この2点は、5区のグリッドから出土した坏の口縁部片であり、小破片のため判別が難しい点もあるが、外反して口縁の内面が内斜するような器形を呈するもので、このうち1点には口縁に横位条線が1条看取される。時期は、5世紀末～6世紀代と推定される。

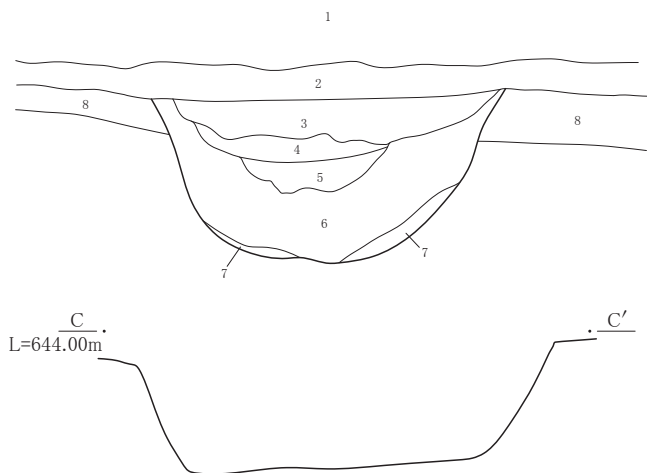
以上の遺物について、個々の詳細は「遺物観察表」を参照されたい。

17区2号土坑



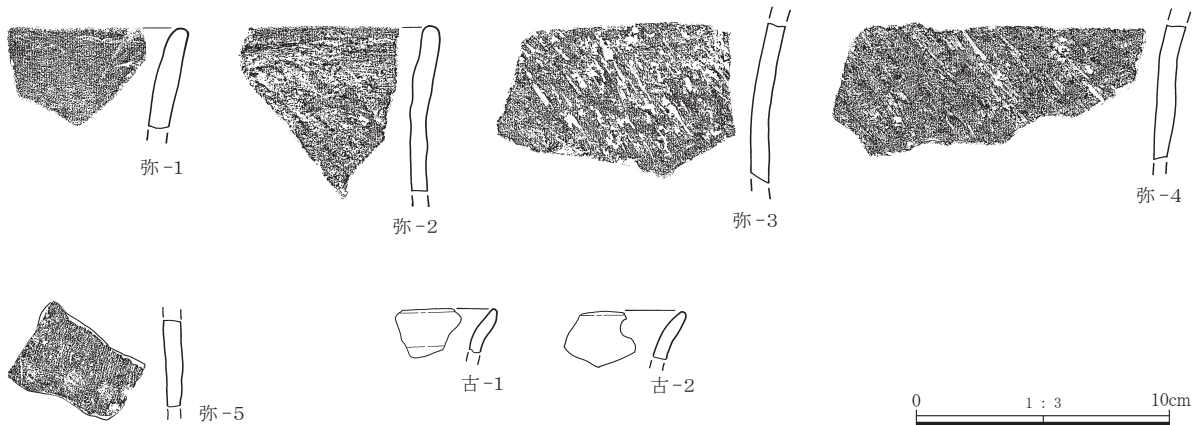
17区2号土坑

- 1 現表土
- 2 黒色土 黄褐色粒・白色軽石粒を含む。均質で混入物を含まない部分あり。
- 3 黒色土 As-YPKを含む。
- 4 黒褐色土 As-YPKを少量含む。
- 5 黒色土 暗褐色土を混入し、As-YPKを少量含む。
- 6 黒色土 As-YPKを少量含む。
- 7 黒色土 As-YPKを僅かに含む。
- 8 黒褐色土 基本層序IV層に相当する。



0 1:40 1m

第173図 17区土坑(1)



第174図 弥生・古墳時代出土土器

第6節 平安時代

1 住居跡

4-5号住居跡 (第175図、PL39・95)

位置 4 T~V-13グリッドに位置し、南の谷頭に面する緩傾斜地に立地する。 **確認面** IV層相当面で確認されたが、傾斜する南側は不明瞭で判然としなかった。 **重複** 北側に4-6号住居跡が近接し、ピット36が中・近世と考えられ新しく、4-50号・63号・66号土坑が縄文と考えられ古い。また、ピット35は自然の凹みの可能性があるが、新旧は本住居跡より古い。 **覆土** 褐灰色土や黒色土で2層に分層され、前者はシルト質でII-2層が基調と思われる。 **形状** 平面は、隅丸(長)方形を呈すると推定される。 **規模** 残存部で、カマドを通る主軸側(250)cm×570cmである。 **方位** 主軸でN-11°-Wを測る。 **壁高** 最大で24cmを測り、やや傾斜する立ち上がりである。 **床面** 平坦で、掘り方に充填して構成されているが、硬化面は確認されていない。 **周溝** 確認されていない。 **柱穴** ピットが2基確認され、柱穴と考えられる。

カマド 北壁のほぼ中央に位置する。残存状況が悪く、焼土・灰の分布でプランを確認した。煙道部が壁外まで大きく張り出さない扁平な平面形で、礫がまとまる部分があるため、構築材に礫が使用されていた可能性があり、セクションの焼土層(5層)が火床面と考えられる。規模は、主軸134cm×幅169cmを測る。 **掘り方** 床面構築土は黒褐色土の単一層で、床面から最大で20cmを測り、掘り方面は平坦であるが、南や西へやや傾斜している。 **出土遺物** 土器類が25点出土したが、覆土中からの出土がほとんどで、21点は混入した縄文土器片である。残る4点のうち、土師器の甑と思われる底部片1点が伴う遺物と考えられ、他は混入したと考えられる陶器類である。陶器類には、瀬戸美濃産の碗の口縁部や天目碗の小片が看取され、厳密には遺構外扱いとすべきものであるが、特徴的な遺物であるため瀬戸美濃の口縁部片を本住居跡に含めて図示した。 **所見** カマドを有する住居跡で、出土遺物の様相から平安時代と考えられる。

ピット規模(長径×短径×深さ・cm)

P1	42×32×40	P2	35×30×25
----	----------	----	----------

4-6号住居跡 (第176図、PL39・95)

位置 4 T・U-13・14グリッドに位置し、南の谷頭に面する緩傾斜地に立地する。 **確認面** IV層相当面で確認されたが、残存状況が悪く床面~掘り方付近が確認面にあたり、特に南西隅あたりの壁部は南に広がっていた可能性がある。 **重複** 南側に4-5号住居跡が近接し、柵列のピット1が中・近世と考えられ新しく、南西隅の4-63号土坑は縄文と考えられ古い。また、南西隅が南に広がる可能性では、4-5号住居跡のカマド部と重複していた可能性がある。 **覆土** 黒褐色土が単一的に確認され、4-5号住居跡の2層に類似する。 **形状** 南西隅のプランが南に広がる可能性も含め、平面は隅丸長方形を呈する。 **規模** 長軸352cm×短軸(カマド主軸側)270cmである。 **方位** 長軸でN-7°-W、カマドを通る主軸でN-82°-Eを測る。 **壁高** 最大で3cmを測り、遺構確認の時点で床面から掘り方面まで達していると考えられる。

床面 遺物の出土が見られた北側は床面に相当し、南に広がる可能性の南西隅あたりは掘り方に達していると考えられ、全体には平坦である。 **周溝** 確認されていない。 **柱穴** 確認されていない。 **カマド** 南東隅に位置する。残存状況が悪く、焼土・灰の分布でプランを確認した。煙道に対し燃焼部の幅が狭い細長の平面形で、礫が見られることから、部材に礫が使用されていた可能性があり、セクションの焼土層(2・3層)が火床面と考えられる。規模は、主軸116cm×幅62cmを測る。カマドの位置に対して住居跡の南壁のプランが歪んでおり、このため南西隅の壁部が攪乱されていると考えられ、南西隅が南へ広がる可能性を推定

している。**掘り方** 確認面が掘り方にあたるような状況であるが、充填による床面構築土などが判然としないため、地山を削り出す形の床面であった可能性がある。**出土遺物** 土器類2点・鉄器類1点が北側から出土し、床面相当からの出土と捉えられる。土器類は、灰釉陶器の破片と混入した縄文土器片であり、鉄器類は釘状を呈するものであるが、不確定である。このうち、灰釉陶器の坏の底部片と鉄製品の2点を図示した。**所見** カマドを有する住居跡で、出土遺物から平安時代と考えられる。

4-9号住居跡（第177図、PL40）

位置 4J・K-10グリッドに位置し、谷に挟まれる尾根状台地にあつて基部の中央に立地する。**確認面** IV層相当面で確認されたが、残存状況が悪く、プランらしき範囲は確認できたが、全体的にカマド部の他は不明瞭で判然としなかった。**重複** 北西隅がかかる4-11号住居跡は縄文時代で古く、南東の4-61号土坑も縄文時代と考えられ古い。4-58号土坑との新旧関係は判然としない。**覆土** 明確な覆土の堆積は確認されていない。**形状** 隅丸(長)方形を呈すると推定される。**規模** プランらしき範囲で(230)(カマド主軸側)cm×(282)cmを測る。**方位** カマドの軸でN-10°-Eを測る。**壁高** 確認されていない。

床面 確認されていない。**周溝** 確認されていない。**柱穴** 確認されていない。**カマド** 北壁の中央付近と見られる位置で確認された。残存状況が悪く、火床面と見られる焼土が分布するのみであるが、形状としては煙道部が壁外まで大きく張り出さない扁平な平面形と推測される。規模は、主軸56cm×幅79cmを測る。**掘り方** 確認されていない。**出土遺物** 土器類が3点出土したが、混入した縄文土器片である。

所見 出土遺物等はないが、カマドを有する同様の住居跡の展開から平安時代と推定される。

4-12号住居跡（第178図、PL40）

位置 4O・P-12グリッドに位置し、尾根状台地にあつて谷頭に面する基部の西側に立地する。**確認面** IV層相当面で確認されたが、残存状況が悪く、傾斜する南西側は不明瞭で判然としなかった。**重複** 4-13号住居跡を切る関係で新しい。**覆土** 暗灰褐色土を主体に2層に分層されるが、南側の土層(1層)は住居跡に伴う覆土が判然としない。**形状** 平面は、隅丸(長)方形を呈すると推定される。**規模** 長軸(443)cm×短軸(カマド主軸側)(330)cmを測る。**方位** 長軸でN-20°-E、カマドを通る主軸でN-75°-Wを測る。**壁高** 最大で10cmを測り、傾斜する立ち上がりである。**床面** 平坦であるが、西や南に緩く傾斜し、硬化面は確認されていない。**周溝** 確認されていない。**柱穴** 確認されていない。**カマド** 北東隅に位置する。残存状況が悪く、焼土や炭・灰の分布でプランを確認した。煙道部が壁外まで大きく張り出さない扁平な平面形で、焼土層(1層)が火床面と考えられる。規模は、主軸94cm×幅100cmを測る。

掘り方 確認されていない。**出土遺物** 確認されていない。**所見** 出土遺物等はないが、カマドを有する同様の住居跡の展開から平安時代と推定される。

4-13号住居跡（第178図、PL40・95）

位置 4N・O-12グリッドに位置し、尾根状台地にあつて谷頭に面する基部の西側に立地する。**確認面** IV層相当面で確認されたが、残存状況が悪く、傾斜する南西側は不明瞭で判然としなかった。**重複** 4-12号住居跡に切られる関係で古い。**覆土** 暗灰褐色土を主体に2層に分層されるが、南側の土層(1層)は住居跡に伴う覆土が判然としない。**形状** 平面は、隅丸(長)方形を呈すると推定される。**規模** 長軸(カマド主軸側)(417)cm×短軸(273)cmを測る。**方位** 長軸(カマド主軸)でN-17°-Eを測る。**壁高** 最大で5cmを測り、傾斜する立ち上がりである。**床面** 平坦で、南に緩く傾斜し、硬化面は確認されていない。**周溝** 確認されていない。**柱穴** 確認されていない。**カマド** 北壁に位置し、中央あたりと思われるが、4-12号住居跡に切られており不確定である。残存状況が悪く、焼土の分布でプランを確認し

第3章 検出された遺構・遺物

た。煙道部が壁外まで大きく張り出さない扁平な平面形で、焼土層(1層)が火床面と考えられる。規模は、主軸83cm×幅(128)cmを測る。掘り方 確認されていない。出土遺物 覆土から砥石が1点出土している。所見 出土遺物等はないが、カマドを有する同様の住居跡の展開から平安時代と推定される。

2 土坑・ピット

該期の土坑・ピットは、3区で土坑6基、4区で土坑10基・ピット3基、5区で土坑5基、6区でピット10基、95区で土坑1基・17区で土坑1基、18区で土坑1基が確認され、総数は土坑24基・ピット13基を数える。(第179～185図、PL41～45)

該期の土坑・ピットについて、須恵器・土師器などの遺物を伴出するものはなく、遺物による年代推定は困難であった。このため、年代推定に関しては、セクションにおける土層観察に基づいて判断した。これは、基本層序Ⅱ-2層を鍵層として年代を推定するもので、Ⅱ-2層は土層中にAs-Kkを混入している平安時代以降の土層であることが過年度の調査で確認されている。このため、Ⅱ-2層を基調とする層が土層中に主体的に認められる土坑・ピットを該期として判断した。

該期の土坑は、4区を除いて全てが陥穴であり、4区も陥穴を主体にその他の形状のものが見られる。確認された陥穴は、台地縁辺部や谷の斜面部を中心に分布するが、台地上にも展開するものが見られる。中には、4-51号・56号土坑や、5-611号・672号土坑などのように、縄文時代後期前葉の敷石住居跡と重複し、これらを切る関係が明確なものがある。また、5-609号土坑は、覆土の中位に多孔石の巨礫を混入している。

こうした陥穴において、5-610号土坑では、底面に工具痕と見られる半円ないし三日月状の痕跡が看取され、これらは鉄器等鋭利な工具による可能性が考えられるもので、陥穴の年代を裏付ける要素といえる。

また、陥穴以外の形状の土坑は、4区で2基確認され、平面形は楕円形で陥穴に近い状況であるが、掘り込みが浅いものである。

ピットは、4区と6区で確認されたが、掘立柱建物などを示す配置などは判然としない。

以上が、該期の土坑・ピットの概要であるが、個々の詳細は「土坑・ピット一覧表」を参照されたい。

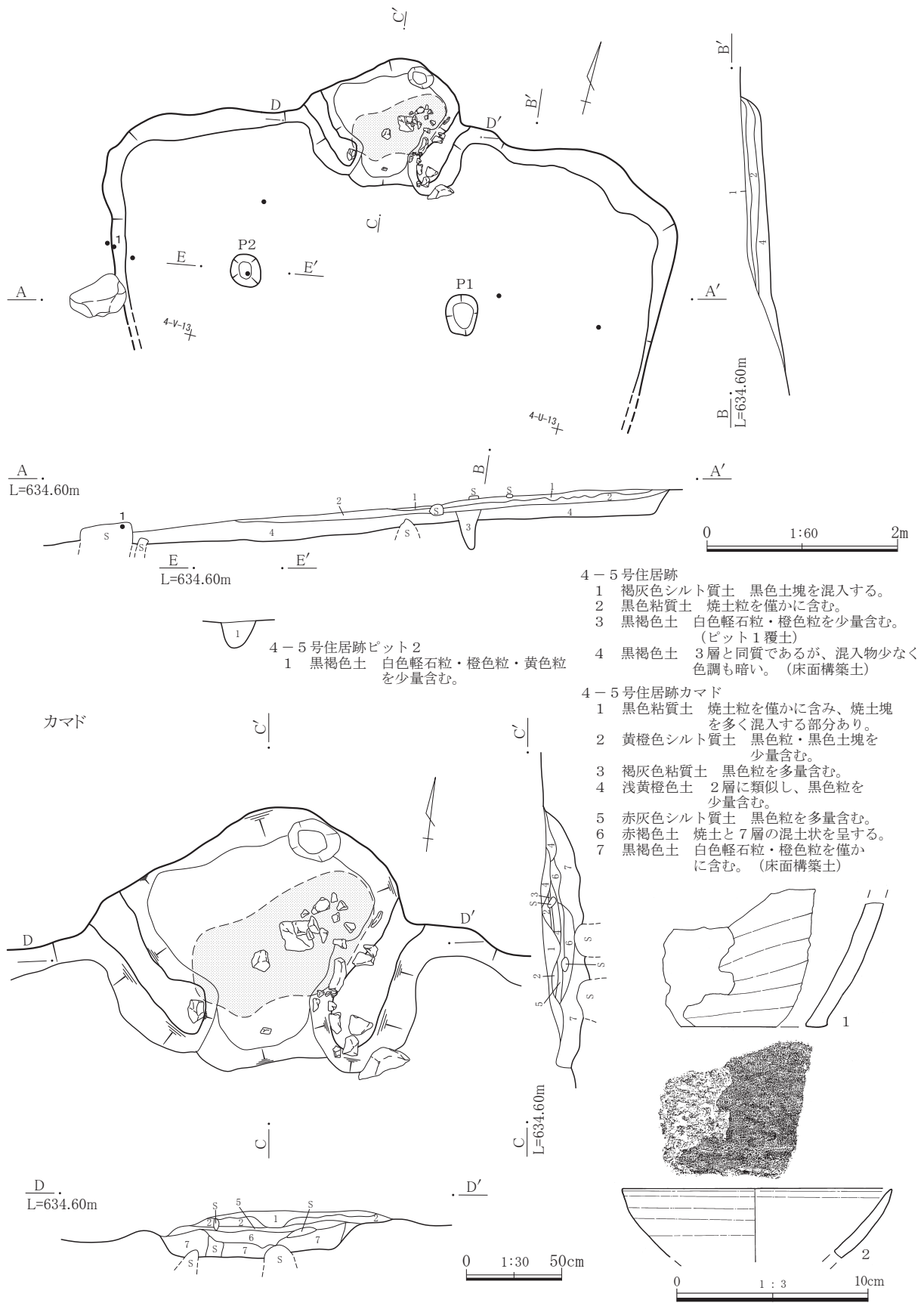
3 遺構外出土遺物

平安時代と考えられる遺物は、4区・5区・6区に見られ、総量は僅かであるが、内訳では5区にまとまる状況を呈し、4区は1点、6区は2点確認されたのみである。(第186図、PL95)

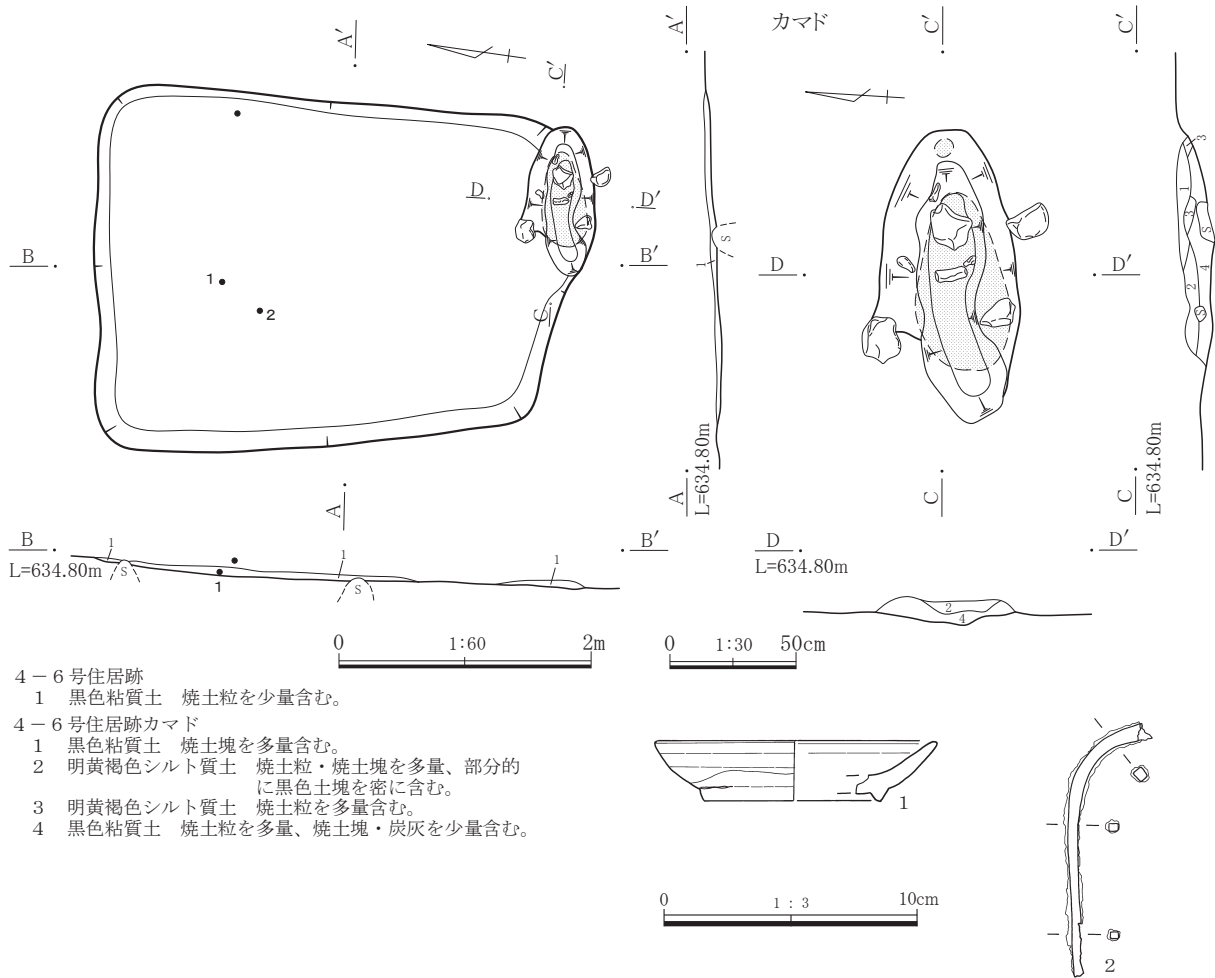
出土した遺物は、須恵器・土師器の破片である。特に、5区出土の須恵器の中には、壺の上部を意図的に打ち欠き、裏返した底部を使用した「転用硯」が1点認められる。この他、叩き目の看取される甕の胴部片や、ロクロ痕が明瞭な壺の胴部片などが出土している。

また土師器では、「コ」の字の形態を呈する甕の口縁部片や、甕の底部片などが出土している。

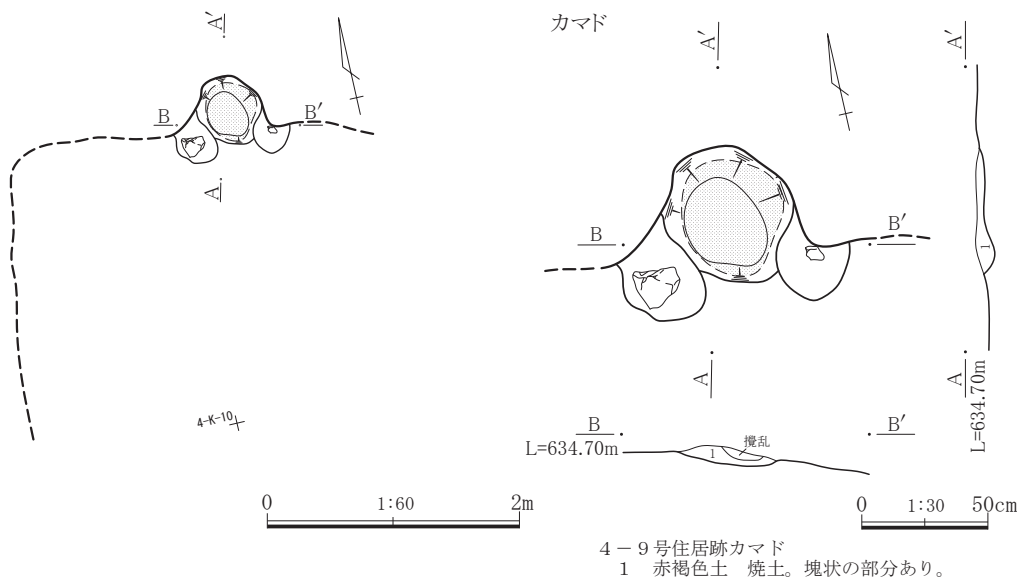
以上の遺物について、個々の詳細は「遺物観察表」を参照されたい。



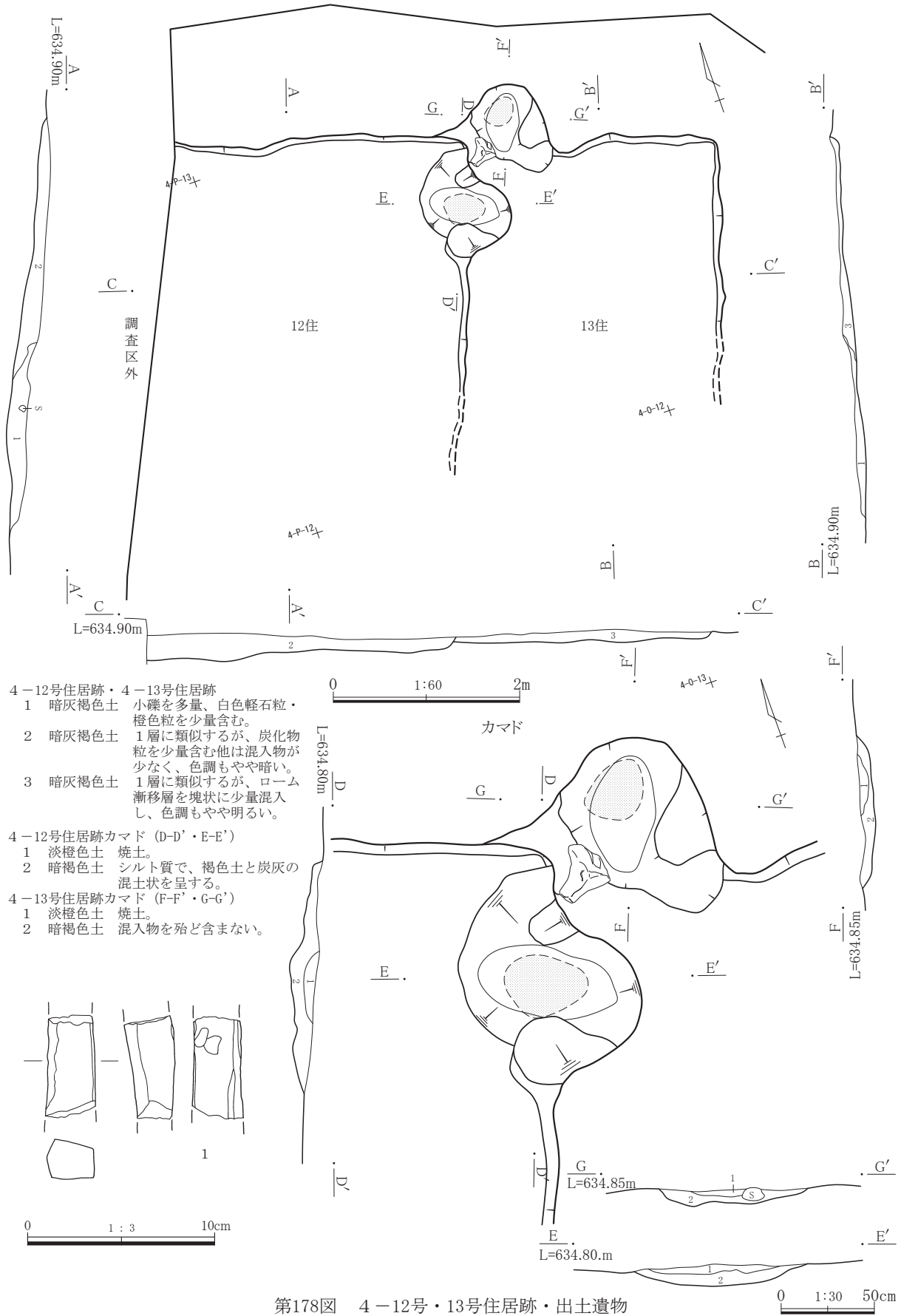
第175図 4-5号住居跡・出土遺物



第176図 4-6号住居跡・出土遺物

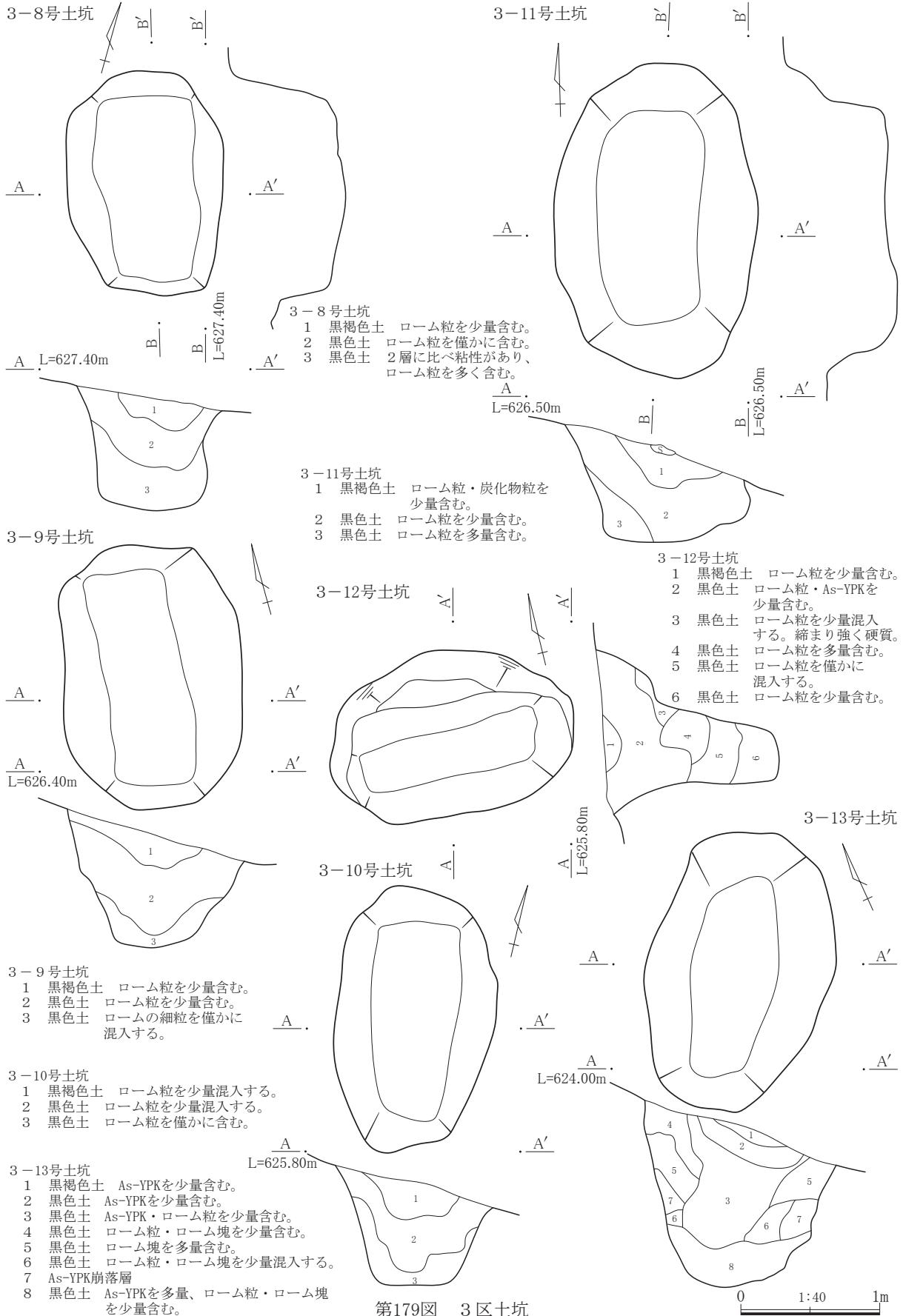


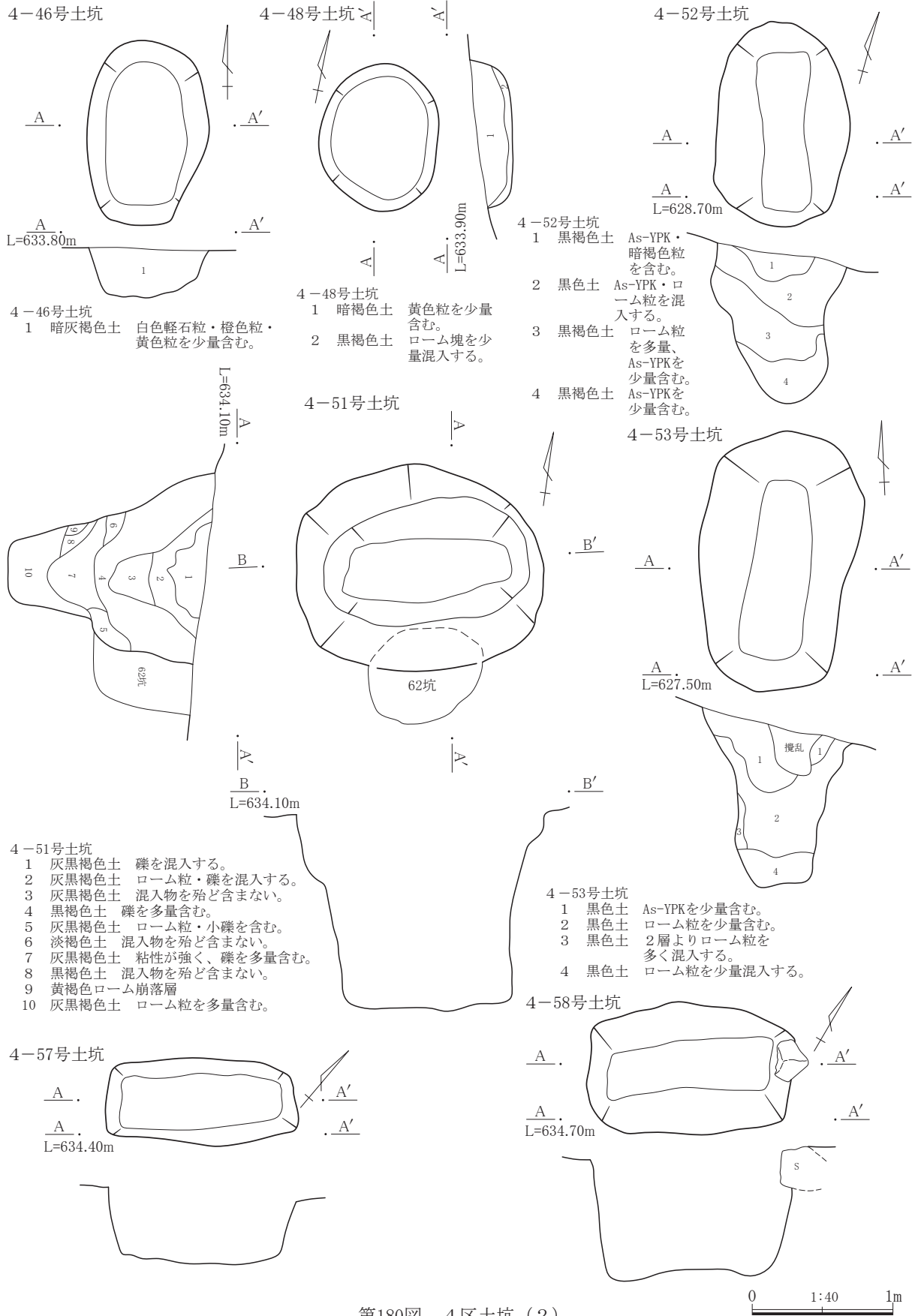
第177図 4-9号住居跡



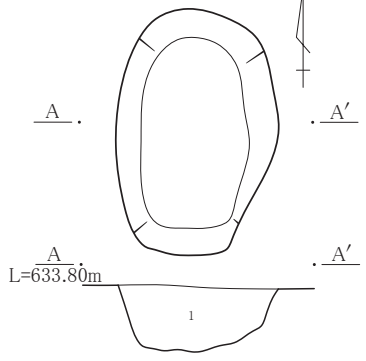
第178図 4-12号・13号住居跡・出土遺物

第3章 検出された遺構・遺物



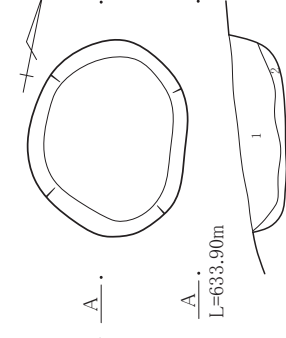


4-46号土坑



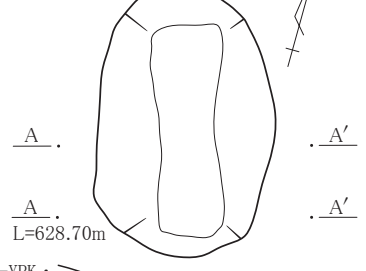
4-46号土坑
1 暗灰褐色土 白色軽石粒・橙色粒・黄色粒を少量含む。

4-48号土坑



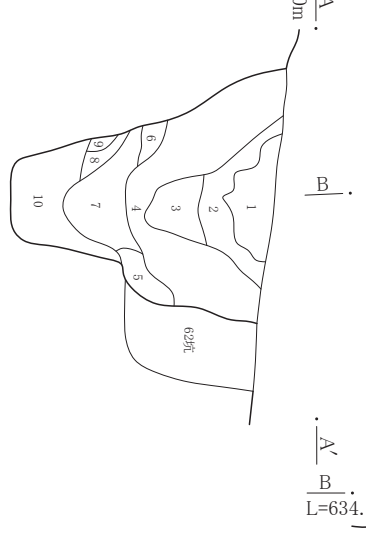
4-48号土坑
1 暗褐色土 黄色粒を少量含む。
2 黒褐色土 ローム塊を少量混入する。

4-52号土坑



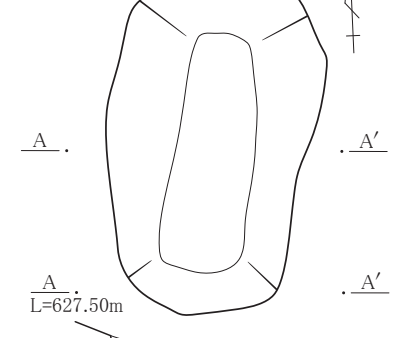
4-52号土坑
1 黒褐色土 As-YPK・暗褐色粒を含む。
2 黒色土 As-YPK・ローム粒を混入する。
3 黒褐色土 ローム粒を多量、As-YPKを少量含む。
4 黒褐色土 As-YPKを少量含む。

4-51号土坑



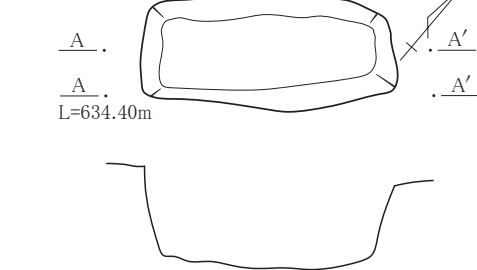
4-51号土坑
1 灰黒褐色土 礫を混入する。
2 灰黒褐色土 ローム粒・礫を混入する。
3 灰黒褐色土 混入物を殆ど含まない。
4 黒褐色土 礫を多量含む。
5 灰黒褐色土 ローム粒・小礫を含む。
6 淡褐色土 混入物を殆ど含まない。
7 灰黒褐色土 粘性が強く、礫を多量含む。
8 黒褐色土 混入物を殆ど含まない。
9 黄褐色ローム崩落層
10 灰黒褐色土 ローム粒を多量含む。

4-53号土坑

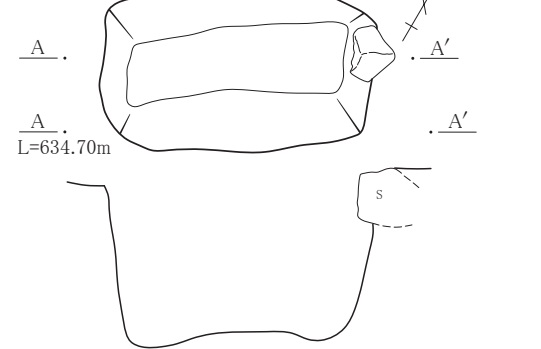


4-53号土坑
1 黒色土 As-YPKを少量含む。
2 黒色土 ローム粒を少量含む。
3 黒色土 2層よりローム粒を多く混入する。
4 黒色土 ローム粒を少量混入する。

4-57号土坑

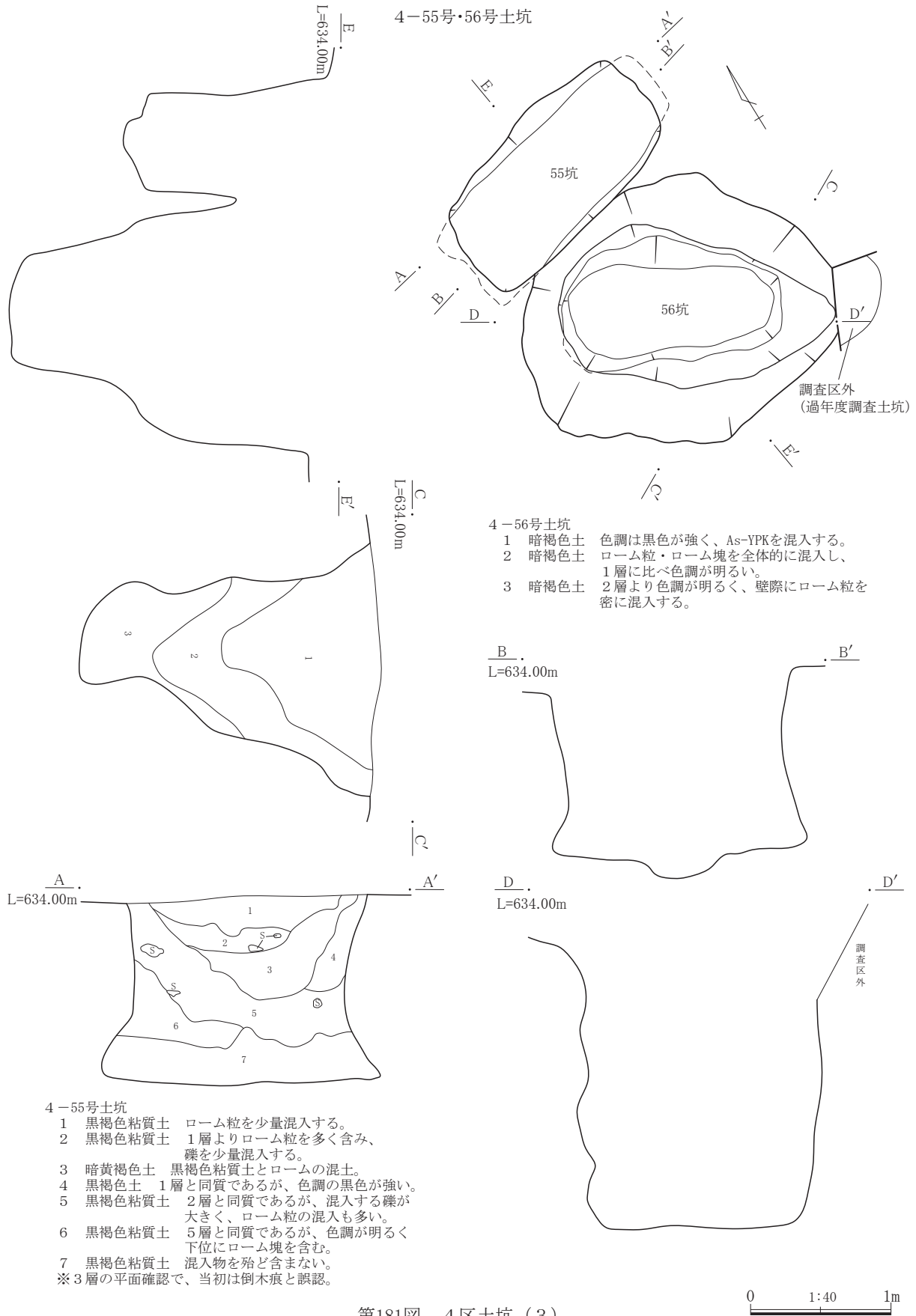


4-58号土坑

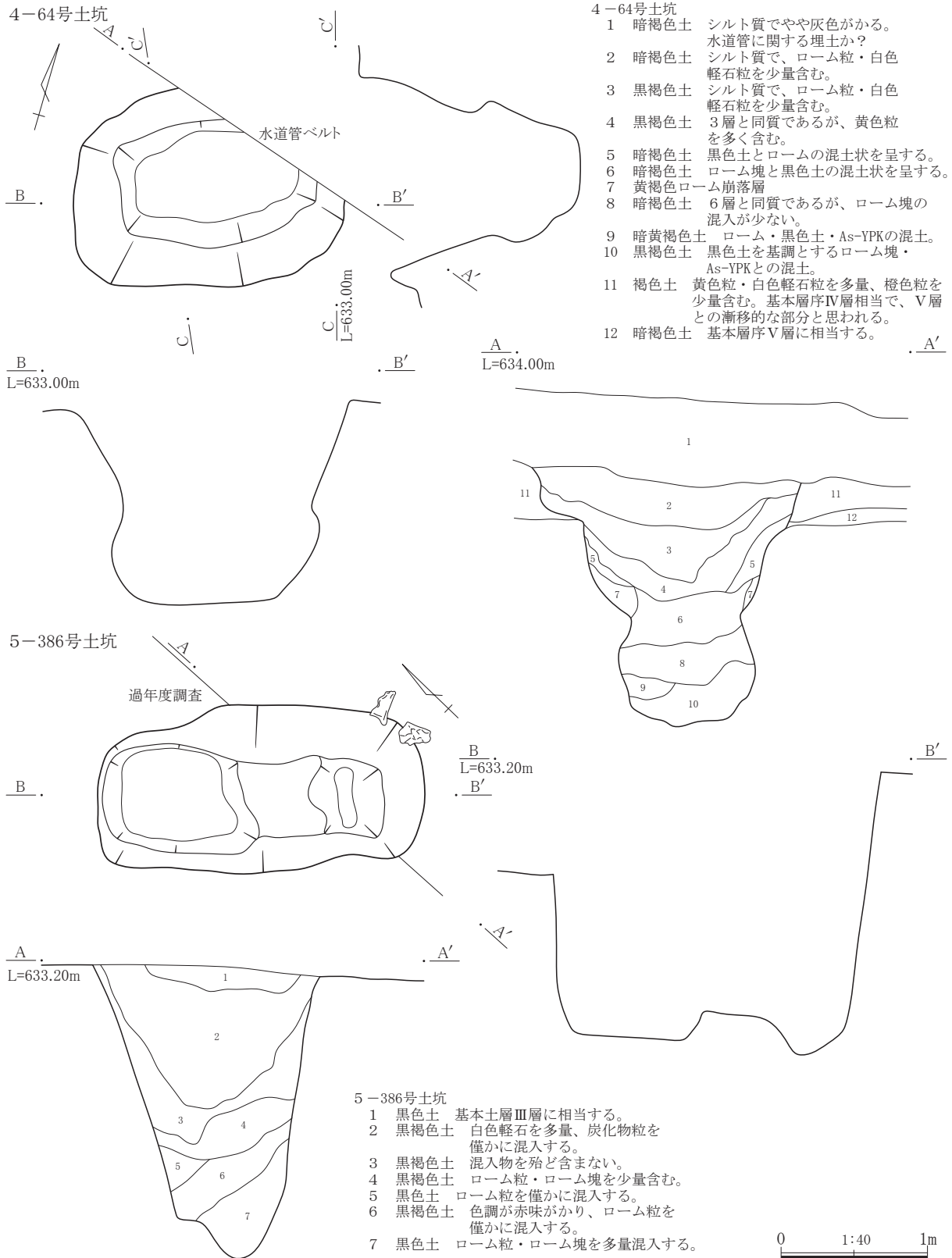


第180図 4区土坑(2)

0 1:40 1m

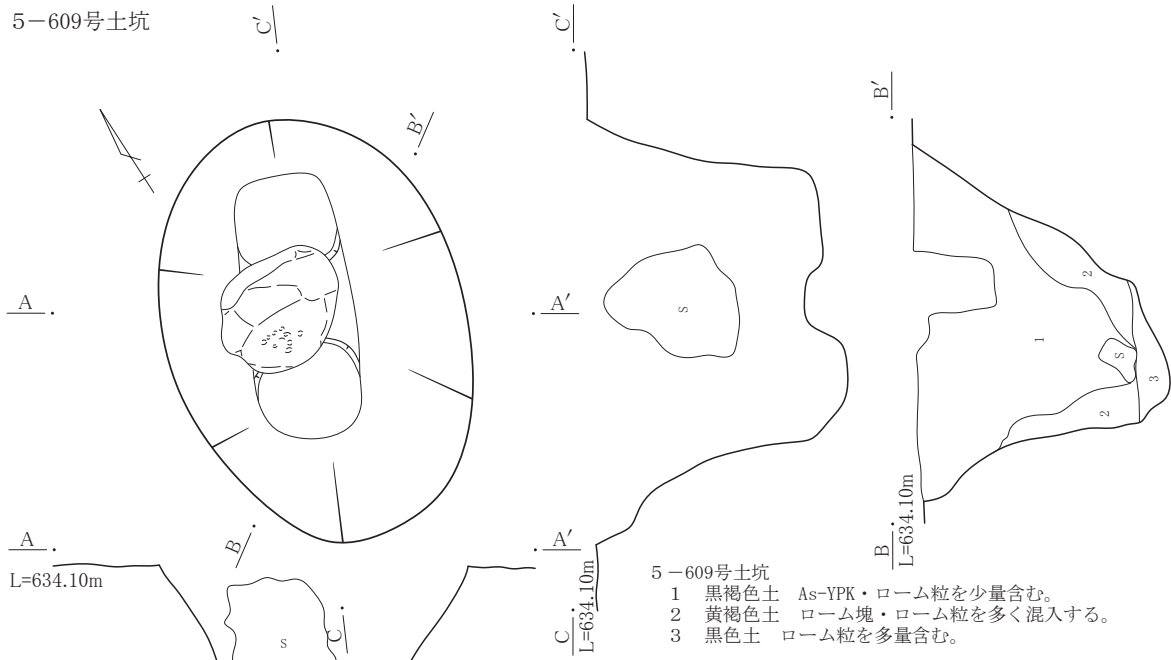


第181図 4区土坑(3)



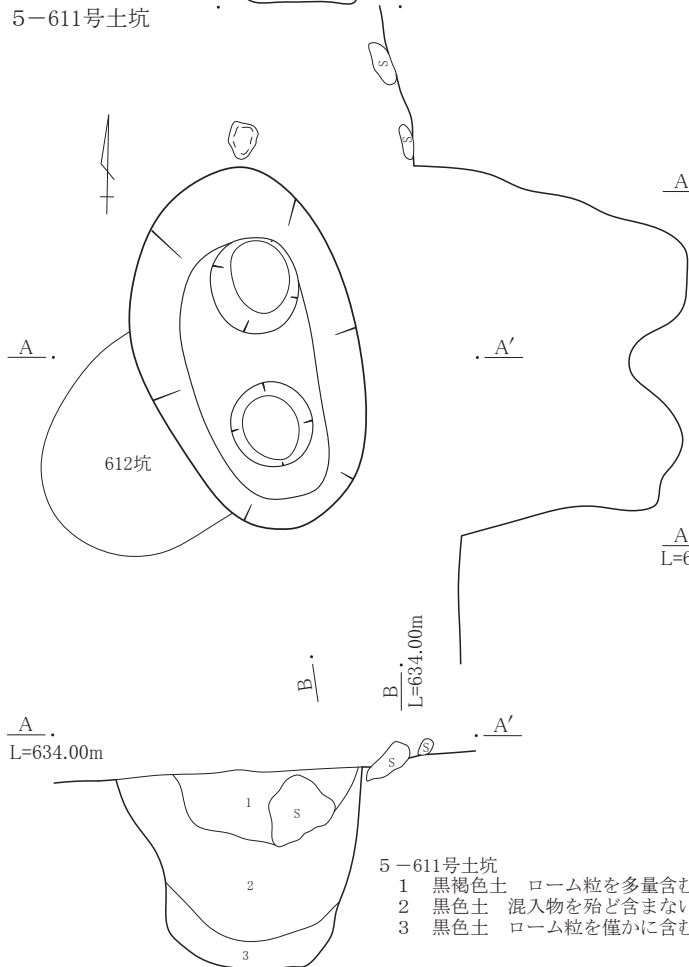
第182図 4区土坑(4)・5区土坑(9)

5-609号土坑



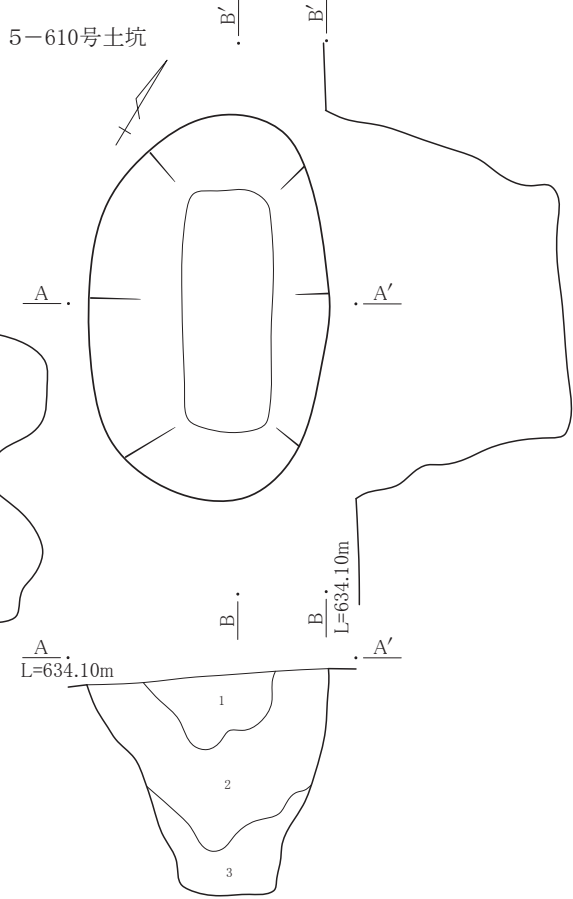
- 5-609号土坑
- 1 黒褐色土 As-YPK・ローム粒を少量含む。
 - 2 黄褐色土 ローム塊・ローム粒を多く混入する。
 - 3 黒色土 ローム粒を多量含む。

5-611号土坑

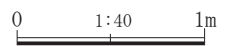


- 5-611号土坑
- 1 黒褐色土 ローム粒を多量含む。
 - 2 黒色土 混入物を殆ど含まない。
 - 3 黒色土 ローム粒を僅かに含む。

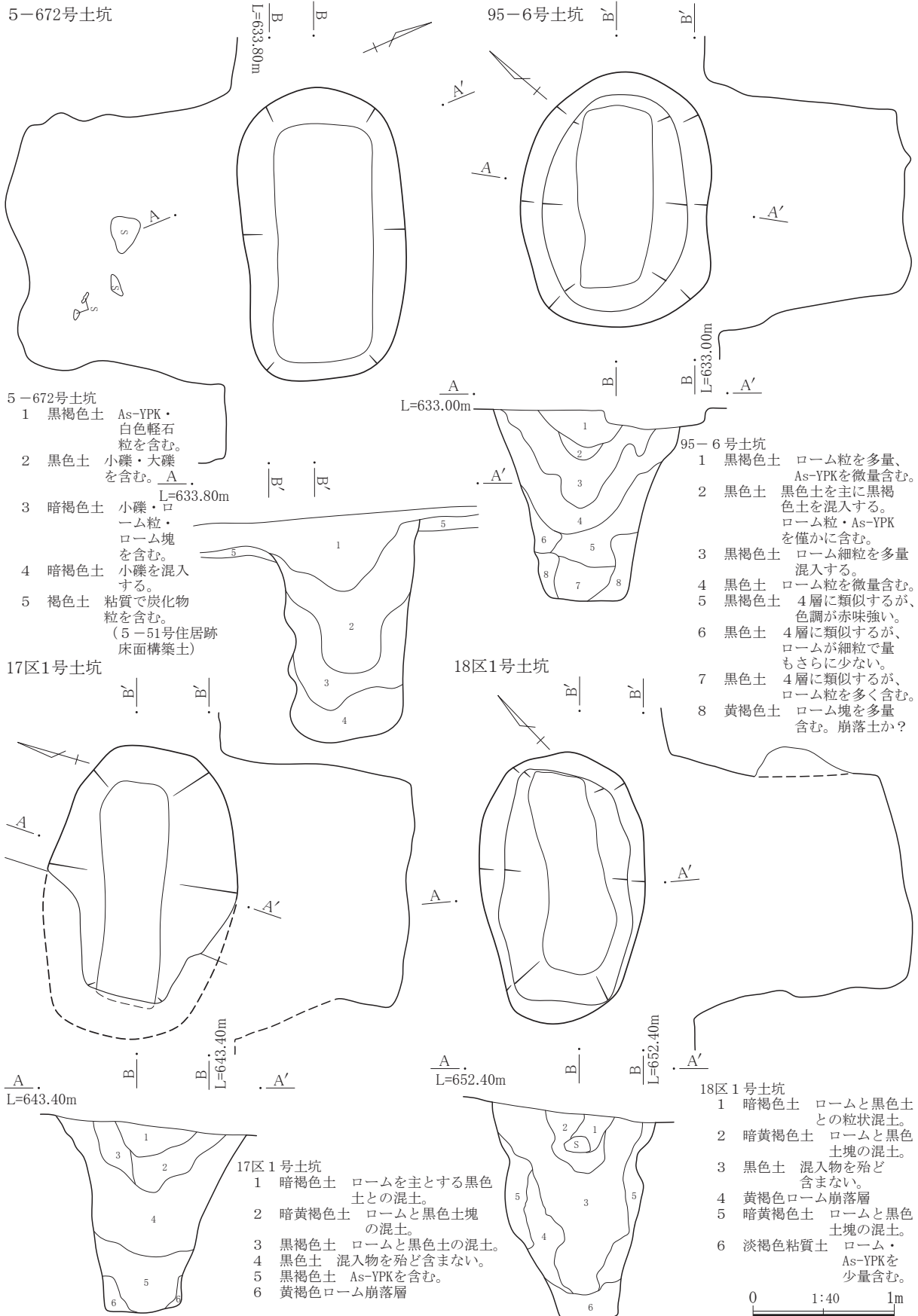
5-610号土坑



- 5-610号土坑
- 1 黒色土 As-YPKを少量含む。
 - 2 黒色土 ローム粒を少量含む。
 - 3 黄褐色土 ローム粒を多量混入する。

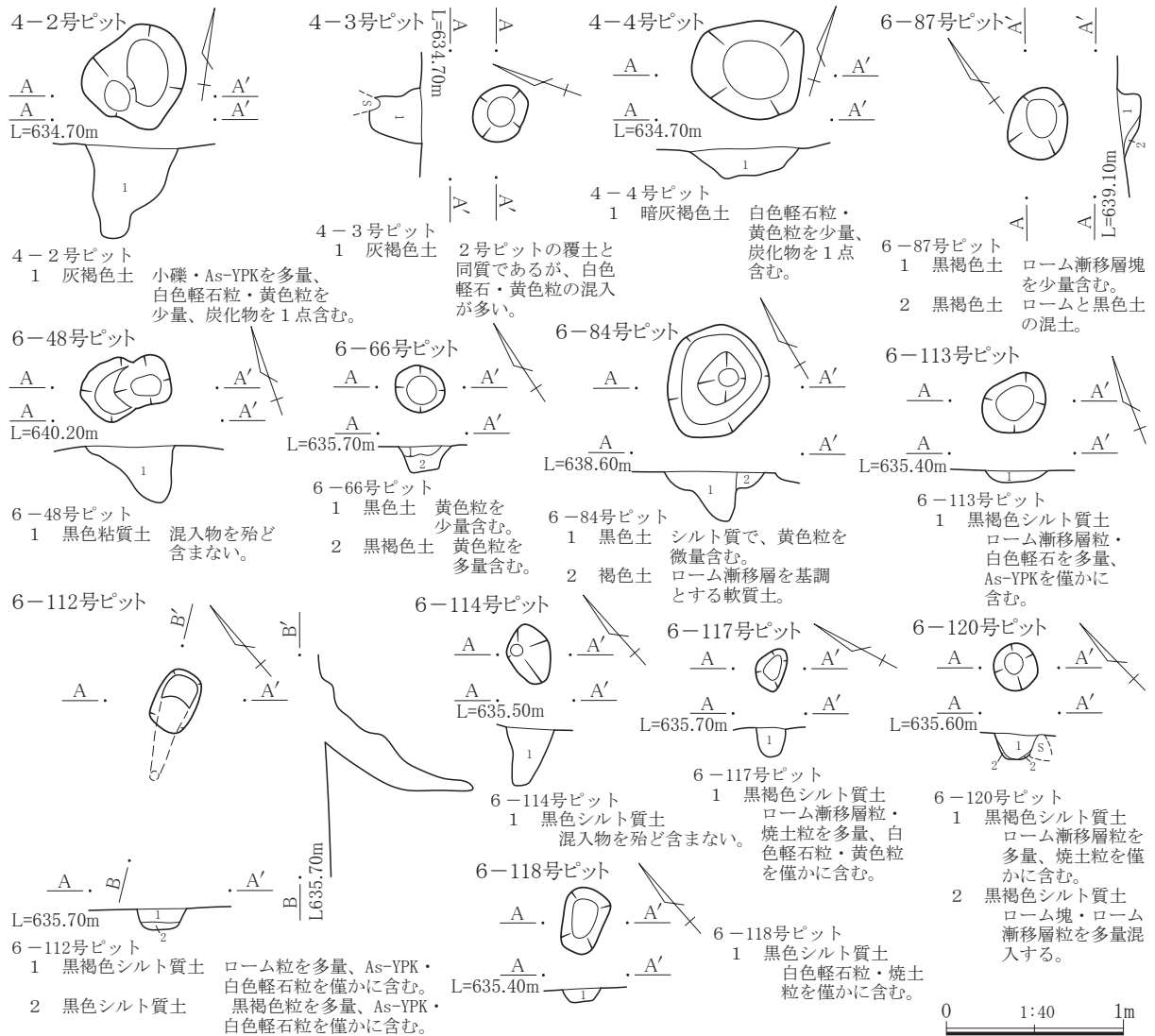


第183図 5区土坑 (10)

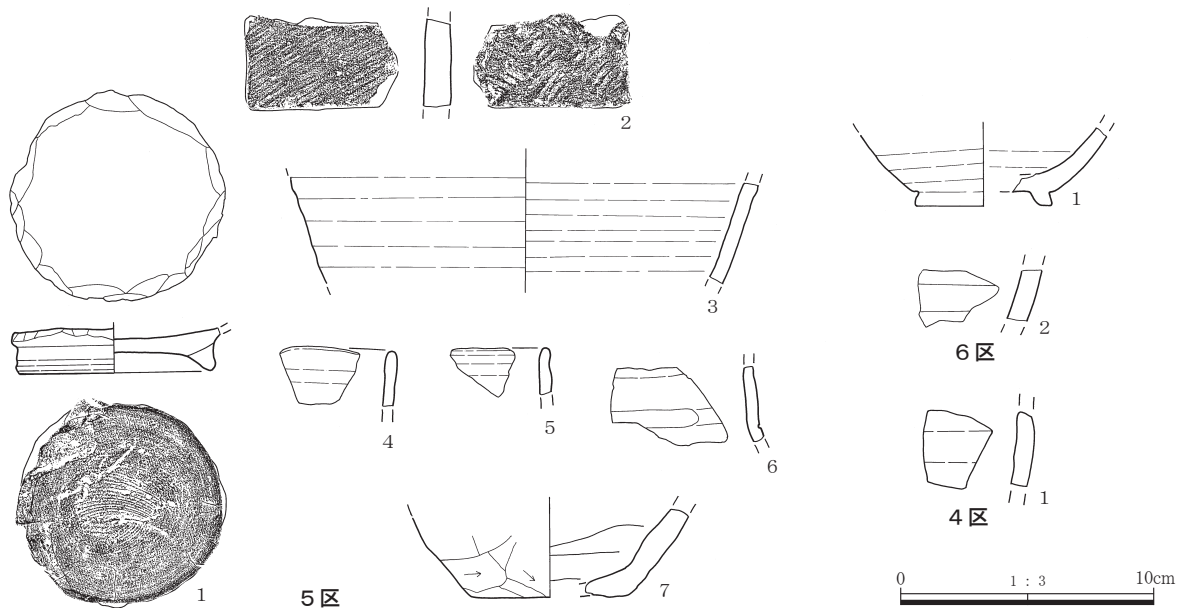


第184図 5区土坑(11)・95区土坑(5)・17区土坑(2)・18区土坑

第3章 検出された遺構・遺物



第185図 4区ピット(1)・6区ピット(3)



第186図 平安時代出土遺物

第7節 中世以降

1 竪穴遺構

4-1号竪穴（第187図、PL46）

位置 4V・W-12・13グリッドに位置し、南の谷頭に面する緩傾斜地に立地する。**確認面** IV層相当面で確認された。**重複** 南西隅が4-8号住居跡を切る関係で新しく、東壁の中央南寄りにピット31が重複するが、新旧関係は不明確で本遺構に伴う可能性も想定される。**覆土** 暗褐色土と黒褐色土を主体に5層に分層され、基本層序のII層を基調としていると思われる。また、3層と5層は壁際の三角堆積層と考えられる。**形状** 平面は、やや隅丸の方形を呈する。**規模** 長軸284cm×短軸278cmを測る。**方位** 長軸でN-11°-Wを測る。**壁高** 最大で40cmを測り、傾斜する立ち上がりである。**床(底)面** 平坦で、硬化面は確認されていない。**床(底)面施設** 柱穴や炉跡・カマドなどの施設は確認されていない。**出土遺物** 土器類12点・石器類2点が出土した。土器類・石器類ともに混入した縄文時代の遺物で、特に石器類には打製石斧がある。**所見** 覆土の様相や同様の遺構の展開などから、時期は中世頃と推定される。

4-2号竪穴（第187図、PL46）

位置 4V-12グリッドに位置し、南の谷頭に面する緩傾斜地に立地する。**確認面** IV層相当面で確認された。**重複** 4-8号住居跡を切る関係で新しく、また南壁の一部を水道管に切られている。**覆土** 主体となる単一的な褐色土と、3層からなる黒褐色土の計4層に分層される。黒褐色土(2・3・4層)はほぼ水平な堆積で、これを切るようにロームブロックとの混土状を呈する褐色土(1層)が入っており、人為埋土と考えられる。**形状** 遺構確認時の平面プランは方形であったが、完掘した底面の平面は、長方形の土坑が並列して重複するような不整形を呈する。**規模** 長軸238cm×短軸184cmを測る。**方位** 長軸でN-17°-Eを測る。**壁高** 最大で73cmを測り、傾斜する立ち上がりである。**床(底)面** 東側と西側を区切るような10cm程の段差があり、底面プランは西側が深くなる形の並列する土坑状を呈する。段差を境とする西側・東側の底面は平坦である。**床(底)面施設** 西側底面の南寄りにピット状の凹みがある他は、確認されていない。**出土遺物** 土器類39点・石器類2点が出土した。土器類・石器類ともに混入した縄文時代の遺物で、特に石器類には打製石斧がある。**所見** 覆土の様相では、褐色土の1層の範囲が重複する別土坑か、あるいは充填部に対する空洞的な部分の可能性が想定される。また、底面では2基の土坑が重複するような形状を呈するが、切り合いは確認されておらず、この形状で1つの遺構と考えたい。遺構の性格としては、室(むろ)状の竪穴の可能性はあるが不確定である。時期は、覆土や同様の遺構の展開などから、中世～近世頃と推定される。

2 土坑・ピット・柵列・集石

土坑・ピット（第187～190図、PL46・47）

該期と考えられる土坑・ピットは、4区で土坑3基・ピット20基、6区で土坑2基・ピット24基が確認され、総数は土坑5基・ピット44基を数える。

4区の土坑のうち、4-47号・54号土坑は、長方形の土坑が並列するように重複する形状を呈し、4-2号竪穴遺構に類似する様相である。並列するようなプランから土坑を区分したが、セクション観察では切り合いが判然とせず、同一遺構の可能性があり、この点も4-2号竪穴遺構に通じる要素といえる。

また、4-49号土坑と6-183号土坑は、隅丸方形のプランで、ロームを多量混入する覆土などに共通性

第3章 検出された遺構・遺物

があり、該期の土坑の属性を示すと考えられる。さらに6-202号土坑は、地山の巨礫の脇に掘られており、不整形な形状を呈するが、覆土が6-183号土坑と共通する。

ピットについて、4区のもの4-1号柵列との関連性が想定されるが、柵列のピットに対応するものや、掘立柱建物跡の配置を示すものは判然とせず、単独のピットとして扱った。6区のピットについても、掘立柱建物として組む関係などは判然とせず、単独のピットとした。

以上が、該期の土坑・ピットの概要であるが、個々の詳細は「土坑・ピット一覧表」を参照されたい。

また、土坑・ピットからは外れるが、他にも溝状遺構が3区や6区で確認されており、全体図に示した。3区のもの自然流路と考えられ、6区については調査区北東隅で6-179号土坑に重複するものは自然流路と考えられ、現道に重なる位置で併走する2条については、旧道の轍の跡の可能性が考えられる。

さらに、4区では地境のやっくらが確認され、6区では倒木痕が2カ所確認されている。

4-1号柵列 (第188図、PL47・48)

位置 4Q～U-14グリッドの範囲に16基のピットが展開する形で確認され、南の谷頭に面する緩傾斜地に立地する。 **確認面** 16基のピットのうち、ピット3・5～16はIV層相当面で個々に単独のピットとして確認・調査した。この後、V層面まで下げたところで、上面で確認できなかったピット1・2・4を確認し、ピット1～7までを柵列と認識した。さらに整理時において、これらに対応する可能性のピットを抽出する形でピット8～16までを追加した。 **重複** ピット1が6号住居跡を切り新しく、ピット2・3はやっくらの下面で確認されているため古い。また、各ピットのうち、ピット9とピット10、ピット15と16が重複し、前者はピット9がピット10を切り、後者はピット15がピット16を切る関係である。 **覆土** 各ピットの覆土は、混土状を呈するものを含めてII-1・2層を基調とする単一的な堆積である。 **形状** 調査時点では、ピット1～7までが西から東へ直線状に並ぶことを確認したことにより、柵列と認識した。この後、整理時点において柵列直線上にピット8～11が並ぶこと、ピット7が直線上から少しずれること、この柵列直線の北側にも対応するような柵列があること(ピット12～16)などが確認され、これらを包括して1号柵列とした。さらに具体的には、ピット1～11とピット12～16の列の対応については、「ピット8-ピット12」・「ピット5-ピット13」・「ピット6-ピット14」・「ピット9・10-ピット15・16」が相対する位置関係にあるが、「ピット8-ピット12」は少しずれる。 **規模** ピット1～7までの直線軸(長軸)で14.16mを測り、ピット5・13間の直線軸(短軸)で1.4mを測る。各ピットやピット間の規模については、一覧表に記した。 **方位** 軸線は東西方向に走る。 **出土遺物** 土器類は確認されていないが、ピット3の覆土中から凹石が2点あり、混入した縄文時代の遺物である。 **所見** 各ピットの覆土などから、時期は中・近世と推定され、該期と考えられる竪穴遺構や土坑等に関連した施設と考えられる。また、並列するピットの対応関係からは門のような出入口施設が連想され、屋敷等の塀・柵の可能性も想起される。

ピット規模 (上段：上面長径×上面短径×深さ、下段：底面長径×底面短径・cm)

P1	(31)×(27)×(29)	P2	(43)×(28)×(20)	P3	59×46×59	P4	(32)×(30)×(19)
P5	40×29×57	P6	35×32×37	P7	37×27×42	P8	40×38×26
P9	41×32×30	P10	42×(29)×24	P11	32×27×22	P12	34×32×20
P13	47×44×20	P14	39×31×17	P15	36×29×28	P16	27×(16)×16

ピット間規模(各ピットの中心間で計測・cm)

(1-2)225	(2-3)220	(3-4)230	(4-5)215	(5-6)227	(6-7)265	(6-11)244	(4-8)100	(8-5)108
(6-9)80	(6-10)105	(9-11)160	(10-11)140	(12-13)90	(13-14)220	(14-15)100	(14-16)116	(15-7)172
(16-7)115	(8-12)80	(5-13)100	(6-14)95	(9-15)76	(10-16)73	(11-7)40		

4-3号集石 (第187図、PL47)

位置 4H-9・10グリッドに位置し、谷に挟まれる尾根状台地にあつて基部の中央に立地する。 **確認面** IV層相当面で確認された。 **重複** 南側の4-10号住居跡・4-57号土坑を切る関係で新しい。 **覆土** 集石の下位に掘り込まれたと見られる凹部があり、黒褐色土の単一的な堆積が確認された。 **形状** 礫は密に集中し、集石の平面はやや不整な円形、集石下位の凹部は楕円形を呈する。 **規模** 集石の長軸190cm×短軸179cm、下位の凹部で長軸217cm×短軸188cmを測る。 **方位** 集石の長軸でN-24°-W、下位の凹部の長軸でN-34°-Eを測る。 **石材** 「山石」である角礫がほとんどで、石質は安山岩が主体と見られる。 **出土遺物** 確認されていない。 **所見** 集石や下部の確認状況などから、礫を集めて廃棄したやっくら状の遺構と考えられ、時期は近世以降と推定される。

3 遺構外出土遺物

中世以降の遺構外出土遺物は、多量の縄文時代遺物に混在するように陶磁器片やキセル・古銭・鉄製品・土製品などが出土している。(第191図、PL95)

陶磁器では、瀬戸美濃産や肥前産、在地の土器などが看取される。また点数は稀少であるが、輸入磁器である青磁の破片が出土している。

鉄製品も点数は少ないが、製品としては5区から出土した山(笠)形の火打金が1点あり、この他には釘・カスガイと思われるものがある。

キセルは、銅製の雁首部が6区と95区から1点ずつ出土しているが、いずれも雁首を欠損している。

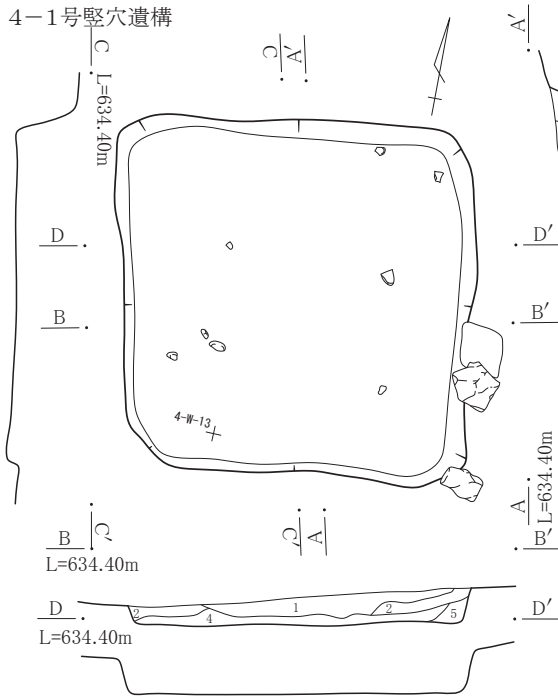
古銭は、4区で渡来銭と考えられるものが1点、6区で寛永通宝が1点出土している。4区のもものは1/2を欠損し、「元」・「通」の2字が確認できるもので、「開元通宝」の可能性はあるが不確定である。また、寛永通宝は縄文時代の敷石住居跡である6-10号住居跡の上面に混入していたもので、「ハ貝」の「新寛永」である。

また、特徴的な遺物では、泥人形が5区で1点出土しており、頭部を欠損するが「お内裏様」と考えられるものである。

以上の遺物について、個々の詳細は「遺物観察表」を参照されたい。

第3章 検出された遺構・遺物

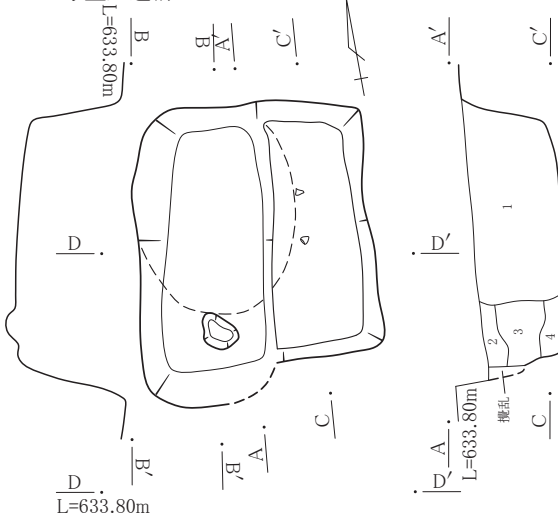
4-1号堅穴遺構



4-1号堅穴遺構

- 1 暗褐色土 シルト質の黒褐色土を基調に、黄色粒を多量、ローム塊・As-YPKを少量混入する。
- 2 暗褐色土 1層より色調がやや暗く、白色軽石粒・黄色粒を少量含む。
- 3 暗褐色土 1層と同質であるが、橙色粒を少量含み、色調がやや明るい。
- 4 黒褐色土 黒色土を基調に、ローム塊を少量混入する。
- 5 黒褐色土 黄色粒を少量、白色軽石粒を微量含む。

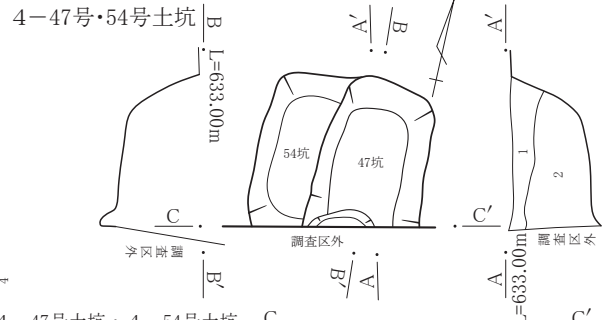
4-2号堅穴遺構



4-2号堅穴遺構

- 1 褐色土 暗褐色土とローム粒・ローム塊との混土状を呈する。
- 2 黒褐色土 シルト質の黒褐色土を基調に、ローム粒・ローム塊を少量含む。
- 3 黒褐色土 2層と同質であるが、ローム粒が多量、ローム塊が少量で、炭化物粒も少量含む。
- 4 黒褐色土 黒色土を基調に、ローム粒を多量含む。

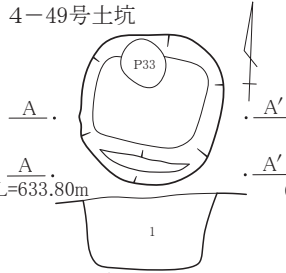
4-47号・54号土坑



4-47号土坑・4-54号土坑

- A-A' (4-47号土坑) L=634.00m
- 1 暗褐色土 混入物を殆ど含まない軟質土。C-C'の2層に相当する。
 - 2 褐色土 暗褐色土とローム粒・ローム塊の混土状を呈する。C-C'の3層に相当する。
- C-C'
- 1 現表土
 - 2 暗褐色土 基本層序II層に相当するが、谷地にかかるため2次堆積の可能性はある。
 - 3 黒色土 ローム粒・白色軽石粒を多量含む。
 - 4 黒色土 基本層序III層に相当するが、谷地にかかるため2次堆積の可能性はある。
- ※4-54号土坑の覆土は不明確。同一遺構か？

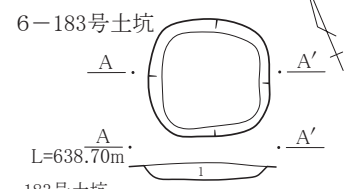
4-49号土坑



4-49号土坑

- 1 褐色土 ローム粒・ローム塊を主とする暗褐色土との混土。

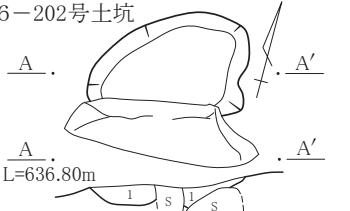
6-183号土坑



6-183号土坑

- 1 暗褐色土 やや灰色がかる黒褐色土を基調に、ロームとの混土状を呈する。

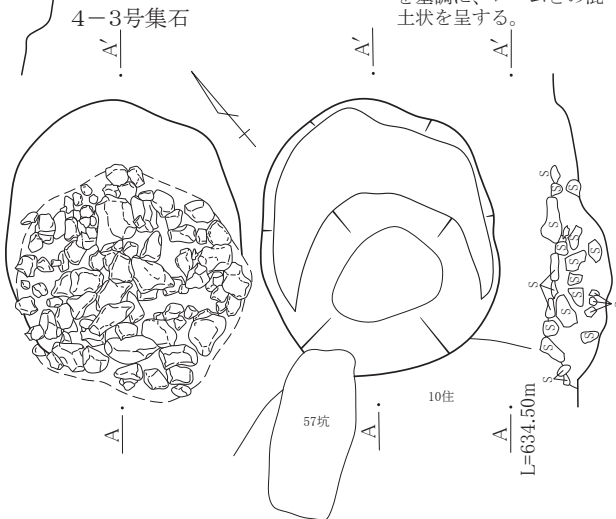
6-202号土坑



6-202号土坑

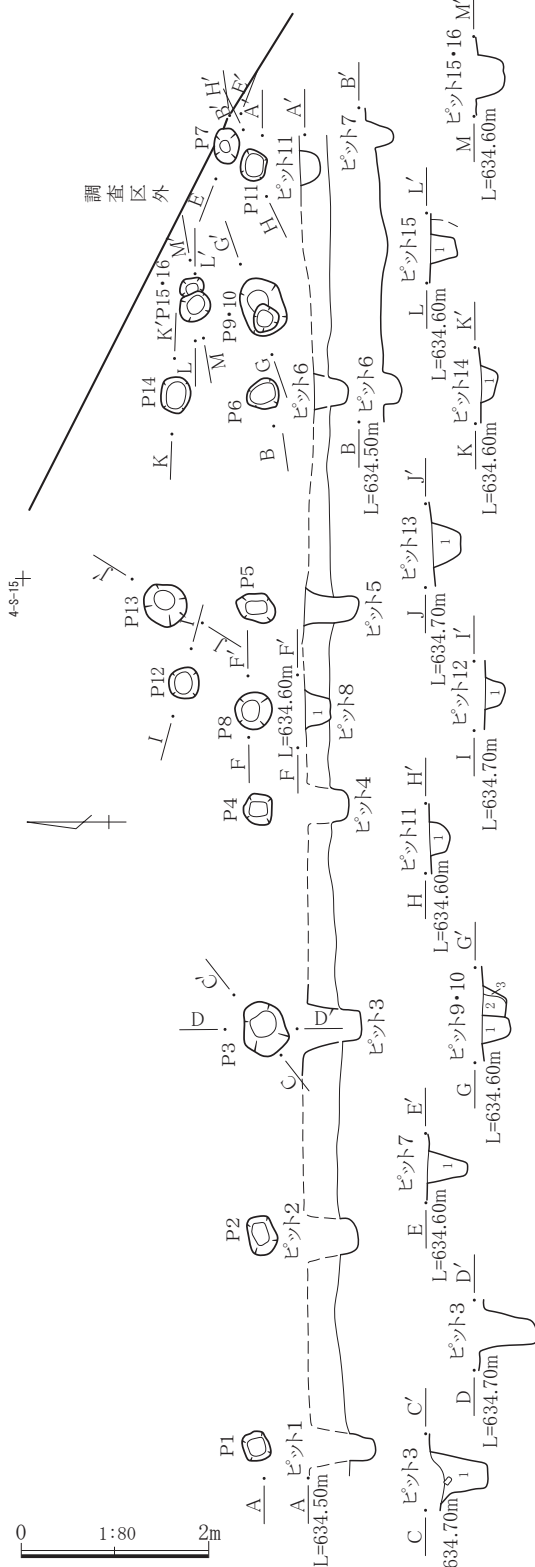
- 1 暗褐色土 やや灰色がかる黒褐色土を基調に、ロームとの混土状を呈する。

4-3号集石

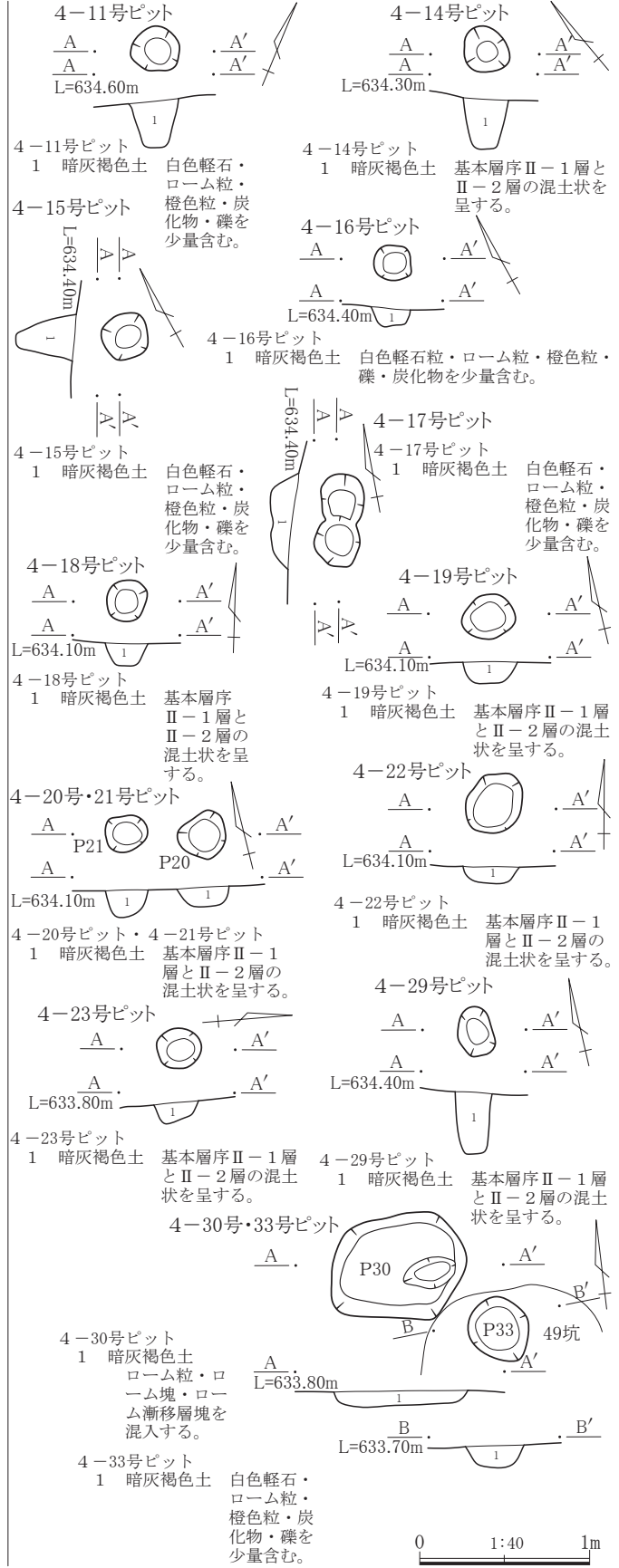


第187図 4区堅穴遺構・土坑(5)・集石(2)・6区土坑(4)

4-1号柵列

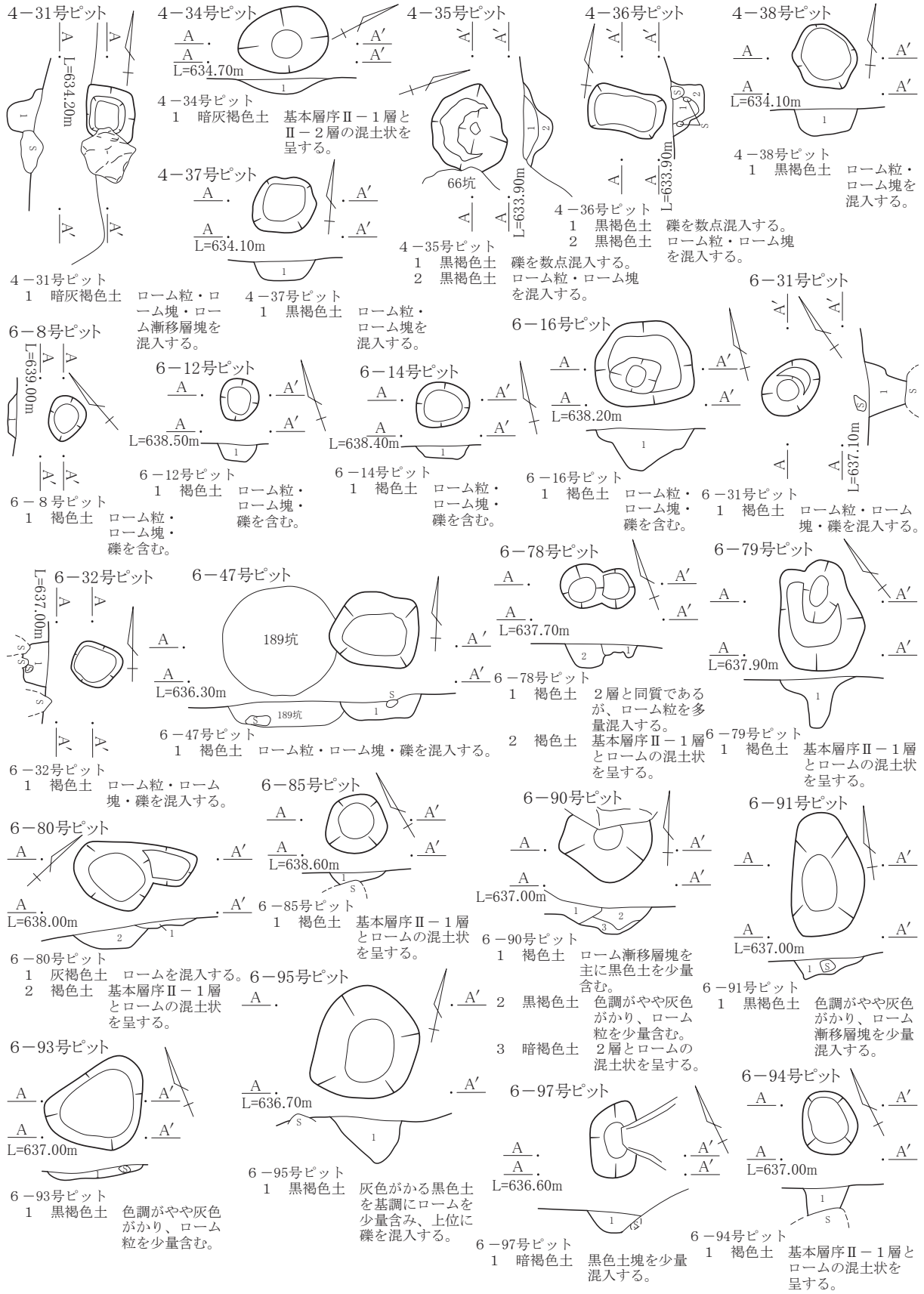


- 4-1号柵列
- 1 暗灰褐色土 白色軽石粒・ローム粒・橙色粒・礫・炭化物を少量含む。
 - 2 暗灰褐色土 1層と基本層序II-2層の混土状を呈する。
 - 3 暗灰褐色土 白色軽石粒・ローム粒・橙色粒を微量含む。

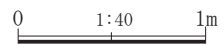


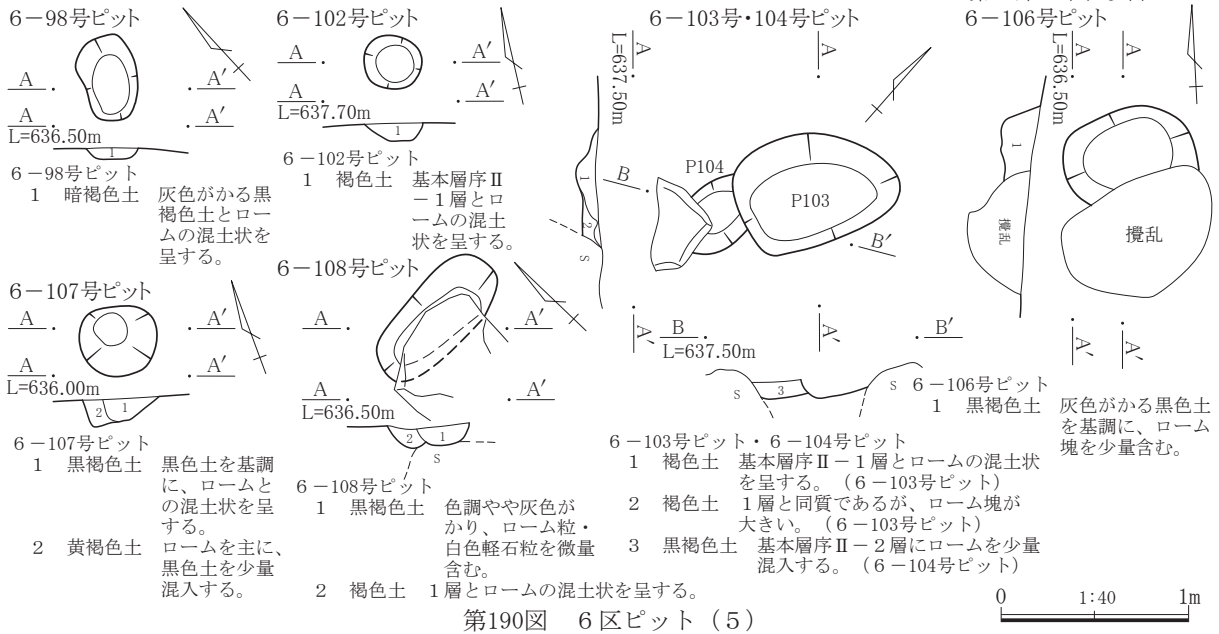
第188図 4区柵列・ピット (2)

第3章 検出された遺構・遺物

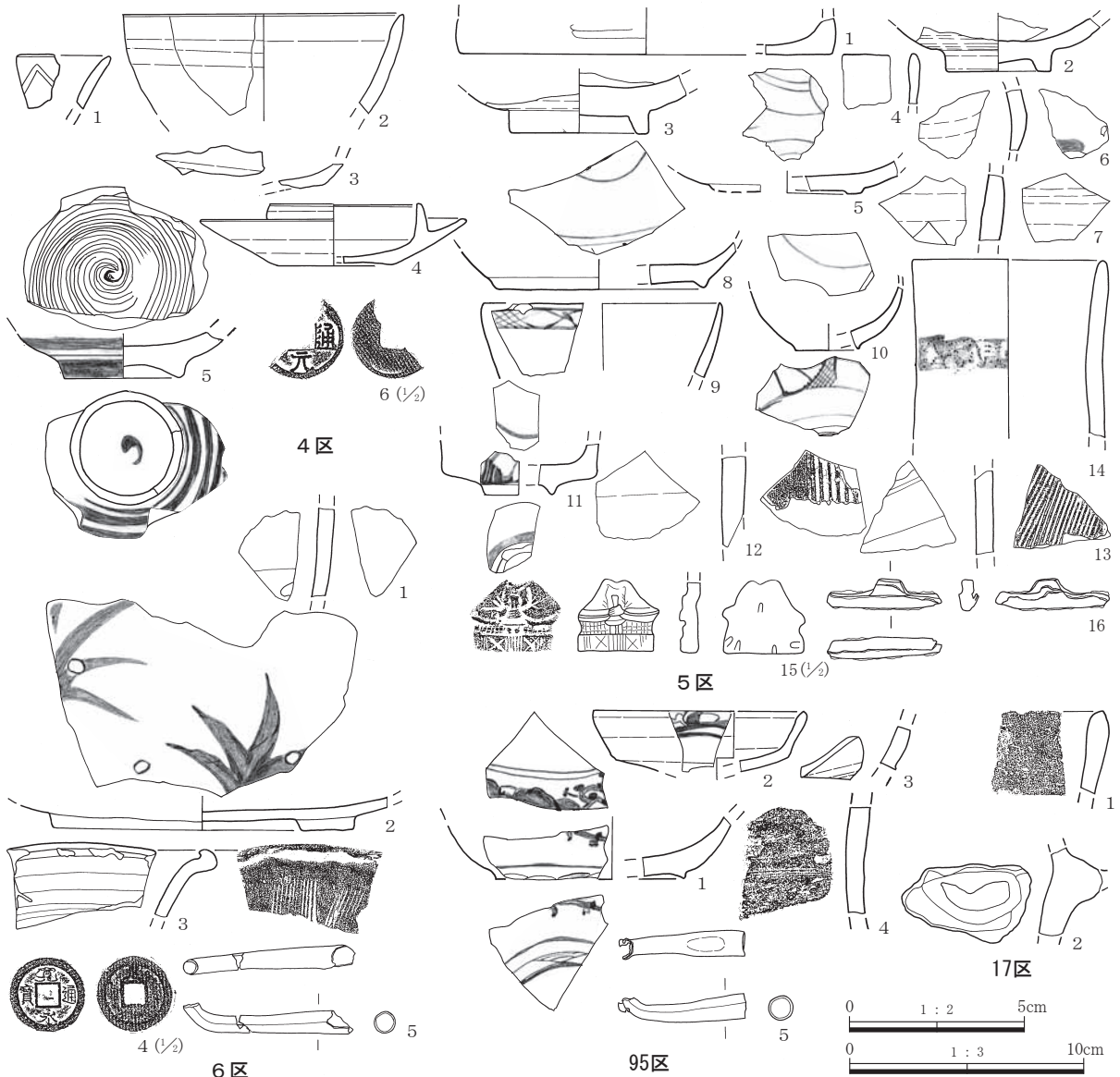


第189図 4区ピット(3)・6区ピット(4)





第190図 6区ピット(5)



第191図 中世以降出土遺物

第4章 まとめ

長野原一本松遺跡の平成12・13年度の調査成果について、確認された遺構・遺物についての所見等を述べてまとめたい。

遺構について

遺構については、確認された住居跡・炉跡・埋設土器などの主要な遺構を一覧表に整理し、その後に縄文時代の住居跡を中心にまとめたい。

【住居跡】

遺構No.	位置(グリッド)	平面形状	規模・cm		埋設土器	出土遺物	所見
			長軸×短軸×壁高	長軸×短軸×深さ			
4-5	T-V-13	隅丸(長)方形	(250)×(570)×24	北壁カマド 134×169	—	土器25(縄文混入)	平安時代
4-6	T-U-13・14	隅丸長方形	352×270(主軸)×3	東壁カマド 116×62	—	土器2・鉄器1	平安時代
4-7	S-T-12	楕円形(敷石)	(562)×(316)×—	土器埋設炉 53×39×30	—	土器77・石器類6	縄文時代後期前葉
4-8	V-W-12・13	楕円形	(500)×(347)×54	石囲炉 116×(105)×35	—	土器31・石器類13	縄文時代中期後葉
4-9	J-K-10	隅丸(長)方形	(230)(主軸)×(282)×—	北壁カマド 56(主軸)×79	—	土器3(縄文混入)	平安時代
4-10	H-I-9	楕円形	(365)×(310)×20	石囲炉 97×75×31	—	土器23・石器類1	縄文時代中期後葉
4-11	J-K-10・11	楕円形	(400)×(389)×—	石囲炉 61×51×19	3基:深鉢胴部正位(1基劣化)	土器3・石器類2	縄文時代中期後葉
4-12	O-P-12	隅丸(長)方形	(443)×(330)(主軸)×10	東壁カマド 94(主軸)×100	—	—	平安時代 4-13住より新
4-13	N-O-12	隅丸(長)方形	(417)×(273)×5	北壁カマド 83(主軸)×(128)	—	石器類1	平安時代 4-12住より旧
4-14	R-S-11・12	隅丸方形	(306)×(294)×8	石囲炉 101×70×36	—	土器52・石器類3	縄文時代中期後葉 4-15住より新
4-15	R-11・12	楕円形	(420)×(357)×11	4-65号土坑に 切られ不明	—	土器59・石器類3	縄文時代中期後葉 4-14住より旧
5-16	U-V-6~8	楕円形	600×(573)×11	石囲炉 (99)×92×33	1基:深鉢口縁 ~胴部正位	土器278・石器類26	縄文時代中期後葉 H8年に半面調査
5-22	W-X-2・3	柄鏡形 (敷石)	530×425×38	石囲炉	—	—	縄文時代後期前葉 H9年に調査
5-47	V-W-5・6	円形	(400)×(392)×—	土器埋設炉 35×32×17	—	土器34・石器類9	縄文時代中期後葉
5-48	T-2・3、U ・V-2~4	(不整)楕円形 (敷石)	645×540×30	石囲炉 94×75×30	方形石囲施設	土器622・石器類64	縄文時代後期前葉 柄鏡形の可能性
5-49	T-U-1・2	(不整)円形	(411)×393×16	石囲炉 119×55×22	1基(2个体): 深鉢底部正位+ 口縁逆位	土器57・石器類8	縄文時代中期後葉
5-50	V~X-3・4	柄鏡形 (敷石)	786×(720)×27	土器埋設炉 123×93×23	—	土器1,218・石器類148	縄文時代後期前葉 5-51住より新
5-51	V-W-2・3	柄鏡形 (敷石)	(666)×(654)×24	地床炉?(掘込み有) 69×(21)×6	—	土器913・石器類100	縄文時代後期前葉 5-50住より旧
5-52	V~X-3・4	(不整)円形	495×450×28	石囲炉? 59×51×9	—	土器51・石器類10	縄文時代後期初~ 前葉
6-10	B-C-12・13	柄鏡形(敷石)	H15年に継続調査、当該年度の報告で包括			土器34・石器類4	
6-11	D-11・12	円形	(546)×(186)×—	地床炉(掘込み有) 100×78×24	—	土器232・石器類13	縄文時代後期前葉
6-12	E-F-11・12	隅丸(長)方形	525・408×405×40	土器埋設炉 128×95×50	1基:底部欠深鉢正位	土器679・石器類66	縄文時代中期後葉 拡張か柄鏡形?
6-13	D-18・19	隅丸方形	456×(408)×54	石囲炉 119×81×38	—	土器212・石器類19	縄文時代中期後葉
6-14	B-22	不明	*炉跡のみ	石囲炉 86×71×27	—	—	縄文時代中期後葉?
95-1	T-U-24・25	円形	537×(441)×16	地床炉(掘込み有) 126×114×18	—	土器150・石器類27	縄文時代中期後葉

【炉跡・埋設土器】

遺構No.	位置(グリッド)	形状(平面・断面):規模(cm)	炉跡・埋設土器	所見
4-1号埋設土器	I-10	不整楕円形・U字状:124×114×82	底部欠く深鉢正位	縄文時代後期初~前葉
5-7号埋設土器	W-8・9	楕円形・U字状:54×(44)×15	深鉢口縁部逆位	縄文時代中期後葉
95-4号埋設土器	X-23	楕円形・台形状:39×36×23	口縁欠く深鉢正位	縄文時代後期初頭

遺構No.	位置(グリッド)	形状(平面・断面): 規模(cm)	炉跡・埋設土器	所見
95-5号埋設土器	X-23	隅丸方形・台形状: 39×38×27	口縁欠く深鉢正位	縄文時代中期後葉
6-1号集石(炉跡)	C-21	石囲炉?: 90×63×24	近接して深鉢口縁部個体	縄文時代中期後葉?

以上、主要な遺構について一覧表にまとめたが、4-5号・6号・9号・12号・13号の各住居跡は平安時代に比定されるもので、これを除いた縄文時代の住居跡の軒数は20軒を数える。これを時期別に区分すると、可能性も含めて中期後葉に比定されるものが12軒、後期初頭～前葉のものが7軒となり、後年の継続調査となり平成15年度に調査された6-10号住居跡については、今回は所見を保留しているため、実質は19軒となる。また、5-16号・22号住居跡は過年度に既に調査された経緯があり、今回その全容が明らかになったものである。さらに、6-181号土坑が、平成15年度の調査で住居跡と判明し、「6-15号住居跡」に変更となっているが、本報告では調査時のとおり6-181号土坑で報告した。

住居跡を調査区・時期別に区別すると、4区は中期後葉5軒・後期前葉1軒、5区は中期後葉3軒・後期初頭～前葉5軒、6区は中期後葉4軒・後期前葉1軒、95区は中期後葉1軒となる。今回報告分の住居跡の分布を見ると、中期後葉の住居跡は、後期の住居跡に比して4区・6区に多く分布する状況から、台地上よりも縁辺に展開する傾向が認められる。逆に、5区の台地上では、中期後葉に対して後期初頭～前葉の住居跡が僅かながら上回る状況にあることから、後期の住居跡は縁辺よりも安定した台地上を指向して住居跡を構築している様相が想定される。ただし、この点において今回注目される住居跡は4-7号住居跡で、主体となる5区の台地上から離れた谷頭に面する緩傾斜地に立地し、現状において本遺跡中の最東端に位置する敷石住居跡である。4-7号住居跡は、台地上を指向する他の後期の住居跡と比べて例外的な状況にあり、今後も後期の住居跡の立地・分布に注目していきたい。

次に、個々の住居跡の特徴などについて時期別に整理すると、中期後葉では6-12号住居跡の平面形状が特筆される。これは、当初は隅丸方形、さらにこの平面形の南側が張り出して隅丸長方形を呈する2つのプランが確認されたものである。住居跡のプランとしては、隅丸方形の当初プランに対応する位置で埋設土器が確認されており、張り出し部は拡張に伴うものか、柄鏡形の張り出しに相当する施設などの可能性が想定される。住居跡の施設に関しては、4-11号住居跡では埋設土器が3基確認されている。このうちの1基は劣化が酷く、残念ながら図示できなかつたものであるが、本遺跡内では1軒で3基の埋設土器が確認されている例は稀少である。また、出土遺物との関係では、埋設土器や炉内埋設土器、覆土中からの出土土器の様相が明確な住居跡については、いずれも加曽利EⅢ式の段階に位置付けられると考えられる。しかし、この中には、加曽利EⅢ式を主体とするものと、唐草文系土器を主体とするものがあり、前者は4-11号、5-16号・47号・49号、6-12号の各住居跡、後者は6-13号住居跡や、覆土中ではあるが4-8号住居跡などに代表的な資料が看取される。

後期の住居跡に関しては、敷石住居跡が殆どであるが、全面的に敷石が確認できたものではなく、住居跡のプランに沿う形で弧状や方形に配された礫が確認できたものや、敷石の残骸と見られる礫の分布が確認できたものなどである。前者は、4-7号、5-48号・50号の各住居跡、後者は5-51号住居跡などである。このうち、5-48号住居跡では、炉跡と南壁の中間あたりから板状礫を上下に組み合わせた石囲施設が確認され、柄鏡形敷石住居跡の連結部に見られる施設の種類と考えられる。また、5-50号・51号住居跡は重複する敷石住居跡で、連結部下に土坑を持ち、大型の柱穴がプランに沿って等間隔に配置される形態などが共通する。また、50号住居跡は、5-7号列石とされた連結部から東へ延びる髭状の列石や、北壁に石垣状を呈する弧状の縁石を伴い、炉跡は堀之内1式期の深鉢の胴～底部を埋設したものである。これに対し、51号

第4章 まとめ

住居跡は、上面に敷石の残骸と見られる礫が散在し、炉跡は重複によって破壊されており、ピット内などから称名寺Ⅱ式期と見られる土器が出土しており、51号住居跡が古く、50号住居跡が新しい関係である。両住居跡の位置は、切られる51号住居跡が南側、切る50号住居跡が山手の北側に位置する関係で、形態的な類似性などから、建て替えによる重複の可能性が高いと考えられる。なお、大型の柱穴をプランに沿って等間隔に配置する形態は、4-7号住居跡にも共通し、7号住居跡では弧状の敷石の外縁に沿うように柱穴が配され、さらには大型の柱穴間に中型の柱穴が配される形態である。7号住居跡でも、堀之内1式期の深鉢の口縁～胴部を埋設した炉跡が確認されているが、土器の様相では5-50号住居跡にやや先行する時期であるように思われる。

以上、住居跡の他に特徴的な遺構として、4-1号埋設土器がある。底部を欠く大型深鉢を埋設した墓と考えられるが、形状的には土器に対して掘り方の土坑が大きいように思われる。掘り方部分の覆土は、土層断面における3～5層で、埋設土器とは別個体の深鉢の大型片が出土している。この状況の解釈については、土器を埋設する際の裏込め的な埋土か、重複する旧土坑の覆土である可能性などが考えられるが、確定的な要素に乏しく不明確となってしまった。今後、類例資料などに注意しながら、さらに検証していきたい。

遺物について

遺物については、本遺跡の主體的な土器である縄文時代中期後葉～後期前葉の様相を中心に述べたい。本遺跡出土の土器は、概要でも述べたとおり早期から後期中葉までのものが認められるが、早期・前期は稀少であり、中期と後期が多数を占める。さらに中期では後葉、後期では前葉の時期が中心的な傾向にあり、本遺跡の主体となる時期を示すものである。以下、中期・後期の土器群についてまとめたい。

中期

中期は、中葉末から加曾利EⅡ式併行期の土器が少なく、加曾利EⅢ式併行期から出土量が増加する傾向が見られる。中期で古い時期のものは遺構外からの出土であり、5区遺構外No.19が五領ヶ台Ⅱ式・同No.21が阿玉台Ⅰ式と考えられるものなどがあるが、出土数は稀少である。この後、中葉末・加曾利EⅠ式併行期の土器が台地縁辺部を主に見られるようになり、4区遺構外No.1の「焼町類型」や、95区遺構外No.1の曾利Ⅰ式と考えられるものなどがある。また、この他には5区遺構外No.23が勝坂式末頃と考えられ、同時期の浅鉢の破片や「三原田式」の頸部片と見られる破片なども看取される。

加曾利EⅡ式併行期では、遺構から出土したものでは6-15号ピットNo.1の埋設土器と考えられる深鉢があり、頸部無文帯を横位の集合沈線で区画し、以下の胴部には原体LR縄文を縦位施文するもので、加曾利EⅡ式と考えられる。また、95-5号埋設土器No.1は、原体RL縄文を縦位施文する縄文のみの深鉢胴部であるが、懸垂文が見られないことや、胴部下半の括れが弱い円筒形の器形などから、該期の可能性が考えられる。この他、加曾利EⅡ式や併行する曾利式・唐草文系土器については、遺構外出土を主体に破片で看取されるが、総量比較では加曾利E式に対して信州系の土器が上回る状況があり、特に95区でこの傾向が顕著である。このうち、95-7号土坑No.13・14と95区遺構外No.23・24は、接点はないが同一個体と考えられ、原体LR縄文を縦位施文する縄文地文の曾利Ⅱ式と考えられる。

加曾利EⅢ式併行期からは出土数が増加し、住居跡など遺構からの出土が明確となる。この時期は、加曾利EⅢ式と唐草文系土器Ⅲ期の土器が主體的であるが、これに曾利式系や新潟系などの土器が少量混在する様相を呈する。また、総量的には加曾利E式が唐草文系土器を主とする信州系を逆転していく傾向が認められる。加曾利EⅢ式は、口縁部文様帯の特徴から大まかに古・新の2段階に区分される様相にあるが、口縁

部文様帯の区画文を隆帯などで明確に描出する古段階のものは少ないように見受けられる。また、加曾利E式的な文様構成に沈線文を地文とする唐草文系土器が目立つようになり、「郷土式土器」に対応するものと考えられる。これらのうち、加曾利EⅢ式の古段階と見られるものは、遺構出土では5-16号住居跡や6-13号住居跡の破片資料の中に看取され、遺構外では95区遺構外No.87・88などが該当すると見られる。また、6-13号住居跡では、炉跡に関連する出土のNo.2・3や、覆土中からのNo.1が「郷土式土器」の代表的な資料と見られる。この他にも、95区遺構外No.108や同No.114~116などが古段階で「郷土式土器」に対応すると思われるものである。新段階は、口縁部に幅広の浅い沈線などで渦巻状や楕円状の区画文を描出するもので、5-16号住居跡No.1、5-49号住居跡No.1、6-12号住居跡No.1~3、6-13号住居跡No.8、6-1号集石No.1、5-670号土坑No.1などがある。このうち、5-16号住居跡No.1や6-13号住居跡No.8、5-670号土坑No.1などは、渦巻状や楕円状の区画文が明瞭で、やや古い要素を残すように思われる。また、口縁部に連弧状の区画文を持つものも看取され、4-8号住居跡No.7や5区遺構外No.57などが代表例で、区画内には前者が縦位の条線文、後者が原体RL縄文を充填する。また、「郷土式土器」では4-8号住居跡No.1~3、唐草文系土器のⅢ期では4-8号住居跡No.29などであるが、総量的には加曾利EⅢ式よりも少なく、減少傾向が見られる。

加曾利EⅣ式併行期では、個体として認められる資料が少なく、口縁部の文様帯が消失して横位の列点文となり、胴部に∩状の区画文を持つ5-7号埋設土器No.1や、幅広の懸垂文で区画し、縄文帯と無文帯の構成をとる5-666号土坑No.1がこの時期と考えられる他は、破片を主体として出土量も前後の段階に比較して少ない傾向にある。

後期

後期は、総量比較においては5区の台地上で中期を大幅に上回る状況を呈するが、内訳としては前葉に相当する堀之内式併行期が圧倒的であり、これに次いで初頭に相当する称名寺式期、中葉前半に相当する加曾利B1式の土器が認められ、これ以降の土器は確認されておらず、本遺跡の画期を示す状況である。

称名寺Ⅰ式併行期では、「関沢類型」を含めた称名寺Ⅰ式の土器よりも、所謂「加曾利E式系」などとされる土器が目立つように思われるが、個体として識別できる資料が少なく、破片資料が殆どである。

称名寺Ⅱ式併行期では、総体的に少量ではあるが称名寺Ⅱ式や「茂沢類型」などが認められ、5-48号住居跡No.1や95-1号埋設土器No.1などが該期と考えられる。

さらに称名寺Ⅰ式・Ⅱ式に併行する時期では、微隆帯で文様を描出するものがあるが、こうした土器は、加曾利EⅣ式段階から称名寺Ⅱ式段階まで幅広く存在するものであり、検討を要する。この代表例は、4-1号埋設土器No.1~11、5-51号住居跡No.1、95区遺構外No.207などがある。これらは、無文地で口縁下に横位隆帯を1条巡らすまでは共通するが、これから微隆帯を直線的に垂下して懸垂文の構成をとるものと対弧状に垂下するものがあり、さらに交点に円形貼付文を持つものと持たないものなどがある。さらには、口縁下に巡らす横位隆帯に押圧などによる刻みを持つものがあり、95区遺構外No.204の他は破片資料が殆どである。

また、該期の浅鉢として5-51号住居跡No.7や、破片資料であるが5区遺構外No.104などがあり、機能的には注口土器と考えられるものである。

堀之内Ⅰ式併行期では、口縁(口頸)部が括れて外反し、頸部以下の胴部に膨らみを持つ「金魚鉢」形を呈する深鉢が主体となる。これらは、胴部の文様から「渦巻状などの単位文を持つ構成」のものと「懸垂・垂下する構成」のものに大別され、さらに地文の有無や区画文を描出する並行沈線の本数などで細別される。

第4章 まとめ

「単位文構成」の代表例は、4-7号住居跡No.1や5-660号土坑No.1などがあり、前者は無文地で、後者は区画内に原体LR縄文が充填される。「懸垂文構成」の代表例は、5-50号住居跡No.1~3、5-686号土坑No.1などがあり、何れも区画内には縄文が充填される。このうち、5-50号住居跡No.2については、垂下する舌状を呈する単位の区画文が並列される文様構成をとるものである。

また、「金魚鉢形」の口縁(口頸)部が欠落する様相の「椀形」を呈する鉢があり、5-50号住居跡No.17が代表例である。この文様構成は、「金魚鉢形」と同様に単位文を連結する構成と見られる。

さらに、該期から称名寺式併行期まで遡る可能性ものを含め、三十稲場式の深鉢の出土が見られ、4-1号埋設土器No.19、5-683号土坑No.3、5区遺構外No.216などが代表例である。このうち、4-1号埋設土器No.19と5区遺構外No.216は、胎土や色調が極めて類似している特徴があるが、同一個体であるかは不確定である。この他は、破片資料が殆どであるが、刺突の粗いものと密なものに大別され、刺突の粗いものが古相、密に整然と施すものが新相と考えられる。また、該期に併行すると考えられる南三十稲場式の深鉢も見られ、5-50号住居跡No.23などが代表例である。これは、胴部下半に括れを持ち、胴部の文様帯は上下2帯構成で「米」字状を呈し、原体LR縄文が充填されるものである。

この他に特徴的な土器に5-644号土坑No.1があり、器形的には該期と考えられるものであるが、全面無文で口縁下と胴部下半に粗い整形痕が看取されるのみであり、粗製品の一種と考えられる。

堀之内2式併行期では、堀之内2式の「朝顔形」深鉢が主体となる。また堀之内2式末期に併行する「石神類型」の深鉢や、沈線文を施す粗製の深鉢などが認められる。

堀之内2式の深鉢では、6-10号住居跡で無文の粗製品が個体として見られる他は、破片が殆どである。器形は、「朝顔形」の他には胴部が反りながら下半に括れを持つ「鐘形」ものや、前段階から継続する金魚鉢形のものが見られる。金魚鉢形のは、前段階より薄手となり、磨きなどの整形も顕著な特徴が見られる。これらは、遺構から出土したものは少なく、遺構外出土の破片が主体である。また、「朝顔形」の深鉢について、刻みを持つ横位隆帯を多条(3条以上)巡らすものが看取され、信州的なものと思われる。

該期の末に位置付けられる「石神類型」の土器については、遺構外出土の破片資料が殆どで、5区遺構外No.228~234が相当すると考えられ、特にクランク文の看取されるNo.234は確定的と考えられる。

さらには、「石神類型」に併行すると考えられる沈線文を施す深鉢が特徴的で、これも遺構外出土の破片資料が殆どであるが、6区遺構外No.129~136などが代表例である。これらの文様には、斜位や斜格子状を呈するものなどが見られる。特に斜格子状などの沈線文については、加曽利B2式にも見られるものであるが、今回報告分の出土土器において加曽利B2式は確認されておらず、口端部の形状からは堀之内2式併行と考えられるものである。

以上、縄文時代の主体的な時期の土器についてまとめたが、総じて破片資料が多く、個体として器形復元できた土器が少ない状況であったと思われる。本遺跡について、発掘調査は本年度において一応の区切りがつく形となったが、整理については平成15年度以降の調査分について継続するものであり、今後整理される資料によって再度検討していきたい。

土坑・ピット一覧表

凡例 規模は長軸×短軸・単位・cm、方位は規模の長軸、遺物数の土器は破片総数・石器は剥片類含む総数・(外)は遺構外扱い

3区土坑一覧

番号	位置	確認面	重複	平面形	上面規模	底面規模	深さ	断面形	方位	遺物数	属性	所見	図・PL
8	Y-6	(IV~) V層		(上)楕円形 (底)長方形	160×110	134×67	80	台形状	N-16° -W		陥穴	平安以降。	179・40
9	X・Y-5	V層		(上)楕円形 (底)長方形	191×126	155×57	84	台形状	N-10° -E	土2(外)	陥穴	平安以降。	179・41
10	X-5	V層		(上)楕円形 (底)長方形	192×114	142×62	76	台形状	N-12° -W	土2(外)	陥穴	平安以降。	179
11	X-6・7	IV層		(上)楕円形 (底)長方形	225×146	153×73	76	台形状	N- 5° -E	土2(外)	陥穴	平安以降。	179・41
12	W-7	V層		(上)楕円形 (底)長方形	180×120	130×32	125	Y字状	N-90°	土1(外)	陥穴	壁の上部外反。平安以降。	179・41
13	U-7・8	VI層		楕円形	200×132	143×62	118	U字状	N-37° -E		陥穴	平安以降。	179・41

4区土坑一覧

番号	位置	確認面	重複	平面形	上面規模	底面規模	深さ	断面形	方位	遺物数	属性	所見	図・PL
45	Q-13 R-13・14	IV層 (相当)		長方形	180×70	91×42	30	台形状	N-45° -W		陥穴	底面東側にテラス状の中段あり。縄文。	93
46	V・W-12	IV層 (相当)	8住	楕円形	130×86	100×56	36	台形状	N- 5° -E			平安以降。	180・42
47	V-11	IV層 (相当)	54坑、 南側調査区外	長方形?	(119)×86	(94)×55	61	台形状	N-0°	土2・ 石1 (外)		覆土人為堆積、54坑と で2堅穴に類似、室状 の堅穴か。中・近世。	187・46
48	U-12	IV層 (相当)		楕円形	105×83	87×67	26	U字状	N- 5° -W			覆土人為堆積の可能性あり。平安以降。	180・42
49	U-12	IV層 (相当)	ピット 30・33	隅丸方形	116×111	86×71	56	台形状	N-10° -E			覆土人為堆積、47坑の 覆土に類似、重複新旧 は不確定。中・近世。	180・46
50	U-13	IV層 (相当)	5住	不整楕円形	140×113	78×64	18	台形状	N-82° -W			縄文。	93
51	T-12・13	IV層 (相当)	7住、 62坑	(上)楕円形 (底)長方形	175×144	120×45	141	Y字状	N-80° -E	土2 (外)	陥穴	7住ピットの62坑より 新。平安以降。	180・42
52	B-3・4	VI層		(上)楕円形 (底)長方形	144×94	111×30	104	U字状	N-20° -W		陥穴	平安以降。	180・42
53	3Y・4A- 4・5	VI層		(上)楕円形 (底)長方形	185×110	127×42	117	Y字状	N-10° -E		陥穴	平安以降。	180・42 ・43
54	V-11	IV層 (相当)	47坑	長方形?	(125)×(49)	97×(35)	56	台形状	N-6° -E			覆土人為堆積、47坑と で2号堅穴に類似、室 状の堅穴か。中・近世。	187
55	T・U-12	IV層 (相当)	56坑	長方形	170×(88)	185×68	136	袋状	N-75° -E	土1 (外)	陥穴	重複新旧は不確定。 平安以降。	181・43
56	T・U-12	IV層 (相当)	55坑	楕円形	253×191	144×58	213	方形状	N-60° -W	土1・ 石1 (外)	陥穴	重複新旧は不確定、 過年度に一部調査。 平安以降。	181・43
57	H・I-9	IV層 (相当)	10住、 3集石	長方形	133×62	112×39	60	台形状	N-50° -E		陥穴	平安以降。	180・43
58	J・K-9・10	IV層 (相当)	9住	長方形	143×93	113×33	90	台形状	N-60° -E	土1 (外)	陥穴	平安以降。	180・43 ・44
59	I・J-9・10	IV層 (相当)		楕円形	123×96	77×58	35	台形状	N-76° -W	土20・ 石2		覆土人為堆積の可能性 あり、1埋設土器掘り 方出土の土器片と接合 した破片あり。 縄文。	93
60	I-9	IV層 (相当)		楕円形	140×115	65×64	33	台形状	N-70° -W	土4		覆土人為堆積・礫混 入、1埋設土器掘り方 出土の土器片と接合 した破片あり。縄文。	93
61	J-9・10	IV層 (相当)	9住	不整形	108×106	66×53	37	台形状	N-10° -E	土1		平安の9住より旧。縄 文。	93
62	T-12	IV層 (相当)	7住に伴うピットの1つ、51坑に切られる										
63	U-13	IV層 (相当)	5・6住	長楕円形	165×71	153×39	25	台形状	N-50° -W		陥穴	平安の5・6住より旧。 縄文。	93
64	V・W-11	IV層 (相当)	水道管 攪乱	楕円形	(184)×(135)	(110)×(64)	176	袋状	N-60° -E		陥穴	平安以降。	182・44
65	R-11	15住 床面	14・15 住	不整形	103×97	108×105	78	袋状	N-30° -W	土52・ 石4		覆土人為堆積、15住 の炉跡を切る、焼土・ 大形礫を多量混入、 14住との新旧は不確 定。縄文。	93
66	V-13	V層	5住、 ピット35	不整楕円形	108×70	50×25	32	U字状	N-90°			5住より旧、ピット35 とは不確定。縄文。	93

土坑・ピット一覧表

番号	位置	確認面	重複	平面形	上面規模	底面規模	深さ	断面形	方位	遺物数	属性	所見	図・PL
67	W-12	8住床面	8住	不整形円形	113×99	97×77	70	方形状(一部袋状)	N-80° -E	石2		覆土人為堆積、8住炉跡と重複するが新旧は不確定、底面に灰の分布あり。縄文。	16
68	S-11	IV層(相当)		楕円形	63×55	48×38	22	台形状	N-57° -W			7住に伴う可能性あり。縄文。	93
69	S-11	IV層(相当)		円形	35×31	17×17	28	U字状	N-80° -W			7住に伴う可能性あり。縄文。	93
70	T-13	V層	ヤックラ	不整形長方形	83×39	68×29	20	U字状	N-82° -E			自然の凹みを誤認した可能性あり。縄文。	93

5区土坑一覧

番号	位置	確認面	重複	平面形	上面規模	底面規模	深さ	断面形	方位	遺物数	属性	所見	図・PL
386	W・X-1	IV層(相当)		(上)(底)隅丸長方形	224×115	190×73	197	方形状	N-45° -W	土3(外)	陥穴	底面の両端に凹みあり。平安以降。	182・44
602	T・U-6	IV層(相当)	632坑	楕円形	65×50	53×41	11	方形状	N-0°	土2		632坑より新?、縄文。	94
603	T-6	IV層		円形	58×53	43×37	22	台形状	N-53° -E			縄文。	94
604	T-6	IV層(相当)	671坑	楕円形	93×57	33×28	33	U字状	N-50° -E			671坑より新?、テラス状の中段に地山礫が露出、この南西側に凹みあり。縄文。	94
605	T・U-5	IV層		(上)円形(底)楕円形	208×196	164×157	50	皿状	N-28° -E	土36		底部半面が緩く凹む。縄文。	94
606	W-8	V層		隅丸方形	90×79	37×11	26	方形状	N-70° -W	土26	炉跡	西壁際に凹み、礫・遺物混入。縄文。	94
607	W-9	V層		円形	87×65	42×40	61	台形状	N-31° -E	土12	柱穴	南側に半円の張り出しあり。縄文。	94
608	W-8	V層	613坑	円形	25×24	14×13	13	U字状	N-10° -E		柱穴	613坑より旧。縄文。	94
609	T-3	IV層(相当)		(上)楕円形(底)隅丸長方形	227×162	142×57	136	台形状	N-26° -E	土44(外)	陥穴	覆土中に多孔石の巨礫が混入、底面の両端に凹みあり。平安以降。	183・44
610	U-4	IV層(相当)	700坑	(上)楕円形(底)隅丸長方形	206×129	127×48	118	台形状	N-30° -W	土44(外)	陥穴	700坑より新。平安以降。	183・44・45
611	V-3・4	IV層(相当)	50住、612坑	(上)(底)楕円形	155×116	140×68	107	台形状	N-15° -W	土111・石11(外)	陥穴	50住・612坑より新、底面の両端にピットあり。平安以降。	183・45
612	V・W-3・4	IV層(相当)	50住・611坑	楕円形?	105×(77)	53×(55)	52	台形状	N-42° -W	土46・石4		壁際に凹み、50住より新、611坑より旧。縄文。	94
613	W-8	V層	608坑	楕円形	83×67	39×38	47	U字状	N-7° -E	土4・石1		608坑より新、覆土人為堆積。縄文。	94
614	欠番(倒木痕)									石1(外)		遺物は遺構外扱い。	
615	T-4	IV層	西側トレンチ	楕円形?	47×(23)	29×(16)	16	台形状	N-0°			縄文。	94
616	T-5	IV層(相当)	661坑	楕円形	103×93	82×61	35	U字状	N-19° -E	土11・石1	炉跡	661坑より新、覆土中に被熱による礫が混入。縄文。	95
617	T-4	IV層		楕円形	60×42	49×31	12	皿状	N-16° -W			縄文。	94
618	T-4	IV層		楕円形	44×34	27×18	16	U字状	N-17° -W			縄文。	94
619	T-4	IV層		円形	46×42	32×30	10	皿状	N-72° -W			縄文。	94
620	S-4	IV層(相当)	650坑、調査区外	楕円形?	121×(34)	107×(25)	65	台形状	N-0°			650坑より新。縄文。	95
621	T-4・5	IV層		円形	53×50	40×38	23	U字状	N-84° -W			縄文。	95
622	T-6	V層	630坑	楕円形	109×69	98×57	9	皿状	N-20° -W			630坑より旧。縄文。	95
623	S・T-6	V層	649坑、東側攪乱	隅丸方形?	40×(32)	30×(29)	18	皿状	N-0°	土2		649坑より旧、底面中央に凹み。縄文。	95
624	T-6・7	IV層	625坑	円形	50×(46)	29×(29)	10	皿状	N-55° -W			625坑より新。縄文。	95
625	T-6	V層	624坑	円形	52×50	45×38	19	方形状	N-32° -E			624坑より旧。縄文。	95
626	T-5	IV層	東側攪乱	楕円形?	94×(28)	21×(14)	30	U字状	N-18° -E			縄文。	95
627	T-6	V層	635坑	円形	62×58	42×37	17	U字状	N-0°	土6・石2		635坑より新。縄文。	95
628	T-6	V層	648坑	円形	42×40	23×19	21	台形状	N-75° -W			648坑との新旧不明。縄文。	96
629	T-7	IV層		楕円形	109×68	64×47	46	台形状	N-82° -W			底面に地山礫露出。縄文。	95
630	T-6	V層	622坑	楕円形	89×54	77×47	16	方形状	N-75° -W	土2		622坑より新。縄文。	95
631	U-5・6	V層		円形	60×55	46×43	19	台形状	N-65° -W			覆土中に礫を混入、礫面・底面に地山礫露出。縄文。	96
632	T-6	V層	602坑	円形	109×102	(72)×(70)	53	方形状	N-0°	土8		602坑より旧、北半部の覆土上～中位に傾斜するように礫が混入、覆土人為堆積。縄文。	96

土坑・ピット一覧表

番号	位置	確認面	重複	平面形	上面規模	底面規模	深さ	断面形	方位	遺物数	属性	所見	図・PL
633	T-4・5	V層	634坑	楕円形?	62×45	(46)×(40)	8	皿状	N-5° -W			634坑より旧。縄文。	96
634	T-5	V層	633坑	楕円形	(60)×(38)	(52)×(29)	16	皿状	N-4° -W			633坑より新。縄文。	96
635	T-5・6	V層	627・636坑	楕円形	(72)×47	32×29	29	台形状	N-0°			627坑より新、636坑より旧、やや括れる平面形、底面南側僅かに低い。縄文。	95
636	T-6	V層	635坑	円形	(38)×35	24×21	20	方形状	N-20° -W		柱穴	635坑より新。縄文。	95
637	U-6	V層	16住、638・639坑	円形	47×43	27×25	21	U字状	N-45° -E	石2		638・639坑より新、16住とは判然としない。縄文。	96
638	U-6	V層	16住、637・639坑	楕円形	52×31	34×25	31	U字状	N-80° -W	土2		637坑より旧、639坑より新、16住とは判然としない。縄文。	96
639	U-6	V層	16住、638・640坑	楕円形	55×52	33×32	27	U字状	N-45° -E			16住・638・640坑より旧。縄文。	96
640	U-6	V層	16住、639坑	円形	(39)×40	21×20	11	皿状	N-27° -E			639坑より新、16住とは判然としない。縄文。	96
641	T-6	V層	642・644・645坑	隅丸長方形?	67×43	(55)×27	20	台形状	N-5° -E			642坑より旧で644・645坑より新。縄文。	96
642	T-6・7	V層	641坑	円形	67×62	60×40	17	U字状	N-15° -W			641坑より新。縄文。	96
643	T・U-6・7	V層	644坑	不整形円形	(48)×(42)	—	20	台形状	N-20° -E			644坑より新、底面の全面に地山礫が露出、底面プラン不明。縄文。	96
644	T-6・7	V層	643・645坑	隅丸長方形	(140)×86	(134)×62	38	台形状	N-83° -W	土1	土壌	643・645坑より旧、底面から粗製深鉢の大型片が伏位で出土。縄文後期前葉。	96
645	T-6	V層	644・646坑	楕円形	(63)×(54)	48×21	23	U字状	N-15° -E			644・646坑より新。縄文。	96
646	T-6	V層	645坑	隅丸長方形	(78)×(46)	(42)×36	20	皿状	N-55° -W			645坑より旧。縄文。	96
647	S-5	V層	東調査区外、西攪乱	楕円形?	107×84	107×60	31	台形状	N-80° -W			覆土下位に礫看取。縄文。	96
648	T-5	IV層	626坑	円形	72×68	52×43	28	U字状	N-70° -E			626坑との新旧不明。縄文。	96
649	S・T-6	V層	623坑	隅丸方形?	50×(40)	32×(27)	9	皿状	N-0°			623坑より新。縄文。	95
650	S・T-4	V層	620坑	楕円形	(90)×69	(87)×56	8	皿状	N-53° -E			620坑より旧。縄文。	97
651	T-5	IV層	652坑	楕円形	92×78	(45)×50	95	台形状	N-37° -W	土1	柱穴	652坑より旧、南東側に礫混入が集中し根巻きと思われる。縄文。	97
652	T-5	IV層	651坑	楕円形	102×56	(26)×28	95	台形状	N-70° -E			651坑の上位にあり新。縄文。	97
653	T-4	IV層		楕円形	88×59	79×50	10	皿状	N-43° -E	土17		覆土上～中位で深鉢胴部の個体が出土。縄文中期後葉。	97
654	T-4	IV層	東側攪乱	楕円形	(61)×67	(58)×59	15	方形状	N-36° -E			縄文。	97
655	S・T-3	IV層	656坑	円形	40×(34)	15×14	17	U字状	N-59° -E			656坑より新。縄文。	97
656	T-3・4	IV層	655坑	楕円形	66×58	34×31	15	皿状	N-29° -W			655坑より旧。縄文。	97
657	欠番(根株痕)												
658	V-6	V層	660坑	円形	60×(50)	(34)×(36)	28	台形状	N-14° -E		柱穴	660坑より新、南壁際に礫が混入し根巻きと思われる。縄文。	97
659	V-6	V層	660坑	円形	81×71	61×53	17	皿状	N-70° -E			660坑より新。縄文。	97
660	V-6	V層	658・659坑	隅丸長方形	124×62	111×47	41	台形状	N-13° -E	土29・石1		658・659坑より旧、底面北端から深鉢の大型片が伏位で出土。縄文後期前葉。	97
661	T-5	IV層	616坑	円形	50×(32)	32×(21)	26	U字状	N-55° -W			616坑より旧。縄文。	95
662	T-5	IV層	ピット	隅丸長方形	114×52	94×39	30	台形状	N-85° -W			南西隅にピットが重複・ピットが新。縄文。	97
663	W-6	V層		楕円形	87×65	68×50	20	台形状	N-9° -E	土2		縄文。	97
664	W-8	V層	665坑	円形	57×53	36×34	16	台形状	N-11° -W			665坑より旧。縄文。	97
665	W-8	V層	664坑	円形	(49)×48	(39)×36	12	皿状	N-11° -W			664坑より新。縄文。	97
666	W-7	V層		楕円形	132×108	102×86	16	皿状	N-87° -E	土7・石1		西側過年度調査、底面から礫・土器片出土、覆土人為堆積? 縄文。	98
667	W-6	V層		楕円形	65×60	52×43	13	皿状	N-79° -E	土4		覆土上位から礫・土器片出土。縄文。	98

土坑・ピット一覧表

番号	位置	確認面	重複	平面形	上面規模	底面規模	深さ	断面形	方位	遺物数	属性	所見	図・PL
668	V-5	IV層		円形	81×79	72×62	70	方形状	N-90°		柱穴	覆土人為堆積、柱痕と考えられる土層を看取。縄文。	98
669	W-5	IV層	ピット	円形	97×85	60×58	64	台形状	N-58° -E	土25・石2		北東側にピットが重複、ピットが新。縄文。	98
670	U-4	IV層	610・700坑	隅丸方形	130×87	93×59	55	台形状	N-90°	土5・石3	土壌	610坑より旧、700坑より新、覆土上位から石棒片、下位から深鉢の大型片が伏位で出土。縄文中期後葉。	98
671	T-6	IV層	604坑	楕円形	97×73	53×35	18	台形状	N-39° -E			604坑より旧？、テラス状中段の南側が凹む。縄文。	98
672	W-3	IV層(相当)	50・51住	(上)(底)隅丸長方形	270×114	169×66	160	台形状	N-65° -W	土53(外)		50・51住より新、底面の両端に凹みあり。平安以降。	184・45
673	S-6	IV層(相当)	調査区外・水道攪乱	楕円形?	94×(46)	69×(37)	50	台形状	N-0°			縄文。	98
674	S-6・8	IV層	調査区外・水道攪乱	楕円形?	53×(27)	33×(14)	47	台形状	N-0°			縄文。	98
675	T-2・3	IV層		長楕円形	163×71	133×59	21	台形状	N-3° -E		土壌	覆土上位の北端に扁平な大形円礫が平位で出土。縄文。	98
676	S-3	IV層	東側調査区外	楕円形?	67×(18)	39×(10)	40	U字状	N-0°			縄文。	98
677	S-6	V層	東側調査区外	楕円形?	56×45	38×36	30	台形状	N-5° -W			縄文。	98
678	S・T-3	IV層	679坑、ピット	楕円形?	(68)×(67)	(43)×(42)	80	U字状	N-43° -E	土6		679坑より新、南側に重複するピットより旧。縄文。	99
679	S・T-3	IV層	678坑	楕円形?	(53)×(45)	(45)×(35)	57	台形状	N-36° -E			678坑より旧。縄文。	99
680	S・T-2	IV層		楕円形?	(147)×(40)	60×(21)	50	U字状	N-5° -E			覆土上位20cm以内に礫・土器混入。縄文。	99
681	U-3	IV層	48住	長楕円形	143×67	135×38	46	台形状	N-10° -E	土15・石3		48住より新、北端のピットを切って構築(ピットより新)、覆土上位に礫・土器混入。縄文。	99
682	T-2・3	IV層		楕円形	111×60	68×21	13	皿状	N-22° -E			テラス状の中段西側が緩く凹む。縄文。	99
683	U-3	IV層	48住	隅丸長方形	114×68	86×50	55	台形状	N-35° -E	土8・石2		48住より旧。縄文。	99
684	U-2	IV層	52住	楕円形	100×72	72×48	20	皿状	N-68° -E			52住のピットを切って構築(52住より新)。縄文。	99
685	U-1	IV層	A・Bの2基	不整楕円形	125×98	109×79	40	方形状	N-80° -W			A・B号の2基の重複からなる。A号が新、B号が旧。縄文。	99
686	U-1	IV層		不整楕円形	106×103	82×62	36	台形状	N-70° -W	土4		南東隅にテラス状の張り出し、覆土上位に大型礫や土器片あり。縄文。	99
687	U-1	IV層(相当)		円形	103×91	42×35	86	台形状	N-23° -E	土2	柱穴	覆土上～中位に礫が多量混入、柱痕と見られる土層あり。縄文。	99
688	U-2・3	IV層	48住	楕円形	153×113	87×83	13	皿状	N-7° -E	土4・石1		48住より旧。縄文。	100
689	W・X-3	IV層(相当)		不明	85×(60)	46×?	39	方形状?	N-5° -W	土5・石1		礫集中に掘り方が伴う形態と思われるが、プランが不明瞭。縄文。	100
690	U-6	IV層	16住、A・Bの2基	A:隅丸方形、B:楕円形	76×63	50×40	33	A:皿状、B:U字状	N-35° -W	土8		上面にA号、下面にB号が重複、A号は16住より新、B号は旧。縄文。	100
691	U-7	IV層	16住	楕円形	95×75	64×50	23	台形状	N-0°	土19		16住より新、覆土上～中位を主に礫・遺物が混入。縄文。	100
692	欠番(根株痕)									土1(外)		遺物は遺構外扱い。	

土坑・ピット一覧表

番号	位置	確認面	重複	平面形	上面規模	底面規模	深さ	断面形	方位	遺物数	属性	所見	図・PL
693	V-1	IV層	南側トレンチ	楕円形	112×(100)	85×(85)	13	皿状	N-90°	土10		黒褐色土の覆土上面に礫が数点あり。縄文。	100
694	T-2	IV層	49住	楕円形	133×97	87×55	27	皿状	N-12° -W	土11・石2		49住との新旧は判然とせず。縄文。	100
695	U-1	IV層		隅丸方形	96×84	23×13	64	Y字状	N-90°			西側に重複するピットは新。縄文。	100
696	V-2	IV層	697坑	楕円形?	117×72	84×64	15	皿状	N-5° -W	土9		697坑との新旧は判然とせず。縄文。	100
697	V-2	IV層	696坑	楕円形?	88×66	45×33	10	皿状	N-90°	土1		696坑との新旧は判然とせず。縄文。	100
698	W-1	IV層		楕円形	95×62	67×35	21	皿状	N-0°			縄文。	101
699	W-3	5-50住に伴う土坑(柄鏡型住居跡の柄部と本体との接合部に当たる部分の下位土坑と思われる)											
700	U・V-3・4	IV層	48住、610・700坑	不整楕円形	(329)×240	(269)×150	55	台形状	N-58° -E	土4		610・670坑より旧。縄文。	101
701	W-5	V層		楕円形	66×40	49×25	49	方形状	N-0°	土3		702坑近接。縄文。	101
702	W-4・5	V層		楕円形	59×35	37×23	38	台形状	N-42° -E	土2		701坑近接。縄文。	101
703	W-2	5-51住に伴う土坑(柄鏡型住居跡の柄部と本体との接合部に当たる部分の下位土坑と思われる)											
704	W-4	5-50住に伴うピット(主柱穴の1つと考えられる)											
705	W-3	5-50住に伴うピット(主柱穴の1つと考えられる)											
706	W-2	5-51住に伴うピット(5-51住ピット6と組む柄鏡型住居跡の対ピットの1つで、5-703土に付帯するように重複)											
707	W-3	V層	50住	楕円形	72×70	50×36	70	台形状	N-50° -W	土2・石1		上面に50住の炉跡が重複(50住より旧)。縄文。	101
708	欠番(根株痕)									土2(外)		遺物は遺構外扱い。	
709	W-2	V層		円形	52×52	33×32	36	台形状	N-7° -W			縄文。	101
710	W-2	V層		楕円形	63×44	40×24	42	台形状	N-5° -W			縄文。	101

6区土坑一覧

番号	位置	確認面	重複	平面形	上面規模	底面規模	深さ	断面形	方位	遺物数	属性	所見	図・PL
178	B-19	V層	179坑	楕円形?	(147)×(60)	(113)×(60)	32	台形状	N-0°	土15		179坑より旧。縄文。	102
179	A・B-19	V層	178坑	楕円形	166×144	49×35	36	台形状	N-23° -E	土10		178坑より新、吊手土器の吊手部片出土。縄文。	102
180	B-18・19	V層		楕円形	142×73	75×52	11	皿状	N-26° -E			縄文。	102
181	A・B-17・18	平成15年度調査で住居跡と判明、「6-15号住居跡」へ変更。以後、「6-181土坑」欠番。											
182	C-13	V層		楕円形	103×90	87×69	14	皿状	N-8° -E	土12		南東隅に地山礫露出、土器小片混入。縄文。	102
183	B-17	V層		隅丸方形	106×104	90×88	14	皿状	N-25° -W			人為堆積。中・近世。	187・47
184	C-13	V層		不整円形	92×84	77×67	28	台形状	N-73° -E	土11		底面北側に地山礫露出。縄文。	102
185	D-13	V層		隅丸方形	89×79	71×60	9	皿状	N-54° -W	土13		縄文。	102
186	C-12	V層		円形	70×65	51×52	11	皿状	N-0°	土3		縄文。	102
187	C・D-12	IV層	P50・59	隅丸方形	88×83	74×70	43	台形状	N-33° -W	土8		P50・59との新旧は判然とせず、底面東側にピットを伴う。縄文。	102
188	D-11	IV層		楕円形	89×75	61×50	34	台形状	N-90°			縄文。	102
189	D-12	V層	P47	楕円形	(79)×77	60×55	16	皿状	N-90°	土21・石1		P47より旧、底面西側に礫あり。縄文。	102
190	C-20	V層		楕円形	70×52	58×38	23	台形状	N-20° -W	土6		縄文。	102
191	C-12	V層	P49・70	不整円形	81×79	70×64	33	台形状	N-24° -W	土70・石3		P49より旧、P70とは判然とせず。縄文。	102
192	C-12	V層	11住P10・11、P59	長楕円形	156×62	135×45	17	皿状	N-6° -E	土9		11住P10・11より旧、P59との新旧は判然とせず。縄文。	102
193	D-12	V層	11住P3	不整円形	95×83	74×66	26	台形状	N-60° -W	土13・石2		11住P3との新旧は判然とせず。縄文。	103
194	F-12	V層	195坑	楕円形	100×73	82×55	18	台形状	N-70° -E			195坑との新旧は判然とせず。縄文。	103
195	F-12	V層	194坑	楕円形	100×90	78×67	15	皿状	N-31° -W	土6		194坑との新旧は判然とせず。縄文。	103
196	D-12	V層	11住P7	隅丸方形	84×72	61×52	12	皿状	N-10° -E	土12・石1		11住P7との新旧は判然とせず。縄文。	103
197	D-11・12	6-11住・炉跡に変更											
198	D-11・12	V層	P60	楕円形	81×(44)	73×(36)	13	皿状	N-0°	土41・石2		P60より旧。縄文。	103
199	E-11	V層		不整楕円形	112×64	13×9	56	台形状	N-38° -E	土4・石1		北側に中段、中央に深い凹み、3基のピットが重複する形状。縄文。	103

土坑・ピット一覧表

番号	位置	確認面	重複	平面形	上面規模	底面規模	深さ	断面形	方位	遺物数	属性	所見	図・PL
200	E・F-12	V層	P53	円形	57×45	(16)×(15)	13	台形状	N-50° -W			P53より旧、底面に地山礫露出。縄文。	103
201	D-17	V層		隅丸方形	111×100	33×23	35	皿状	N-45° -W			底面北西側に凹みあり。縄文。	103
202	E-14	V層		不整楕円形	138×88	116×68	18	皿状	N-54° -E			南側に地山礫が露出。中・近世。	187・47
203	D-17・18	V層	13住、北西トレンチ	長楕円形	173×63	155×43	10	皿状	N-40° -W			13住より旧。縄文。	103

95区土坑一覧

番号	位置	確認面	重複	平面形	上面規模	底面規模	深さ	断面形	方位	遺物数	属性	所見	図・PL
6	V-24	IV層(相当)		(上)楕円形 (底)隅丸長方形	178×130	127×54	135	台形状	N-50° -E	土2(外)		II-2(～III)層基調の覆土あり、底面南側に凹み、北側に小穴あり。平安以降。	184・45
7	V-20・21	IV層(相当)		円形	202×173	87×87	134	台形状	N-90°	土236・石15		西側にテラス状の中段あり。縄文。	103
8	T-24	IV層(相当)		楕円形	102×75	83×53	42	台形状	N-75° -W			掘立状土坑群の1基。覆土上～中位に礫が集中混入。縄文。	105・106・36
9	T-24	IV層	東側調査区外	楕円形?	82×(27)	62×(20)	78	台形状	N-8° -E	土1		縄文。	104
10	T-23	IV層	東側調査区外	楕円形?	136×(56)	105×(43)	105	台形状	N-7° -E			縄文。	104
11	U・V-25	IV層	13・19坑	楕円形	129×92	96×68	48	台形状	N-23° -E	石1		断面で13坑との切り合い確認、13坑より旧、19坑より新。縄文。	104
12	V-25	IV層(相当)		楕円形	135×95	115×65	24	皿状	N-28° -E	土1・石2		覆土上面に大型礫あり。縄文。	104
13	U・V-25	IV層	11・19坑	隅丸長方形	148×98	130×86	35	台形状	N-22° -E	土1・石2		断面で11坑との切り合い確認、11坑より旧、19坑より新。縄文。	104
14	T-23	IV層		楕円形	101×73	83×64	73	台形状	N-34° -W			掘立状土坑群の1基。覆土中位に礫が混入、根巻きか。縄文。	105・106・36
15	U-23	IV層		隅丸方形	107×98	69×60	44	台形状	N-8° -E	土5・石3		掘立状土坑群の1基。平面円形に近い、覆土中位に礫あり。縄文。	105・106・36
16	W-22	IV層	南側調査区外	楕円形?	65×(51)	44×(38)	33	台形状	N-90°	土7		縄文。	104
17	X-22	IV層	18・21坑	不整楕円形	115×105	95×83	28	皿状	N-10° -E	石1		18・21坑より新、底面両側に凹みあり。縄文。	105
18	X-22	IV層	17・21坑	楕円形?	(96)×100	(84)×75	16	皿状	N-38° -E	土1		17坑より旧、21坑より新、底面西側に凹みあり。縄文。	105
19	U-25	IV層	1住、11・13坑	円形?	(106)×102	(94)×82	16	皿状	N-62° -W	土1		1住より新で11・13坑より旧。縄文。	104
20	U-24	IV層		不整円形	101×92	64×65	29	台形状	N-18° -W	土1・石1		覆土下位より扁平礫が重なって出土。縄文。	104
21	X-22	IV層	17・18坑	楕円形?	107×(85)	83×(67)	19	皿状	N-0°			17・18坑より旧。縄文。	105
22	T-25	IV層	1住	不整楕円形	72×53	38×30	49	台形状	N-24° -E			1住との新旧は判然とせず。2基のピットが重複する形状。縄文。	104
23	U-25	IV層	1住、ピット	楕円形	117×91	95×67	25	台形状	N-85° -E			1住・ピットより旧、ピットは上面から掘り込まれて1住より新。縄文。	105
24	U-24	IV層	1住、25坑	楕円形	112×90	56×55	69	U字状	N-32° -W	土4		掘立状土坑群の1基。1住より新、25坑より旧、南側にテラス状部、壁面に縦位単位の凹凸あり、工具痕?。縄文。	105・106・36・37
25	U-24	IV層	1住、24坑	不整楕円形	97×82	73×58	41	台形状	N-72° -E	土7		掘立状土坑群の1基。1住・24坑より新。縄文。	105・106・37

土坑・ピット一覧表

番号	位置	確認面	重複	平面形	上面規模	底面規模	深さ	断面形	方位	遺物数	属性	所見	図・PL
26	U・V-24	V層		楕円形	78×68	66×47	36	台形状	N-70° -W			掘立状土坑群の1基。楕円形土坑に円形土坑が上から掘り込む形状、柱痕か。縄文。	105・106・37
27	V-24	V層		円形	82×75	61×61	36	台形状	N-53° -E	土1・石1		掘立状土坑群の1基。北東側に溝状のピットが重複、新旧はピットが旧。縄文。	105・106・37
28	V-21	IV層		楕円形	89×79	76×67	58	方形状	N-0°	土4		覆土上～中位に大型土器片、断面僅かに袋状。縄文。	105

17区

番号	位置	確認面	重複	平面形	上面規模	底面規模	深さ	断面形	方位	遺物数	属性	所見	図・PL
1	次年度(平成14年度)に調査継続(17-1号土坑)												184
2	次年度(平成14年度)に調査継続(17-2号土坑)												173

18区

番号	位置	確認面	重複	平面形	上面規模	底面規模	深さ	断面形	方位	遺物数	属性	所見	図・PL
1	次年度(平成14年度)に調査継続(18-1号土坑)												184

4区ピット一覧

番号	位置	確認面	重複	平面形	上面規模	底面規模	深さ	断面形	方位	遺物数	属性	所見	図・PL	
2	V・W-14	IV層(相当)		不整形円形	59×58	18×13	52	台形状	-			東半部にテラス状の中段。平安以降。	185	
3	W-14	IV層(相当)		楕円形	33×28	16×14	29	台形状	-	石2		平安以降。	185	
4	W-14	IV層(相当)		不整形楕円形	61×54	38×32	15	台形状	-			平安以降。	185	
5	S-14	IV層(相当)	1号柵列に伴うピット(ピット13)											
6	S-14	IV層(相当)	1号柵列に伴うピット(ピット12)											
7	S-14	IV層(相当)	1号柵列に伴うピット(ピット5)											
8	S-14	IV層(相当)	1号柵列に伴うピット(ピット8)											
9	R-14	IV層(相当)	1号柵列に伴うピット(ピット6)											
10	Q-14	IV層(相当)	1号柵列に伴うピット(ピット11)											
11	Q・R-14	IV層(相当)		円形	28×27	16×14	27	台形状	-	石1		ピット15・16・29と組み合わせ?、中・近世。	188	
12	R-14	IV層(相当)	1号柵列に伴うピット(ピット9)											
13	R-14	IV層(相当)	1号柵列に伴うピット(ピット10)											
14	Q-13	IV層(相当)		不整形円形	28×26	12×12	29	台形状	-			中・近世。	188	
15	Q・R-13	IV層(相当)		不整形円形	27×27	16×12	34	台形状	-			ピット11・16・29と組み合わせ?、中・近世。	188	
16	R-13	IV層(相当)		隅丸方形	21×20	13×12	11	台形状	-			ピット11・15・29と組み合わせ?、中・近世。	188	
17	R-13	IV層(相当)		不整形楕円形	54×20	18×16	15	台形状	-			底面北側に中段状部、(中?)近世。	188	
18	R-13	IV層(相当)		不整形円形	25×23	13×13	13	台形状	-			中・近世。	188	
19	R-13	IV層(相当)		楕円形	31×26	21×16	13	台形状	-			中・近世。	188	
20	R-13	IV層(相当)		不整形円形	29×28	17×17	12	U字状	-			中・近世。	188	
21	R-13	IV層(相当)		楕円形	25×21	17×13	14	台形状	-			中・近世。	188	
22	S-13	IV層(相当)		楕円形	34×32	25×22	9	台形状	-			中・近世。	188	
23	R-12	IV層(相当)		円形	26×23	16×12	12	台形状	-			中・近世。	188	
24	Q-14	IV層(相当)	1号柵列に伴うピット(ピット7)											
25	R-14	IV層(相当)	1号柵列に伴うピット(ピット15)											
26	R-14	IV層(相当)	1号柵列に伴うピット(ピット14)											
27	S-13	近・現代ピット(現表土相当のI層を覆土とする)												
28	R-14	IV層(相当)	1号柵列に伴うピット(ピット16)											

土坑・ピット一覧表

番号	位置	確認面	重複	平面形	上面規模	底面規模	深さ	断面形	方位	遺物数	属性	所見	図・PL
29	Q-13	IV層(相当)			29×20	15×11	36	台形状	—			ピット11・15・16と組む?。中・近世。	188
30	U-12	IV層(相当)	49坑	隅丸長方形	77×61	66×46	9	皿状	—			重複新旧は不確定、底面東側に凹み。中・近世。	188
31	V-13	IV層(相当)	1竖	方形	37×(34)	19×16	20	U字状	—			重複の新旧不確定、伴う可能性もあり。中・近世。	189
32	T-14	IV層(相当)	ヤックラ	1号柵列に伴うピット(ピット3)									
33	U-12	IV層(相当)	49坑	楕円形	40×34	26×23	13	U字状	—			49坑より新。中・近世	188
34	R-14	IV層(相当)	ヤックラ	楕円形	62×46	21×19	10	皿状	—			ヤックラ下面で確認。中・近世?	189
35	V-13	IV層(相当)	5住、66坑	不整形円形	57×51	—	20	不整形	—			5住・66坑より新。中・近世。	189
36	U-13	IV層(相当)	5住	隅丸長方形	56×30	43×19	22	台形状	—			5住より新。中・近世。	189
37	T-13	IV層(相当)		隅丸方形	43×38	29×25	13	台形状	—			中・近世。	189
38	T-13	IV層(相当)	ヤックラ	楕円形	49×40	37×32	17	台形状	—			中・近世。	189

6区ピット一覧

番号	位置	確認面	重複	平面形	上面規模	底面規模	深さ	断面形	方位	遺物数	属性	所見	図・PL
6・7	欠番(近・現代)												
8	B-18	VI層		不整形円形	32×26	20×17	5	皿状	—			中・近世。	189
9	B-18	VI層		円形	24×20	12×11	12	台形状	—			縄文。	107
10	B-17	VI層		円形	25×23	15×12	7	台形状	—			縄文。	107
11	B-17	VI層		円形	40×40	27×27	26	台形状	—	土1		縄文。	107
12	B-17	VI層		円形	27×28	18×15	12	台形状	—			中・近世。	189
13	欠番(近・現代)												
14	B・C-17	VI層		楕円形	37×32	27×22	10	台形状	—			中・近世。	189
15	C-16	VI層		楕円形	71×41	61×31	15	皿状	—	土6		埋設土器と思われる土器の個体(大形破片)あり。縄文。	107
16	C-16	VI層		隅丸方形	68×60	15×12	30	Y字状	—			底面南西に凹み。中・近世。	189
17~30	欠番(近・現代)												
31	D-14・15	VI層		楕円形	45×33	16×15	27	台形状	—			テラス状部の西側に凹み。中・近世。	189
32	D-14	V層		隅丸方形	37×32	29×25	17	台形状	—			中・近世。	189
33	D-14	V層		楕円形	38×(22)	28×(18)	17	Y字状	—			北西壁は礫。縄文。	107
34	D-13・14	V層		楕円形	70×45	56×26	16	台形状	—			縄文。	107
35	D-13	V層		半円形	56×(25)	36×(15)	19	台形状	—			北壁は礫。縄文。	107
36	D-13	V層		円形	42×36	20×20	25	Y字状	—			縄文。	107
37	C・D-13	V層		円形	65×60	44×(13)	14	台形状	—			底面北側に地山礫露出。縄文。	107
38	C-13	V層		楕円形	64×48	54×38	8	皿状	—			縄文。	107
39	C-13	V層		楕円形	60×41	43×25	38	台形状	—			縄文。	107
40	C-13	V層		不整形円形	47×39	40×28	23	方形状	—	土34・石1		縄文。	107
41	C-12・13	V層		楕円形	53×30	32×18	17	台形状	—			縄文。	107
42	C-12	V層		不整形円形	76×66	60×50	21	台形状	—	土7		縄文。	107
43	D-12	V層		楕円形	50×41	27×24	33	台形状	—	土15		縄文。	107
44	E-12	V層		不整形楕円形	50×43	(24)×(16)	21	U字状	—	土1		北・西壁に地山礫が露出。縄文。	107
45	D-12	V層		隅丸方形	54×53	32×31	22	台形状	—	土4		底面北端に礫あり。縄文。	107
46	D-12	V層		不整形楕円形	50×37	34×23	13	台形状	—	土14		南側にP51近接。縄文。	107
47	D-12	V層	189坑	隅丸方形	63×51	45×28	12	台形状	—	土5・石1(外)		189坑より新、II層とロームの混土状覆土で人為堆積。中・近世。	189
48	B・C-21	V層		楕円形	51×36	17×11	33	U字状	—	土2(外)		平安以降。	185
49	C-12	V層	191坑	楕円形	73×58	35×30	59	Y字状	—			191坑より新、底面西側中段に地山礫露出、東側に凹みあり。縄文。	107
50	C-12	V層	187坑	円形	44×(30)	31×30	13	皿状	—			187坑との新旧は判然とせず。縄文。	107

土坑・ピット一覧表

番号	位置	確認面	重複	平面形	上面規模	底面規模	深さ	断面形	方位	遺物数	属性	所見	図・PL
51	D-12	V層		楕円形	96×55	82×40	23	台形状	—	石1		北側にP46近接。縄文。	107
52	D-12	V層		隅丸方形	44×37	31×27	29	台形状	—	土6		縄文。	107
53	F-12	V層	200坑	楕円形	81×77	59×52	16	皿状	—			200坑より新、南東壁に地山礫が露出。縄文。	108
54	D・E-12	V層		楕円形	62×53	49×39	32	台形状	—	土2		縄文。	108
55	D-12	6-11住・ピット11に変更											
56	C・D-12	6-11住・ピット10に変更											
57	D-11・12	6-11住・ピット8に変更											
58	D-12	V層		円形	34×32	22×18	18	U字状	—			縄文。	108
59	D-12	V層	187・192坑	楕円形	97×61	82×53	12	皿状	—	土3		187・192坑との新旧は判然とせず。縄文。	108
60	D・E-11・12	IV層	198坑	隅丸方形	64×50	50×36	25	台形状	—	土12・石1		198坑より新。縄文。	108
61	D-12	6-11住・ピット7に変更											
62	D-12	6-11住・ピット9に変更											
63	D-12	6-11住・ピット4に変更											
64	D-12	6-11住・ピット6に変更											
65	D-11	6-11住・ピット1に変更											
66	E-11	V層		円形	27×27	17×16	14	台形状	—	土3(外)		平安以降。	185
67	D-12	V層	6-11住・ピット2に変更										
68	欠番(近・現代)												
69	E-11	V層		隅丸方形	52×40	40×28	14	台形状	—			縄文。	108
70	C-12	V層	191坑	楕円形?	41×(24)	11×(7)	14	U字状	—	土2		191坑との新旧は判然とせず。縄文。	108
71	C-12	6-11住・ピット13に変更											
72	D-12	6-11住・ピット12に変更											
73	D-12	6-11住・ピット5に変更											
74	D-12	6-11住・ピット3に変更											
75	D-12	6-11住・ピット14に変更											
76	D-11	6-11住・ピット15に変更											
77	B-22	V層		楕円形	40×31	19×16	14	U字状	—			縄文。	108
78	D-16	V層		不整楕円形	53×30	20×15	16	台形状	—			2基のピットが並ぶ形状か。中・近世。	189
79	D-16・17	V層		隅丸方形	77×60	22×12	34	Y字状	—			北壁に深い掘り込みあり。中・近世。	189
80	D-17	V層		不整楕円形	87×48	34×30	15	台形状	—			北東側に溝状の中段あり。中・近世。	189
81~83	欠番(近・現代)												
84	C-18	V層		不整円形	66×29	52×24	28	Y字状	—	土1(外)		テラス状部から中央に深い掘り込み。平安以降。	185
85	C-18	V層		円形	45×40	23×22	8	皿状	—			中・近世。	189
86	C-18・19	V層		楕円形	50×46	21×20	13	皿状	—			縄文。	108
87	C-19	V層		楕円形	41×33	21×17	13	台形状	—			平安以降。	185
88・89	欠番(近・現代)												
90	E-15	V層	西側調査区外	楕円形	60×53	20×15	18	皿状	—			北壁礫。中・近世。	189
91	E-15	V層		楕円形	84×52	38×23	14	皿状	—			中・近世。	189
92	欠番(近・現代)												
93	E-14・15	V層		不整楕円形	75×57	56×43	6	皿状	—	石1(外)		中・近世。	189
94	E-14・15	V層		楕円形	47×38	33×22	18	台形状	—			中・近世。	189
95	E-14	V層		隅丸方形	80×70	45×32	32	V字状	—	土2(外)		中・近世。	189
96	欠番(近・現代)												
97	E・F-14	V層		楕円形	57×34	25×13	14	台形状	—			東壁に地山礫が露出。中・近世。	189
98	E-14	V層		楕円形	45×30	32×18	6	皿状	—			中・近世。	190
99	E-13	V層	P100	楕円形	(30)×30	(25)×18	23	U字状	—			P100との新旧は判然とせず。縄文。	108
100	E-13	V層	P99	不整円形	52×47	32×30	22	U字状	—	土1		P99との新旧は判然とせず。縄文。	108
101	欠番(近・現代)												
102	D-16	V層		円形	30×28	20×19	10	台形状	—			中・近世。	190
103	D-15・16	V層	P104	楕円形	83×60	68×36	10	皿状	—	土3(外)		P104より新。中・近世。	190

土坑・ピット一覧表

番号	位置	確認面	重複	平面形	上面規模	底面規模	深さ	断面形	方位	遺物数	属性	所見	図・PL
104	D-15	V層	P103	楕円形?	(16)×33	(16)×8	8	皿状	—			P103より旧、西側地山礫露出。中・近世。	190
105	欠番(近・現代)												
106	E-13	V層	南側攪乱(P105)	楕円形?	87×60	33×28	30	台形状	—			中・近世。	190
107	F-13	V層		円形	41×37	17×17	14	台形状	—			中・近世。	190
108	E-14	V層		楕円形	79×35	53×18	10	皿状	—	石2(外)		南側地山礫露出。中・近世。	190
109	C-20	V層		楕円形	50×41	35×27	18	台形状	—			縄文。	108
110	C-20	V層		円形	24×24	10×9	11	台形状	—			縄文。	108
111	C・D-20	V層		不整楕円形	44×36	29×22	13	台形状	—			縄文。	108
112	F-12	V層		隅丸長方形	35×24	18×13	12	U字状	—			北東から南西へ斜に掘り込まれる。平安以降。	185
113	F・G-12	IV層		楕円形	39×31	22×17	7	皿状	—	土1		平安以降。	185
114	G-12	IV層		楕円形	32×24	7×7	33	U字状	—			平安以降。	185
115	F-13	V層		不整楕円形	122×105	93×(69)	17	皿状	—	土24		北東・北西・南東壁に地山礫露出、浅く大型の掘り込み。縄文。	108
116	D-17・18	V層	西側トレンチ	隅丸長方形?	(91)×(67)	(82)×(50)	13	皿状	—			縄文。	108
117	F-12	V層		楕円形	24×17	14×9	17	U字状	—			平安以降。	185
118	F-12	V層		隅丸長方形	37×25	22×13	8	台形状	—			平安以降。	185
119	D-19	V層		不整円形	56×50	42×34	9	皿状	—			縄文。	108
120	F-12	V層		円形	27×25	12×10	15	U字状	—	土1(外)		平安以降。	185
121	F-11・12	V層		楕円形	39×25	16×14	31	U字状	—			南側へ斜に掘り込まれる。縄文。	108

遺物観察表

4-7号住居跡

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
13	1	炉内埋設 土器	深鉢	口縁～ 胴部	礫・粗砂・長 石(多)	良好	にぶい橙 色	口径21.2cm・残高15.7cmを測る。口縁部は 無文で、ラップ状に開く。胴部は、端部が 蕨手状の沈線文を横位に連続させて文様帯 を構成する。端部と連結部に貼付文を施 す。	堀之内1 (信州系)	49
13	2	床面付近	注口	口縁～ 胴部	粗砂(少)	良好	にぶい黄 橙色	頸部は無文で、胴部文様帯は沈線で区画し た後、LRの単節斜縄文を充填する。胴部 には橋状把手の基部が残る。	堀之内1	49
14	3	床面付近	深鉢	胴部片	礫・粗砂・石 英・長石(多)	良好	にぶい黄 橙色	沈線で文様帯を区画した中に原体LRの単 節斜縄文を充填する。	称名寺II	49
14	4	床面付近	深鉢	胴部片	礫・粗砂 (やや多)	良好	褐灰色	沈線で文様帯を区画した中に原体LRの単 節斜縄文を充填する。	「茂沢類型」	49
14	5	床面付近	深鉢	口縁部片	礫・粗砂・石 英・長石(多)	良好	明褐色	口縁は小波状を呈し、口縁下部に横位の隆 帯を貼付した後、押圧文を施文する。	後期初頭	49
14	6	床面付近	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	褐灰色	曲線状の隆帯を貼付する。	後期初頭	49
14	7	床面付近	深鉢	口縁部片	粗砂・長石 (やや多)	良好	灰褐色	口縁部は内彎し、小突起が付く。小突起に は貼付して押圧文を施文する。	堀之内1 (信州系)	49
14	8	床面付近	深鉢	口縁部片	礫・粗砂 (やや多)	良好	褐色	口縁部はスカシを穿つ突起が付く。口唇部 には円形刺突文や沈線、隆帯で文様帯を構 成する。	堀之内1 (信州系)	49
14	9	床面付近	深鉢	胴部片	礫・粗砂(少)	良好	黒褐色	沈線で文様帯を区画した中に原体LRの単 節斜縄文を充填する。	堀之内2	49
14	10	床面付近	深鉢	胴部片	礫・粗砂・石 英・長石(多)	良好	橙色	無文を呈する。	後期前葉	49
14	11	床面付近	深鉢	胴部片	礫・長石(多)	良好	にぶい赤 褐色	隆帯と沈線で文様帯を構成する。	加曾利E	49
14	12	床面付近	深鉢	胴部片	礫・粗砂・石 英・長石(多)	良好	褐色	地文は原体Lの撚糸文で、横位の沈線を施 文する。	中期後葉	49
14	13	床面付近	深鉢	口縁部 片	礫・片岩 (やや多)	良好	明赤褐色	口縁部は内彎し、内側に肥厚する。口唇部 に小突起が付く。	曾利?	49
14	14	床面付近	深鉢	口縁部 片	粗砂・石英・ 長石(多)	良好	明赤褐色	端部が蕨手状の隆帯を横位に貼付て文様帯 を構成する。	唐草文系	49
14	15	床面付近	深鉢	口縁部 突起片	礫・粗砂・長 石(多)	良好	褐色	スカシを持つ突起で、内外面には沈線で文 様を描く。側面には半裁竹管による連続刺 突文を施文する。	唐草文系	49

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
14	16	床面付近	磨石	81	55	22	169.1	粗粒輝石安山岩	両面磨り、一部欠	49
14	17	床面付近	石皿	(224)	288	62	(4,400)	粗粒輝石安山岩	多孔石転用、1/2欠	49

4-8号住居跡

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
17	1	覆土	深鉢	口縁～ 胴部	礫・粗砂 (やや多)	良好	にぶい赤 褐色	口径24.6cm・残高29.7cmを測る。口縁部は 波状を呈する。口縁部に沿って横位の隆帯 を貼付する。胴部はU字状の隆帯を貼付し た後、横位の沈線を施文する。	「郷土式」	49
17	2	覆土	深鉢	口縁～ 胴部片	礫・粗砂(多)	良好	にぶい赤 褐色	口縁部文様帯は隆帯で区画した後、縦位の 沈線を施文する。胴部は蛇行沈線文や斜位 の沈線で文様帯を構成する。	「郷土式」	49
17	3	覆土	深鉢	口縁～ 胴部片	礫・粗砂 (やや多)	良好	暗赤灰色	口縁部文様帯は隆帯で区画した後、縦位の 沈線を施文する。胴部は縦位・斜位、蛇行 沈線文で文様帯を構成する。	「郷土式」	49
17	4	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂 (やや多)	良好	橙色	口縁部文様帯は隆帯で文様帯を区画し、区 画内に原体RLの単節斜縄文を施文する。	「郷土式」	49
17	5	覆土	深鉢	頸部片	粗砂・石英 (少)	良好	明黄褐色	隆帯と沈線で文様帯を区画した後、区画内 に沈線を施文する。	唐草文系III	49
17	6	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂 (やや多)	良好	にぶい黄 褐色	隆帯と沈線で文様帯を区画した後、区画内 に櫛歯状工具による集合条線を施文する。	唐草文系III	49

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
17	7	覆土	深鉢	口縁～胴部	粗砂(やや多)	良好	灰黄褐色	口径23.4cm・残高16.8cmを測る。口縁部文様帯は2段1組の押圧文と2本1組の波状文を施文して文様帯を区画する。区画内には、櫛歯状工具による集合条線を施文する。胴部も2段1組の押圧文を施文する。	加曾利E III	50
17	8	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(多)	良好	灰黄褐色	口縁部は波状を呈する。口縁部文様帯は隆帯で区画した後、原体LRの単節斜縄文を施文する。胴部の地文は原体LRの単節斜縄文で、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E III	50
17	9	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや多)	良好	黒褐色	口縁部は波状を呈し、口唇部は内側に肥厚する。口唇部に端部が蕨手状沈線を施文する。口縁部文様帯は隆帯で区画した後、原体LRの単節斜縄文を施文する。胴部の地文は原体LRの単節斜縄文で、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E III	50
17	10	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	良好	にぶい褐色	口縁部は波状を呈し、小突起を持つ。口縁部文様帯は沈線で区画した後、原体RLの単節斜縄文を施文する。	加曾利E III	50
17	11	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(多)	良好	黒褐色	口縁部は波状を呈する。口縁部文様帯は隆帯で区画した後、原体LRの単節斜縄文を施文する。胴部の地文は原体LRの単節斜縄文で、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E III	50
17	12	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(多)	良好	にぶい黄色	口縁部文様帯は隆帯で区画した後、原体RLの単節斜縄文を施文する。	加曾利E III	50
17	13	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(多)	良好	明黄褐色	口縁部文様帯は隆帯と沈線で文様帯を区画し、区画内に原体RLの単節斜縄文を施文する。	加曾利E III	50
17	14	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂・長石(多)	良好	灰黄褐色	口縁部は押圧線で文様帯を区画した後、縦位の沈線を施文する。	加曾利E III	50
17	15	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(多)	良好	褐灰色	口縁部文様帯は隆帯で区画した後、原体RLの単節斜縄文を施文する。	加曾利E III	50
17	16	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや多)	良好	黒褐色	沈線で文様帯を区画し、区画内に原体RLの単節斜縄文を施文する。	加曾利E III	50
18	17	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや多)	良好	灰褐色	口縁部文様帯は隆帯で文様帯を区画する。	加曾利E III	50
18	18	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂・長石(多)	良好	褐灰色	口縁部文様帯は2本の沈線で区画した後、三日月状の刺突を施す。胴部の地文は原体RLの単節斜縄文を施文する。24と同一。	加曾利E III	50
18	19	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	赤褐色	外傾する器形で、口端内側を内湾するように肥厚する。	曾利	51
18	20	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(多)	良好	黒褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、懸垂文を施す。	加曾利E	50
18	21	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(多)	良好	にぶい赤褐色	波状口縁の舌状突起で、波状文を施す。	中期後葉	50
18	22	覆土	深鉢	頸部片	礫・粗砂(多)	良好	褐灰色	口縁部文様帯は隆帯で区画した後、原体RLの単節斜縄文を施文する。	加曾利E III	50
18	23	覆土	深鉢	頸～胴部片	礫・粗砂(多)	良好	黒褐色	口縁部文様帯は隆帯で区画した後、原体RLの単節斜縄文を施文する。胴部の地文は原体RLの単節斜縄文で、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E III	50
18	24	覆土	深鉢	頸部片	礫・粗砂・長石(多)	良好	褐灰色	2本の沈線で区画した後、三日月状の刺突を施す。胴部の地文は原体RLの単節斜縄文で、隆帯と沈線、押圧文で文様帯を構成する。18と同一。	加曾利E III	50
18	25	覆土、2 壺	深鉢	胴部片	礫・粗砂(多)	良好	灰黄褐色	隆帯と沈線で文様帯を区画した後、区画内に櫛歯状工具による集合条線を施文する。黒彩を施す。	加曾利E III	50
18	26	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや多)	良好	灰黄褐色	櫛歯状工具による集合条線、沈線、磨消文を垂下させる。	加曾利E III	50

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
18	27	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	櫛歯状工具による集合条線を垂下させる。	加曾利E III	50
18	28	覆土	深鉢	胴部～底部	粗砂・石英・長石(多)	良好	褐色	底径5.2cm・残高5.1cmを測る。地文は櫛歯状工具による集合条線で、2本1組の沈線と蛇行沈線を垂下させる。	加曾利E III	50
18	29	覆土	浅鉢	胴部～底部	礫・粗砂・長石(多)	良好	にぶい褐色	底径8cm・残高8.4cmを測る。櫛歯状工具による集合沈線を横位・斜位に施文した後、渦巻文を施文する。	唐草文系 III	50
18	30	覆土	深鉢	胴部	粗砂・石英・長石(多)	良好	茶褐色	残高22.6cmを測る。地文は原体LRの単節斜縄文で、縦位と蛇行沈線文、磨消文を垂下させる。	加曾利E III	50
18	31	覆土	深鉢	胴部	粗砂・長石(やや多)	良好	にぶい橙色	残高10.5cmを測る。地文は原体LRの単節斜縄文で、縦位と蛇行沈線文、磨消文を垂下させる。	加曾利E III	50
18	32	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂・長石・白粒子(多)	良好	赤褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E III	51
18	33	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(多)	良好	にぶい赤褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、渦巻文や八字文、蛇行沈線文で文様帯を構成する。	加曾利E III	51
18	34	覆土	深鉢	胴部～底部	礫・粗砂(少)	良好	にぶい褐色	底径4.6cm・残高5.2cmを測る。地文は原体RLの単節斜縄文で、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E III	51
18	35	覆土	深鉢	底部片	粗砂・石英・長石(多)	良好	にぶい赤褐色	底径6.8cm・残高4.4cmを測る。地文は原体RLの単節斜縄文で、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E III	51
18	36	覆土	深鉢	胴部～底部	粗砂・長石(やや多)	良好	褐色	底径5.4cm・残高8.1cmを測る。地文は原体RLの単節斜縄文で、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E III	51
18	37	覆土	鉢	頸部片	粗砂(やや多)	良好	にぶい黄褐色	隆帯と沈線で文様帯を構成する。	加曾利E III	51
18	38	覆土	浅鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	良好	にぶい黄褐色	口唇部は肥厚する。	中期後葉	50
18	39	覆土	深鉢	口縁部突起片	粗砂・長石(多)	良好	橙色	小突起で、隆帯と沈線で文様帯を構成する。	唐草文系	51
18	40	覆土	深鉢	頸部突起片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	灰褐色	隆帯を貼付した後、沈線で文様帯を構成する。	「焼町類型」	51
18	41	覆土	深鉢	口縁部突起片	粗砂・長石(多)	良好	褐色	小突起で、口縁に沿って沈線を施文する。	中期後葉	51
18	42	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	外反する器形で、無文を呈する。	後期	51
18	43	覆土	深鉢	胴部片	粗砂・石英(やや多)	良好	暗赤褐色	櫛歯状工具による細かな集合条線を横位に巡らす。	不明	51

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
19	44	覆土	石鏃	(17.5)	14	2.8	(0.4)	黒曜石	凹基無茎、一部欠	51
19	45	覆土	石鏃	(15)	15	4.5	(1.0)	黒曜石	平基無茎、1/2欠	51
19	46	覆土	スクレイパー	22	27.5	10	3.6	黒曜石	石鏃未製品?	51
19	47	覆土	打製石斧	112	42	16	88.8	黒色頁岩	撥形、基部側に抉り	51
19	48	覆土	打製石斧	(88)	49	25	(137.8)	細粒輝石安山岩	短冊形、刃部欠、抉り?	51
19	49	覆土	打製石斧	(79)	45	24	(116.8)	細粒輝石安山岩	短冊形、刃部欠	51
19	50	覆土	打製石斧	(87)	42	17	(99.9)	細粒輝石安山岩	短冊形、刃部欠	51
19	51	覆土	打製石斧	60	51	18	63.8	細粒輝石安山岩	撥形、基部のみ	51
19	52	覆土	打製石斧	(103)	59	29	(274.6)	細粒輝石安山岩	短冊形、未製品?	51
19	53	覆土	磨石	83	62	45	266.6	粗粒輝石安山岩	両面磨り、一部欠	51
19	54	覆土	磨石	54	49	45	177.5	粗粒輝石安山岩	両面磨り	51
19	55	覆土	磨石	80	76	58	473	粗粒輝石安山岩	両面磨り	51
19	56	覆土	磨石	76	60	37	201	流紋岩	両面・下側面磨り	51
19	57	覆土	凹石	148	50	33	371	粗粒輝石安山岩	両面磨り・凹み	51
19	58	覆土	凹石	102	90	45	600	粗粒輝石安山岩	両面磨り・凹み	51

遺物観察表

4-10号住居跡

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
21	1・2	覆土(床面付近)	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや多)	良好	にぶい黄褐色	口縁部は横位の沈線で区画された中に刺突文を施す。胴部は原体LRの単節斜縄文を縦位に施文する。	加曾利E III	51
21	3	覆土(床面付近)	深鉢	口縁部片	粗砂(多)	良好	にぶい褐色	波状口縁で、垂下する波状文を施す。	加曾利E III	51
21	4	覆土(床面付近)	深鉢	頸部片	礫・粗砂・長石(多)	良好	にぶい黄褐色	連結するU字状の隆帯を横位に貼付する。	唐草文系?	51
21	5	覆土(床面付近)	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや多)	良好	明褐色	斜位の沈線を施文した後、2条の隆帯を垂下させる。	「郷土式」?	51
21	6	覆土(床面付近)	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや多)	良好	明黄褐色	刻みを施した隆帯をT字状に貼付した後、懸垂文を施す。	唐草文系?	51
21	7	覆土(床面付近)	深鉢	胴部片	粗砂(やや多)	良好	褐色	櫛歯状工具による集合沈線を縦位に施文する。	中期後葉	51
21	8	覆土(床面付近)	深鉢	胴部～底部	礫・粗砂(多)	良好	黒褐色	底径5.8cm・残高3.7cmを測る。懸垂文を施す。	中期後葉	51
21	9	覆土(床面付近)	深鉢	口縁部片	粗砂(多)	良好	浅黄色	口縁部は小波状を呈し、口唇部に刺突文を施す。地文は0段多条RLのループ文で、半裁竹管の腹部で横位・斜位に施文する。	前期(関山)	51

4-11号住居跡

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
23	1	1号埋設土器	深鉢	胴部	礫・粗砂・長石(多)	良好	にぶい黄褐色	残高11.3cmを測る。地文は原体RLの単節斜縄文で、縦位の沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E III	51
23	2	2号埋設土器	深鉢	胴部	礫・粗砂(多)	良好	浅黄色	残高23cmを測る。地文は原体RLの単節斜縄文で、縦位の沈線と磨消文を垂下させる。外面に黒彩が施されている。	加曾利E III	51

4-14号住居跡

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
26	1	床面付近	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや多)	良好	にぶい黄褐色	横位の隆帯と沈線で区画した後、押圧文を施す。	唐草文系III	52
26	2	床面付近	深鉢	頸部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	にぶい黄褐色	蕨手状の隆帯と沈線を施文した後、斜位の沈線を施文する。	唐草文系III	52
26	3	床面付近	深鉢	頸部片	礫・粗砂・石英・長石(多)	良好	黒褐色	胴部は横位の隆帯で区画され、胴上部は斜位の沈線を施文する。胴下部の地文は原体RLの単節斜縄文で、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E III	52
27	4	床面付近	深鉢	胴部片	礫・粗砂・石英・長石(多)	良好	橙色	H状の垂下隆帯と横位の沈線で区画し、斜位や垂下する沈線を施文する。	唐草文系III	52
27	5	床面付近	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	明黄褐色	渦巻状単位を持つ垂下隆帯で区画し、斜位の沈線を施文する。	唐草文系III	52
27	6	床面付近	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	にぶい黄褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E III	52

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
27	7	床面付近	打製石斧	101	50	11	73.1	黒色安山岩	撥形	52
27	8	床面付近	凹石	130	77	51	745.6	粗粒輝石安山岩	両面凹み、表面磨り	52

4-15号住居跡

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
28	1	床面付近	深鉢	口縁部片	礫・粗砂・長石(多)	良好	明黄褐色	口縁部には突起がつく。口縁部文様帯は隆帯を貼付して文様帯を区画する。	加曾利E	52
28	2	床面付近	深鉢	口縁～頸部片	礫・粗砂(多)	良好	明褐色	口縁部文様帯の下位を、蕨手状の突起を付す隆帯と沈線で区画する。	加曾利E	52
28	3	床面付近	鉢?	口縁部片	礫・粗砂・石英・長石(やや多)	良好	にぶい褐色	口縁部は内外に肥厚する。地文は原体RLの単節斜縄文で施文する。	中期後葉?	52
28	4	床面付近	深鉢	頸部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	明褐色	横位の蛇行する隆帯と斜位の隆帯を貼付した後、沈線を施文する。	唐草文系	52

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
28	5	床面付近	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(多)	良好	明赤褐色	隆帯で文様帯を区画し、区画内に斜位の沈線を施文する。	唐草文系Ⅲ	52
28	6	床面付近	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや多)	良好	にぶい橙色	横位の隆帯と沈線を施文する。	唐草文系Ⅲ	52
28	7	床面付近	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(少)	良好	にぶい赤褐色	口縁部は波状を呈し、内彎する。地文は原体LRの単節斜縄文を横位に施文する。	加曾利E	52
28	8	床面付近	深鉢	胴部片	粗砂(やや多)	良好	褐色	原体Rの撚糸文を縦位や斜位に施文する。	加曾利E	52
28	9	床面付近	深鉢	胴部片	礫・粗砂・長石・赤色粒(やや多)	良好	明赤褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、縦位と蛇行する隆帯を垂下させる。	加曾利E	52
28	10	床面付近	深鉢	胴部片	粗砂(やや多)	良好	にぶい黄褐色	沈線で文様帯を構成する。	称名寺	52

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
28	11	床面付近	磨石	136	77	47	790.4	粗粒輝石安山岩	両面磨り、裏面凹み	52
28	12	床面	石皿	168	135	(25)	(1,022.9)	粗粒輝石安山岩	裏面欠	52

5-16号住居跡

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
32	1	埋設土器	深鉢	口縁～胴部	粗砂(少)	良好	黄褐色	口径25.4cm・残高18.6cmを測る。口縁部は隆帯や沈線で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。胴部の地文は原体RLの単節斜縄文で、蛇行沈線文、懸垂文、磨消文を垂下させる。	加曾利EⅢ	52
32	2・3	炉内埋設土器	深鉢	口縁～胴部片	礫・粗砂(多)	良好	にぶい橙色	刺突文を施した隆帯を貼付して文様帯を描く。胴部の地文は原体LRの単節斜縄文で、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利EⅢ	52
32	4	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	橙色	口縁部文様帯は隆帯と沈線で文様帯を構成し、地文は原体LRの単節斜縄文を垂下させる。	加曾利EⅢ	52
32	5	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや多)	良好	橙色	口縁部は隆帯と沈線で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を施文する。胴部の地文は原体LRの単節斜縄文で、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利EⅢ	53
32	6	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(多)	良好	橙色	口縁部は渦巻き状の隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を施文する。	加曾利EⅢ	53
32	7	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	良好	黒褐色	口縁部は波状を呈する。口縁部は隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を施文する。	加曾利EⅢ	53
32	8	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや多)	良好	明赤褐色	口縁部は波状を呈する。口縁部文様帯は渦巻文を貼付して文様帯を区画し、区画内に斜位の沈線を施文する。	「郷土式」?	53
32	9	ピット1	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや多)	良好	黄灰色	渦巻き状の隆帯と沈線で文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。	「郷土式」	53
32	10	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや多)	良好	黄橙色	渦巻き状の隆帯と沈線で文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。	「郷土式」	53
32	11	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂・長石(やや多)	良好	浅黄褐色	口縁部は隆帯や押圧文で文様帯を区画する。	加曾利EⅢ	53
32	12	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや多)	良好	灰褐色	口縁部文様帯は、斜位の沈線を施文した後、隆帯と沈線で文様帯を区画する。外面に炭化物付着。	唐草文系Ⅲ	53
32	13	炉内埋設土器	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい橙色	残高23.5cmを測る。地文は原体LRの単節斜縄文で、懸垂文と磨消文を垂下させる。	加曾利EⅢ	53
32	14	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(多)	良好	にぶい橙色	地文は原体RLの単節斜縄文で、3条1組の沈線を垂下させる。内面に炭化物付着。	加曾利EⅢ	53
32	15	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(多)	良好	にぶい橙色	蛇行する隆帯と縦位の隆帯を貼付した後、原体LRの単節斜縄文を垂下させる。	加曾利EⅢ	53

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
33	16	覆土	深鉢	頸部片	礫・粗砂・長石(やや多)	良好	橙色	隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を施文する。	大木系?	53
33	17	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(少)	良好	橙色	斜位の沈線を施文する。	「郷土式」?	53
33	18	覆土	深鉢	底部	礫・粗砂・石英・長石(やや多)	良好	橙色	底径4cm・残高3.3cmを測る。懸垂文と斜位の沈線を施文する。	「郷土式」	53
33	19	覆土	深鉢	底部	粗砂(少)	良好	橙色	底径6.4cm・残高5.6cmを測る。懸垂文を垂下させる。	中期後葉	53
33	20	炉跡	深鉢	底部	粗砂(やや多)	良好	にぶい黄橙色	底径5.4cm・残高4cmを測る。底面を厚くする。	後期?	53
33	21	覆土	注口	頸部片	礫・粗砂(やや多)	良好	灰黄褐色	横位の沈線を施文する。	称名寺	53
33	22	覆土	注口	注口部	粗砂(少)	良好	橙色	注口部に沈線を施文する。	後期	53
33	23	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや少)	良好	明黄褐色	無文を呈する。	後期	53
33	24	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	灰黄褐色	無文を呈する。	後期	53
33	25	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄橙色	無文を呈する。	後期	53

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
33	26	覆土	小型磨製石斧	(51)	32	9	(28.5)	蛇紋岩	中央に溝、分割途中?	53
33	27	覆土	磨石	73.5	(50.5)	52	(200.8)	安山岩	表面磨り、破片、被熱	53
33	28	掘方土坑	磨石	(100)	(82)	56	(511.4)	粗粒輝石安山岩	両面磨り、1/3欠	53
33	29	覆土	磨石	74	67	51	377.5	石英閃緑岩	両面磨り、側面凹み	53
33	30	ピット6	磨石	125	84	56	857.9	粗粒輝石安山岩	両面磨り、側面凹み	53
33	31	炉跡	石皿	183	(142)	(92)	(3,500)	石英閃緑岩	破片、側面磨り	53
33	32	炉跡	石皿	(117)	(100)	68	(910)	粗粒輝石安山岩	1/4残?、多孔石転用	53
34	33	ピット6	石皿	(154)	(118)	46	(1,000)	粗粒輝石安山岩	1/4残、多孔石転用	53
34	34	覆土	石皿	(136)	(120)	103	(2,150)	粗粒輝石安山岩	破片、裏面凹み	54
34	35	覆土	石皿	(161)	(159)	124	(4,000)	粗粒輝石安山岩	破片、裏面煤付	54
34	36	覆土	石皿	(195)	(214)	63	(3,950)	石英閃緑岩	1/2欠、多孔石転用	54
34	37	覆土	多孔石	199	173	116	3,280	粗粒輝石安山岩	側面凹み	54
34	38	覆土	石棒	(98)	78	74	(845.4)	緑泥片岩	胴部片、凹み	54
34	39	覆土	石棒	(168)	100	(48)	(983)	緑泥片岩	先端部片、凹み	54

5-47号住居跡

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
36	1	炉内埋設土器	深鉢	胴部～底部	粗砂(やや少)	良好	橙色	底径7cm・残高13.7cmを測る。地文は原体LRの単節斜縄文で、懸垂文と磨消文を垂下させる。	加曾利E III	54

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
36	2	覆土上面	石核	84	111	47	525.9	細粒輝石安山岩	スクレイパー?	54
36	3	覆土上面	磨石	114	86	55	911.6	安山岩	両面磨り・凹み	54
36	4	覆土上面	磨石	131	70	37	501.3	石英閃緑岩	両面磨り・凹み	54
37	5	覆土上面	凹石	132	98	53	699.8	粗粒輝石安山岩	側面凹み	54
37	6	覆土上面	石皿(磨石?)	166	147	65	2,400	粗粒輝石安山岩	両面磨り、側面凹み	54
37	7	覆土上面	凹石	73	60	39	171.2	軽石	側面凹み	54
37	8	覆土上面	磨石	301	112	65	3,620	粗粒輝石安山岩	両面・側面磨り	54
37	9	覆土上面	石棒	(237)	120	(78)	(3,250)	粗粒輝石安山岩	先端部片、凹み	54

5-48号住居跡

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
40	1	覆土、炉跡、U-3	深鉢	口縁～胴部	粗砂(やや少)	良好	黒褐色	口径11.6cm・残高12.5cmを測る。口縁部に押圧文を施した橋状把手が3単位つく。把手上部には蕨手文を施文する。胴部は沈線で区画した中にLRの単節斜縄文を充填する帯縄文で曲線的な文様を描出する。	称名寺II	55

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
40	2	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	口縁部内面はやや肥厚する。外面は沈線で幾何学文を描く。	称名寺Ⅱ	55
40	3	覆土、炉跡	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい褐色	横位の平行沈線を施文する。	称名寺Ⅱ	55
40	4	覆土	浅鉢(注口)	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい褐色	円形のスカシ(注口)を持つ突起で、沈線と刺突文、原体LRの単節斜縄文を施文する。内面は部分的に沈線で区画し、区画内に原体RLの単節斜縄文を充填する。	称名寺Ⅱ	55
40	5	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	褐灰色	横位の隆帯を施文する。6と同一。	後期初頭	55
40	6	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	褐灰色	横位の隆帯を施文する。5と同一。	後期初頭	55
40	7	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	普通	橙色	横位の隆帯を施文する。	後期初頭	55
40	8	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや少)	普通	黄橙色	押圧文を施した横位の隆帯を施文する。	後期初頭	55
40	9	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(多)	普通	にぶい黄褐色	横位の隆帯と列点文を施文する。	後期初頭	55
40	10	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	良好	灰黄褐色	口縁部は内面に肥厚し、口唇部に横位の沈線を施文する。外面は横位・斜位の沈線を施文する。	堀之内1	55
40	11	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	良好	褐灰色	口縁部は、横位の微隆帯3条と縦位の貼付文を施文する。胴部の地文は原体LRの単節斜縄文で、横位に施文する。	堀之内2(信州系)	55
40	12	覆土	深鉢	頸部片	礫・粗砂(やや多)	良好	にぶい黄褐色	刻みを施した横位の隆帯を貼付した後、連続するリボン状突起がつく。胴部は沈線で区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を横位に施文する。	堀之内	55
40	13	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂・石英・長石(やや多)	良好	黒褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、鎖状隆帯と弧状の沈線、懸垂文を垂下させる。	称名寺Ⅱ	55
40	14	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや多)	良好	にぶい黄褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、懸垂文と磨消文を垂下させる。	称名寺Ⅱ	55
40	15	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	斜位の沈線と懸垂文を垂下させる。	称名寺Ⅱ	55
40	16	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや多)	良好	明赤褐色	懸垂文やU・∩字文、列点文を施文する。	称名寺Ⅱ	55
40	17	覆土	深鉢	胴部片	礫(少)、粗砂(やや多)	普通	明褐色	横位の蕨手状を呈する沈線による曲線的な文様を施文する。	称名寺Ⅱ	55
40	18	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや多)	良好	にぶい褐色	横位の半円状を呈する沈線による曲線的な文様を施文する。	称名寺Ⅱ	55
40	19	覆土	深鉢	頸～胴部片	礫・粗砂(やや多)	良好	にぶい褐色	横位・斜位の沈線で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を横位に施文する。	堀之内1(信州系)	55
40	20	覆土	深鉢	頸～胴部片	礫・粗砂(多)	良好	褐灰色	地文は原体LRの単節斜縄文で、押圧文と磨消文を垂下させる。	堀之内1(信州系)	55
40	21	覆土	深鉢	頸～胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	橋状突起がつく。胴部は弧状の条線を施文する。	堀之内1(信州系)	55
40	22	覆土	深鉢	頸部～胴部片	粗砂(やや少)	良好	黒褐色	返しのある横位からの半円形(爪形)刺突文を全面的に施文する。	三十稲場	55
40	23	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(多)	良好	にぶい褐色	横位からの爪形刺突文を段状に施文する。	三十稲場	55
40	24	覆土	注口	頸部片	粗砂(やや少)	良好	褐灰色	横位の隆帯を貼付する。外面に炭化物が付着。	後期前葉	55
40	25	覆土	注口	胴部片	粗砂(少)	良好	褐灰色	刺突文を施した微隆帯と貼付文、沈線で文様帯を構成する。	後期前葉	55
40	26	炉跡	深鉢	底部	粗砂・赤粒子(やや多)	良好	褐色	底径9cm・残高1.7cmを測る。外面は無文で、底面に網代痕。	後期	55
40	27	覆土	深鉢	底部	礫・粗砂・石英・長石(やや多)	良好	にぶい黄褐色	底径11cm・残高3.5cmを測る。外面は無文で、底面に網代痕。	後期	55

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
40	28	覆土	深鉢	底部	粗砂・長石(やや多)	良好	黄褐色	底径10cm・残高3.9cmを測る。外面は無文で、底面に木葉痕。	後期	55
40	29	覆土	円盤	深鉢破片	礫・粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	地文は原体LRの単節斜縄文を施文する。	土製品	55
40	30	覆土	円盤	深鉢破片	粗砂(やや多)	良好	橙色	断面に擦痕。	土製品	55

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
40	31	覆土	石鏃	20	17	3.2	0.8	黒色安山岩	凹基無茎、完形	55
40	32	覆土	打製石斧	(43)	46	17	(44.2)	紫蘇輝石普通輝石安山岩	短冊形?、刃部のみ	55
41	33	覆土	磨石	75	67	24	213.3	石英閃緑岩	両面磨り	55
41	34	覆土	磨石	72	41.5	29	214.2	粗粒輝石安山岩	両面磨り	55
41	35	覆土	磨石	74	70	32	256.9	粗粒輝石安山岩	両面・側面磨り	55
41	36	覆土	磨石	118	67	60	754.4	粗粒輝石安山岩	両面磨り	55
41	37	覆土	磨石	103	87	52	647.3	粗粒輝石安山岩	両面磨り	55
41	38	覆土	磨石	81	76	41	374.8	粗粒輝石安山岩	両面磨り、被熱、煤付	55
41	39	覆土	磨石	(90)	75	45	(424)	安山岩	両面磨り、1/2欠	55
41	40	覆土	磨石	116	96	34	534.7	石英閃緑岩	両面磨り、側面凹み	55
42	41	覆土	磨石	134	100	56	1,087	粗粒輝石安山岩	両面磨り、側面凹み	55
42	42	覆土	凹石	98	81	61	487.7	粗粒輝石安山岩	被熱・剥離、煤付	55
42	43	覆土	磨石	(104)	92	76	(1,044.5)	粗粒輝石安山岩	両面磨り、一部欠	55
42	44	覆土	凹石	(123)	(110)	(84)	(985.2)	粗粒輝石安山岩	破片、側面凹み	55
42	45	覆土	石皿	(141)	(152)	112	(3,900)	粗粒輝石安山岩	破片、両面磨り	56
42	46	覆土	石核	92	77	63	544.3	流紋岩	台形状の形状	56
43	47	覆土	多孔石	220	180	125	3,710	安山岩	側面凹み、一部磨り	56
43	48	覆土	多孔石	163	122	84	1,700	粗粒輝石安山岩	側面凹み	56
43	49	覆土	石皿	(216)	270	62	(4,280)	粗粒輝石安山岩	両面磨り、1/2欠	56

5-49号住居跡

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
45	1	上位埋設土器	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや多)	良好	にぶい赤褐色	口径36cm・残高10.5cmを測る。口縁部は隆帯と沈線で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を横位に施文する。胴部の地文は原体RLの単節斜縄文で、懸垂文と磨消文を垂下させる。	加曾利E III	56
45	2	下位埋設土器	深鉢	胴部～底部	礫・粗砂(少)	良好	橙色	底径7.4cm・残高20cmを測る。地文は原体LRの単節斜縄文で、沈線を垂下させる。	加曾利E III	56
45	3	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(多)	不良	黒褐色	隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を横位に施文する。	加曾利E III	56
45	4	埋設土器掘り方	深鉢	頸部片	礫・粗砂(やや少)	良好	黒褐色	隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を横位に施文する。	加曾利E III	56
45	5	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	黒褐色	隆帯で文様帯を区画し、区画内に刺突文を施文する。	唐草文系III	56
45	6	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや多)	良好	にぶい赤褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、沈線を垂下させる。	加曾利E III	56
45	7	覆土	浅鉢	胴部片	礫・粗砂(やや少)	良好	赤褐色	横位の隆帯を貼付する。	中期後葉	56
45	8	覆土	深鉢	頸部片	粗砂・長石(やや少)	良好	黒褐色	口縁部は、刻みを施した隆帯で文様帯を区画する。胴部は斜位の沈線で文様帯を区画し、部分的に原体RLの単節斜縄文を横位に施文する。	堀之内2	56
45	9	覆土	鉢?	頸～胴部片	礫・粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	横位の条線を施文する。	加曾利B 1	56
45	10	覆土	円盤	深鉢破片	粗砂・石英・長石・赤粒子(やや少)	良好	にぶい褐色	断面に擦痕。	土製品	56

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
45	11	覆土	磨石	60	45.5	29	109.7	粗粒輝石安山岩	両面磨り、側面凹み	56

5-50号住居跡

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
53	1	炉内埋設土器	深鉢	胴部～底部	礫・粗砂(やや多)	良好	明赤褐色	底径5.2cm・残高24.9cmを測る。沈線で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を施文する。	堀之内1(信州系)	56
53	2	ピット4	深鉢	口縁～胴部	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	褐色	口径20.0cm・残高15.3cmを測る。口唇部に横位の沈線を施文する。胴部の地文は原体LRの単節斜縄文で、2条1組の沈線で文様帯を描く。7と同一か。	堀之内1(信州系)	57
53	3～6	ピット7・11	深鉢	口縁部片	礫・粗砂・長石・片岩(やや多)	良好	灰黄褐色	口径34.6cm・残高14.7cmを測る。口唇部に横位の沈線を施文する。胴部の地文は原体LRの単節斜縄文で、2条1組の沈線で文様帯を区画する。	堀之内1(信州系)	56 57
53	7	ピット4	深鉢	口縁～胴部	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	褐色	口唇部に横位の沈線を施文する。頸部に刻み隆帯を垂下し、胴部の地文は原体LRの単節斜縄文で、2条1組の沈線で文様帯を描く。2と同一か。	堀之内1(信州系)	57
53	8	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	黒褐色	口縁部は波状を呈し、口縁部に沿って内外面に沈線を施文する。胴部の地文は原体LRの単節斜縄文で、沈線で文様帯を描く。	堀之内1(信州系)	57
53	9	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	褐灰色	口縁部には波状の小突起がつく。口縁部内外面には横位の沈線や刺突文が施される。胴部はリボン状突起がつく。胴部は沈線や刺突文で文様帯を描く。	堀之内1(信州系)	57
53	10	ピット4	深鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	良好	褐灰色	口縁部が屈曲する。口縁部は波状を呈し、内外面ともに刺突文を施す。口縁下部と屈曲部に押圧状の刻み文を横位に施文する。	堀之内1(信州系)	57
53	11	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂・長石(多)	良好	橙色	口縁部に波状の小突起がつく。口縁部は横位や斜位の沈線を施文する。	堀之内1(信州系)	57
53	12	ピット11	深鉢	口縁部片	粗砂・赤粒子(多)	良好	にぶい褐色	口縁部に横位の沈線を施文する。胴部の地文はLRの単節斜縄文で、懸垂文と磨消文を垂下させる。	南三十稲場?	57
53	13	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	褐色	口縁下部に横位の沈線を施文する。口縁部文様帯は沈線で文様帯を描く。	称名寺II	57
53	14	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	口唇部に斜位の押圧文を施文する。胴部は縦位・斜位の押圧文を施文する。	南三十稲場	57
53	15	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(多)、石英・長石(少)	良好	にぶい褐色	口唇部に刺突文を施す。外面には円形浮文とそれに連結する沈線と隆帯を垂下する。	後期前葉	57
53	16	ピット11	深鉢	口縁部片	粗砂・石英(少)	良好	にぶい黄褐色	横位の隆帯を貼付する。	後期初頭	57
53	17	ピット3	浅鉢	口縁部片	粗砂・赤粒子(多)	良好	にぶい褐色	内湾する器形で、並行する沈線で横位から斜位に垂下する文様を描出し、沈線間にLRの単節斜縄文を充填する。22と同一か。	堀之内1(信州系)	57
53	18	覆土	深鉢	頸部片	粗砂(多)	良好	灰黄褐色	刺突文や短沈線、縦位・横位の隆帯で文様帯を構成する。	「茂沢類型」?	57
54	19	ピット2・8	深鉢	胴部片	粗砂・石英(やや多)	良好	淡黄色	地文は原体LRの単節斜縄文で、横位から弧状の曲線的に垂下する沈線で文様帯を区画する。	「茂沢類型」?	57
54	20	ピット1	深鉢	胴部片	粗砂・長石(やや少)	良好	にぶい赤褐色	斜位や縦位の沈線を垂下させる。	堀之内1(信州系)	57
54	21	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや多)	良好	にぶい赤褐色	懸垂文を垂下させる。	堀之内1(信州系)	57
54	22	ピット3	浅鉢?	口縁部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	橙色	地文は原体LRの単節斜縄文で、沈線で文様帯を区画する。17と同一か。	堀之内1(信州系)	57
54	23・24	ピット1・2・4・705土坑	深鉢	胴部片	礫・粗砂(多)	良好	にぶい黄褐色	口径37.2cm・残高24.3cmを測る。地文は原体LRの単節斜縄文で、2条1組の沈線で文様帯を描く。	南三十稲場	57
54	25	覆土	深鉢	胴部片	粗砂・石英(少)	良好	にぶい黄褐色	綾杉文を横位に施文する。	南三十稲場?	57

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
54	26	ピット11	深鉢	胴部片	礫・粗砂・石英・長石(やや少)	良好	にぶい黄褐色	刺突文をまばらに施文する。	三十稲場	57
54	27	ピット2	注口	口縁部把手片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	橋状把手で、頂部には渦巻文が施される。	後期前葉(堀之内)	57
54	28	覆土	注口	胴部片	粗砂(やや多)	良好	褐灰色	斜位の沈線と渦巻文、刺突文で文様帯を構成する。沈線や渦巻文の区画内には原体LRの単節斜縄文を充填する。	堀之内2	57
54	29	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、蛇行沈線文や磨消文を施文する。	加曾利E	57
54	30	覆土	深鉢	口縁部突起片	礫・粗砂(やや多)	良好	灰黄褐色	口唇部に巴文や刺突文を施文する突起で、外面には橋状把手がつく。把手の内外面には刺突文や沈線を施文する。	唐草文系III	57
54	31	覆土	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(多)	良好	明褐色	縦位の隆帯や横位・縦位の沈線を施文する。	唐草文系III	57
54	32	覆土	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(多)	良好	にぶい褐色	蕨手文で文様帯を区画し、区画内には短沈線を施文する。	唐草文系III	57
54	33	掘り方土坑	深鉢	胴部～底部	粗砂・石英・長石(少)	良好	明黄褐色	底径5.6cm・残高6.7cmを測る。地文は原体RLの単節斜縄文で、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利EIII	57
54	34	覆土	円盤	深鉢破片	粗砂(やや多)	良好	にぶい褐色	沈線を施文する。	土製品	58
54	35	覆土	円盤	深鉢破片	礫・粗砂(やや多)	良好	橙色	断面に擦痕。	土製品	58
54	36	覆土	円盤	深鉢破片	礫・粗砂(やや多)、石英・長石(少)	良好	にぶい褐色	断面に擦痕。	土製品	58
54	37	覆土	円盤	深鉢破片	粗砂・赤粒子(少)	良好	にぶい橙色	断面に擦痕。	土製品	58
54	38	掘り方土坑	円盤	深鉢破片	粗砂・石英・赤粒子(少)	良好	赤褐色	条線を施文する。	土製品	58
54	39	覆土	円盤	深鉢破片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	断面に擦痕。	土製品	58
54	40	覆土	円盤	深鉢破片	礫・粗砂(やや多)	良好	明褐色	沈線で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を施文する。	土製品	58

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
55	41	覆土	石鏃	14	12.5	2.8	0.3	赤碧玉	平基無茎、完形	58
55	42	覆土	石鏃	15.3	10	2	0.2	黒曜石	凹基無茎、完形	58
55	43	覆土	石鏃	(15)	10	2.8	(0.2)	珪質凝灰岩	凹基無茎、先端欠	58
55	44	覆土	石鏃	(19.9)	10	2.8	(0.2)	黒曜石	凹基無茎、先端欠	58
55	45	覆土	石鏃	(13.5)	11.5	3.3	(0.2)	チャート	凹基無茎、1/2欠	58
55	46	覆土	石鏃	15.8	13	5	1	黒曜石	未製品(ピエス状)	58
55	47	覆土	石鏃	19	25.5	6	2.7	チャート	未製品(スクレイパー状)	58
55	48	覆土	石匙	39	(43)	8.5	(13.5)	黒色安山岩	横長、右端欠	58
55	49	覆土	スクレイパー	33	52.5	7	12.2	チャート	横長、刃部下側	58
55	50	覆土	打製石斧	(72)	37	23	(79.7)	細粒輝石安山岩	短冊形、刃部欠	58
55	51	ピット5	石核	85	71	29	227.6	黒色安山岩	打製石斧未製品?	58
55	52	ピット1	小型磨製石斧	(49)	34	13	(31.7)	蛇紋岩	刃部欠	58
55	53	床面	磨石	53	39	26	71	粗粒輝石安山岩	両面磨り	58
55	54	ピット8	磨石	67	55	25	150.5	流紋岩	両面磨り	58
55	55	床面	磨石	76	63	23	160	粗粒輝石安山岩	両面磨り	58
55	56	ピット5	磨石	78	61	27	187.1	粗粒輝石安山岩	両面磨り、被熱	58
55	57	覆土	磨石	103	92	57	846	安山岩	両面磨り、煤付	58
55	58	床面	磨石	97	79	41	446	粗粒輝石安山岩	両面磨り、剥離・煤付	58
55	59	ピット2	磨石	84	72	33	348.4	粗粒輝石安山岩	両面磨り	58
56	60	床面	磨石	74	68	23	208.4	粗粒輝石安山岩	両面磨り	58
56	61	床面	磨石	81	73	27	247.6	粗粒輝石安山岩	両面磨り	58
56	62	覆土	磨石	118	85	41	640	粗粒輝石安山岩	両面磨り	58

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
56	63	覆土	磨石	90	70	45	352.3	粗粒輝石安山岩	両面磨り、被熱・煤付	58
56	64	覆土	凹石	123	97	46	532.4	粗粒輝石安山岩	両面磨り、剥離・煤付	58
56	65	覆土	磨石	131	89	48	920.6	粗粒輝石安山岩	両面磨り	58
56	66	床面	磨石	166	58	42	747.2	粗粒輝石安山岩	両面磨り、煤付	58
56	67	ピット8	凹石	(86)	72	40	(342.2)	粗粒輝石安山岩	両面磨り、1/2欠	58
57	68	覆土	磨石	(127)	89	53	(991)	粗粒輝石安山岩	両面磨り、一部欠	58
57	69	覆土	凹石	131	82	51	820.1	粗粒輝石安山岩	両面磨り、被熱	58
57	70	ピット11	磨石	178.5	53	44	744	粗粒輝石安山岩	両面・側面磨り	58
57	71	覆土	凹石	88	94	(54)	(467.5)	粗粒輝石安山岩	被熱、側面凹み	58
57	72	覆土	凹石	97	65	41	410.4	粗粒輝石安山岩	両面磨り	58
57	73	覆土	凹石	64.5	58	28	155.1	粗粒輝石安山岩	両面磨り、被熱・剥離	58
57	74	699土坑	磨石	105	67	39	452	粗粒輝石安山岩	両面磨り	58
57	75	ピット11	凹石	(122)	67	43	(561.3)	粗粒輝石安山岩	両面磨り、1/2欠	58
58	76	覆土	凹石	137	88	44	851.2	粗粒輝石安山岩	両面磨り、被熱・煤付	58
58	77	ピット8	磨石	149	58	48	690.5	粗粒輝石安山岩	両面磨り	59
58	78	覆土	凹石	150	62	37	603.2	粗粒輝石安山岩	両面磨り、被熱・煤付	59
58	79	覆土	多孔石	125	109	70	1,200	粗粒輝石安山岩	側面凹み	59
58	80	ピット11	凹石	141	131.5	99	2,690	粗粒輝石安山岩	両面磨り、煤付	59
58	81	覆土	多孔石	163	132	85	2,200	粗粒輝石安山岩	側面凹み	59
59	82	ピット11	多孔石	212	191	139	4,210	粗粒輝石安山岩	側面凹み	59
59	83	覆土	凹石	113	103	76	808.6	安山岩	側面凹み	59
59	84	覆土	多孔石	(167)	127	68	(1,200)	粗粒輝石安山岩	裏面凹み	59
59	85	覆土	多孔石	245	155	105	4,050	粗粒輝石安山岩	側面凹み	59
60	86	覆土	多孔石	164	151	127	3,310	粗粒輝石安山岩	側面凹み	59
60	87	覆土	多孔石	154	152	107	2,100	粗粒輝石安山岩	側面凹み	59
60	88	覆土	石皿	(142)	144	95	(3,490)	細粒輝石安山岩	両面磨り、1/2欠	59
60	89	覆土	石皿	(208)	(162)	112	(3,400)	粗粒輝石安山岩	1/4残、側面凹み	59
60	90	覆土	石皿	(262)	302	27	(6,890)	粗粒輝石安山岩	両面磨り、1/2欠	59
61	91	覆土	石棒	(66)	(43)	(18)	(84.2)	緑泥片岩	小型、破片	59
61	92	覆土	石棒	(191)	126	74	(2,700)	緑泥片岩	胴部片、多孔石転用	59
61	93	覆土	石棒	(161)	(125)	68	(2,000)	緑泥片岩	胴部片、多孔石転用	59

5-51号住居跡

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
62	1	ピット7	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや多)	良好	にぶい黄 橙色	口径44cm・残高13.8cmを測る。横位の隆帯と対弧文を垂下させる。連結部に押圧文を施文する。	後期初頭	60
62	2	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	黒褐色	隆帯を貼付して文様帯を構成する。	後期初頭	60
62	3	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	良好	灰黄褐色	押圧文を施した横位の隆帯を貼付する。	後期初頭	60
62	4	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	良	にぶい黄 橙色	圧文を施した横位の隆帯を貼付する。	後期初頭	60
62	5	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄 橙色	口縁部は波状を呈する。口縁部文様帯は、横位の隆帯で文様帯を区画し、区画内に横位の押圧文を施文する。	「閑沢類型」? ?	60
62	6	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂・金雲母(少)	良好	黒褐色	口縁部が内側へ肥厚する。横位の沈線で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を充填する。	称名寺II	60
63	7	覆土	浅鉢(注口?)	口縁～ 底部	粗砂(やや多)	良好	褐色	口縁部はく字状に屈曲する。口縁部は渦巻文や楕円文の区画内に原体LRの単節斜縄文を充填して文様帯を構成する。	称名寺II	60
63	8	ピット8	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄 橙色	頸部に楕状把手の基部が看取され、地文には刻むような短沈線状の刺突文を施す。	三十稲場	60
63	9	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや多)	良好	黒色	刻むような短沈線状の刺突文を施す。	三十稲場	60
63	10	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや多)	良好	にぶい黄 橙色	刻むような短沈線状の刺突文を施す。	三十稲場	60
63	11	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや多)	良好	にぶい赤 褐色	刻むような短沈線状の刺突文を施す。	三十稲場	60
63	12	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	浅黄褐色	爪形の刺突文を施す。	三十稲場	60

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
63	13	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	灰褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、弧状の隆帯で文様帯を描く。	「閑沢類型」?	60
63	14	覆土	深鉢	胴部片	粗砂・白粒子(多)	良好	にぶい赤褐色	弧状の沈線で文様帯を描く。内面に炭化物が付着。	堀之内1(信州系)	60
63	15	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや多)	良好	黒褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、沈線で文様帯を描く。	堀之内2	60
63	16	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(多)	良好	灰黄褐色	刺突文を施した突起がつく。胴部文様帯は沈線で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を施文する。	堀之内2	60
63	17	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	良好	にぶい赤褐色	横位の沈線を施文した後、斜位の沈線を施文する。	後期前葉	60
63	18	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	黒褐色	櫛歯状工具による条線を弧状に施文する。	南三十稲場	60
63	19	ピット11	注口	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい褐色	沈線で文様帯を描く。赤黒塗彩が施されている。	称名寺II	60
63	20	覆土	注口	胴部片	礫・粗砂・石英・長石(やや多)	良好	にぶい褐色	渦巻文や沈線で文様帯を区画し、区画内に原体RLの単節斜縄文を充填する。	堀之内2	60
63	21	覆土	注口	注口部	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	にぶい黄橙色	注口部1/4欠損。	後期	60
63	22	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(少)	良好	にぶい褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、懸垂文や磨消文で文様帯を描く。	加曾利EIII	60
63	23	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや多)	良好	灰褐色	沈線と隆帯で文様帯を描く。	唐草文系	60
63	24	覆土	深鉢	頸部片	礫・粗砂(やや多)	良好	褐灰色	横位の隆帯で文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。	中期後葉	60
63	25	覆土	深鉢	底部	粗砂(やや多)	良好	灰黄褐色	底径7.2cm・残高1.3cmを測る。底部に網代痕。	後期?	60
63	26	覆土	円盤	深鉢破片	粗砂(やや多)	良好	褐色	条線を施文する。	土製品	60
63	27	覆土	円盤	深鉢破片	粗砂(やや少)	良好	橙色	断面に擦痕。	土製品	60
63	28	覆土	円盤	深鉢破片	粗砂(少)	良好	黒褐色	断面に擦痕。	土製品	60
63	29	覆土	円盤	深鉢破片	粗砂(やや少)	良好	橙色	断面に擦痕。	土製品	60
63	30	覆土	円盤	深鉢破片	粗砂(やや少)	良好	黒褐色	横位の隆帯を貼付する。	土製品	60
63	31	覆土	円盤	深鉢破片	粗砂(やや少)	良好	橙色	断面に擦痕。	土製品	60
63	32	覆土	円盤	深鉢破片	礫・粗砂(やや多)	良好	黒褐色	条線を施文する。	土製品	60
63	33	覆土	円盤	深鉢破片	礫・粗砂(やや多)	良好	黒褐色	断面に擦痕。	土製品	60

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
63	34	覆土	石鏃	17	13.5	3	0.5	黒曜石	凹基無茎、完形	60
63	35	覆土	石鏃	(17)	13	3	(0.5)	赤碧玉	凹基無茎、先端欠	60
63	36	覆土	石鏃	(9.2)	17	3	(0.4)	黒曜石	凹基無茎、先端1/2欠	60
63	37	ピット8	石鏃	33.5	21	11	5.4	黒曜石	円基有茎?、完形	60
63	38	覆土	スクレイパー	50	44	17	40	黒色頁岩	ピエス・打斧転用?	60
63	39	覆土	スクレイパー	(88)	49	15	(69.4)	黒色頁岩	縦長、両側刃・下部欠	60
63	40	覆土	打製石斧	(54)	46	14	(46.7)	黒色頁岩	短冊形、基部のみ	60
64	41	覆土	打製石斧	(74)	57	19	(91.1)	粗粒輝石安山岩	撥形、基部のみ	60
64	42	覆土	石核	95	89	62	641.4	細粒輝石安山岩	台形状の形状	60
64	43	覆土	磨製石斧	(795)	55	29	(273.7)	蛇紋岩	基部欠後二次整形	60
64	44	覆土	磨石	43	38.5	15	33.7	デイサイト	両面磨り	60
64	45	覆土	磨石	69	41	23	116.1	粗粒輝石安山岩	両面磨り	60
64	46	覆土	磨石	103	38	26	176.8	粗粒輝石安山岩	両面・側面磨り	60
64	47	覆土	磨石	(58)	51	18	(99.3)	粗粒輝石安山岩	両面磨り、1/2欠	60
64	48	覆土	磨石	115	110	66	1,182.5	粗粒輝石安山岩	両面磨り	60
64	49	覆土	磨石	52	51	25	106.4	石英閃緑岩	両面磨り、側面凹み	60
64	50	覆土	凹石	105	100	55	856.1	粗粒輝石安山岩	両面磨り、煤付	60
64	51	覆土	磨石	73	65	28	208.8	粗粒輝石安山岩	両面磨り	61
65	52	覆土	磨石	86	79	26	295.3	粗粒輝石安山岩	両面磨り、煤付	61
65	53	覆土	磨石	95	77	66	768.4	粗粒輝石安山岩	両面磨り、側面凹み	61

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
65	54	ピット8	磨石	(71)	(54)	31	(170.2)	石英閃緑岩	両面磨り、破片、煤付	61
65	55	覆土	磨石	101	(69)	61	(691)	粗粒輝石安山岩	両面磨り、1/3欠	61
65	56	ピット4	凹石	84	82	40	429.1	玄武岩	両面磨り、全面煤付	61
65	57	覆土	凹石	(104)	99	45	(761.9)	粗粒輝石安山岩	両面磨り、両端欠	61
65	58	覆土	凹石	135	80	24	374.4	粗粒輝石安山岩	両面磨り	61
65	59	覆土	磨石	107	93	50	733.2	粗粒輝石安山岩	両面・側面磨り	61
65	60	覆土	磨石	146	62	34	469.6	粗粒輝石安山岩	両面磨り	61
66	61	覆土	凹石	108	92	60	933.6	粗粒輝石安山岩	両面磨り、煤付	61
66	62	覆土	石皿	(113)	134	58	(1,285.8)	粗粒輝石安山岩	両面磨り、破片、煤付	61
66	63	覆土	石皿	(147)	(117)	(95)	(1,600)	粗粒輝石安山岩	破片、側面凹み	61
66	64	覆土	凹石	(178)	(141)	108	(3,200)	粗粒輝石安山岩	破片、側面凹み	61
66	65	覆土	石棒	(208)	127	108	(4,100)	緑泥片岩	胴部片、多孔石転用	61
66	66	ピット4	石棒	(71)	(70)	(49)	(336.5)	緑泥片岩	破片、凹み	61
66	67	覆土	多孔石	140	106	62	942.1	粗粒輝石安山岩	側面凹み	61
66	68	覆土	多孔石	143	98	60	1,000	粗粒輝石安山岩	裏面磨り	61
67	69	覆土	多孔石	225	179	94	3,510	粗粒輝石安山岩	側面凹み、一部磨り	61
67	70	覆土	多孔石	231	217	145	8,200	粗粒輝石安山岩	側面凹み	61
67	71	覆土	多孔石	284	230	136	9,380	粗粒輝石安山岩	側面凹み	61
67	72	覆土	多孔石	376	246	148	14,500	粗粒輝石安山岩	側面凹み	61

5-52号住居跡

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
69	1	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや多)	良好	にぶい黄褐色	無文を呈する。	後期前葉	62
69	2	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂・石英(少)	良好	にぶい黄橙色	口縁部は波状を呈する。外面は横位の微隆帯を貼付し、内面には口縁部に沿って横位の沈線を施文する。	後期前葉	62
69	3	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや多)	良好	にぶい黄橙色	刻みの施された隆帯を垂下させる。	堀之内2	62
69	4	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂・赤粒子(やや少)	良好	にぶい褐色	斜位から横位の並行する沈線で文様を描出する。	堀之内2	62
69	5	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(多)	良好	橙色	斜位の沈線を施文する。	後期前葉	62
69	6	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(少)	良好	灰黄褐色	半円状の隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を充填する。	「関沢類型」?	62
69	7	炉跡	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや多)	良好	橙色	地文は原体LRの単節斜縄文で、懸垂文を垂下させる。	加曾利E III	62
69	8	炉跡	深鉢	胴部片	粗砂・長石(やや多)	良好	灰黄褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、懸垂文と磨消文を垂下させる。	加曾利E III	62
69	9	炉跡	深鉢	胴部片	礫・粗砂・石英・長石(やや多)	良好	にぶい橙色	地文は原体LRの単節斜縄文で、蛇行沈線文、懸垂文、磨消文を垂下させる。磨消しの幅が広い。	加曾利E IV	62
69	10	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや多)	良好	黄橙色	地文は原体RLの単節斜縄文で、斜位沈線、懸垂文、磨消文を垂下させる。	加曾利E	62
69	11	床面	深鉢	底部	礫・粗砂・石英・長石(やや多)	良好	灰黄褐色	底径11cm・残高2.3cmを測る。底部に網代痕。	後期	62

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
69	12	覆土	石鏃	13.5	9.3	2.8	0.2	黒曜石	凹基無茎、完形	62
69	13	覆土	小型磨製石斧	(50)	30	90	(23.6)	蛇紋岩	刃部欠	62
69	14	覆土	磨石	95	72	35	360.5	粗粒輝石安山岩	両面磨り	62
69	15	覆土	凹石	(84)	145	90	(1,239.4)	粗粒輝石安山岩	石皿破片?、裏面磨り	62
69	16	覆土	石皿	(195)	(158)	(78)	(2,820)	粗粒輝石安山岩	1/4残、側面凹み	62
69	17	覆土	凹石	(320)	272	(135)	(14,800)	粗粒輝石安山岩	石皿?、側面磨り	62
69	18	覆土	多孔石	240	248	187	11,400	粗粒輝石安山岩	側面凹み	62

遺物観察表

6-10号住居跡

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
71	1	覆土	深鉢	口縁～胴部	粗砂(やや少)	良好	褐色	口径20cm・残高27.5cmを測る。口縁下部に穿孔を施す。	後期前葉(～中葉?)	62
71	2	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや少)	良好	黒褐色	口縁部は小突起に連続する橋状把手がつく。胴部は原体LRの単節斜縄文で、横位の列点文を施す。3と同一。	後期前葉	62
71	3	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや少)	良好	黒褐色	口縁部は小突起に連続する橋状把手がつく。胴部は原体LRの単節斜縄文で、横位の列点文を施す。2と同一。	後期前葉	62
71	4	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	暗褐色	爪形の刺突文を列点状に施文する。	三十稲場	62
71	5	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄橙色	口縁部は小波状を呈する。口縁部は渦巻文や斜位の条線、横位の条線を施文する。	堀之内1(信州系)	62
71	6	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	刻みを施した横位隆帯を貼付する。	堀之内2	62
71	7	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	褐灰色	口縁部は内面に横位沈線を巡らす。外面は平行線化した帯縄文で文様を描出する。	堀之内2	62
71	8	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	褐色	口縁部内面に横位沈線を巡らす。	後期前葉	62
71	9	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	黒褐色	口唇部に棒状工具による押圧文を施す。内面は横位の列点文や隆帯を施文する。	加曾利B1	62
71	10	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	灰黄褐色	口唇部に棒状工具による押圧文を施す。内面は横位の列点文や隆帯、刻みを施した隆帯や沈線を施文する。	加曾利B1	62
71	11	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂・長石(やや少)	良好	褐色	沈線で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。	「茂沢類型」?	62
71	12	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	灰褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、渦巻文を施文する。	「茂沢類型」?	62
71	13	覆土	深鉢	突起	礫・粗砂(やや少)	良好	にぶい黄橙色	環状の穿孔を持つ突起で、原体LRの単節斜縄文や刺突文、条線や蕨手文などで加飾する。	称名寺II	62
71	14	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや多)	良好	にぶい黄橙色	刺突文や隆帯で文様を描く。	「茂沢類型」?	62
71	15	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや多)	良好	にぶい橙色	渦巻文を施文する。	「茂沢類型」?	62
71	16	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、沈線や刺突文を施した円形文で文様帯を描く。	「茂沢類型」?	62
71	17	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや少)	良好	橙色	地文は原体LRの単節斜縄文で、櫛歯状工具による沈線を施文する。	加曾利EIII	62
71	18	覆土	深鉢	胴部～底部	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄橙色	底径11cm・残高2.9cmを測る。底面に網代痕。	後期	62

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
71	19	覆土	磨石	(74)	57	26	(149.1)	粗粒輝石安山岩	両面磨り、1/2欠	62
71	20	覆土	磨石	105	87	55	758.8	粗粒輝石安山岩	両面磨り、煤付	62
71	21	覆土	凹石	(80)	62	35	(219)	粗粒輝石安山岩	表面磨り、1/2欠	62

6-11号住居跡

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
75	1	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや少)	良好	褐灰色	口縁部に横位の沈線を施文する。	堀之内1(信州系)	63
75	2	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい橙色	口縁部は波状を呈し、内面に横位の微隆帯を貼付する。外面は渦巻文や横位・斜位の沈線で文様帯を描く。	堀之内1(信州系)	63
75	3	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	褐灰色	口縁部に刺突文や横位の条線、連続押圧文を施文する。	堀之内1(信州系)	63
75	4	ピット6	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	灰白色	口縁部は横位の条線と連続押圧文を横位に施文する。	堀之内1(信州系)	63
75	5	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい褐色	口縁部は列点文や縦位・横位の条線や隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を充填する。	南三十稲場?	63

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
75	6	ピット10	深鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	良好	明褐色	口唇部に横位の沈線を施文する。	後期前葉	63
75	7	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	黒褐色	T字状の隆帯を貼付した後、交点に円形の貼付文を施す。	後期初頭	63
75	8	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい褐色	隆帯による対弧文で文様帯を区画し、区画内には原体Lを充填する。	後期初頭	63
75	9	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや少)	良好	にぶい褐色	爪形の刺突文を全面的に施文する。	三十稲場	63
75	10	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい褐色	爪形の刺突文を全面的に施文する。	三十稲場	63
75	11	覆土	深鉢	胴部片	粗砂・石英(やや少)	良好	褐色	刺突状の連続する短沈線を垂下させる。12と同一。	三十稲場	63
75	12	覆土	深鉢	胴部片	粗砂・石英(やや少)	良好	褐色	刺突状の連続する短沈線を垂下させる。11と同一。	三十稲場	63
75	13	覆土	深鉢	胴部片	粗砂・石英(やや少)	良好	にぶい褐色	爪形の刺突文を全面的に施文する。	三十稲場	63
75	14	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	黒褐色	爪形の刺突文を施文する。	三十稲場	63
75	15	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	斜位の沈線を垂下させる。16と同一。	南三十稲場?	63
75	16	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	縦位・斜位の沈線を垂下させる。15と同一個体。	南三十稲場?	63
75	17	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	綾杉文や条線を垂下させる。	南三十稲場?	63
75	18	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや少)	良好	にぶい褐色	渦巻文を施文する。	堀之内1(信州系)	63
75	19	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや多)	良好	黒褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、斜位の沈線で文様帯を描く。	堀之内2	63
75	20	ピット10	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、斜位の隆帯を施文する。	加曾利E	63
75	21	炉跡	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい赤褐色	斜位と綾杉状の沈線を施文する。	唐草文系	63
75	22	ピット1	円盤	深鉢口縁部片	粗砂・石英(やや少)	良好	橙色	口縁部内面に肥厚し、外面は横位の沈線を施文する。断面に擦痕。	土製品	63

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
75	23	覆土	磨石	(71)	(93)	28	(151.6)	粗粒輝石安山岩	両面磨り、破片	63

6-12号住居跡

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
76	1	埋設土器	深鉢	頸~胴部	礫・粗砂(やや多)	良好	橙色	残高30.8cmを測る。口縁部は、刺突文や渦巻き状の隆帯、楕円形の隆帯で区画された原体LRの単節斜縄文で文様帯を構成する。胴部の地文は原体LRの単節斜縄文で、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E III	63
76	2	炉内埋設土器	深鉢	口縁~胴部	礫・粗砂(やや少)	良好	橙色	口径16cm・残高17cmを測る。口縁部文様帯は、端部が蕨手状の沈線で文様帯を区画する。地文は原体LRの単節斜縄文で、∩字状沈線や縦位沈線、磨消文を垂下させる。	加曾利E III	63
76	3	床面	深鉢	口縁~底部	礫・粗砂(やや少)	良好	にぶい赤褐色	口径20.5cm・高さ24.2cm・底径4.8cmを測る。口縁部は4単位の波状口縁で、地文は原体RLの単節斜縄文を施文し、U字状の懸垂文や磨消文で文様帯を区画する。	加曾利E III	63
76	4	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	良好	にぶい黄褐色	隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を横位に施文する。	加曾利E III	63
76	5	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	良好	にぶい黄褐色	口縁部は波状を呈し、横位の沈線を施文する。口縁部は隆帯で文様帯を区画し、区画内と隆帯上に原体LRの単節斜縄文を横位に施文する。	加曾利E III	63

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
77	6	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや多)	良好	にぶい橙色	口縁部は波状を呈する。口縁部は隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には原体L Rの単節斜縄文を横位に施文する。胴部の地文は原体R Lの単節斜縄文で、懸垂文と磨消文を垂下させる。	加曾利E III	63
77	7	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	褐色	口縁部は舌状を呈し、蕨手文で文様を描く。胴部は原体L Rの単節斜縄文を縦位に施文する。	加曾利E III	63
77	8	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	褐色	地文は縦位の条線で、横位の隆帯を貼付する。	加曾利E III	63
77	9	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄橙色	渦巻文と沈線で文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。	「郷土式」?	63
77	10	覆土	深鉢	口縁部突起片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	にぶい黄褐色	棒状工具による横位の押圧文を施した隆帯を貼付する。	唐草文系	63
77	11	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	黒褐色	口唇部に刺突文を施した横位の隆帯を貼付する。	唐草文系III	63
77	12	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	地文は原体R Lの単節斜縄文で、横位の隆帯を貼付する。	加曾利E IV	63
77	13	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂・石英・長石(やや少)	良好	褐色	横位弧状の曲線的な隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体R Lの単節斜縄文を充填する。	後期初頭	63
77	14	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや少)	良好	橙色	横位の隆帯を貼付する。	後期初頭	63
77	15	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂・長石(やや少)	良好	にぶい黄褐色	斜位の刻みを施した横位の隆帯を貼付する。	後期初頭	63
77	16	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂・石英・長石(やや少)	良好	暗灰黄色	口縁部は波状を呈し、やや内面に突出する。地文は原体R Lの単節斜縄文で、横位の隆帯と刺突文、蛇行する隆帯を垂下させる。	「関沢類型」	63
77	17	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	口縁部には円環をもつ橋状把手がつく。胴部は原体R Lの単節斜縄文を縦位に施文する。18・19と同一。	加曾利E IV	64
77	18	覆土	深鉢	口縁部把手片	粗砂(やや少)	良好	にぶい褐色	穿孔をもつ中空の突起で、沈線を施文する。17・19と同一。	加曾利E IV	64
77	19	覆土	深鉢	口縁部把手片	粗砂(やや少)	良好	褐灰色	穿孔をもつ中空の突起で、沈線を施文する。17・18と同一。	加曾利E IV	64
77	20	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	にぶい黄褐色	口縁部は波状を呈し、口縁部は幅広の押圧文と沈線で区画された原体L Rの単節斜縄文を施文する。	加曾利E IV	64
77	21	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂・長石(やや少)	良好	にぶい黄褐色	口縁部は内外面に肥厚する。内外面に赤色塗彩。	中期後葉	64
77	22	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂・長石(やや少)	良好	橙色	口縁部は内側に肥厚する。	中期後葉	64
77	23	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	黄褐色	口縁部内面に横位の隆帯を貼付する。口縁部は棒状工具による押圧文を施した横位の隆帯を貼付する。胴部は斜位・横位の条線を施文する。	堀之内2	64
77	24	覆土	注口	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	明黄褐色	穿孔をもつ横位の橋状把手である。	後期初頭	64
77	25	覆土	深鉢	口縁～頸部片	礫・粗砂・長石(やや多)	良好	橙色	隆帯と刻み文、刺突文で文様帯を区画し、区画内には原体R Lの単節斜縄文を充填する。	加曾利E II	64
77	26	覆土	深鉢	口縁(頸)部片	礫・粗砂(やや多)	良好	にぶい黄褐色	蕨手状隆帯を貼付する。外面に赤色塗彩。	中期後葉	64
77	27	覆土	深鉢	頸部片	粗砂・石英・長石(多)	良好	褐色	地文は縦位の沈線で、横位の条線や円形沈線を施した貼付文で文様帯を区画する。	唐草文系III	64
77	28	覆土	深鉢	頸部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	黒褐色	端部が蕨手状隆帯と横位の隆帯を貼付した後、横位の綾杉文を施文する。	唐草文系III	64
77	29	覆土	深鉢	頸部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	にぶい黄褐色	蕨手文と横位の隆帯を貼付した後、沈線を垂下させる。	唐草文系III	64
77	30	覆土	深鉢	頸部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	褐色	横位の沈線を施文する。	中期後葉	64

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
78	31~33	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや少)	良好	にぶい褐色	隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を充填する。	大木系?	64
78	34	炉跡	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや少)	良好	橙色	地文は原体LRの単節斜縄文で、懸垂文と磨消文を垂下させる。	加曾利E	64
78	35	覆土	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	にぶい黄褐色	半裁竹管の半隆起線と平行沈線を横位施文後、縦位に垂下して施文する。	唐草文系?	64
78	36	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	縦位・斜位の沈線と刺突文を垂下させる。	越後系?	64
78	37	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	明赤褐色	鋭い沈線による綾杉文を垂下させる。	越後系?	64
78	38	覆土	深鉢	胴部片	粗砂・長石(やや多)	良好	にぶい赤褐色	沈線による懸垂文の区画内に雨垂れ状の短沈線を施文する。	曾利V	64
78	39	覆土	深鉢	底部片	粗砂・赤粒子(少)	良好	橙色	台部がつく。	後期?	64
78	40	覆土	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	灰黄褐色	斜位の沈線と刺突文で文様帯を構成する。	称名寺II	64
78	41	覆土	深鉢	頸~胴部片	粗砂(やや多)	良好	灰黄褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、刺突文や沈線で文様帯を区画する。	堀之内1(信州系)	64
78	42	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや少)	良好	暗灰黄色	無文を呈し、内面に赤色塗彩。	後期前葉	64
78	43	覆土	深鉢	胴部~底部	礫・粗砂・赤粒子(多)	良好	にぶい赤褐色	底径8.8cm・残高4.7cmを測る。地文は原体LRの単節斜縄文で、懸垂文と磨消文を垂下させる。	加曾利EIII	64

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
78	44	覆土	石鏃	(18)	(16.3)	4	(1)	黒曜石	基部欠	64
78	45	覆土	石鏃	20	20	4	(1.1)	黒曜石	凹基無茎、脚欠	64
78	46	覆土	石鏃	(27.8)	13	5	(2.2)	黒曜石	柄あり、先端欠	64
78	47	覆土	打製石斧	(124)	65	22	(161.2)	粗粒輝石安山岩	撥形、刃部欠	64
78	48	覆土	打製石斧	(81)	56	17	(83.5)	粗粒輝石安山岩	短冊形?、基部のみ	64
78	49	覆土	打製石斧	(57)	52	16	(53.9)	細粒輝石安山岩	短冊形?、基部のみ	64
78	50	覆土	打製石斧	(119)	73	30	(299.1)	緑泥片岩	撥形、石棒片、未製品?	64
79	51	覆土	打製石斧	(61)	64	12	(69.9)	細粒輝石安山岩	撥形、刃部のみ	64
79	52	覆土	磨石	118	96	54	897.5	粗粒輝石安山岩	両面磨り、側面凹み	64
79	53	覆土	磨石	89	51	43	263	石英閃緑岩	表・両側面磨り	64
79	54	覆土	磨石	57	40	25	77.5	(不明)	表面磨り	64
79	55	覆土	磨石	(64)	31	22	(50.8)	粗粒輝石安山岩	表面磨り、被熱、煤付	64
79	56	覆土	磨石	115	72	45	650	粗粒輝石安山岩	両面磨り、側面凹み	64
79	57	覆土	磨石	(57)	60	30	(139)	粗粒輝石安山岩	両面磨り、側面凹み	64
79	58	覆土	磨石	72	60	47	315.3	石英閃緑岩	両面・下側面磨り	64
79	59	覆土	石皿	(240)	(192)	85	(4,900)	粗粒輝石安山岩	両面磨り、1/4残	64

6-13号住居跡

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
81	1	覆土	深鉢	口縁~胴部	礫・粗砂・長石(多)	良好	赤褐色	口径30.5cm・残高17.5cmを測る。口縁部文様帯は端部が蕨手状の隆帯で区画した後、区画内を斜位短沈線を施文する。胴部はU・ \square 字状沈線、渦巻文、蛇行沈線文、斜位の短沈線を施文する。	「郷土式」	65
81	2	炉内埋設土器	深鉢	口縁~胴部	礫・粗砂(多)	良好	にぶい黄褐色	口径14.5cm・残高14.5cmを測る。口縁部は小波状を呈し、口縁部文様帯には蕨手状の隆帯と横位の隆帯で区画した中に斜位の短沈線を施文する。胴部は \square 字状の隆帯と斜位の沈線を施文する。	「郷土式」	65
81	3	炉跡上位	深鉢	口縁~底部	礫・粗砂(やや多)	良好	にぶい赤褐色	口径16.4cm・残高21cm・底径7cmを測る。口縁部は隆帯で文様帯を区画し、区画内に短沈線を施文する。胴部は縦位の蛇行する隆帯と横位・斜位の沈線を施文する。	「郷土式」	65

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
81	5	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	にぶい褐色	縦位の沈線と横位の2条の隆帯を貼付する。	唐草文系III	65
81	6	覆土	鉢	口縁部片	粗砂・長石(やや多)	良好	橙色	隆帯と沈線で文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。	唐草文系III	65
81	7	覆土	深鉢	頸部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	横位の条線と交互刺突文を施文する。	唐草文系III	65
81	8・9	覆土	深鉢	口縁～胴部	礫・粗砂・長石(やや少)	良好	にぶい黄褐色	口径28.4cm・残高14.9cmを測る。口縁部は4単位の波状口縁である。口縁部文様帯は隆帯で文様を区画した中に、原体RLの単節斜縄文を縦位・斜位に施文する。胴部は□字状の区画の中に原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。	加曾利E III	65
81	10	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂・石英(やや少)	良好	にぶい黄褐色	口縁部は横位の2条の沈線間に刺突文を施文する。胴部は原体LRの単節斜縄文を縦位に施文する。	加曾利E IV	65
81	11	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(多)	良好	にぶい赤褐色	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。	加曾利E IV	65
81	12	覆土	深鉢	頸部片	礫・粗砂・長石(やや多)	良好	にぶい褐色	隆帯で文様帯を区画し、区画内には沈線を施文する。	「郷土式」	65
81	13	覆土	深鉢	頸～胴部片	粗砂(少)	良好	黒褐色	口縁部は隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には沈線を縦位に施文する。胴部の地文は原体LRの単節斜縄文で、懸垂文と磨消文を垂下させる。	加曾利E III	65
81	14	覆土	深鉢	頸～胴部片	粗砂(やや少)	良好	明赤褐色	口縁部は隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。胴部の地文は原体RLの単節斜縄文で、懸垂文と磨消文を垂下させる。胴部内面に炭化物痕あり。	加曾利E III	65
81	15	覆土	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	にぶい褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、横位の沈線と渦巻状の弧状沈線を施文する。	加曾利E III (大木系?)	65
81	16	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや少)	良好	橙色	胴部の地文は原体RLの単節斜縄文で、懸垂文と磨消文を垂下させる。	加曾利E III	65
82	17・18	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂・長石(やや多)	良好	橙色	胴部の地文は原体RLの単節斜縄文で、懸垂文と磨消文を垂下させる。	加曾利E III	65
82	19	覆土	鉢	口縁～胴部	礫・粗砂・長石(やや少)	良好	浅黄褐色	口径35cm・残高11.7cmを測る。口縁部は無文で、胴部は蕨手文と隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を縦位に施文する。	加曾利E III	65
82	20	覆土	浅鉢	口縁～胴部	礫・粗砂・長石(多)	良好	明黄褐色	口径42cm・残高15.2cmを測る。無文を呈する。	中期後葉	65
82	21	覆土	浅鉢	口縁部片	礫・粗砂・石英・長石(やや多)	良好	にぶい褐色	無文を呈する。	中期後葉	66
82	22	覆土	深鉢	口縁部把手片	礫・粗砂(やや少)	良好	橙色	円環状の突起で、渦巻文刺突文、条線で加飾する。	唐草文系III	66
82	23	覆土	深鉢	底部	礫・粗砂・石英・長石(やや多)	良好	明黄褐色	底径9.4cm・残高4.4cmを測る。無文を呈する。	後期?	66

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
82	24	覆土	打製石斧	(32)	44	11	(15.2)	黒色頁安山岩	撥形、基部のみ	66
82	25	覆土	打製石斧	(62)	54	15	(55.5)	細粒輝石安山岩	撥形、刃部のみ	66
82	26	覆土	打製石斧	(94)	64	21	(153)	粗粒輝石安山岩	短冊形、基部欠	66
82	27	覆土	磨石	89	83	60	717.8	粗粒輝石安山岩	両面・側面磨り	66
82	28	炉跡	石皿	(168)	(67)	44、深29	(1072.1)	緑泥片岩	両面磨り、石棒転用	66

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
82	29	炉跡	多孔石	359	216	158	12,800	粗粒輝石安山岩	側面凹み	66

95-1号住居跡

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
86	1	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	暗褐色	交互刺突文を横位に施文する。	唐草文系Ⅲ	66
86	2	炉跡	深鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	良好	明褐色	口縁部は小突起がつき、内面に横位の隆帯を貼付する。口唇部に蕨手文を施文する。	唐草文系Ⅲ	66
86	3	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい赤褐色	口縁部は小突起がつく。口唇部に沈線を施文する。	唐草文系Ⅲ	66
86	4	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい赤褐色	無文を呈する。	唐草文系Ⅲ	66
86	5	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや少)	良好	灰黄褐色	懸垂文を垂下させた後、口縁下部に横位の沈線を施文する。	唐草文系Ⅲ	66
86	6	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや少)	良好	黒褐色	隆帯と沈線で文様帯を区画し、区画内には沈線を施文する。	唐草文系Ⅲ	66
86	7	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	良好	にぶい黄褐色	口縁部内面はやや肥厚する。	唐草文系?	66
86	8	覆土	深鉢	頸部片	粗砂(やや少)	良好	褐色	三角状突起を貼付した後、横位の沈線を施文する。	唐草文系?	66
86	9	覆土	深鉢	頸部片	粗砂・長石・金雲母(やや多)	良好	にぶい黄褐色	渦巻文と横位の隆帯を貼付する。	唐草文系Ⅲ	66
86	10	覆土	深鉢	頸部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	黒褐色	隆帯で文様帯を区画し、区画内には条線を垂下させる。	唐草文系Ⅲ	66
86	11	覆土	深鉢	頸部片	粗砂・長石(多)	良好	にぶい赤褐色	端部が蕨手状の隆帯と沈線で文様帯を区画し、区画内には綾杉文を垂下させる。	越後系?	66
86	12	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや多)	良好	にぶい褐色	条線と列点文、蛇行する隆帯を垂下させる。	唐草文系Ⅲ	66
86	13	覆土	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(多)	良好	明褐色	蛇行する隆帯と沈線で文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。	唐草文系Ⅲ	66
86	14	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	暗灰黄色	口縁部の地文は原体RLの単節斜縄文で、隆帯と沈線で文様帯を区画する。	加曾利EⅡ	66
86	15	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや少)	良好	にぶい赤褐色	端部が蕨手状の隆帯を垂下させる。	加曾利E	66
86	16	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	明褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、隆帯を垂下させる。	加曾利E	66
86	17	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや多)	良好	褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、隆帯を垂下させる。	加曾利E	66
86	18	覆土	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	明褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、懸垂文を垂下させる。	加曾利E	66
86	19	覆土	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(多)	良好	明褐色	刺突文を施した腕骨文と蛇行沈線文を垂下させる。	加曾利E	66
86	20・21	覆土	深鉢	胴部片	粗砂・長石(やや多)	良好	にぶい褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、蛇行沈線文を垂下させる。	加曾利E	66
86	22	覆土	浅鉢	口縁部片	礫・粗砂(少)	良好	黒褐色	内外面に赤色塗彩。	中期後葉	66
86	23	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	暗灰黄色	刻みを施した隆帯を横位多段に施す。	「石神類型」	66
86	24	覆土	深鉢	口縁部把手片	粗砂(少)	良好	黒褐色	隆帯で文様帯を区画し、区画内に列点文を垂下させる。	唐草文系	66
86	25	覆土	深鉢	把手片	粗砂(やや少)	良好	橙色	内外面を蕨手状の隆帯・沈線で加飾される。95-24坑1と同一。	大木系	66
86	26	覆土	深鉢	底部	粗砂(やや少)	良好	にぶい赤褐色	底径9cm・残高6.1cmを測る。隆帯を垂下させる。	中期後半	66

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
86	27	覆土	石鏃	18.5	(15.5)	5	(1.1)	珪質凝灰岩	凹基無茎、脚欠	67
86	28	覆土	スクレイパー	43	108	15	62.3	細粒輝石安山岩	横長、下側刃部	67
86	29	覆土	打製石斧	114	54	23	184.5	粗粒輝石安山岩	短冊形、刃部円形	67
86	30	覆土	打製石斧	(64)	60	23	(99.6)	粗粒輝石安山岩	撥形、基部欠	67

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
87	31	覆土	打製石斧	109	93	43	533.6	粗粒輝石安山岩	撥形、側面磨り	67
87	32	覆土	凹石	149	55	43	599.3	粗粒輝石安山岩	側面磨り・凹み	67
87	33	覆土	凹石	73	64	60	312.7	粗粒輝石安山岩	側面凹み	67
87	34	覆土	凹石	131	78	48	793.5	粗粒輝石安山岩	両面磨り、側面凹み	67
87	35	覆土	石皿	233	126	45	1,854.5	粗粒輝石安山岩	両面磨り	67
87	36	覆土	石皿	(181)	259	96	(6,200)	粗粒輝石安山岩	側面凹み、1/2欠	67
87	37	覆土	石皿	(129)	159	90	(2,150)	粗粒輝石安山岩	1/2欠、裏面煤付	67
88	38	覆土	多孔石	186	153	105	2,100	安山岩	側面凹み	67
88	39	覆土	多孔石	179	134	111	2,800	粗粒輝石安山岩	側面凹み	67
88	40	覆土	石皿	(188)	(273)	140	(9,800)	粗粒輝石安山岩	破片、側面凹み	67
88	41	覆土	石皿(筋砥石)	(387)	163	91	(10,300)	粗粒輝石安山岩	両面磨り・磨り溝	67

4-1号埋設土器

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
90	1	埋設土器	深鉢	口縁～胴部	粗砂(多)	良好	オリーブ黒色	口径35.2cm、残高12.6cmを測る。横位から対弧状に隆帯を垂下し、交点に貼付文を付し、下部を横位に連結させる。	後期初頭	67
90 91	2～6	覆土上～中位	深鉢	口縁～胴部片	粗砂・石英(やや多)	良好	褐色	口縁下部にT字状の隆帯を貼付した後、交点に押圧文を施文する。	後期初頭	67 68
91	7	覆土中位	深鉢	口縁部片	粗砂・(やや多)	良好	にぶい黄褐色	口縁下部にT字状の隆帯を貼付した後、交点に押圧文を施文する。	後期初頭	68
91	8	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂・石英(多)	良好	にぶい黄褐色	T字状の隆帯を貼付した後、交点に押圧文を施文する。	後期初頭	68
91	9	覆土中位	深鉢	胴部片	礫・粗砂・石英(やや多)	良好	にぶい黄褐色	隆帯を垂下させる。	後期初頭	68
91	10	覆土中位	深鉢	胴部片	粗砂(多)	良好	橙色	対弧状の隆帯を垂下させる。	後期初頭	68
91	11	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや多)	良好	褐灰色	隆帯を垂下させる。	後期初頭	68
91	12	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	褐灰色	口縁部にはO字状の隆帯を貼付した突起がつく。口縁部内側は肥厚し、刺突文を施す。	堀之内1(信州系)	68
91	13	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	黒褐色	口縁部には小突起がつく。口縁部文様帯は隆帯を貼付して文様帯を区画する。隆帯の交点には刺突文を施す。	堀之内1(信州系)	68
91	14	覆土中位	深鉢	胴部片	礫・粗砂・長石(多)	良好	にぶい黄褐色	口縁下部に横位の沈線を施文する。胴部の地文は原体LRの単節斜縄文を横位に施文する。	「茂沢類型」?	68
91	15	覆土上位	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	褐灰色	沈線と隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を横位に施文する。	「茂沢類型」?	68
91	16・17	覆土、59坑	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	渦巻き状の沈線を施文する。	称名寺II	68
91	18	覆土上位	深鉢	胴部～底部	粗砂(少)	良好	にぶい赤褐色	底径7.4cm・残高1.2cmを測る。斜位の沈線を垂下させる。底部に網代痕がある。	後期	68
92	19	覆土、60坑	深鉢	胴部片	礫・粗砂・石英(やや多)	良好	にぶい橙色	返しのある半円形の爪形刺突文を全面的に施文する。	三十稲場	68

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
92	20	覆土	スクレイパー	33	55	9	12	黒色頁岩	横長、下側刃部	68

5-7号埋設土器

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
92	1	埋設土器	深鉢	口縁～胴部	礫・粗砂(やや少)	良好	明黄褐色	口径35cm・残高13.8cmを測る。口唇部に横位の刺突文を施文する。地文は原体LRの単節斜縄文で、横位の磨消文やO字や端部が鍵状の沈線を垂下させる。2と同一?	加曾利EIV	69
92	2	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや多)	良好	橙色	口唇部に横位の刺突文を施文する。地文は原体LRの単節斜縄文を縦位に施文する。1と同一?	加曾利EIV	69
92	3	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや多)	良好	灰黄褐色	沈線で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を充填する。	称名寺?	69

遺物観察表

95-4号埋設土器

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
92	1	埋設土器	深鉢	胴部～底部	礫・粗砂・長石(やや多)	良好	にぶい赤褐色	底径13.4cm・残高25.6cmを測る。U字状沈線で区画し、区画内に原体LRの単節斜縄文を縦位に施文し、押圧文を施した隆帯を垂下させる。内面に炭化物が付着。	称名寺	69

95-5号埋設土器

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
92	1	埋設土器	深鉢	胴部～底部	礫・粗砂(多)	良好	にぶい黄橙色	底径8.5cm・残高17.9cmを測る。原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。	加曾利E	69

6-1号集石

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
92	1	南側近接(C-21)	深鉢	口縁～胴部	粗砂(やや少)	良好	黄褐色	口径20cm・残高12.1cmを測る。口縁部文様帯は隆帯で区画した中を原体RLの単節斜縄文を施文する。胴部の地文は原体RLの単節斜縄文で、押線と磨消文を垂下させる。	加曾利E III	69

4-59号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
109	1	覆土	深鉢	胴部～底部	粗砂(少)	良好	明赤褐色	底径7cm・残高6.2cmを測る。沈線を垂下させる	「郷土式」?	69

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
109	2	覆土	石鏃	(13.9)	(9.5)	3	(0.3)	黒曜石	凹基無茎、左脚1/3残	69

4-60号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
109	1	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂・石英(やや多)	良好	褐色	低い隆帯を垂下させる。	後期初頭	69
109	2	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂・長石(多)	良好	にぶい褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、円形刺突文を施文する。	「開沢類型」?	69

4-61号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
109	1	覆土	深鉢	底部片	礫・粗砂・石英・片岩(多)	良好	赤褐色	底部をやや肥厚する。	中期	69

4-65号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
109	1	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや多)	良好	にぶい赤褐色	口縁部文様帯は隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には沈線を施文する。	「郷土式」?	69
109	2	覆土	深鉢	胴部片	粗砂・金雲母(やや多)	良好	褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、隆帯と沈線を垂下させる。	加曾利E	69
109	3	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、横位の沈線と蛇行沈線文を垂下させる。4と同一。	加曾利E	69
109	4	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、沈線を垂下させる。3と同一。	加曾利E	69
109	5	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	にぶい赤褐色	横位の隆帯と横位の綾杉文を施文する。	「郷土式」?	69
109	6	覆土	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	灰褐色	2本1組の沈線と綾杉文を垂下させる。	「郷土式」?	69
109	7	覆土	浅鉢	口縁部片	礫・粗砂・石英(やや多)	良好	にぶい褐色	口縁部は内側に肥厚する。	中期後葉	69
109	8	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	無文を呈する。	後期?	69

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
109	9	覆土下位	石皿	480	360	95	14000	粗粒輝石安山岩	両面磨り、3点接合	69
110	10	覆土中位	大型打製石斧	249	93	44	909.5	細粒輝石安山岩	撥形、石鏃?	69

遺物観察表

4-67号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
110	1	覆土	打製石斧	102	43	15	86.6	粗粒輝石安山岩	短冊形	69

5-605号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
111	1	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	良好	褐灰色	外面は3条1組の横位の沈線を施文し、内面は口縁部に沿って刺突文、胴部には3条1組の横位の沈線を施文する。	加曾利B 1	70
111	2	覆土	深鉢	胴部～底部	粗砂(やや多)	不良	褐灰色	底径7.6cmを測る。地文は原体LRの単節斜縄文で、横位の沈線を施文する。	堀之内2	70
111	3	覆土	深鉢	底部	礫・粗砂・長石(やや多)	良好	にぶい黄褐色	底径15cm・残高6cmを測る。底部に網代痕。	後期	70

5-606号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
111	1	覆土	深鉢	口縁部片	礫(多)・粗砂(少)	良好	褐灰色	口縁部は内側に肥厚する。隆帯で文様帯を区画し、区画内に斜位の沈線を施文する。	唐草文系Ⅲ	70
111	2	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石(多)	良好	にぶい赤褐色	横位の隆帯で文様帯を区画し、区画内には横位の綾杉文を施文する。	「郷土式」?	70
111	3	覆土	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(多)	良好	褐灰色	隆帯や懸垂文、綾杉文を垂下させる。	「郷土式」?	70

5-607号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
111	1	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(少)	良好	にぶい橙色	地文は原体LRの単節斜縄文で、蛇行沈線文や懸垂文、磨消文を垂下させる。	加曾利EⅢ	70
111	2	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや多)	良好	橙色	地文は原体RLの単節斜縄文で、磨消文を垂下させる。	加曾利EⅢ	70
111	3	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや多)	良好	明褐色	並行する斜位沈線を垂下させた区画内に原体RLの単節斜縄文を充填する。	堀之内1(信州系)	70

5-612号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
111	1	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい赤褐色	口縁部は小突起がつく。口縁部は押圧文で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。	加曾利EⅢ	70
111	2	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	灰黄褐色	口縁部は波状を呈し、く字状に屈曲する。胴部は横位の沈線を施文する。	称名寺Ⅱ	70
111	3	覆土	円盤	深鉢破片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	にぶい橙色	沈線で文様帯を区画し、区画内に原体RLの単節斜縄文を充填する。断面に擦痕。	土製品	70

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
111	4	覆土	磨製石斧	105	41	26	237	安山岩	刃部欠、凹み	70
111	5	覆土	磨石	84	70	27	217.4	粗粒輝石安山岩	両面磨り、被熱・剥離	70

5-613号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
112	1	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	黒褐色	横位の隆帯を貼付する。	後期初頭	70

5-614号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
112	1	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	良好	明黄褐色	押圧文を施した横位の隆帯を貼付する。	後期初頭	70

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
112	2	覆土	磨石	142	66	42	558	粗粒輝石安山岩	両面・側面磨り	70

5-616号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
112	1	覆土	深鉢	頸部片	粗砂・石英・長石(多)	良好	褐色	斜位の沈線を施文する。	唐草文系Ⅲ	70

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
112	2	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	不良	にぶい黄褐色	口縁部は波状を呈する。口縁部は渦巻文や沈線で文様帯を区画し、区画内には刺突文を施す。胴部の地文は原体LRの単節斜縄文で、懸垂文と磨消文を垂下させる。	南三十稲場?	70
112	3	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	黒褐色	沈線と磨消文で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を充填する。	堀之内1(信州系)	70

5-627号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
112	1	覆土	深鉢	頸部片	粗砂(やや多)	良好	明黄褐色	横位の隆帯を貼付する。	加曾利E	70
112	2	覆土	深鉢	頸部片	礫・粗砂(やや多)	良好	黄褐色	横位の隆帯を貼付する。	加曾利E	70

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
112	3	覆土	磨石	86	50	29	154.9	粗粒輝石安山岩	両面磨り	70
112	4	覆土	磨石	188	168	58	2,900	粗粒輝石安山岩	両面磨り、煤付	70

5-630号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
112	1	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	原体RLの単節斜縄文を、横位の沈線間に充填する。	堀之内2	70

5-632号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
112	1	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや少)	良好	黄褐色	押圧文を施した縦位の隆帯と斜位の沈線を縦位に施文する。	唐草文系III	70

5-638号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
112	1	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	暗褐色	平行沈線を横位に多条施文する。	「焼町」?	70

5-644号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
112	1	底面付近	深鉢	口縁～胴部	礫・粗砂(やや多)	良好	暗赤褐色	口径24.8cm・残高31.6cmを測る。外面は削り調整を施す他は無文。	後期前葉	70

5-653号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
112	1	覆土	深鉢	口縁～胴部	粗砂・石英・長石(多)	良好	赤褐色	地文は原体RLの単節斜縄文と原体Lの無節で、懸垂文と磨消文を施文する。	加曾利E III	70
112	2	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、横位の隆帯を貼付する。	加曾利E III	70
112	3	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや多)	良好	にぶい黄褐色	磨滅が著しく地文は不明であるが、懸垂文を垂下させる。	加曾利E	70

5-660号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
113	1	底面付近	深鉢	口縁～胴部	礫・粗砂(やや多)	良好	明褐色	口縁部に刺突文や円形文、半円文、穿孔を施したメガネ状突起がつく。口縁端部に横位の沈線、頸部に2本の沈線を垂下させる。胴部は、円形文や入組文、端部が蕨手状の沈線で文様を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を充填する。	堀之内1(信州系)	70
113	2	覆土	深鉢	口縁～頸部片	粗砂(やや多)	良好	明赤褐色	弧状の隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を縦位に施文する。	加曾利E III	70
113	3	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや多)	良好	にぶい赤褐色	横位の沈線を施文する。	堀之内2	70

遺物観察表

5-666号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
113	1	覆土	深鉢	口縁～胴部	礫・粗砂(やや多)	不良	にぶい黄褐色	口縁部に横位の短沈線と沈線を施文する。胴部は原体LRの単節斜縄文で、懸垂文と磨消文を垂下させる。	加曾利EIV	71
113	2	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや多)	良好	明赤褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、懸垂文と磨消文を垂下させる。	加曾利EIV	71
113	3	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや多)	良好	黒褐色	口縁部内面に横位の沈線を施文する。外面は横位の沈線、メガネ状沈線、原体LRの単節斜縄文を横位に施文する。	堀之内2	71

5-667号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
113	1	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや多)	良好	黄灰色	口縁部内面には押圧文を施文する。外面は横位の沈線を施文する。	堀之内2	71

5-669号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
113	1	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	暗褐色	口縁部は、横位の沈線やメガネ状隆帯で文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。胴部は横位の隆帯と斜位の沈線を縦位に施文する。	「郷土式」	71
113	2	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや多)	良好	褐色	隆帯と沈線で文様帯を区画し、区画内には短沈線を施文する。	「郷土式」	71
113	3	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	口縁部は波状を呈し、橋状突起がつく。口縁部は沈線や交互刺突文で文様帯を描く。	唐草文系III	71
113	4	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂・石英(やや多)	良好	にぶい褐色	横位の刺突文と沈線で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を縦位に施文する。	加曾利EIV	71
113	5	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂・石英・長石(多)	良好	褐灰色	口縁部は横位の押圧文と沈線を施文する。胴部の地文は原体LRの単節斜縄文で、蛇行沈線文と磨消文を横位に施文する。	加曾利EIV	71

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
113	6	覆土	打製石斧	(90)	54	14	(96.9)	粗粒輝石安山岩	撥形、基部欠	71

5-670号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
114	1	底面付近	深鉢	口縁～胴部	礫・粗砂(やや少)	良好	暗褐色	口縁部には舌状突起と耳状突起がつく。舌状突起の内面には∩字状沈線を施文する。口縁部は隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を横位に施文する。胴部の地文は原体RLの単節斜縄文で、蕨手文や懸垂文、磨消文を垂下させる。	加曾利EIII	71
114	2	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい褐色	横位の隆帯と沈線、斜位の沈線を施文する。	加曾利EIII	71
114	3	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂・石英・長石(多)	良好	灰黄褐色	口縁部は横位の刺突文を施文する。胴部の地文は、原体LRの単節斜縄文で、蛇行沈線文を横位に施文する。	加曾利EIV	71

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
114	4	覆土	石棒	(194)	111	74	(1,900)	緑泥片岩	胴部片、凹み	71

5-678号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
114	1	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(多)	良好	灰黄褐色	横位と弧状の沈線を施文する。	「茂沢」?	71

5-681号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
114	1	覆土	深鉢	頸部片	粗砂(多)	良好	明赤褐色	隆帯で文様帯を区画し、区画内に原体RLの単節斜縄文を充填する。	加曾利EIII	71

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
114	2	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや多)	良好	明褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、懸垂文と磨消文を垂下させる。	加曾利E III	71
114	3	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	灰黄褐色	口縁部はく字状に屈曲し、刺突文を施した円形文や横位の沈線を施文する。	堀之内1 (信州系)	71

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
114	4	覆土	磨石	109	53	40	338.7	粗粒輝石安山岩	両面磨り、被熱・煤付	71

5-683号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
114	1	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂・石英(やや多)	良好	にぶい赤褐色	口縁部は内側に肥厚する。地文は原体LRの単節斜縄文を縦位に施文する。	加曾利E IV	71
114	2	覆土	浅鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	明黄褐色	横位隆帯を貼付して作出した平坦な口唇部に原体RLの単節斜縄文を横位施文する。	称名寺	71
114	3	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	黒褐色	爪形の刺突文を全面的に施文する。4と同じと思われる。	三十稲場	71
114	4	U-3	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい褐色	爪形の刺突文を全面的に施文する。3と同じと思われる。	三十稲場	71

5-686号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
114	1	覆土上位	深鉢	口縁～胴部	粗砂(やや少)	良好	黒褐色	口縁部は小突起がつく。口縁部は押圧文を施した隆帯を縦位に貼付する。胴部の地文は原体LRの単節斜縄文で、横位や弧状の沈線で文様帯を構成する。	堀之内1 (信州系)	71

5-687号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
114	1	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂・石英(やや少)	良好	にぶい黄褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、蛇行沈線文や斜位の沈線で文様を描く。	「関沢類型」?	71
114	2	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(多)	良好	明赤褐色	押圧文を施した横位の隆帯を貼付した後、爪形の刺突文を施文する。	三十稲場	71

5-688号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
114	1	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(多)	良好	にぶい黄褐色	綾杉文を垂下させる。	唐草文系III	71

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
114	2	覆土	石製品	78	61	20	45.7	軽石	磨製石斧の模倣品?	71

5-689号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
114	1	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや多)	良好	橙色	渦巻文や斜位の沈線を施文する。	唐草文系III	71
114	2	覆土	浅鉢	頸部片	粗砂(やや少)	良好	褐灰色	横位の沈線を施文する。	中期後葉	71
114	3	覆土	深鉢	底部	粗砂(やや少)	良好	橙色	懸垂文を垂下させる。底面に木葉痕がつく。	中期後葉	71

5-690号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
114	1	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	暗赤褐色	口唇部に押圧文が施される。内面は横位の刺突文や隆帯、沈線を施文する。外面は横位の集合条線を施文する。	加曾利B 1	71

5-691号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
114	1	覆土	鉢(有孔鑿付)	口縁～胴部	粗砂(少)	良好	黒褐色	頸部に穿孔を施した横位の隆帯を貼付する。胴部は押圧文で文様帯を描く。内外面に赤黒彩を施す。	中期後葉	71

遺物観察表

5-694号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
114	1	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	黒褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、懸垂文や磨消文を垂下させる。	加曾利EⅢ	71
114	2	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや少)	良好	にぶい橙色	口縁部に押圧文を施した横位の微隆帯を施文する。胴部は沈線で文様を描く。	堀之内2	71

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
115	3	覆土	磨石	70	69	58	402.2	粗粒輝石安山岩	両面磨り、被熱	71
115	4	覆土	凹石	(87)	80	46	(452.2)	粗粒輝石安山岩	両面磨り、被熱・煤付	71

5-696号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
115	1	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	横位の沈線を施文する。	堀之内2	71

5-700号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
115	1	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや少)	良好	灰黄褐色	横位の隆帯を施文する。	中期後葉	71

5-707号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
115	1	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや多)	良好	にぶい赤褐色	弧状の沈線で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を充填する。	称名寺Ⅱ	71

5-708号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
115	1	覆土	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	にぶい黄褐色	斜位の沈線を施文する。	称名寺Ⅱ	71

6-178号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
115	1	覆土	深鉢	口縁部把手片	粗砂・長石(やや多)	良好	黒褐色	舌状の把手で、蕨手文と隆帯、沈線で文様を構成する。	唐草文系Ⅲ	72
115	2	覆土	深鉢	頭部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	にぶい赤褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、隆帯で文様帯を区画する。	加曾利EⅢ	72
115	3	覆土	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(多)	良好	黒褐色	隆帯で文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。	唐草文系Ⅲ	72

6-179号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
115	1	覆土	吊手	把手片	粗砂・長石(やや多)	良好	にぶい褐色	∩字状沈線などで文様帯を描く。	中期後葉	72
115	2	覆土	鉢(有孔鑿付)	胴部片	粗砂・長石(やや多)	良好	黒褐色	隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を充填する。	中期後葉	72
115	3	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	黒褐色	隆帯と沈線で文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。	「郷土式」?	72
115	4	覆土	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(多)	良好	にぶい赤褐色	斜位の沈線と2条1組の隆帯を垂下させる。	唐草文系Ⅲ	72

6-181号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
115	1	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや多)	良好	黒褐色	横位と蛇行する隆帯を貼付する。	唐草文系Ⅲ	72
115	2	覆土	深鉢	胴部片	粗砂・金雲母(少)	良好	黒褐色	隆帯と沈線を垂下させた後、横位の沈線を施文する。	唐草文系Ⅲ	72
115	3	覆土	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(多)	良好	にぶい黄褐色	腕骨文を垂下させた後、斜位の沈線を施文する。	唐草文系Ⅲ	72
115	4	覆土	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	赤褐色	斜位の沈線を施文した後、2条1組の隆帯を垂下させる。	唐草文系Ⅲ	72

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
115	5	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや多)	良好	にぶい赤褐色	横位の隆帯で文様帯を区画する。胴部は横位の日字文や斜位の沈線を施文する。	唐草文系Ⅲ	72
115	6	覆土	深鉢	胴部～底部	礫・粗砂・長石(やや少)	良好	赤褐色	底径6cm・残高5.1cmを測る。隆帯と沈線、雨垂れ状の短沈線文を垂下させる。	「郷土式」	72
115	7	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	褐色	地文は原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。	加曾利EⅣ	72
115	8	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	黒褐色	刺突文と隆帯で文様帯を構成する。	称名寺?	72

6-182号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
115	1	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	沈線を施文した隆帯を横位に施文する。斜位の沈線を施文する。	「郷土式」	72
115	2	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや少)	良好	にぶい橙色	地文は原体RLの単節斜縄文で、横位の隆帯を貼付する。	加曾利EⅢ	72
115	3	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	褐灰色	弧状の沈線を施文する。	称名寺Ⅱ	72
115	4	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	縦位と横位の沈線を施文する。	堀之内1(信州系)	72
115	5	覆土	深鉢	胴部片	粗砂・長石(やや多)	良好	にぶい褐色	原体LRの単節斜縄文の充填縄文を施文する。	堀之内2	72

6-184号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
115	1	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい褐色	横位の隆帯を貼付する。2と同一。	後期初頭	72
115	2	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい褐色	横位の隆帯を貼付する。1と同一。	後期初頭	72
115	3	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい褐色	横位の綾杉文を施文する。	後期前葉?	72

6-185号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
115	1	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	灰黄褐色	端部が蕨手状沈線で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。	加曾利EⅢ	72
115	2	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	褐色	綾杉文を垂下させた後、腕骨文を垂下させる。	唐草文系Ⅲ	72

6-186号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
115	1	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	斜位と横位の沈線を施文する。	堀之内2	72

6-187号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
116	1	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	不良	にぶい黄褐色	口縁部に棒状浮文がつく。口縁内面に横位の沈線を施文する。外面は横位の沈線とクランク文を施文する。	「石神類型」	72
116	2	覆土、191坑	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	浅黄色	原体LRの単節斜縄文の充填縄文を幾何学的に施文する。	堀之内2	72
116	3	覆土	深鉢	胴部～底部	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	底径9cm・残高2.51cmを測る。底部に網代痕がある。	後期	72

6-189号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
116	1	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	にぶい橙色	口縁部は波状を呈し、内面に横位の沈線を施文する。外面は斜位の隆帯と沈線を施文する。	唐草文系Ⅲ	72
116	2	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	橙色	横位の隆帯を貼付する。	後期初頭	72

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
116	3	覆土	磨石	(65)	54	33	(118.6)	細粒輝石安山岩	両面磨り、一部欠	72

遺物観察表

6-190号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
116	1	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	明褐色	櫛歯状工具による条線を垂下させる。	曾利?	72

6-191号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
116	1	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや少)	良好	にぶい褐色	口縁部外面に肥厚する。胴部の地文は原体RLの単節斜縄文で、横位沈線を施文する。	称名寺II	72
116	2	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄橙色	押圧文を施した横位の隆帯と懸垂文、斜位の沈線を垂下させる。3と同一。	堀之内1(信州系)	72
116	3	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄橙色	押圧文を施した横位の隆帯と懸垂文を垂下させる。2と同一。	堀之内1(信州系)	72
116	4	覆土	深鉢	胴部片	粗砂・石英・金雲母(やや多)	良好	黒褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、蛇行沈線文や口字状沈線を垂下させる。	堀之内1(信州系)	72
116	5	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや少)	良好	黒褐色	懸垂文と原体RLの単節斜縄文を垂下させる。	堀之内1(信州系)	72
116	6	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(少)	良好	にぶい黄橙色	爪形の刺突文を施文する。	三十稲場	72
116	7	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂・長石(やや多)	良好	にぶい橙色	原体LRの単節斜縄文の充填縄文を横位に施文する。	堀之内2	72

6-193号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
116	1	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂・長石(やや多)	良好	灰黄褐色	隆帯を垂下させる。	後期初頭	72

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
116	2	覆土	打製石斧	107	44	23	127	細粒輝石安山岩	短冊形	72

6-195号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
116	1	覆土	鉢(両耳壺)	把手片	粗砂・長石(やや多)	良好	明褐色	押圧文を施した橋状の把手片。	中期後葉	72
116	2	覆土	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(多)	良好	橙色	斜位の沈線を施文する。	唐草文系III	72

6-196号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
116	1	覆土	鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	黒褐色	横位の条線を施文する。	加曾利B1	72
116	2	覆土	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	橙色	斜位の沈線を施文する。	南三十稲場?	72

6-198号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
116	1	覆土	深鉢	頸部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	にぶい褐色	く字状に屈折する器形で、横位の隆帯を貼付する。	加曾利E?	72
116	2	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	黄橙色	横位の隆帯を貼付する。	後期初頭	72
116	3	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄橙色	原体LRの単節斜縄文の充填縄文に列点文を施文する。	称名寺II	72
116	4	覆土	注口	胴部片	粗砂(少)	良好	黒褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、刺突文や渦巻文、沈線で文様帯を区画する。	堀之内2	72

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
116	5	覆土	凹石	138	61	33	394.4	粗粒輝石安山岩	表面擦り、被熱・剥離	72

6-199号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
116	1	覆土	深鉢	口縁部把手片	粗砂(少)	良好	にぶい黄橙色	隆帯や蕨手文、刺突文や斜位の短沈線で文様帯を構成する。	唐草文系III	72
116	2	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	黒褐色	隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。	「関沢類型」?	72

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
116	3	覆土	石錐	(22.5)	9	5	(1)	黒曜石	柄なし、先端欠	72

95-7号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
116	1	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや多)	良好	黒褐色	隆帯で文様帯を区画し、区画内に斜位の短沈線を施文する。	唐草文系Ⅲ	72
116	2	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	灰褐色	隆帯で文様帯を区画し、区画内に斜位の短沈線を施文する。	「郷土式」	72
116	3	覆土	深鉢	頸部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい赤褐色	隆帯で文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。胴部は原体LRの単節斜縄文を縦位に施文する。	加曾利EⅢ	72
116	4	覆土	深鉢	頸部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい赤褐色	隆帯で文様帯を区画し、区画内に斜位の短沈線を施文する。胴部は懸垂文を垂下させる。	「郷土式」?	72
116	5	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや少)	良好	にぶい黄橙色	隆帯と押圧文で文様帯を描く。	唐草文系Ⅲ	72
116	6	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石(多)	良好	赤褐色	隆帯と沈線で文様を描く。	唐草文系Ⅲ	72
116	7	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	にぶい赤褐色	条線を垂下させる。	曾利Ⅲ	72
116	8	覆土	深鉢	頸部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい赤褐色	T字状に隆帯を貼付し、交点に瘤状突起を貼付する。胴部は櫛歯状工具による沈線を垂下させる。9と同一。	曾利Ⅲ	72
116	9	覆土	深鉢	頸部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい赤褐色	T字状に隆帯を貼付し、交点に瘤状突起を貼付する。胴部は櫛歯状工具による沈線を垂下させる。8と同一。	曾利Ⅲ	72
117	10	覆土	深鉢	頸部片	粗砂(やや少)	良好	明赤褐色	隆帯で文様帯を区画し、区画内は綾杉文を垂下させる。	越後系?	72
117	11	覆土	深鉢	胴部片	粗砂・長石(やや少)	良好	にぶい赤褐色	隆帯を垂下させた後、斜位の沈線を施文する。	唐草文系Ⅲ	72
117	12	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい赤褐色	隆帯と沈線を垂下させた後、斜位の沈線を施文する。	唐草文系Ⅲ	72
117	13	覆土	深鉢	頸部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	暗褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、隆帯で文様帯を区画する。14と同一。	曾利?	72
117	14	覆土	深鉢	頸部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	黒褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、隆帯で文様帯を区画する。13と同一。	曾利?	73
117	15	覆土	深鉢	頸部片	粗砂(少)	良好	にぶい褐色	横位の隆帯で文様帯を区画する。胴部の地文は原体RLの単節斜縄文で、瘤状突起を貼付する。	曾利?	73
117	16	覆土	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、H状隆帯と蛇行沈線文を垂下させる。	加曾利E	73
117	17	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂・長石(やや多)	良好	明褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、蕨手文を垂下させる。	加曾利E	73
117	18	覆土	浅鉢	口縁部片	礫・粗砂(少)	良好	褐色	口縁部は外面に肥厚する。内面に赤色塗彩。	中期後葉	73
117	19	覆土	浅鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	口縁部は内外面に肥厚する。	中期後葉	73
117	20	覆土	浅鉢	口縁部片	礫・粗砂(少)	良好	明赤褐色	口縁部に隆帯を貼付して断面三角形に成形する。内面に孔を穿つ。未穿孔。	中期後葉	73
117	21	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	暗褐色	隆帯を貼付して加飾する。	加曾利EⅢ	73
117	22	覆土	注口	口縁~胴部	粗砂(少)	良好	暗灰黄色	口縁部に注口がつく。胴部は沈線で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。	加曾利EⅣ	73
117	23	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	褐色	口縁部は波状を呈する。口縁下部に隆帯を貼付して断面三角形に成形する。	称名寺?	73
117	24	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい赤褐色	口縁部はく字状を呈する。	称名寺Ⅱ	73
117	25	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや少)	普通	明黄褐色	口縁部はく字状を呈し、口唇部に刺突文を施す。口縁下部に横位の沈線を施文する。	「開沢類型」?	73

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
117	26	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(少)	普通	にぶい黄褐色	横位の沈線を施文する。	称名寺?	73
117	27	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	灰黄褐色	沈線で文様を描く。	称名寺II	73
117	28	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	沈線や刺突文を施文する。	称名寺II	73
117	29	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	沈線と刺突文を垂下させる。	称名寺II	73
117	30	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	灰黄褐色	沈線と刺突文を垂下させる。	称名寺II	73
117	31	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	黒褐色	隆帯と押圧文を施文する。	後期初頭	73
117	32	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	にぶい黄褐色	横位の隆帯を貼付する。	後期初頭	73
117	33	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	灰黄褐色	押圧文を施した横位の隆帯を貼付する。	後期初頭	73
117	34	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい褐色	竹管文を横位に施文する。	後期初頭	73
117	35	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	対弧文を垂下させる。	後期初頭	73
117	36	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	黒褐色	U字状の沈線を施文する。	「茂沢」?	73
117	37	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、蕨手文や沈線で文様を描く。	「茂沢類型」?	73
117	38	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	黒褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、懸垂文と磨消文を垂下させる。	「茂沢類型」	73
117	39	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂・石英(少)	良好	にぶい黄褐色	沈線で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を充填する。把手の剥離痕が認められる。	「茂沢類型」	73
117	40	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	爪形の刺突文を全面的に施文する。	三十稲場	73
117	41	覆土	深鉢	底部	粗砂(やや少)	良好	明褐色	底径5.8cm・残高3.6cmを測る。	後期	73

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
117	42	覆土	石鏃	16	13	3	0.6	黒曜石	平基無茎、完形	73
117	43	覆土	石鏃	17	(12)	3	(0.5)	黒曜石	平基無茎、左基部欠	73
117	44	覆土	打製石斧	115	52	19	129.3	粗粒輝石安山岩	撥形	73

95-11号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
118	1	覆土	石皿(未製品)	445	272	140	19,600	粗粒輝石安山岩	凹部調整途中、多孔	73

95-13号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
118	1	覆土	凹石	(75)	89	51	(465.2)	粗粒輝石安山岩	両面磨り、1/2欠	73

95-15号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
118	1	覆土	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石・金雲母(やや少)	良好	にぶい赤褐色	隆帯で文様帯を区画し、区画内は斜位の沈線を施文する。	唐草文系III	73

95-16号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
118	1	覆土	(浅)鉢	口縁部片	礫・粗砂・長石(少)	良好	にぶい褐色	内外面ともに赤色塗彩。	中期後葉?	73

95-20号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
118	1	覆土	深鉢	底部	粗砂・石英・長石・金雲母(やや多)	良好	明赤褐色	底径7.2cm・残高4cmを測る。無文。	後期	73

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
118	2	覆土	磨石	145	63	57	801.9	粗粒輝石安山岩	両面磨り	73

95-24号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
118	1	覆土	深鉢	口縁部把手片	礫・粗砂・赤粒子(やや少)	良好	橙色	内外面を蕨手文で加飾された把手。95-1住25と同一。	大木系	73

95-25号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
118	1	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい赤褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、懸垂文を垂下させる。	加曾利E III	73
118	2	覆土	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石・金雲母(やや多)	良好	にぶい赤褐色	懸垂文を垂下させた後、斜位の沈線を垂下させる。	唐草文系III	73

95-27号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
118	1	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや少)	良好	にぶい褐色	内面に炭化物付着。	加曾利E	73

95-28号土坑

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
118	1	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂・片岩(やや少)	良好	にぶい黄褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、隆帯を垂下させる。	「茂沢類型」?	73
118	2	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	口唇部に横位の条線を施文する。	堀之内1(信州系)	73
118	3	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	黒褐色	無文を呈する。	後期	73

6-11号ピット

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
119	1	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	明赤褐色	口縁部内面に横位の隆帯を貼付する。外面は2条1組の横位の隆帯と刺突文、沈線を施文する。	唐草文系III	74

6-15号ピット

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
119	1	埋設土器	深鉢	頸~胴部	礫・粗砂・金雲母(やや多)	良好	褐色	残高10.4cmを測る。地文は原体LRの単節斜縄文で、胴上部に横位の沈線を施文して頸部と区画し、頸部は無文。2・3と同一。	加曾利E II	74
119	2	埋設土器	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石・金雲母(やや多)	良好	明褐色	地文は原体LRの単節斜縄文を縦位に施文する。1・3と同一。	加曾利E II	74
119	3	埋設土器	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石・金雲母(やや多)	良好	にぶい褐色	地文は原体LRの単節斜縄文を縦位に施文する。1・2と同一。	加曾利E II	74

6-40号ピット

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
119	1	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂・長石(やや多)	良好	にぶい黄褐色	沈線で文様帯を区画する。胴部の地文は原体LRの単節斜縄文で、懸垂文と磨消文を垂下させる。	「茂沢類型」?	74
119	2	覆土	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	暗黄灰色	沈線で文様帯を区画し、区画内には原体Rの無節を充填する。	「茂沢類型」?	74

6-42号ピット

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
119	1	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	明褐色	隆帯を貼付して文様帯を区画する。	唐草文系III	74

遺物観察表

6-43号ピット

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
119	1	覆土	深鉢	胴部片	粗砂・長石 (やや多)	良好	明赤褐色	斜位の沈線を施文する。	唐草文系Ⅲ	74

6-45号ピット

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
119	1	覆土	深鉢	胴部片	粗砂・石英・ 長石(やや少)	良好	褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、斜位の沈線や刺突文を施文する。	唐草文系Ⅲ	74

6-46号ピット

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
119	1	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(や や少)	良好	にぶい黄 褐色	横位の隆帯を貼付する。	後期初頭	74
119	2	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	良好	褐灰色	口縁部は刻みを施した横位の微隆帯を施文する。胴部の地文は原体RLの単節斜縄文で、横位の沈線を施文する。	堀之内2	74

6-51号ピット

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
119	1	覆土	石鏃	19.2	18	2.5	0.6	細粒輝石安山岩	凹基無茎、完形	74

6-52号ピット

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
119	1	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(や や多)	良好	褐灰色	沈線で文様帯を描く。	称名寺?	74

6-54号ピット

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
119	1	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	暗黄灰色	T字状の隆帯を貼付する。	後期初頭	74

6-59号ピット

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
119	1	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(や や多)	良好	明黄褐色	横位の隆帯と部分的に櫛歯状沈線を垂下させる。	後期?	74

6-60号ピット

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
119	1	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(や や多)	良好	にぶい黄 褐色	斜位の沈線を施文する。	称名寺?	74
119	2	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(や や多)	良好	にぶい黄 橙色	懸垂文を垂下させる。	称名寺?	74

6-100号ピット

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
119	1	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや多)	良好	灰黄褐色	櫛歯状工具による沈線を垂下させる。	中期後葉?	74

6-115号ピット

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
119	1	覆土	鉢	口縁部片	粗砂(多)	良好	黄褐色	橋状把手がつく。	後期初頭	74
119	2	覆土	深鉢	頸部片	粗砂(少)	良好	オリーブ 褐色	縦位と横位の条線を施文する。	堀之内1 (信州系)	74
119	3	覆土	深鉢	頸部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄 褐色	条線で文様を描く。	堀之内1 (信州系)	74
119	4	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・ 長石(やや多)	良好	明黄褐色	押圧文を施した隆帯を垂下させる。	堀之内2	74

4-1号集石

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
120	1	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	赤褐色	口縁部は内側に肥厚する。口縁部文様帯は沈線と隆帯で文様帯を描く。	「郷土式」?	74
120	2	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(や や多)	良好	黒褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、沈線で文様帯を区画する。	加曾利E	74

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
120	3	覆土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	良好	暗褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、口縁下部に横位の押圧文、胴部に沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E	74
120	4	覆土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(多)	良好	赤褐色	口縁部は内側に肥厚し、口縁下部に横位の沈線を施文する。	加曾利E	74
120	5	覆土	深鉢	胴部片	粗砂・石英(やや多)	良好	褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E III	74
120	6	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(やや多)	良好	にぶい黄褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、交互刺突文を横位に施文する。	唐草文系III	74
120	7	覆土	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	暗褐色	地文は斜位の沈線で、 \cap 字状の隆帯を垂下させる。	唐草文系III	74
120	8	覆土	深鉢	胴部片	粗砂・石英(多)	良好	明褐色	端部が蕨手状の隆帯を縦位に貼付した後、連結する横位の隆帯を貼付する。胴部は斜位の沈線を施文する。	唐草文系III	74
120	9	覆土	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(多)	良好	明褐色	隆帯で文様帯を区画し、区画内に斜位の沈線を施文する。	唐草文系III	74
120	10	覆土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや多)	良好	黄褐色	横位や弧状の沈線で文様を描く。	堀之内1(信州系)	74

3区遺構外

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
122	1	X-6	深鉢	胴部片	礫・粗砂・長石(多)	良好	にぶい黄褐色	地文は原体LRの単節斜縄文を施文する。	中期後葉	74
122	2	W-7	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(多)	良好	黄褐色	地文は原体Lの無節斜縄文を施文する。	中期後葉	74
122	3	表土	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(多)	良好	明褐色	地文はLRの単節斜縄文で、懸垂文と磨消文を垂下させる。	加曾利E III	74
122	4	W-6	深鉢	胴部片	礫・粗砂・長石(多)・片岩(少)	良好	明赤褐色	地文は原体Lの撚糸文を施文する。	早期	74
122	5	表土	深鉢	胴部片	粗砂(多)	良好	明黄褐色	\cap 字状の懸垂文と斜位の短懸垂文を施文する。	曾利V	74
122	6	W-6	深鉢	口縁部片	粗砂・石英(少)	良好	にぶい赤褐色	口縁部に縦位の隆帯を貼付する。	「閑沢類型」?	74
122	7	表土	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石(多)	良好	橙色	無文を呈する。	後期前葉	74
122	8	W-7	深鉢	底部片	粗砂・石英・長石(少)	良好	黄褐色	底径7cm・残高2.5cmを測る。無文を呈する。	後期	74

4区遺構外

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
123	1~4	N-10	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(多)	良好	にぶい赤褐色	端部にメガネ状突起をもつ隆帯と沈線、刺突文で文様帯を描く。	「焼町類型」	74
123	5	T-13	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	赤褐色	沈線と隆帯で文様帯を描く。	「焼町類型」	74
123	6	T-12	深鉢	口縁部片	粗砂・長石(多)	良好	赤褐色	隆帯を貼付した後、横位の沈線で文様帯を描く。	「焼町類型」?	74
123	7	S-12	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや多)	良好	褐色	口縁部内側に横位の隆帯を貼付した後、渦巻文を施文する。口縁部文様帯は、渦巻文、交互刺突文で文様帯を描く。	勝坂末	74
123	8	R-12	深鉢	頸部片	粗砂(やや多)	良好	赤褐色	半裁竹管の腹部による横位の沈線を施文した後、押圧文を施す。	「三原田式」	74
123	9	V-13	深鉢	口縁部把手片	粗砂・石英・長石(多)	良好	暗褐色	口縁部に付く把手で、橋状突起や隆帯・沈線、交互刺突文で文様帯を構成する。内側に渦巻文を描く。	唐草文系II	74
123	10	I-10	深鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	良好	明褐色	口縁部は内彎し、内面に横位の隆帯を貼付する。	曾利II	74
123	11	2堅	深鉢	口縁部片	礫(やや多)・粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	八字状の沈線を施文する。	唐草文系III	74
123	12	47土坑	深鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	良好	黒褐色	横位の縹杉文を施文する。	唐草文系III	74
123	13	V-12	深鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	良好	赤褐色	斜位の沈線を施文する。	唐草文系III	75

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
123	14	S-13	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや多)	良好	赤褐色	地文は沈線で、横位の隆帯を貼付して文様帯を描く。	唐草文系Ⅲ	75
123	15	51土坑	深鉢	口縁部片	礫・粗砂・石英・長石(多)	良好	灰褐色	横位の隆帯を貼付した後、沈線を施文して文様帯を描く。	唐草文系Ⅲ	75
123	16	W-14	深鉢	頸部片	礫・粗砂・長石(やや多)	良好	赤褐色	刻みを施した隆帯を横位に貼付した後、横位の条線を施文する。	曾利?	75
123	17	U-13	深鉢	頸部片	礫・粗砂(多)	良好	褐色	横位の蛇行隆帯と隆帯を貼付する。	曾利?	75
123	18	V-12	深鉢	頸部片	礫・粗砂(多)	良好	赤褐色	横位の蛇行隆帯を貼付する。	曾利?	75
123	19	V-12	深鉢	頸部片	粗砂(多)	良好	にぶい黄褐色	渦巻文を施文する。	唐草文系Ⅲ	75
123	20	W-11	深鉢	胴部片	粗砂(やや多)	良好	暗褐色	隆帯と蛇行する沈線で文様帯を区画し、区画内に沈線を縦位に施文する。	唐草文系Ⅲ	75
123	21	U-12	深鉢	胴部片	粗砂(やや多)	良好	明褐色	刻みを施した隆帯を垂下させた後、斜位の沈線を施文する。	唐草文系Ⅲ	75
123	22	U-13	深鉢	胴部片	礫・粗砂・長石(やや多)	良好	にぶい黄褐色	斜位や横位の隆帯を貼付した後、斜位の沈線を施文する。	唐草文系Ⅲ	75
123	23	V-13	深鉢	胴部片	礫・粗砂・長石(やや多)	良好	明褐色	縦位の隆帯を貼付した後、斜位の沈線を施文する。	唐草文系Ⅲ	75
123	24	5住	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや多)	良好	明赤褐色	斜位の沈線を施文する。	唐草文系Ⅲ	75
123	25	2壺	深鉢	口縁部片	粗砂・長石(多)	良好	明赤褐色	連結する隆帯を横位に貼付した後、渦巻文や横位の沈線を施文する。	唐草文系Ⅲ	75
123	26	5住	深鉢	胴部片	粗砂・赤粒子(多)	良好	橙色	斜位と縦位の沈線を施文する。	「郷土式」	75
123	27	W-11	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	明黄褐色	集合条線による渦巻文と部分的に原体RLの単節斜縄文を施文する。	加曾利E	75
123	28	T-12	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや多)	良好	にぶい黄褐色	横位の微隆帯を貼付し、原体Rの撚糸文を横位に施文する。	加曾利E	75
123	29	47土坑	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや多)	良好	にぶい赤褐色	斜位の沈線を施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	「郷土式」?	75
123	30	T-13	深鉢	胴部片	粗砂(やや多)	良好	黄褐色	地文は集合条線で、横位やL字状の沈線を施文する。	唐草文系Ⅲ	75
123	31	V-13	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや多)	良好	赤褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、集合条線を垂下させる。	加曾利E	75
123	32	2壺	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや多)	良好	黒褐色	口縁部は波状を呈し、波頂部の内面には蕨手文を施文する。指圧文で楕円状の文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を施文する。	加曾利EⅢ	75
123	33	W-11 W-12	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(多)	良好	にぶい黄褐色	口縁部は隆帯で文様帯を区画し、区画内に原体RLの単節斜縄文を施文する。	加曾利EⅢ	75
123	34	T-13	深鉢	口縁部片	礫・粗砂・長石(やや多)	良好	褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、横位や斜位の隆帯で文様帯を構成する。	加曾利EⅡ	75
123	35	W-11 W-12	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(多)	良好	にぶい黄褐色	口縁部は隆帯で文様帯を区画し、区画内に原体RLの単節斜縄文を施文する。	加曾利EⅢ	75
123	36	U-12	深鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	良好	黄褐色	地文は原体LRの単節斜縄文を横位に施文する。	加曾利EⅢ	75
124	37	W-12	深鉢	頸部片	粗砂・赤粒子(やや多)	良好	褐色	渦巻き状の隆帯で文様帯を区画し、区画内に原体LRの単節斜縄文を施文する。	加曾利EⅢ	75
124	38	51土坑	深鉢	頸部片	粗砂(少)	良好	にぶい褐色	横位の沈線を施文した後、原体LRの単節斜縄文を垂下させる。	加曾利EⅢ	75
124	39	56土坑	深鉢	胴部片	礫・粗砂・石英(やや多)	良好	にぶい褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利EⅢ	75
124	40	N-11	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや多)	良好	黒褐色	地文は原体LRの単節斜縄文を横位に施文する。	加曾利EⅣ	75
124	41	V-11	深鉢	口縁部片	粗砂(多)	良好	褐色	口縁部は内側に肥厚し、口縁下部に横位の沈線を施文する。地文は原体LRの単節斜縄文を横位に施文する。	加曾利EⅣ	75
124	42	W-11	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	横位の沈線と刺突文を施文する。	加曾利EⅢ	75

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
124	43	55土坑	深鉢	底部片	礫・粗砂・長石(やや多)	良好	にぶい黄褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E III	75
124	44	W-11	浅鉢	口縁部片	礫・粗砂・石英・長石(やや多)	良好	赤褐色	口縁部は内側に肥厚し、内面は黒色塗彩が施されている。	中期後葉	75
124	45	S-12 T-12	深鉢	口縁部片	礫・粗砂・石英・長石・赤粒子(やや多)	良好	赤褐色	押圧文を施した横位の隆帯を貼付する。	後期初頭	75
124	46	R-14	深鉢	頸部片	粗砂(多)	良好	黄褐色	対弧文を貼付した後、交点に円形浮文を貼付する。	後期初頭	75
124	47	表土	浅鉢	口縁部片	礫・粗砂・石英(やや多)	良好	灰黄褐色	蕨手文を施文した隆帯を貼付する。	「関沢類型」	75
124	48	I-9	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	明黄褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、刺突文を施文する。	「関沢類型」?	75
124	49	5住	深鉢	口縁～頸部片	礫・粗砂(多)	良好	明黄褐色	八字状の隆帯を貼付した後、刺突文を施文する。	「茂沢類型」	75
124	50	T-12	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	にぶい黄褐色	渦巻文を施文した後、原体LRの単節斜縄文を充填する。	称名寺I	75
124	51	S-12	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	黒褐色	渦巻文と沈線を施文して文様帯を描く。	称名寺II	75
124	52	W-11	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	口縁部内側に横位の隆帯を貼付する。	堀之内1(信州系)	75
124	53	S-12	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	黄褐色	口縁部は内側に肥厚し、外面は横位の指圧文を施文する。	堀之内1(信州系)	75
124	54	S-12	深鉢	胴部片	礫・粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、沈線を垂下させる。	堀之内1(信州系)	75
124	55	W-11	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、横位の沈線と蛇行沈線文を垂下させる。	堀之内1(信州系)	75
124	56	T-12	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	黒褐色	地文は原体RLの単節斜縄文を横位・斜位に施文する。	堀之内1(信州系)	75
124	57	2堅	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい橙褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、斜位や横位の沈線を施文する。	堀之内1	75
124	58	表土	深鉢	頸～胴部片	粗砂(多)	良好	にぶい黄褐色	爪形の刺突文を全面的に施文する。	三十稲場	75
124	59	58土坑	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい褐色	爪形の刺突文を施文する。	三十稲場	75
124	60	N-11	深鉢	底部片	礫・粗砂(多)	良好	浅黄色	底部に網代痕。	後期	75

5区遺構外

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
125	1	W-4	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石・金雲母(やや多)	良好	褐色	地文は撚糸Rを斜位に施文する。	早期	75
125	2	W-4	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(やや多)・片岩(微)	良好	にぶい赤褐色	地文は原体LRの単節斜縄文を縦位に押圧状に施文する。	早期?	75
125	3	W-4	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや多)	良好	にぶい赤褐色	地文は原体RLの単節斜縄文を縦位に押圧状に施文する。	早期	75
125	4	表土	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	黒褐色	撚糸Lの縄文が看取される。5と同一。	早期	75
125	5	W-9	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	黒褐色	撚糸Lの縄文が看取される。4と同一。	早期	75
125	6	W-4	深鉢	胴部片	粗砂(少)・含繊維	良好	にぶい赤褐色	地文は1・r各2本による組紐縄文を横位に施文後、半裁竹管によるコンパス文を横位に施文する。7と同一。	前期(関山)	75
125	7	W-4	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)・含繊維	良好	にぶい赤褐色	地文は1・r各3本による組紐縄文を横位に施文後、半裁竹管によるコンパス文を横位に施文する。6と同一。	前期(関山)	75
125	8	W-4	深鉢	胴部片	粗砂(少)・含繊維	良好	にぶい赤褐色	地文は0段多条RLを横位に施文する。	前期(黒浜?)	75
125	9	W-4	深鉢	胴部片	粗砂(少)・含繊維	良好	にぶい赤褐色	地文は原体RLを横位に施文する。	前期(黒浜?)	75

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
125	10	W-4	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい赤褐色	地文は原体LRの単節斜縄文を縦位に施文する。	前期(諸磯?)	75
125	11	W-4	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	褐色	地文は原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。	前期(諸磯?)	75
125	12	W-4	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	斜位の沈線を施文する。	前期(諸磯)	75
125	13	W-4	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	沈線を垂下させる。	前期(諸磯)	75
125	14	W-4	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや多)	良好	にぶい赤褐色	半裁竹管による集合条線を垂下させる。	前期(諸磯)	75
125	15	W-4	深鉢	胴部片	粗砂(やや多)	良好	明赤褐色	地文は原体LRの単節斜縄文を縦位に施文する。	前期末(中期中?)	75
125	16	W-4	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	にぶい赤褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、半裁竹管の腹部で刻みをつける浮線文で文様を描出する。	前期末(中期中?)	75
125	17	W-4	深鉢	胴部片	礫・粗砂・石英・長石(やや多)	良好	にぶい黄褐色	原体Lの結束文を横位に施文する。	前期末(中期中?)	75
125	18	V-2	深鉢	口縁~頸部片	粗砂長石(少)	良好	にぶい橙色	横位の隆帯を貼付し、その上に爪形刺突と押圧による刻みを施す。	中期(前葉)?	75
125	19	W-4	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい赤褐色	口縁部は小突起がつく。突起外面には内皮使用連続刺突文による蕨手文を施文する。	五領ヶ台II	75
125	20	W-4	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや多)	良好	にぶい黄褐色	半裁竹管の腹部による横位の押し引き文(結節沈線)を施す。	阿玉台I	75
125	21	W-4	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石・金雲母(やや多)	良好	褐灰色	口縁部は小突起がつく。口縁部は隆帯を貼付した後、単列の結節沈線を施文する。	阿玉台I	75
125	22	W-4	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	褐灰色	弧状の沈線を施文する。	阿玉台I	75
125	23	T-3 T-4	深鉢	口縁~頸部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	黒褐色	口縁部は小突起と大突起がつく。口縁部は隆帯と刻み、半裁竹管の腹部による沈線で文様帯を描く。	勝坂末	75
126	24	表土	深鉢	口縁部把手片	粗砂(やや少)	良好	褐灰色	口縁部の突起で、中身は中空である。渦巻文や蕨手文、隆帯で文様帯を構成する。	唐草文系II	75
126	25	表土	深鉢	口縁部把手片	粗砂(多)	良好	褐色	口縁部の突起で、渦巻文や蕨手文、隆帯で文様帯を構成する。	唐草文系II	75
126	26	T-3	深鉢	口縁部把手片	粗砂(少)	良好	褐色	口縁部の突起で、蕨手文や沈線、隆帯で文様帯を構成する。	唐草文系III	75
126	27	表土	深鉢	口縁部突起片	粗砂(やや多)	良好	灰黄褐色	環状突起で、渦巻き状の隆帯と沈線で突起を描く。	唐草文系III	75
126	28	U-6	深鉢	口縁部突起片	粗砂(やや多)	良好	にぶい橙色	口縁部の突起で、刺突文や穿孔、沈線で文様帯を構成する。	唐草文系III	75
126	29	W-5	深鉢	口縁部把手片	礫・粗砂(少)	良好	暗赤褐色	スカシ孔を持ち、隆帯で文様を描く。	唐草文系III	75
126	30	表土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	黄褐色	口縁部は内彎し、隆帯と沈線で文様を描く。	曾利III	76
126	31	表土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや少)	良好	暗褐色	口縁部内面は肥厚する。外面は条線を垂下させる。	曾利III	76
126	32	表土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	良好	にぶい褐色	口縁部は外面に肥厚する。外面は条線を垂下させる。	曾利III	76
126	33	表土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	良好	黒褐色	口縁部内外面に横位の隆帯を貼付する。口縁部は横位の沈線と交互刺突文を施す。	唐草文系III	76
126	34	U-1	深鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	良好	にぶい黄褐色	渦巻き状の隆帯や刺突文で文様帯を区画し、区画内には沈線を施文する。	唐草文系III	76
126	35	表土	深鉢	口縁部片	粗砂・石英(やや少)	良好	灰黄褐色	条線と棒状浮文による斜格子文を横位の隆帯で区画する。	曾利II	76
126	36~38	W-1 W-2	深鉢	頸~底部片	礫・粗砂(やや多)	良好	褐色	頸部は条線と棒状浮文による斜格子文を横位隆帯で区画する。胴部の地文は原体RLの単節斜縄文で、蛇行沈線を垂下させる。	曾利II	76
126	39	表土	深鉢	胴部片	粗砂・石英(やや少)	良好	にぶい赤褐色	半裁竹管内皮使用による連続刺突文と集合条線を垂下させる。	曾利II	76

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
126	40	表土	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい赤褐色	平行沈線による懸垂文と蛇行沈線文を垂下させる。	越後系?	76
126	41	表土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや多)	良好	にぶい赤褐色	懸垂文に渦巻文を施文したメガネ状突起がつく。	越後系?	76
126	42	W-3	深鉢	胴部片	粗砂・長石(やや多)	良好	明褐色	隆帯と懸垂文、綾杉文を垂下させる。	越後系?	76
126	43	表土	深鉢	胴部片	粗砂(やや多)	良好	にぶい赤褐色	端部が蕨手状の隆帯と懸垂文を施文した後、綾杉文を垂下させる。	越後系?	76
126	44	表土	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	褐色	端部が蕨手状の隆帯を施文した後、綾杉文を垂下させる。	越後系?	76
126	45	表土	深鉢	胴部片	粗砂・白粒子(やや多)	良好	にぶい褐色	斜位の沈線を垂下させる。	越後系?	76
126	46	V-6	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	にぶい褐色	斜位の沈線を施文した後、渦巻文を施文する。	唐草文系Ⅲ	76
126	47	T-3	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい橙色	隆帯と沈線で文様帯を区画し、区画内には短沈線を施文する。	唐草文系Ⅲ	76
126	48	U-1	深鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	良好	黒褐色	口縁部の地文は原体LRの単節斜縄文で、横位隆帯や渦巻文などで文様帯を描く。	加曾利EⅡ	76
126	49	V-3	深鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	良好	にぶい橙色	横位や弧状の沈線で文様帯を描く。	加曾利EⅢ	76
126	50	U-6	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石(多)	良好	灰黄褐色	メガネ状隆帯で文様帯を区画する。	加曾利EⅢ	76
126	51	表土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや少)	良好	にぶい赤褐色	口縁部に耳状突起がつく。口縁部は押圧文で文様帯を描く。	加曾利EⅢ	76
126	52	W-2	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を施文する。	加曾利EⅢ	76
126	53	611土坑	深鉢	口縁部片	粗砂・石英(やや少)	良好	にぶい褐色	押圧文で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。	加曾利EⅢ	76
126	54	T-1	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや多)	良好	灰褐色	口縁部は隆帯で楕円状の文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。55と同一。	加曾利EⅢ	76
127	55	T-1	深鉢	口縁～胴部片	礫・粗砂・白粒子(やや多)	良好	暗褐色	口縁部は隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を充填する。胴部の地文は原体LRの単節斜縄文で、懸垂文と磨消文を垂下させる。54と同一。	加曾利EⅢ	76
127	56	T-2	深鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	良好	にぶい黄褐色	口縁部は波状を呈する。口縁部は渦巻文で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を縦位に施文する。	加曾利EⅢ	76
127	57	T-1 U-1 95T-25	深鉢	口縁～胴部	粗砂(やや少)	良好	黒褐色	口径15cm・残高5.9cmを測る。地文は端が閉じる原体RLの単節斜縄文で、沈線や交互刺突文で文様帯を区画する。	加曾利EⅢ	76
127	58	V-3	深鉢	頸部片	粗砂(やや少)	良好	明赤褐色	隆帯と押圧文で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を充填する。	加曾利EⅢ	76
127	59	T-1	深鉢	頸～胴部片	礫・粗砂(やや多)	良好	明赤褐色	横位の隆帯を貼付した後、原体Lの無節斜縄文を縦位に施文する。	加曾利EⅢ	76
127	60	表土	深鉢	頸～胴部片	粗砂(少)	不良	明黄褐色	隆帯と沈線で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を充填する。	大木系	76
127	61	表土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	良好	灰黄褐色	沈線で文様帯を区画し、区画内には斜位の短沈線を縦位に施文する。	「郷土式」	76
127	62	V-2	深鉢	頸部片	粗砂(やや多)	良好	明褐色	横位と弧状の隆帯を貼付した後、斜位の沈線を縦位に施文する。	「郷土式」	76
127	63	U-6	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	にぶい褐色	隆帯と綾杉文を垂下させる。	「郷土式」	76
127	64	表土	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい褐色	隆帯と沈線を垂下させる。	「郷土式」?	76
127	65	U-6	深鉢	胴部片	粗砂(やや多)	良好	明赤褐色	隆帯と沈線で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。胴部の地文は原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。	加曾利EⅢ	76

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
127	66	表土	深鉢	胴部片	粗砂(やや多)	良好	にぶい褐色	沈線で文様帯を区画し、区画内にはLRの単節斜縄文を充填する。	加曽利E III	76
127	67	U-1	深鉢	胴部片	礫・粗砂・白粒子(やや多)	普通	橙色	残高11.1cmを測る。地文は原体RLの単節斜縄文で、蛇行沈線文や懸垂文、磨消文を施文する。	加曽利E III	76
127	68	V-6	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや少)	良好	黄褐色	口縁部は横位の沈線を施文する。胴部の地文は原体LRの単節斜縄文で、蛇行沈線文を施文する。	加曽利E IV	76
127	69	W-5	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	黒褐色	口縁部は小波状を呈し、口縁下部に横位の沈線を施文する。胴部の地文は原体RLの単節斜縄文を横位に施文する。	加曽利E IV	76
127	70	表土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	灰黄褐色	口縁下部に横位の沈線を施文する。胴部の地文は原体RLの単節斜縄文で、半円文を縦位に施文する。	加曽利E IV	76
127	71	V-6	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや多)	良好	黒褐色	口縁部は肥厚する。胴部の地文は原体Rの無節斜縄文を縦位に施文する。	加曽利E IV	76
127	72	W-4	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや少)	良好	黄褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、横位の沈線と蛇行する隆帯を貼付する。	加曽利E IV	76
127	73	表土	深鉢	口縁部片	粗砂・赤粒子(やや少)	良好	明黄褐色	口縁部は波状を呈し、橋状突起がつく。地文は原体LRの単節斜縄文を横位に施文する。	加曽利E IV	76
127	74	表土	深鉢	胴部片	粗砂(やや多)	良好	明褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、沈線を弧状に垂下して施文する。	加曽利E IV	76
127	75	V-6	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	明赤褐色	口縁部は波状を呈する。外面は横位の隆帯を貼付した後、原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。	加曽利E IV	76
127	76	U-3	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや少)	普通	にぶい黄褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、横位の隆帯を貼付する。	加曽利E IV	76
127	77	U-6	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや少)	良好	明褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、横位・縦位の隆帯で文様帯を区画する。	加曽利E IV	76
127	78	表土	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	明赤褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、横位・縦位の隆帯で文様帯を区画する。	加曽利E IV	77
127	79	表土	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、横位の隆帯で文様帯を区画する。	加曽利E IV	77
127	80	V-3	深鉢	胴部片	粗砂(やや多)	良好	にぶい黄褐色	懸垂文を垂下させる。	加曽利E IV	77
127	81	T-1	深鉢	胴部片	礫・粗砂・石英・長石(多)	良好	褐灰色	押圧による沈線を垂下させる。	加曽利E IV	77
127	82	表土	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	弧状の隆帯を貼付する。	加曽利E IV	77
127	83	W-4	深鉢	胴部片	粗砂・赤粒子(やや少)	良好	橙色	横位の押圧文、波状文や斜位の沈線を垂下させる。	加曽利E IV	77
127	84	V-5	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい褐色	櫛歯状工具による沈線を弧状に施文する。	中期後葉?	77
127	85	U-6	深鉢	胴部片	粗砂(やや多)	良好	にぶい橙色	櫛歯状工具による沈線を弧状に施文する。	中期後葉?	77
127	86	W-5	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	暗褐色	櫛歯状工具による集合条線を垂下させる。	中期後葉?	77
128	87	V-3	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい橙色	櫛歯状工具による集合条線を垂下させる。	中期後葉?	77
128	88	表土	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい橙色	櫛歯状工具による集合条線を垂下させる。	中期後葉?	77
128	89	U-5	深鉢	胴部片	粗砂・長石(やや多)	良好	明赤褐色	櫛歯状工具による刺突文を綾杉状に施文する。	曾利V	77
128	90	表土	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	褐色	雨垂れ状の短沈線文を施文する。	曾利V	77
128	91	V-2	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや多)	良好	橙色	沈線による懸垂文の区画内に雨垂れ状の短沈線文を施文する。	曾利V	77
128	92	W-4	鉢	頸~胴部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	明褐色	頸部がく字状に屈曲し、胴部には原体LRの単節斜縄文を横位に施文する。	中期後葉	77
128	93	U-5	鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	にぶい褐色	刺突文と沈線で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を充填する。	中期後葉	77

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
128	94	表土	鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	褐色	押圧文と隆帯で文様帯を描く。黒色塗彩を施す。	中期後葉	77
128	95	W-2	鉢(有孔 鏝付)	胴部片	粗砂・長石 (少)	良好	にぶい褐色	隆帯で文様帯を描く。外面は赤色塗彩、内面は黒色塗彩を施す。	中期後葉	77
128	96	U-3	鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	明褐色	隆帯で文様帯を描く。	中期後葉	77
128	97	W-3	鉢(両 耳壺)	把手片	粗砂・赤粒子 (やや少)	良好	にぶい褐色	橋状把手で、弧状の隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を横位に施文する。	中期後葉	77
128	98	W-3	鉢(両 耳壺)	把手片	粗砂(多)	良好	褐色	橋状把手で、隆帯でU字状隆帯を貼付する。	中期後葉	77
128	99	U-3	深鉢	口縁部把 手片	粗砂(やや少)	良好	黄褐色	耳状突起で、外面に原体RLの単節斜縄文を横位に施文する。	中期後葉	77
128	100	W-4	台付鉢	台部	礫・粗砂(や や多)	良好	橙色	底径8.4cm・残高5cmを測る。台部に刺突文を施す。	中期後葉	77
128	101	V-3	台付鉢	台部	粗砂(やや少)	良好	明褐色	残高2.8cmを測る。沈線を垂下させる。	中期後葉	77
128	102	W-1	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(や や多)	良好	にぶい黄 橙色	口縁部の突起で、渦巻文や隆帯で文様帯を構成する。	中期後葉 (越後系?)	77
128	103	W-1	深鉢	口縁部突 起片	粗砂・赤粒子 (やや少)	良好	にぶい赤 褐色	孔のあいた三角状突起で、孔や短沈線などで内外面側面に文様帯を描く。	「茂沢類型」 ?	77
128	104	W-3	浅鉢 (注口)	口縁部把 手(注口) 片	粗砂・石英・ 長石(やや多)	良好	橙色	2つの穿孔のある耳状で、蕨手文や勾玉文などで文様帯を描く。口縁部には沈線で区画された中に原体LRの単節斜縄文を横位に施文した後、刺突文を施す。	称名寺II	77
128	105	表土	浅鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	灰黄褐色	口縁は緩やかな波状を呈する。口縁部は横位の沈線と刺突文で文様帯を描く。	称名寺II	77
128	106	V-3	浅鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	橙色	横位の隆帯で文様帯を区画し、区画内には横位の刺突文を施す。	称名寺II	77
128	107	611土坑	浅鉢	口縁部片	粗砂・石英 (やや少)	良好	にぶい褐 色	口縁部はく字状に屈曲する。口縁部は縦位の隆帯や横位の沈線、刺突文で文様帯を描く。108と同一。	称名寺II	77
128	108	611土坑	浅鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	灰黄褐色	横位の隆帯と沈線を施文する。107と同一。	称名寺II	77
128	109	W-4	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄 橙色	口唇部に刺突文と沈線を施文する。口縁部の地文は原体RLの単節斜縄文で、横位の沈線で区画される。	称名寺II	77
128	110	表土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄 橙色	口縁部の地文は原体LRの単節斜縄文で、沈線と刺突文で文様帯を構成する。	称名寺II	77
128	111	V-6	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	褐色	半裁竹管の端部で刺突文を施す。	称名寺II	77
128	112	611土坑	深鉢	胴部片	粗砂(やや多)	良好	にぶい黄 橙色	沈線で文様帯を区画し、区画内に原体LRの単節斜縄文を縦位施文する。117と同一。	「関沢類型」 ?	77
128	113	611土坑	深鉢	胴部片	礫(多)・粗砂 (少)	良好	にぶい黄 橙色	地文や原体LRの単節斜縄文で、沈線で文様帯を区画する。	「関沢類型」 ?	77
128	114	672土坑	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(や や多)	良好	黄褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、沈線で文様帯を描く。	「関沢類型」 ?	77
128	115	V-2	深鉢	胴部片	粗砂・石英 (やや少)	良好	にぶい黄 橙色	地文は原体RLの単節斜縄文で、蛇行沈線文で文様帯を描く。	「関沢類型」 ?	77
128	116	U-2	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	褐灰色	沈線で文様帯を区画し、区画内に原体LRの単節斜縄文を充填する。	称名寺I	77
128	117	611土坑	深鉢	胴部片	粗砂(やや多)	良好	にぶい黄 橙色	沈線で文様帯を区画し、区画内に原体LRの単節斜縄文を縦位施文する。112と同一。	「関沢類型」 ?	77
128	118	表土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(や や多)	良好	にぶい黄 褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、斜位の沈線で区画する。	称名寺	77
128	119	V-3	深鉢	胴部片	礫・粗砂(や や少)	良好	にぶい黄 橙色	地文は原体RLの単節斜縄文で、横位の押圧文と沈線を施文する。	「関沢類型」 ?	77
128	120	672土坑	深鉢	胴部片	粗砂・石英 (やや多)	良好	黄褐色	横位の沈線を施文する。	称名寺?	77
128	121	611土坑	深鉢	胴部片	礫・粗砂・石 英(やや少)	良好	にぶい黄 橙色	弧状の沈線で文様帯を描く。	称名寺II	77
128	122	672土坑	深鉢	胴部片	粗砂・石英・ 長石(少)	良好	にぶい黄 橙色	横位の沈線と刺突文を施文する。	称名寺II	77
129	123	W-3	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	橙色	U字状の沈線と刺突文を施文する。	称名寺II	77

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
129	124	表土	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄 橙色	沈線で文様帯を区画し、区画内に列点文を 施文する。	称名寺Ⅱ	77
129	125	表土	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・ 長石(やや少)	良好	にぶい橙 色	橋状把手がつく。胴部は∩字状沈線で文様 を描く。	称名寺?	77
129	126	U-6	深鉢	胴部片	礫(少)・粗砂 (やや多)	良好	にぶい赤 褐色	押圧文を施した隆帯を垂下させる。	称名寺?	77
129	127	U-2	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	浅黄色	横位の隆帯を貼付する。	後期初頭	77
129	128	U-3	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(少)	良好	黄橙色	横位の隆帯を貼付する。	後期初頭	77
129	129	V-3	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄 橙色	横位の隆帯を貼付する。	後期初頭	77
129	130	V-3	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄 橙色	横位の隆帯を貼付する。	後期初頭	77
129	131	U-3	深鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	普通	黄橙色	横位の隆帯を貼付する。	後期初頭	77
129	132	表土	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・ 長石(やや少)	良好	にぶい橙 色	横位の隆帯を貼付する。	後期初頭	78
129	133	表土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	褐灰色	横位の隆帯を貼付する。	後期初頭	78
129	134	609土坑	深鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	良好	褐灰色	横位の隆帯を施文する。	後期初頭	78
129	135	W-2	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(少)	良好	灰褐色	T字状の隆帯を貼付する。	後期初頭	78
129	136	W-5 表土	深鉢	口縁部片	粗砂・金雲母 (やや多)	良好	暗赤灰色	口縁部は、押圧文を施した横位の隆帯を貼 付する。地文は原体LRの単節斜縄文を縦 位に施文する。	後期初頭	78
129	137	W-5	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・ 長石・金雲母 (やや多)	良好	褐灰色	口縁部は、押圧文を施した横位の隆帯を貼 付する。138・139と同一。	後期初頭	78
129	138	表土	深鉢	頸部片	粗砂・石英・ 長石・金雲母 (やや多)	良好	暗赤灰色	頸部は、押圧文を施した横位の隆帯を貼付 する。137・139と同一。	後期初頭	78
129	139	W-5	深鉢	頸部片	粗砂・石英・ 長石・金雲母 (やや多)	良好	黒褐色	頸部は、押圧文を施した横位の隆帯を貼付 する。137・138と同一。	後期初頭	78
129	140	W-5	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄 褐色	口縁部は、押圧文を施した横位の隆帯を貼 付する。	後期初頭	78
129	141	T-4	深鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	良好	黒褐色	口縁部は、押圧文を施した横位の隆帯を貼 付する。	後期初頭	78
129	142	V-2	深鉢	口縁部片	礫(少)・粗砂 (やや少)	良好	にぶい橙 色	口縁部は、押圧文を施した横位の隆帯と沈 線を施文する。	後期初頭	78
129	143	W-2	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい褐 色	口唇部は外面に突出する。口縁部は刺突文 を施した横位の隆帯を貼付する。	後期初頭	78
129	144	W-4	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい橙 色	口縁部は舌状を呈し、刺突文と流水文を施 文する。	「茂沢類型」 ?	78
129	145	T-3	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄 橙色	口縁部に小突起がつく。口縁部は隆帯と刺 突文で文様帯を構成する。	堀之内1 (信州系)	78
129	146	W-4	深鉢	口縁部片	粗砂・長石 (やや多)	良好	にぶい黄 褐色	口縁部は小突起がつく。口縁部は端部が円 形文の沈線を横位に施文する。	堀之内1 (信州系)	78
129	147	V-4	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・ 長石(やや多)	良好	橙色	口縁部は小突起がつき、斜位の条線で文様 帯を構成する。	堀之内1 (信州系)	78
129	148	V-2	深鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	良好	橙色	口縁部は小突起がつき、端部が孔の沈線と 斜位の条線で文様帯を構成する。	堀之内1 (信州系)	78
129	149	V-3	深鉢	口縁部突 起片	粗砂(少)	良好	褐灰色	内外面に渦巻文を貼付する。	堀之内1 (信州系)	78
129	150	U-2	深鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	良好	黒褐色	口縁部は小突起がつき、口唇部に蕨手文を 施文する。	堀之内1 (信州系)	78
129	151	表土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄 橙色	口縁部は波状を呈し、押圧文を施した隆帯 を垂下させる。	堀之内1 (信州系)	78
129	152	W-5	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	明褐色	口縁部は小突起がつき、押圧文や斜位の条 線、刺突文で文様帯を構成する。	堀之内1 (信州系)	78
129	153	表土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄 橙色	口唇部に横位の沈線と押圧文を施す。口縁 部は隆帯を垂下させる。	堀之内1 (信州系)	78
129	154	V-6	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい褐 色	口縁下部に横位の沈線と刻みを施す。	堀之内1 (信州系)	78

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
129	155	表土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄 橙色	口縁部は波状し、小突起がつく。小突起の内面は肥厚し、刺突文や縦位の隆帯を貼付する。外面は微隆帯を垂下させる。	堀之内1 (信州系)	78
129	156	U-3 V-3	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	橙色	口縁下部に横位の隆帯を貼付する。胴部の地文は原体LRの単節斜縄文を横位に施文する。	堀之内1 (信州系)	78
129	157	W-4	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄 橙色	口縁下部に横位の隆帯を貼付する。胴部の地文は原体LRの単節斜縄文を横位に施文する。	堀之内1 (信州系)	78
129	158	V-3	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	明黄褐色	口唇部に横位の沈線を施文する。口縁部は横位・斜位の沈線を施文する。	堀之内1 (信州系)	78
129	159	610土坑	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(少)	良好	褐灰色	押圧文を施した横位の隆帯や沈線で文様帯を描く。	堀之内1 (信州系)	78
129	160	W-4 V-2	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄 橙色	口縁端部が肥厚する。胴部は沈線で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を横位に施文する。	堀之内1 (信州系)	78
129	161	U-1	深鉢	頸部片	粗砂・石英・ 長石(やや多)	良好	にぶい黄 橙色	刺突を施したY字状隆帯を貼付する。	堀之内1 (信州系)	78
129	162	T-2	深鉢	頸部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄 橙色	刺突文を施した隆帯を垂下させる。	堀之内1 (信州系)	78
129	163	609土坑	深鉢	頸部片	粗砂(やや多)	良好	にぶい褐 色	沈線や隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。	堀之内1 (信州系)	78
129	164	V-3	深鉢	頸部片	粗砂(やや少)	良好	黒褐色	刺突文と渦巻文を貼付する。	堀之内1 (信州系)	78
129	165	W-2	深鉢	頸部片	粗砂(やや少)	良好	橙色	横位・斜位・弧状の沈線で文様帯を描く。	堀之内1 (信州系)	78
129	166	W-2	深鉢	頸~胴部 片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄 橙色	刺突文を施した貼付文や横位・弧状の沈線で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を縦位に施文する。	堀之内1 (信州系)	78
129	167	V-3	深鉢	胴部片	粗砂・石英 (やや少)	良好	にぶい黄 橙色	地文は原体LRの単節斜縄文で、弧状の沈線で文様帯を描く。	堀之内1 (信州系)	78
129	168	V-3	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	黒褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、蕨手文や弧状の沈線で文様帯を描く。	堀之内1 (信州系)	78
129	169	表土	深鉢	胴部片	粗砂(やや多)	良好	黄褐色	斜位の沈線と弧状の隆帯で文様帯を描く。	堀之内1 (信州系)	78
130	170	V-3	深鉢	胴部片	粗砂・石英・ 長石(やや多)	良好	にぶい黄 橙色	刺突文や沈線で文様帯を描く。	堀之内1 (信州系)	78
130	171	V-1	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	黒褐色	L字状沈線を縦位に施文する。	南三十稲場	78
130	172	V-5	深鉢	胴部片	礫・粗砂(や や少)	良好	にぶい褐 色	櫛歯状工具による沈線を垂下させる。	南三十稲場	78
130	173	表土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(や や少)	良好	にぶい黄 橙色	櫛歯状工具による斜位の沈線を施文する。	南三十稲場	78
130	174	W-2	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	黒褐色	櫛歯状工具による弧状沈線を施文する。	南三十稲場	78
130	175	U-6	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	明黄褐色	櫛歯状工具による縦位の流水文を施す。	南三十稲場	78
130	176	610土坑	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	褐灰色	口縁部は波状を呈し、刺突文を施した小突起がつく。口縁部は刺突文を施した縦位・横位の隆帯、横位・斜位の沈線で文様帯を描く。	堀之内2	78
130	177	V-1	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・ 長石(やや少)	良好	明黄褐色	口縁は小波状を呈する。口縁部は押圧文を施した横位の隆帯を貼付した後、刺突文を施したりボン状貼付文を貼付する。胴部は沈線で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を横位に施文する。	堀之内2	78
130	178	609土坑	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	褐灰色	地文は原体RLの単節斜縄文で、微隆帯と刺突、横位の沈線を施文する。	堀之内2	78
130	179	U-6	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	黒褐色	口縁部は押圧文を施した横位の隆帯を貼付した後、刺突文を施したりボン状貼付文を貼付する。胴部は沈線で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を横位に施文する。	堀之内2	78

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
130	180	U-5	深鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	良好	橙色	口縁部は押圧文を施した横位の隆帯を貼付した後、刺突文を施したりボン状貼付文を貼付する。胴部は沈線で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を横位に施文する。	堀之内2	78
130	181	T-6	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや少)	良好	褐色	口縁部は押圧文を施した横位の隆帯を貼付した後、刺突文を施したりボン状貼付文を貼付する。胴部は沈線で文様帯を区画し、区画内には部分的に原体LRの単節斜縄文を横位に施文する。	堀之内2	78
130	182	T-1	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい橙色	口縁部は押圧文を施した横位の隆帯を貼付する。胴部は沈線で文様帯を区画し、区画内には部分的に原体LRの単節斜縄文を横位に施文する。	堀之内2	78
130	183	T-3	深鉢	口縁部片	粗砂・赤粒子(少)	良好	にぶい黄褐色	口縁部は、横位のひ字状隆帯と沈線で文様帯を構成する。	堀之内2	78
130	184	610土坑	深鉢	口縁部片	粗砂・石英(やや少)	良好	にぶい赤褐色	口唇部には沈線を施文する。外面は押圧文を施した横位の隆帯と沈線で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を横位に施文する。	堀之内2	78
130	185	W-4	深鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	良好	明灰黄色	地文は原体RLの単節斜縄文で、横位の隆帯を貼付する。	堀之内2	78
130	186	T-3	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	黒褐色	口縁部は押圧文を施した横位の隆帯を貼付した後、刺突文を施したりボン状貼付文を貼付する。胴部は沈線で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を横位に施文する。	堀之内2	78
130	187	W-1	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや少)	良好	にぶい赤褐色	口縁部は押圧文を施した横位の隆帯を貼付した後、刺突文を施したりボン状貼付文を貼付する。胴部は横位の沈線を施文する。	堀之内2	78
130	188	W-1	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	褐灰色	口縁部に耳状突起がつき、内面から外面に穿孔を施す。外面は押圧文を施した隆帯とリボン状貼付文、内面は弧状沈線で文様帯を描く。	堀之内2	78
130	189	611土坑	深鉢	口縁部片	粗砂・石英(やや少)	良好	灰黄褐色	2条1組の横位の隆帯を貼付した後、交差する縦位の隆帯を貼付する。胴部には弧状の沈線を施文する。	堀之内2	78
130	190	U-2	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	橙色	列点文を施した貼付文と横位の列点文を施文する。	堀之内2	78
130	191	T-2	深鉢	口縁部片	粗砂・長石・片岩(やや少)	良好	橙色	口縁内面は横位の条線を施文する。外面は縦位・横位の沈線を施文する。	堀之内2	78
130	192	V-6	深鉢	口縁部片	粗砂・長石(やや多)	良好	明黄褐色	口縁は小波状を呈する。外面の地文は原体LRの単節斜縄文で、横位の沈線を施文する。内面は蕨手文を施した隆帯を貼付する。	堀之内2	78
130	193	W-2	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	灰黄褐色	口縁部に沈線や隆帯を施文した橋状把手がつく。外面は横位のU字状隆帯を貼付する。	堀之内2	78
130	194	W-4	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	明灰黄色	沈線で文様帯を区画し、区画内には横位の原体LRの単節斜縄文と斜位の沈線を施文する。	堀之内2	78
130	195	U-5	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや少)	良好	黒褐色	沈線で文様帯を区画し、区画内に原体LRの単節斜縄文を充填する。	堀之内2	78
130	196	609土坑	深鉢	胴部片	粗砂(やや多)	良好	灰黄褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、横位の沈線を施文する。	堀之内2	78
130	197	表土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや少)	良好	明灰黄色	渦巻文や幾何学文で文様帯を描く。	堀之内2	78
130	198	W-3	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	にぶい黄褐色	鐘形の器形で、沈線間の列点文を斜位に施文する。	堀之内2	78
130	199	U-3	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや多)	良好	褐色	口縁部内面に横位の沈線を施文する。外面は原体Lの無節を横位に施文する。	後期前葉	78

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
130	200	T-3	深鉢	口縁部片	粗砂・長石(やや多)	良好	黒褐色	口縁部内面に横位の押圧文を施文する。外面の地文は原体Rの無節で、沈線で文様を描く。	後期前葉	78
130	201	T-4	深鉢	口縁部片	粗砂・長石(やや少)	良好	にぶい黄橙色	口縁部内面に横位の押圧文を施文する。外面の地文は原体Rの無節で、沈線で文様を描く。	後期前葉	78
130	202	V-6	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや少)	良好	にぶい黄橙色	口縁部内面に横位の押圧文を施文する。外面は横位・斜位の沈線を施文する。	後期前葉	78
130	203	T-3	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	横位や弧状の沈線で文様を描く。	後期前葉	79
130	204	表土	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	橙色	横位や斜位の沈線で文様を描く。	後期前葉	79
130	205	U-6	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや少)	良好	にぶい黄橙色	横位や斜位、弧状の沈線で文様を描く。	後期前葉	79
130	206	表土	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	明黄褐色	交差する沈線を施文する。	後期前葉	79
130	207	U-2	注口	把手	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	橋状把手で、沈線と隆帯で文様帯を描く。	後期前葉	79
130	208	T-3	注口	口縁部把手片	粗砂(少)	良好	黒色	橋状把手で、口縁部に穿孔を施す。	後期前葉	79
130	209	W-2	注口	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	沈線で文様帯を区画し、区画内には部分的に原体LRの単節斜縄文を横位に施文する。	堀之内2	79
130	210	U-3	注口	胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	押圧文を施した横位の隆帯と沈線で文様帯を区画し、沈線間に原体LRの単節斜縄文を充填する。	堀之内2	79
130	211	W-2	注口	胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	渦巻文や刺突文、横位の沈線で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。212と同一。	堀之内2	79
130	212	W-3	注口	胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	渦巻文や刺突文、横位の沈線で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。211と同一。	堀之内2	79
130	213	V-2	注口	胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	横位の隆帯と弧状の沈線で文様を描く。	堀之内2	79
130	214	T-6	注口	胴部片	粗砂(やや少)	良好	黒褐色	2条1組の沈線で文様を描く。	堀之内2	79
130	215	T-3	注口	胴部片	粗砂(少)	良好	オリーブ黒色	沈線や刺突文で文様を描く。	堀之内2	79
131	216	W-1	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	口径36cm・残高12.7cmを測る。返しのある半円形の爪形刺突文を全面的に施文する。	三十稲場	79
131	217	W-3	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	返しのある半円形の爪形刺突文を施文する。	三十稲場	79
131	218	W-3	深鉢	胴部片	粗砂・石英(やや少)	良好	明黄褐色	返しのある半円形の爪形刺突文を施文する。	三十稲場	79
131	219	W-3	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや多)	良好	にぶい黄褐色	爪形刺突文を全面的に施文する。	三十稲場	79
131	220	U-8	深鉢	胴部片	礫・粗砂・石英(やや少)	良好	灰黄褐色	爪形や円形の刺突文を全面的に施文する。	三十稲場	79
131	221	W-2	深鉢	胴部片	粗砂・石英(やや少)	良好	にぶい黄褐色	爪形の刺突文を全面的に施文する。	三十稲場	79
131	222	V-6	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	灰黄褐色	爪形の刺突文を全面的に施文する。	三十稲場	79
131	223	W-2	深鉢	胴部片	粗砂(やや多)	良好	にぶい黄褐色	爪形の刺突文を全面的に施文する。	三十稲場	79
131	224	U-3	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	灰褐色	横位と斜位の沈線を施文する。	後期前葉	79
131	225	U-2 表土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	口径17cm・残高3.3cmを測る。押圧文を施した横位の微隆帯3条と縦位の円形貼付文を施文する。226・227と同一。	堀之内2 (信州系)	79
131	226	U-2	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	押圧文を施した横位の微隆帯を施文する。225・227と同一。	堀之内2 (信州系)	79
131	227	U-2	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	押圧文を施した横位の微隆帯を施文する。225・226と同一。	堀之内2 (信州系)	79

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
131	228	U-5 表土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	オリーブ 黒色	口唇部に小リボン状突起がつき、内面には横位の沈線を施文する。口縁部は横位の沈線で、胴部は沈線で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を充填する。229～233と同一。	「石神類型」	79
131	229	表土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	黒色	口唇部に小リボン状突起がつき、内面には横位の沈線を施文する。口縁部は横位の沈線を施文する。228・230～233と同一。	「石神類型」	79
131	230	表土	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	オリーブ 黒色	横位の沈線と沈線で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を充填する。228・229・231～233と同一。	「石神類型」	79
131	231	表土	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	オリーブ 黒色	胴部は横位の沈線を施文する。228～230・232・233と同一。	「石神類型」	79
131	232	U-6	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	黒色	胴部は沈線で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を充填する。228～231・233と同一。	「石神類型」	79
131	233	表土	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	オリーブ 黒色	胴部は沈線で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を充填する。228～232と同一。	「石神類型」	79
131	234	T-7	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	灰オリーブ 色	横位・斜位の沈線を施文する。	「石神類型」	79
131	235	表土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	灰黄褐色	口縁部は波状を呈し、内面は横位・斜位・弧状の沈線を施文する。外面の地文は原体LRの単節斜縄文で、櫛歯状工具による横位の沈線と条線で文様帯を区画する。236～240と同一。	加曽利B1	79
131	236	表土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄 橙色	口縁部は波状を呈し、内面は横位・斜位・弧状の沈線を施文する。外面の地文は原体LRの単節斜縄文で、櫛歯状工具による横位の沈線と条線で文様帯を区画する。235・237～240と同一。	加曽利B1	79
131	237	U-6	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄 橙色	口縁部は波状を呈し、内面は横位・斜位・弧状の沈線を施文する。外面の地文は原体LRの単節斜縄文で、櫛歯状工具による横位の沈線と条線で文様帯を区画する。235・236・238～240と同一。	加曽利B1	79
131	238	表土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄 橙色	口縁部は波状を呈し、内面は横位・斜位・弧状の沈線を施文する。外面の地文は原体LRの単節斜縄文で、櫛歯状工具による横位の沈線と条線で文様帯を区画する。235～237・239・240と同一。	加曽利B1	79
131	239	表土	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄 橙色	地文は原体LRの単節斜縄文で、櫛歯状工具による横位の沈線と条線で文様帯を区画する。235～238・240と同一。	加曽利B1	79
131	240	16住	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄 橙色	櫛歯状工具による横位の沈線を施文する。235～239と同一。	加曽利B1	79
131	241	U-1	深鉢	胴部片	粗砂・長石 (少)	良好	にぶい黄 橙色	櫛歯状工具による横位の沈線を施文する。	加曽利B1	79
131	242	表土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(や や少)	良好	灰黄褐色	櫛歯状工具による横位の沈線を施文する。	加曽利B1	79
131	243	V-1	深鉢	胴部片	粗砂(やや多)	良好	褐灰色	櫛歯状工具による横位の沈線を施文する。	加曽利B1	79
131	244	W-1	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄 橙色	櫛歯状工具による横位の沈線を施文する。	加曽利B1	79
131	245	T-2	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(や や少)	良好	褐灰色	内面は横位の条線を施文する。外面は平行線化した磨消縄文を横位に施文する。	加曽利B1	79
131	246	V-3	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄 橙色	口縁部は波状を呈し、内面は口縁に沿って横位の条線を施文する。外面は平行線化した磨消縄文を横位に施文する。	加曽利B1	79

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
131	247	表土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	黒色	口縁部に突起がつき、穿孔を施す。内面は横位の隆帯と沈線を施文する。外面は沈線で区画された原体LRの単節斜縄文を横位に施文する。	加曽利B 1	79
131	248	T-5	深鉢	口縁部片	粗砂・石英(やや少)	良好	にぶい褐色	口唇部には刻みを施す。内面は横位の隆帯と条線を施文する。外面は平行線化した磨消縄文を横位に施文する。	加曽利B 1	79
131	249	V-4	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	褐灰色	口唇部は棒状工具による押圧文を施す。内面は刻みを施した隆帯や条線を横位に施文する。外面は横位の条線を施文する。250と同一。	加曽利B 1	79
131	250	V-6	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	灰黄褐色	口唇部は棒状工具による押圧文を施す。内面は刻みを施した隆帯や条線を横位に施文する。外面は横位の条線を施文する。249と同一。	加曽利B 1	79
131	251	V-5	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	褐色	口唇部は棒状工具による押圧文を施す。内面は刻みを施した隆帯や条線、刺突文を横位に施文する。外面は横位の条線を施文する。	加曽利B 1	79
131	252	609土坑	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい橙色	内面には横位の沈線や刻み、隆帯で文様帯を描く。	加曽利B 1	79
131	253	表土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	褐灰色	口唇部は棒状工具による押圧文を施す。内面は横位の条線と押圧文を施文する。外面は横位の条線を施文する。	加曽利B 1	79
131	254	V-1	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	口唇部は棒状工具による押圧文を施す。内面は横位の条線を施文する。外面は平行線化した磨消縄文を横位に施文する。	加曽利B 1	79
131	255	T-5 表土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	褐灰色	内面は横位の隆帯と条線を施文する。外面は平行線化した磨消縄文を横位に施文する。	加曽利B 1	79
131	256	T-6	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	褐灰色	口唇部は棒状工具による押圧文を施す。内面は横位の条線と押圧文を施文する。外面は横位の条線を施文する。	加曽利B 1	79
132	257	V-5	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄色	口唇部は棒状工具による押圧文を施す。内面は横位の隆帯と条線、押圧文を施文する。外面は横位の段差をもつ条線を施文する。	加曽利B 1	79
132	258	U-5	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	褐灰色	口唇部は棒状工具による押圧文を施す。内面は横位の隆帯と条線、押圧文を施文する。外面は横位の条線を施文する。	加曽利B 1	79
132	259	V-4	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	褐灰色	口唇部は棒状工具による押圧文を施す。内面は横位の隆帯と条線を施文する。外面は横位の条線を施文する。	加曽利B 1	79
132	260	表土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	黒褐色	口唇部は棒状工具による押圧文を施す。内面は横位の隆帯と条線、押圧文を施文する。外面は横位の条線を施文する。	加曽利B 1	79
132	261	V-6 W-5	浅鉢?	口縁部片	粗砂(少)	良好	灰黄褐色	口縁部は緩やかな波状を呈し、口唇部は棒状工具による押圧文を施す。内面は横位の隆帯と条線、押圧文、円形文を施文する。	加曽利B 1	79
132	262	T-3	浅鉢?	口縁部片	礫・粗砂(やや多)	良好	灰褐色	口縁部は緩やかな波状を呈し、口唇部は棒状工具による押圧文を施す。内面は口縁部に沿って横位の隆帯と条線を施文する。	加曽利B 1	79
132	263	表土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	褐灰色	内面は横位の隆帯と条線を施文し、外面は横位の条線を施文する。	加曽利B 1	79
132	264	表土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	灰黄褐色	口唇部は棒状工具による押圧文を施す。内面は横位の隆帯と条線、押圧文、部分的に原体RLの単節斜縄文を施文する。外面は横位の条線を施文する。	加曽利B 1	79
132	265	表土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	灰黄褐色	口縁部は緩やかな波状を呈し、一部に棒状工具による押圧を施す。内面は口縁部に沿って横位の条線を施文する。	加曽利B 1	80

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
132	266	U-3	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄 橙色	内面に押圧文を施した横位の微隆帯と刺突文を施した貼付文を施文する。	加曽利B 1	80
132	267	表土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	褐灰色	内面に横位の楕円形沈線を施文する。	加曽利B 1	80
132	268	表土	深鉢	口縁部片	粗砂・長石 (やや少)	良好	にぶい黄 橙色	口唇部にキザミ目文を施した後、条線を施文する。外面は押圧文を施した横位置の微隆帯を施文する。	加曽利B 1	80
132	269	U-2	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(や や多)	良好	褐灰色	内面は横位の条線を施文する。外面は斜位の沈線と条線、平行線化した磨消縄文を横位に施文する。	加曽利B 1	80
132	270	表土	深鉢	口縁部片	粗砂・長石 (やや少)	良好	褐色	口唇部は棒状工具による押圧文を施す。内面は横位の隆帯と押圧文を施文する。外面は横位の条線と斜位の沈線を施文する。	加曽利B 1	80
132	271	表土	鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄 橙色	外面は区切り文を加えた平行線化した磨消縄文を横位に施文する。	加曽利B 1	80
132	272	表土	鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄 橙色	口縁部には外面から内面に穿孔を施す。外面は平行線化した磨消縄文を横位に施文する。	加曽利B 1	80
132	273	610土坑	鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい橙 色	横位の集合条線を施す。	加曽利B 1	80
132	274	表土	鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい赤 褐色	横位の押圧文を施した隆帯や平行線化した磨消縄文を施文する。内外面に赤色塗彩。275・276は同一。	加曽利B 1	80
132	275	V-6	鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい赤 褐色	口唇部に棒状工具による押圧文を施す。横位の押圧文を施した隆帯や平行線化した磨消縄文を施文する。内外面に赤色塗彩。274・276は同一。	加曽利B 1	80
132	276	U-5	鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい赤 褐色	横位の押圧文を施した隆帯や平行線化した磨消縄文を施文する。内外面に赤色塗彩。274・275は同一。	加曽利B 1	80
132	277	表土	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい橙 色	外面は区切り文を加えた平行線化した磨消縄文や条線を横位に施文する。	加曽利B 1	80
132	278	U-2	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	黄灰色	外面は区切り文を加えた平行線化した磨消縄文や条線、刻みを施した隆帯を横位に施文する。	加曽利B 1	80
132	279	表土	深鉢	口縁部片	礫(多)・粗砂 (やや少)	良好	暗灰色	内面は横位の条線、外面は区切り文を加えた平行線化した磨消縄文を横位に施文する。	加曽利B 1	80
132	280	V-5	深鉢	胴部片	粗砂・片岩 (やや少)	良好	灰黄褐色	コ字状沈線を横位に施文する。	加曽利B 1	80
132	281	表土	深鉢	胴部片	粗砂・長石 (少)	良好	にぶい橙 色	横位の条線を施文する。	加曽利B 1	80
132	282	表土	鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	灰褐色	外面は区切り文を加えた平行線化した磨消縄文を横位に施文する。	加曽利B 1	80
132	283	T-1 T-2	鉢	頸~胴部 片	礫・粗砂・長 石・片岩(や や少)	良好	にぶい橙 色	外面は区切り文を加えた平行線化した磨消縄文を横位に施文する。	加曽利B 1	80
132	284	U-6	鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄 橙色	外面は区切り文を加えた平行線化した磨消縄文と条線を横位に施文する。	加曽利B 1	80
132	285	表土	鉢	頸~胴部 片	粗砂(少)	良好	にぶい橙 色	横位の条線を施文する。	加曽利B 1	80
132	286	U-2	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい赤 褐色	内面は横位の条線、外面は横位の沈線と綾杉文を施文する。	加曽利B 1	80
132	287	T-3	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい赤 褐色	内面は横位の隆帯と条線、外面は横位の沈線と綾杉文を施文する。	加曽利B 1	80
132	288	T-4	注口	胴部片	粗砂(やや少)	良好	灰黄褐色	横位の押圧文を施した隆帯を施文する。	加曽利B 1	80
132	289	W-4	注口	胴部片	粗砂(少)	良好	黒色	横位の押圧文を施した隆帯を施文する。	加曽利B 1	80
132	290	T-3	注口	胴部片	粗砂(やや多)	良好	にぶい橙 色	横位の押圧文を施した隆帯を施文する。	加曽利B 1	80
132	291	W-3	注口	胴部片	粗砂(少)	良好	褐灰色	横位の押圧文を施した隆帯を施文する。	加曽利B 1	80

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
132	292	表土	注口	口縁部片	粗砂(少)	良好	褐灰色	横位の押圧文を施した隆帯や沈線、隆帯を施文する。	加曾利B 1	80
132	293	U-2	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	灰黄褐色	穿孔を施す。	後期前葉	80
132	294	T-2	深鉢	口縁部片	礫・粗砂・石英・長石(多)	良好	にぶい褐色	緩やかな条線や隆帯を横位に施文する。	後期前葉	80
132	295	U-2	深鉢	口縁部突起片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	隆帯を貼付した突起である。	後期	80
132	296	表土	深鉢	胴部～底部	粗砂(やや多)	良好	にぶい黄褐色	底径9cm・残高4.2cmを測る。底面に木葉痕。	後期	80
132	297	U-3	深鉢	胴部～底部	礫・粗砂(やや多)	良好	明赤褐色	底径10.4cm・残高4.6cmを測る。底面に木葉痕。	後期	80
132	298	U-6	深鉢	胴部～底部	粗砂(やや多)	良好	黄褐色	底径9cm・残高2.5cmを測る。底面に網代痕。	後期	80
132	299	T-2	深鉢	胴部～底部	礫・粗砂(やや多)	良好	にぶい黄褐色	底径11cm・残高4.5cmを測る。底面に網代痕。	後期	80
132	300	609土坑	深鉢	底部片	粗砂・石英(やや少)	良好	明赤褐色	底径7cm・残高2.4cmを測る。底部に網代痕。	後期	80
133	301	609土坑	深鉢	底部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	底径11cm・残高2.1cmを測る。底部に網代痕。	後期	80
133	302	T-3	深鉢	胴部～底部	粗砂(やや多)	良好	橙色	底径16cm・残高5.2cmを測る。底面に網代痕。	後期	80
133	303	表土	器台?	口縁部片	粗砂(少)	良好	褐灰色	磨きを施す。蓋の可能性もあり?	後期	80
133	304	V-3	ミニチュア土器	口縁～底部	粗砂(少)	良好	暗灰黄色	口径4.3cm・器高5.2cm・底径3.3cmを測る。	後期	80
133	305	W-2	ミニチュア土器	口縁部片	粗砂・長石(少)	良好	にぶい黄褐色	横位の沈線を施文する。	後期	80
133	306	V-6	円盤	深鉢破片	粗砂(やや少)	良好	にぶい赤褐色	断面に擦痕。	土製品	80
133	307	V-6	円盤	深鉢破片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	断面に擦痕。	土製品	80
133	308	表土	円盤	深鉢破片	礫・粗砂(少)	良好	にぶい橙色	断面に擦痕。	土製品	80
133	309	表土	円盤	深鉢破片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	断面に擦痕。	土製品	80
133	310	U-3	円盤	深鉢破片	粗砂・長石(少)	良好	にぶい褐色	断面に擦痕。	土製品	80
133	311	U-3	円盤	深鉢破片	粗砂・長石(少)	良好	橙色	地文は原体RLの単節斜縄文である。	土製品	80
133	312	表土	円盤	深鉢破片	粗砂・長石(少)	良好	褐色	断面に擦痕。	土製品	80
133	313	U-4	円盤	深鉢破片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	断面に擦痕。	土製品	80
133	314	表土	円盤	深鉢破片	粗砂(やや多)	良好	にぶい黄褐色	断面に擦痕。	土製品	80
133	315	V-3	円盤	深鉢破片	粗砂(やや多)	良好	にぶい赤褐色	断面に擦痕。1/3欠損。	土製品	80
133	316	T-5	円盤	深鉢破片	粗砂(少)	良好	にぶい褐色	断面に擦痕。	土製品	80
133	317	W-2	円盤	深鉢破片	粗砂(多)	良好	にぶい褐色	断面に擦痕。	土製品	80
133	318	表土	円盤	深鉢破片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	断面に擦痕。	土製品	80
133	319	609土坑	円盤	深鉢破片	粗砂・石英(やや少)	良好	にぶい橙色	断面に擦痕。	土製品	80
133	320	611土坑	円盤	深鉢破片	礫・粗砂(やや多)	良好	にぶい橙色	地文は原体LRの単節斜縄文を縦位に施文する。	土製品	80
133	321	表土	円盤	深鉢破片	粗砂・石英・長石(少)	良好	にぶい褐色	地文は原体LRの単節斜縄文と横位の沈線を施文する。	土製品	80
133	322	表土	円盤	深鉢破片	粗砂(少)	良好	褐灰色	断面に擦痕。	土製品	80

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
133	323	表土	円盤	深鉢破片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	橙色	横位の条線を施文する。	土製品	80
133	324	U-3	円盤	深鉢破片	粗砂・石英・赤粒子(やや多)	良好	灰色	断面に擦痕。	土製品	80
133	325	U-3	円盤	深鉢破片	粗砂・石英・赤粒子(やや多)	良好	にぶい黄 橙色	断面に擦痕。	土製品	80
133	326	W-2	円盤	深鉢破片	礫・粗砂・赤粒子(やや少)	良好	橙色	孔を穿つ。断面に擦痕。	土製品	80
133	327	V-2	円盤	深鉢破片	粗砂(少)	良好	にぶい黄 褐色	断面に擦痕。	土製品	80
133	328	表土	円盤	深鉢破片	粗砂(やや多)	良好	灰褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、斜位の沈線を施文する。断面に擦痕。半分欠損。	土製品	80
133	329	表土	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	灰黄褐色	櫛歯状工具による横位の条線を施文する。330・331と同一。	時期不明	80
133	330	表土	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄 橙色	櫛歯状工具による横位の条線を施文する。329・331と同一。	時期不明	80
133	331	表土	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄 橙色	櫛歯状工具による横位の条線を施文する。329・330と同一。	時期不明	80
133	332	U-3	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄 橙色	櫛歯状工具による横位の条線を施文する。	時期不明	80
133	333	V-2	深鉢	胴部片	粗砂・長石(やや少)	良好	橙色	櫛歯状工具による横位の条線を施文する。	時期不明	80
133	334	609土坑	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄 褐色	横位の集合条線を施す。	時期不明	80
133	335	W-4	深鉢	胴部片	粗砂・長石(やや少)	良好	にぶい褐 色	櫛歯状工具による横位の条線を施文する。	時期不明	80
133	336	U-4	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	褐色	斜位の条線を施文する。	時期不明	80

6区遺構外

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
134	1	表土	深鉢	口縁部片	粗砂・石英(多)	不良	褐色	捺糸Rを斜位施文する。	早期	80
134	2	表土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	灰黄褐色	捺糸Lが看取され、補修孔を持つ。	早期	80
134	3	表土	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい褐 色	捺糸文を施文する。	早期	80
134	4	表土	深鉢	胴部片	粗砂・石英・金雲母(多)	不良	暗褐色	捺糸Lと条痕を施文する。	早期	80
134	5	表土	深鉢	胴部片	礫・粗砂・片岩(やや多)	良好	にぶい黄 褐色	捺糸Lと条痕を施文する。	早期	80
134	6	表土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	褐色	捺糸Lを斜位に施文する。	早期	80
134	7	表土	深鉢	口縁部片	粗砂・片岩(少)	良好	暗赤褐色	複段の内皮使用連続刺突文を横位に施文する。	早期?	80
134	8	表土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	明赤褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、楕円浮文を貼付する。	前期(諸磯)	80
134	9	E-12	浅鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや多)	良好	明赤褐色	口縁部内面は内側に突出する。口縁部は隆帯で文様帯を区画し、区画内には渦巻文と沈線で文様帯を描く。	勝坂末	80
134	10	F-12	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	赤褐色	隆帯と蕨手文で文様帯を区画し、区画内に刺突文を充填する。	「焼町類型」	80
134	11	F-12	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	赤褐色	横位の沈線と刺突文、内皮使用の弧状条線で文様帯を構成する。	「焼町類型」	80
134	12	E-12	深鉢	口縁部片	粗砂・長石(やや少)	良好	褐色	条線を垂下させた後、渦巻文を貼付した隆帯を垂下させる。	曾利?	80
134	13	C-21	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	明赤褐色	沈線を垂下させた後、横位の沈線を施文する。	曾利?	80
134	14	E-12	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	明黄褐色	条線と∩字状沈線を垂下させる。	「板倉類型」	80
134	15	E-12	深鉢	口縁部片	粗砂・長石(少)	良好	にぶい黄 褐色	横位の条線と貼付文を施文する。	「板倉類型」	80

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
134	16	E-17	深鉢	胴部片	粗砂・石英(多)	良好	黄褐色	∩字状隆帯を貼付した後、内皮使用連続刺突文を垂下させる。17と同一。	唐草文系?	80
134	17	E-11	深鉢	胴部片	粗砂・石英(多)	良好	黄褐色	弧状隆帯を貼付した後、内皮使用連続刺突文を垂下させる。16と同一。	唐草文系?	80
134	18	E-12	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	明褐色	押圧文を施した隆帯で文様帯を区画し、区画内には斜位の短沈線を施文する。	唐草文系II	80
134	19	D-12	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	灰褐色	横位の腕骨文と隆帯、沈線で文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。	越後系?	81
134	20	表土	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや少)	良好	橙色	蕨手文やL字状沈線で文様帯を区画し、区画内には斜位の刻み文を施文する。	越後系	81
134	21	C-19	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	明褐色	縦位の綾杉文や蕨手状隆帯間に刺突文を施して文様帯を描く。	越後系?	81
134	22	D-18	深鉢	胴部片	礫・粗砂・石英(やや少)	良好	明褐色	隆帯で文様帯を区画し、区画内には横位の綾杉文を施文する。	唐草文系III	81
134	23	F-12	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	黄褐色	隆帯で文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。	唐草文系III	81
134	24	C-20	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	明褐色	隆帯と沈線、櫛歯状工具による沈線で文様帯を構成する。	曾利?	81
135	25	表土	深鉢	頸部突起片	粗砂(やや少)	良好	赤褐色	蕨手文を施文した突起と斜位の短沈線、蕨手文で文様帯を構成する。	越後系?	81
135	26	D-18	深鉢	頸部突起片	粗砂・石英(やや多)	良好	にぶい赤褐色	ドーナツ状隆帯や楕円状隆帯で文様帯を区画し、区画内には沈線を施文する。	唐草文系II	81
135	27	D-18	深鉢	頸部突起片	粗砂(少)	良好	にぶい褐色	刺突文と内皮使用連続刺突文を施した縦位の隆帯と横位の隆帯と沈線で文様帯を区画し、区画内には沈線を施文する。	唐草文系II	81
135	28	179土坑	深鉢	突起片	礫・粗砂(多)	良好	赤褐色	橋状の突起で、蕨手文や沈線で文様を描く。	唐草文系III	81
135	29	E-12	深鉢	口縁部把手片	礫・粗砂(やや少)	良好	にぶい赤褐色	渦巻文を貼付する。	唐草文系III	81
135	30	B-22	深鉢	口縁部突起片	粗砂(少)	良好	明褐色	腕骨文と沈線で加飾する。	唐草文系III	81
135	31	E-12	深鉢	口縁部突起片	粗砂・石英(多)	良好	黄褐色	蕨手文と隆帯で加飾する。	唐草文系III	81
135	32	E-12	深鉢	口縁部突起片	粗砂・石英(多)	良好	黄橙色	隆帯と沈線、押圧文で加飾する。	唐草文系III	81
135	33	F-12	深鉢	口縁部片	粗砂・石英(やや少)	良好	明褐色	横位の蕨手文や隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を横位に施文する。	加曾利EII	81
135	34	F-12	深鉢	口縁部片	礫・粗砂・長石(やや少)	良好	明赤褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、蕨手文を施文した横位の隆帯を貼付する。	加曾利EII	81
135	35	E-12	浅鉢?	口縁部片	礫・粗砂・長石(やや多)	良好	黄褐色	蕨手文で文様帯を区画し、区画内には短沈線を施文する。	加曾利EII	81
135	36	D-19	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	明褐色	隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を横位に施文する。	加曾利EIII	81
135	37	D-19	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい赤褐色	隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を横位に施文する。胴部は懸垂文と磨消文を垂下させる。	加曾利EIII	81
135	38	E-12	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	黄灰色	口縁部は波状を呈する。隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を横位に施文する。	加曾利EIII	81
135	39	E-12	深鉢	突起	粗砂(やや少)	良好	にぶい褐色	舌状突起がつく。口縁部は刺突文を蕨手状に施文する。	加曾利EIII	81
135	40	E-12	深鉢	胴部片	粗砂・長石(多)	良好	褐灰色	地文は原体LRの単節斜縄文で、懸垂文と隆帯、斜位の沈線を垂下させる。	加曾利EIII	81
135	41	表土	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、懸垂文と磨消文を垂下させる。	加曾利EIII	81
135	42	B-22	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	黒褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、懸垂文と磨消文、蛇行沈線文を垂下させる。	加曾利EIII	81
135	43	D-12	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	褐色	横位の隆帯で文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。胴部は原体Rの擦糸文を施文する。	加曾利EIII	81

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
135	44	B-20	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	残高6cmを測る。地文は原体LRの単節斜縄文で、蕨手文や隆帯、沈線で文様帯を区画する。	加曾利EⅢ	81
135	45	E-11	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい褐色	櫛歯状工具による沈線を横位に施文した後、原体LRの単節斜縄文を部分的に縦位に施文する。	加曾利EⅢ	81
135	46	C-21	深鉢	胴部～底部	粗砂(やや多)・長石(少)	良好	明褐色	底径6cm・残高7.2cmを測る。地文は原体RLの単節斜縄文で、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利EⅢ	81
135	47	B-22	深鉢	胴部～底部	礫・粗砂(やや多)	良好	にぶい黄褐色	底径6.6cm・残高11.1cmを測る。地文は原体RLの単節斜縄文で、縦位・斜位の沈線を垂下させる。	加曾利EⅢ	81
135	48	E-12	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	橙色	口縁部は波状を呈する。口縁部は、隆帯で文様帯を区画し、区画内に横位の綾杉文を施文する。	「郷土式」	81
135	49	C-22	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	にぶい黄褐色	隆帯や沈線で文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。	「郷土式」	81
136	50	F-12	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	浅黄色	横位の隆帯と沈線で文様帯を区画し、区画内には横位の綾杉文を施文する。	「郷土式」	81
136	51	E-11	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	にぶい橙色	口縁部は折り返し口縁を呈する。口縁部は隆帯で文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。	「郷土式」	81
136	52	E-12	深鉢	頸部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	にぶい赤褐色	横位の隆帯と沈線で文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。	「郷土式」	81
136	53	E-12	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	にぶい赤褐色	口縁部は内側に折り返す。横位の隆帯で文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。	「郷土式」	81
136	54	F-12	深鉢	頸部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	にぶい黄褐色	隆帯で文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。	「郷土式」	81
136	55	D-19	深鉢	頸部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	にぶい黄褐色	横位の隆帯で文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。	「郷土式」	81
136	56	E-11	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石・赤粒子(やや多)	良好	褐色	横位の隆帯で文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。	「郷土式」	81
136	57	C-21	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石・赤粒子(やや少)	良好	にぶい黄褐色	口縁部は小波状を呈する。隆帯と沈線で文様帯を区画し、区画内には沈線を施文する。	「郷土式」	81
136	58	C-21	深鉢	頸部片	礫・粗砂(やや少)	良好	黒褐色	沈線を施文した後、蕨手文や隆帯、沈線で文様帯を区画する。	「郷土式」	81
136	59	C-21	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	灰黄褐色	隆帯と沈線で文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。	「郷土式」	81
136	60	E-11	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや少)	良好	黄褐色	蕨手文で隆帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。	「郷土式」	81
136	61	D-18	浅鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	橙色	隆帯や沈線で文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。	「郷土式」	81
136	62	D-18	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	灰褐色	蕨手文を施文した後、斜位の沈線を施文する。	唐草文系Ⅲ	81
136	63	B-22	深鉢	口縁部片	粗砂・金雲母(やや少)	良好	黒褐色	口縁部は波状を呈し、横位の沈線を施文する。∩字状隆帯を垂下させた後、横位の沈線を施文する。	唐草文系Ⅲ	81
136	64	F-11	深鉢	口縁部片	粗砂・長石(やや多)	良好	にぶい橙色	口縁部は内面に肥厚する。口縁部は側面に刺突文を施した隆帯と蕨手文を施文する。	唐草文系Ⅲ	81
136	65	C-13	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	にぶい褐色	内湾する器形の口縁部で、口唇内面に肥厚する。	曾利	81
136	66	F-12	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石・金雲母(やや少)	良好	灰褐色	内湾する器形の口縁部で、口唇内面に肥厚する。	曾利	81
136	67	B-20	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	黄褐色	口縁部は内面に肥厚する。口縁部は斜位の沈線を施文する。	曾利	81

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
136	68	F-12	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	にぶい褐色	沈線を垂下させる。	曾利	81
136	69	表土	深鉢	頸部片	粗砂・石英・長石(多)	良好	褐色	隆帯で文様帯を区画し、区画内に斜位の沈線を施文する。	唐草文系Ⅲ	81
136	70	E-12	深鉢	頸縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい橙色	横位の隆帯と刺突文を施文した後、斜位の沈線を施文する。	唐草文系Ⅲ	81
136	71	F-13	深鉢	頸部片	粗砂・石英・長石(多)	良好	にぶい赤褐色	横位の隆帯を貼付した後、棒状浮文を施文する。胴部は蕨手文や斜位の沈線で文様帯を描く。	唐草文系Ⅲ	81
136	72	F-12	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	斜位の沈線を施文した後、2条の隆帯と刺突文を垂下させる。	唐草文系Ⅲ	81
136	73	F-12	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石・金雲母(やや多)	良好	灰褐色	隆帯で蕨手文を施文した後、斜位の沈線を施文する。	唐草文系Ⅲ	81
136	74	E-15	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	橙色	隆帯で蕨手文を施文した後、斜位の沈線を施文する。	唐草文系Ⅲ	81
136	75	E-14	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	にぶい橙色	隆帯による蕨手文の内縁に沿う連続刺突文を施文する。	唐草文系Ⅲ	81
136	76	E-11	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい赤褐色	横位の沈線と蛇行沈線文を施文する。胴部は沈線を垂下させる。	唐草文系Ⅲ	81
136	77	D-18	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	口縁部内面はやや肥厚する。地文は原体LRの単節斜縄文で、懸垂文を垂下させる。	加曾利EⅣ	81
136	78	D-18	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	口縁下部に横位の沈線を施文する。地文は原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。	加曾利EⅣ	81
136	79	E-11	深鉢	口縁部片	粗砂・長石(やや少)	良好	にぶい褐色	口縁下部に横位の沈線を施文する。地文は原体LRの単節斜縄文を縦位に施文する。	加曾利EⅣ	81
136	80	表土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや少)	良好	褐灰色	口縁下部に横位の隆帯を施文する。地文は原体LRの単節斜縄文を縦位に施文する。	加曾利EⅣ	81
136	81	E-11	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	橙色	沈線で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。	加曾利EⅣ	82
136	82	E-11	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	橙色	雨垂れ状の短沈線文を垂下させる。	曾利V	82
136	83	E-12	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい赤褐色	短沈線を施文する。	曾利?	82
136	84	4溝	深鉢	頸部片	粗砂(少)	良好	黄灰色	櫛歯状工具による沈線を垂下させる。	加曾利EⅣ	82
136	85	E-13	深鉢	頸部片	粗砂(やや少)	良好	橙色	横位の隆帯を貼付した後、櫛歯状工具による沈線を垂下させる。	加曾利EⅣ	82
136	86	D-18	深鉢	胴部～底部	礫・粗砂(やや少)	良好	明黄褐色	底径7cm・残高5.5cmを測る。地文は沈線を垂下させる。	中期後葉	82
136	87	D-12	深鉢	胴部～底部	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	明褐色	底径17cm・残高5.2cmを測る。地文は沈線と隆帯を垂下させる。	中期後葉	82
136	88	B-21	浅鉢	口縁部片	粗砂・長石(やや少)	良好	にぶい黄褐色	口縁部内面は肥厚する。内面に赤色塗彩。	中期後葉	82
136	89	E-12	浅鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	黒褐色	内外面に赤色塗彩。	中期後葉	82
136	90	D-18	浅鉢	胴部片	礫・粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	内外面に赤色塗彩。	中期後葉	82
136	91	D-13	鉢(両耳壺)	口縁部片	粗砂(やや多)	良好	にぶい黄褐色	口縁部内面は肥厚する。蕨手文を施文する。	中期後葉	82
136	92	D-18	鉢(両耳壺)	把手	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	蕨手文を施文する。	中期後葉	82
137	93	F-12	深鉢	口縁部把手片	粗砂(少)	良好	黄褐色	突起内面にはS字状沈線を施した隆帯を貼付し、孔を形成する。突起外面には沈線で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。	称名寺Ⅰ	82
137	94	E-15	深鉢	口縁部片	粗砂・長石(やや少)	良好	褐色	耳状突起で、隆帯と押圧文で加飾する。	「閑沢類型」	82
137	95	E-12	深鉢	口縁部片	礫(少)・粗砂(やや多)	良好	灰黄褐色	口縁部は波状を呈し、口縁部内外面に刺突文を施文する。	「閑沢類型」	82
137	96	表土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	明黄褐色	口縁部は波状を呈する。口縁部は帯状隆帯に複段刺突文を施文する。胴部は原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。	「閑沢類型」	82

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
137	97	表土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	浅黄色	口縁部は波状を呈する。口縁部は帯状隆帯に複数刺突文を施文する。	「関沢類型」	82
137	98	D-19	深鉢	口縁部片	礫(少)・粗砂(やや少)	良好	にぶい橙色	原体LRの単節斜縄文の充填縄文を横位に施文する。	「関沢類型」?	82
137	99	E-11	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	横位の隆帯と沈線で文様帯を区画し、区画内に原体LRの単節斜縄文を横位に施文する。	「関沢類型」	82
137	100	F-12	深鉢	口縁部片	粗砂・赤粒子(やや少)	良好	明黄褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、弧状の沈線を横位に施文する。	「関沢類型」?	82
137	101	F-11	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、懸垂文と磨消文、刺突文を垂下させる。	「関沢類型」	82
137	102	表土	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	黄褐色	原体LRの単節斜縄文の充填縄文に列点文を施文する。	称名寺II	82
137	103	F-12	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	原体LRの単節斜縄文の充填縄文と列点文を垂下させる。	称名寺II	82
137	104	E-12	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	横位の沈線と円形文、刺突文を施文する。	称名寺II	82
137	105	D-12	注口?	頸部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい橙色	沈線で文様帯を区画する。	称名寺II	82
137	106	E-12	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	沈線で文様を描く。	称名寺II	82
137	107	F-11	浅鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	暗灰黄色	横位の沈線を施文する。	称名寺II	82
137	108	E-11	浅鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄色	口縁部は波状を呈し、隆帯と沈線で文様帯を区画する。109と同一。	称名寺II	82
137	109	E-11	浅鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	口縁部は波状を呈し、隆帯と沈線で文様帯を区画する。108と同一。	称名寺II	82
137	110	D-12	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	押圧文を施した横位の隆帯を貼付する。	後期初頭	82
137	111	E-12 F-12	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)・石英(少)	良好	にぶい黄褐色	刺突文を施した横位の隆帯を貼付する。	後期初頭	82
137	112	E-13	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや少)・石英(少)	良好	にぶい黄褐色	竹管文を施した横位の隆帯を貼付する。	後期初頭	82
137	113	F-11	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	黒褐色	内皮使用連続刺突文や原体LRの単節斜縄文の充填縄文、条線で文様帯を描く。	堀之内1(信州系)	82
137	114	表土	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	明赤褐色	原体LRの単節斜縄文の充填縄文をU字状に施文する。	堀之内1(信州系)	82
137	115	C-12	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	明黄褐色	横位の沈線間に刺突文を施す。胴部は原体LRの単節斜縄文を縦位・横位に施文する。	堀之内1(信州系)	82
137	116	F-12	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	沈線で文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。	堀之内1(信州系)	82
137	117	表土	深鉢	口縁部片	粗砂・石英(やや少)	良好	灰黄褐色	口縁部内面に横位の隆帯を貼付する。口縁部は押圧文を施した横位の隆帯で文様帯を区画する。胴部は原体LRの単節斜縄文の充填縄文を菱形に施文する。	堀之内2	82
137	118	E-11	深鉢	口縁部片	粗砂・長石・片岩(少)	良好	にぶい黄褐色	口縁部は棒状工具による押圧文を施した横位の隆帯と刺突文を施した縦位の貼付文を施文する。胴部は原体LRの単節斜縄文の充填縄文を菱形に施文する。	堀之内2	82
137	119	D-11 D-12	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい褐色	口縁部は穿孔を施した環状把手がつく。口縁下部に横位の沈線を施文する。	堀之内2	82
137	120	F-12	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	口縁部内外面とも、押圧文を施した横位の隆帯とそれに連結する端部に刺突文を施した貼付文を施文する。	堀之内2	82
137	121	表土	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや多)	良好	灰色	口縁部内面に横位の沈線を施文する。	堀之内2	82
137	122	F-13	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	褐色	口縁部は横位の隆帯と沈線を施文する。胴部は懸垂文と綾杉文を垂下させる。	堀之内2	82

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
137	123	D-12	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄 橙色	押圧文を施した横位の隆帯で文様帯を区画する。胴部は斜位の条線と原体LRの単節斜縄文を縦位に施文する。	堀之内2	82
137	124	E-11	深鉢	胴部片	礫・粗砂(少)	良好	黄橙色	菱形文を施文する。	堀之内2	82
137	125	E-12	深鉢	胴部片	粗砂・石英・ 長石(やや少)	良好	明黄褐色	原体LRの単節斜縄文の充填縄文を横位・斜位に施文する。	堀之内2	82
137	126	D-11	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	灰黄褐色	原体LRの単節斜縄文の充填縄文を横位・斜位に施文する。	堀之内2	82
137	127	E-11	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい褐 色	原体RLの単節斜縄文の充填縄文と沈線で文様帯を描く。	堀之内2	82
137	128	F-13	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄 褐色	T字状の隆帯を貼付した後、交点に刺突を施した円形文を貼付する。	後期前葉	82
138	129	D-12 E-12	深鉢	口縁～ 胴部	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄 橙色	口径14cm・残高5.2cmを測る。口縁部内面に横位の条線を施文する。外面は斜位の短沈線を施文後、沈線で文様帯を区画する。	後期前葉	82
138	130	D-12	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	黒褐色	口縁部内面に横位の沈線を施文する。外面は横位の沈線で文様帯を区画し、区画内に格子目文を施文する。部分的に櫛歯状工具による沈線を施文する。	後期前葉	82
138	131	E-12	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(や や少)	良好	にぶい黄 褐色	口縁部内面に横位の沈線を施文する。外面は格子目文を施文する。132と同一。	後期前葉	82
138	132	F-12	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(や や少)	良好	にぶい褐 色	口縁部内面に横位の沈線を施文する。外面は格子目文を施文する。131と同一。	後期前葉	82
138	133	F-12	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄 褐色	口縁部内面に横位の沈線を施文する。外面は横位・斜位の沈線を施文する。	後期前葉	82
138	134	D-11	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(や や少)	良好	にぶい黄 橙色	斜位の沈線を施文した後、横位の沈線を施文する。135と同一。	後期前葉	82
138	135	D-12	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(や や少)	良好	にぶい黄 橙色	斜位の沈線を施文した後、横位の沈線を施文する。134と同一。	後期前葉	82
138	136	E-12	深鉢	頸部片	粗砂(やや少)	良好	灰黄褐色	横位の沈線と鋸歯文を施文する。	後期前葉	82
138	137	D-12	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	暗褐色	弧状の沈線を施文する。	後期前葉?	82
138	138	D-12	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	灰黄褐色	無文を呈する。	後期前葉?	82
138	139	C-11	深鉢	胴部片	礫・粗砂(や や少)	良好	明赤褐色	斜位の沈線を施文した後、沈線で文様帯を区画し、区画内に原体LRの単節斜縄文を充填する。	後期前葉	82
138	140	E-11	注口	口縁部片	粗砂(少)	良好	明黄褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、横位の沈線で文様帯を区画する。橋状把手がつく。	堀之内1	82
138	141	D-12	注口	頸部片	粗砂(やや少)	良好	灰黄褐色	刺突文と沈線で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を充填する。	堀之内1	82
138	142	C-21	注口	頸部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄 橙色	刺突文や沈線を施した突起を貼付する。	堀之内1	82
138	143	E-11	注口	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄 橙色	沈線で文様帯を区画し、区画内に原体RLの単節斜縄文を充填する。	堀之内2	82
138	144	F-11 F-12 表土	注口	胴部片	粗砂・赤粒子 (やや少)	良好	褐色	原体LRの単節斜縄文の充填縄文を横位に施文した後、刻み文を施した隆帯を十字に貼付する。	堀之内2	82
138	145	D-11	注口	胴部片	粗砂(やや多) 赤粒子(少)	良好	灰黄褐色	原体LRの単節斜縄文の充填縄文や鋸歯状沈線、刺突文で文様帯を描く。	堀之内2	83
138	146	F-12	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい橙 色	返しのある半円形の爪形刺突文を全面的に施文する。橋状把手がつく。	三十稲場	83
138	147	C-13	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	黒褐色	円形や半円形・楕円形の刺突文を全面的に施文する。	三十稲場	83
138	148	E-12	深鉢	胴部片	礫・粗砂(多)	良好	黒褐色	返しのある半円形の爪形刺突文を横位に施文する。	三十稲場	83
138	149	F-11	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄 橙色	返しのある半円形の爪形刺突文を横位に施文する。	三十稲場	83
138	150	F-12	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄 橙色	返しのある半円形の刺突文を施文する。	三十稲場	83
138	151	F-13	深鉢	胴部片	粗砂・石英 (少)	良好	にぶい黄 橙色	横位の短沈線状の刺突文を施文する。	三十稲場	83

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
138	152	E-12	深鉢	胴部片	粗砂・石英(少)	良好	橙色	短沈線状の刺突文を施文する。	三十稲場	83
138	153	F-12	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	褐色	爪形の刺突文を全面的に施文する。	三十稲場	83
138	154	D-13	深鉢	胴部片	粗砂・長石(やや少)	良好	暗褐色	爪形の刺突文を全面的に施文する。	三十稲場	83
138	155	E-12	深鉢	胴部片	粗砂・長石(やや少)	良好	明黄褐色	爪形の刺突文を全面的に施文する。	三十稲場	83
138	156	E-12	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	爪形の刺突文を全面的に施文する。	三十稲場	83
138	157	E-12	深鉢	胴部片	粗砂・長石(やや少)	良好	明褐色	爪形の刺突文を全面的に施文する。	三十稲場	83
138	158	D-12	深鉢	底部	粗砂(やや少)	良好	灰黄褐色	底径6.6cmを測る。内面に炭化物付着。	後期	83
138	159	D-12	深鉢	底部	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	底径10cmを測る。底部に網代痕がある。	後期	83
138	160	C-12	深鉢	底部	礫・粗砂・長石(やや多)	良好	にぶい褐色	底径8cmを測る。底部に網代痕がある。	後期	83
138	161	C-21	深鉢	底部	粗砂(少)	良好	褐灰色	底部に網代痕がある。	後期	83
138	162	C-12	ミニチュア土器	胴～底部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい褐色	横位とU字状の隆帯を貼付する。	後期	83
138	163	表土	深鉢	口縁部片	粗砂・長石(やや少)	良好	明褐色	補修孔と見られる穿孔を施す。	後期(前葉?)	83
138	164	E-11	円盤	深鉢破片	粗砂(やや少)	良好	黒褐色	断面に擦痕。	土製品	83
138	165	F-11	円盤	深鉢破片	粗砂・長石(やや少)	良好	にぶい橙色	原体RLの単節斜縄文を施文する。	土製品	83
138	166	E-11	円盤	深鉢破片	礫・粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	無文を呈する。	土製品	83
138	167	D-12	円盤	深鉢破片	礫・粗砂・赤粒子(やや多)	良好	にぶい赤褐色	断面に擦痕。	土製品	83
138	168	D-12	円盤	深鉢破片	礫・粗砂・長石(やや多)	良好	灰褐色	櫛歯状工具による綾杉文を横位に施文する。	土製品	83
138	169	E-12	円盤	深鉢破片	粗砂(少)	良好	にぶい褐色	綾杉文を垂下させる。	土製品	83
138	170	D-12	円盤	深鉢破片	粗砂(やや少)	良好	橙色	櫛歯状工具による沈線を垂下させる。	土製品	83

95区遺構外

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
139	1	X-24 X-25	深鉢	口縁～胴部	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	褐色	口径13.6cm・残高13.7cmを測る。頸部の地文は斜位の細条線文で、隆帯で文様帯を区画し、区画内には斜位に棒状浮文を貼付する。胴部は内皮使用連続刺突文と沈線、2条1組の隆帯を垂下させる。	曾利 I	83
139	2	W-21	深鉢	頸～胴部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	にぶい赤褐色	頸部の地文は斜位の細条線文で、隆帯で文様帯を区画し、区画内には斜位に棒状浮文を貼付する。	曾利 I	83
139	3	W-22 W-23	深鉢	頸～胴部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	にぶい褐色	頸部の地文は斜位の細条線文で、斜位に棒状浮文を貼付した後、横位の隆帯で文様帯を区画する。	曾利 I	83
139	4	V-22	深鉢	頸～胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい赤褐色	頸部の地文は斜位の細条線文で、斜位に棒状浮文を貼付する。胴部の地文は細条線文で、隆帯で文様帯を区画する。	曾利 I	83
140	5	W-22 W-23	深鉢	頸～胴部片	粗砂(やや少)	良好	黒褐色	頸部の地文は斜位の細条線文で、斜位に棒状浮文を貼付する。胴部の地文は細条線文で、横位の蛇行する隆帯と蕨手文を施文する。	曾利 I	83
140	6	W-22	深鉢	頸～胴部片	粗砂(やや少)	良好	黒褐色	頸部の地文は斜位の細条線文で、斜位に棒状浮文を貼付する。胴部の地文は細条線文で、横位の蛇行する隆帯を施文する。	曾利 I	83

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
140	7	W-22	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	にぶい橙色	口縁部の地文は斜位の細条線文で、斜位に棒状浮文を貼付する。横位の隆帯を施文する。	曾利 I	83
140	8	U-20	深鉢	頸部片	礫・粗砂・石英・長石(やや少)	良好	にぶい橙色	頸部の地文は斜位の細条線文で、斜位に棒状浮文を貼付する。横位の蛇行する隆帯を施文する。	曾利 I	83
140	9	W-21	深鉢	頸部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	灰褐色	頸部の地文は斜位の細条線文で、隆帯で文様帯を区画し、区画内に斜位に棒状浮文を貼付する。	曾利 I	83
140	10	X-22	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	黒褐色	口縁部は波状を呈し、波頂部から隆帯を垂下させる。	曾利 I	83
140	11	V-22	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい赤褐色	口縁部は波状を呈し、隆帯で文様帯を描く。	曾利 I	83
140	12	X-22	深鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	良好	黒褐色	口縁部は内面に肥厚する。斜位の細条線文を施文する。	曾利 II	83
140	13	W-20	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや少)	良好	にぶい赤褐色	口縁部は内面に肥厚する。斜位の沈線を施文する。	曾利 II	83
140	14	X-24	深鉢	口縁部片	粗砂(多)・石英・長石(少)	良好	黒褐色	縦位や横位、弧状の沈線で文様帯を描く。	曾利 II	83
140	15	U-25	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい赤褐色	∩字状沈線で文様帯を描く。	曾利 II	83
140	16	X-23	深鉢	頸部片	粗砂(多)・石英・長石(少)	普通	暗褐色	押圧文を施した横位の隆帯を施文する。胴部は縦位や横位の沈線を施文する。	曾利 II	83
140	17	W-23	深鉢	頸部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	褐色	地文は内皮使用の条線で、蕨手文や内皮使用連続刺突文を垂下させる。	曾利 II	83
140	18	W-21	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	にぶい赤褐色	地文は縦位の条線で、蕨手文や∩字状隆帯を垂下させる。	曾利 II	83
140	19	W-21	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	にぶい赤褐色	地文は縦位の条線で、蛇行する隆帯を垂下させる。	曾利 II	83
140	20	X-25	深鉢	頸部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	コ字状隆帯を垂下させる。	曾利 II	83
140	21	W-22	深鉢	頸部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	隆帯や沈線で文様帯を構成する。	曾利 II	83
140	22	W-22	深鉢	頸部片	粗砂・石英・長石・金雲母(やや多)	良好	黒褐色	頸部はU字状隆帯などで文様帯を構成する。胴部の地文は原体R Lの単節斜縄文で、蛇行沈線文や懸垂文、2条1組の隆帯を垂下させる。	曾利 II	83
140	23	X-22	深鉢	頸部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	黄褐色	地文が原体L Rの単節斜縄文で、斜位の隆帯を貼付する。24、7坑13・14と同一。	曾利 II	83
140	24	X-23	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	にぶい赤褐色	地文が原体L Rの単節斜縄文で、横位・斜位隆帯を貼付する。23、7坑13・14と同一。	曾利 II	83
140	25	V-22	深鉢	口縁部片	礫・粗砂・長石(やや少)	良好	にぶい赤褐色	条線や隆帯、沈線で文様帯を構成する。	唐草文系 II	83
140	26	W-21	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや少)	良好	明赤褐色	口縁部内面に横位の隆帯を貼付する。外面は横位の沈線と蕨手文、斜位の短沈線で文様帯を描く。	唐草文系 II	83
140	27	X-23	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石・赤粒子(やや少)	良好	にぶい黄褐色	口縁部は隆帯で文様帯を区画し、区画内は横位の複列刺突文や交互刺突文を施文する。胴部は斜位の沈線と蕨手文を垂下させる。	唐草文系 II	83
140	28	W-22	深鉢	口縁部片	礫・粗砂・石英・長石(やや多)	良好	にぶい黄褐色	口縁部は小突起がつき、条線や短沈線、隆帯で文様帯を構成する。	唐草文系 II	83
140	29	X-22	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	黒褐色	口縁部は列点文や隆帯で文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。	唐草文系 II	84
140	30	X-23	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	口縁部はスカシを持つ突起がつく。口縁部は隆帯や沈線、瘤状突起で文様帯を区画し、区画内には短沈線を施文する。	唐草文系 II	84

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
140	31	V-25	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	灰黄褐色	蕨手文や沈線で文様帯を区画し、区画内には縦位や斜位の沈線を施文する。	唐草文系Ⅱ	84
140	32	V-23	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	褐灰色	口縁部は折り返し口縁を呈し、沈線を垂下させる。	唐草文系Ⅱ	84
140	33	U-20	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	隆帯や蛇行沈線文を施文する。	唐草文系Ⅱ	84
140	34	X-22	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	灰黄褐色	口縁部内面に横位の隆帯を貼付する。外面は隆帯と綾杉文を垂下させる。	唐草文系Ⅱ	84
141	35	X-23 V-21 W-24	深鉢	口縁部片	粗砂・長石(多)	良好	褐灰色	口縁部は横位の列点文を施文する。	唐草文系Ⅱ	84
141	36	W-24	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石(少)	良好	にぶい赤褐色	口縁部は波状を呈する。隆帯で文様帯を区画し、区画内には斜位の短沈線を施文する。	唐草文系Ⅱ	84
141	37	W-23 U-25	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい赤褐色	口縁部は突起がつく。口縁部は隆帯で文様帯を区画し、区画内には沈線を施文する。	唐草文系Ⅱ	84
141	38	X-24	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい褐色	口縁部は突起がつく。口縁部は隆帯で文様帯を区画し、区画内には斜位の短沈線を施文する。	唐草文系Ⅱ	84
141	39	W-23	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	褐色	口縁部は突起がつく。口縁部は隆帯で文様帯を区画し、区画内には短沈線を施文する。	唐草文系Ⅱ	84
141	40	U-21	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	褐色	口縁部は波状を呈し、 \cap 字状隆帯で加飾する。	唐草文系Ⅱ	84
141	41	T-24	深鉢	頸部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	黒褐色	頸部は隆帯で文様帯を区画し、区画内は斜位の短沈線や複列交互刺突文、沈線を横位に施文する。	唐草文系Ⅱ	84
141	42	U-22	深鉢	頸部片	粗砂(やや少)	良好	明褐色	横位の蕨手文を施文した後、隆帯間に刺突文を施す。胴部は斜位の沈線や綾杉文、隆帯を垂下させる。	唐草文系Ⅱ	84
141	43	W-22	深鉢	頸部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	にぶい褐色	頸部の地文は斜位の細条線文で、斜位に棒状浮文を貼付した後、内皮使用連続刺突文を施した横位の隆帯を貼付する。胴部は櫛歯状工具による横位の沈線を施文する。	唐草文系Ⅱ	84
141	44	W-23	深鉢	頸部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	にぶい黄褐色	押圧文を施した横位の隆帯と2条1組の隆帯を垂下させる。	唐草文系Ⅱ	84
141	45	W-24	深鉢	頸部片	礫・粗砂・石英・長石(多)	良好	橙色	頸部は渦巻文や横位の隆帯で文様帯を区画し、区画内にはS字状沈線を横位に施文する。	唐草文系Ⅱ	84
141	46	W-23	深鉢	頸部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	にぶい赤褐色	横位の蛇行する隆帯や刺突文、縦位の瘤付隆帯で文様帯を区画し、区画内には縦位・横位の沈線を施文する。	唐草文系Ⅱ	84
141	47	X-22	深鉢	頸部片	礫・粗砂・石英・長石(多)	良好	にぶい赤褐色	蕨手文や横位・縦位の隆帯で文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。	唐草文系Ⅱ	84
141	48	V-22 W-22	深鉢	胴部片	礫・粗砂・石英・長石(やや多)	良好	赤褐色	綾杉文や沈線、蕨手文や隆帯を垂下させる。	唐草文系Ⅱ	84
141	49	X-24	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	斜位の沈線や蕨手文を垂下させる。	唐草文系Ⅱ	84
141	50	X-24	深鉢	胴部片	粗砂・長石・金雲母(やや多)	良好	にぶい赤褐色	綾杉文や沈線、隆帯を垂下させる。	唐草文系Ⅱ	84
141	51	X-24	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	橙色	綾杉文や腕骨文を垂下させる。	唐草文系Ⅱ	84
141	52	V-22	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい褐色	斜位の沈線や綾杉文、腕骨文を垂下させる。	唐草文系Ⅱ	84
141	53	V-25	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	褐灰色	隆帯や沈線で文様帯を区画し、区画内には沈線を施文する。胴部の地文は縦位の沈線で、隆帯を垂下させる。	唐草文系Ⅱ	84
141	54	X-23	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	にぶい褐色	口縁部は沈線で文様を描く。胴部は蕨手文と沈線を垂下させる。	唐草文系Ⅱ	84
141	55	X-23	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	褐灰色	沈線を垂下させた後、横位の沈線を施文する。	唐草文系Ⅱ	84

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
141	56	X-22	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	にぶい褐色	沈線を垂下させた後、工具端部による条線を施文する。	唐草文系Ⅱ	84
141	57	W-22 X-23	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	にぶい褐色	条線を垂下させる。	唐草文系Ⅱ	84
141	58	W-21	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(多)	良好	黒褐色	隆帯で文様帯を区画し、区画内に斜位の短沈線を施文する。胴部に隆帯を垂下させる。	唐草文系Ⅱ	84
141	59	V-21	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	橙色	隆帯と条線で文様帯を区画し、区画内には斜位の短沈線を施文する。	唐草文系Ⅱ	84
141	60	U-25	深鉢	口縁部把手片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	橙色	水焔形の渦巻把手で、蕨手文や刺突文、沈線で文様を描く。	曾利?	84
141	61	X-22 X-23	深鉢	口縁部把手片	粗砂(やや少)	良好	暗褐色	水焔形の渦巻把手で、蕨手文や刺突文、沈線で文様を描く。	曾利Ⅰ	84
142	62	W-21	深鉢	口縁部把手片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	にぶい黄褐色	円環状の突起で、渦巻文を施文する。	唐草文系Ⅱ	84
142	63	X-24	深鉢	口縁部把手片	礫・粗砂・石英・長石(やや多)	良好	にぶい黄褐色	穿孔を持つ突起で、渦巻文や刺突文、瘤状突起や隆帯で加飾する。	唐草文系Ⅱ	84
142	64	X-22	深鉢	口縁部把手片	粗砂・長石(やや多)	良好	明赤褐色	楕円形の穿孔を持つ突起で、渦巻文や綾杉文、隆帯を施文する。	唐草文系Ⅱ	84
142	65	X-25	深鉢	口縁部把手片	粗砂(やや少)	良好	にぶい褐色	穿孔を持つ扁平な突起で、渦巻文や沈線を施文する。	唐草文系	84
142	66	W-21	深鉢	口縁部把手片	粗砂・石英・長石・金雲母(やや多)	良好	黒褐色	穿孔を持つ突起で、渦巻文や沈線で文様を描く。	唐草文系	84
142	67	V-22	深鉢	口縁部把手片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	橙色	L字状突起で、平坦面をもつ。隆帯や沈線で文様を描く。	唐草文系Ⅱ	84
142	68	X-22	深鉢	口縁部突起片	礫・粗砂(多)	良好	橙色	方形状突起で、蕨手文を施文する。口縁部の地文は原体LRの単節斜縄文で、隆帯を貼付する。	加曾利E	84
142	69	X-25	深鉢	口縁部把手片	礫・粗砂(やや少)	良好	にぶい赤褐色	瘤状突起をもつ長方形突起で、渦巻文や交互刺突文、沈線を施文する。	唐草文系Ⅱ	84
142	70	X-22	深鉢	口縁部突起片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	灰褐色	孔を持つドーム形突起で、条線を施文する。	唐草文系?	84
142	71	X-22	深鉢	口縁部突起片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	黒褐色	方形の扁平な突起で、棒状工具による押圧文を施した隆帯を施文する。	唐草文系Ⅱ	84
142	72	U-25	深鉢	口縁部突起片	粗砂・石英・長石・金雲母(やや少)	良好	明赤褐色	砲弾形突起で、隆帯と沈線を施文する。	唐草文系?	84
142	73	X-23	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	灰黄褐色	蕨手文や隆帯、条線で文様帯を区画し、区画内には横位の原体RLの単節斜縄文を施文する。74と同一。	加曾利EⅡ	84
142	74	U-2	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	褐灰色	蕨手文や隆帯、条線で文様帯を区画し、区画内には横位の原体RLの単節斜縄文を施文する。73と同一。	加曾利EⅡ	84
142	75	W-22	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい赤褐色	蕨手文や隆帯で文様帯を区画し、区画内には横位の原体LRの単節斜縄文を施文する。	加曾利EⅡ	84
142	76	X-25	深鉢	頸部片	礫・粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	蕨手文や隆帯で文様帯を区画し、区画内には横位の原体RLの単節斜縄文を施文する。	加曾利EⅡ	84
142	77	W-22	深鉢	頸部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい褐色	隆帯で文様帯を区画し、区画内には横位の原体RLの単節斜縄文を施文する。	加曾利EⅡ	84
142	78	V-22	深鉢	頸部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、4条1組の隆帯を横位に施文する。	加曾利EⅡ	84
142	79	X-22	深鉢	頸部片	礫・粗砂(多)	良好	明赤褐色	地文は原体Lの撚糸文で、横位の隆帯を貼付する。	加曾利E	84
142	80	V-22	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石・金雲母(やや多)	良好	灰黄褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、蕨手文や列点文、縦位・横位の沈線を施文する。	加曾利EⅡ(大木系?)	84
142	81	V-21 W-21	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	赤褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、隆帯と沈線を垂下させる。	加曾利EⅡ	84

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
142	82	X-23	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	褐灰色	地文は原体RLの単節斜縄文で、4条1組の沈線を横位に施文する。	加曽利E	84
142	83	2住	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	赤褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、縦位・横位の条線で文様帯を区画する。	加曽利E	85
142	84	X-22	深鉢	口縁部片	粗砂(多)・石英・長石(やや少)	良好	にぶい褐色	口縁部は渦巻文や隆帯で文様帯を区画し、区画内には短沈線を施文する。胴部は原体RLの単節斜縄文を施文する。	加曽利E III	85
142	85	W-22	深鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	良好	にぶい橙色	隆帯で文様帯を区画し、区画内には斜位の短沈線を施文する。胴部は原体RLの単節斜縄文を垂下させる。	加曽利E III	85
142	86	W-24	深鉢	頸~胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい赤褐色	隆帯で文様帯を区画し、区画内には斜位の短沈線を施文する。胴部の地文は原体RLの単節斜縄文で、斜位の沈線を施文する。	加曽利E III	85
143	87	X-22	深鉢	口縁~胴部	粗砂・石英・長石(多)	良好	黒褐色	口径17.6cm・残高20.5cmを測る。口縁部は隆帯で文様帯を区画し、区画内には短沈線を施文する。胴部の地文は原体LRの単節斜縄文で、U字状沈線や蛇行沈線文、渦巻文で文様帯を描く。	加曽利E III	85
143	88	W-22 X-22	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	口径24.8cm・残高7.7cmを測る。口縁部は蕨手文や隆帯、沈線で文様帯を区画し、区画内には斜位の短沈線を施文する。胴部の地文は原体LRの単節斜縄文で、懸垂文と磨消文を垂下させる。外面に炭化物付着。	加曽利E III	85
143	89	T-1 T-25	深鉢	頸部片	粗砂(やや多)	良好	黒褐色	条線で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。胴部は原体RLの単節斜縄文を垂下させる。	加曽利E III	85
143	90	W-22	深鉢	口縁~頸部片	礫・粗砂(やや多)	良好	浅黄橙色	隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。外面に赤色塗彩。	加曽利E III	85
143	91	W-21	深鉢	頸~胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい赤褐色	隆帯で文様帯を区画し、区画内には斜位の短沈線を施文する。胴部の地文は原体LRの単節斜縄文で、蛇行沈線文や懸垂文を垂下させる。	加曽利E III	85
143	92	V-22	深鉢	頸~胴部片	粗砂(多)・石英(少)	良好	灰褐色	列点文と条線で文様帯を描く。	加曽利E III	85
143	93	W-22	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	明黄褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、蛇行沈線文や懸垂文を垂下させる。	加曽利E III	
143	94	2住	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	暗赤褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、横位の沈線を施文する。	加曽利E III	85
143	95	V-22 X-22	深鉢	胴部片	礫(少)・粗砂(やや少)	良好	橙色	地文は原体LRの単節斜縄文で、渦巻文や沈線で文様帯を区画する。蛇行沈線文を垂下させる。	加曽利E III	85
143	96	W-22 X-22	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	明黄褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、渦巻文や蛇行沈線文、懸垂文を垂下させる。	加曽利E III	85
143	97	W-21 X-21	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	地文は原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。	中期後葉	85
143	98	W-21	深鉢	口縁部片	粗砂・長石(やや多)	良好	赤褐色	口縁部は小波状を呈する。口縁部は渦巻文や沈線で文様帯を区画し、区画内には複数の列点文を施文する。	「郷土式」	85
143	99	W-22 W-23	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや少)	良好	明赤褐色	口縁部は渦巻文や隆帯で文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。外面は赤色塗彩。	「郷土式」	85
143	100	W-23	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい赤褐色	口縁部は渦巻文や隆帯で文様帯を区画し、区画内には沈線を施文する。	「郷土式」	85
143	101	W-22	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	黒褐色	口縁部は渦巻文や隆帯で文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。	「郷土式」	85
143	102・103	X-25	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	黒褐色	口縁部は渦巻文や隆帯で文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。	「郷土式」	85
143	104	W-23	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	褐色	口縁部は渦巻文や隆帯で文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。	「郷土式」	85

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
143	105	X-22	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石(多)	良好	黒褐色	口縁部は隆帯で文様帯を区画し、区画内には綾杉文横位に施文する。	「郷土式」	85
143	106	X-23	深鉢	口縁部片	粗砂(多)	良好	黒褐色	口縁部は渦巻文や隆帯で文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。	「郷土式」	85
143	107	X-21	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや少)	良好	褐色	口縁部は渦巻文や隆帯で文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。内外面に炭化物付着。	「郷土式」	85
144	108	W-21	深鉢	口縁～胴部	礫・粗砂・石英(やや多)	良好	にぶい赤褐色	口径19.2cm・残高23.6cmを測る。口縁部は沈線と隆帯で文様帯を区画し、区画内には横位の綾杉文を施文する。胴部は綾杉文や懸垂文、磨消文を垂下させる。	「郷土式」	85
144	109	X-21	深鉢	口縁部片	粗砂・長石(少)	良好	褐灰色	口縁部は渦巻文や隆帯で文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。胴部は綾杉文や隆帯を垂下させる。	「郷土式」	85
144	110	X-23	深鉢	口縁部片	粗砂・長石(やや少)	普通	明黄褐色	口縁部は波状を呈し、口縁部内面に横位の隆帯を貼付する。口縁部は渦巻文や隆帯で文様帯を区画し、区画内には短沈線を施文する。	「郷土式」	85
144	111	W-21	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	褐色	口縁部は隆帯や沈線で文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。	「郷土式」	85
144	112	U-24	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	にぶい褐色	口縁部は渦巻文や隆帯で文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。	「郷土式」	85
144	113	W-20 W-21	深鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	明黄褐色	口縁部は隆帯や沈線で文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。	「郷土式」	85
144	114	X-21 X-22 X-23	深鉢	口縁～胴部片	礫・粗砂・石英(やや多)	良好	黒褐色	口径35cm・残高15.5cmを測る。口縁部内面に横位の隆帯を貼付する。口縁部は蕨手状の隆帯や沈線で文様帯を区画し、区画内には斜位の短沈線を施文する。胴部は縦位の沈線や楕円文を施文する。	「郷土式」	86
144	115	V-22 X-22	深鉢	口縁～胴部片	粗砂(やや多)	良好	にぶい橙色	口径21.2cm・残高11.8cmを測る。隆帯で文様帯を区画し、区画内には斜位の短沈線を施文する。胴部は蛇行する隆帯を貼付した後、斜位の沈線を施文する。	「郷土式」	86
144	116	U-20	深鉢	口縁～胴部	粗砂(やや少)	良好	にぶい赤褐色	口径15.5cm・高さ15cmを測る。口縁部は横位の沈線を施文する。胴部は蕨手文とU字状隆帯で文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。内面に炭化物付着。	「郷土式」	86
144	117	X-23	深鉢	口縁～胴部片	礫・粗砂・石英(多)	良好	黒褐色	口縁部は腕骨文や隆帯、沈線で文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。胴部は渦巻文や斜位の沈線、隆帯を垂下させる。	唐草文系Ⅲ	86
144	118	X-22 X-23	深鉢	胴部片	礫・粗砂(多)	良好	橙色	残高26.8cmを測る。渦巻文や縦位・斜位の沈線、横位の端部が蕨手状の隆帯を貼付して文様帯を描く。	唐草文系Ⅲ	86
144	119	V-24	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや多)	良好	褐色	懸垂文と斜位の沈線を垂下させる。124と同一、他に未接合の破片多数。	唐草文系Ⅲ	86
144	120	X-21	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい赤褐色	懸垂文と蛇行沈線文、斜位の沈線を垂下させる。	唐草文系Ⅲ	86
144	121	U-23 U-24	深鉢	胴部～底部	粗砂・長石(やや少)	良好	明赤褐色	底径6.9cm・残高12.2cmを測る。隆帯で文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。内面に炭化物が付着。	唐草文系Ⅲ	86
145	122	V-21 V-22	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい赤褐色	∩字状隆帯と条線を垂下させる。	唐草文系Ⅲ	86
145	123	W-21	深鉢	胴部片	粗砂(やや多)	良好	にぶい赤褐色	隆帯と斜位の沈線を垂下させる。	唐草文系Ⅲ	86
145	124	U-24	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや多)	良好	褐色	懸垂文と斜位の沈線を垂下させる。119と同一、他に未接合の破片多数。	唐草文系Ⅲ	86
145	125	X-23	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	褐色	懸垂文と斜位の沈線を垂下させる。126～128と同一。	唐草文系Ⅲ	86

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
145	126	X-23	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	褐色	懸垂文と斜位の沈線を垂下させる。 125・127・128と同一。	唐草文系Ⅲ	86
145	127	X-22	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	褐色	懸垂文と斜位の沈線を垂下させる。 125・126・128と同一。	唐草文系Ⅲ	86
145	128	X-22 X-23	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	褐色	懸垂文と〇字状隆帯、斜位の沈線を垂下させる。 125~127と同一。	唐草文系Ⅲ	86
145	129	X-23	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	明褐色	懸垂文と斜位の沈線を垂下させる。 130と同一。	唐草文系Ⅲ	86
145	130	X-23	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	褐色	懸垂文と〇字状隆帯、斜位の沈線を垂下させる。 129と同一。	唐草文系Ⅲ	86
145	131	V-25	深鉢	口縁部片	礫・粗砂・赤粒子(やや少)	良好	にぶい黄 橙色	隆帯で文様帯を区画し、区画内に原体LRの単節斜縄文を充填する。	加曾利E	86
145	132	W-21	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	黄灰色	地文は原体RLの単節斜縄文を縦位に垂下させる。	加曾利EⅣ	86
145	133	W-23	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや少)	良好	にぶい黄 橙色	隆帯で文様帯を区画し、区画内に原体RLの単節斜縄文を横位に施文する。	加曾利EⅣ	86
145	134	X-24	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	浅黄橙色	地文は原体RLの単節斜縄文で、横位の隆帯を貼付する。	加曾利EⅣ	86
145	135	W-20	深鉢	口縁部片	礫・粗砂・石英(やや少)	良好	にぶい黄 褐色	地文は原体RLの単節斜縄文を横位に施文する。	加曾利EⅣ	86
145	136	6土坑	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(やや多)	普通	にぶい黄 橙色	地文は原体LRの単節斜縄文で、懸垂文と磨消文を垂下させる。	加曾利E	86
145	137	X-21	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	黒褐色	隆帯で文様帯を区画し、区画内に斜位の沈線を施文する。	唐草文系Ⅳ	86
145	138	T-24 T-25	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	橙色	〇字状沈線や横位の条線と弧状の沈線を施文する。	唐草文系Ⅳ	86
145	139	U-20	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄 橙色	横位や斜位の条線を施文する。	唐草文系Ⅳ	86
145	140	X-22	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄 褐色	横位の隆帯と斜位の沈線を施文する。	曾利?	86
145	141	U-21	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	橙色	渦巻文や懸垂文を垂下させる。	曾利?	86
145	142	V-25	深鉢	胴部片	粗砂・長石(やや少)	良好	褐色	櫛歯状工具による複段の連続刺突文を横位に施文する。	曾利V	86
145	143	W-21	浅鉢	口縁~胴部片	礫・粗砂(少)	良好	にぶい黄 橙色	隆帯で文様帯を区画し、区画内に斜位の沈線を施文する。	中期後葉	86
145	144	W-21	浅鉢	口縁~頸部片	粗砂・長石(やや少)	良好	橙色	隆帯で文様帯を区画し、区画内に斜位の沈線を施文する。	中期後葉	87
145	145	X-21 X-22	浅鉢	頸部片	礫・粗砂(少)	良好	にぶい黄 橙色	隆帯で文様帯を区画し、区画内に斜位の沈線を施文する。	中期後葉	87
145	146	W-22	浅鉢	頸部片	粗砂・長石(やや少)	良好	赤褐色	隆帯と沈線で文様帯を区画し、区画内に刺突文や斜位の沈線を施文する。	中期後葉 (勝坂末?)	87
145	147	X-23	浅鉢	頸部片	粗砂(少)	良好	にぶい褐色	棒状浮文や押圧文、隆帯で文様帯を区画し、区画内には沈線を施文する。	中期後葉 (勝坂末?)	87
146	148	W-24	浅鉢	頸部片	粗砂・長石(やや少)	良好	にぶい赤 褐色	頸部はく字状を呈する。口縁下部に斜位の刻み文を施文する。	中期後葉 (勝坂末?)	87
146	149	W-22	浅鉢	頸部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	褐灰色	頸部はく字状を呈する。	中期後葉	87
146	150	X-22	浅鉢	頸部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	にぶい褐色	頸部はく字状を呈する。	中期後葉	87
146	151	X-23	浅鉢	口縁部片	粗砂・赤粒子(少)	良好	にぶい褐色	口縁部は肥厚する。	中期後葉	87
146	152	X-25	浅鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	赤褐色	口縁部の断面が三角形を呈する。 153と同一。	中期後葉	87
146	153	W-23	浅鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	赤褐色	口縁部の断面が三角形を呈する。 152と同一。	中期後葉	87
146	154	U-22	浅鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	橙色	口縁部の断面が三角形を呈する。内面に赤色塗彩。	中期後葉	87
146	155	W-22	浅鉢	口縁部片	粗砂・石英・長石(少)	良好	明黄褐色	口縁部の断面が三角形を呈する。	中期後葉	87

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
146	156	V-20	浅鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄 橙色	口縁部の断面が三角形を呈する。内面に赤色塗彩。	中期後葉	87
146	157	W-23	浅鉢	口縁部片	粗砂・石英・ 長石(少)	良好	にぶい黄 橙色	口縁部の断面が三角形を呈する。	中期後葉	87
146	158	V-23	浅鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	黒褐色	口縁部の断面が三角形を呈する。内外面に赤色塗彩。	中期後葉	87
146	159	V-20	浅鉢	口縁部片	粗砂・石英・ 長石(やや少)	良好	にぶい橙 色	口縁部の断面が三角形を呈する。外面に赤色塗彩。	中期後葉	87
146	160	X-22	浅鉢	口縁部片	礫・粗砂・石 英・長石(や や少)	良好	明赤褐色	口縁部は肥厚する。口唇部と内面に赤色塗彩。	中期後葉	87
146	161	X-22	浅鉢	口縁部片	礫・粗砂・長 石(やや多)	良好	灰黄褐色	口縁部は肥厚する。内外面に赤色塗彩。	中期後葉	87
146	162	V-22	浅鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄 褐色	口縁部は肥厚する。	中期後葉	87
146	163	U-20	浅鉢	口縁部片	礫(少)・粗砂 (やや少)	良好	褐灰色	内面に赤色塗彩。	中期後葉	87
146	164	X-22	浅鉢	口縁部片	礫・粗砂・長 石(少)	良好	にぶい黄 色	口縁部は内面に肥厚する。	中期後葉	87
146	165	W-21 W-22	浅鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	灰黄褐色	口縁部は内面に肥厚する。内外面に赤色塗彩。	中期後葉	87
146	166	X-22	浅鉢	口縁部片	礫・粗砂・長 石(少)	良好	にぶい黄 褐色	内面に赤色塗彩。	中期後葉	87
146	167	V-22	浅鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	黒褐色	口縁部は内面に肥厚する。	中期後葉	87
146	168	V-22	浅鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄 橙色	口縁部の断面が三角形を呈する。	中期後葉	87
146	169	W-23	浅鉢	口縁部片	礫・粗砂(や や少)	良好	にぶい褐 色	口縁部の断面が三角形を呈する。	中期後葉	87
146	170	W-23	浅鉢	口縁部片	粗砂・長石 (やや少)	良好	褐色	口縁部は肥厚する。内外面に赤色塗彩。	中期後葉	87
146	171	W-21	浅鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい赤 褐色	内外面に赤色塗彩。	中期後葉	87
146	172	X-23	浅鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	暗赤灰色	口縁部は内面に肥厚する。内外面に赤色塗彩。	中期後葉	87
146	173	W-22	浅鉢	口縁部片	礫(少)・粗砂 (やや多)	良好	灰褐色	内外面に赤色塗彩。	中期後葉	87
146	174	V-22	浅鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい橙 色	内外面に赤色塗彩。	中期後葉	87
146	175	W-21	浅鉢	口縁部片	粗砂・石英・ 長石(やや多)	普通	褐色	内外面に赤色塗彩。176と同一。	中期後葉	87
146	176	X-23	浅鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	褐灰色	外面に赤色塗彩。175と同一。	中期後葉	87
146	177	X-23	浅鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい褐 色	内外面に赤色塗彩。	中期後葉	87
146	178	X-23	浅鉢	胴部片	礫・粗砂(や や少)	良好	黒褐色	内面に赤色塗彩。	中期後葉	87
146	179	W-21	浅鉢	胴部片	粗砂・石英・ 長石(少)	良好	橙色	内面に赤色塗彩。	中期後葉	87
146	180	X-24	鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	灰色	条線を垂下させる。外面に赤色塗彩。	中期後葉	87
146	181	W-24	鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい赤 褐色	横位のW字状隆帯を貼付する。外面に赤色塗彩。	中期後葉	87
146	182	U-25	鉢(有孔 鏝付)	頸部片	粗砂・長石 (やや多)	良好	にぶい黄 褐色	穿孔をもつ突帯がつく。	中期後葉	87
146	183	V-23 X-23	鉢	胴部片	粗砂・石英・ 長石(少)	良好	灰褐色	横位の竹管文と列点文を施した隆帯を貼付する。	中期後葉	87
146	184	X-22	鉢(両 耳壺)	把手片	粗砂(少)	良好	褐灰色	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文する。	中期後葉	87
146	185	W-21	深鉢	底部	粗砂・石英・ 長石(やや多)	良好	にぶい赤 褐色	底径3.7cm・残高2.9cmを測る。地文は、原体LRの単節斜縄文を縦位に施文する。	中期後葉	87
146	186	V-22 W-20	深鉢	底部	粗砂(少)	良好	明褐色	底径5.4cm・残高2.1cmを測る。全面赤色塗彩。	中期後葉	87

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
147	187	W-21	深鉢	底部片	粗砂・長石(多)	良好	赤褐色	底径11cm・残高7.7cmを測る。横位・斜位の沈線を施文する。	唐草文系Ⅲ	87
147	188	X-24	深鉢	底部片	粗砂・石英・長石(やや多)	良好	にぶい褐色	底径9cm・残高1.8cmを測る。斜位の沈線を施文する。底部に網代痕。	唐草文系Ⅲ	87
147	189	V-20	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	褐色	口縁部は波状を呈し、沈線と原体LRの単節斜縄文を横位に施文する。	「関沢類型」?	87
147	190	V-21	深鉢	口縁部片	粗砂・長石(やや少)	良好	浅黄色	口縁部は波状を呈し、内面に肥厚する。外面の地文は原体RLの単節斜縄文で、沈線間複列刺突文を横位に施文する。	「関沢類型」?	87
147	191	W-23	深鉢	口縁部片	礫・粗砂(やや少)	良好	灰褐色	口縁部は波状を呈する。地文は原体LRの単節斜縄文で、沈線帯で文様を区画する。	称名寺Ⅰ	87
147	192	表土	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい橙色	口縁部の地文は原体RLの単節斜縄文で、沈線で文様帯を区画する。	称名寺Ⅰ	87
147	193	U-24	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)・石英・長石(少)	良好	明褐色	原体LRの単節斜縄文の充填縄文を施文する。	称名寺Ⅰ	87
147	194	X-22	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや少)	良好	橙色	地文は原体LRの単節斜縄文で、沈線で文様を描く。195と同一。	称名寺?	87
147	195	X-22	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや少)	良好	橙色	地文は原体LRの単節斜縄文で、蛇行沈線文と懸垂文を垂下させる。194と同一。	称名寺?	87
147	196	X-23	深鉢	口縁部片	粗砂・赤粒子(少)	良好	にぶい赤褐色	口縁部は波状を呈する。口縁部は渦巻文や列点文、押圧文を施した隆帯を貼付して文様帯を構成する。	称名寺Ⅱ	87
147	197	X-23	深鉢	口縁部片	粗砂・赤粒子(少)	良好	にぶい赤褐色	列点文、押圧文を施した隆帯を貼付して文様帯を構成し、垂下する弧状沈線で曲線的な文様を描く。	称名寺Ⅱ	87
147	198	W-23	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	褐灰色	口縁部は環状突起がつく。口縁部は沈線や刻みを施した隆帯を貼付して文様帯を構成する。	称名寺Ⅱ	87
147	199	W-23	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	にぶい褐色	沈線で文様帯を描く。	称名寺Ⅱ	87
147	200	X-24	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	黒褐色	連続押圧文を施した隆帯を垂下させる。	称名寺Ⅱ	88
147	201	表土	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	黄橙色	沈線と刺突文を垂下させる。	称名寺Ⅱ	88
147	202	X-22	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	灰黄褐色	列点文と条線で文様帯を描く。	称名寺?	88
147	203	W-21	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	灰褐色	口縁部内面は横位の隆帯を貼付する。地文は原体RLの単節斜縄文で、連続押圧文を施した隆帯を横位に施文する。	後期初頭	88
147	204	U-20 W-20	深鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	良好	暗褐色	口径20.8cm・残高7.6cmを測る。口縁部外面に横位の隆帯を貼付し、内面は内側に肥厚する。胴部は刺突文を施した横位の隆帯を貼付する。	後期初頭	88
147	205	V-20	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	橙色	押圧文を施した隆帯を横位に施文する。	後期初頭	88
147	206	2住	深鉢	口縁部片	粗砂(やや多)	良好	明褐色	横位の隆帯を貼付する。	後期初頭	88
147	207	U-20	深鉢	口縁～胴部	粗砂(やや少)	良好	灰褐色	対弧文を垂下させ、交点に円形の貼付文を施す。	後期初頭	88
147	208	2住	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	褐色	隆帯で文様を描く。	後期初頭	88
147	209	W-21	深鉢	胴部片	粗砂(少)	普通	褐色	爪形刺突文を全面的に施す。210と同一。	三十稲場	88
147	210	W-21	深鉢	胴部片	粗砂(少)	普通	明褐灰色	爪形刺突文を全面的に施す。209と同一。	三十稲場	88
148	211	W-21	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	灰褐色	口縁部は渦巻文や刺突文で文様帯を構成する。胴部は蛇行沈線文を垂下させる。	堀之内1(信州系)	88
148	212	U-24	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	口縁部は横位の条線を施文する。胴部は刻みを施した隆帯を垂下させる。	堀之内1(信州系)	88
148	213	2住	深鉢	口縁部片	粗砂・長石(やや少)	良好	明赤褐色	口縁部は波状を呈する。口縁部は、刺突文や横位の沈線、蕨手文で文様帯を描く。胴部は沈線で文様を描く。	堀之内1(信州系)	88
148	214 ～ 216	W-21 X-21	深鉢	口縁～胴部	粗砂(やや少)	良好	浅黄色	口縁部は横位の沈線を施文する。頸部は条線間連続刺突文を横位に施文する。胴部の地文は原体RLの単節斜縄文で、条線で文様を描く。	堀之内1(信州系)	88

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
148	217	X-21	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	灰黄褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、条線で文様帯を区画する。	堀之内1(信州系)	88
148	218	U-25	深鉢	胴部片	粗砂・長石(やや多)	良好	灰黄褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、条線で文様帯を区画する。	堀之内1(信州系)	88
148	219	U-21	深鉢	頸~胴部片	粗砂(少)	良好	黒褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、条線で文様帯を区画する。	堀之内1(信州系)	88
148	220~224	2住	深鉢	頸~胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	端部に竹管文を施した橋状把手がつく。胴部は竹管文と沈線で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を充填する。	堀之内1(信州系)	88
148	225~227	V-21 W-21	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや多)	良好	黒褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、沈線で文様帯を区画する。	堀之内1(信州系)	88
148	228	W-25	深鉢	頸~胴部片	粗砂・赤粒子(やや少)	良好	にぶい黄褐色	地文は原体RLの単節斜縄文で、 \cap 字状条線を垂下させる。	堀之内1(信州系)	88
148	229	T-23	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	にぶい黄褐色	条線で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。	堀之内1(信州系)	88
148	230	2住	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、横棒状工具による押圧文を施した隆帯と懸垂文、磨消文を垂下させる。	堀之内1(信州系)	88
148	231~233	2住	深鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、沈線や磨消文で文様帯を区画する。	堀之内1(信州系)	88
148	234	U-23	深鉢	胴部片	礫・粗砂(やや少)	良好	明赤褐色	原体LRの単節斜縄文の充填縄文と菱形文を施文する。	堀之内2	88
148	235	X-24	深鉢	胴部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	浅黄褐色	沈線間列点文を斜位や縦位に垂下させる。	堀之内2	88
148	236	U-23	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	口縁部内面に横位の沈線を施文する。外面は横位の条線を施文する。	後期前葉	88
148	237	W-21	深鉢	胴部片	粗砂(少)	良好	黒褐色	櫛歯状工具による細条線を縦位・横位に施文する。外面に炭化物付着。	南三十稲場?	88
148	238	表土	深鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	刻みを施した横位の微隆帯3条を巡らし、貼付文(連続刺突文)を垂下させる。	堀之内2(信州系)	88
149	239	U-25	深鉢	口縁部片	粗砂・長石・片岩(少)	良好	灰黄褐色	口縁部は小波状を呈し、口唇部に刻み文を施す。内面は横位の隆帯と条線、刺突文を施文する。外面は横位の条線を施文する。	加曾利B1	88
149	240	U-20	深鉢(鉢?)	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい赤褐色	口縁部は内面に肥厚し、口唇部に条線を施文する。口縁部は斜位の沈線を施文した後、横位の条線を施文する。	加曾利B1	88
149	241	U-23	浅鉢?	口縁部片	粗砂(少)	良好	灰オリーブ色	口唇部に棒状工具による押圧文を施す。内面は刺突文を横位に施文する。	加曾利B1	88
149	242	表土	鉢	口縁部片	粗砂(少)	良好	明赤褐色	外面は斜沈線を施した隆帯と条線を横位に施文する。内外面に赤色塗彩。	加曾利B1	88
149	243	T-24	鉢	頸~胴部片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	頸部に入組文を施文する。	加曾利B1	89
149	244	V-20	注口	頸部片	粗砂(やや少)	普通	橙色	環状把手がつく。	後期前葉	89
149	245	T-25	注口	口縁部把手片	粗砂(少)	良好	にぶい褐色	環状把手がつき、刺突文や沈線を施文する。	堀之内?	89
149	246	T-23	注口	口縁~頸部片	粗砂(やや少)	普通	にぶい黄褐色	隆帯と沈線で文様帯を区画し、区画内に列点文を施文する。	堀之内2	89
149	247	U-23	注口	胴部片	礫・粗砂・長石(少)	良好	明黄褐色	地文は原体LRの単節斜縄文で、渦文を施文する。	堀之内2	89
149	248	U-23	注口	胴部片	礫・粗砂・長石(少)	良好	黄灰色	地文は原体LRの単節斜縄文で、渦文を施文する。	堀之内2	89
149	249	表土	注口	胴部片	粗砂(やや少)	良好	黄灰色	地文は原体RLの単節斜縄文で、沈線で文様帯を区画する。	堀之内2	89
149	250	X-22	注口	胴部片	粗砂(やや少)	良好	橙色	地文は原体LRの単節斜縄文で、沈線と磨消文で文様帯で区画する。	加曾利B?	89
149	251	V-20	深鉢	口縁部把手片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	橋状把手で、刺突文と螺旋文を施文する。	後期前葉	89
149	252	V-20	深鉢	口縁部把手片	粗砂・赤粒子(やや少)	良好	橙色	ラップ形突起がつく。	後期中葉?	89

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
149	253	V-24	深鉢	底部	礫・粗砂・長石(多)	良好	橙色	底径8cm・残高1.9cmを測る。肥厚する底部で、網代痕。	後期	89
149	254	U-20	浅鉢?	底部	粗砂(やや少)	良好	明黄褐色	底径7cm・残高5.7cmを測る。無文を呈する。	後期	89
149	255	W-21	台付鉢	台部	粗砂(やや少)	良好	赤褐色	底径8cm・残高2.9cmを測る。沈線を垂下させる。	後期?	89
149	256	V-21	台付鉢	台部	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	底径5.4cm・残高4.2cmを測る。無文を呈する。	後期?	89
149	257	W-21	台付鉢	台部	粗砂(少)	良好	橙色	底径5.2cm・残高2.9cmを測る。	後期?	89
149	258	W-21	小型鉢	口縁~胴部	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	橙色	口径9.4cm・残高5cmを測る。内外面に赤色塗彩。	後期	89
149	259	W-21	深鉢?	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	黒褐色	無文を呈する。ミニチュア土器か?	後期	89
149	260	W-23	深鉢?	口縁部片	粗砂(少)	良好	灰黄褐色	口縁に竹管文を施す。ミニチュア土器か?	後期	89
149	261	W-22	鉢	口縁~頸部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	斜位の沈線を施文した後、横位の沈線を施文する。ミニチュア土器か?	後期	89
149	262	W-22	鉢	胴部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	沈線で文様帯を区画し、区画内に斜位の沈線を施文する。ミニチュア土器か?	後期	89
149	263	V-22	深鉢	口縁部把手片	粗砂・長石(やや少)	良好	にぶい黄褐色	渦巻文や隆帯で加飾する。胴部に擦り切りの溝が看取され、切り取る意図のものか?	土製品、中期後葉	89
149	264	W-24	土偶	脚部	粗砂(やや少)	良好	にぶい褐色	底部にかけて穿孔有り。沈線を施文する。左脚部である。	中期後葉	89
149	265	X-20	円盤	深鉢破片	粗砂(少)	良好	明褐色	断面に擦痕。	土製品	89
149	266	V-20	円盤	深鉢破片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	断面に擦痕。	土製品	89
149	267	W-20	円盤	深鉢破片	粗砂(少)	良好	にぶい黄褐色	断面に擦痕。	土製品	89
149	268	X-23	深鉢	頸部片	粗砂・石英・長石(やや少)	良好	黒褐色	突帯を貼付した後、突帯上辺に刺突文を施文する。胴部は櫛歯状工具による条線を施文する。	時期不明	89
149	269	V-21	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	3条の条線を横位に施文する。	時期不明	89
149	270	U-20	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	明黄褐色	口縁部に横位の条線を施文する。	時期不明	89
149	271	V-22	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	褐色	口縁部は波状を呈し、原体RLの単節斜縄文を横位に施文する。272と同一。	時期不明	89
149	272	X-24	深鉢	口縁部片	粗砂(やや少)	良好	赤褐色	原体RLの単節斜縄文を横位に施文する。271と同一。	時期不明	89

17区遺構外

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
149	1	C-14	深鉢(浅鉢?)	口縁部片	礫・粗砂(多)・赤色粒(少)	良好	にぶい橙色	口唇部は肥厚する。口縁部文様帯は、RLの単節斜縄文を施文した後、隆帯で区画する。	加曾利EII	89
149	2	B-15	深鉢	底部片	礫・長石(少)・粗砂(多)	良好	にぶい黄褐色	外面は無文で、底面は剥離している。	後期	89

4区遺構外(石器)

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
150	1	K-10	石鏃	16.5	12	3	0.4	黒曜石	凹基無茎、完形	89
150	2	I-10	石鏃	(17.5)	17.5	2	(0.4)	黒曜石	凹基無茎、先端欠	89
150	3	K-10	石鏃	(33)	8.8	5	(1.5)	黒曜石	上端欠	89
150	4	V-11	石匙	102.5	33	9	37.6	細粒輝石安山岩	縦長、両側刃部	89
150	5	覆土	スクレイパー	47	70	12	36.5	細粒輝石安山岩	横長、右・下側刃部	89
150	6	V-14	スクレイパー	55	79	10	23.6	黒色頁岩	横長、下側刃部	89
150	7	X-11	スクレイパー	66	82	18	85.7	粗粒輝石安山岩	横長、下側刃部	89
150	8	Y-11	スクレイパー	44	118	11	60.2	黒色安山岩	横長、上・下側刃部	89
150	9	覆土	打製石斧	112	41	21	110.5	黒色頁岩	短冊形	89
150	10	Y-13	打製石斧	(84)	57	15	(98.4)	細粒輝石安山岩	短冊形、刃部欠	89
150	11	X-14	打製石斧	(90)	56	21	(157.7)	粗粒輝石安山岩	短冊形、刃部欠	89
150	12	Y-11	打製石斧	(54)	42	17	(51.4)	粗粒輝石安山岩	短冊形、基部のみ	89

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
150	13	Y-13	打製石斧	(101)	49	24	(134.6)	細粒輝石安山岩	短冊形、刃部欠	89
150	14	N-11	打製石斧	103	47	13	(80.2)	細粒輝石安山岩	撥形、一部欠	89
150	15	X-13	打製石斧	118	46	11	56.3	不明	撥形、劣化	89
150	16	V-12	打製石斧	(85)	46	19	(101.5)	細粒輝石安山岩	短冊形、基部欠	89
150	17	Y-11	打製石斧	(79)	45	16	(61.6)	細粒輝石安山岩	撥形、刃部欠、挟り?	89
150	18	D-10	打製石斧	(68)	58	19	(88.7)	細粒輝石安山岩	撥形、刃部欠	89
150	19	J-9	打製石斧	(71)	49	13	(70.9)	紫蘇輝石普通輝石安山岩	撥形、基部欠	89
151	20	覆土	打製石斧	(93)	64	18	(127.3)	粗粒輝石安山岩	撥形、基部欠	89
151	21	X-10	打製石斧	(59)	42	90	(27.2)	細粒輝石安山岩	撥形、刃部欠	89
151	22	覆土	打製石斧	(60)	51	18	(59.6)	細粒輝石安山岩	撥形、刃部欠	89
151	23	P-11	打製石斧	(70)	42	22	(84.3)	細粒輝石安山岩	短冊形、刃部欠	89
151	24	覆土	打製石斧	69	48	7	32.3	黒色頁岩	短冊形、再調整?	89
151	25	S-12	打製石斧	(84)	43	14	(69.3)	結晶片岩	短冊形、石棒片転用	89
151	26	X-11	磨製石斧	(72)	57	41	(261.8)	粗粒輝石安山岩	刃部欠	89
151	27	C-11	磨製石斧	(57)	58	29	(135.5)	蛇紋岩	刃部破片	90
151	28	B-11	小型磨製石斧	72	33	15	72.9	蛇紋岩	未製品	90
151	29	B-9	磨石	51	45	26	97.3	粗粒輝石安山岩	両面磨り	90
151	30	C-10	磨石	53	52	41	185.6	粗粒輝石安山岩	両面磨り	90
151	31	Y-11	磨石	65	57	16	107.3	粗粒輝石安山岩	両面磨り	90
151	32	X-11	磨石	48	39	22	55.2	粗粒輝石安山岩	両面磨り、煤付	90
151	33	Y-11	磨石	(50)	(72)	(13)	(59.3)	細粒輝石安山岩	破片	90
151	34	X-13	磨石	(61)	58	24	(135.9)	粗粒輝石安山岩	両面磨り、1/3欠	90
151	35	N-11	磨石	141	47	30	330.4	粗粒輝石安山岩	両面磨り	90
151	36	A-12	磨石	70	49	32	138.4	粗粒輝石安山岩	両面・側面磨り	90
152	37	D-10	磨石	69	55	53	273.5	粗粒輝石安山岩	裏面磨り、側面凹み	90
152	38	S-12	磨石	97	75	70	697.7	粗粒輝石安山岩	両面磨り、側面凹み	90
152	39	覆土	凹石	86	73	71	538.4	粗粒輝石安山岩	裏面磨り、被熱・煤付	90
152	40	覆土	凹石	91	83	64	625.5	粗粒輝石安山岩	両面磨り、被熱・煤付	90
152	41	C-9	磨石	130	50	34	401.2	石英閃緑岩	両面磨り	90
152	42	V-13	凹石	(70)	51	42	(161.4)	粗粒輝石安山岩	両面磨り、被熱	90
152	43	S-12	磨石	127	132	49	1,367	粗粒輝石安山岩	両面・側面磨り	90
152	44	V-13	凹石	80	95	41	258.3	粗粒輝石安山岩	被熱	90
153	45	表土	磨石	(98)	(143)	54	(1,051)	粗粒輝石安山岩	1/2欠、被熱	90
153	46	J-9	石皿	(201)	(174)	77	(2,000)	粗粒輝石安山岩	1/4残、側面凹み	90

5区遺構外(石器)

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
154	1	V-3	石鏃	16	12.5	4.1	0.8	赤碧玉	平基無茎、完形	90
154	2	表土	石鏃	15	14	3.5	0.7	チャート	平基無茎、完形	90
154	3	V-3	石鏃	18	14.2	3.8	1	チャート	平基無茎、完形	90
154	4	V-2	石鏃	16	11	2.6	0.4	黒曜石	凹基?無茎、完形	90
154	5	V-2	石鏃	18	12.5	3.2	0.5	黒曜石	凹基?無茎、完形	90
154	6	表土	石鏃	(11)	9	2	(0.2)	黒曜石	凹基無茎、先端欠	90
154	7	V-3	石鏃	(12.1)	11.2	3.5	(0.4)	黒曜石	凹基無茎、先端・脚欠	90
154	8	表土	石鏃	17.5	14	3	0.5	黒曜石	凹基無茎、完形	90
154	9	W-1	石鏃	20	13.5	2.5	0.4	黒曜石	凹基無茎、完形	90
154	10	V-2	石鏃	21	11.5	4	0.6	チャート	凹基無茎、完形	90
154	11	V-1	石鏃	28	14.5	2	0.6	チャート	凹基無茎、完形	90
154	12	表土	石鏃	(18)	17	2.5	(0.6)	チャート	凹基無茎、先端欠	90
154	13	表土	石鏃	20	14	2.2	0.4	チャート	凹基無茎、完形	90
154	14	U-3	石鏃	(14)	13.8	2.2	(0.3)	チャート	凹基無茎、先端欠	90
154	15	W-2	石鏃	19	12	2.8	(0.4)	黒曜石	凹基無茎、右脚欠	90
154	16	T-2	石鏃	12.9	13	2.5	0.3	黒曜石	凹基無茎、完形	90
154	17	V-2	石鏃	13.3	16	2.5	0.5	黒曜石	凹基無茎、完形	90
154	18	V-2	石鏃	18	10.5	3.5	0.6	黒曜石	凸基(有茎)状、完形	90
154	19	表土	石鏃	(19)	10.3	2.5	(0.5)	黒曜石	平基有茎?、茎欠	90
154	20	V-3	石鏃(大型)	36	20	3.2	(2.1)	黒色安山岩	凹基無茎、脚欠	90

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
154	21	T-6	石鏃(大型)	38	28	10	8.5	黒色頁岩	凸基(有茎)状、完形	90
154	22	W-2	石鏃	26.2	17	5.3	2.7	チャート	未製品?(ピエス状)	90
154	23	W-2	石鏃	28	7	2	0.4	黒曜石	柄なし、完形	90
154	24	W-5	石鏃	18.2	13.5	3.9	0.5	チャート	横長柄あり、完形	90
154	25	T-3	石匙?	49	71	11	24.2	黒色頁岩	横長、基部欠?	90
155	26	U-4	打製石斧	109	50	22	128.5	粗粒輝石安山岩	撥形	90
155	27	W-2	打製石斧	106	53	13	94.2	細粒輝石安山岩	撥形	90
155	28	W-1	打製石斧	110	60	21	165.2	粗粒輝石安山岩	撥形	90
155	29	表土	打製石斧	(63)	56	19	(63.1)	細粒輝石安山岩	撥形、基部欠	90
155	30	W-2	打製石斧	(87)	58	23	(114.4)	粗粒輝石安山岩	撥形、両端欠	90
155	31	W-4	打製石斧	(126)	49	21	(149.6)	細粒輝石安山岩	短冊形、刃部欠	90
155	32	表土	打製石斧	(59)	49	12	(46.8)	粗粒輝石安山岩	撥形、刃部欠	90
155	33	表土	打製石斧	(49)	38	10	(28.9)	細粒輝石安山岩	短冊形、基部のみ	90
155	34	T-1	打製石斧	(86)	45	15	(68.8)	細粒輝石安山岩	短冊形、基部欠	90
155	35	表土	打製石斧	(74)	45	21	(80.6)	粗粒輝石安山岩	短冊形、基部欠	90
155	36	表土	打製石斧	(73)	41	17	(69.9)	粗粒輝石安山岩	短冊形、両端欠	90
155	37	W-3	打製石斧	(67)	54	13	(59)	細粒輝石安山岩	分銅形?、1/2欠	90
155	38	P-4	打製石斧	94	55	22	122.4	黒色頁岩	分銅形、浅い抉り	91
155	39	V-1	打製石斧	(72)	109	26	(257.4)	粗粒輝石安山岩	分銅形?、スクレイパーか?	91
155	40	V-6	小型磨製石斧	(35)	26	9	(12.5)	流紋岩?	基部欠	91
155	41	表土	小型磨製石斧	(22)	(30)	(11)	(7.2)	蛇紋岩	刃部破片	91
155	42	V-1	小型磨製石斧	(21)	22	7	(5.2)	蛇紋岩	基部のみ	91
155	43	V-2	磨製石斧	(71)	54	26	(199.6)	蛇紋岩	刃部、磨石転用	91
155	44	U-3	磨製石斧	(45)	47	21	(72.5)	蛇紋岩	刃部破片	91
156	45	T-1	磨石(磨製石斧)	108	69	37	438.9	流紋岩	磨製石斧胴部転用	91
156	46	表土	磨石	104	74	32	398.8	粗粒輝石安山岩	両面磨り	91
156	47	W-3	磨石	92	91	64	774.2	石英閃緑岩	両面磨り、側面凹み	91
156	48	表土	磨石	(95)	77	31	(379.6)	粗粒輝石安山岩	両面磨り、1/3欠	91
156	49	表土	磨石	(58)	56	23	(94)	粗粒輝石安山岩	両面磨り、1/2欠	91
156	50	W-2	磨石(石皿)?	112	59	58	665.5	粗粒輝石安山岩	両面・両側面磨り	91
156	51	表土	磨石	167	124	48	1,800	粗粒輝石安山岩	両面・側面磨り	91
156	52	V-6	磨石	(98)	71	(35)	(437.1)	石英閃緑岩	両面磨り、1/2欠	91
156	53	表土	磨石	96	55	42	373	粗粒輝石安山岩	両面磨り、側面凹み	91
157	54	W-2	磨石	108	89	46	765.4	粗粒輝石安山岩	両面磨り	91
157	55	覆土	磨石	129	67	30	482.3	粗粒輝石安山岩	両面磨り	91
157	56	W-21	磨石	135	89	43	856.8	粗粒輝石安山岩	両面磨り、煤付	91
157	57	T-3	磨石	111	62	48	503.8	砂岩	両面磨り	91
157	58	表土	磨石(石皿)?	165	134	45	1,790	粗粒輝石安山岩	両面磨り、側面凹み	91
157	59	U-3	磨石	106	47	40	291.3	粗粒輝石安山岩	両面磨り	91
157	60	W-2	磨石	106	(84)	55	(769.9)	粗粒輝石安山岩	両面磨り、被熱	91
158	61	V-2	磨石	119	99	73	1,204	粗粒輝石安山岩	両面磨り、被熱・煤付	91
158	62	表土	磨石	133	57	40	528.4	粗粒輝石安山岩	両面磨り、被熱・煤付	91
158	63	W-2	磨石	127	100	60	1,009.4	粗粒輝石安山岩	両面磨り、側面凹み	91
158	64	W-1	磨石	105	80	52	687.7	粗粒輝石安山岩	両面磨り、被熱	91
158	65	U-5	磨石	(163)	98	66	(1,520)	粗粒輝石安山岩	両面磨り、被熱	91
159	66	W-3	石皿	(184)	(191)	71	(3,840)	粗粒輝石安山岩	破片、両面磨り、煤付	91
159	67	表土	石皿	(164)	205	68	(3,480)	紫蘇輝石普通輝石安山岩	両面磨り、両端欠	91
159	68	2層	多孔石	(201)	(152)	70、深14	(2,200)	粗粒輝石安山岩	1/4残、多孔石	91
160	69	表土	多孔石	165	92	63	741.4	粗粒輝石安山岩	側面凹み	92
160	70	表土	多孔石	193	165	141	5,200	粗粒輝石安山岩	側面凹み	92
160	71	表土	多孔石	312	252	145	12,100	粗粒輝石安山岩	側面凹み	92
160	72	E-10	多孔石	242	210	109	6,700	粗粒輝石安山岩	側面凹み	92
161	73	表土	多孔石	398	297	178	27,000	粗粒輝石安山岩	側面凹み	92
161	74	H-12	多孔石	285	142	115	5,600	粗粒輝石安山岩	側面凹み	92
161	75	W-2	石棒	(133)	87	87	(1,600)	デイサイト	胴部、凹み	92
161	76	U-2	石棒	45	18	10	13.2	緑泥片岩	破片	92
161	77	W-4	石製品	102	49	19	146.4	結晶片岩	側面全周磨り	92
161	78	W-2	磨石(砥石)	(47)	(41)	13、深3.5	(35.3)	砂岩	破片、全面磨り	92

6区遺構外

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
162	1	表土	石鏃	12.1	9.9	2.2	(0.2)	黒曜石	凹基無茎、左脚欠	92
162	2	D-12	石鏃	19.8	(12.9)	3.5	(0.8)	黒曜石	凹基無茎、右脚欠	92
162	3	表土	石鏃	19	(16)	5	(1.3)	黒曜石	凹基無茎、右脚欠	92
162	4	E-12	石鏃	25	(16.3)	3.4	(1.1)	黒曜石	凹基無茎、右脚欠	92
162	5	C-16	石鏃	13	(14.5)	3.2	(0.4)	黒曜石	凹基無茎、右脚欠	92
162	6	表土	石鏃(大型)	(27.2)	18.8	4.2	(2.1)	黒色安山岩	凹基無茎、先端欠	92
163	7	D-12	石鏃(大型)	46	25.8	9	10.6	黒色安山岩	平基無茎、完形	92
163	8	E-12 3層	石錐	30	9	3	(0.9)	細粒輝石安山岩	柄なし、先端欠	92
163	9	E-11	スクレイパー	39	68	14	35.6	細粒輝石安山岩	横長、上・下側刃部	92
163	10	表土	スクレイパー	47	69	13	45.3	細粒輝石安山岩	横長、左・下側刃部	92
163	11	E-11	スクレイパー	56	81	14	68.1	黒色頁岩	横長、上・下側刃部	92
163	12	表土	スクレイパー	(53)	37	14	(25.7)	珪化木	縦長、右側刃部	92
163	13	表土	スクレイパー	54	38	11.5	22.7	チャート	縦長、両側刃部	92
163	14	F-13	打製石斧	104	50	19	123.1	黒色頁岩	短冊形(僅かに撥状)	92
163	15	F-13	打製石斧	(118)	56	26	(182.8)	細粒輝石安山岩	撥形、刃部欠	92
163	16	B-21	打製石斧	(95)	52	24	(153.9)	粗粒輝石安山岩	撥形、刃部欠	92
163	17	E-12	打製石斧	(87)	42	21	(93.8)	細粒輝石安山岩	撥形、刃部欠	92
163	18	C-18	打製石斧	(91)	50	21	(123.5)	細粒輝石安山岩	短冊形、刃部欠	92
163	19	E-12	打製石斧	(77)	48	24	(118.6)	細粒輝石安山岩	短冊形、刃部欠	92
163	20	表土	打製石斧	(97)	57	19	(103.9)	細粒輝石安山岩	撥形、基部欠	92
163	21	E-12	打製石斧	(66)	41	19	(68.2)	黒色頁岩	撥形、基部欠	92
163	22	E-12	打製石斧	(67)	53	11	(48.9)	細粒輝石安山岩	撥形、基部欠	92
163	23	E-12	打製石斧	(62)	42	21	(86.6)	細粒輝石安山岩	短冊形、両端欠	92
163	24	表土	打製石斧	(55)	46	14	(45.7)	細粒輝石安山岩	短冊形、両端欠	92
163	25	C-21	打製石斧	(51)	55	17	(58.8)	細粒輝石安山岩	撥形、刃部のみ	92
164	26	C-11	打製石斧	(81)	45	16	(70.9)	細粒輝石安山岩	短冊形、刃部欠	92
164	27	C-22 4層	小型磨製石斧	(20)	14	5.5	(3)	蛇紋岩	刃部欠	92
164	28	C-12	磨石	89	79	23	272.5	粗粒輝石安山岩	両面磨り、一部剥離	92
164	29	E-12	磨石	74	46	25	124.1	粗粒輝石安山岩	両面磨り	93
164	30	C-21	凹石	(70)	63	55	(357.4)	粗粒輝石安山岩	両面磨り、被熱・煤付	93
164	31	E-12	磨石	133	81	44	621.5	細粒輝石安山岩	両面・側面磨り	93
164	32	C-21	凹石	124	88	52	797.5	粗粒輝石安山岩	両面・側面磨り、凹み	93
164	33	C-18	磨石	84	65	27	221.3	石英閃緑岩	両面磨り	93
164	34	D-12	磨石	(80)	60	40	(258.6)	粗粒輝石安山岩	両面磨り、煤付	93
164	35	F-12	磨石	(114)	60	50	(738.2)	石英閃緑岩	両面・側面磨り、凹み	93
165	36	E-12	凹石	(136)	(94)	58	(988.8)	粗粒輝石安山岩	破片、両面磨り、凹み	93
165	37	C-12	石皿	(104)	(148)	29、深6	(554)	粗粒輝石安山岩	破片、両面磨り	93

95区遺構外

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
166	1	W-21	石鏃	11	12	2.8	0.3	黒曜石	平基無茎、完形	93
166	2	W-20	石鏃	12	(8.9)	2	(0.2)	黒曜石	平基無茎、左端欠	93
166	3	W-22	石鏃	(13.8)	14.5	3	(0.4)	黒曜石	凹基?無茎、先端欠	93
166	4	V-23	石鏃	16	12.8	3	0.4	チャート	凹基?無茎、完形	93
166	5	X-25	石鏃	13	11	2.3	0.2	黒曜石	凹基無茎、完形	93
166	6	W-25	石鏃	17	11	4.8	0.6	黒曜石	凹基無茎、完形	93
166	7	W-21	石鏃	(15.4)	13.5	2.8	(0.5)	黒曜石	凹基無茎、先端欠	93
166	8	U-21	石鏃	17	(11.5)	2.2	(0.3)	黒曜石	凹基無茎、右脚欠	93
166	9	X-24	石鏃	(19)	(15.5)	2.5	(0.5)	黒曜石	凹基無茎、脚・先端欠	93
166	10	V-22	石鏃	21.2	(16)	4.5	(1)	黒曜石	凹基無茎、右脚欠	93
166	11	V-21	石鏃	18.5	18	4.8	1.3	チャート	円基状?、右脚突出	93
166	12	W-21	石鏃	(18)	(15)	5.8	(1.4)	チャート	平基有茎、先端欠	93
166	13	X-22	石鏃	24.5	(19.5)	4.2	(1.6)	黒曜石	凹基無茎、左脚欠	93
166	14	V-21	石鏃	30.5	(14)	3	(0.7)	黒曜石	凹基無茎、左脚欠	93
166	15	V-25	石鏃	(25.5)	18	5.8	(1.7)	黒曜石	平基無茎?、1/2欠	93

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
166	16	X-23	石鏃(大型)	(30)	30	5	(3.9)	黒色頁岩	凹基無茎、先端欠	93
166	17	U-20	石鏃	20	31	6.5	3.2	黒曜石	未製品(石匙状)	93
166	18	W-22	石鏃	29	9	2.3	0.8	黒曜石	柄なし、完形	93
166	19	U-20	石鏃	(19)	6	3.5	(0.5)	黒曜石	柄なし、先端欠	93
167	20	W-21	石鏃	(30.5)	22.5	3.5	(2.3)	細粒輝石安山岩	横長柄、先端欠	93
167	21	表土	スクレイパー	60	42	11	22.3	黒曜石	使用痕剥片、右側刃部	93
167	22	W-22	打製石斧	101	42	17	107.6	粗粒輝石安山岩	短冊形	93
167	23	X-22	打製石斧	83	39	14	56.2	黒色安山岩	短冊形(やや撥状)	93
167	24	U-22	打製石斧	86	45	12	56.3	黒色安山岩	撥形(やや短冊状)	93
167	25	T-25	打製石斧	90	43	17	67.5	黒色頁岩	撥形	93
167	26	W-21	打製石斧	86	43	16	66.4	黒色安山岩	撥形	93
167	27	X-23	打製石斧	84	41	16	54.9	細粒輝石安山岩	撥形	93
167	28	V-22	打製石斧	77	43	10	40.8	細粒輝石安山岩	撥形	93
167	29	W-21	打製石斧	86	36	12	44.7	細粒輝石安山岩	撥形	93
167	30	U-21	打製石斧	(85)	50	14	(61.7)	粗粒輝石安山岩	撥形	93
167	31	W-22	打製石斧	105	55	12	104.9	粗粒輝石安山岩	撥形、刃部円形、抉り	93
167	32	U-25	打製石斧	93	44	19	80.6	黒色頁岩	撥形	93
167	33	X-21	打製石斧	95	44	19	87.6	安山岩	撥形(やや短冊状)	93
168	34	X-23	打製石斧	111	51	21	141.7	粗粒輝石安山岩	撥形	93
168	35	W-22	打製石斧	126	49	15	121.4	粗粒輝石安山岩	撥形	93
168	36	S-21	打製石斧	133	50	21	154	細粒輝石安山岩	撥形	93
168	37	W-25	打製石斧	122	53	13	100	細粒輝石安山岩	撥形	93
168	38	W-21	打製石斧	(116)	56	19	(136.7)	粗粒輝石安山岩	撥形	93
168	39	表土	打製石斧	108	57	19	127.7	黒色頁岩	撥形	94
168	40	W-23	打製石斧	(100)	45	22	(118.6)	粗粒輝石安山岩	短冊形、基部円形	94
168	41	W-21	打製石斧	122	52	22	165	黒色頁岩	短冊形(撥状)、抉り	94
168	42	U-1	打製石斧	111	48	17	95	砂岩	短冊形(撥状)、抉り	94
168	43	U-24	打製石斧	110	48	19	126	細粒輝石安山岩	短冊形(撥状)、抉り	94
168	44	V-22	打製石斧	(95)	54	17	(127.8)	黒色安山岩	撥形、基部欠	94
168	45	X-22	打製石斧	(105)	69	32	(249.5)	細粒輝石安山岩	撥形、基部欠	94
168	46	W-23	打製石斧	(81)	65	17	(114.2)	細粒輝石安山岩	短冊形、両端欠	94
169	47	T-21	打製石斧	(103)	80	34	(366.8)	細粒輝石安山岩	短冊形、基部欠	94
169	48	W-21	打製石斧	112	89	30	420.6	細粒輝石安山岩	撥形、再調整?	94
169	49	V-11	小型磨製石斧	(53)	39	21	(48.2)	蛇紋岩	刃部欠	94
169	50	V-1	磨製石斧	(61)	(36)	(29)	(60.9)	蛇紋岩	破片	94
169	51	W-21	磨石	78	66	49	306.5	粗粒輝石安山岩	両面・側面磨り	94
169	52	V-1	磨石	82	67	60	506.3	粗粒輝石安山岩	全側面磨り	94
169	53	表土	磨石	(82)	64	27	(287.1)	粗粒輝石安山岩	両面磨り、1/2欠	94
169	54	X-22	磨石	129	69	45	626.2	粗粒輝石安山岩	両面磨り、被熱・煤付	94
169	55	X-23	磨石	94	73	22	241.7	粗粒輝石安山岩	両面磨り、煤付	94
169	56	W-25	磨石	70	62	28	174.8	粗粒輝石安山岩	両面磨り、被熱・剥離	94
170	57	X-22	磨石	151	90	46	971.7	粗粒輝石安山岩	両面磨り、煤付	94
170	58	W-22	磨石	93	58	21	174.3	粗粒輝石安山岩	両面磨り	94
170	59	W-25	磨石	(81)	80	47	(449.2)	ひん岩?	表・側面磨り、1/2欠	94
170	60	U-24	磨石	99	79	69	821.8	粗粒輝石安山岩	両面磨り	94
170	61	X-25	磨石	87	84	37	461.4	粗粒輝石安山岩	両面・側面磨り、凹み	94
170	62	W-21	磨石	(106)	53	19	(161.8)	粗粒輝石安山岩	両面磨り、一部欠	94
170	63	V-20	磨石	61	58	28	149.6	デイサイト	両面磨り	94
170	64	X-23	磨石	117	87	59	880.2	粗粒輝石安山岩	両面磨り、側面凹み	94
171	65	X-22	磨石	120	77	45	645.2	粗粒輝石安山岩	両面磨り	94
171	66	T-21	磨石	128	83	35	603.8	粗粒輝石安山岩	両面磨り	94
171	67	V-12	磨石	116	56	35	261	デイサイト?	両面磨り、被熱・剥離	94
171	68	V-25	磨石	(82)	82	57	(510.7)	粗粒輝石安山岩	両面磨り、剥離欠	94
171	69	U-24	磨石	(133)	59	42	(450.7)	粗粒輝石安山岩	両面・側面磨り	94
171	70	V-21	石皿	(156)	225	73	(2,100)	粗粒輝石安山岩	1/2欠、多孔石	94
171	71	X-25	多孔石	228	128	98	4,050	粗粒輝石安山岩	側面凹み、煤付	94
172	72	V-25	多孔石	190	115	79	1,700	粗粒輝石安山岩	側面凹み	94
172	73	U-25	多孔石	339	247	224	15,900	粗粒輝石安山岩	側面凹み	95

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
172	74	W-21	石棒	(145)	70	68	(1,097)	結晶片岩	先端側胴部、凹み	95
172	75	U-25	石棒	(102)	123	125	(2,320)	デイサイト	基部、凹み、煤付	95
172	76	X-20	石製品	(56)	62	15	(25.6)	軽石	穿孔途中の円孔あり	95
172	77	X-22	石製品	44	59	17	33.3	軽石	穿孔途中の円孔あり	95

弥生遺物(5区・17区遺構外)

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
174	1	17B-14	鉢	口縁部片	粗砂(多)・長石・赤色粒・金雲母(少)	良好	明黄褐色	口端が方形の断面を呈し、撫で成形後外面には口端下に横位の磨きを施す。文様はなく無文を呈する。	弥生?	95
174	2	17B-14	甕	口縁部片	粗砂・石英・長石(少)	良好	暗灰黄色	外面は削り、内面は横位の撫で調整で、無文を呈する。3・4と同一。	弥生?	95
174	3	17A-14	甕	胴部片	礫・粗砂・石英・長石(多)	良好	にぶい黄褐色	外面は削り、内面は横位の撫で調整で、無文を呈する。2・4と同一。	弥生?	95
174	4	17A-14	甕	胴部片	礫・粗砂・石英・長石(多)	良好	にぶい黄褐色	外面は削り、内面は横位の撫で調整で、無文を呈する。2・3と同一。	弥生?	95
174	5	5W-4	甕	胴部片	礫・粗砂(やや少)	良好	にぶい黄褐色	内・外面とも削り・撫で成形後、押圧による調整が施される。押圧痕が顕著に残る。	弥生?	95

古墳遺物(5区遺構外)

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
174	1	W-4	土師器・坏	口縁部片	粗砂(少)	良好	褐色	外反して口縁内面が内斜する器形で、外面口端下に横位条線が1条看取される。	5C末～6C代	95
174	2	W-4	土師器・坏	口縁部片	粗砂(少)	良好	明褐色	外反して口縁内面が内斜する器形で、横位の撫で調整が施される。	5C末～6C代	95

4区5号住居跡

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
175	1	覆土	土師器・甕	底部片	粗砂・石英・長石・金雲母(多)	良好	にぶい赤褐色	外面は斜位や横位、内面は横位の撫で調整が施される。底面は平坦で、外面側に漬れるように張り出す。	9～10C代?	95
175	2	覆土	陶器・平埴	口縁部片	緻密	良好	灰オリーブ色	口径14cm・残高3.6cmを測る。古瀬戸後期IV古。	15C後葉	95

4区6号住居跡

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
176	1	床面付近	灰釉陶器・坏	口縁～底部片	緻密	良好	灰オリーブ色	口径10.1cm・器高2.3cm・底径6.6cmを測る。高台が付く。内面に釉が付着。	10C代	95

図No.	No.	出土位置	種類	器種	部位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考	PL
176	2	床面付近	鉄製品	角釘	先端欠	(101)	8	7	(13.4)	鍛造、平安?	95

4区13号住居跡

図No.	No.	出土位置	器種	計測(mm・g)				石材名	備考	PL
				長さ	幅	厚さ	重量			
178	1	覆土	砥石	(55)	(15)	(20)	(50.5)	砥沢石	磨面全面、平安?	95

平安遺物(4区遺構外)

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
186	1	表土	須恵器・埴?	胴部片	礫・粗砂(少)	良好	灰色	ロクロ痕看取されるが、表面は滑らかで、油煙か釉状の付着物あり。	平安	95

平安遺物(5区遺構外)

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
186	1	W-4	須恵器・埴	底部	礫・粗砂(やや少)	良好	灰白色	底径7.6cm・残高1.4cmを測る。右回転ロクロで、底部回転糸切り。内面縁部を打ち欠き、裏面の高台内縁に擦痕が看取される。	10C代、転用硯	95
186	2	W-4	須恵器・甕	胴部片	粗砂(少)	良好	褐灰色	外面には平行叩き目、内面には同心円(青海波)の当て具痕が明瞭。	10C代?	95
186	3	W-4	須恵器・埴(鉢)?	胴部片	粗砂(少)	普通	灰白色	胴径18.8cm、残高3.8cmを測る。内外面にロクロ痕跡が明瞭。	10C代	95

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
186	4	W-4	須恵器・埴	口縁部片	粗砂(少)	普通	灰色	外面にロクロ痕跡あり。	10C代	95
186	5	W-4	須恵器・埴	口縁部片	粗砂(少)	普通	灰色	外面にロクロ痕跡あり。	10C代	95
186	6	W-4	土師器・甕	頸部片	粗砂(少)	良好	橙色	所謂「コ字形」の器形を呈する甕の頸部で、横位の撫で調整。	9C代	95
186	7	W-4	土師器・甕	底部片	礫・粗砂(やや少)	普通	褐灰色	底径6.1cm・残高3.2cmを測る。外面は横位や斜位の削り調整。	9C代?	95

平安遺物(6区遺構外)

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
186	1	C-21	須恵器・埴	胴部～底部	粗砂(少)	良好	灰色	残高2.8cmを測る。器形はやや内湾し、外面には粗いロクロ痕が明瞭で、高台低い。	9C代	95
186	2	表土	須恵器・甕	胴部片	粗砂(少)	良好	灰色	外面はやや黒色がかかり、横位のロクロ痕が明瞭。	平安	95

中世以降遺物(4区遺構外)

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
191	1	O-12	青磁・碗	口縁片	緻密	良好	灰オリーブ色	鎗手蓮弁文が看取される。龍泉窯系青磁碗B1類。	13C後～14C前葉	95
191	2	P-11	陶器・平碗	口縁片	緻密	良好	オリーブ黄色	口径12cm・残高4.2cmを測る。古瀬戸後期IV古。	15C後葉	95
191	3	P-11	陶器・仏飯具	底部片	緻密	良好	灰白色	瀬戸美濃産。	19C	95
191	4	K-10	陶器・灯明皿	口縁～底部	緻密	良好	灰黄褐色	底径5cm・残高2.6cmを測る。内面に油煙状付着物が明瞭、底部にトチン。志戸呂産。	18～19C	95
191	5	ヤックラ	陶器・碗	底部片	緻密	良好	灰黄色	底径5cm・残高1.9cmを測る。刷毛による褐色と白色の渦巻状文様。肥前産。	18～19C	95

図No.	No.	出土位置	種類	器種	部位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考	PL
191	6	W-13	銅製品	古銭	1/2欠	(22.5)	(21.8)	1.05	(1.3)	開元通宝?	95

中世以降遺物(5区遺構外)

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
191	1	表土	鍋(鍋形)?	底部片	粗砂(多)	良好	赤褐色	底径16.8cm・残高1.5cmを測る。横位のロクロ成形が顕著。在地土器。	中世以降	95
191	2	表土	陶器・碗	底部片	緻密	良好	灰黄色	底径4.4cm・残高1.9cmを測る。瀬戸美濃産。	19C	95
191	3	表土	陶器・碗	底部片	緻密	良好	浅黄色	底径6cm・残高1.7cmを測る。釉が4に類似する。瀬戸美濃産。	19C	95
191	4	表土	陶器・碗	口縁部片	緻密	良好	黒褐色	瀬戸美濃産。鉄釉丸碗。「尾呂茶碗」。	18～19C	95
191	5	U-1	陶器・碗	底部片	緻密	良好	灰白色	底径6cm・残高0.8cmを測る。内面に褐色に見える線画の文様が看取される。志野。	19C	95
191	6	表土	陶器・碗	底部片	緻密	良好	灰白色	内面に目痕あり。瀬戸美濃産。	18～19C	95
191	7	表土	陶器・碗	胴部片	緻密	良好	灰オリーブ色	外面の底部に近い一部を除き、濃淡のある灰白色を呈する釉が施される。産地不詳。	時期不明	95
191	8	表土	磁器・皿	底部片	緻密	良好	灰白色	底径9cm・残高1.6cmを測る。染付の皿で、蛇ノ目凹型高台。肥前産?。	19C代	95
191	9	表土	磁器・碗	口縁部片	緻密	良好	オリーブ灰色	口径10cm・残高3.2cmを測る。陶胎染付。肥前産。	18～19C	95
191	10	表土	磁器・碗	底部片	緻密	良好	灰白色	底径2.8cm・残高2.6cmを測る。染付。肥前産。	19C	95
191	11	表土	磁器・碗	底部片	緻密	良好	灰白色	底径3cm・残高2.3cmを測る。染付。肥前産。	18～19C	95
191	12	表土	陶器・すり鉢	胴部片	緻密	良好	オリーブ黒色	ロクロ成形で、内・外面に鉄釉を施す。瀬戸美濃産。	18～19C	95
191	13	表土	陶器・すり鉢	胴部片	緻密	良好	オリーブ黒色	ロクロ成形で、外面には鉄釉が顕著に、内面には薄く施釉される。瀬戸美濃産。	18～19C	95

遺物観察表

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
191	14	X-2	陶器・鉢	口縁～胴部片	緻密	良好	灰白色	口径8.2cm・残高7.6cmを測る。帯状の鉄釉を施す。志野？	19～20C 前葉	95
191	15	W-4	泥人形	胴部～台部	粗砂(少)	良好	橙色	高さ3.5cm・幅2.3cm・厚さ0.4cmを測る。頭部を欠損するお内裏様。	近世以降	95

図No.	No.	出土位置	種類	器種	形状	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考	PL
191	16	表土	鉄製品	火打金	山(笠)型	48	11	11	3.8	鍛造、近世以降	95

中世以降遺物(6区遺構外)

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
191	1	C-14	陶器・碗	胴部片	緻密	良好	黒褐色	天目茶碗。古瀬戸後期IV古。	15C中～後葉	95
191	2	表土	陶器・皿(鉢)？	高台部片	緻密	良好	灰白色	底径12.8cm・残高1.5cmを測る。内面に緑色がかかる文様あり。内面に目痕3つ。瀬戸美濃産。登8か9。	18後～19C 前葉	95
191	3	表土	陶器・すり鉢	口縁部片	緻密	良好	赤褐色	ロクロ成形で、口縁部はS字状に屈曲し、全面に鉄釉を施す。産地不詳。	近世	95

図No.	No.	出土位置	種類	器種	部位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考	PL
191	4	10住	銅製品	古銭	完形	22	22	1.1	2	新寛永通宝	95
191	5	表土	銅製品	キセル	雁首	(73)	11	9	(5.6)	近世以降	95

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
—	6	C-13	磁器・碗	高台部片	緻密	良好	灰白色	型紙摺り。(実測図なし、写真のみ)	19C後葉以降	95

中世以降遺物(9区遺構外)

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
191	1	表土	磁器・碗	底部片	緻密	良好	灰白色	底径8cm・残高2.3cmを測る。染付。肥前産。	18～19C	95
191	2	W-25	磁器・平碗	口縁～胴部片	緻密	良好	灰白色	口径9cm・残高2.6cmを測る。染付。肥前産。	18～19C	95
191	3	表土	陶器・碗	胴部片	緻密	良好	浅黄色	緑色がかかる文様あり。瀬戸美濃産。	18～19C	95
191	4	X-22	鍋(甕)？	胴部片	礫・粗砂(やや少)	良好	にぶい黄色	ロクロ成形と見られ、横位のナデ調整が顕著。ただし、胎土・調整が粗く、平安の土師器の可能性もあるか？	中世(平安?)以降	95

図No.	No.	出土位置	種類	器種	部位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考	PL
191	5	表土	銅製品	キセル	雁首	(54)	11	11	(3.8)	近世以降	95

中世以降遺物(17区遺構外)

図No.	No.	出土位置	器種	部位	胎土	焼成	色調	器形・文様の特徴	備考	PL
174	1	表土	鍋？	口縁部片	粗砂・石英・長石(少)	良好	にぶい黄橙色	ロクロ成形で、横位の整形痕が顕著。在土器。	中世以降	95
174	2	表土	鍋？	口縁部片	礫・粗砂(少)	良好	にぶい赤褐色	撫で成形で、内耳鍋の把手と見られる突起が看取される。在土器。	中世以降	95

報告書抄録

書名ふりがな	ながのはらいっぼんまついせきかつこさん
書名	長野原一本松遺跡（3）
副書名	八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	19
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	433
編著者名	諸田康成
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20080325
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橋町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	ながのはらいっぼんまついせき
遺跡名	長野原一本松遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんあがつまぐんながのはらまちおおあざながのはらあざいっぼんまつ
遺跡所在地	群馬県吾妻郡長野原町大字長野原字一本松
市町村コード	10424
遺跡番号	63
北緯（日本測地系）	363240
東経（日本測地系）	1383920
北緯（世界測地系）	363250
東経（世界測地系）	1383905
調査期間	20000417-20010228/20010925-20011221
調査面積	788/12, 160
調査原因	ダム建設工事に伴う工事用進入路・代替地造成工事等
種別	集落
主な時代	縄文/弥生/古墳/平安/中世/近世
遺跡概要	集落－縄文－住居20＋炉1＋埋設土器4＋土坑152＋ピット40＋集石7－土器＋石器/弥生－土坑1＋土器/古墳－土器/平安－住居5＋土坑24＋ピット13－土器＋石器＋鉄製品/中世・近世－竪穴遺構2＋土坑5＋ピット44＋柵列1＋集石1－陶磁器＋銭＋キセル＋火打金＋土製品
特記事項	縄文中期後葉から後期前葉を主とする大規模集落跡。重複する後期の大型敷石住居跡や、同じく後期の大型埋設土器などを検出。
要約	長野原一本松遺跡は、吾妻川の左岸で、白砂川との合流点より東側の上位段丘面上に立地する。平成6年度から継続的に調査が行われ、本書では平成12・13年度の発掘調査成果について報告する。遺跡は、縄文時代を中心に弥生・古墳・平安・中世・近世の遺構・遺物が複合する状況で、さらに縄文時代は中期後葉から後期前葉までを主体とする。今回報告する中で特徴的な遺構としては、建て替えによると見られる後期の大型敷石住居跡の重複例があり、このうち新しい方の住居跡では、片側のみではあるが柄鏡型の連結部から延びる髭状の列石や、壁に沿って集められた縁石が確認された。また台地の東側縁辺部からは、底部を欠損する後期の大型深鉢を用いた埋設土器が確認され、埋葬に関する遺構の1つと考えられる。